千葉県文化財センター調査報告第157集

# 佐倉市向原遺跡

## ― 佐倉第三工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ ―

1989

千葉県土地開発公社
財団法人 千葉県文化財センター

# 佐倉市向原遺跡

むかい　はら

— 佐倉第三工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ —

1989

千葉県土地開発公社
財団法人 千葉県文化財センター

# 序　　文

千葉県は、県内の均衡ある発展を計るために、東京湾岸の臨海工業地帯に加えて、県内の内陸部各地にも工業団地の建設を進めてきました。佐倉市は、北総地区の中程に位置し、東京・京葉臨海工業地帯と新東京国際空港の中間に位置し、道路網の整備もなされ工業団地建設には最も良好な条件を備えています。このような好条件を生かして、千葉県土地開発公社によって佐倉第三工業団地の建設が計画されました。

佐倉市は、下総台地のほぼ中央に位置し、印旛沼をはじめとする自然に恵まれ、先土器時代から原始古代に至る著名な遺跡を数多く遺し、佐倉城を中心とするその城下町は関東における学問の中心地の一つでありました。いまその城跡には、国立歴史民俗博物館が建ち日本の歴史民俗研究の中心地となっています。

佐倉第三工業団地は、このような佐倉市の郊外に地域の均衡ある発展を担う工業団地として計画されたものであり、約150 ha の用地の中には古墳群をはじめとして多くの遺跡が遺されていました。千葉県教育委員会、千葉県土地開発公社及び関係の諸機関では、度重なる協議を持ち、埋蔵文化財の取扱については慎重を期しました。その結果、古墳群の一部を中心とする埋蔵文化財を工業団地内に設けられる公園内に現状保存することとし、そのほかの埋蔵文化財については、発掘調査をおこない記録保存の措置を構ずることとなりました。

発掘調査は、財団法人千葉県文化財センターが、千葉県教育委員会から指名を受け、昭和50年度に、農業還元地の調査を実施し、一時中断の後昭和54年度から実施し、昭和60年度に終了致しました。以後、整理作業を実施しその成果の取りまとめを進めておりますが、この度昭和56年度から58年度にかけて調査を実施致しました向原遺跡の成果を報告書として刊行する運びとなりました。向原遺跡は、先土器時代から歴史時代までの遺構・遺物が発見されていますが縄文時代の石鏃製作跡など貴重な資料があります。

この、報告書が学術研究のみならず学校教育や社会教育の資料として活用され、文化財保護思想の啓蒙と普及に役立つことを願ってやみません。

おわりに、発掘調査から整理作業に至るまでご指導・ご協力いただいた千葉県教育委員会、千葉県土地開発公社、佐倉市教育委員会及び関係諸機関の皆様に厚く御礼申し上げます。また、発掘調査、整理作業にご協力いただいた調査補助員、地元の皆様に心から感謝致します。

平成元年３月

財団法人千葉県文化財センター
理事長　岩　瀬　良　三

# 例　言

1．本書は、千葉県土地開発公社による佐倉第三工業団地建設計画に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．本書は、『佐倉市星谷津遺跡』『佐倉市立遺跡山』『佐倉市タルカ作遺跡』『佐倉市木戸場・明代台・古内・向山谷津遺跡』『佐倉市腰巻遺跡』に続く、佐倉第三工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書の第VI集にあたるものである。

3．本書に所収する内容は佐倉市神戸字向原733他所在の、向原（むかいはら）遺跡の発掘調査報告であり、調査時における遺跡名称の、向原Ⅰ遺跡および池向Ⅰ遺跡の一部を含む。

4．発掘調査および整理作業は、千葉県土地開発公社の委託を受け、千葉県教育庁文化課の要請と指導のもとに、昭和56～63年度に財団法人千葉県文化財センターが実施した。

5．発掘調査および整理作業は、調査部長白石竹雄(昭和56～58年度)・鈴木道之助(昭和59～61年度)・堀部昭夫（昭和62・63年度)、部長補佐中山吉秀（昭和56年度)・岡川宏道（昭和57・60・61年度)・根本弘（昭和58・59年度)・古内茂（昭和62・63年度)、班長阪田正一（昭和56年度)・根本弘（昭和57年度)・矢戸三男（昭和58～61年度)・小宮猛（昭和62年度）の指導のもとに調査研究員蔀淳一・石倉亮治・宮城孝之が中心になっておこない、佐倉第三工業団地事務所に在籍した職員が協力した。

6．本書の執筆編集は、大原正義が藤崎芳樹の協力を得ておこなった。

7．第１図の地図は、国土地理院発行の25,000分の１地形図佐倉・酒々井・八街・千葉東部を使用したものである。

8．本書の挿図中に示し北は座標北であり、高さは標高である。

9．本書に所収した向原遺跡は、調査次には分割調査が実施されており、また一部他の名称で調査された部分を地形的区分で一括報告するために、遺構名称の変更を行っている。遺物記録類との参照に当たっては留意いただきたい（第１表)。

10．発掘調査から本書の刊行にいたるまで、千葉県土地開発公社、千葉県教育庁文化課、佐倉市教育委員会をはじめとする諸機関および関係各位ならびに調査補助員の方々の御協力をいただいた。記して感謝の意を表す次第である。

# 目　　次

序　文
凡　例
目　次

第1章　調査の概要……1
　第1節　調査に至る経緯……1
　　A　調査にいたる経緯……1
　　B　調査の経過……1
　第2節　遺跡と環境……1
　第3節　調査の方法……3
　第4節　層　序……7

第2章　遺構と遺物……11
　第1節　先土器時代……11
　第2節　縄文時代……65
　　A　住居跡……65
　　B　土　坑……84
　　C　土　器……102
　　D　石　器……158
　第3節　古墳時代・歴史時代……185
　　A　住居跡……185
　　B　古　墳……198
　　C　方形周溝状遺構……223
　　D　塚……232

第3章　まとめ……234

# 挿図目次


第1図　遺跡の位置と周辺遺跡（1/50,000）……2
第2図　佐倉第三工業団地内遺跡分布図（1/16,000）……3
第3図　グリッド分割図……4
第4図　先土器時代調査区及び石器出土地点（1/3,000）……5
第5図　縄文時代以降調査区（1/3,000）……6
第6図　向原遺跡標準土層図……7
第7図　向原遺跡縄文時代以降遺構分布図（1/2,000）……9
第8図　第1地点遺物分布状況図（1/400）……12
第9図　第1地点No.1ブロック遺物出土状況図（1/60）……13
第10図　第1地点出土石器実測図（2/3）……15
第11図　第2地点遺物出土状況（1/80）……16
第12図　第2地点出土石器実測図（2/3）……16
第13図　第3地点No.2ブロック遺物出土状況図（1/80）……17
第14図　No.2ブロック出土石器実測図1（2/3）……18
第15図　No.2ブロック出土石器実測図2（2/3）……19
第16図　No.2ブロック出土石器実測図3（2/3）……20
第17図　第4地点遺物分布状況図（1/600）……21
第18図　第4地点No.3ブロック遺物出土状況図（1/80）……22
第19図　No.3ブロック出土石器実測図（2/3）……22
第20図　第4地点No.4ブロック遺物出土状況図（1/80）……23
第21図　No.4ブロック出土石器実測図（2/3）……24
第22図　第4地点No.5ブロック遺物出土状況図（1/80）……25
第23図　No.5ブロック出土石器実測図1（2/3）……26
第24図　No.5ブロック出土石器実測図2（2/3）……27
第25図　第5地点遺物出土状況（1/80）……28
第26図　第6地点遺物分布状況図（1/600）……32
第27図　第6地点No.6－No.8・No.11ブロック遺物出土状況図（1/80）……33
第28図　第6地点No.9・No.10ブロック遺物出土状況図（1/80）……35
第29図　第6地点No.12ブロック遺物出土状況図（1/80）……36
第30図　第6地点No.13ブロック遺物出土状況図（1/80）……37
第31図　第6地点No.14ブロック遺物出土状況図（1/80）……38

第32図　第６地点№15－№18ブロック遺物出土状況図（１/80）……39
第33図　第６地点出土石器実測図１（２/３）……40
第34図　第６地点出土石器実測図２（２/３）……41
第35図　第６地点出土石器実測図３（２/３）……42
第36図　第６地点出土石器実測図４（２/３）……43
第37図　第６地点出土石器実測図５（２/３）……44
第38図　第６地点出土石器実測図６（２/３）……45
第39図　第７地点№19ブロック遺物出土状況図（１/80）……46
第40図　№19ブロック出土石器実測図（２/３）……47
第41図　第８地点№20ブロック遺物出土状況図（１/80）……48
第42図　№20ブロック出土石器実測図（２/３）……48
第43図　第９地点№21ブロック遺物出土状況図（１/80）……49
第44図　№21ブロック出土石器実測図（２/３）……50
第45図　第10地点遺物出土状況図（１/80）……51
第46図　第11地点№22ブロック遺物出土状況図（１/80）……52
第47図　№22ブロック出土石器実測図１（２/３）……53
第48図　№22ブロック出土石器実測図２（２/３）……54
第49図　№22ブロック出土石器実測図３（２/３）……55
第50図　第12地点№23ブロック遺物出土状況図（１/80）……56
第51図　グリッド出土石器実測図１（２/３）……57
第52図　グリッド出土石器実測図２（２/３）……58
第53図　第１号住居跡実測図（１/40・炉１/20）……66
第54図　第２号住居炉跡実測図（１/20）……67
第55図　第２号住居跡出土土器実測図（１/４）……68
第56図　第３号・第４号住居跡実測図（１/60）……70
第57図　第３・４号住居炉跡実測図（１/30）……71
第58図　第３号住居跡出土土器実測図１（１/４）……71
第59図　第３号住居跡出土土器実測図２（１/４）……72
第60図　第３号住居跡出土土器拓影図（１/３）……72
第61図　第３号・第４号住居跡出土遺物（２/３）……73
第62図　第４号住居跡出土遺物実測・拓影図（１/４）……74
第63図　第５号住居跡実測図（１/60・炉１/30）……76
第64図　第５号住居跡出土遺物……77
第65図　第６号住居跡実測図（１/60）……78

第66図　第６号住居跡出土土器拓影図（１/３）……79
第67図　第６号住居跡出土石器（２/３）……79
第68図　第７号住居跡実測図（１/60）……80
第69図　第７号住居跡炉実測図（１/30）……81
第70図　第７号住居跡出土土器実測図１（１/４）……82
第71図　第７号住居跡出土土器実測図２（１/４）……83
第72図　第７号住居跡出土石器（２/３）……84
第73図　２号土坑出土鉄器実測図（１/２）……84
第74図　1,2,3,4,5,号土坑実測図（１/60）……85
第75図　6,7A,7B,8,9,10,11号土坑実測図（１/60）……86
第76図　12,13,14,15,16,17号土坑実測図（１/60）……88
第77図　18,19,20,21号土坑実測図（１/60）……90
第78図　18号土坑出土遺物拓影図及び実測図（１/３・２/３）……91
第79図　22,23,24,25,26,27号土坑実測図（１/60）……92
第80図　24号土坑出土土器拓影図（１/３）……93
第81図　28,29号土坑実測図（１/60）……94
第82図　30,31,32,33,34,35,36号土坑実測図（１/60）……96
第83図　35号土坑出土石器実測図（１/３）……97
第84図　37,38,39,40,41,42号土坑実測図（１/60）……98
第85図　43,44,45,46号土坑実測図（１/60）……99
第86図　47,48,49,50,51,52,53号土坑実測図（１/60）……101
第87図　第Ⅰ群土器分布図（井草）……103
第88図　第Ⅰ群土器拓影図１（１/３）……104
第89図　第Ⅰ群土器拓影図２（１/３）……105
第80図　第Ⅰ群土器分布図（野島・鵜ケ島台・茅山）……106
第91図　第Ⅰ群土器拓影図３（１/３）……107
第92図　第Ⅰ群土器拓影図４（１/３）……108
第93図　第Ⅰ群土器拓影図５（１/３）……109
第94図　第Ⅰ群土器拓影図６（１/３）……110
第95図　第Ⅱ群土器分布図（花積下層・関山・黒浜）……112
第96図　第Ⅱ群土器拓影図１（１/３）……113
第97図　第Ⅱ群土器拓影図２（１/３）……114
第98図　第Ⅱ群土器拓影図３（１/３）……115
第99図　第Ⅱ群土器拓影図４（１/３）……116

第100図　第II群土器拓影図５（１／３）……117
第101図　第II群土器分布図（浮島）……118
第102図　第II群土器拓影図６（１／３）……119
第103図　第II群土器拓影図７（１／３）……120
第104図　第II群土器拓影図８（１／３）……121
第105図　第II群土器拓影図９（１／３）……122
第106図　第II群土器拓影図10（１／３）……123
第107図　第II群土器拓影図11（１／３）……124
第108図　第II群土器拓影図12（１／３）……125
第109図　第II群土器拓影図13（１／３）……126
第110図　第II群土器拓影図14（１／３）……127
第111図　第II群土器拓影図15（１／３）……128
第112図　第II群土器拓影図16（１／３）……129
第113図　第II群土器分布図（諸磯）……130
第114図　第II群土器拓影図17（１／３）……131
第115図　第II群土器拓影図18（１／３）……132
第116図　第II群土器拓影図19（１／３）……133
第117図　第II群土器拓影図20（１／３）……134
第118図　第III群土器分布図（阿玉台）……135
第119図　第III群土器拓影図１（１／３）……136
第120図　第III群土器拓影図２（１／３）……138
第121図　第III群土器拓影図３（１／３）……139
第122図　第III群土器拓影図４（１／３）……140
第123図　第III群土器拓影図５（１／３）……141
第124図　第III群土器拓影図６（１／３）……142
第125図　第III群土器拓影図７（１／３）……143
第126図　第III群土器拓影図８（１／３）……144
第127図　第III群土器拓影図９（１／３）……145
第128図　第III群土器拓影図10（１／３）……146
第129図　第III群土器拓影図11（１／３）……147
第130図　第III群土器拓影図12（１／３）……148
第131図　第III群土器実測図（１／４）……149
第132図　第III群土器分布図（加曽利Ｅ）……150
第133図　第III群土器拓影図14（１／３）……151

第134図　第Ⅲ群土器拓影図15（1/3）……152
第135図　第Ⅲ群土器拓影図16（1/3）……153
第136図　第Ⅲ群土器拓影図17（1/3）……154
第137図　第Ⅲ群土器実測図18（1/4）……155
第138図　第Ⅲ群土器拓影図19（1/4）……156
第139図　第Ⅳ群土器実測図1（1/4）……157
第140図　第Ⅳ群土器拓影図2（1/4・1/3）……157
第141図　黒曜石集中区概略図（1/4,000）……158
第142図　黒曜石分布図（1/2,000）……159
第143図　石鏃分布図（1/2,000）……160
第144図　黒曜石集中区A遺物分布図（1/300）……161
第145図　黒曜石集中区B遺物分布図（1/300）……162
第146図　黒曜石集中区C遺物分布図（1/300）……163
第147図　石鏃実測図1（2/3）……165
第148図　石鏃実測図2（2/3）……166
第149図　石鏃実測図3（2/3）……167
第150図　石鏃未製品実測図1（2/3）……168
第151図　石鏃未製品実測図2（2/3）……169
第152図　ピエス・エスキーユ実測図1（2/3）……170
第153図　ピエス・エスキーユ実測図2（2/3）……171
第154図　ピエス・エスキーユ実測図3（2/3）……172
第155図　ピエス・エスキーユ実測図4（2/3）……173
第156図　石核実測図1（2/3）……174
第157図　石核実測図2（2/3）……175
第158図　石錐実測図　（2/3）……175
第159図　磨製石斧・打製石斧実測図（1/3）……176
第150図　磨石実測図1（1/3）……177
第151図　磨石実測図2（1/3）……178
第162図　凹石実測図（1/3）……179
第163図　敲石実測図1（1/3）……180
第164図　敲石実測図2（1/3）……181
第165図　石皿実測図（1/3）……182
第166図　石棒実測図（1/3）……183
第167図　土器片錘実測図（1/3）……183

第168図　土器片円盤及び土製　状耳飾実測図（1/2）……184
第169図　琥珀製垂飾品実測図（1/1）……184
第170図　8号住居跡実測図（1/60）……186
第171図　8号住居跡遺物出土状況図（1/60）……187
第172図　8号住居跡出土土器実測図（1/4）……188
第173図　9号住居跡実測図（1/40・カマド1/20）……189
第174図　9号住居跡出土土器実測図（1/4）……190
第175図　10号住居跡実測図（1/80・カマド1/40）……191
第176図　10号住居跡遺物出土状況図(180)……192
第177図　10号住居跡出土鉄器実測図(1/2)……192
第178図　10号住居跡出土土器1(1/4)……193
第179図　10号住居跡出土土器2(1/4)……194
第180図　11号住居跡実測図（1/80・カマド1/40）……196
第181図　11号住居跡遺物実測図（1/4）……197
第182図　1号墳実測図（平面図1/300・土層断面図1/120）……202
第183図　1号墳出土土器実測図（1/4）……203
第184図　1号墳出土玉類実測図（2/3）……203
第185図　2号墳実測図（1/200）……204
第186図　2号墳土層断面図(1/100)……204
第187図　2号墳出土土器実測図（2/3）……205
第188図　3号墳実測図（1/120）……205
第189図　3号墳土層断面図(1/60)……206
第190図　4号墳墳丘実測図（1/300）……207
第191図　4号墳実測図（1/120）……208
第192図　4号墳土層断面図（1/150）……209
第193図　4号墳出土遺物実測図（土器1/4・鉄器1/2）……210
第194図　5号墳丘実測図（1/300）……210
第195図　5号墳実測図(1/200)……211
第196図　5号墳土層断面図（1/150）……212
第197図　5号墳出土遺物実測図（土器1/4・鉄器1/2）……213
第198図　6号墳実測図（1/60）……213
第199図　7号墳実測図（平面図1/120・土層断面図1/60）……214
第200図　8号墳実測図（平面図1/120・土層断面図1/60）……215
第201図　8号墳出土土器実測図（1/4）……215

第202図　9号墳実測図（平面図1/120・土層断面図1/60）……216
第203図　9号墳出土土器実測図（1/4）……216
第204図　10号墳実測図（平面図1/120・土層断面図1/60）……217
第205図　10号墳出土土器実測図（1/4）……218
第206図　11号墳実測図（平面図1/120・土層断面図1/60）……218
第207図　12号墳実測図（平面図1/120・土層断面図1/60）……219
第208図　13号墳実測図（平面図1/120・土層断面図1/60）……220
第209図　14号墳実測図（平面図1/160・土層断面図1/80）……221
第210図　14号墳出土土器実測図（1/4）……222
第211図　1号方形周溝状遺構実測図（平面図1/60・土層断面図1/30）……225
第212図　2号方形周溝状遺構実測図（平面図1/120・土層断面図1/60）……226
第213図　2号方形周溝状遺構出土土器実測図（1/4）……227
第214図　3号方形周溝状遺構実測図（1/60）……227
第215図　4号方形周溝状遺構実測図（1/60）……228
第216図　5号方形周溝状遺構実測図（1/60）……229
第217図　6号方形周溝状遺構実測図（1/60）……230
第218図　7号方形周溝状遺構実測図（1/60）……231
第219図　1号塚周辺地形実測図（1/400）……232
第220図　1号塚実測図(1/100)……234

## 表　目　次

第1表　遺構名称対照一覧……8
第2表　第1地点出土石器計測表……59
第3表　第2地点出土石器計測表……59
第4表　第3地点No.2ブロック出土石器計測表(1)……59
第4表　第3地点No.2ブロック出土石器計測表(2)……60
第5表　第4地点No.3ブロック出土石器計測表……60
第6表　第4地点No.4ブロック出土石器計測表……60
第7表　第4地点No.5ブロック出土石器計測表(1)……60
第7表　第4地点No.5ブロック出土石器計測表(2)……61
第8表　第5地点出土石器計測表……61
第9表　第6地点出土石器計測表(1)……61
第9表　第6地点出土石器計測表(2)……62

第10表　第７地点№19ブロック出土石器計測表……63
第11表　第８地点№20ブロック出土石器計測表……63
第12表　第９地点№21ブロック出土石器計測表……63
第13表　第10地点出土石器計測表……63
第14表　第12地点№23ブロック出土石器計測表……64
第15表　黒曜石Ａ集中区出土石器組成表 ……164
第16表　黒曜石Ｂ集中区出土石器組成表 ……164
第17表　黒曜石Ｃ集中区出土石器組成表 ……164

## 写真図版

図版１　遺跡遠景
図版２　先土器第１地点・先土器第３地点・先土器代６地点
図版３　先土器第９地点・先土器第11地点・先土器代12地点
図版４　１号住居跡・２号住居炉跡・３号住居跡・３号,4号住居跡
図版５　５号住居跡・６号住居跡・７号住居跡
図版６　黒曜石集中区Ａ・黒曜石集中区Ｂ・黒曜石集中区Ｃ
図版７　８号住居跡・９号住居跡・10号住居跡
図版８　10号住居跡・11号住居跡・11号住居跡
図版９　１号墳・１号墳・２号墳
図版10　３号墳・４号墳・４号墳
図版11　５号墳・５号墳・６号墳
図版12　７号墳・８号墳・９号墳
図版13　10号墳・11号墳・12号墳
図版14　13号墳・14号墳・14号墳・14号墳
図版15　１号方形周溝状遺構・２号方形周溝状遺構・３号方形周溝状遺構・
図版16　４号方形周溝状遺構・５号方形周溝状遺構・６号方形周溝状遺構・
図版17　７号方形周溝状遺構・１号塚・１号塚・
図版18　1号土坑・２号土坑・３号土坑・４号土坑・５号土坑・６号土坑・７号土坑・８号土坑
図版19　9号土坑・10号土坑・11号土坑・13号土坑・15号土坑・16号土坑・17号土坑・18号土坑
図版20　20号土坑・21号土坑・22号土坑・23号土坑・24号土坑・25号土坑・26号土坑・27号土坑
図版21　28号土坑・29号土坑・31号土坑・32号土坑・33号土坑・34号土坑・36号土坑・37号土坑
図版22　43号土坑・44号土坑・45号土坑・46号土坑・50号土坑・51号土坑・52号土坑・53号土坑
図版23　第１地点出土石器・第３地点出土石器・第２地点出土石器

図版24　No.5ブロック出土石器・No.3ブロック出土石器・No.19ブロック出土石器
No.20ブロック出土石器・No.21ブロック出土石器
図版25　第6地点出土石器
図版26　2号住居跡出土土器・3号住居跡出土土器
図版27　4号住居跡出土土器・5号住居跡出土土器
図版28　6号住居跡出土土器・18号土坑出土土器
図版29　第Ⅰ群土器1
図版30　第Ⅰ群土器2
図版31　第Ⅰ群土器3
図版32　第Ⅱ群土器1
図版33　第Ⅱ群土器2
図版34　第Ⅱ群土器3
図版35　第Ⅱ群土器4
図版36　第Ⅱ群土器5
図版37　第Ⅱ群土器6
図版38　第Ⅱ群土器7
図版39　第Ⅱ群土器8
図版40　第Ⅱ群土器9
図版41　第Ⅱ群土器10・第Ⅲ群土器1
図版42　第Ⅲ群土器2
図版43　第Ⅲ群土器3
図版44　第Ⅲ群土器4
図版45　第Ⅲ群土器5
図版46　第Ⅲ群土器6
図版47　第Ⅲ群土器7
図版48　第Ⅲ群土器8
図版49　第Ⅳ群土器・縄文時代石器1
図版50　縄文時代石器2
図版51　縄文時代石器3
図版52　縄文時代石器4・土器片錘
図版53　古墳・歴史時代住居跡出土土器1
図版54　古墳・歴史時代住居跡出土土器2
図版55　古墳出土土器
図版56　古墳，方形周溝状遺構出土土器

# 第１章　調査の概要

## 第１節　調査にいたる経緯と調査の経過

### A　調査に至る経緯

千葉県土地開発公社によって計画された佐倉第三工業団地内の埋蔵文化財調査については、千葉県教育庁文化課と、千葉県土地開発公社が度重なる協議を行い、工業団地内に公園緑地として現状保存する部分と記録保存を行う部分を定め、記録保存を行う部分については造成計画との整合を計りつつ調査計画を策定して実施するこことなった。昭和50年度に事業地内の西端部の農業調整地部分の調査を行い、一時中断の後昭和54年度に調査が再開され、現地調査は昭和59年度まで実施し、以後整理作業を実施してきた。

### B　調査の経過

今回報告する向原遺跡は、調査時に向原遺跡として調査された部分と、池の台遺跡として調査された部分の一部を含む。以下調査の経過を簡単に述べたい。

昭和56年６月から８月に遺跡西端部23,500㎡について上層（縄文時代以降）確認調査を実施した。なおこの部分の確認調査は対象面積に対して20％の割合で実施し、縄文時代石器製作跡２・古墳時代住居跡１・土壙３・塚１を確認した。

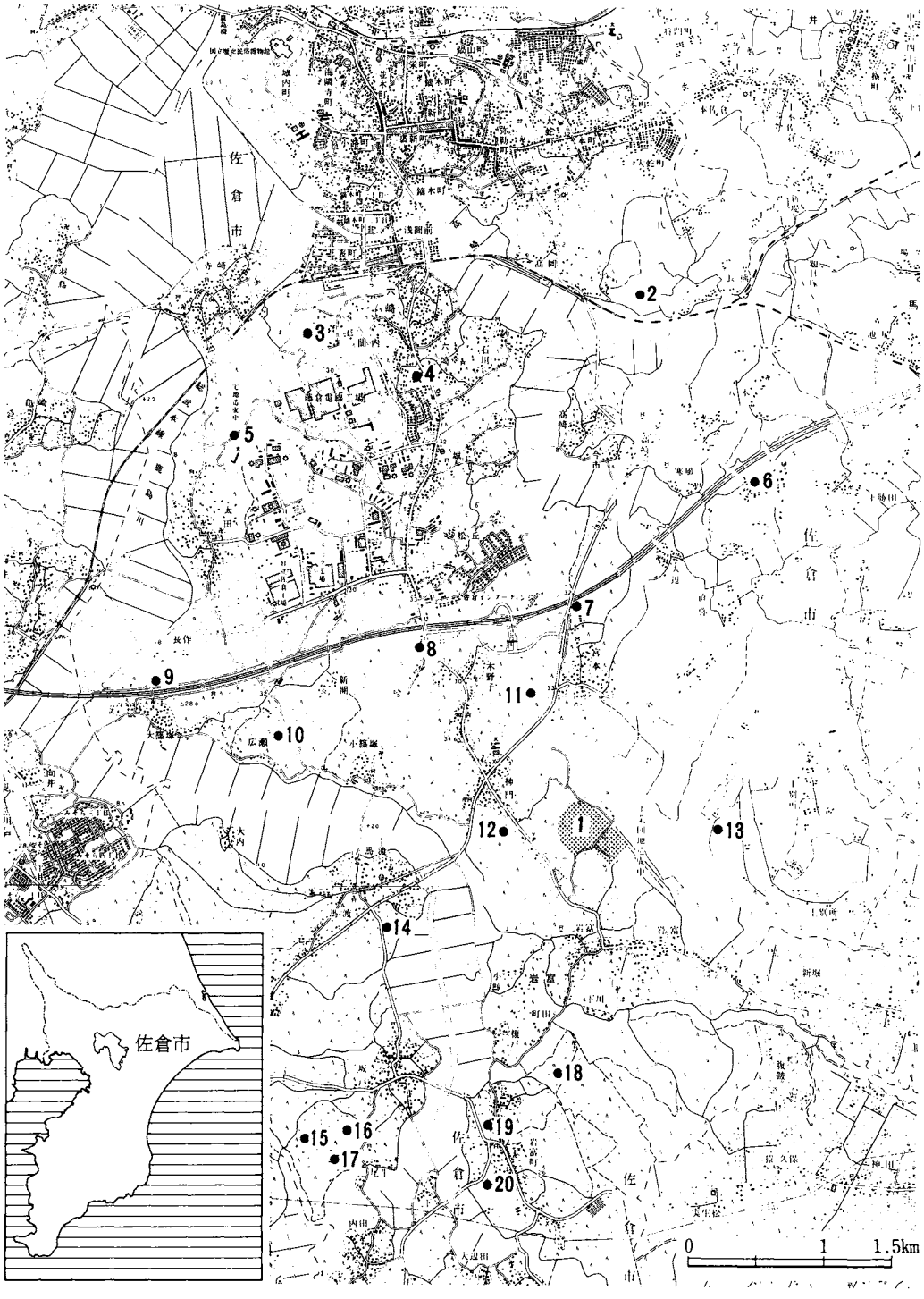
昭和57年４月から８月に向原遺跡Ｉとして4,700㎡の本調査を行い、先土時代石器集中か所１・縄文時代石器製作跡２・住居跡１（古墳後期）・方形周溝状遺構１・塚１・土壙５の調査を実施した。

昭和57年７月から昭和58年３月に向原遺跡として77,800㎡を対象とする10％の確認調査を行い、先土時代石器出土か所10・土壙９・古墳３・方形周溝状遺構２・溝５を確認し、さらに4,000㎡の本調査を実施し、土壙13・縄文時代石器製作跡１・住居跡４（縄文前期３・平安１）・溝１の調査を行った。

昭和58年４月から９月に向原遺跡として5,800㎡の本調査を実施し、先土時代石器集中か所９・・縄文時代石器製作跡１・住居跡３（縄文時代）・方形周溝状遺構１・土壙32溝１の調査を行った

## 第２節　遺跡と環境

向原遺跡を含む佐倉第三工業団地内の遺跡の周辺環境については、本報告が６冊目の報告書でありすでに既刊の報告書で詳しく述べられているのでこれらを参照願いたい。




1．向原遺跡　2．大山遺跡　3．大崎台遺跡　4．外出遺跡　5．太田宿遺跡
6．蒲田谷津遺跡　7．宮本遺跡　8．後台遺跡　9．大篠塚遺跡群　10．八幡原遺跡
11．台畑遺跡　12．宿向遺跡　13．大谷遺跡　14．檜下遺跡　15．清水作遺跡
16．長道遺跡　17．広遺跡　18．北ノ台遺跡　19．岩富城跡　20．漆谷津遺跡

第1図　遺跡の位置と周辺遺跡（1/50,000）

第2図　佐倉工業団地内遺跡分布図（1/10,000）

## 第３節　調査の方法

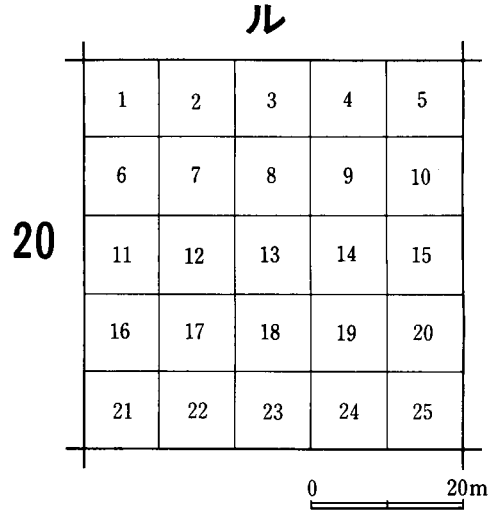
調査は、佐倉第三工業団地内の造成計画に沿って実施され、確認調査から本調査へという手順によって実施されたが、調査自体は複数以上の遺跡が同時に調査され、また必ずしも１遺跡が一括して調査されたわけではなく、調査着手できる部分から行われたため今回報告する向原遺跡については、調査の方法が区域によって異なる部分がある。また、現況が畑地であるか山林であるかの差によって調査の方法が異なる部分もある。

**先土器時代**（第４図）　調査区全域に２×２ｍあるいは２×４ｍの確認調査坑４％設定し、石器の出土した地点について、周囲に拡張し石器集中の存否と広がり追求するという方法をとっている。

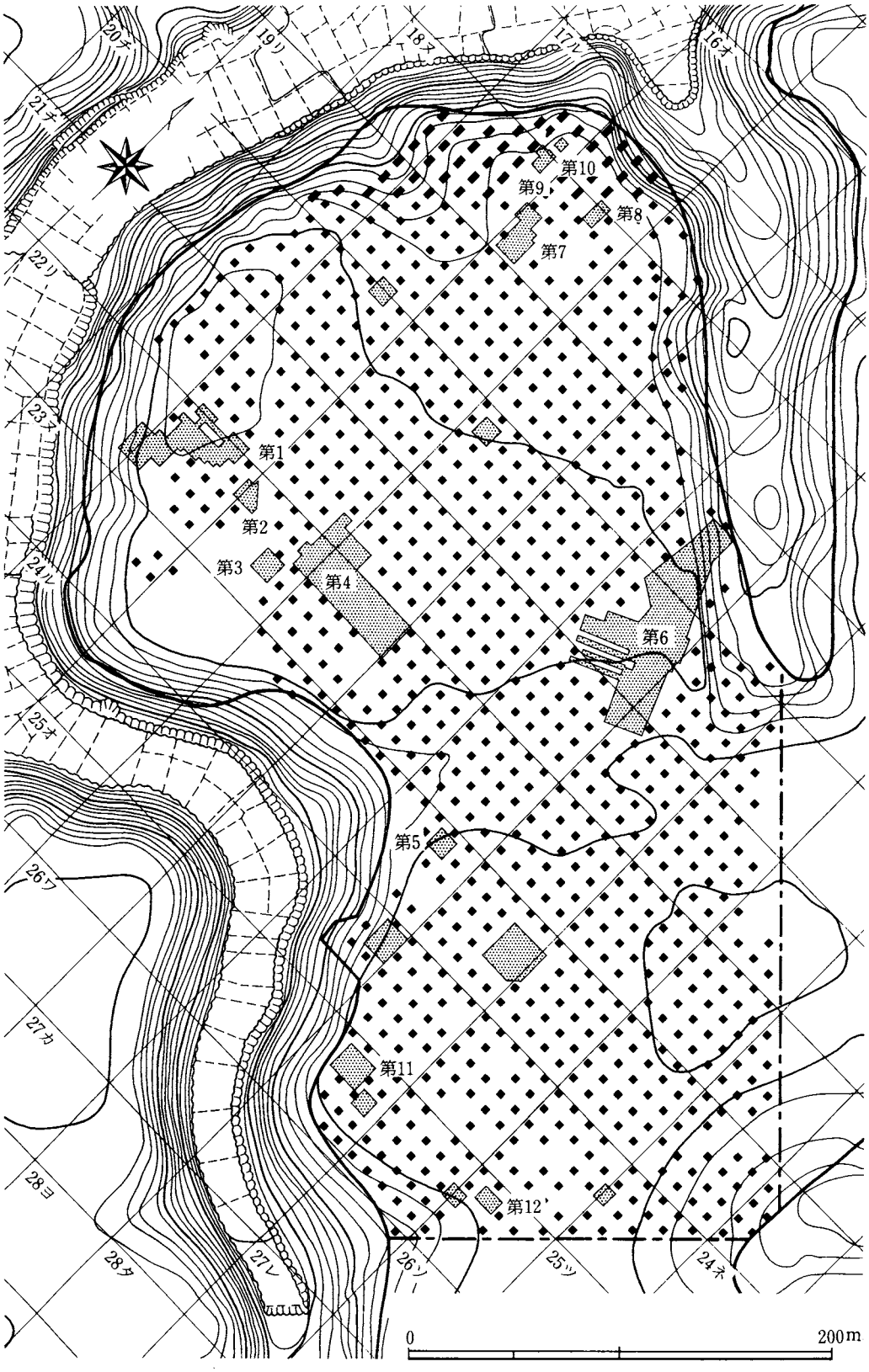
**縄文時代遺以降**（第５図）　縄文時代以降については、確認の方法に調査年度あるいは調査地区によって方法が異なる部分があり、トレンチによる20％の確認調査を実施した部分と２×２ｍおよび１×１ｍの調査坑により遺構及び遺物の分布を確認し本調査に移行している。なお、古墳・塚などの部分については当初から本調査範囲として対応している。

**調査区**（第３・４図）　調査区は佐倉第三工業団地全域を公共座標に合わせて覆う50×50mの方眼網を設定し大グリッドした。呼称は北西に起点をおき北から南へ1,2,3・・・とし西から東にイ，ロ，ハ・・・としこれを組み合わせて使用し、向原遺跡は17～25・ヌ～ネ区に入るため18ル区・24タ区のようになる。大グリッド内は10×10mの中グリッドに分割し、さらに中グリッドを２×２ｍの小グリッドに分割し、その呼称は北西隅から順次1,2,3・・・とし南東隅を25とした。このため小グリッドまでの表示方法ははたとえば18ル－02－25、24タ－01－15というようになる。また、調査時には区分のためⅠ区～Ⅴ区も使用している。

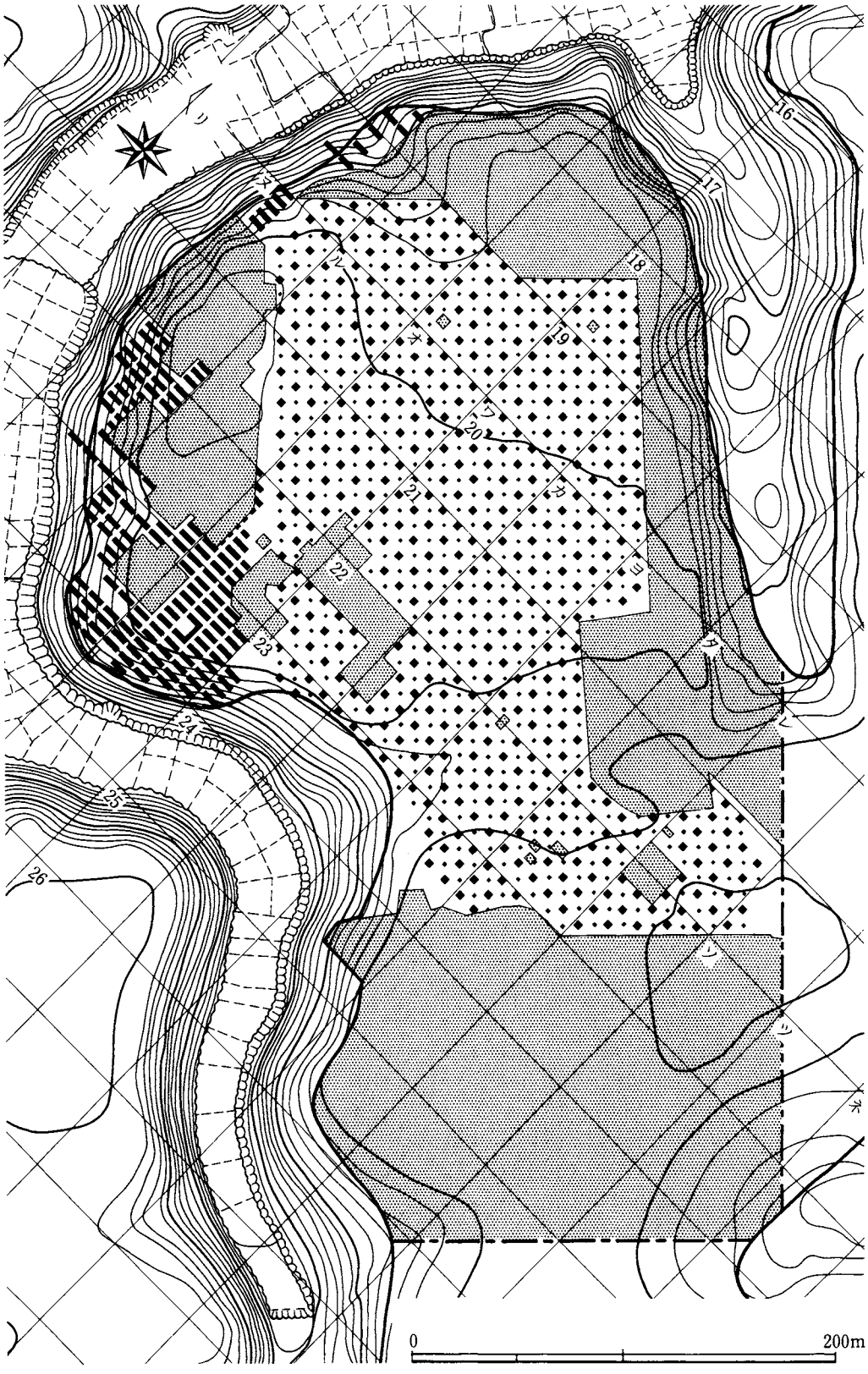
**遺構・遺物**　遺構名称は、調査年次によって取扱に違いがあり、遺跡コードも変更があるので第１表に示す。遺物は原則として、遺構内の遺物およびⅢ層以下の遺物は平面位置及びレベルを記録し取り上げることとし、Ⅰ・Ⅱ層中の遺物については、中グリッドを単位として取り上げた。遺物番号は遺構別に0001から付けたが、先土器時代の遺物については、小グリッドを単位として遺物番号を付けたものと、調査時に認識したまとまりで番号を付けたものがある。




第３図　グリッド分割図




第4図　先土器調査区及び石器出土地点（1/30,000）




第５図　縄文時代以降調査区（1/3,000）

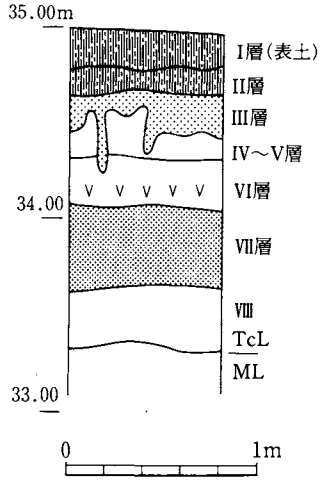
## 第4節　層序（第6図）

向原遺跡の標準的な層序を示したものが第6図である。

Ⅰ層　表土層。畑地においては耕作土層であり、山林においては黒褐色の腐食土層。層厚20cm程度を計る。

Ⅱ層　暗褐色土層。縄文時代の遺物包含層で、平坦面の遺存状況の良好な部分ではその上部に新規テフラを確認できる部分がある。また、旧畑地においては、耕作にともない失われ、認められない部分もある。層厚15～20cm。

Ⅲ層　黄褐色軟質ローム土層。軟質ローム層で、層厚は20cmから40cmと場所によって異なる。斜面地おいては一般的に層厚は厚い。



第6図　向原遺跡基本土層図

Ⅳ～Ⅴ層　明褐色硬質ローム層。全体の中で最も硬質な層で、色調も明るい。上半部は乾燥すると最も早く縦方向のクラックが発達剝落する。本来、立川ローム第Ⅰ黒色帯が存在するものと思われるが、本遺跡では確認できないため、Ⅳ～Ⅴ層とし一括してあつかった。層厚15～30cm。

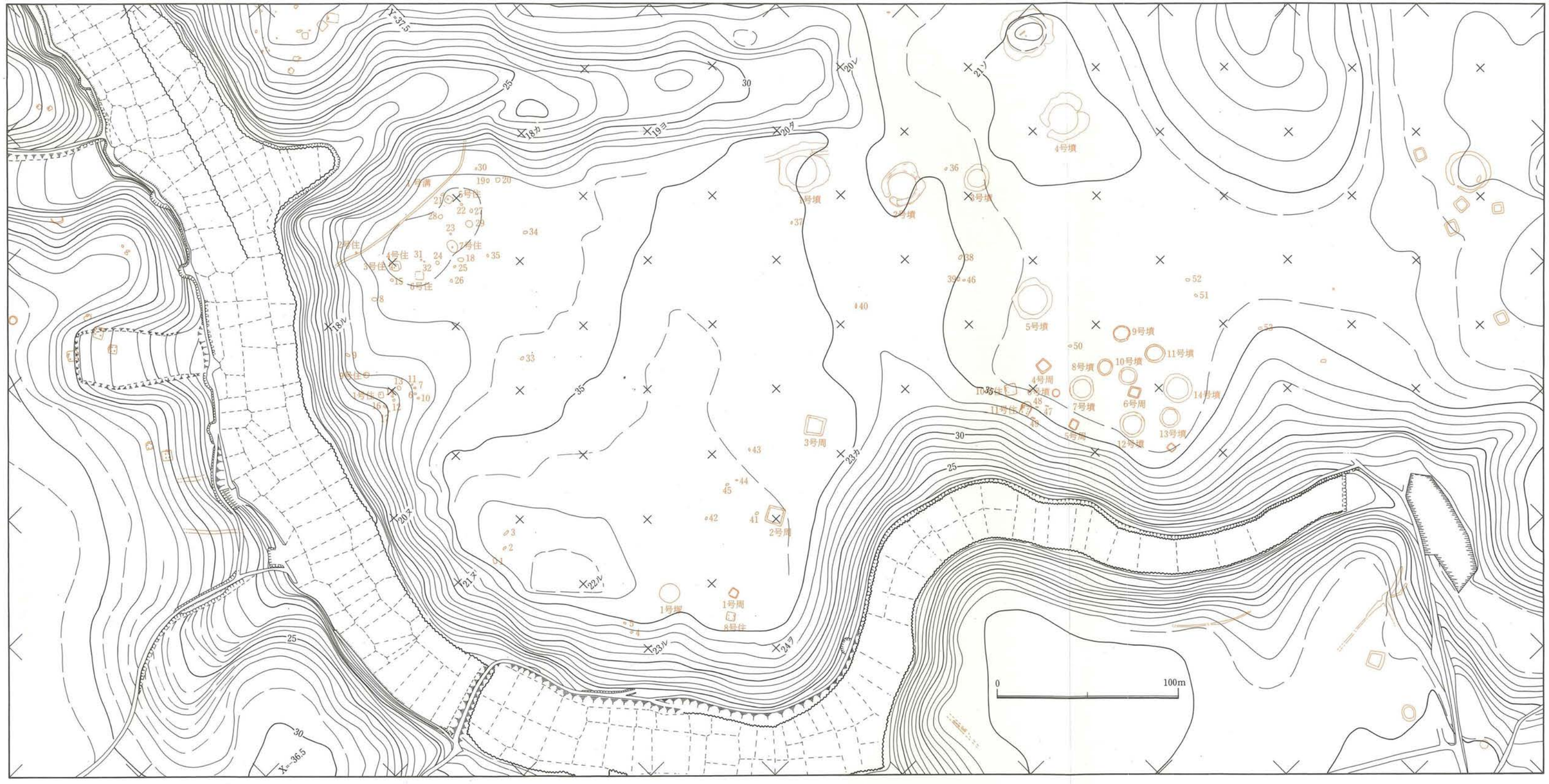
Ⅵ層　褐色硬質ローム層。姶良・丹沢パミスを含む層で、ガラス粒子が観察できる。層厚15～25cm。

Ⅶ層　暗褐色硬質ローム層。ローム層中では最も暗い色調を示す土層で、炭化物粒子が目立つ。立川ローム第2黒色帯に相当する。層厚35～45cm。

Ⅷ層　明褐色硬質ローム層。立川ローム最下層に相当しⅧ層より明るくやや粘性が強い。層厚30～40cm。

第１表　遺構名称対照一覧

| 報 告 名 | 調査時名称 | 整理時名称 | 報 告 名 | 調査時名称 | 整理時名称 |
|---|---|---|---|---|---|
| １号住居跡 | 010-IV-006 | 010-022 | 33号土坑 | 010-IV-037 | 010-053 |
| ２号住居跡 | 010-IV-008 | 010-024 | 34号土坑 | 010-IV-038 | 010-054 |
| ３号住居跡 | 010-IV-015 | 010-031A | 35号土坑 | 010-IV-039 | 010-055 |
| ４号住居跡 | 010-IV-015 | 010-031B | 36号土坑 | 010-II-002 | 010-057 |
| ５号住居跡 | 010-IV-023 | 010-039 | 37号土坑 | 010-II-003 | 010-060 |
| ６号住居跡 | 010-IV-024 | 010-040 | 38号土坑 | 010-II-005 | 010-062 |
| ７号住居跡 | 010-IV-031 | 010-047 | 39号土坑 | 010-II-006 | 010-063 |
| ８号住居跡 | 010-I-001 | 010-001 | 40号土坑 | 010-III-005 | 010-065 |
| ９号住居跡 | 010-IV-005 | 010-021 | 41号土坑 | 010-III-002 | 010-068 |
| 10号住居跡 | 006-004 | 006-004 | 42号土坑 | 010-III-003 | 010-069 |
| 11号住居跡 | 006-002 | 006-002 | 43号土坑 | 010-III-006 | 010-070 |
| １号土坑 | 010-I-003 | 010-003 | 44号土坑 | 010-III-007 | 010-071 |
| ２号土坑 | 010-I-006 | 010-006 | 45号土坑 | 010-III-008 | 010-072 |
| ３号土坑 | 010-I-010 | 010-010 | 46号土坑 | 010-II-008 | 010-074 |
| ４号土坑 | 010-I-015 | 010-015 | 47号土坑 | 006-001 | 006-001 |
| ５号土坑 | 010-I-016 | 010-016 | 48号土坑 | 006-002 | 006-002 |
| ６号土坑 | 010-II-002 | 010-018 | 49号土坑 | 006-003 | 006-003 |
| ７A号土坑 | 010-II-003 | 010-019A | 50号土坑 | 005-II-074 | 005-II-074 |
| ７B号土坑 | 010-II-003 | 010-019B | 51号土坑 | 005-II-075 | 005-II-075 |
| ８号土坑 | 010-II-004 | 010-020 | 52号土坑 | 005-II-076 | 005-II-076 |
| ９号土坑 | 010-IV-007 | 010-023 | 53号土坑 | 005-II-080 | 005-II-080 |
| 10号土坑 | 010-IV-009 | 010-025 | １号墳 | 010-II-１号墳 | 010-058 |
| 11号土坑 | 010-IV-010 | 010-025 | ２号墳 | 010-II-２号墳 | 010-059 |
| 12号土坑 | 010-IV-011 | 010-027 | ３号墳 | 010-II-001 | 010-056 |
| 13号土坑 | 010-IV-012 | 010-028 | ４号墳 | 006-２号墳 | 010-077 |
| 14号土坑 | 010-IV-013 | 010-029 | ５号墳 | 006-３号墳 | 010-078 |
| 15号土坑 | 010-IV-014 | 010-030 | ６号墳 | 006-003 | 006-003 |
| 16号土坑 | 010-IV-016 | 010-032 | ７号墳 | 005-II-063 | 005-II-063 |
| 17号土坑 | 010-IV-017 | 010-033 | ８号墳 | 005-II-061 | 005-II-061 |
| 18号土坑 | 010-IV-018 | 010-034 | ９号墳 | 005-II-060 | 005-II-060 |
| 19号土坑 | 010-IV-019 | 010-035 | 10号墳 | 005-II-064 | 005-II-064 |
| 20号土坑 | 010-IV-020 | 010-036 | 11号墳 | 005-II-062 | 005-II-062 |
| 21号土坑 | 010-IV-021 | 010-037 | 12号墳 | 005-II-067 | 005-II-067 |
| 22号土坑 | 010-IV-022 | 010-038 | 13号墳 | 005-II-068 | 005-II-068 |
| 23号土坑 | 010-IV-025 | 010-041 | 14号墳 | 005-II-066 | 005-II-066 |
| 24号土坑 | 010-IV-026 | 010-042 | １号方形 | 010-I-002 | 010-002 |
| 25号土坑 | 010-IV-027 | 010-043 | 周溝状遺構 | | |
| 26号土 | 010-IV-028 | 010-044 | ２号方形 | 010-III-001 | 010-067 |
| 27号土坑 | 010-IV-029 | 010-045 | ３号方形 | 010-III-004 | 010-066 |
| 28号土坑 | 010-IV-030 | 010-046 | ４号方形 | 006-005 | 006-005 |
| 29号土坑 | 010-IV-032 | 010-048 | ５号方形 | 006-001 | 006-001 |
| 30号土坑 | 010-IV-033 | 010-049 | ６号方形 | 005-II-065 | 005-II-065 |
| 31号土坑 | 010-IV-034 | 010-050 | ７号方形 | 005-II-069 | 005-II-069 |
| 32号土坑 | 010-IV-035 | 010-051 | １号塚 | 010-I-１号墳 | 010-004 |




第７図　向原遺跡縄文時代以降遺構分布図（1/2000）

# 第２章　遺構と遺物

## 第１節　先土器時代

向原遺跡の先土器時代の調査は、約500m×300mの範囲の中の台地面約120,000m²に対して約４％の確認調査を実施し、遺物の確認された地点を拡張調査するという手法で調査が実施された。結局調査地点は12地点に及びその占地位置は比較的台地縁辺や小谷の谷頭に面した部分を占める。約120,000m²の中に散在する12地点であり、きわめてまとまりを欠く内容であるが12地点それぞれで様々な様相を示して石器群が検出された。１地点で多数の石器群の集中が検出されたところ、集中が認められず散漫な分布としてのみ把握されたところ、単独の出土にとどまったところがある。以下、地点別に、集中として把握されたブロック別に述べていきたい。

第１地点・No.１ブロック（第８～10図　図版２・23）

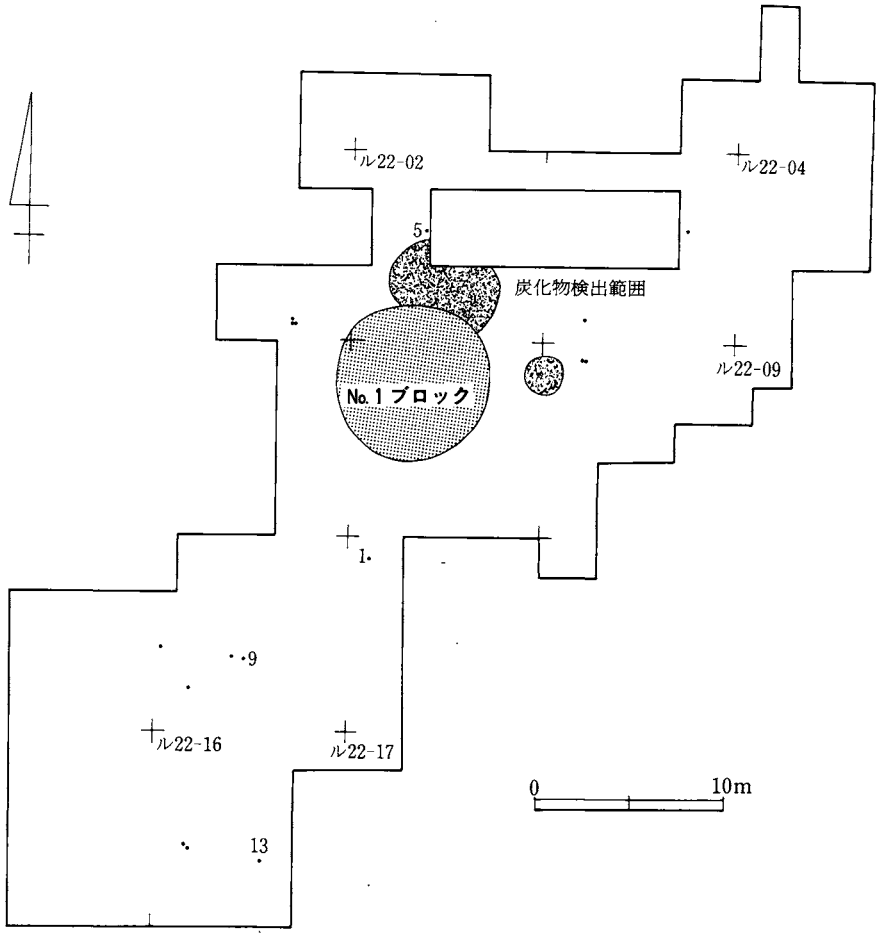
**位置・層位・出土状況**　遺跡の西側から南側を巡る谷に面した、平坦部の縁から一部斜面にかかる部分の調査で、遺物の検出に伴って拡張調査を実施したので調査範囲は東西約50m南北45mの中をきわめて変則的に調査した結果となった。第１地点全体としては311点の石器類が検出されたがそのほとんどの296点がル22-07を中心とした範囲に集中しこれをNo.１ブロックとした。No.１ブロックは、ル22-07を中心とする８×８m程の範囲に広がり、特にそのほとんどは４×４m程の範囲に集中する。出土層位は、II層下部からVI層に及び最高95cmの高低差を持つが、中心的出土層位はV層下部に集中する。No.１ブロックにはこれと一部重なるように北東に５×5.5mの広がりを持つ炭化物片の集中と東に２m程離れて1.8×２mの広がりを持つ炭化物片の集中が検出された。高低差は30cm程度の範囲に集中し、No.１ブロックの集中出土層位と一致する。

**遺物**　第１地点の遺物総数は311点で、このうちNo.１ブロックとして把握したものは296点である。No.１ブロックの石器組成は、尖頭器２点・削器５点・２次加工のある剥片２点・剥片80点・砕片206点・石核１点である。石材は１点のメノウ剥片を除いては黒曜石である。

２・３はいずれも片面周縁部加工のみの尖頭器とするには躊躇されるような黒曜石製の尖頭器である。

４・６・７・８は削器で４はきわめて身の厚い急斜な角度を持つものである。８は削器としたが小型のナイフ形石器として把握した方が適切かもしれない。

11・12は調整痕と思える剥離が窺える大形の剥片であるが、あるいは打面再生のために除去された剥片かも知れない。



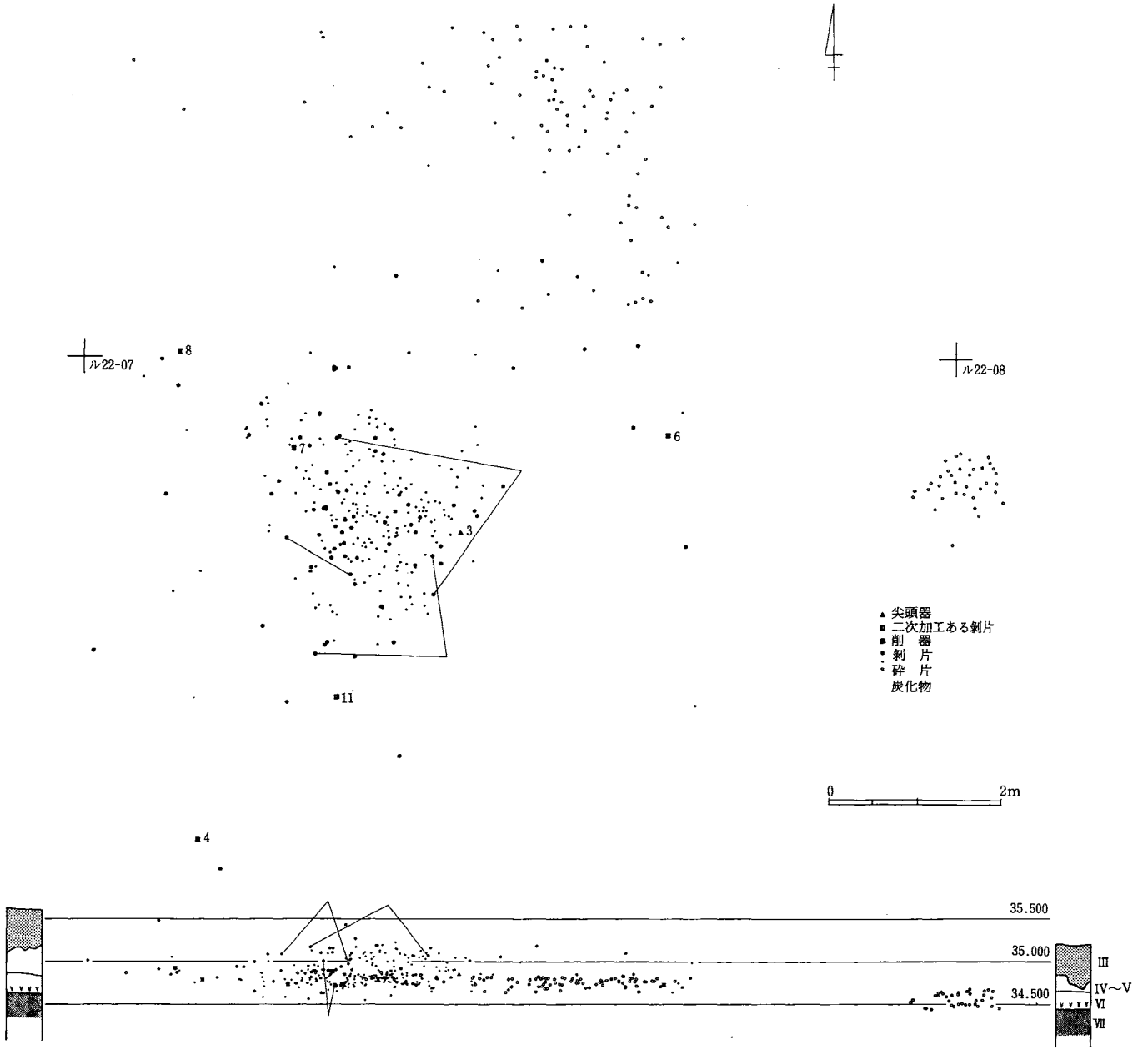

第8図　第1地点遺物分布状況図（1/400）

1はル22-17区から検出された尖頭器で、両面加工の整った尖頭器で珪質頁岩製である。先端部と基部を欠き、III層から出土した。No.1ブロックからは5m程度離れるだけであるが石質、出土層位からしてNo.1ブロックとは異なる時期のものと考えられる。

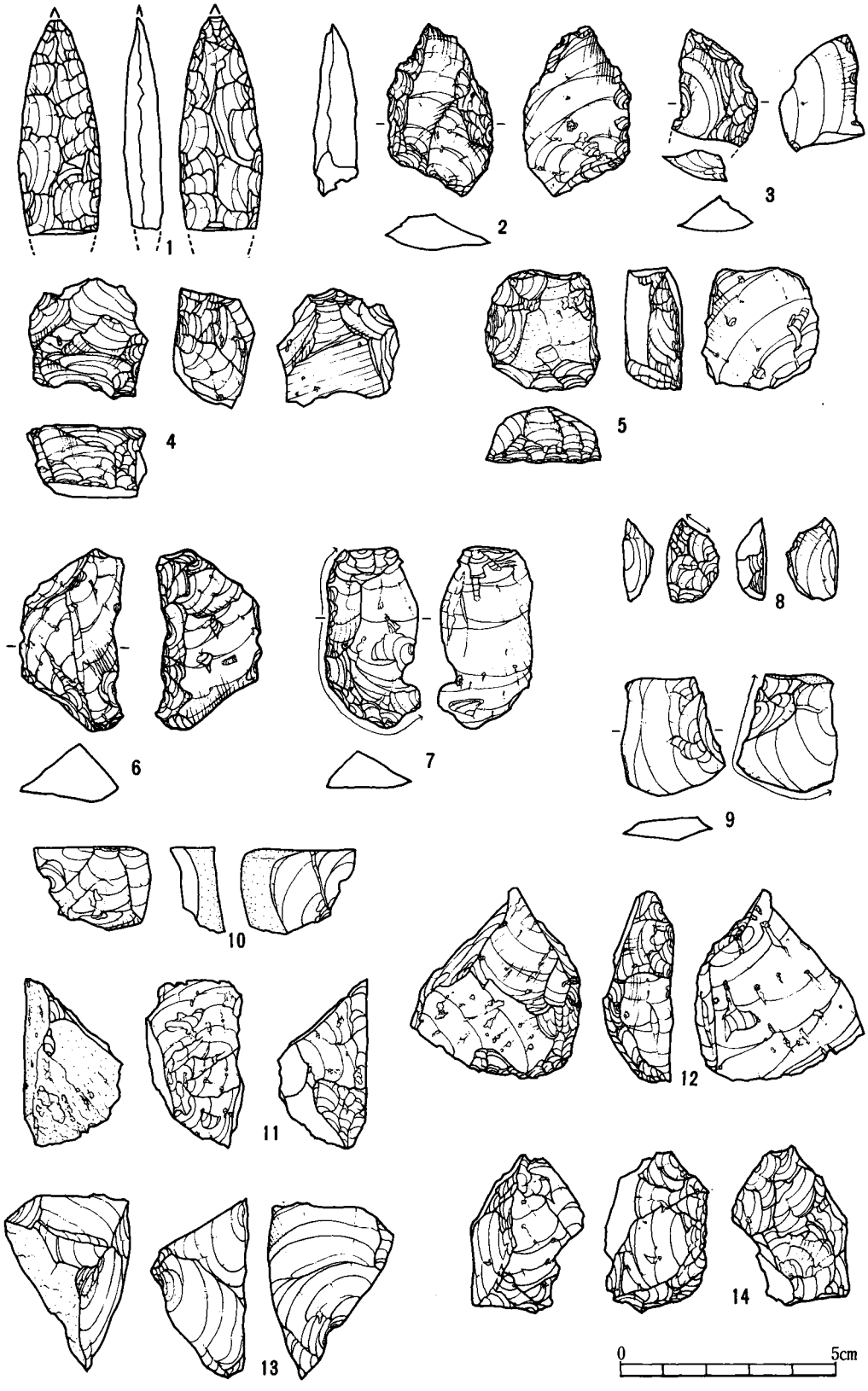
5はル22-02区から検出された削器で、急斜な刃部を持つ身の厚いもので黒曜石製である。出土層位はIV～V層でNo.1ブロックの出土層位と一致する。No.1ブロックの集中範囲の端から4m程の距離をおくものの、その間に炭化物片の集中が挟まり炭化物片集中の端から出土しており、黒曜石の見た目の石質もNo.1ブロックの剝片群のものと類似しており、No.1ブロックと極めて密接な関係にある石器と考えられる。

9・10の剝片は、ル22-10区からの出土で、珪質頁岩製でNo.1ブロックとは直接関係しないものと思われる。

13の石核も、ル22-06区からの出土でチャート製、No.1ブロックとは関係しない。




第９図　第１地点No.１ブロック遺物出土状況図（1/60）

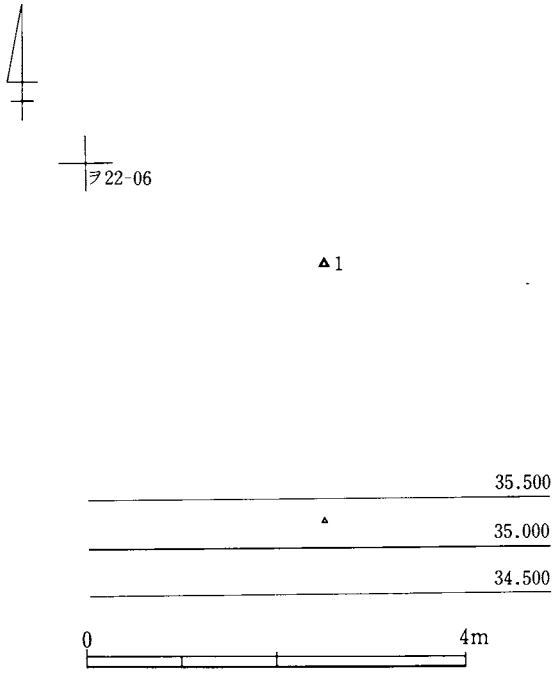



第10図　第１地点出土石器実測図（2/3）

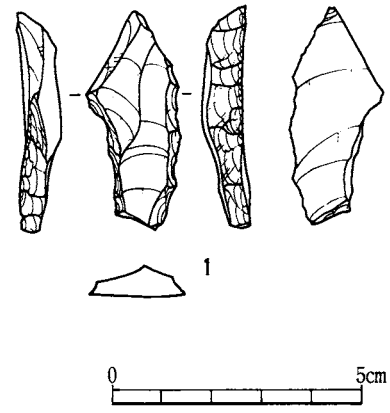
第２地点（第11・12図　図版23）

**位置・層位・出土状況**　第１地点の東15mヲ22-06区から、ナイフ形石器が出土し周辺の拡張を実施したが追加資料は得られなかった。

**遺物**　ナイフ形石器１点のみである。中型のナイフ形石器で珪質頁岩製。縦長剝片利用し左側縁の基部から２/３と右側縁のブランテング加工が施される。厚さが0.73mmありかなり身の厚いナイフ形石器である。




第11図　第２地点遺物出土状況図（1/80）

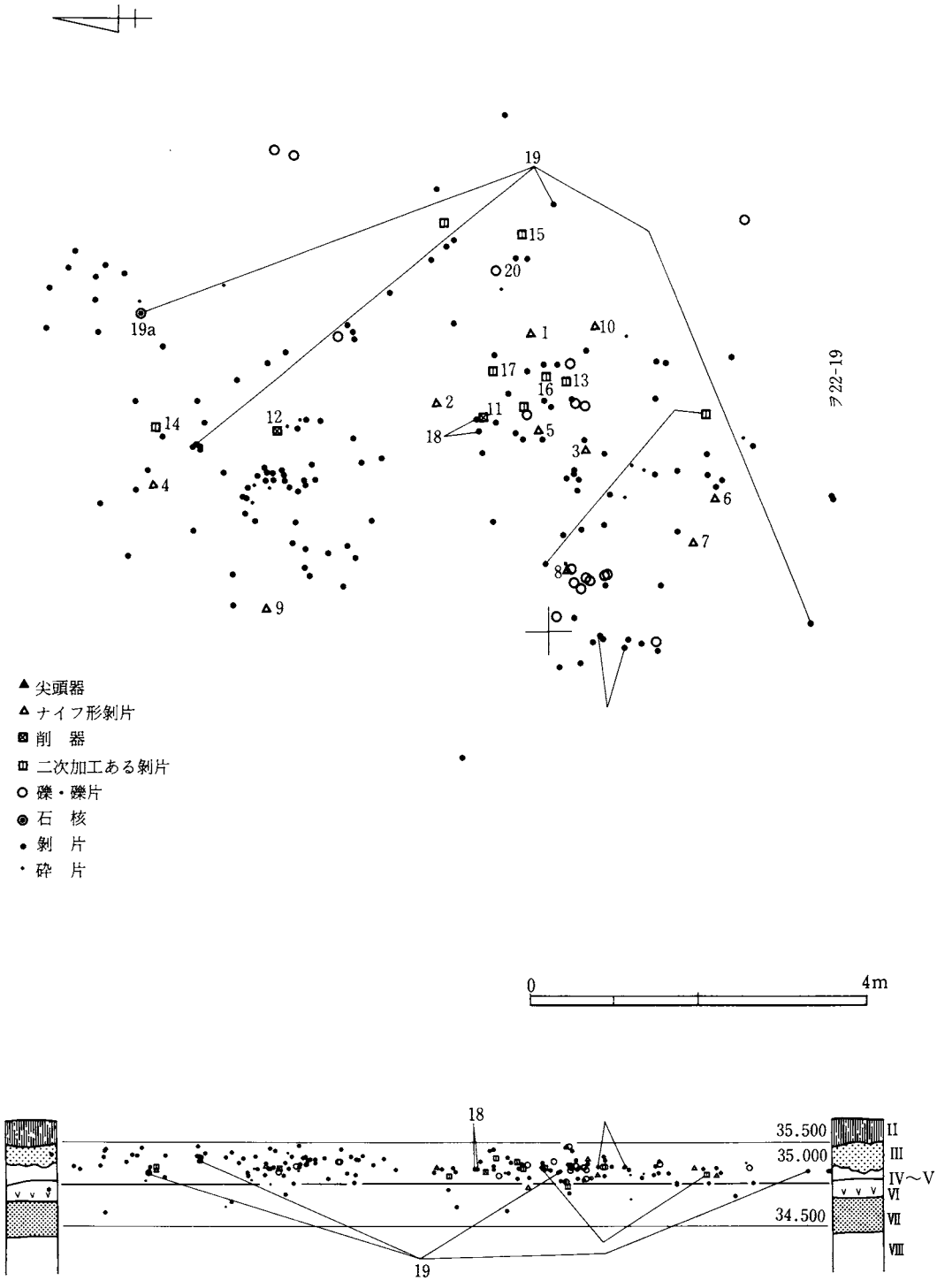



第12図　第２地点出土石器実測図（2/3）

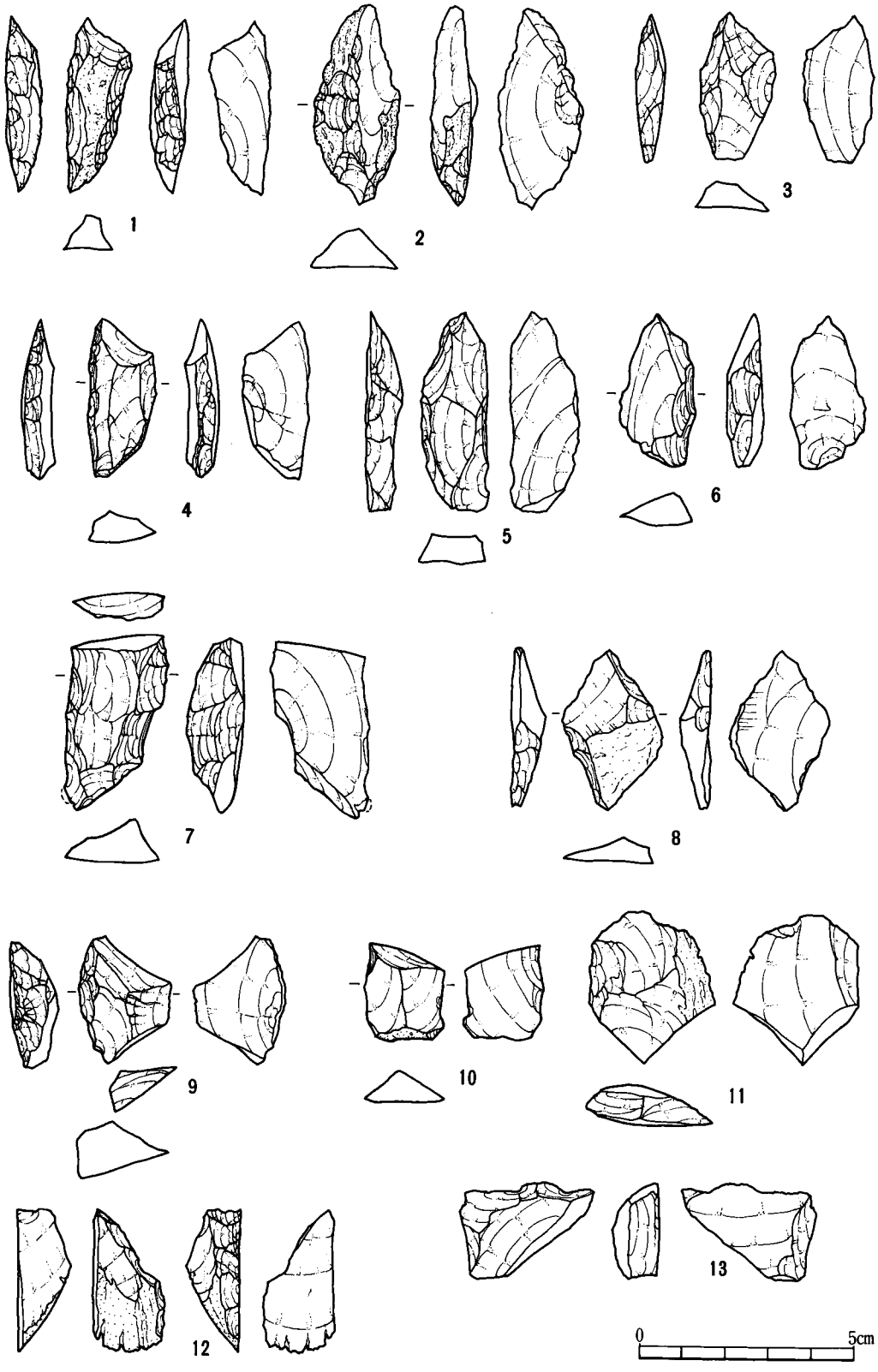
第３地点・No.２ブロック（第13～16図　図版２・23）

**位置・層位・出土状況**　第２地点の　南東約30mヲ22-14・19区を中心とする範囲から総計193点の石器類が検出され、南北9.1m・東西5.9mの範囲に出土したためこれをNo.２ブロックとした。出土層位は、III層からVII層に及び最高85cmの高低差を持つが、中心的出土層位はIV～V層に集中する。遺物の平面的分布範囲はは9.1×5.9mの範囲と比較的大きいが、分散的であり特に集中性をを見せるものでもない。19の資料の接合関係からしても全体をブロックとして捉えることが適当であろう。

**遺物**　第３地点・No.２ブロックの遺物総数は193点ある。No.２ブロックの石器組成は、ナイフ形石器９点・削器２点・２次加工のある剝片８点・剝片138点・砕片15点・石核１点・礫片20点である。石材は安山岩が主体を占め180点、他に黒曜石４点・チャート４点・花崗岩３点・砂岩１点・凝灰岩１点である。

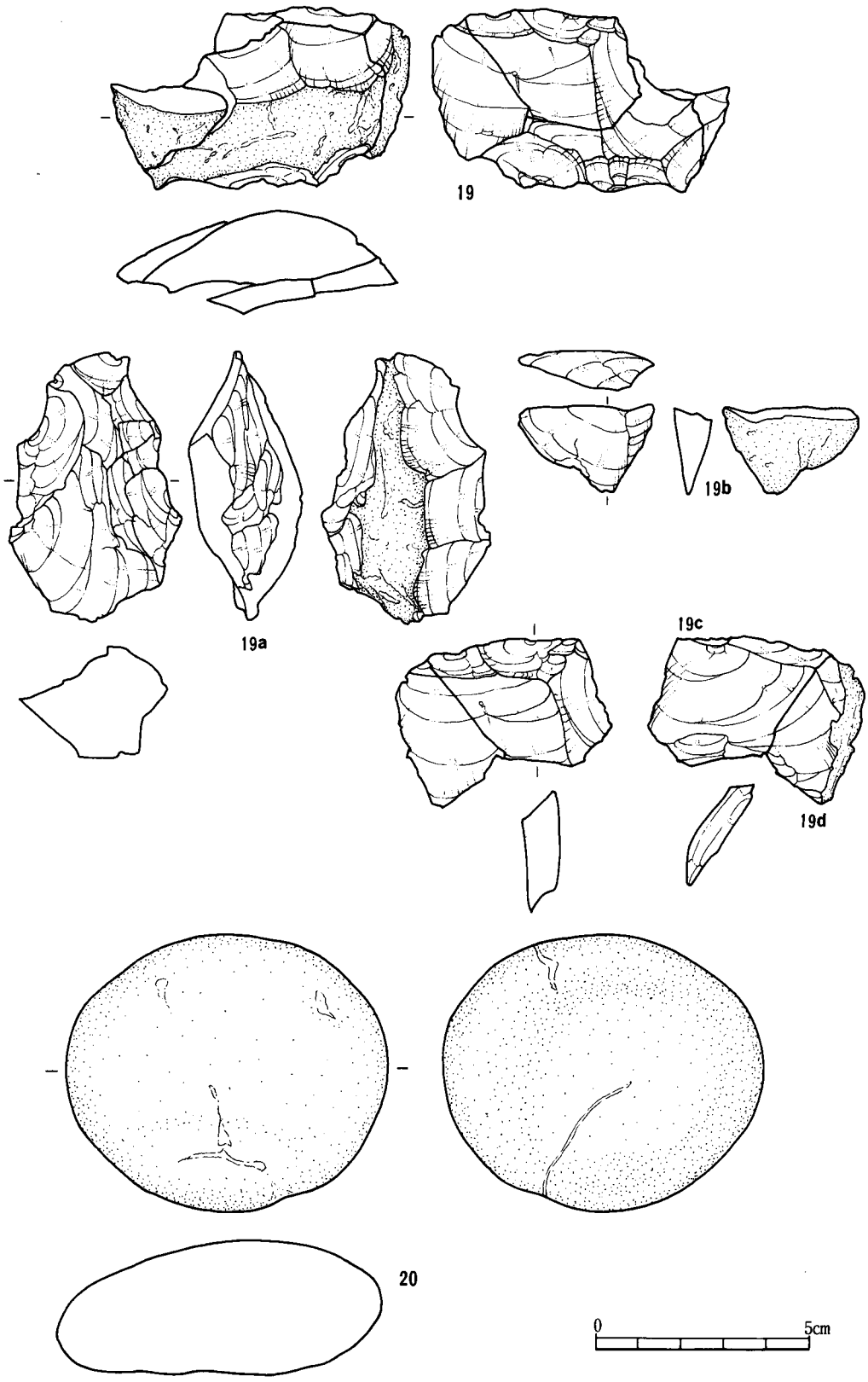



第13図　第３地点№２ブロック遺物出土状況図（1/80）




第14図　№2ブロック出土石器実測図1 (2/3)

第15図　№2ブロック出土石器実測図2 (2/3)




第16図　№2ブロック出土石器実測図3 (2/3)

1～9のナイフ形石器は、9を除いていずれも横長の剝片を使用したものである。1は両側縁にブランテイングが施され形態の整ったものである。2は僅かに稜部への調整加工と基部側縁の加工が窺えるものである。3は左側縁基部にのみブランティングが施される。4は両側縁、5は左側縁、6は右側縁基部に施される。7は刃部欠損資料であるいは尖頭器の可能性もある。8・9は左側縁の加工で横幅の広い長さの短いナイフ形石器を作出している。

No.2ブロックの石器類の主体は安山岩で占められ、ナイフ形石器のほとんどが横長剝片を使用しているが、これらの剝片を得る剝片作取の様相の一端を窺うことのできるのが19の接合資料である。

第4地点（第17）

**位置・層位・出土状況**　第3地点の北東約20mオ22からワ22区にかけて東西60m南北30m後区が調査されこれを第4地点とした。石器群の集中は調査範囲の西側によって確認され3ヶ所の集中が検出された。この3ヶ所の石器群の集中をそれぞれNo.3、No.4、No.5ブロックとした。No.3・No.4についてはその石器群の全容を調査し得ているものと思われるが、No.5については遺物の分布状況からしてその全容は調査できていないものと判断される。第4地点の遺物総数は128点ある。

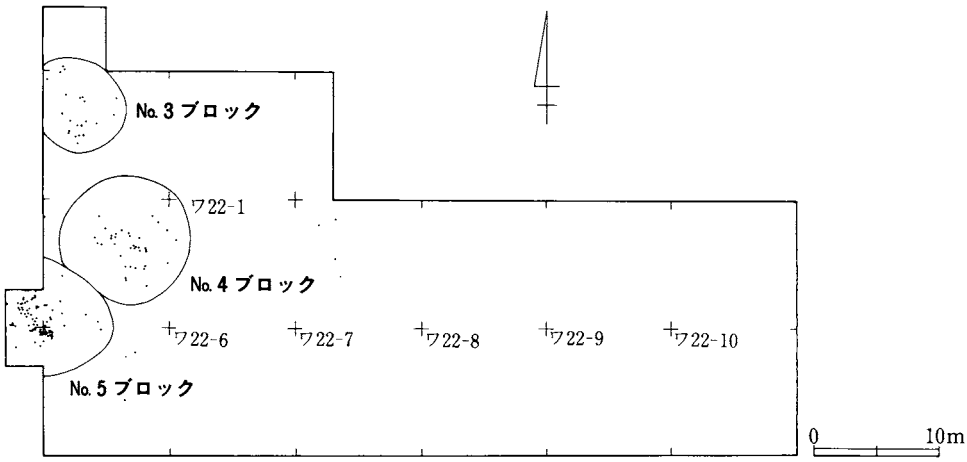
No.3ブロック（18・19図　図版24）

**位置・層位・出土状況**　第4地点の北西隅のヲ21-25区を中心に東西5.6m・南北5.8mの範囲に石器群が集中しこれをNo.3ブロックとした。出土層位は、III層からVI層で高低差は50cm程度に及ぶ。基本的層準としてはIV～V層と把握される。

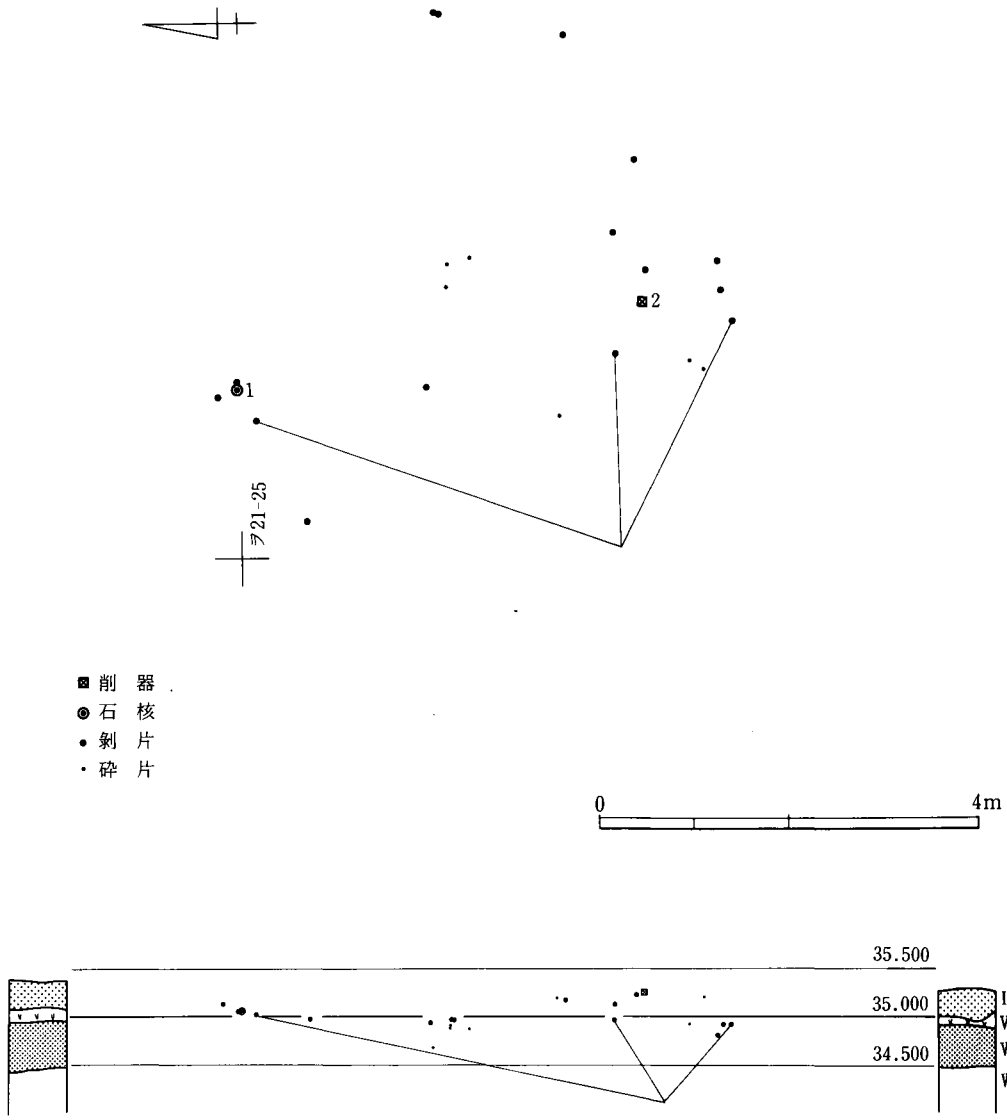
**遺物**　No.3ブロックの遺物総数は21点である。No.3ブロックの石器組成は、削器1点・剝片13点・砕片6点・石核1点である。石材は黒曜石のみである。

1は黒曜石製の残核で、多方面から回転しながら幅の狭い縦長剝片を削取している。

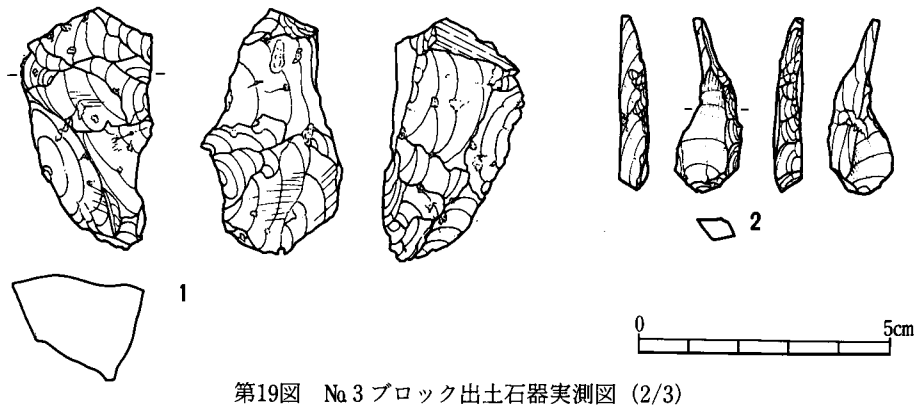
2は黒曜石製の削器で欠損品である。



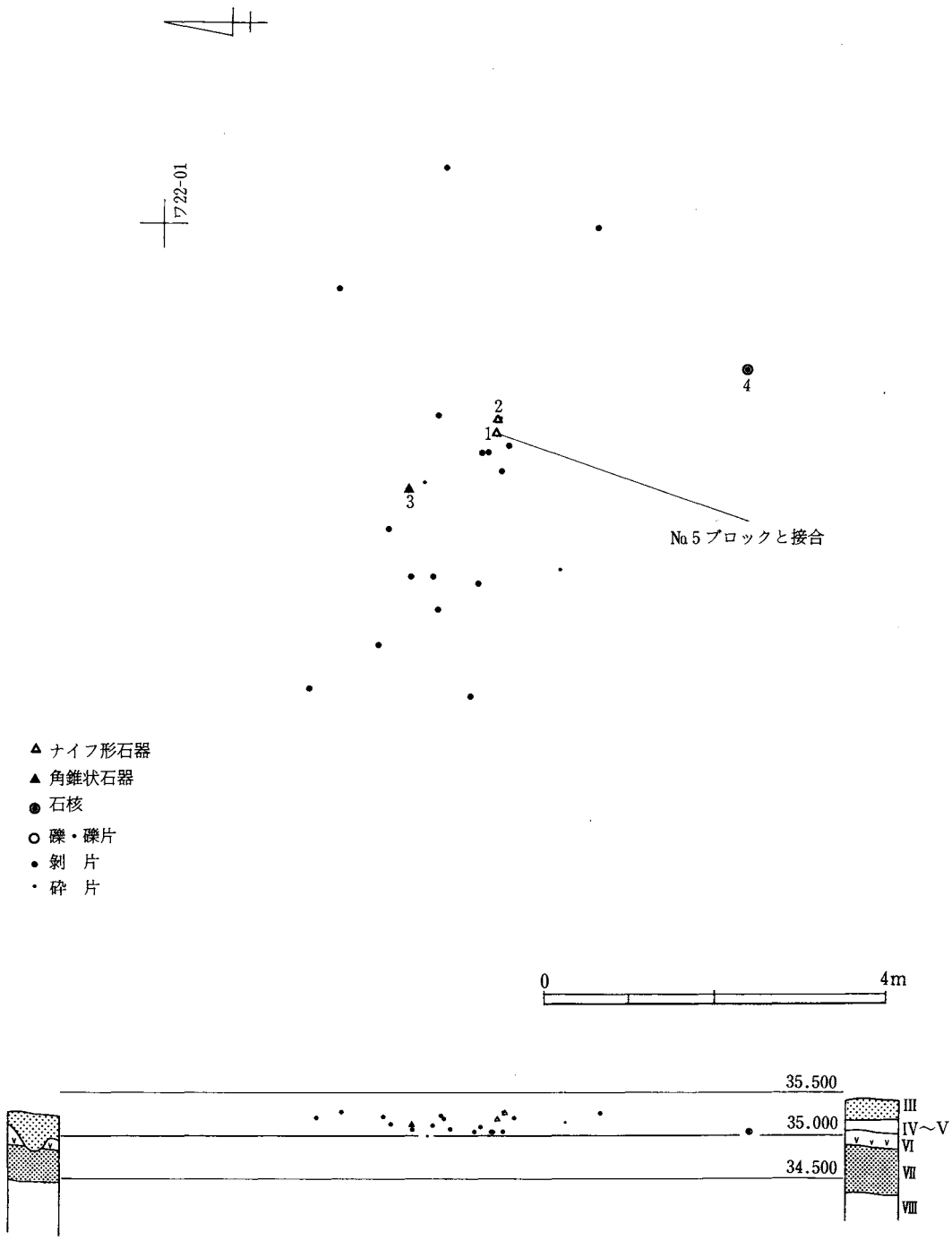

第17図　第4地点遺物分布状況図（1/600）



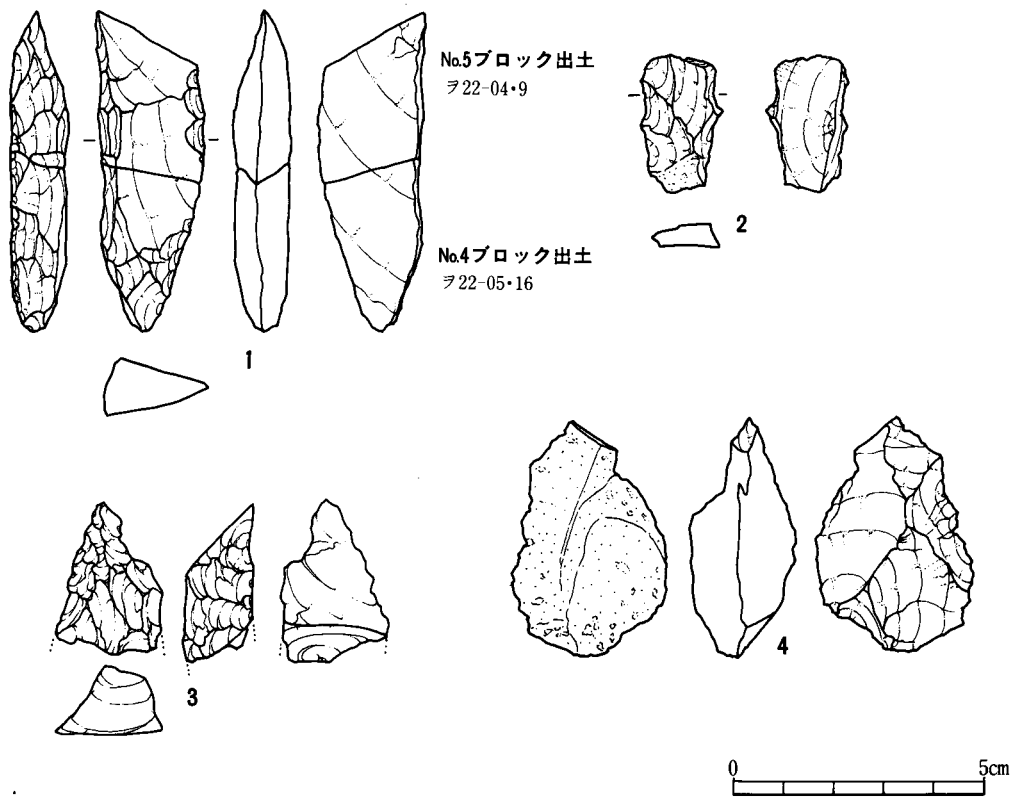

第18図　第４地点№３ブロック遺物出土状況図（1/80）




第19図　№３ブロック出土石器実測図（2/3）




第20図　第4地点№4ブロック遺物出土状況図（1/80）




第21図　No.4ブロック出土石器実測図（2/3）

No.4ブロック（第20・21図）

**位置・層位・出土状況**　No.3ブロックの南側ヲ22-05区に東西6m・南北5mの範囲に石器群が集中しこれをNo.4ブロックとした。出土層位は、III層からIV～V層で高低差は30cm程度に収まる。基本的層準としてはIV～V層と把握される。

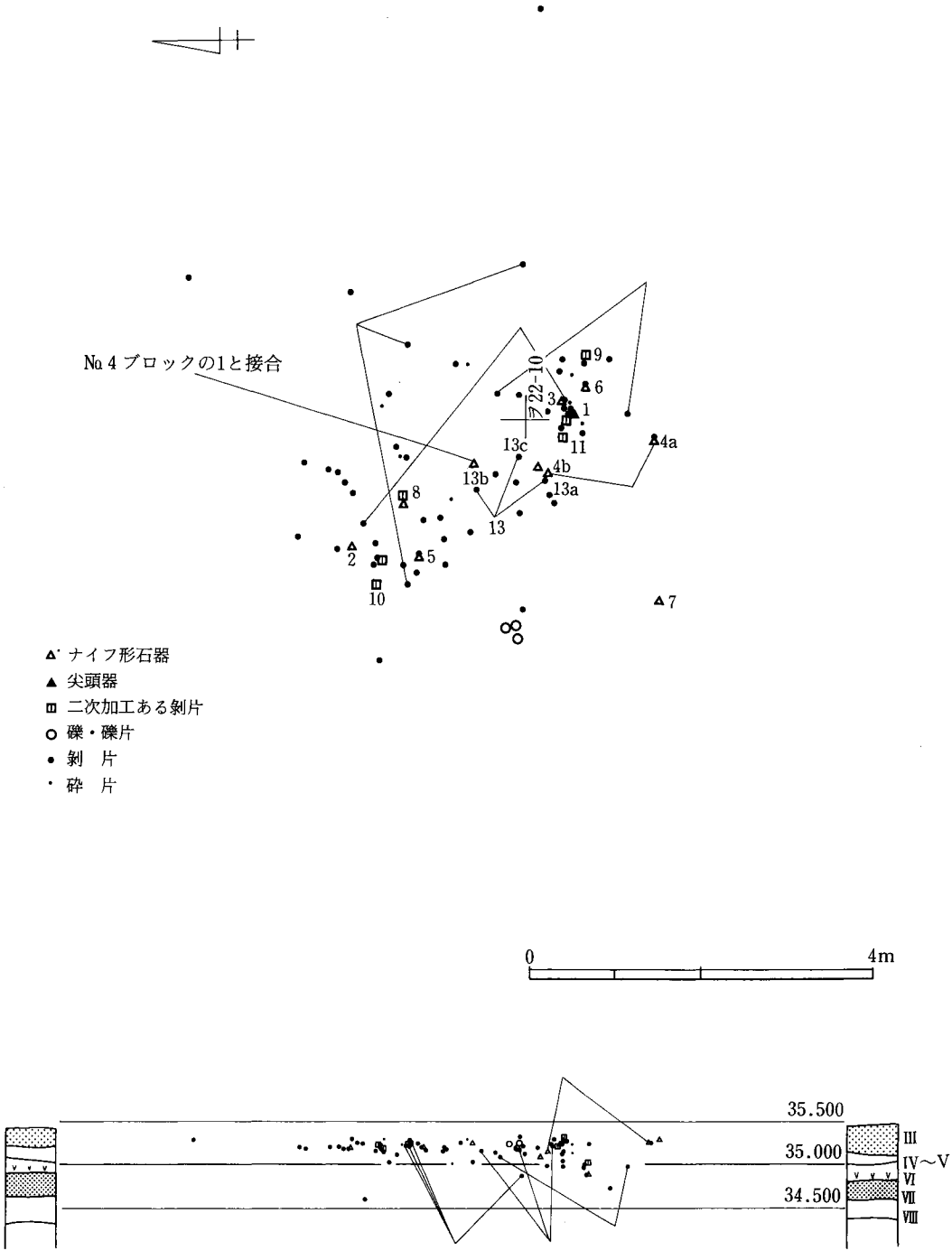
**遺物**　No.4ブロックの遺物総数は24点である。No.4ブロックの石器組成は、ナイフ形石器2点・角錐状石器1点・剥片13点・砕片3点・石核1点・礫片1点である。石材は安山岩21点・チャート1点・珪質頁岩1点・黒曜石1点・メノウ1点であり、主体を占めるのは安山岩である。

1は安山岩製のナイフ形石器で2つに折れて出土し、上部はNo.5ブロックから出土したものである。縦長の剥片を利用した、長さ6.31mmと比較的大形のナイフ形石器で両側縁とも丁寧な加工が施される。

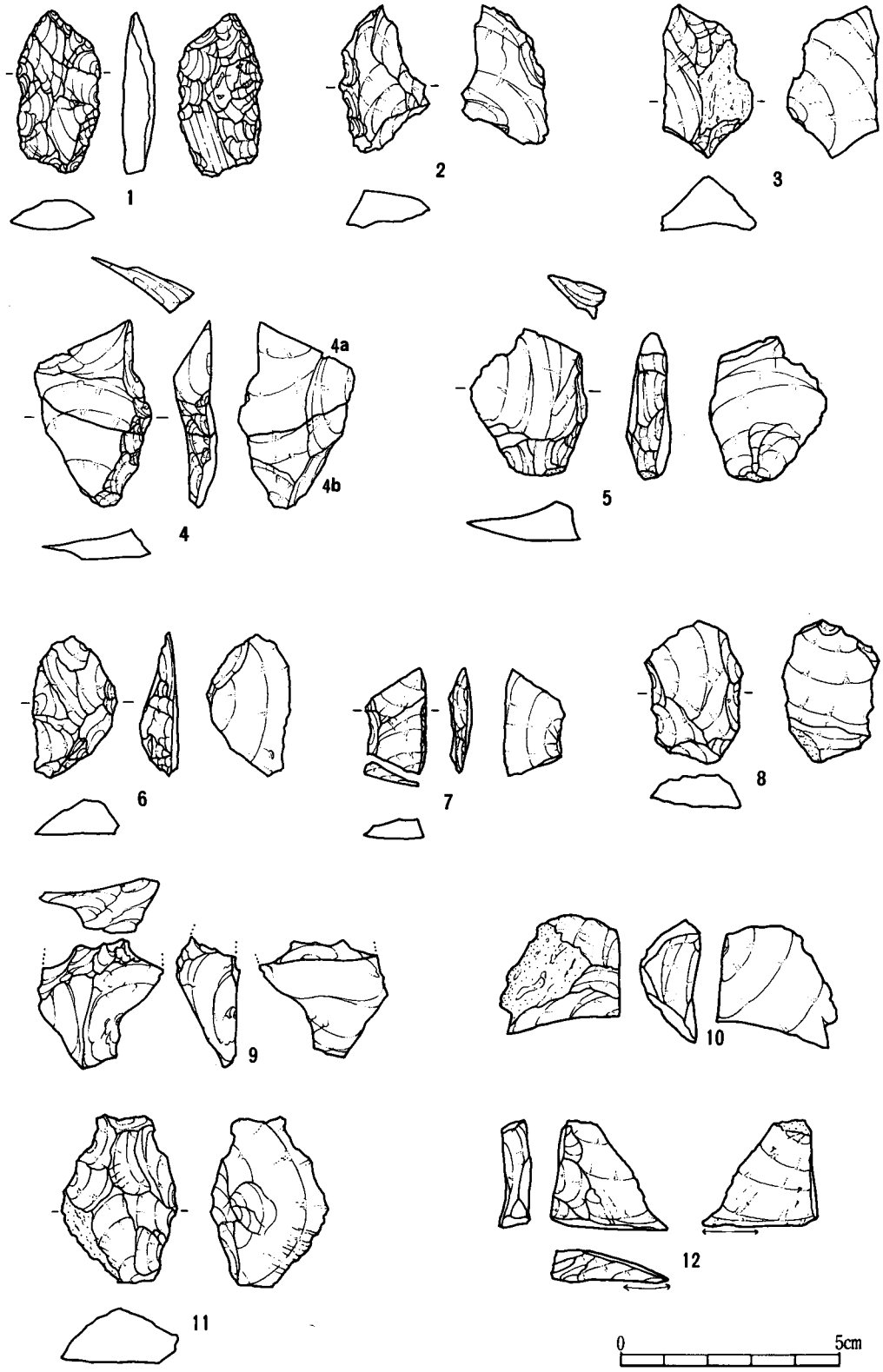
2は横長剥片を使用したナイフ形石器で、調整もほとんど施されず小型のものでナイフ形石器とするのは不適当かも知れない。

3は角錐状石器の下半部欠損品である。断面三角形のきわめて厚いものである。

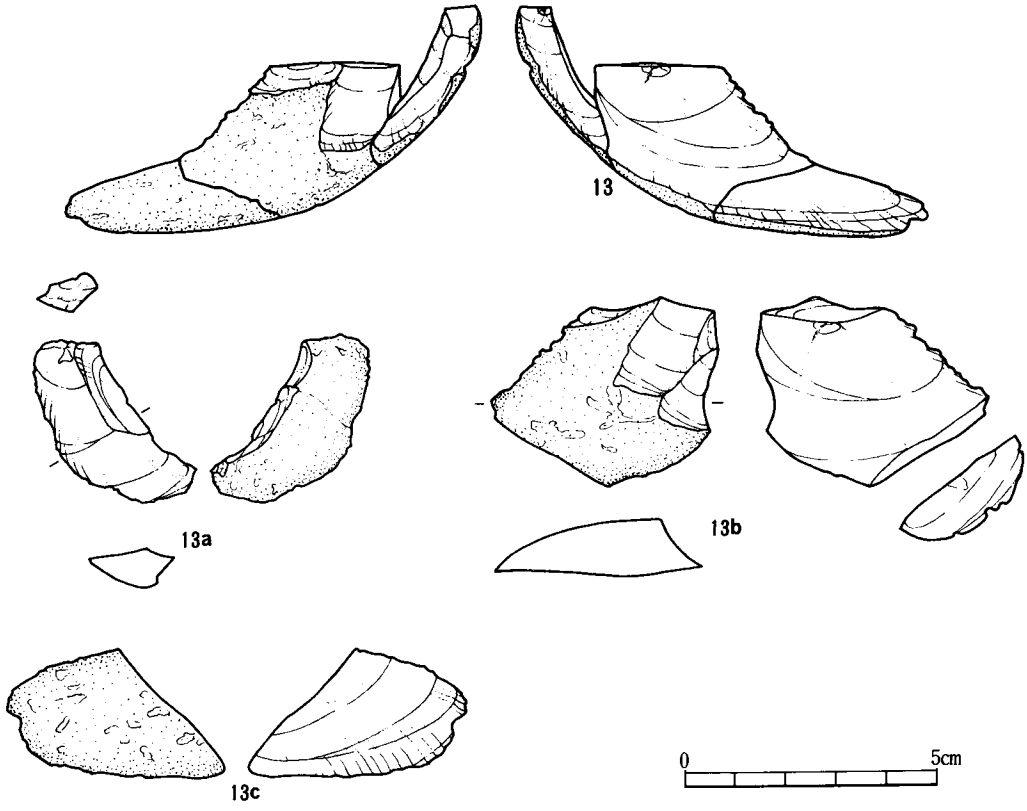
4は表皮部分を残す安山岩の石核残核である。




第22図　第4地点№5ブロック遺物出土状況図（1/80）




第23図　№5ブロック出土石器実測図1（2/3）




第24図　No.5ブロック出土石器実測図2 (2/3)

No.5ブロック（第22～24図　図版24）

**位置・層位・出土状況**　No.4ブロックと隣接して南側にヲ21-24・ヲ21-25・ヲ22-09・ヲ22-10区に東西8.9m・南北6mの範囲に石器群が集中しこれをNo.5ブロックとした。No.5ブロックについては西側の調査が十分ではなく本来は更に広がる可能性も高い。出土層位は、III層からVII層で高低差は最高75cmあるが25cm程度に収まる資料がほとんどである。基本的層準としてはIV～V層と把握される。

**遺物**　No.5ブロックの遺物総数は83点である。No.5ブロックの石器組成は、ナイフ形石器7点・尖頭器1点・2次加工のある剥片7・使用痕のある剥片2点・剥片56点・砕片7点・礫片3点である。石材は安山岩70点・珪質頁岩11点・黒曜石1点・メノウ1点であり、主体を占めるのは安山岩である。

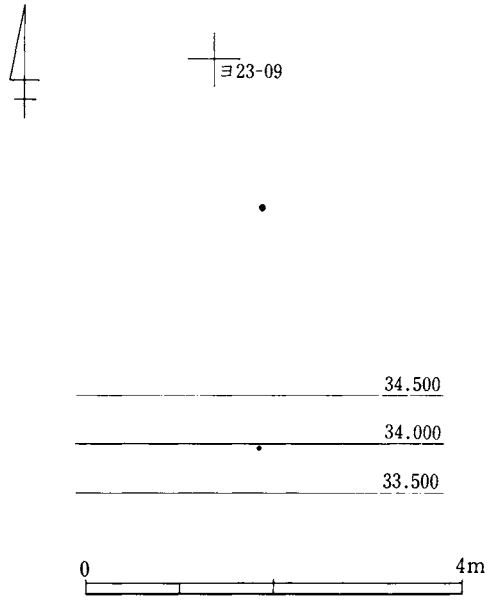
1は黒曜石製の尖頭器で表面は縁辺部のみの調整である。

2～7はナイフ形石器で2は左側縁のみ3～7は右側縁にのみブランテイング加工が施される。4は折れた状態で出土し接合した。

8～10はナイフ形石器の素材とも思える剥片で調整痕を有する。11・12は使用痕が観察できる。

第５地点（第25図）

**位置・層位・出土状況**　第１地点の南東90mヨ23-09区から、安山岩製の剝片が出土し周辺の拡張を実施したが追加資料は得られなかった。




第25図　第５地点遺物出土状況図（1/80）

第６地点（第26図　図版２・25）

**位置・層位・出土状況**　第４地点の北東約100m遺跡北西から入り込む小支谷の谷頭に面して位置する。ヨ19地区からヨ20地区更にヨ21地区の一部と南北約100m東西約20mNo.範囲が調査され、これを第５地点とした。石器群の集中は調査範囲のほぼ南半分に確認され視覚的な分布集中から13ヶ所の集中に区分し、この13ヶ所の石器群の集中をそれぞれNo.６～No.18ブロックとした。第６地点の遺物総数は274点ある。

No.６ブロック（27・33図）

**位置・層位・出土状況**　第６地点のブロック群分布のほぼ中心、ヨ20-20区に東西4.1m・南北３mの範囲に石器群が集中しこれをNo.６ブロックとした。出土層位は、VI層からVII層で高低差は35cm程度に収まる。基本的層準としてはIV層と把握される。

**遺物**　No.６ブロックの遺物総数は55点である。No.６ブロックの石器組成は、彫刻刀形石器１点・ピエス・エスキューユ８点（接合資料があり石器数としては５）・２次加工ある剝片１点・剝片26点・砕片16点・削片１点・石核１点である。石材は１点のメノウ剝片を除いて珪質頁岩である。

１は右側縁上方からの樋状剝離の入る彫刻刀形石器である。

2～6は上下両端に打撃痕跡を持つピエス・エスキューユで長さが2～3cmにまとまる。7は上下両方向からの剝離痕跡を持つ石核であるがピエス・エスキューユとして把握した方が適切かも知れない。

No.7ブロック（第27図）

**位置・層位・出土状況**　No.6ブロックの南東ヨ20-20・ヨ20-25・タ20-16・タ20-21区に東西8.1m・南北7.5mの範囲に石器群が集中しこれをNo.7ブロックとした。層位は、No.6ブロックと同様である。

**遺物**　No.7ブロックの遺物総数は26点と少なく、石器組成はもまた使用痕のある剝片剝1点・剝片16点・砕片9点である。石材はのメノウ剝片1点・安山岩剝片1点を除いて珪質頁岩である。

No.8ブロック（第27・33図）

**位置・層位・出土状況**　No.7ブロックの南ヨ20-25・タ20-21区に東西8.8m・南北8.2mの範囲に石器群が集中しこれをNo.8ブロックとした。層位はNo.6ブロックと同様である。

**遺物**　No.8ブロックの遺物総数もNo.7ブロック同様は21点と少なく、石器組成はもまた使用痕のある剝片剝1点・剝片18点・砕片1点・石核1点である。石材はすべて珪質頁岩である。

9の石核は、長さが6.79cmあるものでむしろスポール状のものである。

No.9ブロック（第28・33・34図）

**位置・層位・出土状況**　No.8ブロックの南タ21-01区に東西3m・南北4.1mの範囲に石器群が集中しこれをNo.9ブロックとした。層位はⅥ層～Ⅶ層で出土し高低差35cm程である、主としてⅦ層からの出土である。

**遺物**　No.9ブロックの遺物総数は極めて少なく11点である。石器組成はもまた2次加工のある剝片1点・使用痕のある剝片剝1点・剝片7点・砕片1点である。石材はメノウの剝片1点以外は珪質頁岩である。

10は縦長剝片の基部両側縁に使用痕の認められるものである。11は大形の整った剝片で基部に近く調整痕が認められる。

No.10ブロック（第28・34図）

**位置・層位・出土状況**　No.9ブロックの南ヨ21-05・タ21-01区に東西2.8m・南北2.2mの範囲に石器群が認められこれをNo.10ブロックとした。層位はNo.9ブロックと同様である。

**遺物**　No.10ブロックの遺物総数は極めて少なく8点である。石器組成はもまた削器1点・2次加工のある剝片1点・剝片5点・砕片1点である。石材は安山岩の剝片1点以外は珪質頁岩である。

12は剝片接合の資料で縦長剝片を使用して僅かに加工して削器としている。13は折れている資料と思われあるいは尖頭器のみ失敗資料かも知れない。

No.11ブロック（第27・35図）

**位置・層位・出土状況**　No.6ブロックの西ヨ20-19区に東西2.2m・南北3.1mの範囲に石器群が認められこれをNo.11ブロックとした。層位はVI層である

**遺物**　No.11ブロックの遺物総数は極めて少なく7点である。石器組成は2次加工のある剝片2点・剝片4点・砕片1点である。石材は珪質頁岩5点・安山岩2点である。

14a・bは珪質頁岩の資料で、接合した。14bに分割後の調整痕が認められる。

No.12ブロック（第29・35図）

**位置・層位・出土状況**　No.11ブロックの西10m、ヨ20-13・ヨ20-18区に東西6.4m・南北5.8mの範囲に石器群が認められこれをNo.12ブロックとした。層位はVI層～VII層で最高55cmの高低差を持つ、ほとんどはVI層からの出土である。

**遺物**　No.12ブロックの遺物総数は少なく15点である。石器組成は、2次加工のある剝片1点使用痕のある剝片1点・剝片12点・石核1点である。石材は使用痕のある剝片と剝片核点がメノウで他は珪質頁岩である。

15はメノウ剝片で縦長剝片の直線的な左側縁に使用痕が認められる。16は珪質頁岩製の石核で回転しながら次々と打点を変えて小型の剝片が削取されている。17a・bは連続して剝取された剝片である。

No.13ブロック（第30・36図）

**位置・層位・出土状況**　No.12ブロックの北東15m第6地点のブロック群の中では最も北に位置し、ヨ20-09・ヨ20-14区に東西8.5m・南北11.2mの範囲に石器群が認められ、これをNo.13ブロックとした。層位はVI層～VII層で垂直分布の高低差は最高38cmと比較的まとまりは良い。VI層からの出土が主体である。

**遺物**　No.13ブロックの遺物総数は25点である。石器組成は、ピエス・エスキーユ2点・2次加工のある剝片1点・使用痕のある剝片1点・剝片20点・砕片1点である。石材は使用痕のある剝片がチャート、剝片8点が安山岩で他は珪質頁岩である。

18aは剝片の両側縁に剝離の加えもので、かなり身の厚いものである。19は折れた剝片のノッチ状の部分に微細な調整が加えられる。20はチャートの縦長剝片の側縁の一部に使用痕が認められる。

No.14ブロック（第31・36図）

**位置・層位・出土状況**　No.13ブロックの東にほぼ接するように位置し、ヨ20-10区に東西6.6m・南北8.22mの範囲に石器群が認められ、これをNo.14ブロックとした。層位はVI層～VII層で垂直分布の高低差は最高44cmである。

**遺物**　No.14ブロックの遺物総数は22点である。石器組成は、削器1点・2次加工のある剝片1点・使用痕のある剝片1点・剝片15点・砕片3点・敲石1点である。石材は剝片8点・砕片1

点がメノウ、敲石１てんが砂岩である他は珪質頁岩である。

21は方形の表皮を残す素材を利用しており、刃部は急斜な角度を持つ。22は縦長剥片の端部に僅かな調整痕をもつ。23は縦長の剥片で両側縁に使用痕と思われる微細な剥離が窺える。24は砂岩の敲石の破片で、自然面の周縁端部に打撃痕跡が認められる。拳大の円礫を利用した敲石の破砕されたものの断片であろう。

No.15ブロック（第32・36図）

**位置・層位・出土状況**　No.13とNo.14ブロックの南に接するように位置し、ヨ20-14区に東西6.2m・南北4.4mの範囲に石器群が認められ、これをNo.15ブロックとした。層位はVI層～VII層で垂直分布の高低差は最高45cmである。主体的出土層はVI層である。

**遺物**　No.15ブロックの遺物総数は40点である。石器組成は、ピエス・エスキューユ１点・２次加工のある剥片２点・使用痕のある剥片１点・剥片22点・砕片14点である。石材は珪質頁岩30点と主体を占め、メノウ７点、チャート３点である。

25は珪質頁岩の菱形の剥片で表裏両面に調整痕が窺えあるいは尖頭器の未製品かも知れない。26はメノウの縦長剥片で側縁に使用痕が観察できる。27はメノウのピエス・エスキューユである。28は珪質頁岩の剥片で僅かに調整痕が窺える。

No.16ブロック（第32・37図）

**位置・層位・出土状況**　No.13ブロックの南、No.15ブロックの南西に位置し、ヨ20-14区に東西1.4m・南北2.2mの範囲に認められ、これをNo.16ブロックとした。層位はVI層で垂直分布の高低差は最高32cmである。

**遺物**　No.16ブロックの遺物総数は５点のみである。石器組成は、２次加工のある剥片１点・剥片３点・砕片１点である。石材は珪質頁岩点である。

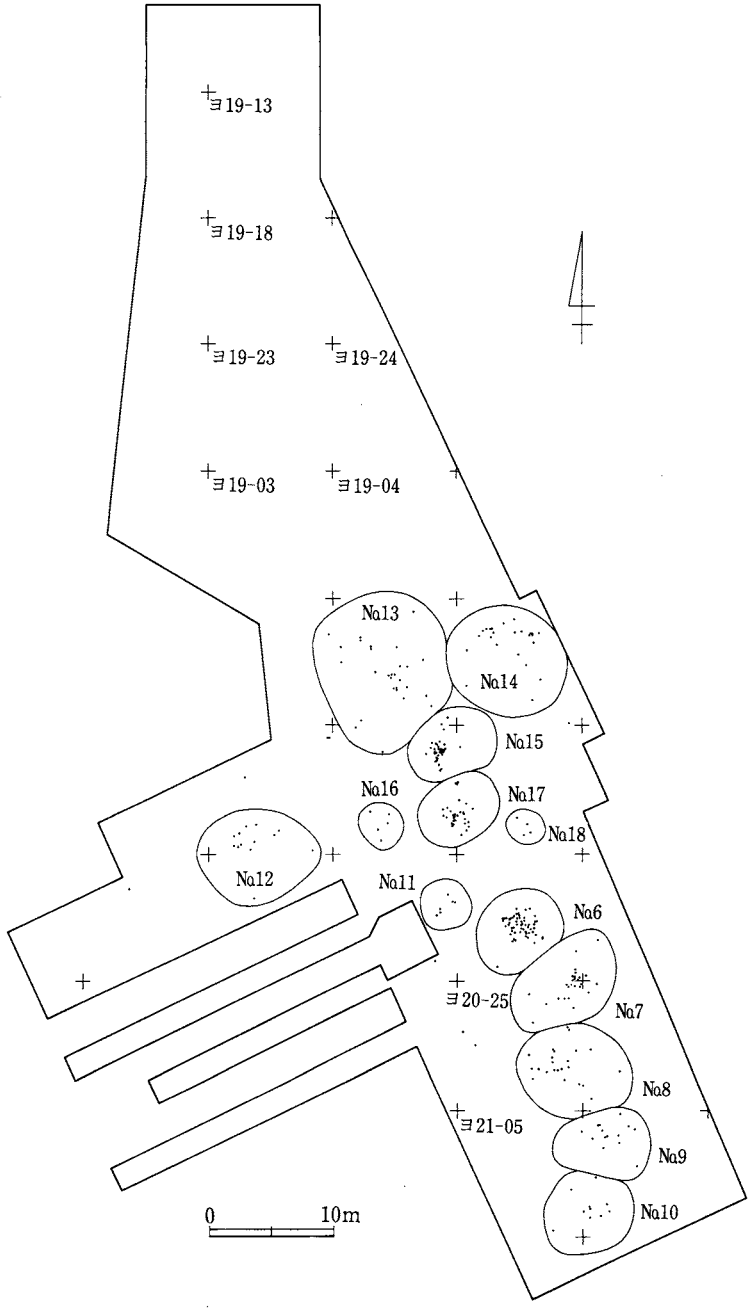
29は珪質頁岩の二等辺三角形の整った剥片で、使用に伴うと思われる小剥離痕が認められる れ、機能的にはナイフ形石器と考えられよう。

No.17ブロック（第32・37・38図）

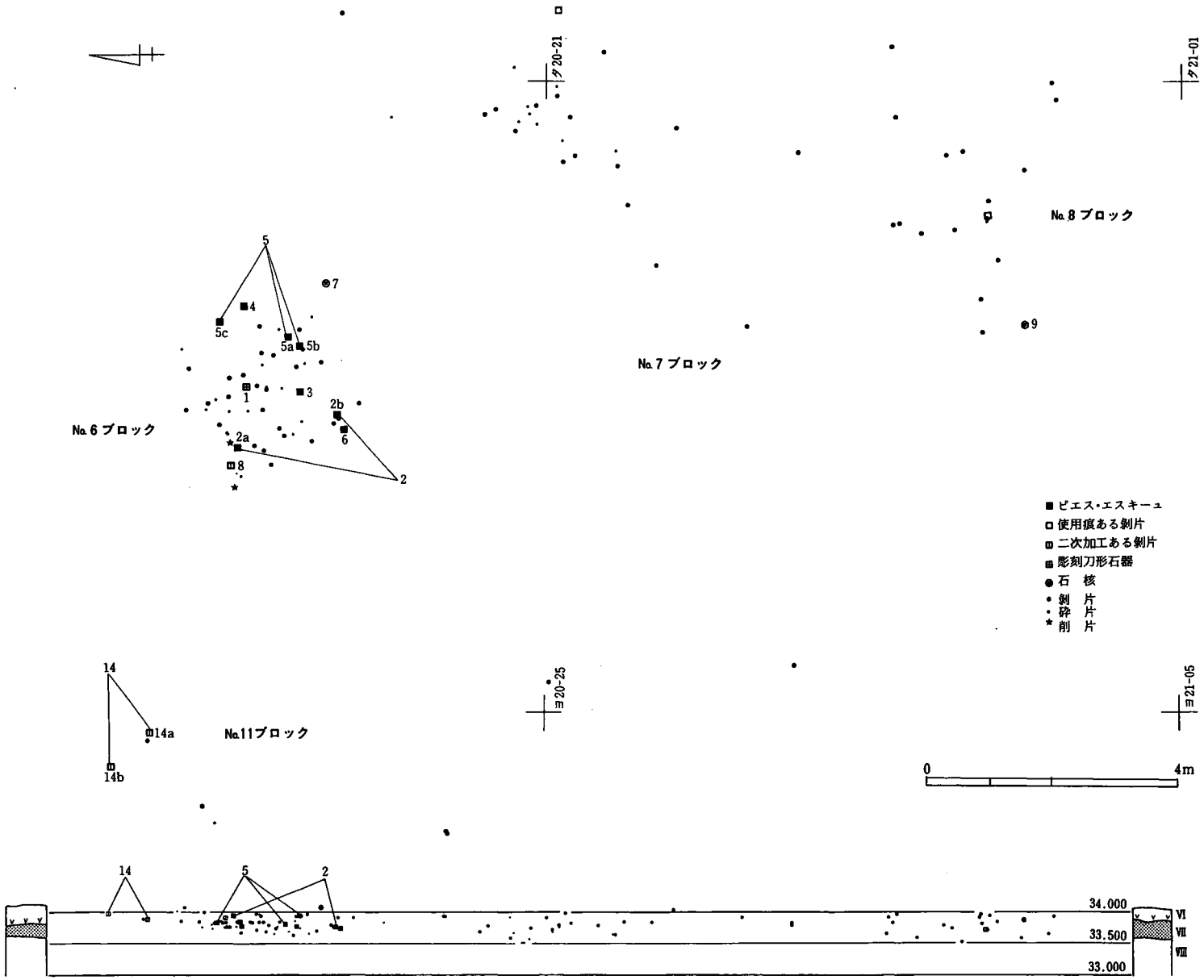
**位置・層位・出土状況**　No.15ブロックの南に位置し、ヨ20-14・ヨ20-15区に東西2.4m・南北4.2mの範囲に石器群が認められ、これをNo.17ブロックとした。層位はVI層～VII層で垂直分布の高低差は最高44cmである。主体的出土層はVI層である。No.15ブロック、No.18ブロックと接合関係を有する。

**遺物**　No.17ブロックの遺物総数は29点である。石器組成は、ナイフ形石器２点・ピエス・エスキューユ２点・２次加工のある剥片３点・使用痕のある剥片１点・剥片14点・砕片６点・石核１点である。石材はピエス・エスキューユ１点・剥片１点を除いては珪質頁岩である。

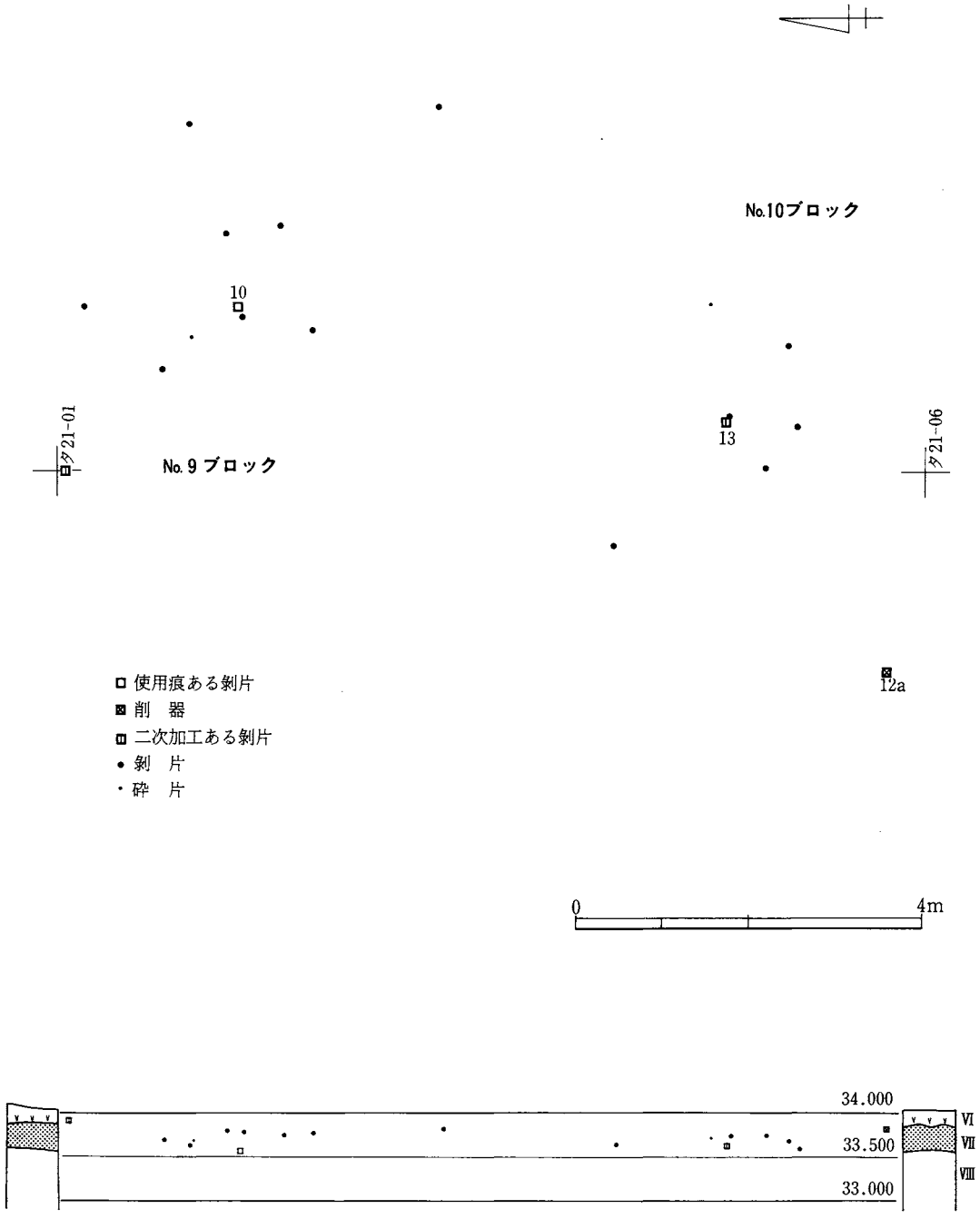
30は珪質頁岩のナイフ形石器で左側縁の基部から２/３にブランテイングが施され、刃部には使用に伴うと思われる小剥離痕が認められる。31.32は上下両方向からの剥離痕が認められる。



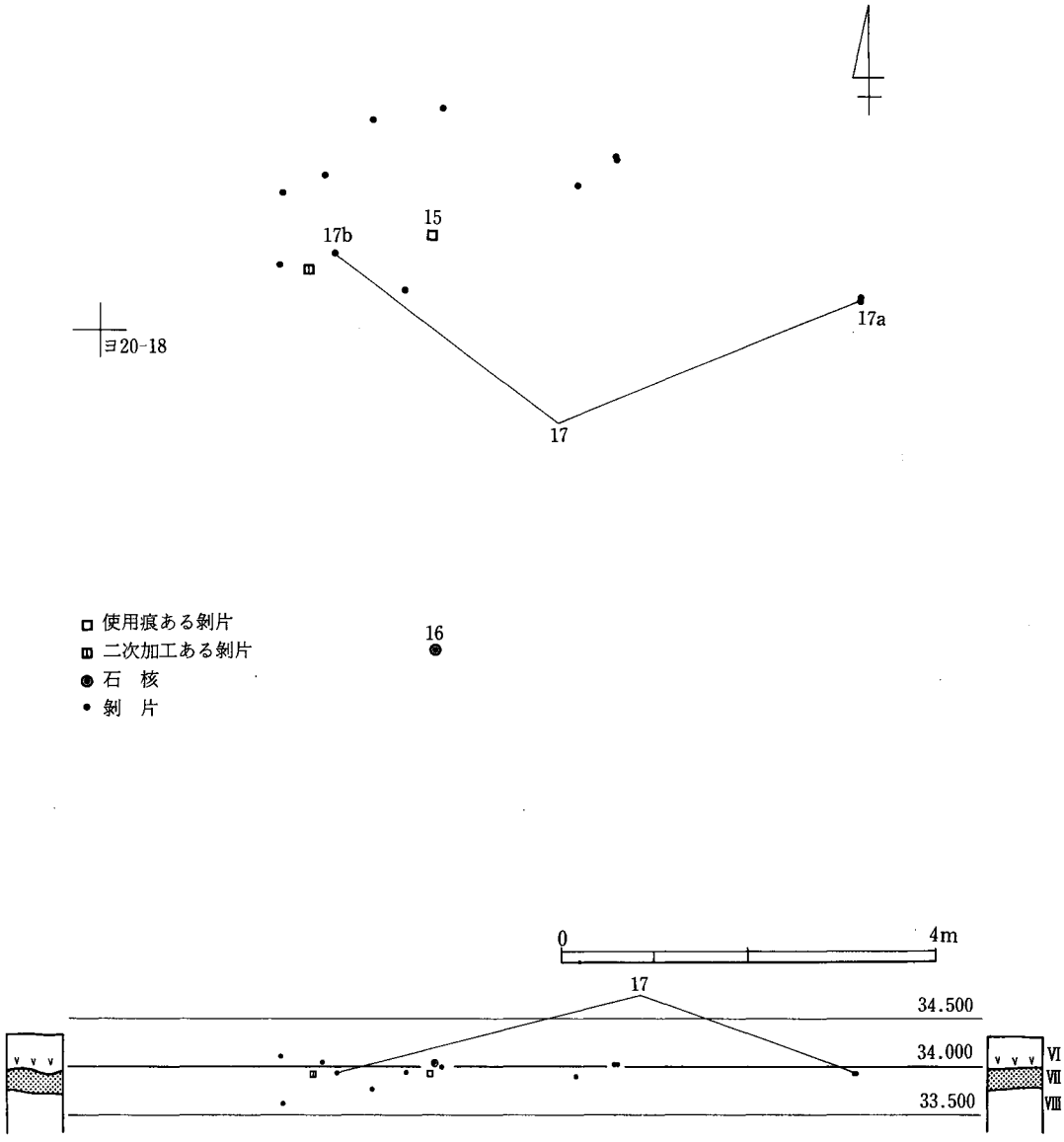

第26図　第６地点遺物分布状況図（1/600）



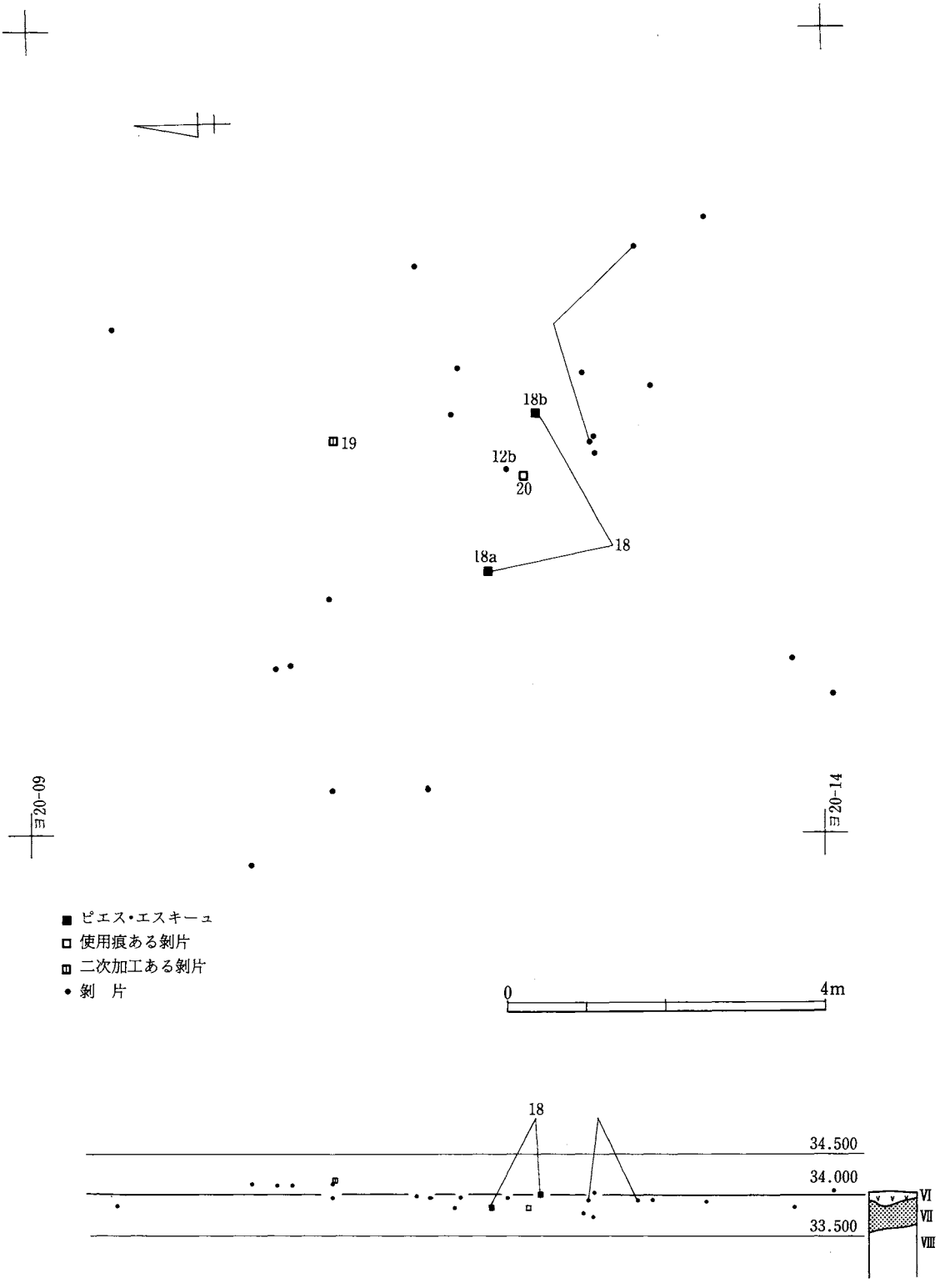

第27図　第6地点No.6～No.8・No.11ブロック遺物出土状況図（1/80）



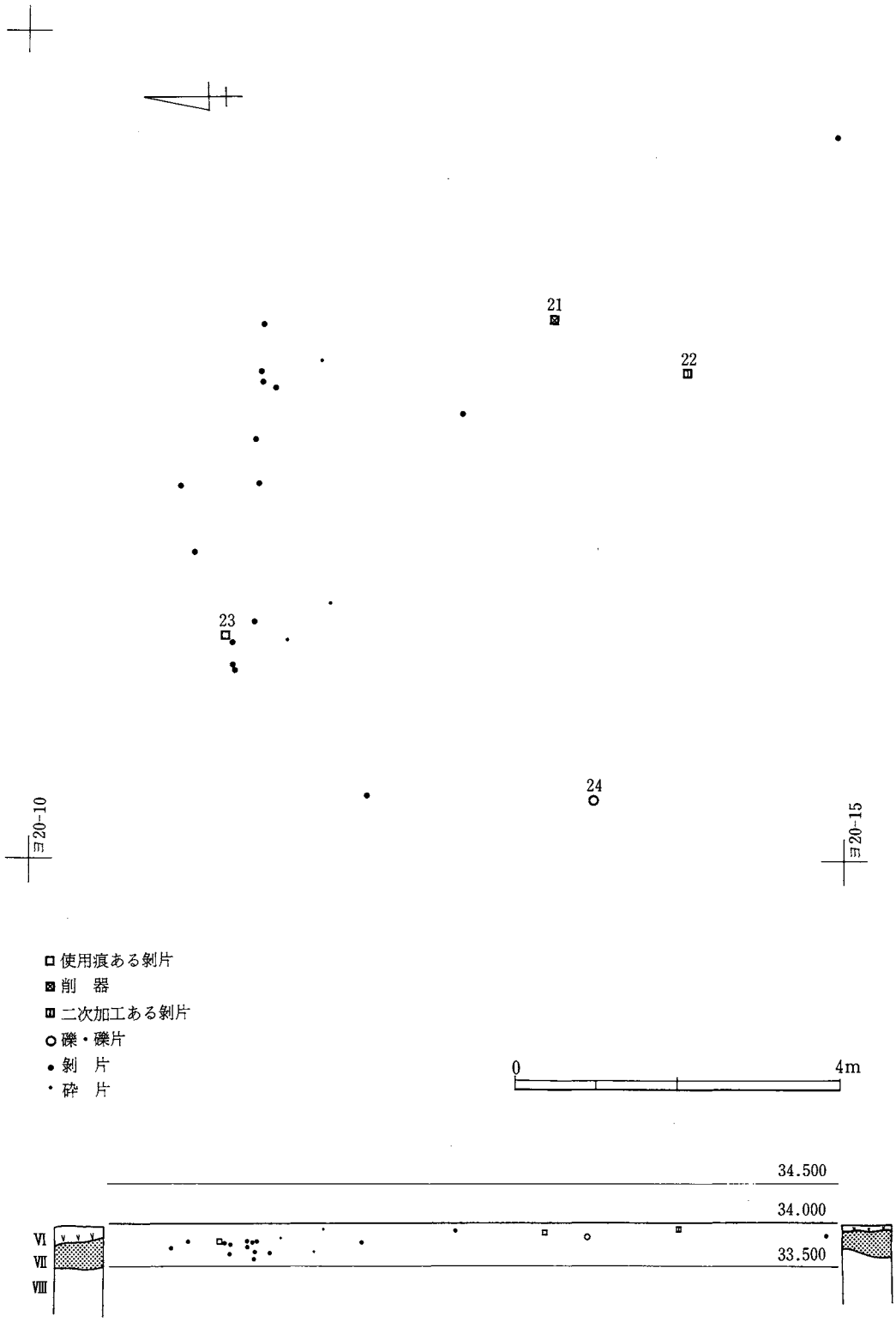

第28図　第６地点No.9・10ブロック遺物出土状況図（1/80）



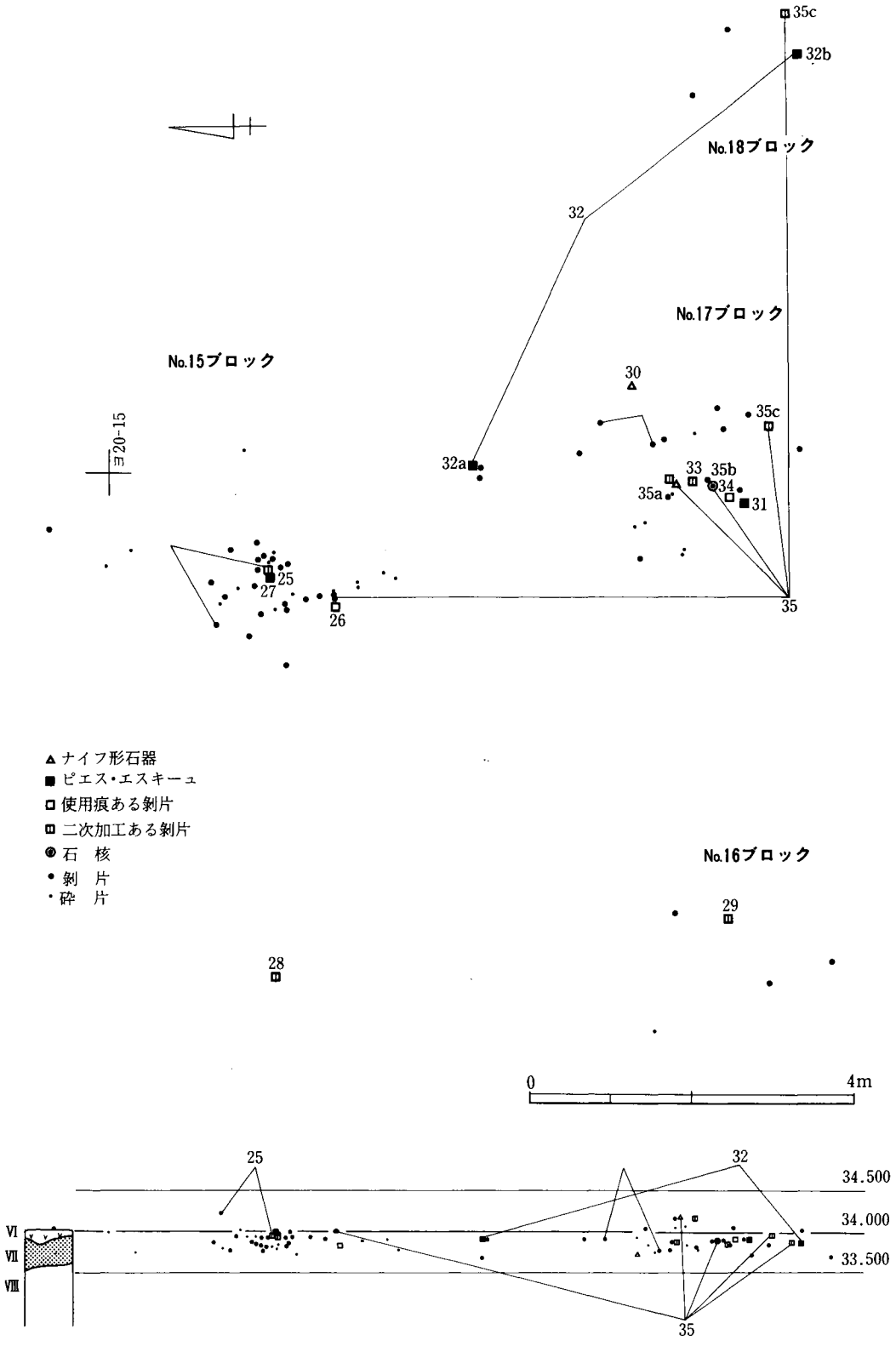

第29図　第６地点№12ブロック遺物出土状況図（1/80）



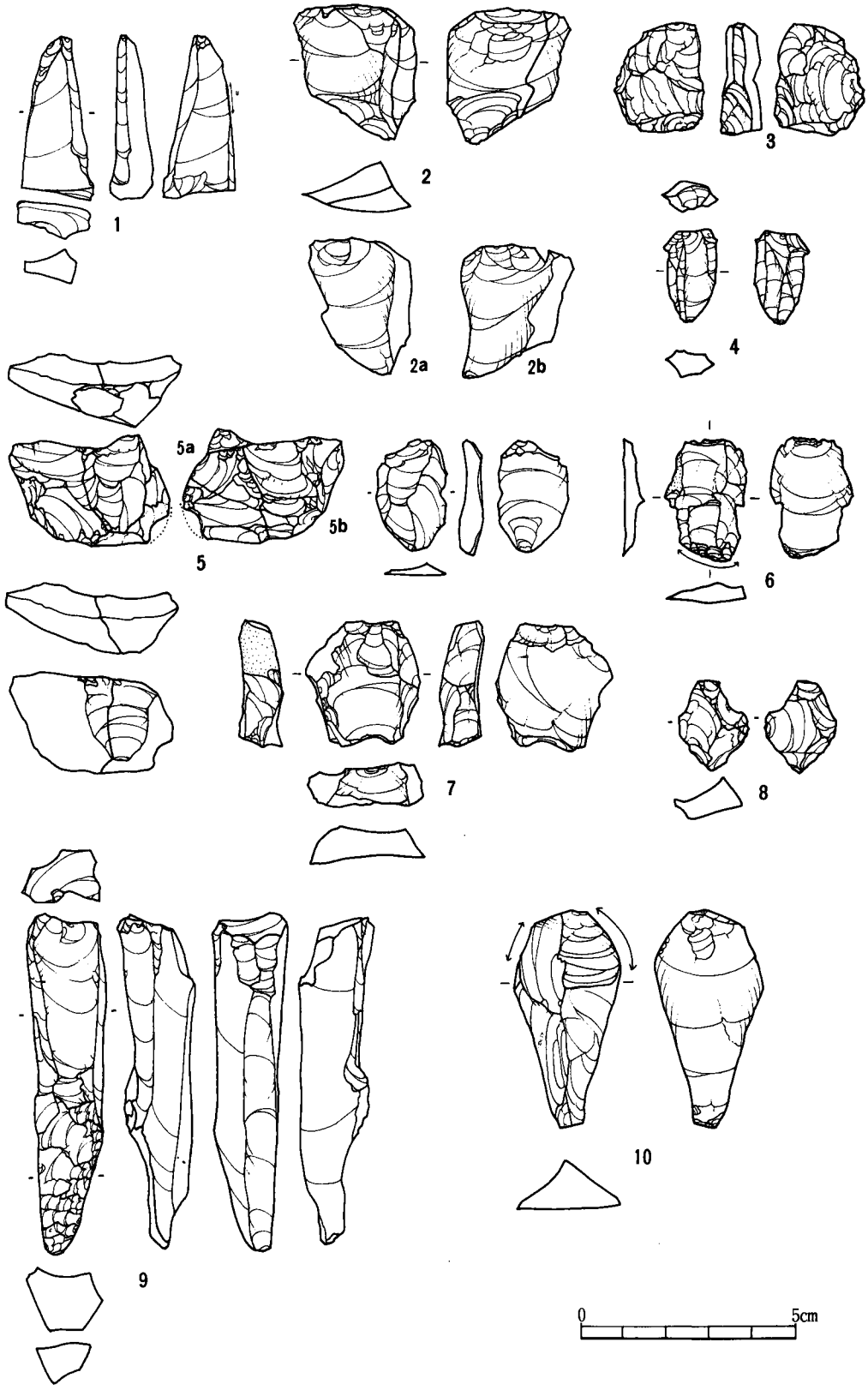

第30図　第６地点№13ブロック遺物出土状況図（1/80）



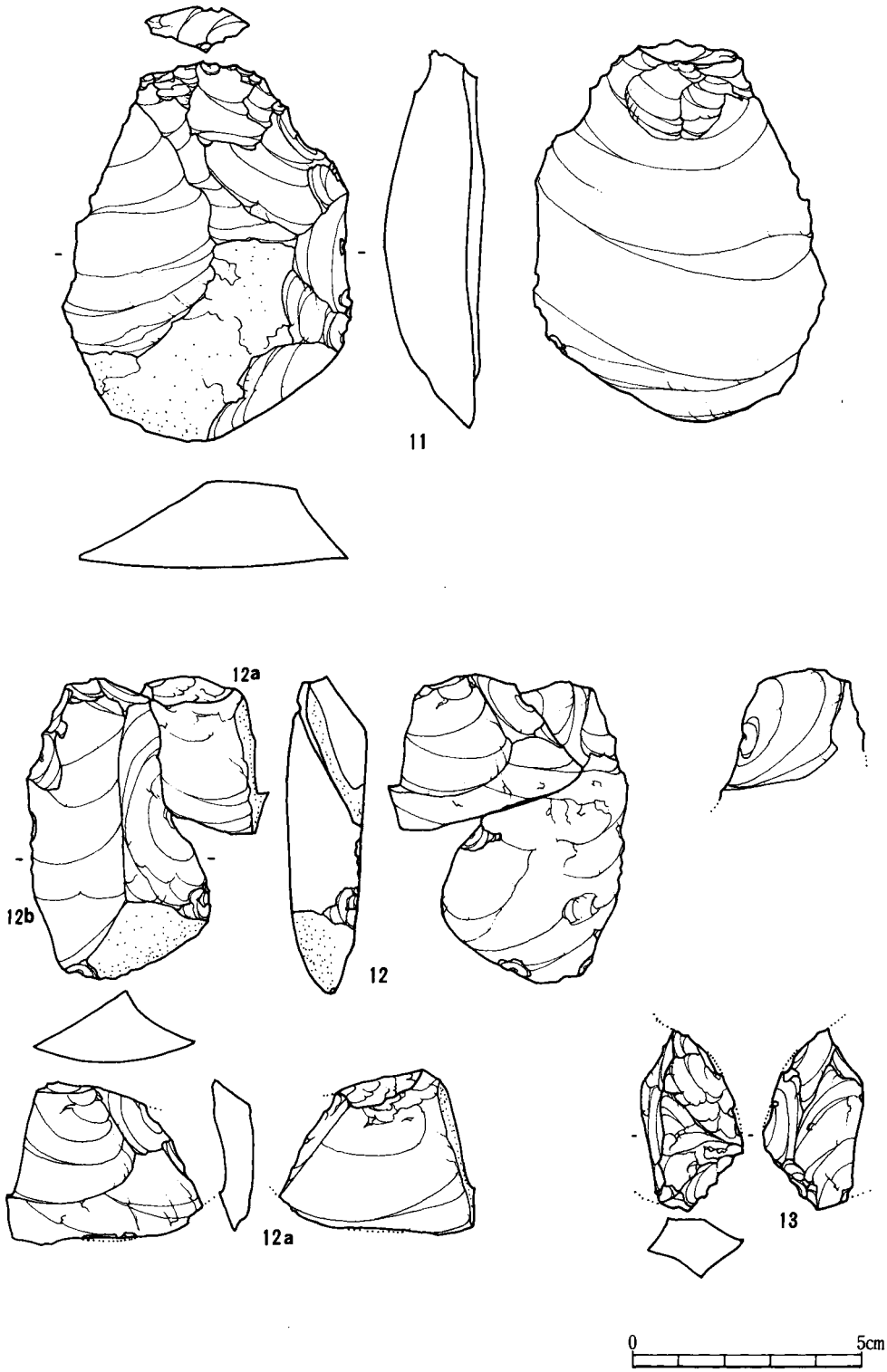

第31図　第６地点№14ブロック遺物出土状況図（1/80）



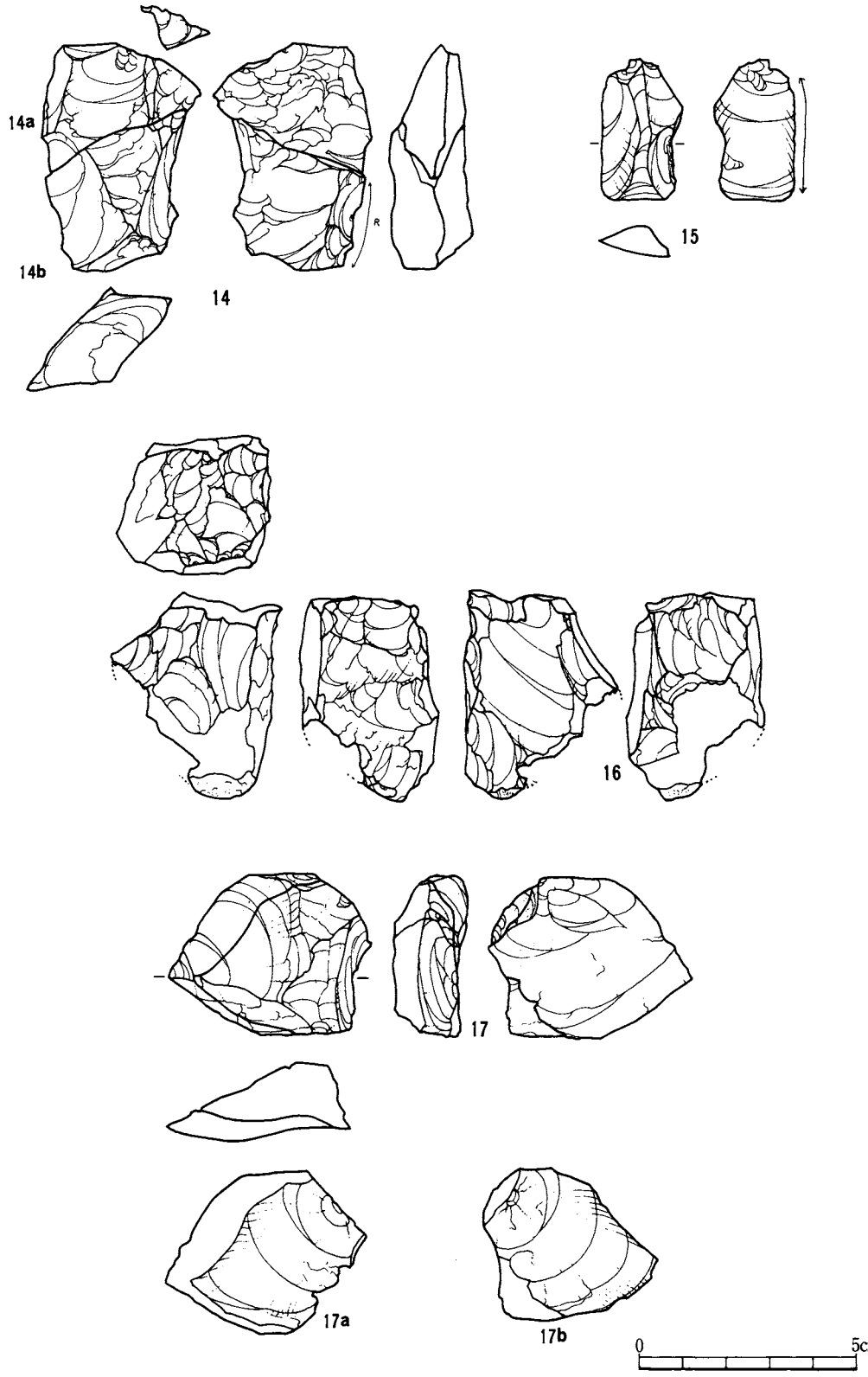

第32図　第６地点No.15～No.18ブロック遺物出土状況図（1/80）



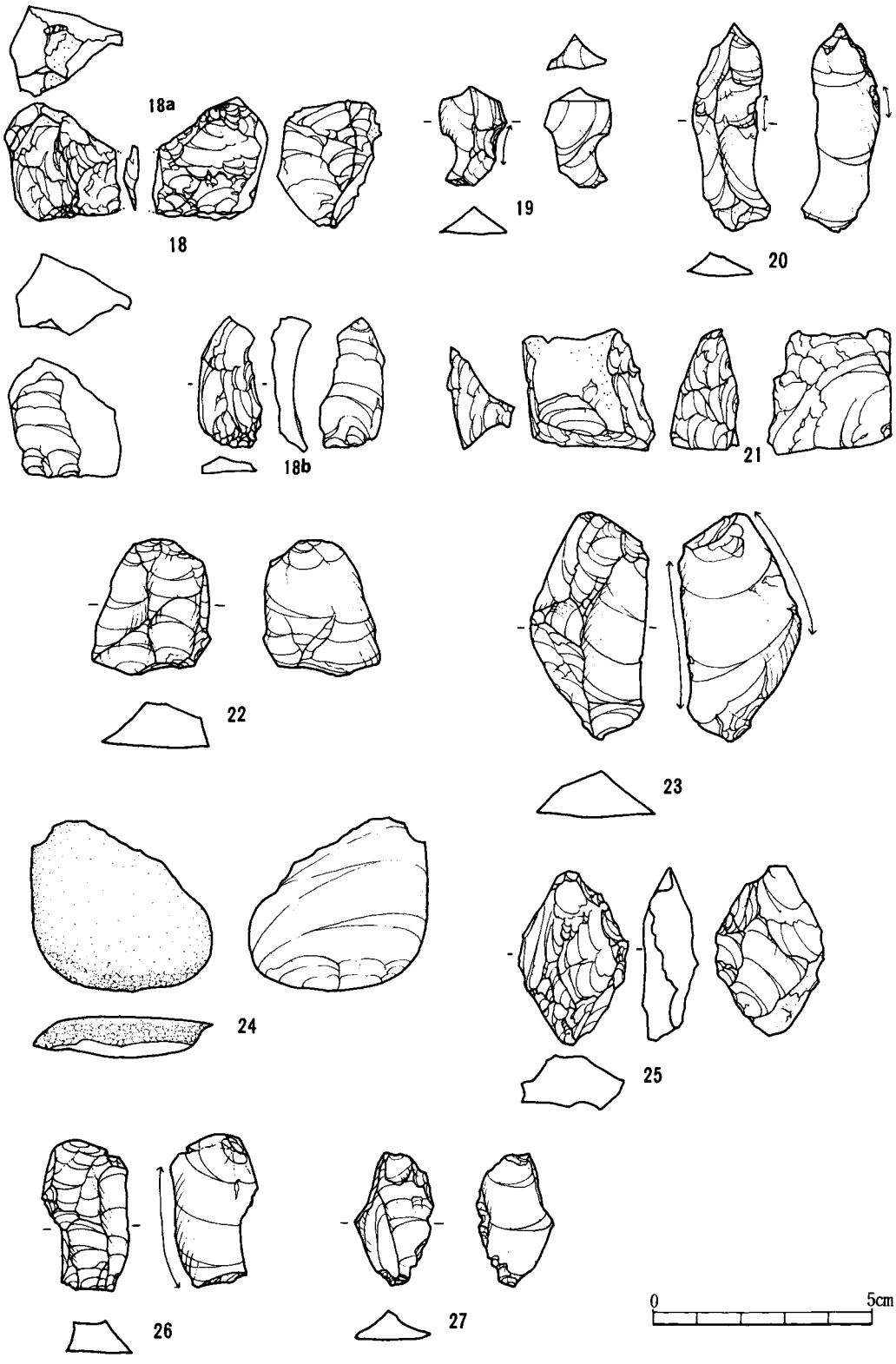

第33図　第６地点出土石器実測図１（2/3）



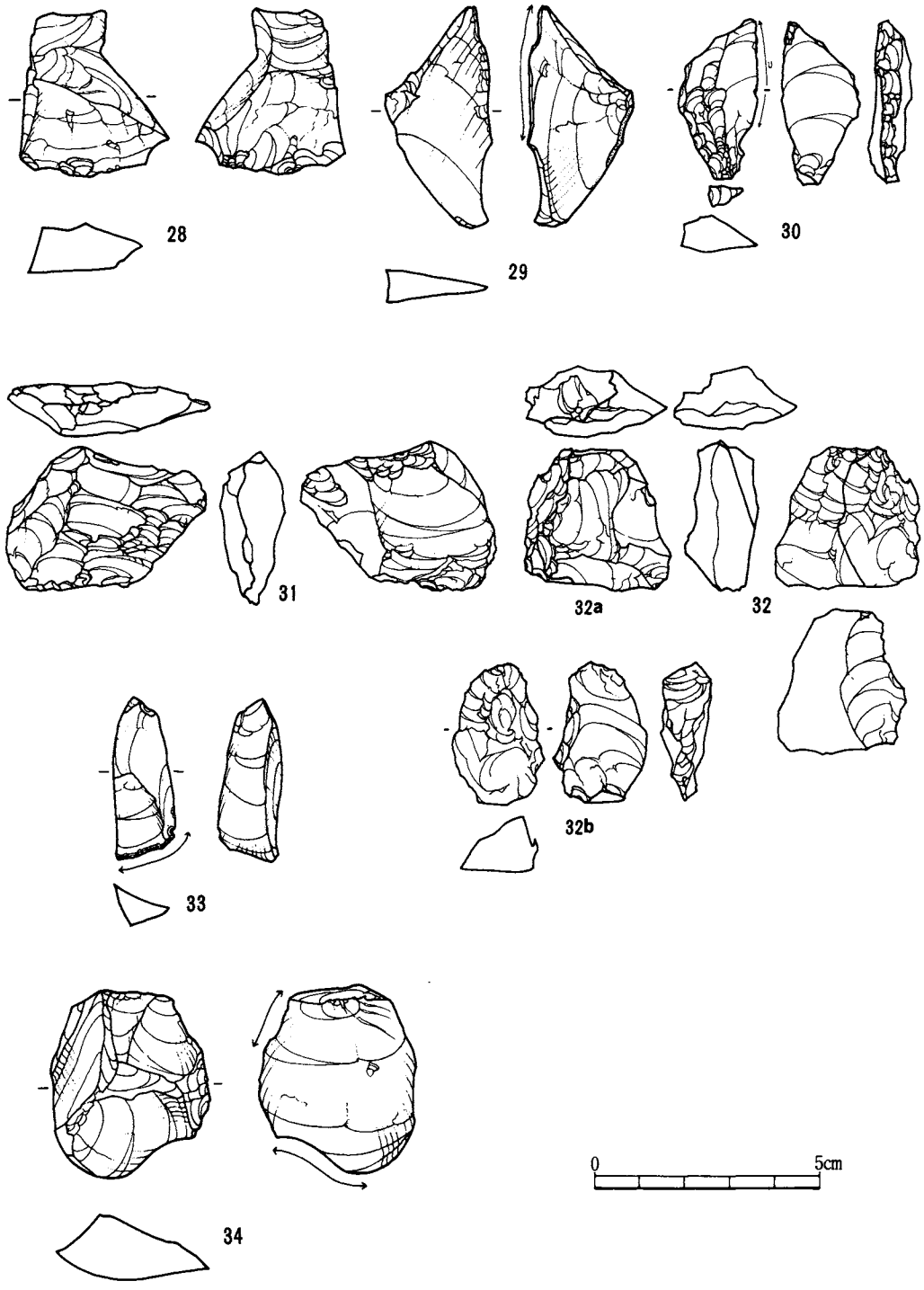

第34図　第６地点出土石器実測図２（2/3）



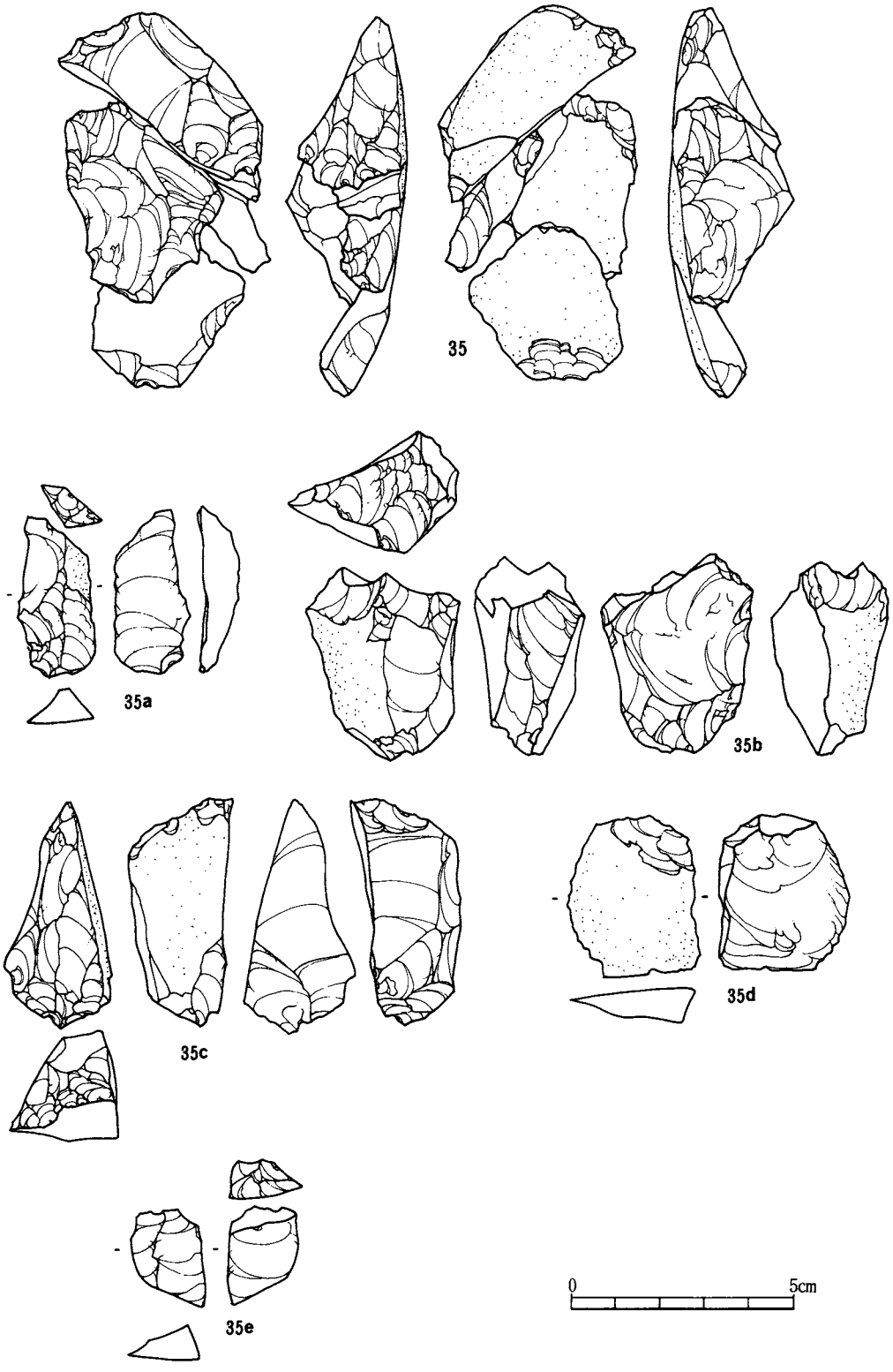

第35図　第６地点出土石器実測図３（2/3）




第36図　第６地点出土石器実測図４（2/3）




第37図　第６地点出土石器実測図５（2/3）




第38図　第６地点出土石器実測図６（2/3）

33は縦長剥片の先端部に使用痕と思われる小剥離痕が顕著に認められるものである。

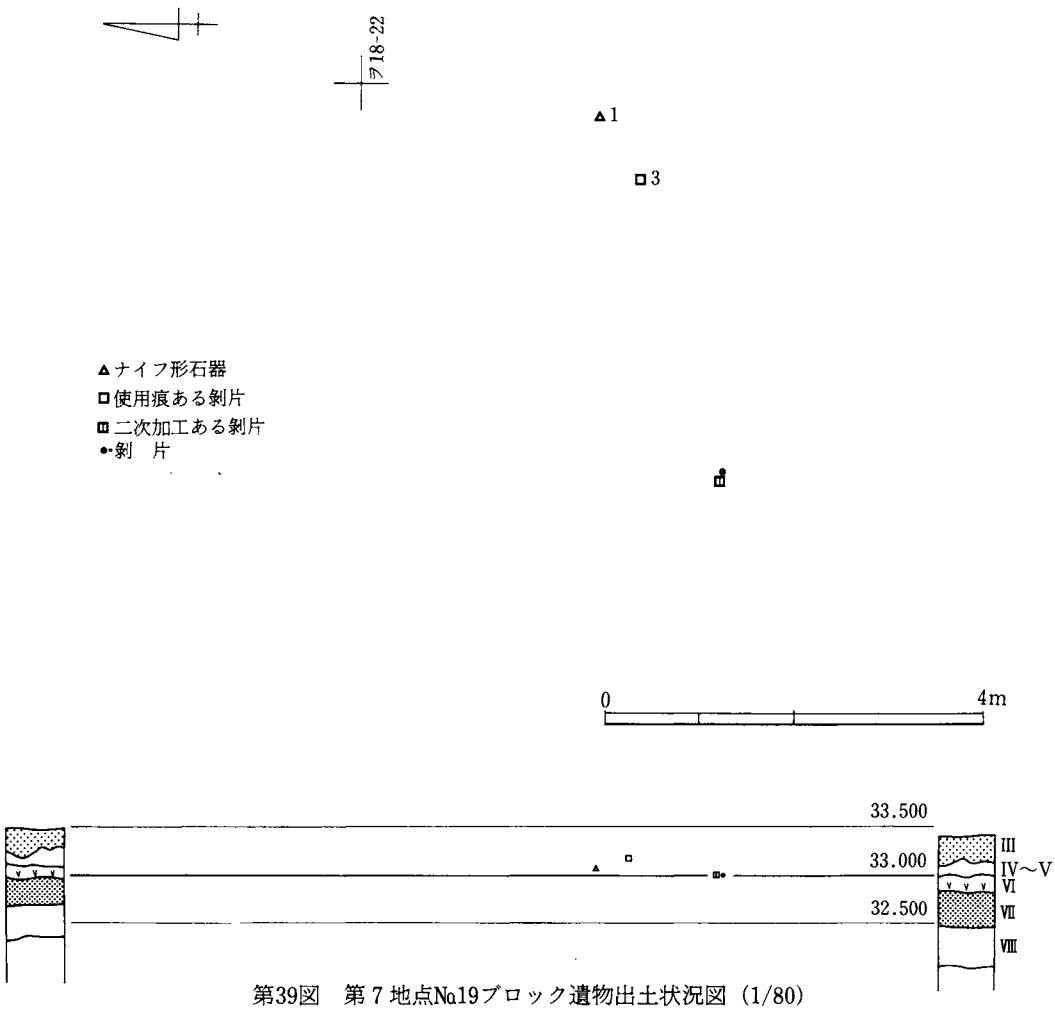
35は、珪質頁岩の接合資料で6点の資料が接合した。その内の2点は、No.15・18ブロック出土のものである。自然面を残すものから推定して10cm前後の偏平な礫を素材として打面を調整しつつ、回転させて次々と打点を転移させつつ比較的幅広の剥片を得たものと思われる。35aはナイフ形石器で縦長の小型の剥片の基部を僅かに調整したものである。

No.18ブロック（第32・38図）

**位置・層位・出土状況**　No.17ブロックの東に位置し、ヨ20-15区に東西1.2m・南北1.4mの範囲に石器群が認められ、これをNo.18ブロックとした。層位はVI層で垂直分布の高低差は最高25cmである。No.17と接合関係を有する。

**遺物**　No.18ブロックの遺物総数は極少なく僅か4点である。石器組成は、2次加工のある剥片1点・使用痕のある剥片1点・剥片2点である。珪質頁岩3点・チャート1点である。

32b・35eといずれもNo.17ブロックとの接合資料である。



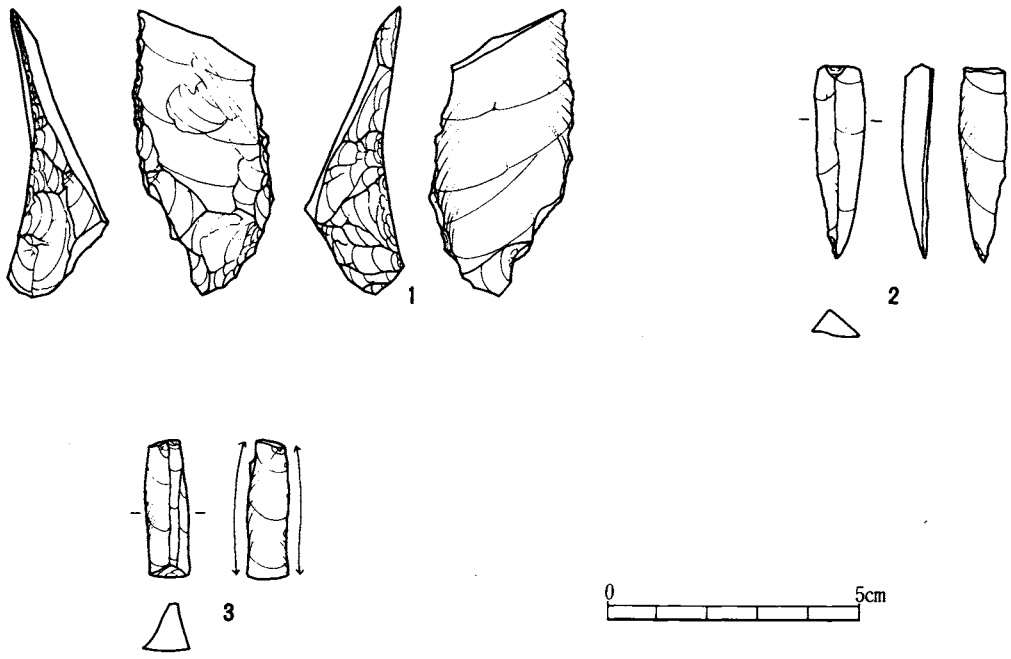

第39図　第7地点No.19ブロック遺物出土状況図（1/80）

第７地点・No.19ブロック（第39・40図　図版24）

**位置・層位・出土状況**　第７地点から第10地点は遺跡北西端の地区で調査されたもので、西側は主谷に臨み、北側はこの主谷から伸びる谷によって画されるやや突出したような台地面の縁辺部である。ヲ18-21区に東西3.6m・南北1.8mの範囲から５点の石器類が検出され、これをNo.19ブロックとした。出土層位は、III層からIV～V層にかけてで25cmの高低差を持つ。

**遺物**　第７地点・No.19ロックの遺物総数は５点と極少ない。No.19ブロックの石器組成は、ナイフ形石器１点・２次加工のある剥片２点・使用痕ある剥片１点・剥片１点である。石材は黒曜石の剥片が１点、ナイフ形石器ほか３点が珪質頁岩である。

１は縦長の大形剥片を折断して先端部を石器基部として使用している。両側片は入念にブランテイングが施される折断面が刃部として使用される。基部はきわめて厚い。２・３は縦長の剥片で、２は先端部に僅かに調整痕が認められ、３は両側縁に使用に伴うと思われる小剥離痕が認められる。

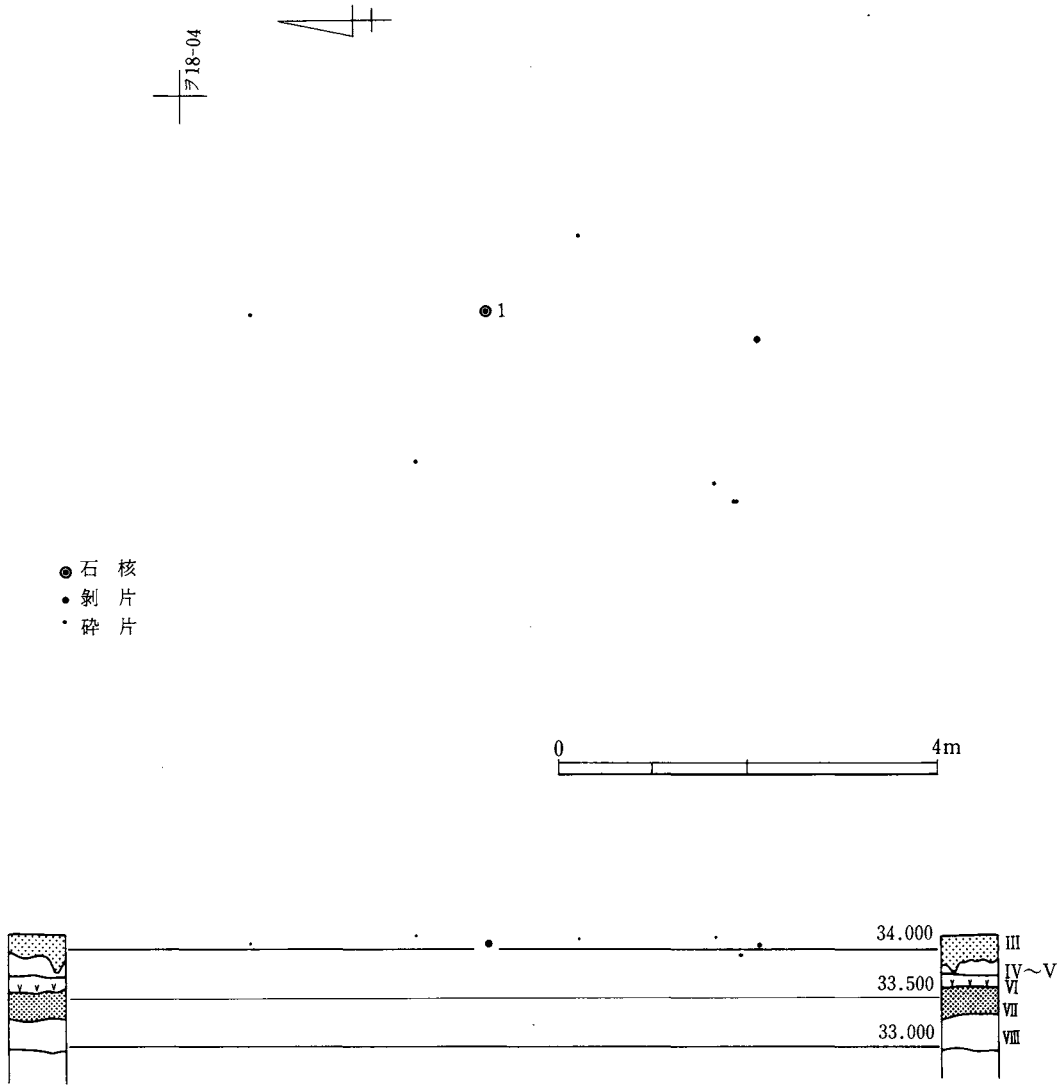



第40図　No.19ブロック出土石器実測図（2/3）

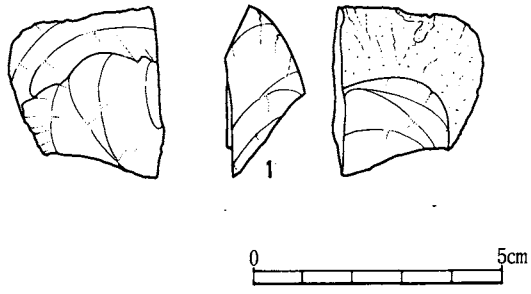
第８地点・No.20ブロック（第41・42図　図版24）

**位置・層位・出土状況**　第７地点の北東30m、ヲ18-03区に東西2.9m・南北5.4mの範囲から８点の石器類が検出され、これをNo.20ブロックとした。出土層位は、III層である。

**遺物**　第８地点・No.20ブロックの遺物総数は８点と極少ない。No.20ブロックの石器組成は、剥片１点・砕片６点・石核１点である。石材は石核が安山岩で他は黒曜石である。



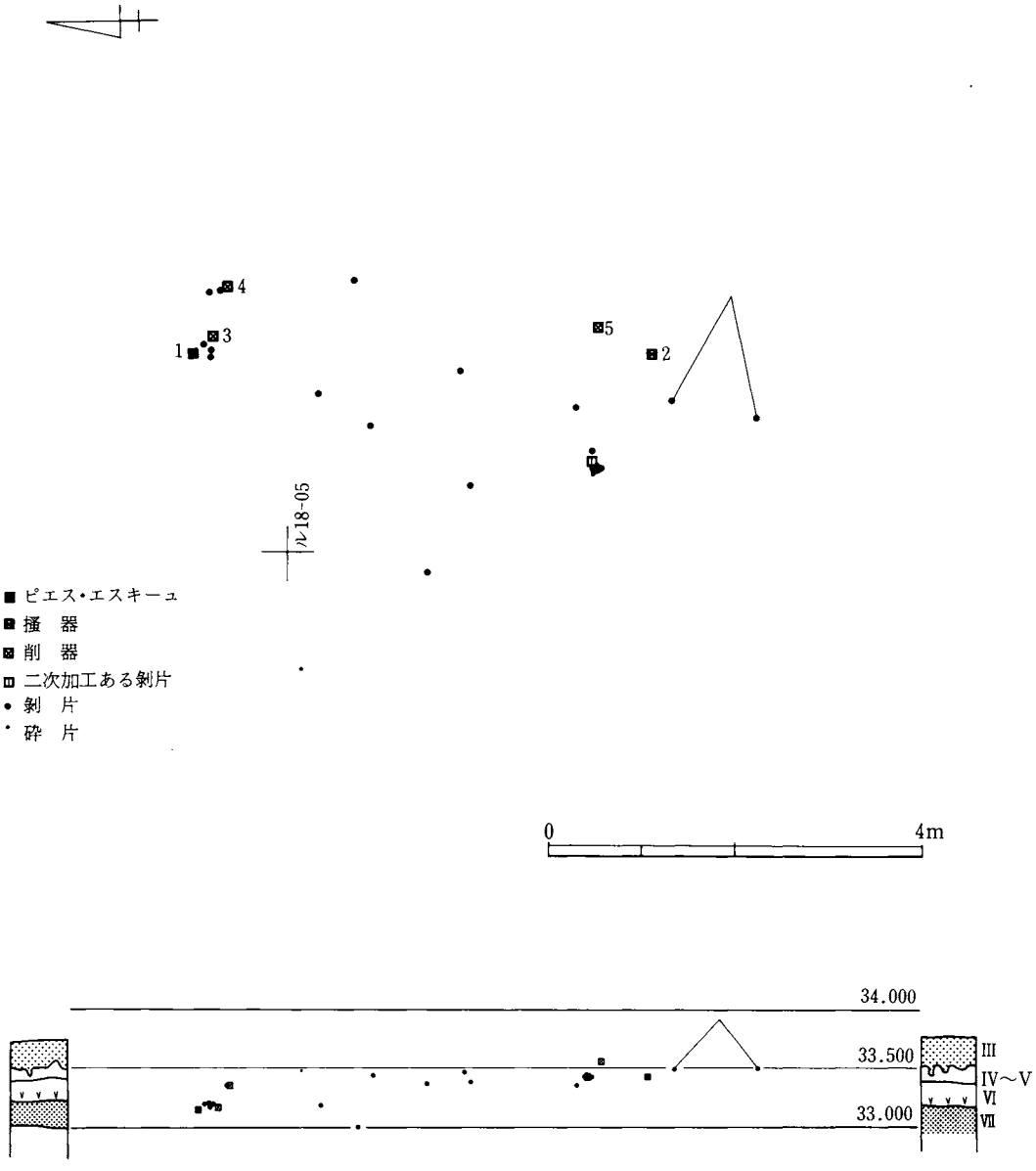

第41図　第８地点№20ブロック遺物出土状況図（1/80）




第42図　№20ブロック出土石器実測図（2/3）

第９地点・№21ブロック（第43・44図　図版24）

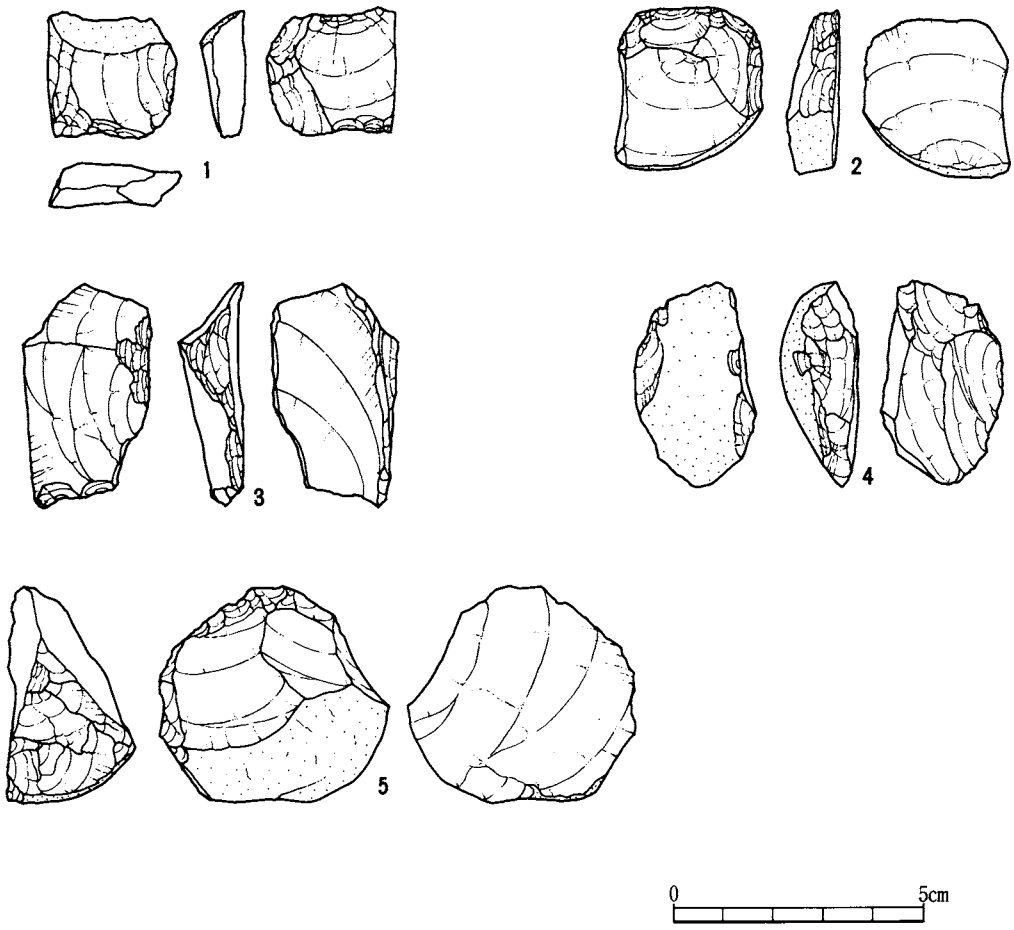
**位置・層位・出土状況**　第８地点の西30m、ル17-25・ル18-04・ル18-05区に東西4.2m・南北6.4mの範囲から29の石器類が検出され、これを№21ブロックとした。出土層位は、IV～V層からVII層にかけてで66cmの高低差を持つ。垂直分布的には北側の部分と南側の部分に分離する傾向を見せるが、主体の安山岩の資料が同一母岩と認められる資料がある。




第43図　第９地点№21ブロック遺物出土状況図（1/80）

**遺物**　第９地点・№21ブロックの遺物総数は29点である。№21ブロックの石器組成は、掻１点・削器３点・ピエス・エスキューユ１点・２次加工のある剝片１点・剝片19点・砕片１点である。石材は２次加工のある剝片・剝片４点・砕片４点が黒曜石で他は安山岩である。

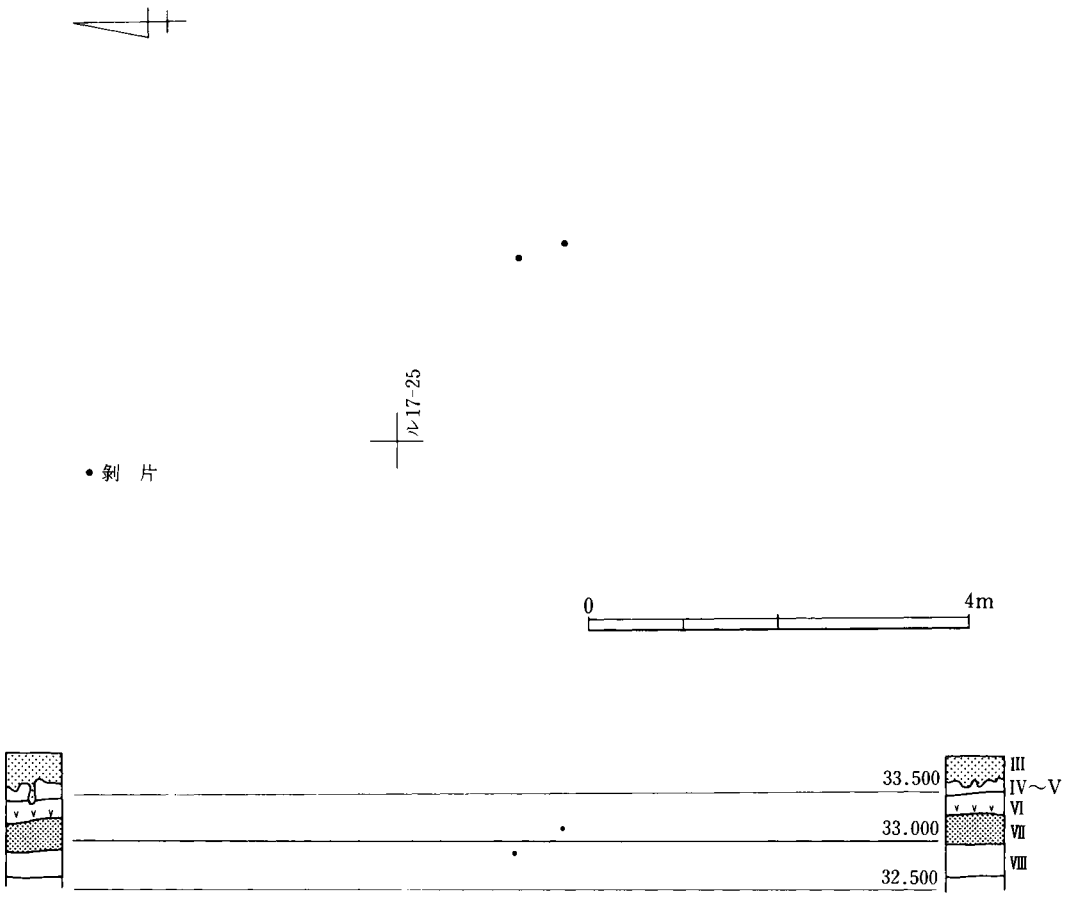
１はピエス・エスキューユで方形の剝片の両端に打撃が加えられる。２は掻器で、方形の剝片の端部をかなり丁寧に調整して刃部が作出される。３～５は削器でいずれも安山岩製である。




第44図　№21ブロック出土石器実測図（2/3）

## 第10地点（第45図）

**位置・層位・出土状況**　第９地点の北５ｍル17-25区から、安山岩と珪質頁岩の剝片２点が出土し拡張調査を実施したが追加資料は得られなかった。層位は第Ⅶ層である。



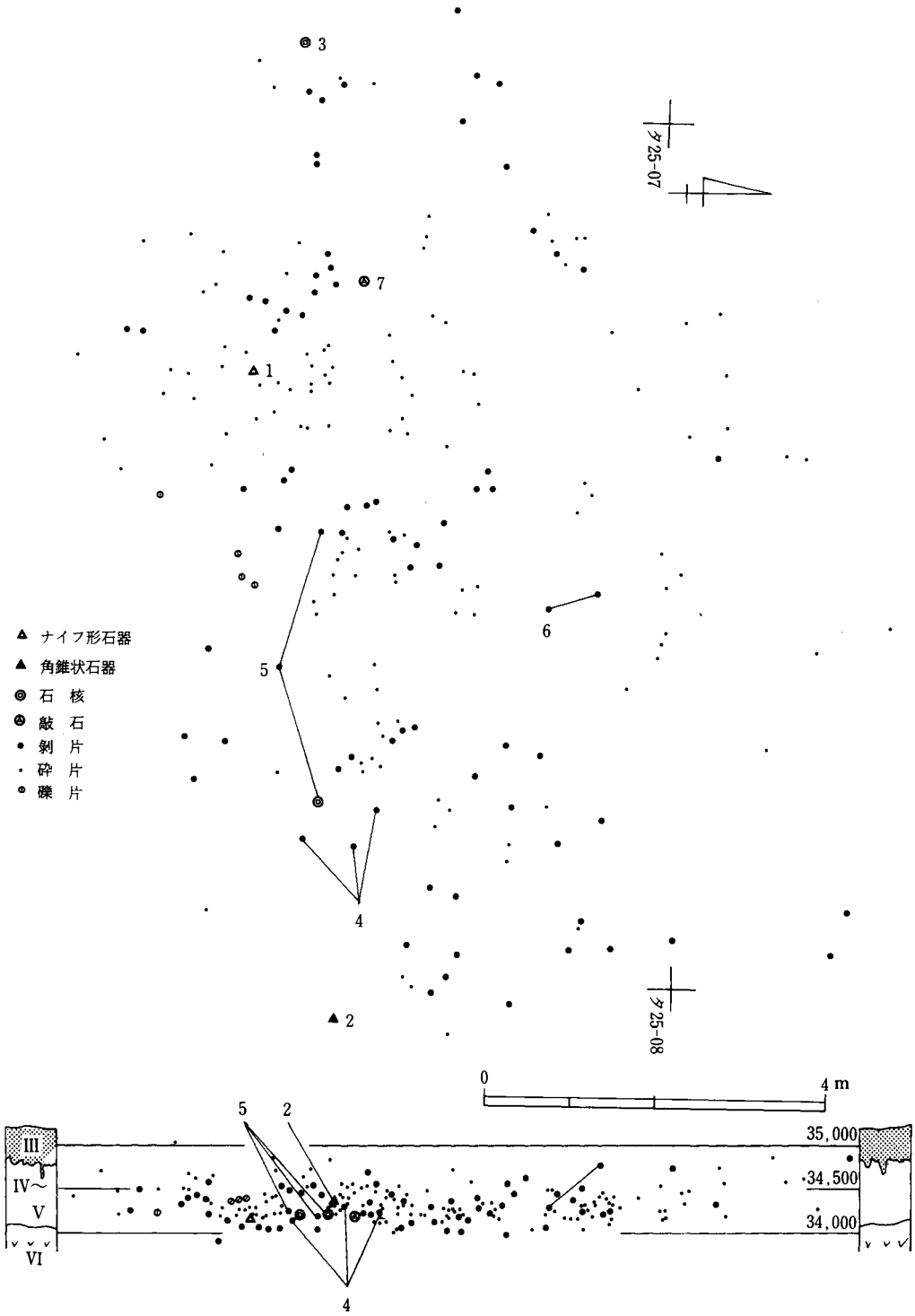

第45図　第10地点遺物出土状況図（1/80）

第11地点・№22ブロック（第47～49図　図版３）

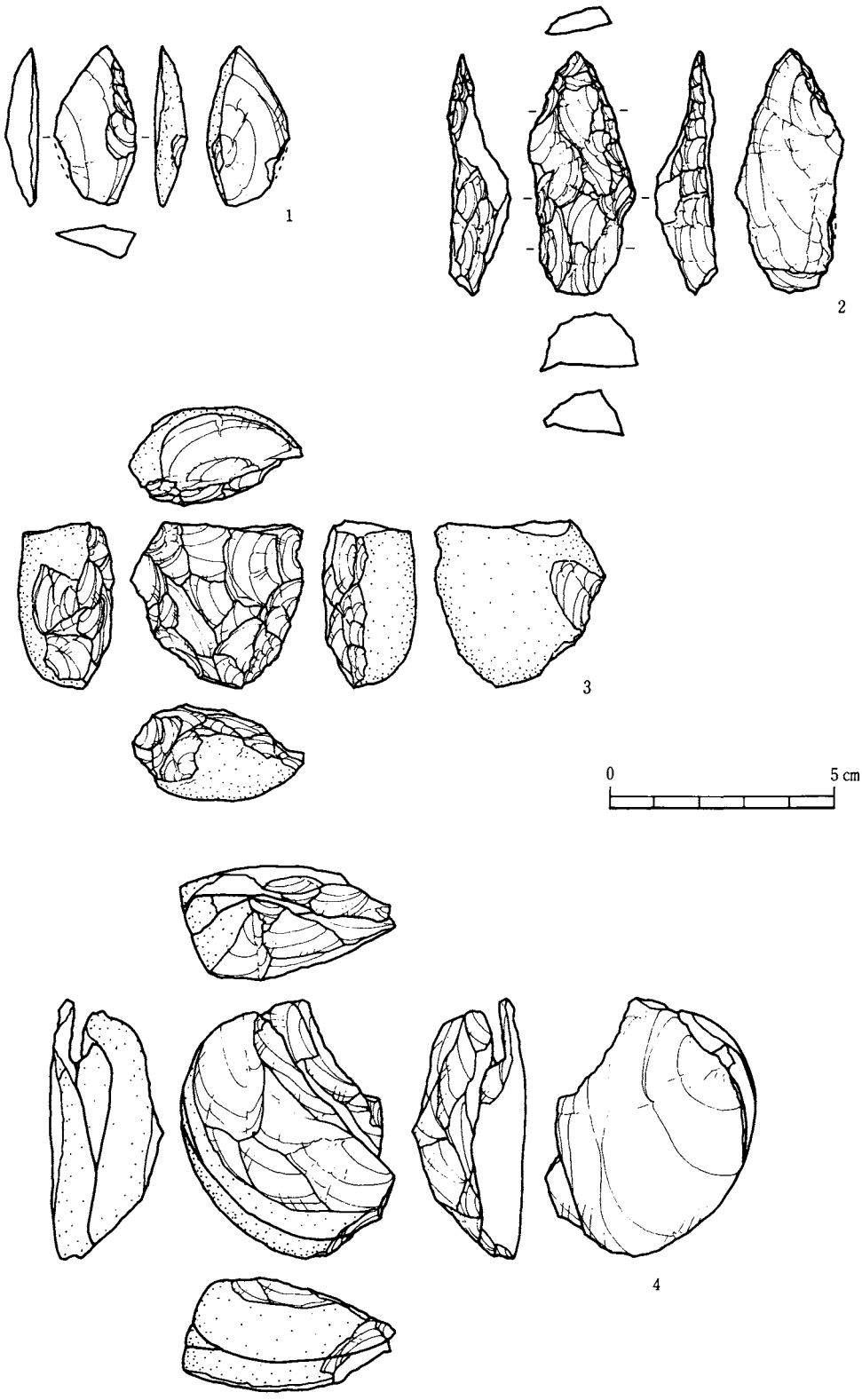
**位置・層位・出土状況**　遺跡の西側から南側を巡る主谷から枝別れした谷に面する遺跡南端の斜面にかかる部分の調査で、グリッドとしてはタ25-07区を中心とした東西12m・南北8.8mの範囲に276点の石器類が検出され、これを№22ブロックとした。出土層位は、II層下部からVI層に及び最高118cmの高低差を持つが、中心的出土層位はIV～V層の下部に集中する。石器類の平面的分布範囲も広く、垂直分布の高低差も大きいが、分布密度・接合関係・石質別分布などからしてこれを分離する傾向は認められなかった。

**遺物**　第22ブロックの遺物総数は276点である。№22ブロックの石器組成は、ナイフ形石器１点・角錐状石器１点・剝片71点・砕片197点・石核２点・敲石１点・礫片４点である。石材は安山岩125点・硬砂岩65点・チャート45点・凝灰岩11点・黒曜石10点である。

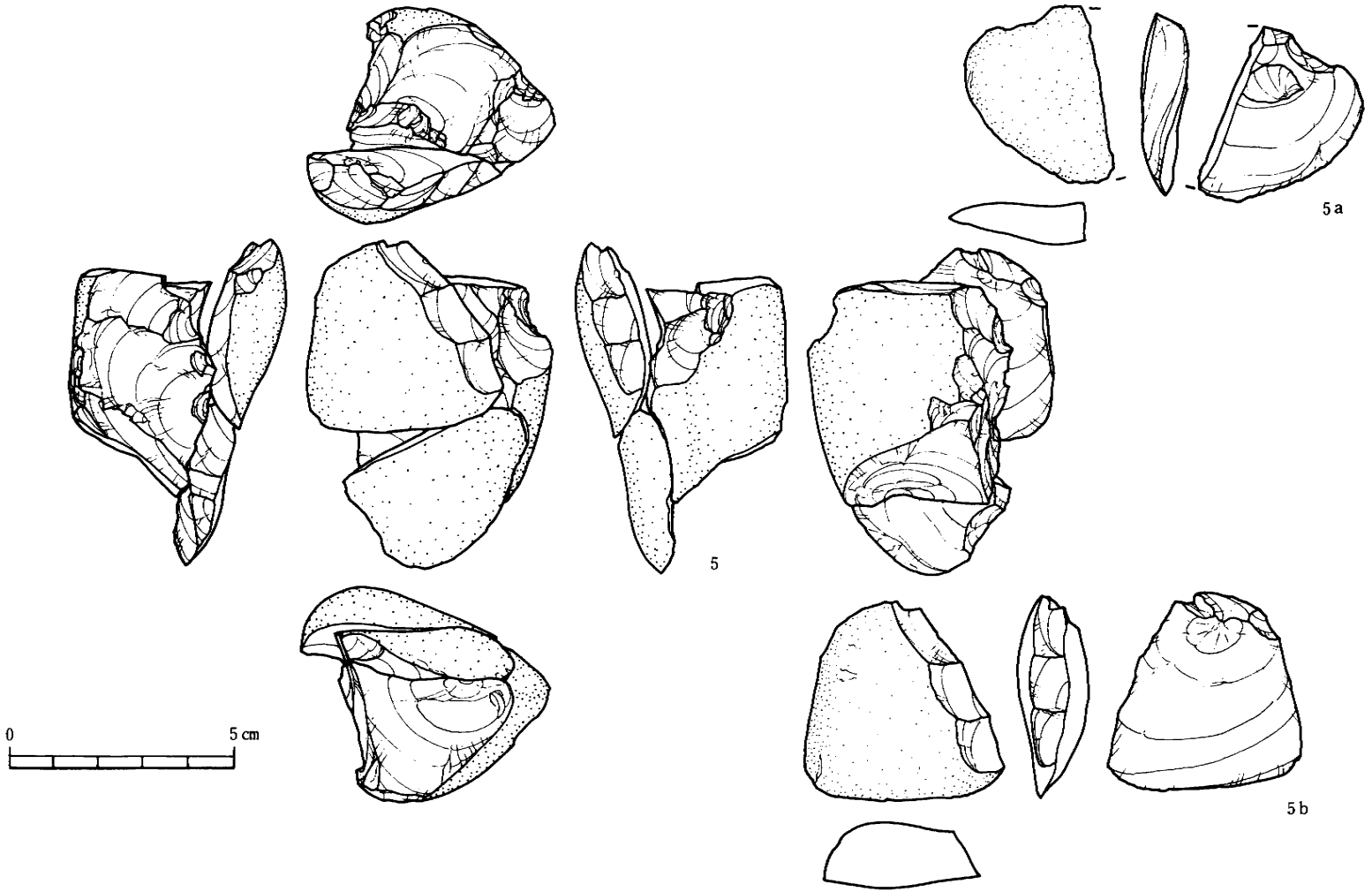
１は自然面を打点にして剝取された横長剝片素材を利用したもので、裏面側縁に僅かに調整剝離が加えられるのみで、ほぼ素材の形状を生かしたものである。安山岩製。



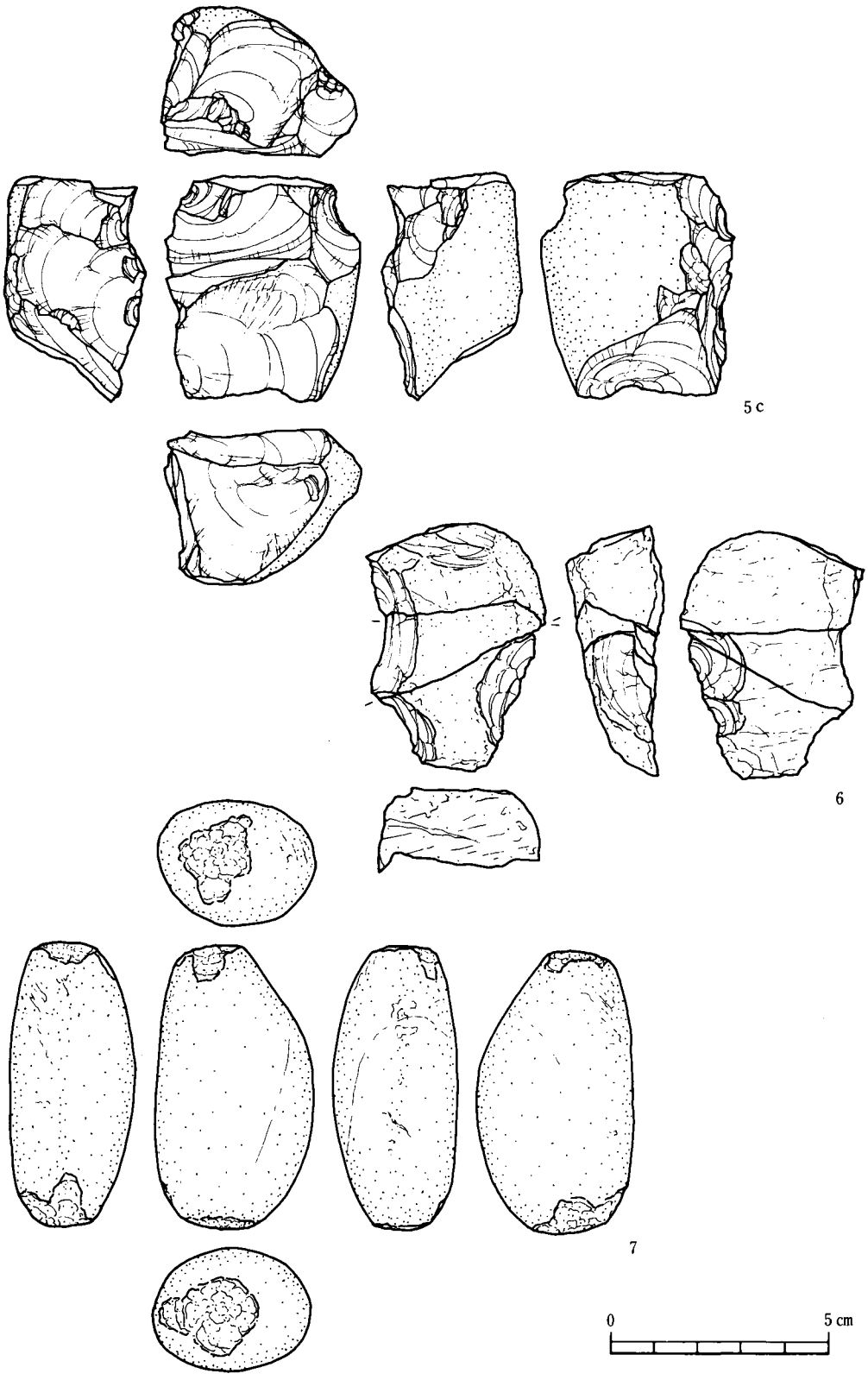

第46図　第11地点№22ブロック遺物出土状況（1/80）




第47図　No.22ブロック出土石器実測図１（2/3）




第48図　№22ブロック出土石器実測図２（2/3）



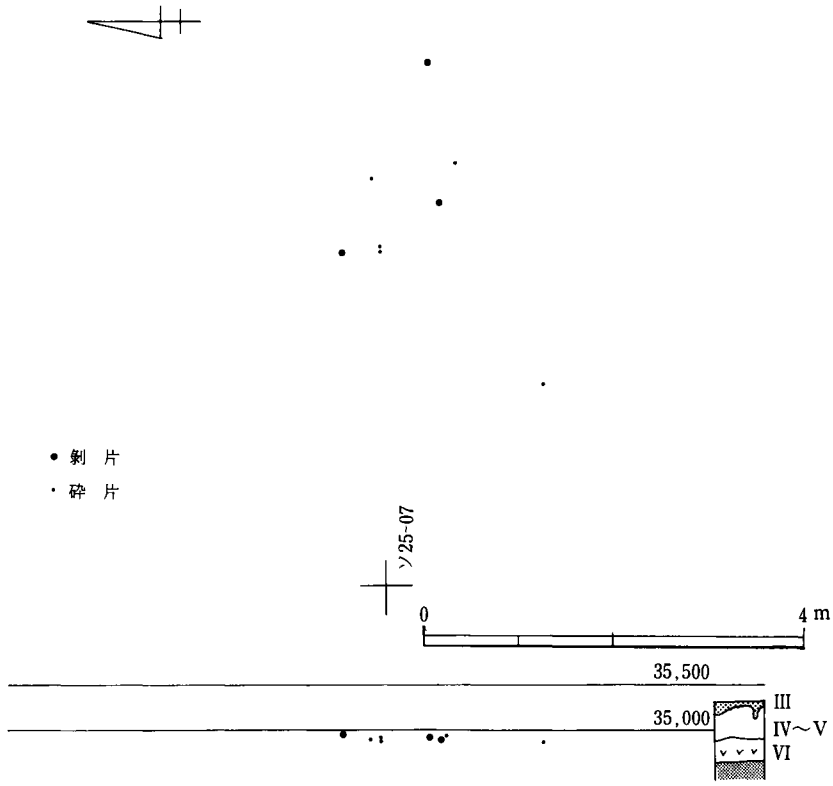

第49図　№22ブロック出土石器実測図３（2/3）

2は身の厚い横剝ぎ剝片を利用し片面のみ周辺からの丁寧な調整剝離を施した、角錐状石器で安山岩製。3は安山岩の石核で卵大の円礫を回転しつつ、礫面を打点として求心的に剝離が行われている。剝取される剝片は小型の剝片になる。4は卵大の円礫から得られた3点の剝片の接合資料で安山岩。5は硬砂岩の石核と剝片の接合資料で、拳大の素材を回転しつつ打面を作出し比較的幅のある剝片が得られている。6はチャートの接合資料であるが、裏面調整の剝離の際に摂理面で割れてしまったもので、剝離作業に伴う接合資料ではない。7は硬砂岩の敲石で上下両面に敲打痕跡が認められる。

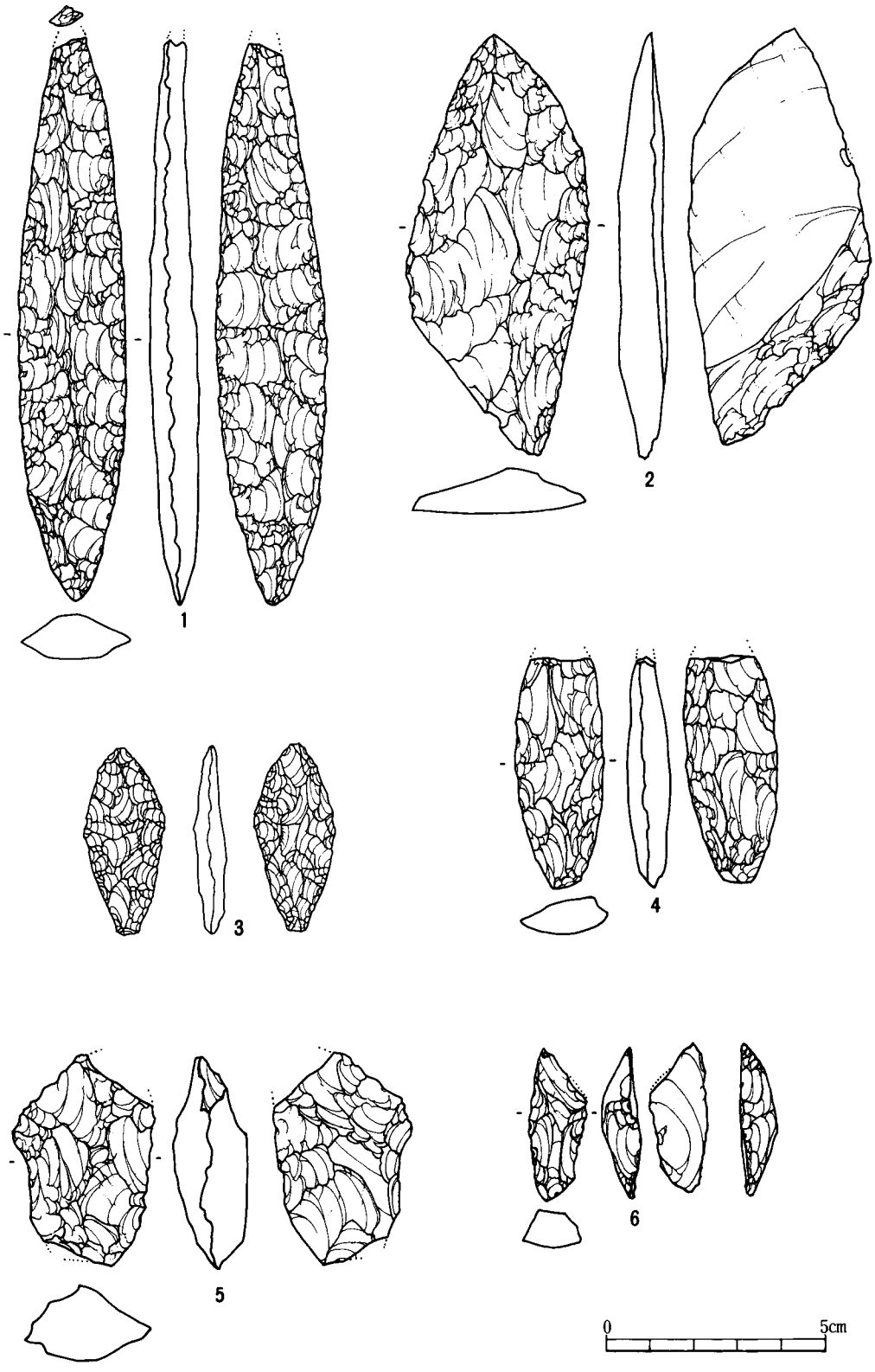
第12地点（第505図）

**位置・層位・出土状況**　第11点の東70mソ25-02・07区から、黒曜石の剝片・砕片合計8点が、検出され、これを№23ブロックとした。東西3.2m・南北2.4mの範囲で検出され、高低差は16cmを計る。層位は第IV～V層下部である。

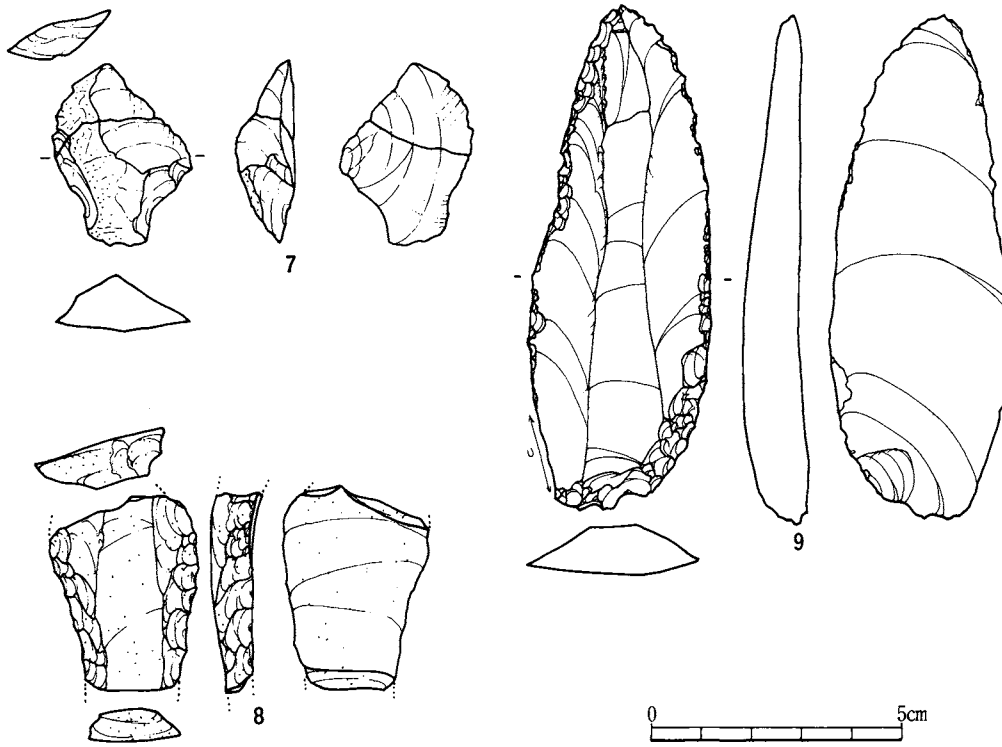
**遺物**　剝片3点・砕片5点いずれも黒曜石である。




第50図　第12地点№23ブロック遺物出土状況図（1/80）




第51図　グリッド出土石器実測図１（2/3）




第52図　グリッド出土石器実測図２（2/3）

## 第2表　第1地点出土石器計測表

| 挿図番号 | 遺物番号 | 器種 | 大きさ(cm) | | | 重量(g) | 石材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 長さ | 幅 | 厚さ | | | |
| 10-1 | 先A-3 | 尖頭器 | 5.00 | 1.88 | 0.83 | 8.18 | 珪質頁岩 | ブロック外 |
| 10-2 | | 尖頭器 | 3.17 | 2.85 | 1.06 | 7.10 | 黒曜石 | No.1ブロック |
| 10-3 | 先A-157 | 尖頭器 | 1.89 | 2.61 | 1.89 | 3.51 | 黒曜石 | No.1ブロック |
| 10-4 | 先A-79 | 削器 | 1.83 | 2.92 | 2.08 | 13.05 | 黒曜石 | No.1ブロック |
| 10-5 | 先A-6 | 削器 | 2.85 | 2.96 | 1.20 | 11.22 | 黒曜石 | ブロック外 |
| 10-6 | 先A-141 | 削器 | 3.75 | 3.00 | 2.80 | 12.44 | 黒曜石 | No.1ブロック |
| 10-7 | 先A-231 | 削器 | 3.66 | 2.87 | 0.97 | 7.65 | 黒曜石 | No.1ブロック |
| 10-8 | 先A-83 | 削器 | 1.49 | 1.55 | 0.68 | 1.47 | 黒曜石 | No.1ブロック |
| 10-9 | 先A-54 | 剝片使用痕 | 2.24 | 2.75 | 0.52 | 2.97 | 珪質頁岩 | ブロック外 |
| 10-10 | 先A-2 | 剝片調整痕 | 2.30 | 3.07 | 0.87 | 4.81 | 珪質頁岩 | ブロック外 |
| 10-11 | 先A-72 | 剝片調整痕 | 2.65 | 2.94 | 2.07 | 15.51 | 黒曜石 | No.1ブロック |
| 10-12 | 先A-102 | 剝片調整痕 | 3.12 | 3.94 | 2.52 | 21.40 | 黒曜石 | No.1ブロック |
| 10-13 | 先A-77 | 石核 | 2.49 | 3.01 | 2.51 | 16.95 | チャート | ブロック外 |
| 10-14 | 先A-101 | 石核 | 2.35 | 3.52 | 2.25 | 17.90 | 黒曜石 | No.1ブロック |

## 第3表　第2地点出土石器計測表

| 挿図番号 | 遺物番号 | 器種 | 大きさ(cm) | | | 重量(g) | 石材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 長さ | 幅 | 厚さ | | | |
| 12-1 | 先B-2 | ナイフ形石器 | 4.12 | 1.86 | 0.73 | 5.30 | 珪質頁岩 | |

## 第4表　第3地点No.2ブロック出土石器計測表(1)

| 挿図番号 | 遺物番号 | 器種 | 大きさ(cm) | | | 重量(g) | 石材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 長さ | 幅 | 厚さ | | | |
| 14-1 | 1ユニ-179 | ナイフ形石器 | 3.99 | 1.32 | 0.80 | 4.57 | 安山岩 | |
| 14-2 | 1ユニ-80 | ナイフ形石器 | 2.25 | 4.34 | 1.59 | 7.98 | 安山岩 | |
| 14-3 | 1ユニ-35 | ナイフ形石器 | 3.39 | 1.70 | 0.62 | 3.86 | 安山岩 | |
| 14-4 | 1ユニ-105 | ナイフ形石器 | 3.54 | 1.60 | 0.80 | 4.43 | 安山岩 | |
| 14-5 | 1ユニ-34 | ナイフ形石器 | 4.50 | 1.58 | 0.87 | 7.06 | 安山岩 | |
| 14-6 | 1ユニ-50 | ナイフ形石器 | 3.49 | 1.75 | 0.74 | 4.17 | 安山岩 | |
| 14-7 | 1ユニ-5 | ナイフ形石器 | 4.45 | 2.70 | 1.29 | 11.17 | 安山岩 | |
| 14-8 | 1ユニ-71 | ナイフ形石器 | 3.60 | 2.28 | 0.67 | 4.58 | 安山岩 | |
| 14-9 | 1ユニ-139 | ナイフ形石器 | 2.12 | 2.78 | 1.16 | 5.47 | 安山岩 | |
| 14-10 | 1ユニ-11 | ナイフ形石器 | 2.54 | 2.16 | 0.80 | 3.34 | 安山岩 | |
| 14-11 | 1ユニ-141 | 削器 | 2.02 | 2.99 | 1.67 | 8.54 | 安山岩 | |
| 14-12 | 1ユニ-153 | 削器 | 3.32 | 1.66 | 1.23 | 5.33 | 安山岩 | |
| 14-13 | 1ユニ-180 | 剝片調整痕 | 3.47 | 2.12 | ..08 | 13.05 | 安山岩 | |

### 第4表　第3地点No.2ブロック出土石器計測表(2)

| 挿図番号 | 遺物番号 | 器種 | 大きさ(cm) | | | 重量(g) | 石材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 長さ | 幅 | 厚さ | | | |
| 15-14 | 1ユニ-102 | 剝片調整痕 | 2.33 | 3.41 | 1.20 | 6.90 | 安山岩 | |
| 15-15 | 1ユニ-9 | 剝片調整痕 | 2.51 | 3.64 | 1.37 | 8.23 | 安山岩 | |
| 15-16 | 1ユニ-21 | 剝片調整痕 | 2.61 | 3.65 | 1.24 | 11.35 | 安山岩 | |
| 15-17 | 1ユニ-25 | 剝片調整痕 | 2.80 | 2.23 | 2.54 | 10.04 | 安山岩 | |
| 15-18a | 1ユニ-29 | 剝片 | 3.88 | 6.26 | 2.00 | 41.89 | 安山岩 | |
| 15-18b | 1ユニ-28 | 剝片 | 4.66 | 3.36 | 1.24 | 25.03 | 安山岩 | |
| 15-19a | 1ユニ-92 | 石核 | 3.55 | 3.14 | 3.10 | 46.75 | 安山岩 | |
| 15-19b | 1ユニ-159 | 剝片 | 1.88 | 3.18 | 0.91 | 4.13 | 安山岩 | |
| 15-19c | 1ユニ-10 | 剝片 | 2.86 | 4.40 | 0.83 | 11.13 | 安山岩 | |
| 15-19d | 1ユニ-54 | 剝片 | 2.86 | 1.83 | 0.77 | 5.95 | 安山岩 | |
| 15-20 | 1ユニ-6 | 礫 | 7.51 | 6.39 | 3.10 | 161.17 | 安山岩 | |
| | 1ユニ-2 | 剝片調整痕 | 0.88 | 2.10 | 1.83 | 1.72 | 安山岩 | |
| | 1ユニ-27 | 剝片調整痕 | 1.95 | 2.27 | 0.66 | 2.36 | 安山岩 | |
| | 1ユニ-45 | 剝片調整痕 | 4.18 | 3.84 | 2.13 | 28.99 | 安山岩 | |

### 第5表　第4地点No.3ブロック出土石器計測表

| 挿図番号 | 遺物番号 | 器種 | 大きさ(cm) | | | 重量(g) | 石材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 長さ | 幅 | 厚さ | | | |
| 19-1 | ヲ21-25-3 | 石核 | 4.63 | 2.45 | 2.59 | 26.90 | 黒曜石 | |
| 19-2 | ヲ21-25-12 | 削器 | 3.39 | 1.32 | 0.54 | 1.46 | 黒曜石 | |

### 第6表　第4地点No.4ブロック出土石器計測表

| 挿図番号 | 遺物番号 | 器種 | 大きさ(cm) | | | 重量(g) | 石材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 長さ | 幅 | 厚さ | | | |
| 21-1 | ヲ22-05-16 | ナイフ形石器 | 6.31 | 2.12 | 1.13 | 15.22 | 安山岩 | ヲ22-04-9と接合 |
| 21-2 | ヲ22-05-14 | ナイフ形石器 | 2.67 | 1.62 | 0.78 | 3.44 | 安山岩 | |
| 21-3 | ヲ22-05-25 | 角錐状石器 | 2.64 | 2.25 | 1.88 | 7.63 | 安山岩 | |
| 21-4 | ヲ22-05-02 | 石核 | 3.12 | 3.75 | 2.52 | 20.87 | 安山岩 | |

### 第7表　第4地点No.5ブロック出土石器計測表(1)

| 挿図番号 | 遺物番号 | 器種 | 大きさ(cm) | | | 重量(g) | 石材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 長さ | 幅 | 厚さ | | | |
| 23-1 | ヲ22-10-02 | 尖頭器 | 2.89 | 3.44 | 0.95 | 8.75 | 安山岩 | ヲ22-04-9と接合 |
| 23-2 | ヲ22-04-25 | ナイフ形石器 | 2.53 | 2.60 | 0.75 | 5.03 | 安山岩 | |
| 23-3 | ヲ22-10-09 | ナイフ形石器 | 4.06 | 2.40 | 1.48 | 6.60 | 安山岩 | |
| 23-4 | ヲ22-09-09 | ナイフ形石器 | 3.33 | 2.61 | 0.92 | 8.17 | 安山岩 | |
| 23-5 | ヲ22-04-17 | ナイフ形石器 | 1.93 | 2.71 | 1.56 | 7.80 | 安山岩 | ヲ22-04-9と接合 |
| 23-6 | ヲ22-10-04 | ナイフ形石器 | 2.47 | 3.20 | 0.80 | 4.05 | 安山岩 | |
| 23-7 | ヲ22-09-08 | ナイフ形石器 | 1.05 | 1.40 | 0.45 | 1.73 | 安山岩 | |

### 第7表　第4地点No.5ブロック出土石器計測表(2)

| 挿図番号 | 遺物番号 | 器種 | 大きさ(cm) | | | 重量(g) | 石材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 長さ | 幅 | 厚さ | | | |
| 23-8 | ヲ22-04-12 | 剝片調整痕 | 2.35 | 1.21 | 0.85 | 1.38 | 安山岩 | |
| 23-9 | ヲ22-10-06 | 剝片調整痕 | 2.72 | 2.59 | 2.12 | 7.83 | 安山岩 | |
| 23-10 | ヲ22-04-22 | 剝片調整痕 | 1.60 | 2.67 | 1.61 | 8.28 | 安山岩 | |
| 23-11 | ヲ22-09-13 | 剝片使用痕 | 2.28 | 3.77 | 2.04 | 9.88 | 安山岩 | |
| 23-12 | ヲ22-10-01 | 剝片使用痕 | 3.31 | 2.60 | 1.40 | 3.80 | 安山岩 | ヲ22-04-9と接合 |
| 24-13a | ヲ22-09-11 | 剝片 | 2.90 | 2.98 | 0.98 | 6.33 | 安山岩 | |
| 24-13b | ヲ22-04-08 | 剝片 | 2.64 | 4.51 | 2.72 | 22.45 | 安山岩 | |
| 24-13c | ヲ22-04-08 | 剝片 | 2.47 | 4.34 | 1.12 | 10.59 | 安山岩 | |
| | ヲ22-04-12 | ナイフ形石器 | 1.23 | 2.14 | 2.93 | 5.88 | 安山岩 | ヲ22-04-9と接合 |
| | ヲ22-09-13 | ナイフ形石器 | 2.12 | 0.78 | 0.61 | 1.10 | 安山岩 | |
| | ヲ22-04-23 | 剝片調整痕 | 1.50 | 2.39 | 0.72 | 2.74 | 安山岩 | |
| | ヲ22-09-02 | 剝片調整痕 | 1.81 | 2.37 | 0.41 | 1.58 | 安山岩 | |

### 第8表　第5地点出土石器計測表

| 挿図番号 | 遺物番号 | 器種 | 大きさ(cm) | | | 重量(g) | 石材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 長さ | 幅 | 厚さ | | | |
| | ヨ23-09 | 剝片 | 1.01 | 2.10 | 0.72 | 0.84 | 珪質頁岩 | |
| | ヨ23-04 | 剝片 | 3.11 | 3.20 | 1.15 | 9.25 | 珪質頁岩 | |

### 第9表　第6地点出土石器計測表(1)

| 挿図番号 | 遺物番号 | 器種 | 大きさ(cm) | | | 重量(g) | 石材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 長さ | 幅 | 厚さ | | | |
| 33-1 | ヨ20-20-33 | 彫刻刀形石器 | 3.63 | 1.44 | 0.94 | 4.97 | 珪質頁岩 | No.6ブロック |
| 33-2a | ヨ20-20-22 | ピエス・エスキーユ | 3.01 | 2.34 | 1.78 | 4.53 | 珪質頁岩 | No.6ブロック |
| 33-2b | ヨ20-20-05 | ピエス・エスキーユ | 3.01 | 2.56 | 0.73 | 4.67 | 珪質頁岩 | No.6ブロック |
| 33-3 | ヨ20-20-09 | ピエス・エスキーユ | 2.47 | 1.95 | 1.55 | 5.66 | 珪質頁岩 | No.6ブロック |
| 33-4 | ヨ20-20-56 | ピエス・エスキーユ | 2.11 | 1.21 | 0.63 | 1.60 | 珪質頁岩 | No.6ブロック |
| 33-5a | ヨ20-20-16 | ピエス・エスキーユ | 2.35 | 2.71 | 1.21 | 6.09 | 珪質頁岩 | No.6ブロック |
| 33-5b | ヨ20-20-15 | ピエス・エスキーユ | 2.08 | 1.92 | 1.25 | 3.88 | 珪質頁岩 | No.6ブロック |
| 33-5c | ヨ20-20-38 | ピエス・エスキーユ | 2.53 | 1.62 | 0.45 | 1.80 | 珪質頁岩 | No.6ブロック |
| 33-6 | ヨ20-20-04 | ピエス・エスキーユ | 2.80 | 1.93 | 5.55 | 2.49 | 珪質頁岩 | No.6ブロック |
| 33-7 | ヨ20-20-13 | 石核 | 2.86 | 2.70 | 0.96 | 9.55 | 珪質頁岩 | No.6ブロック |
| 33-8 | ヨ20-20-21 | 剝片調整痕 | 1.56 | 2.03 | 0.81 | 2.13 | 珪質頁岩 | No.6ブロック |
| 33-9 | ヨ20-25-12 | 石核 | 6.79 | 2.02 | 3.35 | 24.29 | 珪質頁岩 | No.8ブロック |
| 33-10 | タ21-01-18 | 剝片使用痕 | 4.60 | 2.57 | 2.15 | 9.78 | 珪質頁岩 | No.9ブロック |
| 34-11 | ヨ21-05-02 | 剝片調整痕 | 7.90 | 6.70 | 4.81 | 73.18 | 珪質頁岩 | No.9ブロック |
| 34-12a | ヨ20-09-15 | 剝片 | 2.58 | 4.21 | 1.84 | 13.27 | 珪質頁岩 | No.10ブロック |
| 34-12b | ヨ21-05-05 | 剝片調整痕 | 6.45 | 3.80 | 1.67 | 33.00 | 珪質頁岩 | No.10ブロック |

## 第9表　第6地点出土石器計測表(2)

| 挿図番号 | 遺物番号 | 器　　種 | 大きさ(cm) | | | 重量(g) | 石　材 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 長さ | 幅 | 厚さ | | | |
| 34-13 | タ21-01-19 | 剝片調整痕 | 3.89 | 2.43 | 1.09 | 8.73 | 安山岩 | No.10ブロック |
| 34-14a | ヨ20-19-06 | 剝片調整痕 | 3.30 | 3.44 | 0.49 | 11.60 | 珪質頁岩 | No.11ブロック |
| 34-14b | ヨ20-19-07 | 剝片調整痕 | 3.74 | 3.26 | 1.99 | 20.42 | 珪質頁岩 | No.11ブロック |
| 35-15 | ヨ20-13-07 | 剝片使用痕 | 3.23 | 1.90 | 0.67 | 4.06 | メノウ | No.12ブロック |
| 35-16 | ヨ20-18-02 | 石核 | 4.51 | 3.35 | 3.55 | 47.48 | 珪質頁岩 | No.12ブロック |
| 35-17a | ヨ20-13-09 | 剝片 | 4.09 | 3.56 | 0.87 | 11.28 | 珪質頁岩 | No.12ブロック |
| 35-17b | ヨ20-13-02 | 剝片 | 3.09 | 3.82 | 2.62 | 17.87 | 珪質頁岩 | No.12ブロック |
| 36-18a | ヨ20-09-21 | ピエス・エスキーユ | 2.74 | 2.64 | 1.91 | 11.53 | 珪質頁岩 | No.13ブロック |
| 36-18b | ヨ20-09-13 | ピエス・エスキーユ | 2.90 | 1.44 | 0.64 | 2.32 | 珪質頁岩 | No.13ブロック |
| 36-19 | ヨ20-09-21 | 剝片調整痕 | 1.83 | 1.52 | 1.63 | 1.81 | 珪質頁岩 | No.13ブロック |
| 36-20 | ヨ20-09-16 | 剝片使用痕 | 4.27 | 2.63 | 0.62 | 4.04 | チャート | No.13ブロック |
| 36-21 | ヨ20-10-04 | 削器 | 2.70 | 2.82 | 1.41 | 11.83 | 珪質頁岩 | No.14ブロック |
| 36-22 | ヨ20-10-03 | 剝片調整痕 | 3.14 | 2.56 | 1.06 | 8.30 | 珪質頁岩 | No.14ブロック |
| 36-23 | ヨ20-10-17 | 剝片使用痕 | 4.17 | 3.50 | 1.27 | 14.46 | 珪質頁岩 | No.14ブロック |
| 36-24 | ヨ20-10-22 | 敲石 | 3.71 | 4.13 | 0.96 | 12.35 | 砂　岩 | No.14ブロック |
| 36-25 | ヨ20-14-10 | 剝片調整痕 | 2.51 | 3.36 | 1.40 | 10.23 | 珪質頁岩 | No.15ブロック |
| 36-26 | ヨ20-14-49 | 剝片使用痕 | 3.52 | 2.18 | 1.03 | 6.84 | メノウ | No.15ブロック |
| 36-27 | ヨ20-14-11 | ピエス・エスキーユ | 2.99 | 1.70 | 1.05 | 3.92 | メノウ | No.15ブロック |
| 37-28 | ヨ20-14-17 | 剝片調整痕 | 3.00 | 3.74 | 1.15 | 10.67 | 珪質頁岩 | No.15ブロック |
| 37-29 | ヨ20-14-25 | 剝片調整痕 | 2.72 | 4.45 | 0.75 | 6.51 | 珪質頁岩 | No.16ブロック |
| 37-30 | ヨ20-15-20 | ナイフ形石器 | 2.96 | 2.19 | 1.67 | 4.73 | 珪質頁岩 | No.17ブロック |
| 37-31 | ヨ20-14-27 | ピエス・エスキーユ | 3.33 | 4.15 | 1.99 | 13.90 | 珪質頁岩 | No.17ブロック |
| 37-32a | ヨ20-15-13 | ピエス・エスキーユ | 2.67 | 2.83 | 1.36 | 8.76 | チャート | No.17ブロック |
| 37-32b | ヨ20-15-03 | ピエス・エスキーユ | 2.81 | 2.01 | 1.41 | 5.53 | チャート | No.17ブロック |
| 37-33 | ヨ20-14-32 | 剝片調整痕 | 3.47 | 1.43 | 1.01 | 2.78 | 珪質頁岩 | No.17ブロック |
| 37-34 | ヨ20-14-29 | 剝片使用痕 | 3.55 | 3.55 | 1.36 | 17.00 | 珪質頁岩 | No.17ブロック |
| 38-35a | ヨ20-14-33 | ナイフ形石器 | 3.61 | 1.67 | 0.76 | 3.92 | 珪質頁岩 | No.17ブロック |
| 38-35b | ヨ20-14-31 | 石核 | 4.22 | 3.81 | 2.57 | 31.85 | 珪質頁岩 | No.17ブロック |
| 38-35c | ヨ20-15-05 | 剝片調整痕 | 4.98 | 2.27 | 2.33 | 24.80 | 珪質頁岩 | No.17ブロック |
| 38-35d | ヨ20-14-14 | 剝片調整痕 | 3.48 | 2.99 | 0.79 | 9.56 | 珪質頁岩 | No.15ブロック |
| 38-35e | ヨ20-15-02 | 剝片調整痕 | 2.17 | 1.58 | 0.84 | 2.96 | 珪質頁岩 | No.18ブロック |
| | ヨ20-21-01 | 剝片使用痕 | 1.10 | 3.02 | 0.78 | 1.61 | 珪質頁岩 | No.7ブロック |
| | ヨ20-25-06 | 剝片使用痕 | 1.82 | 2.40 | 0.88 | 2.36 | 珪質頁岩 | No.8ブロック |
| | ヨ20-13-10 | 剝片調整痕 | 4.79 | 4.46 | 1.39 | 19.77 | 珪質頁岩 | No.12ブロック |
| | ヨ20-14-39 | 剝片調整痕 | 1.28 | 1.96 | 0.51 | 1.28 | 珪質頁岩 | No.17ブロック |
| | ヨ20-20-67 | 削片 | 2.04 | 0.95 | 0.89 | 1.09 | 珪質頁岩 | No.6ブロック |
| | ヨ20-20-68 | 削片 | 1.18 | 0.86 | 0.35 | 0.46 | 珪質頁岩 | No.6ブロック |

### 第10表　第７地点No.19ブロック出土石器計測表

| 挿図番号 | 遺物番号 | 器　　種 | 大　き　さ(cm) | | | 重 量 (g) | 石　材 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 長さ | 幅 | 厚さ | | | |
| 40-1 | ヲ18-21-67 | ナイフ形石器 | 5.60 | 2.74 | 2.04 | 19.39 | 珪質頁岩 | |
| 40-2 | ヲ18-21-16 | 剥片調整根 | 3.70 | 0.95 | 0.55 | 1.69 | 珪質頁岩 | |
| 40-3 | ヲ18-21-68 | 剥片使用痕 | 2.61 | 1.10 | 0.77 | 2.38 | 珪質頁岩 | |
| | ヲ18-21-70 | 剥片調整痕 | 2.55 | 1.54 | 0.71 | 1.68 | 珪質頁岩 | |

### 第11表　第８地点No.20ブロック出土石器計測表

| 挿図番号 | 遺物番号 | 器　　種 | 大　き　さ(cm) | | | 重 量 (g) | 石　材 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 長さ | 幅 | 厚さ | | | |
| 42-1 | ヲ18-03-71 | 石核 | 2.94 | 3.21 | 1.66 | 14.28 | 安 山 岩 | |

### 第12表　第９地点No.21ブロック出土石器計測表

| 挿図番号 | 遺物番号 | 器　　種 | 大　き　さ(cm) | | | 重 量 (g) | 石　材 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 長さ | 幅 | 厚さ | | | |
| 21-1 | ル17-25-18 | ピエス・エスキーユ | 2.36 | 2.58 | 0.83 | 6.41 | 安 山 岩 | |
| 21-2 | ル18-05-08 | 掻器 | 3.06 | 2.84 | 1.23 | 13.08 | 安 山 岩 | |
| 21-3 | ル17-25-16 | 削器 | 2.61 | 4.36 | 1.08 | 11.97 | 安 山 岩 | |
| 21-4 | ル17-25-14 | 削器 | 3.95 | 2.51 | 1.47 | 14.75 | 安 山 岩 | |
| 21-5 | ル18-05-10 | 削器 | 4.31 | 4.47 | 2.42 | 47.20 | 安 山 岩 | |
| | ル18-05-08 | 剥片調整痕 | 1.46 | 0.87 | 0.22 | 0.25 | 黒 曜 石 | |

### 第13表　第10地点出土石器計測表

| 挿図番号 | 遺物番号 | 器　　種 | 大　き　さ(cm) | | | 重 量 (g) | 石　材 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 長さ | 幅 | 厚さ | | | |
| | ル17-25-01 | 剥片 | 2.68 | 3.51 | 1.26 | 4.23 | 安 山 岩 | |
| | ル17-25-02 | 剥片 | 3.11 | 2.87 | 2.04 | 9.64 | 珪質頁岩 | |

## 第14表　第12地点No.23ブロック出土石器計測表

| 挿図番号 | 遺物番号 | 器　　種 | 大きさ(cm) | | | 重量(g) | 石材 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 長さ | 幅 | 厚さ | | | |
| 47-1 | 先D227 | ナイフ形石器 | 3.62 | 1.81 | 0.69 | 3.15 | 安山岩 | |
| 47-2 | 先D70 | 角錐状石器 | 5.38 | 2.39 | 1.18 | 10.01 | 安山岩 | |
| 47-3 | 先D139 | 石核 | 3.69 | 3.85 | 2.08 | 31.52 | 安山岩 | |
| 47-4 | 先D223 | 剥片 | 5.51 | 2.98 | 1.65 | 26.23 | 安山岩 | |
| 47-4 | 先D207 | 剥片 | 2.67 | 2.75 | 0.75 | 5.32 | 安山岩 | |
| 47-4 | 先D204 | 剥片 | 5.64 | 4,42 | 0.89 | 25.25 | 安山岩 | |
| 48-5a | 先D169 | 剥片 | 3.75 | 4.25 | 0.98 | 11.02 | 硬質砂岩 | |
| 48-5b | 先D248 | 剥片 | 4.43 | 4.51 | 1.55 | 30.04 | 硬質砂岩 | |
| 49-5c | 先208 | 石核 | 4.95 | 4.42 | 3.12 | 94.52 | 硬質砂岩 | |
| 49-6 | 先D20 | 剥片 | 3.51 | 1.89 | 2.15 | 25.32 | チャート | |
| 49-6 | 先D20 | 剥片 | 3.95 | 1.65 | 1.65 | 11.25 | チャート | |
| 49-6 | 先D23 | 剥片 | 3.45 | 2.35 | 1.45 | 8.53 | チャート | |
| 49-7 | 先D193 | 敲石 | 6.35 | 3.61 | 2.89 | 96.05 | 硬質砂岩 | |

## 第2節　縄文時代

向原遺跡の縄文時代に対する調査は、確認調査段階で遺構遺物のきわめて希薄な部分が多かったため遺跡範囲の全面に対して実施されたものではない。しかし、確認調査の方法からして住居跡などの大形の遺構については、遺存していたものについてはほぼ捕捉し得ているものと思われる。ただ土壙等の小形の遺構については、全てとは言えないであろう。特に最終的には調査の対象になった部分が台地縁辺部にほぼ限られる形になったのは、開地性の問題から、居住等の縄文時代の行動が縁辺部に限定されたのか。あるいは、畑耕作などで破壊されてしまったために、台地平坦面部には遺構の確認がされなかったのか遺跡の理解に当たっては留意される点である。

調査の成果としては、炉跡のみ検出のものも含めて住居跡7軒（前期4軒・中期3軒）、土壙として扱うもののうち早期の陥し穴に該当するもの22基、中期の小竪穴に該当するもの4基が遺構としての検出で、他に包含層として調査された土器と石器があり、特に黒曜石片の集中3ヶ所は石鏃の製作跡として認められるものであった。

### A　住居跡

向原遺跡における縄文時代住居跡は、炉跡のみの検出も含めて7軒と調査対象面積に対して多いものではない。分布も台地西縁辺にまとまり、調査区としては18ル・19ヌ区に位置する。

1号住居跡（第53図　図版4）

**検出状況**　19ヌ区に検出され、標高31m弱の台地縁辺の平坦面から斜面に移行する部分に位置する。

**形状・規模**　主軸方位はN－26°－E、平面形は隅丸方形を呈し、長軸3.6m・短軸3.2m、壁高は5～22cmを計る。ただし、南壁はかなり不明確な検出である。

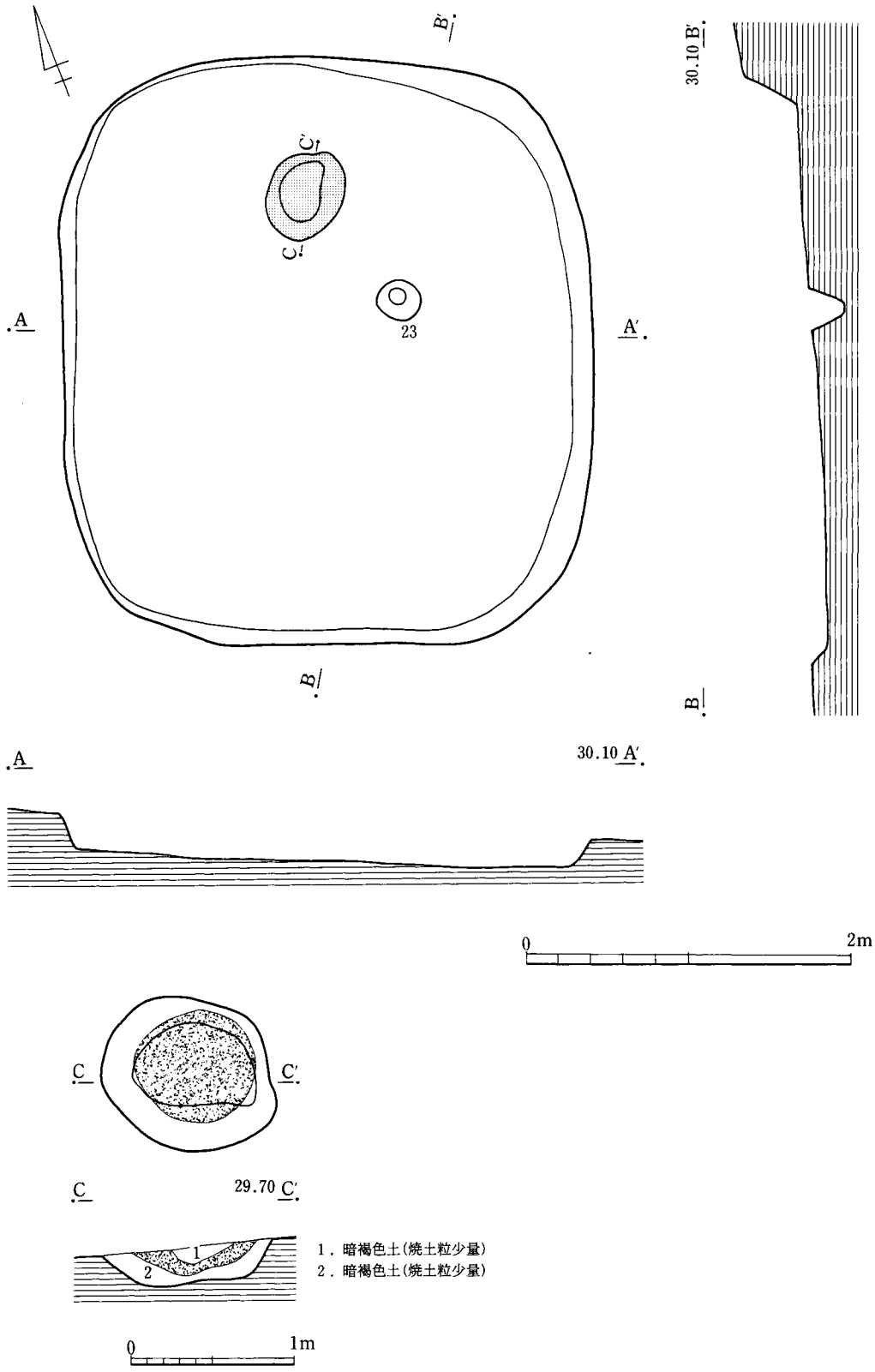
**覆土**　覆土は褐色土で、少量の焼土粒を含む。

**床面**　北側2/3程はハードローム面まで達しており平坦で堅緻であるが、南側はソフトローム面であり明確な床面として検出されたものではない。

**炉**　住居内北側に偏在し、50×45cm・深さ12cmを計る。焼土の量も少なくローム面の焼土化はほとんど認められず、使用期間は短いものと思われる。

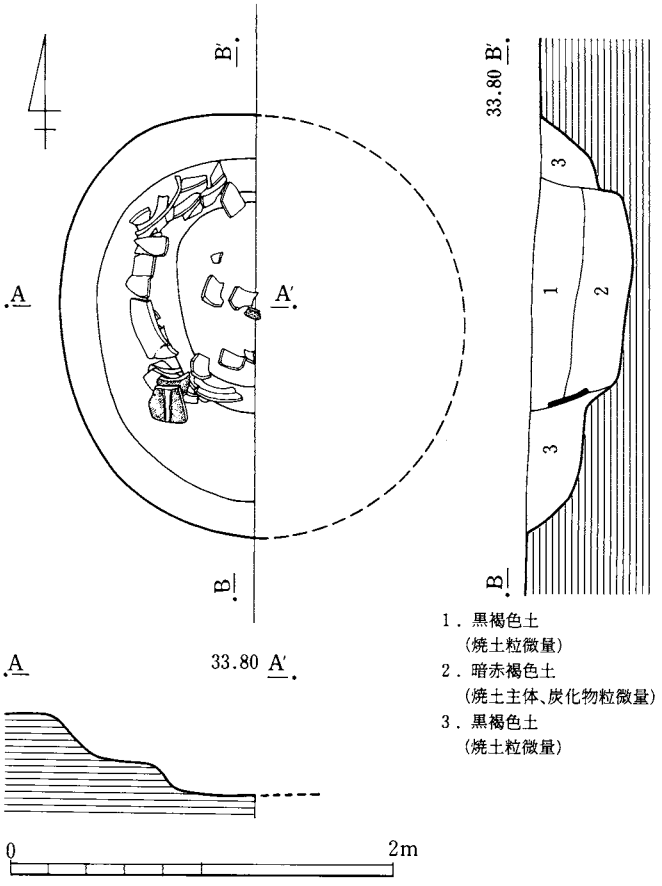
**柱穴**　柱穴と判断できるものは検出されなかった。28×22cm・深さ23cmのピットを住居中央やや東側に偏して検出したが、柱穴とは認めがたい。

**遺物**　遺物は細片が9点検出されたのみで、本住居跡に明確に伴うと判断できる遺物は検出されなかった。土器片は、いずれも縄文施文のみの細片で時期を明確にできるものではないが、周辺の出土遺物等から縄文前期諸磯期の住居跡と考えたい。




第53図　1号住居跡実測図（1/40、炉1/20）

## 2号住居跡（第54・55図　図版4・26）



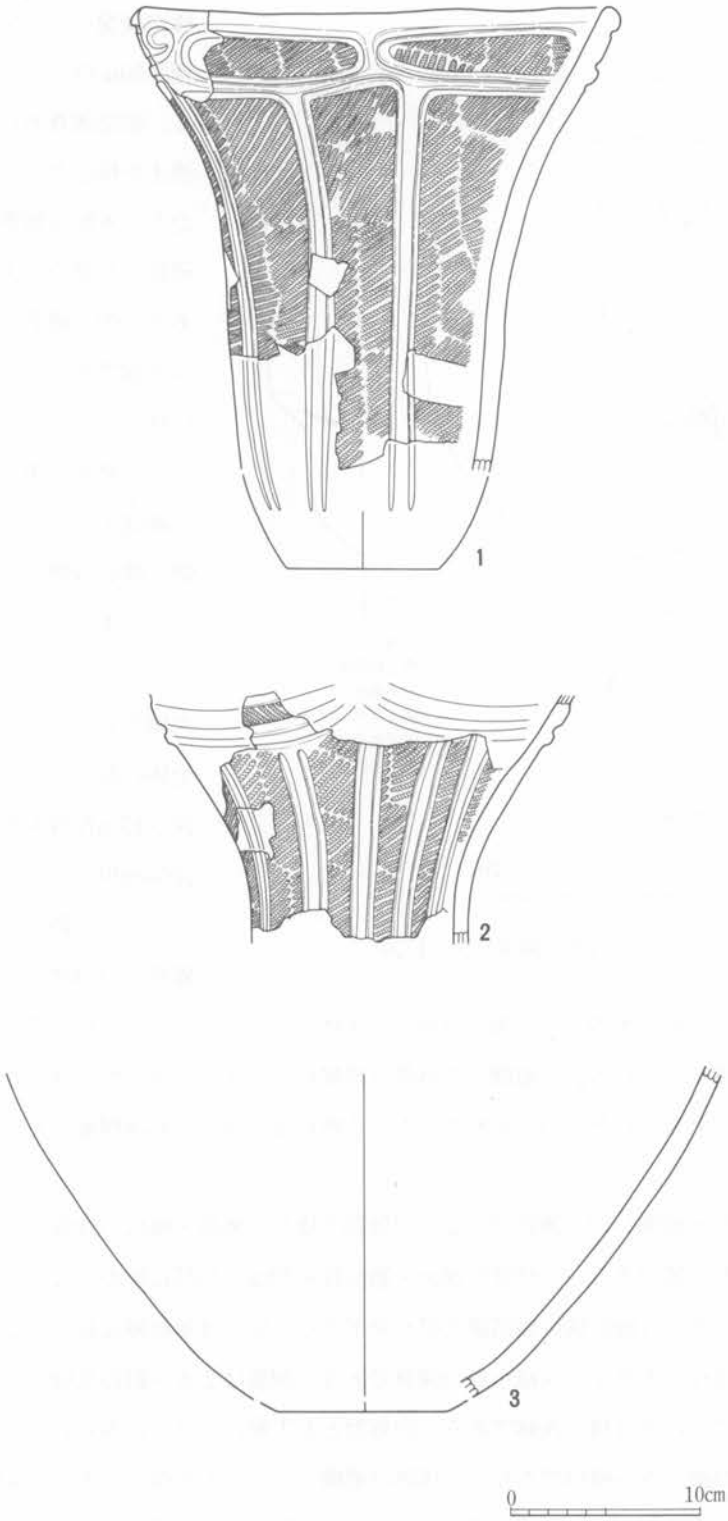

第54図　2号住居炉跡実測図（1/20）

**検出状況**　17ル区に検出され、標高30m強の台地縁辺に位置する。確認調査時に多量の土器・焼土が検出され、精査を実施したところ断面観察により炉跡と確認され調査を実施したものである。炉の確認面はソフトローム上面であり、周辺については住居の落込み、柱穴等を確認するべく精査を実施したがこれらを確認することはできなかった。

**炉**　確認段階で西側半分を掘削してしまったので全形を明らかにすることはできなかったが、東側半分とほぼ同様と思われ、全体の掘り方としては、径110cm深さ15cm程度を有し、この中に径60cm程度の円形に土器片を並べ立てた土器囲い炉である。土器囲いの内側はさらに径50cm深さ10cmの掘り方を有し炉内下半の覆土は焼土を主体としたものである。炉内の底面のロームは火熱を受けて硬化している。土器囲いの外側は黒褐色のわずかに焼土粒の含まれる土層で土器片を立て並べて充塡されたものと判断された。土器片は、10から15cm程度のものが多く3個体の土器片が混在した。

**遺物**　いずれも土器囲い炉の遺物で、1は口縁部文様帯に隆帯と幅広の沈線による楕円区画文を有する深鉢形土器である。口径推定26cm・器高推定29cm。胴部は枠のつながる2本一組の沈線によって区画される幅の狭い磨消縄文帯が垂下する。地文は単節縄文ＲＬ。2は口縁部文様帯下半からの遺存であり1と同様小形の深鉢である。胴部は2本一組の沈線に区画された磨消縄文帯が垂下する。3は無文浅鉢である。内外面とも丁寧にミガキがみられる。

本住居跡は炉跡のみの検出であり、住居跡の遺構としては不明確ではあるが炉跡の確認面がソフトローム上面であることから推測されるようにに掘り込みの浅い住居であることによるものと思われ、時期は炉跡の遺物から縄文中期加曽利Ｅ期と考える。




第55図　2号住居跡出土土器実測図（1/4）

3号住居跡（第56～61図　図版4・26）

**検出状況**　2号住居跡の南東約20m18ル区から18ヲ区にかけての標高34mの台地平坦面に位置する。4号住居跡によって切られ住居全体の約2/3を欠く。

**形状・規模**　主軸方位はN－49°－w、平面形は長方形を呈し、長軸6.2m・短軸4.1m壁高は15cm程度を計る。

**覆土**　覆土は暗黄褐色土で、少量のローム粒を含みしまりがない。

**床面**　4号住居跡に切られ北西側約2/3程を欠く、ソフトローム面で軟弱である。

**炉**　主軸上北西壁から1/6程の位置に検出されたが4号住居跡に切られてほぼ半分を欠く。80×50cm程度と推定され、深さ12cmを計る。ローム面の焼土化はほとんど認めらない。

**柱穴**　3号住居跡に伴うと判断できるものは北西隅に近い2本と北西壁に近い1本南西壁に近い1本で床面からの深さは50～60cm程度で規格的に並ぶものではない。

**遺物**　遺物は1～11の土器と41・42の石器が3号住居跡に伴うものである。1は大形の深鉢で4単位の大きな波状口縁を持ち波状に沿って5条の爪形文が巡り胴部位下の縄文地文とも4条の爪形文で画されこの間も複雑な爪形文によって飾られる。波状部に2個の穿孔が施される。2も深鉢で口縁部は爪形文により文様帯が構成され、胴部以下は縄文によって飾られる。諸磯b式期。

4号住居跡（第56・57・61・62図　図版4・27）

**検出状況**　3号住居跡に重複し3号住居跡を切って構築される。

**形状・規模**　主軸方位はN－45°－w、平面形は隅丸の長方形を呈し、長軸4.3m・短軸4.0m。壁高は30～40cm程度を計り、3号住居跡との床面の差は20～25cmを計る。

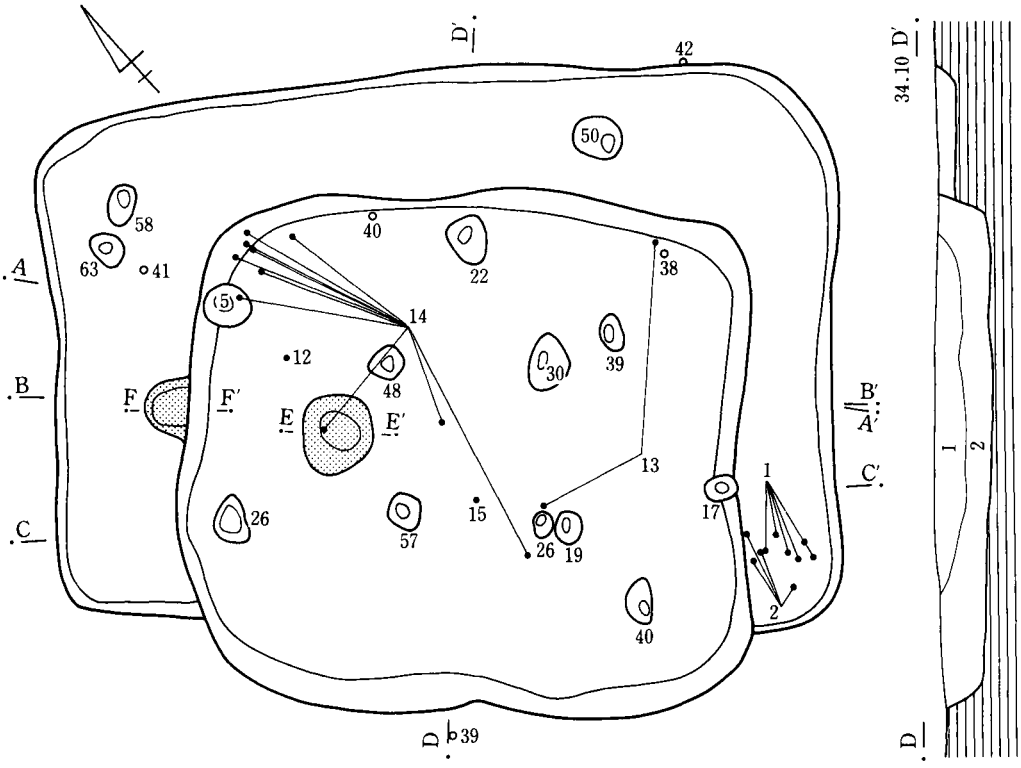
**覆土**　覆土は暗黄褐色土で、覆土上層は黒褐色土。

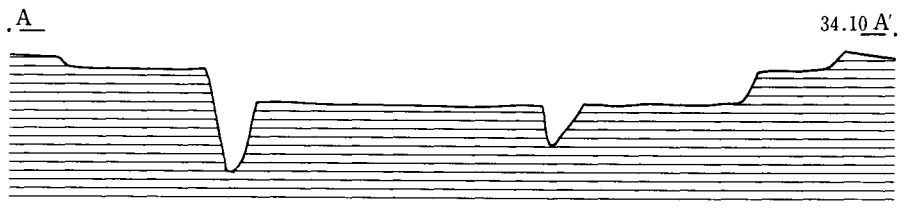
**床面**　ハードローム面で堅緻であるがやや凹凸が認められる。

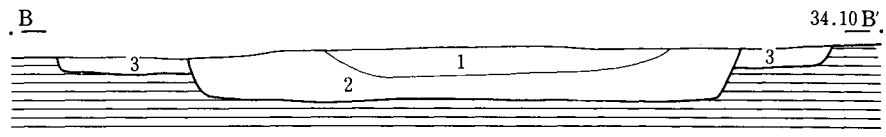
**炉**　主軸上北西壁から1/4程の位置に検出され、60×55cm・深さ12cmを計る。炉内の下半は焼土が充満しロームの焼土化も深い。

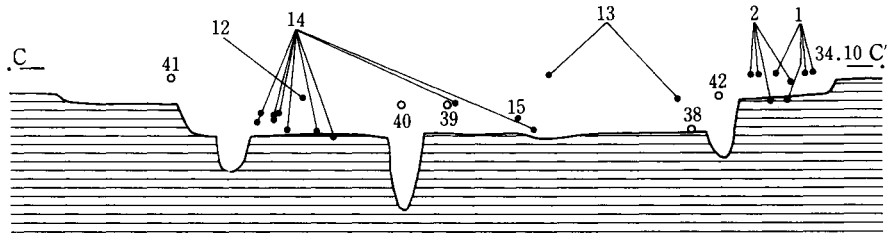
**柱穴**　4号住居跡に伴うと判断できるものは炉の両側の2本で深さも深くしっかりしたものであり柱穴と考えたい。

**遺物**　遺物は12～37の土器と38～40の石器が4号住居跡に伴うものである。12は胴部に最大形を持つは平縁の大形の深鉢で口唇からS字条結節文が垂下する。13は爪形文が横走する深鉢。14は半裁竹管による平行沈線で上下を区画しその中に同様な工具で山形波状文を描く浅鉢で推定口径20cm・器高13cm。15は深鉢で2本1単位の横走する沈線によって区画した中に2本一組2条による山形波状を基本とした文様を描く。16は爪形による木の葉文を描く楕円形の浅鉢。推定口径25×18cm・器高14cm。諸磯b式期。

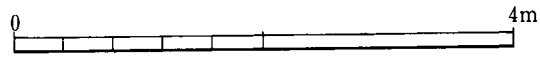


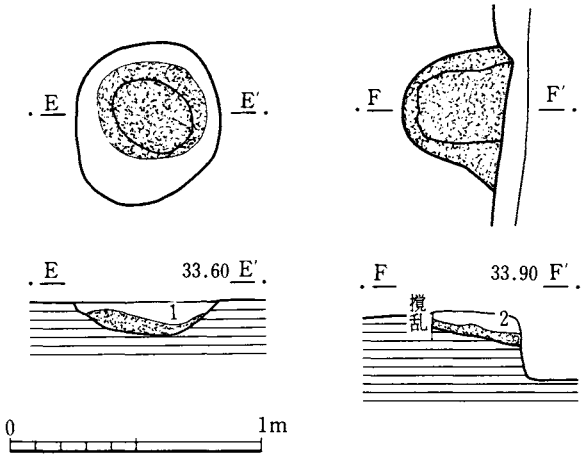




1．黒褐色土(ローム粒少量、しまりあり)
2．暗褐色土(ローム粒やや多い、しまりあり)
3．暗黄褐色土(ローム粒が2.に比べやや多い)

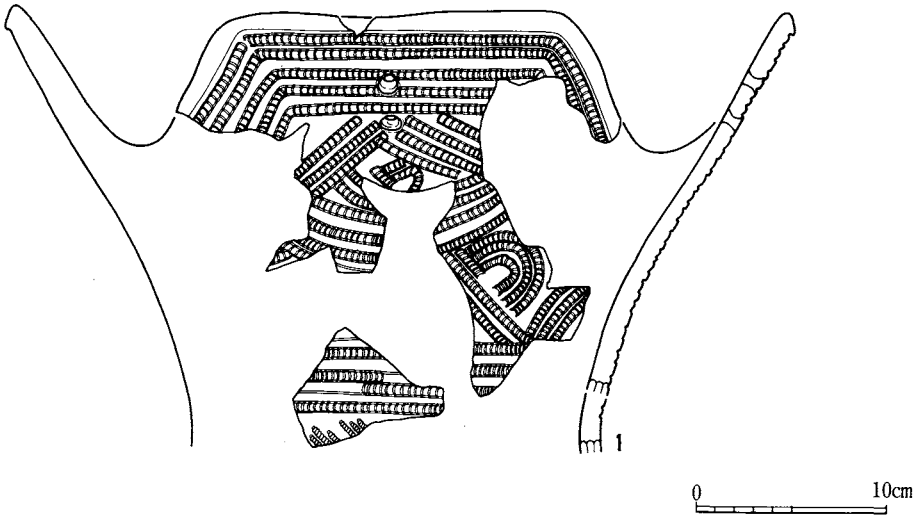



第56図　3・4号住居跡実測図（1/60）

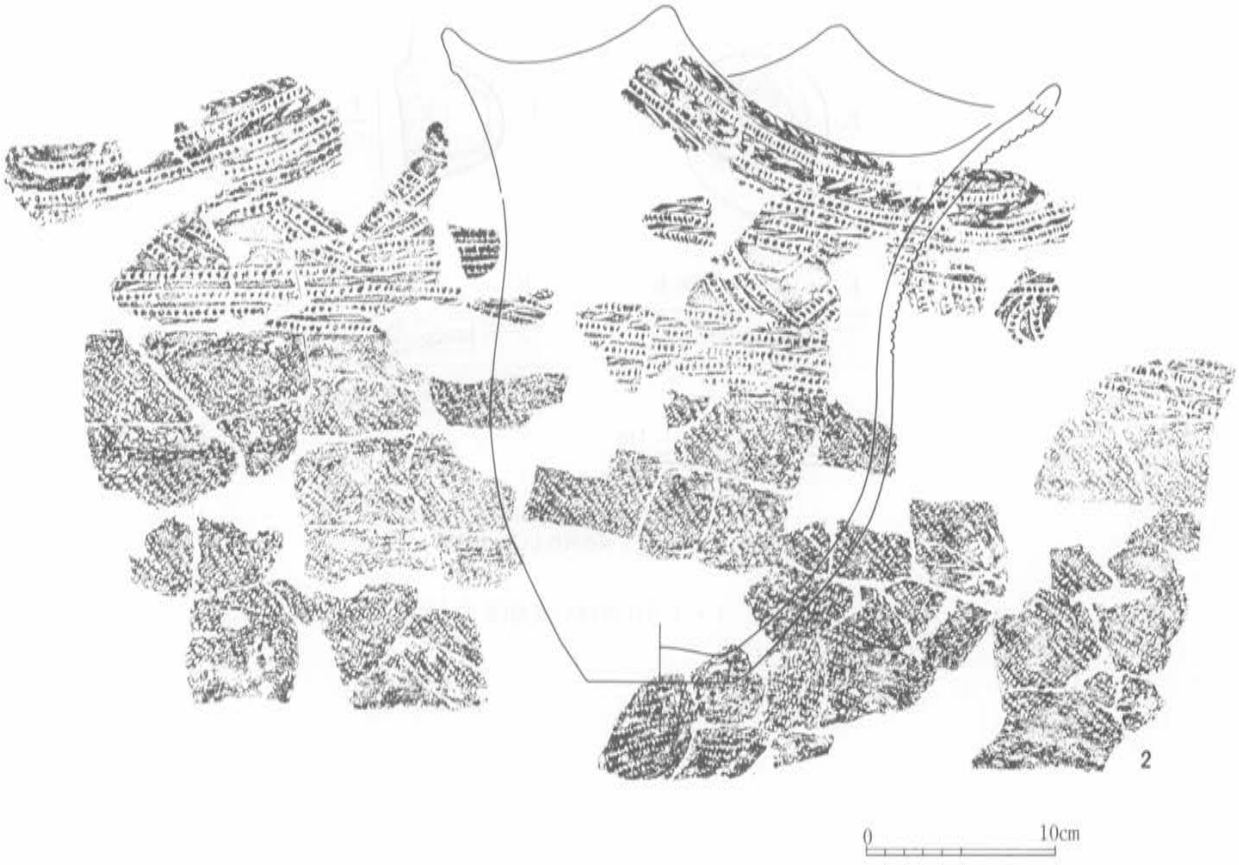



1．暗赤褐色土(焼土粒やや多い)
2．暗赤褐色土(焼土粒多量)

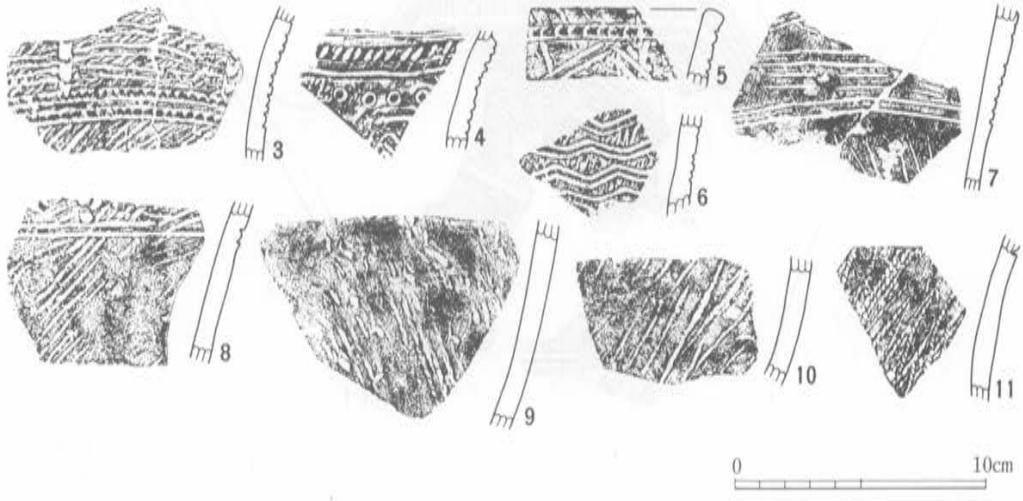
第57図　3・4号住居跡炉実測図（1/30）



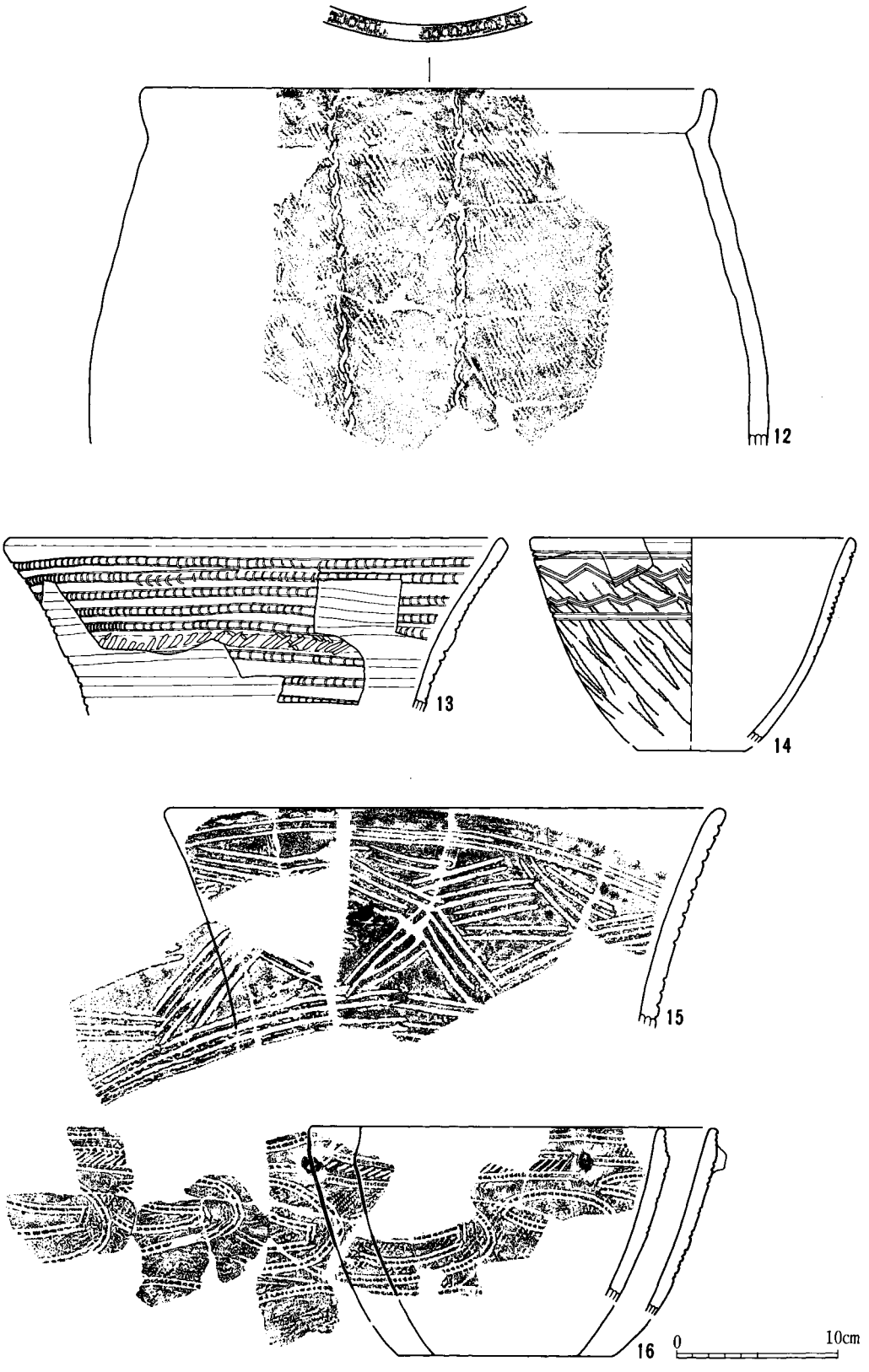

第58図　3号住居跡出土土器実測図（1/4）



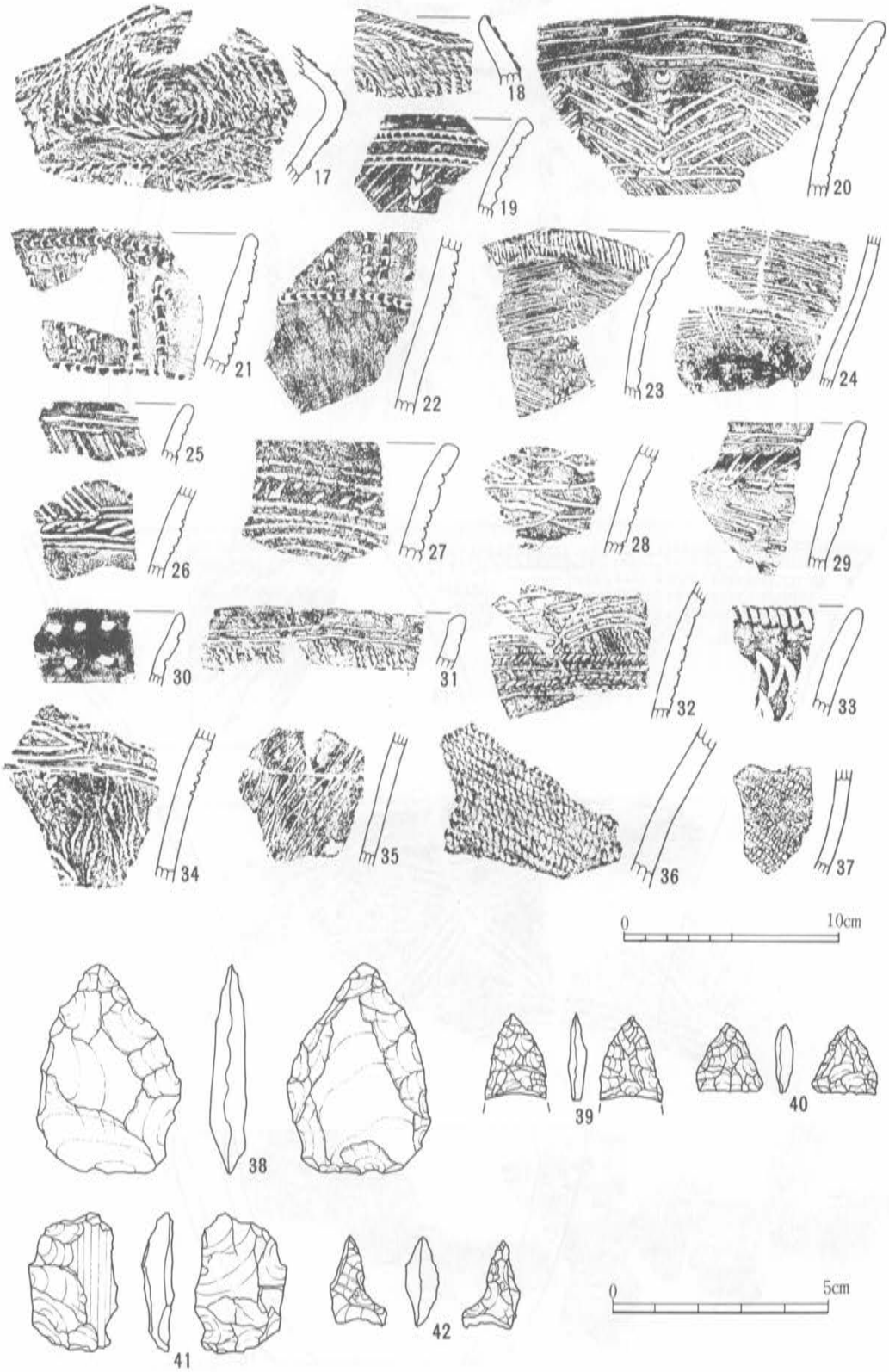

第59図　3号住居跡出土土器実測図（1/4）




第60図　3号住居跡出土土器拓影図（1/3）




第61図　4号住居跡出土土器拓影図（1/4）




第62図　3・4号住居跡出土遺物実測図及び拓影図(17～37⅓、38～42⅔)

5号住居跡（第63・64図　図版5・27）

**検出状況**　4号住居跡の東約50m、18ヲ区の標高34m強の台地平坦面に位置する。

**形状・規模**　主軸方位はN－12°－w、平面形は方形を呈し、長軸4.1m・短軸3.9m壁高は10cm程度を計り、北壁は確認できなかった。

**覆土**　覆土は黒褐色土と暗褐色土。

**床面**　ソフトローム面で軟らかく凹凸が認められる。

**炉**　主軸上北壁から1/3程の位置に検出され、82×54cm・深さ29cmを計る。炉内の中段に焼土がありロームの焼土化も深い。

**柱穴**　壁際に並ぶものは柱穴と考えられるが深さなども一定せず。全体構造は明らかでない。

**遺物**　1は口径21.2cm・器高20.2cmの小形の深鉢形土器で口縁は小波状をなし、単節の斜縄文によって飾られる。床面より検出された。2は有孔鍔付土器の頸部破片であろう。3・4は懸垂の磨消縄文帯を持つ深鉢形土器の破片である。6.7は浅鉢形土器の底部破片である。8は分胴形の打製石斧、9は軽石である。加曽利EIII式期。

6号住居跡（第65・66図　図版5・28）

**検出状況**　4号住居跡の南東約15m、18ヲ区の標高34m強の台地平坦面に位置する。

**形状・規模**　主軸方位はN－35°－w、平面形は北壁が確認できていないが方形を呈するものと思われ、長軸推定4.8m・短軸4.6m、壁高は確認できる部分で5～10cm程度を計り、北壁は確認できなかった。壁に沿って30～40cmの帯状部分を残して中央部はさらに掘り窪められ10～20cm程度の段差を持つ住居跡である。

**覆土**　覆土は黒褐色土と暗褐色土で中央部の深い部分には、黒褐色土が堆積していた。

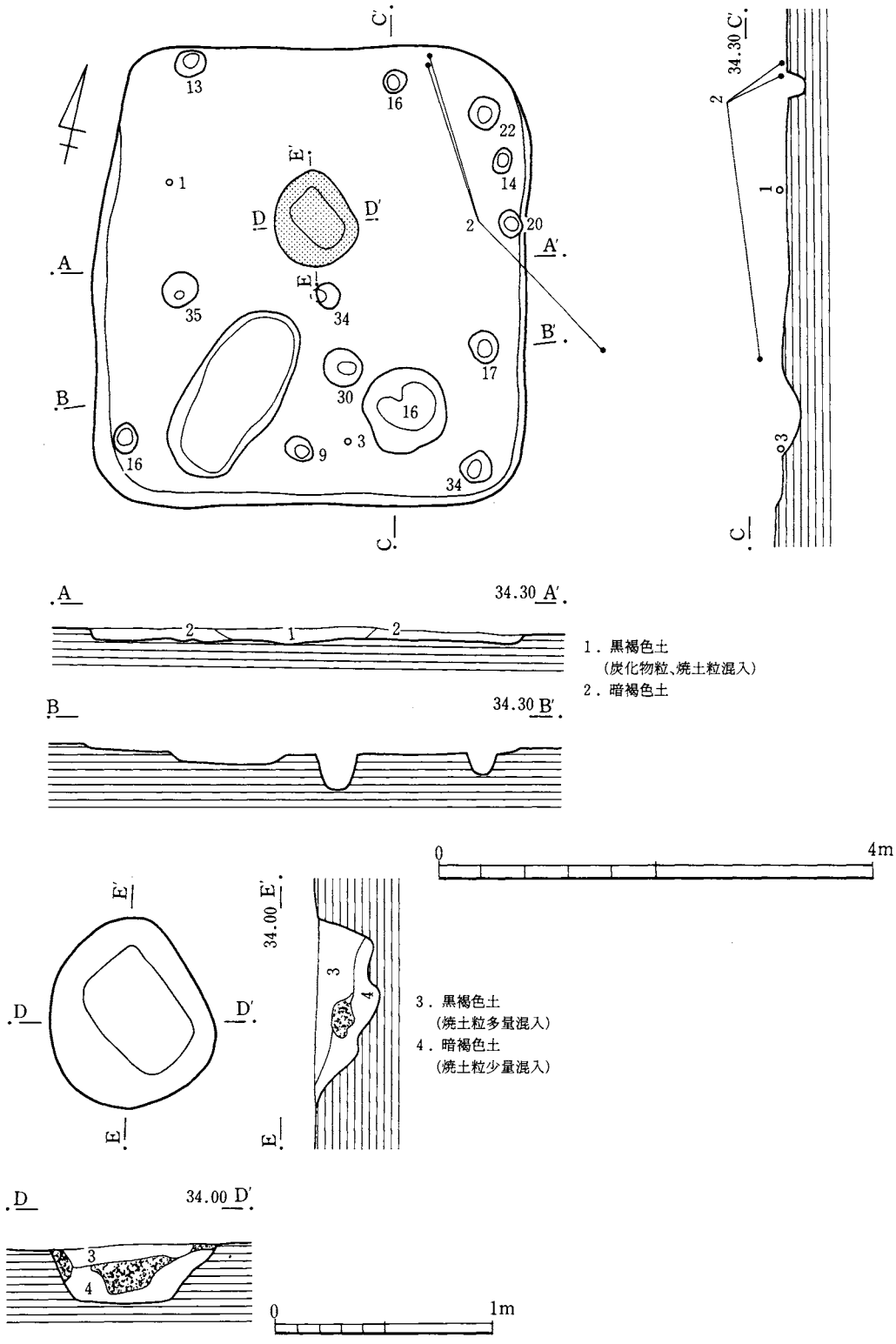
**床面**　上段面はソフトローム面で軟らかくが平坦である。下段面はハードローム面に達し堅緻で平坦である。

**炉**　中央よりやや東に偏して位置し、50×42cm・深さ25cmを計る。炉内には焼土が充満しロームの焼土化も深い。

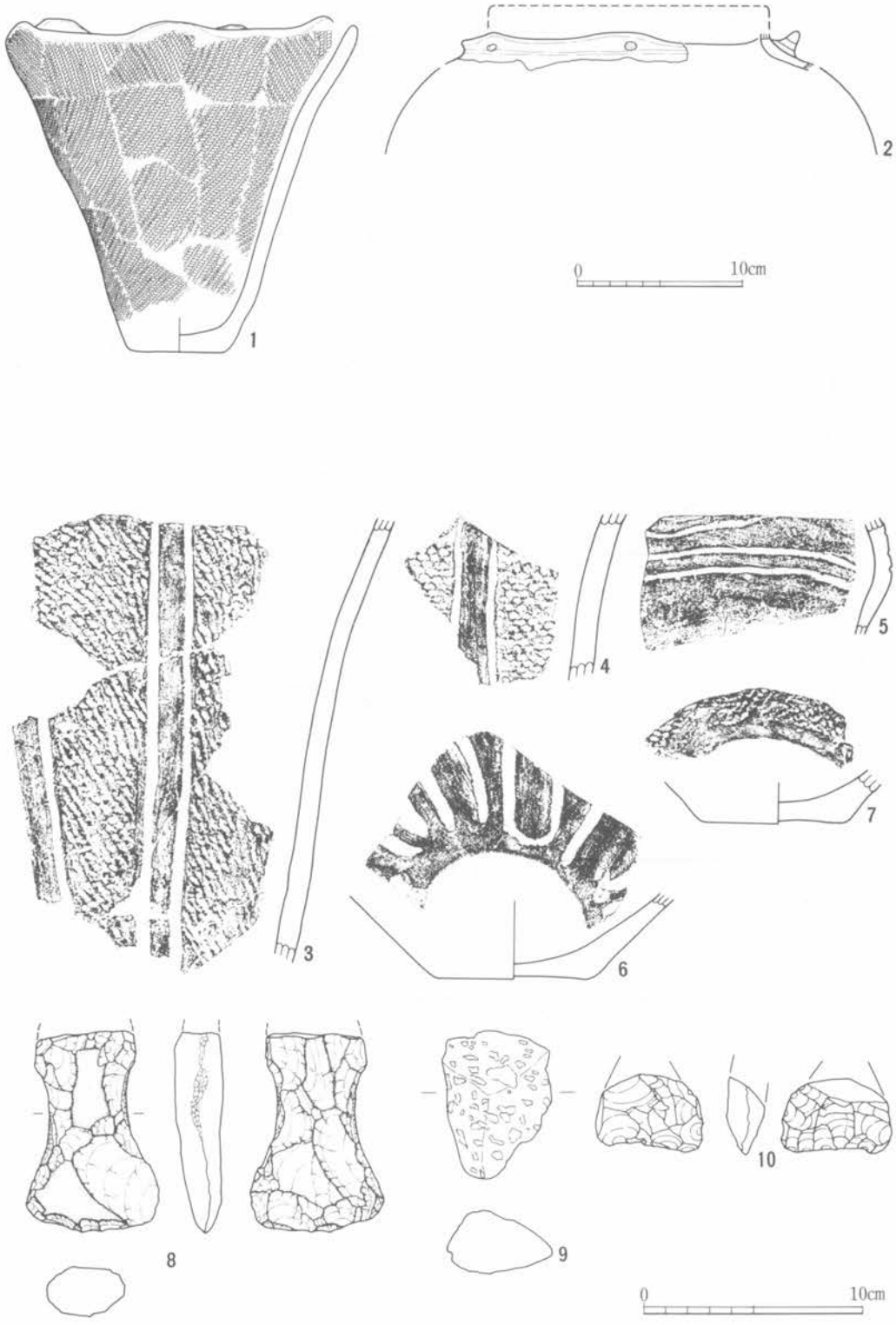
**柱穴**　中段部分にほぼ1m間隔で径20～30cm・深さ13～48cmのピットが10本確認された。下段のピットについては、規格的に上屋構造を想定できるものが特定できない。

**遺物**　遺物1～14の土器片と石鏃1点である。1は半裁竹管による木の葉文と三角文を描き内部を竹管による円形刺突によって充填するものである。2は縄文を地文として半裁竹管による平行沈線と列点文、4～8は半裁竹管による孤線文と爪形文、列点文が施される。11は縄文を地文とする浅鉢形土器である。

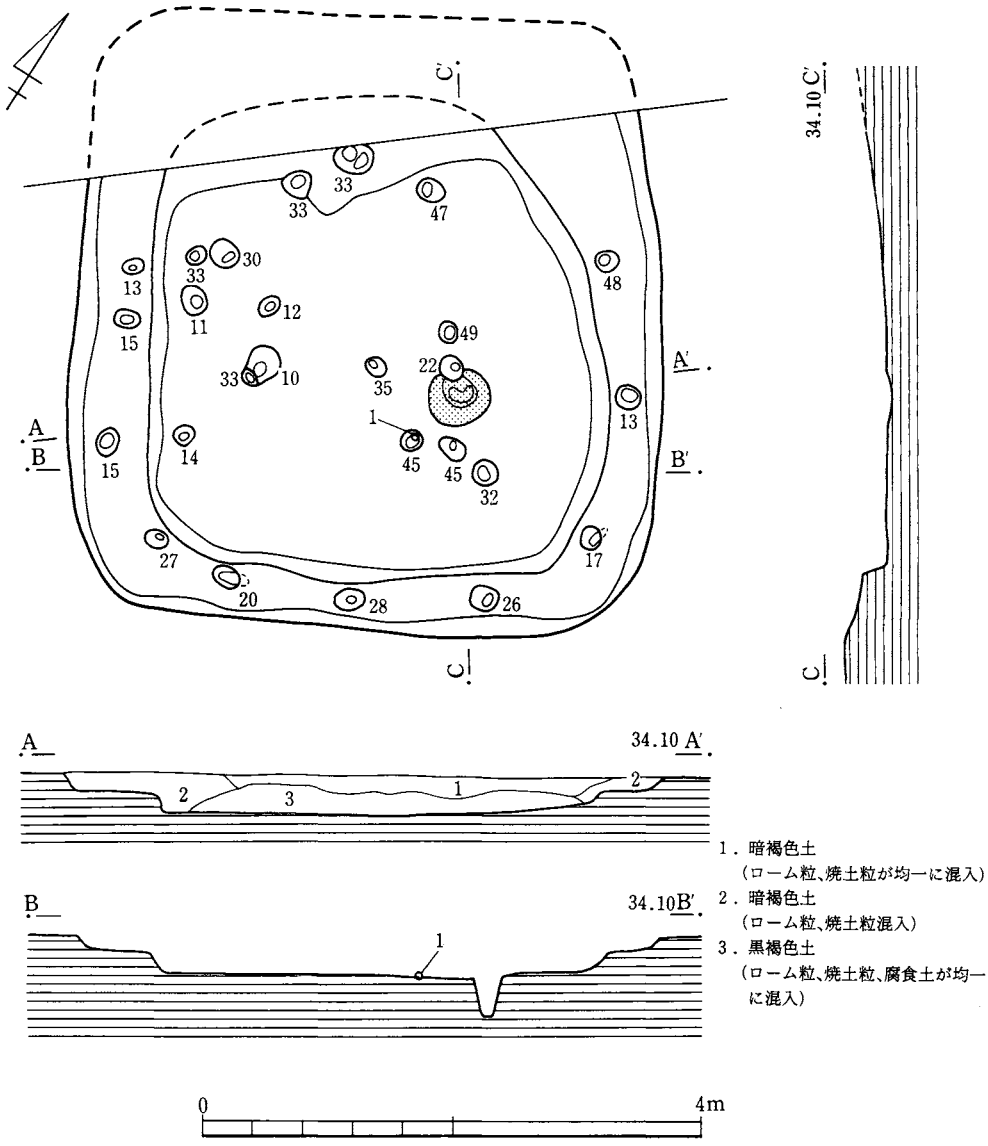
石鏃はチャート製のほぼ正三角形に近いものである。




第63図　5号住居跡実測図（1/60、炉1/30）

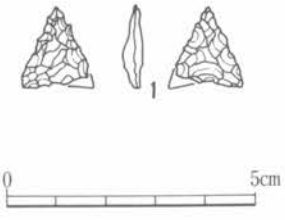



第64図　5号住居跡出土遺物実測図及び拓影図(1・2¼、3～8⅓、9・10⅔)

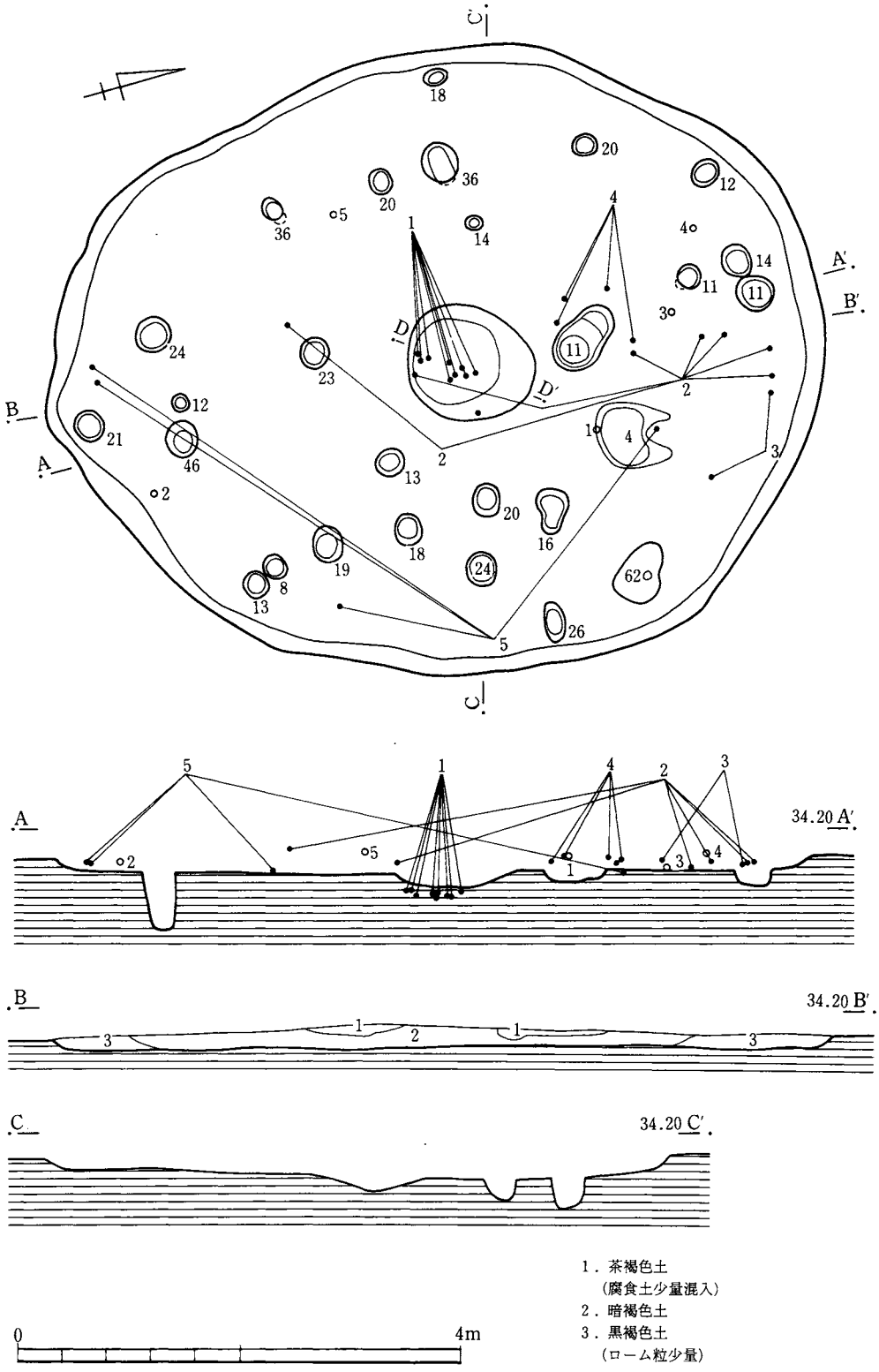



第65図　6号住居跡実測図（1/60）

第66図　6号住居跡出土土器拓影図（1/3）




第67図　6号住居跡出土石器（2/3）




第68図　7号住居跡実測図（1/60）

7号住居跡（第68～72図　図版5）

**検出状況**　4号住居跡の南東約30m、18ヲ区の標高34m強の台地平坦面に位置する。

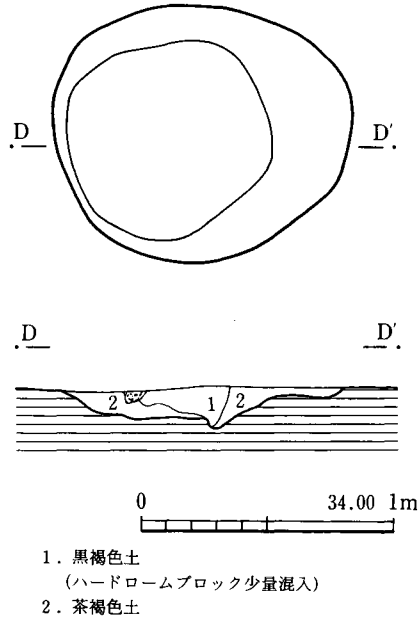
**形状・規模**　主軸方位はN－8°－E、平面形は不整の楕円形を呈し、長軸7.0m・短軸5.6m、壁高は10～15cm程度を計り、壁の立ち上がりは緩やかである。

**覆土**　暗褐色土を主体とし壁際に黒褐色土が堆積していた。

**床面**　床面はソフトローム面で軟らかく僅かに凹凸があり、床面としてはあまりしっかりしたものではない。

**炉**　中央に位置し、116×100cm・深さ14cmを計る。炉内には焼土が僅かしか認められず、ロームの焼土化も浅い。また底面も凹凸がかなりあり掘り方が判然としない。

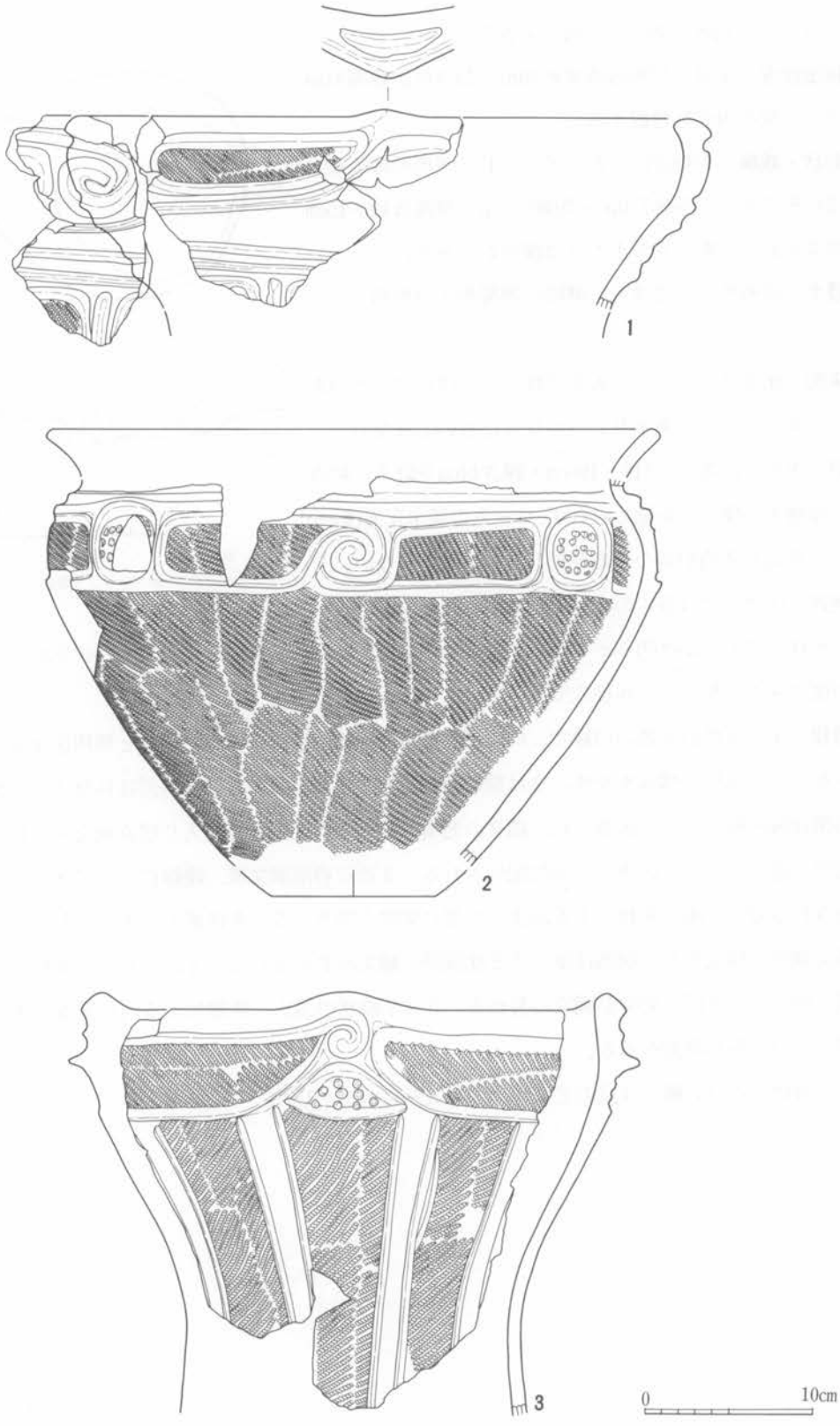
**柱穴**　住居内には多くのピットが検出されたがどのピットが柱穴であるかは明らかでない。壁に沿った20～40cm程度の深さを持つものが柱穴であろう。



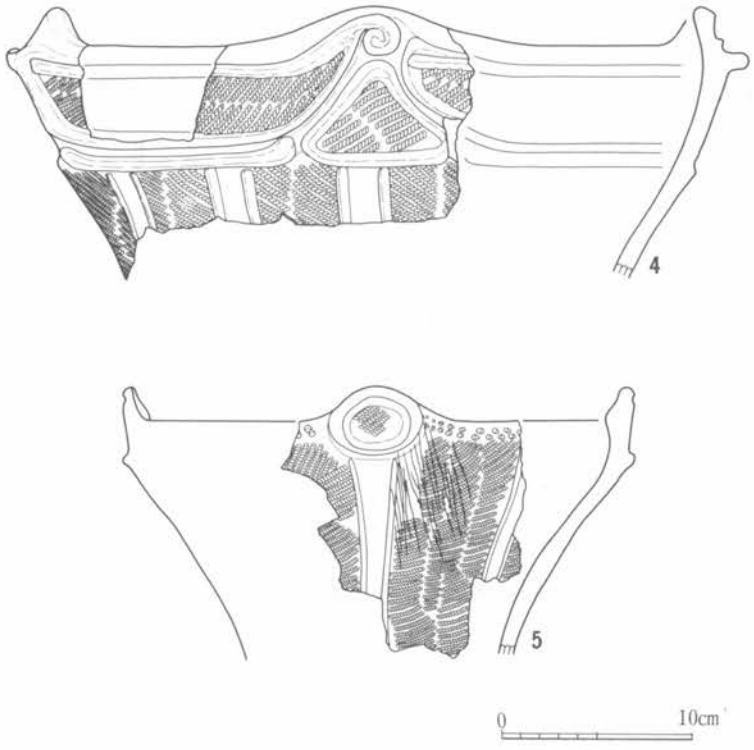

第69図　7号住居跡炉実測図（1/30）

**遺物**　1は深鉢形土器の口縁で、口縁部文様帯は隆線と沈線による、渦文と楕円区画文が一対をなし、4単位の構成をなす。2は胴の張る土器で頸部が収縮し、口縁部は外反する。頸部文様帯は隆起線によって区画され、縄文の充填された窓枠区画・隆起入り組み渦文・窓枠区画・刺突の施される円形区画が4単位配列される。3は口唇部無文帯、隆線によって区画さ縄文の施される窓枠区画と隆線による渦文と内部に刺突の施される三角区画が上下に一対になり口縁部文様帯が構成され、胴部は垂下する沈線間の縄文が磨消される。4は3とほぼ同様の文様構成を持ち三角区画の刺突が縄文に替わる。5は小波状の頂点に隆線による円形区画が施され口唇に二列の円形刺突が巡る。

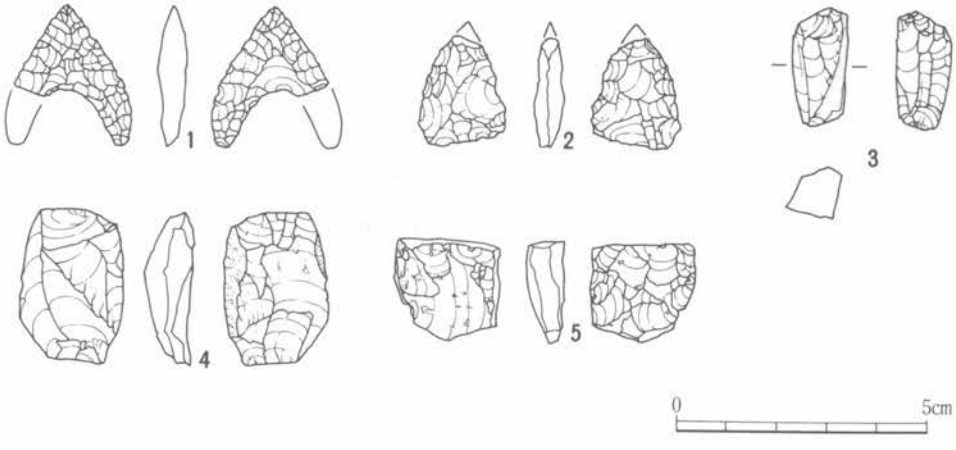
石器は2点の石鏃と3点のピエスエスキューユが出土した。




第70図　7号住居跡出土土器実測図（1/4）



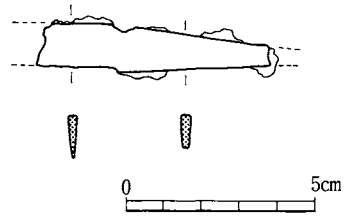

第71図　7号住居跡出土土器実測図（1/4）




第72図　7号住居跡出土石器（2/3）

## B 土　坑

土坑は54基検出されている。なお、縄文時代のものがそのほとんどであるが遺物が伴わず時期の明確でないもの、あるいは古墳時代以降のものもあるが本項でまとめて扱うこととした。



第73図　2号土坑出土鉄器実測図（1/2）

1号土坑（第74図、図版18）

21ヌ-3区に位置し、不整の長方形を呈し3.12×0.51m・深さ1.01mを計る。2段掘りになっており北東側に、さらに2.05×1.05m深さ0.15mの掘り込みが認められる。遺物はなく時期については不明である。

2号土坑（第73・74図、図版18）

21ヌ-4区に位置し、不整の楕円形を呈し2.19×0.75m・深さ0.35mを計る。掘り込みの浅い土坑で、刀子が出土した。古墳時代遺構の土坑であろう。

3号土坑（第74図、図版18）

21ヌ-4区に位置し、不整の楕円形を呈し3.05×0.70m・深さ0.32mを計る。縦長の浅い土坑で壁の立ち上がりもゆるやかである。時期不明。

4号土坑（第74図、図版18）

22ヌ-20区に位置し、不整の楕円形を呈し1.78×0.960m・深さ1.69mを計る。底は1.42×0.20mという狭小なもので典型的な縄文早期の陥し穴と考えられる。

5号土坑（第74図、図版18）

22ヌ-20区に位置し、不整の楕円形を呈し1.32×0.50m・深さ1.05mを計る。底は0.98×0.24mという狭小なもので4号と同様縄文早期の陥し穴と考えられる。

6号土坑（第75図、図版18）

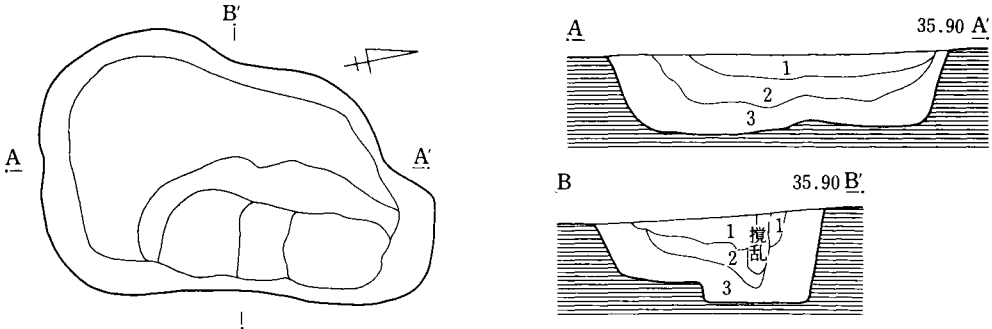
19ル-6区に位置し、楕円形を呈し1.78×1.14m・深さ1.30mを計る。底は0.97×0.38mの狭小なもので4号と同様縄文早期の陥し穴と考えられる。

7A・7B号土坑（第75図、図版18）

19ル-1区に位置し、2基の土坑が重複しておりAが新しくBが古い。Aは楕円形を呈し1.30×1.20m・深さ0.53mを計る。Bは1.12×0.98・深さ1.50mで底は0.88×0.38mの狭小なもので4号と同様縄文早期の陥し穴と考えられる。Aについては、覆土も締りなく新しいものと思われる。

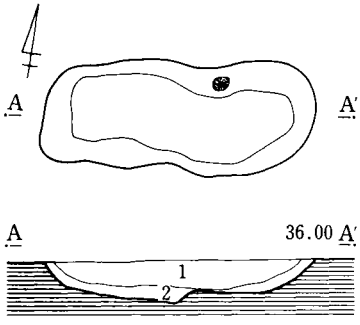
8号土坑（第75図、図版18）

18ル-3区に位置し、不整の楕円形を呈し規模の大きなもので2.98×2.12m・深さ2.53mを計る。底は1.82×0.77mを計り4号と同様縄文早期の陥し穴と考えられる。



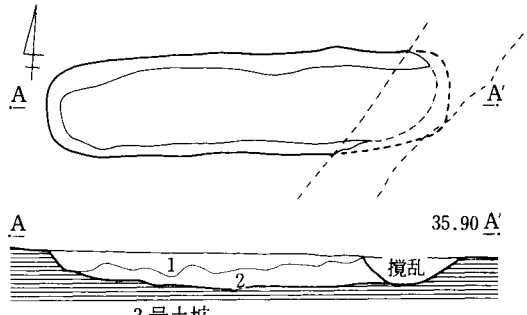

1号土坑

1．淡赤褐色土(焼土粒少量混入)
2．暗褐色土(ローム粒混入)
3．黄褐色土(ローム主体)



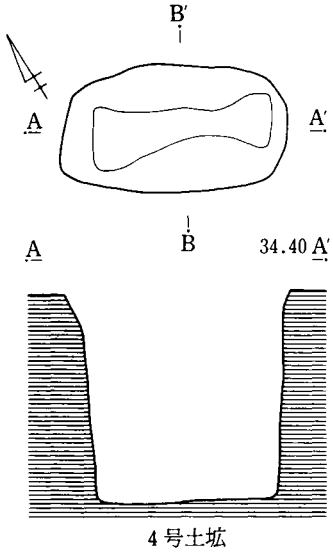

2号土坑

1．暗黄褐色土(焼土粒、ローム混入)
2．黄褐色土(ローム主体)

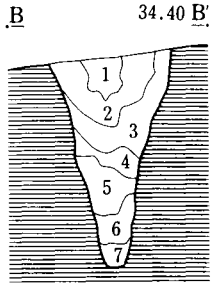



3号土坑

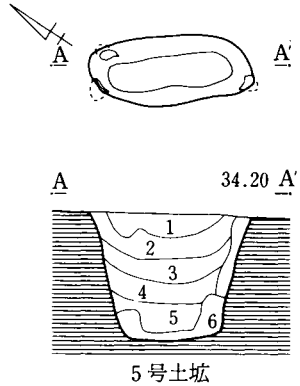
1．黒褐色土(ローム粒混入)
2．暗黄褐色土(ローム主体)




4号土坑




1．暗褐色土(ロームを多量に混入)
2．暗黄褐色土(ローム主体暗褐色土混入)
3．明黄褐色土(ローム主体、ハードロームブロック混入)
4．暗黄褐色土(ローム主体、ハードロームブロック少量混入)
5．明黄褐色土(ハードロームブロック主体)
6．暗茶褐色土(ハードロームブロック主体)
7．黄褐色土(ローム主体)

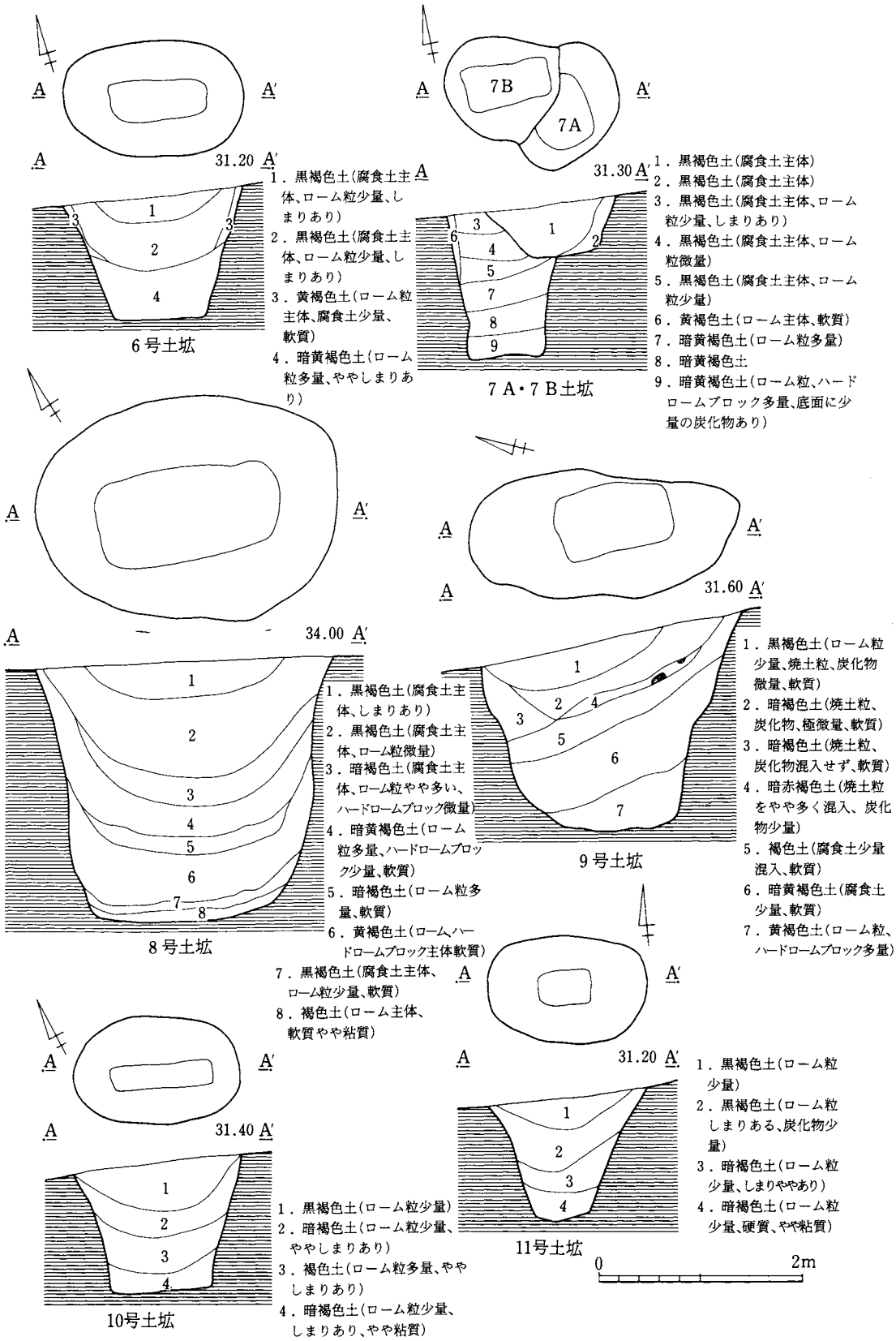



5号土坑

1．暗褐色土(ローム多量に混入)
2．暗黄褐色土(ローム主体)
3．明黄褐色土(ローム主体、ハードロームブロックやや多い)
4．黄褐色土(ローム主体)
5．暗黄褐色土(ローム主体、ハードロームブロックやや多い)
6．暗黄褐色土(ハードロームブロック主体)

0　2m

第74図　1、2、3、4、5号土坑実測図 (1/60)




第75図　6、7A、7B、8、9、10、11号土坑実測図（1/60）

9号土坑（第75図、図版19）

18ヌ-10区の斜面に位置、楕円形を呈し2.70×1.14m・深さ2.00mを計る。底は1.15×0.64mを計り4号と同様縄文早期の陥し穴と考えられる。覆土の上半に炭化物・焼土粒を含む層がある。

10号土坑（第75図、図版19）

19ル-6区に位置し、楕円形を呈し1.64×0.96・深さ1.45mを計る。底は1.00×0.23mときわめて狭小であり4号と同様縄文早期の陥し穴と考えられる。

11号土坑（第75図、図版19）

19ル-1区に位置し、楕円形を呈し1.57×1.00m・深さ1.20mを計る。底は0.52×0.33mを計り4号と同様縄文早期の陥し穴と考えられる。

12号土坑（第76図）

19ヌ-5区に位置し、不整円形を呈し1..34×1.03・深さ1.44mを計る。底は0.62×0.503mを計り4号と同様縄文早期の陥し穴と考えられる。

13土坑（第76図、図版19）

19ル-1区の斜面に位置し、不整の楕円形を呈し2.36×2.03m・深さ0.40を計る。浅い土坑で壁の立ち上がりもゆるやかであり、底面もようやくハードローム面に達する深さ全体として危弱な感じの土坑である。時期不明。

14号土坑（第76図）

19ヌ-5区に位置し、不整の楕円形を呈し1.07×0.65m・深さ0.60を計る。底は0.74×0.33mを計る。中央部に攪乱が入るが、覆土は全体として締りなく、軟質なものであり、新しい時期の構築である可能性が高い。

15号土坑（第76図、図版19）

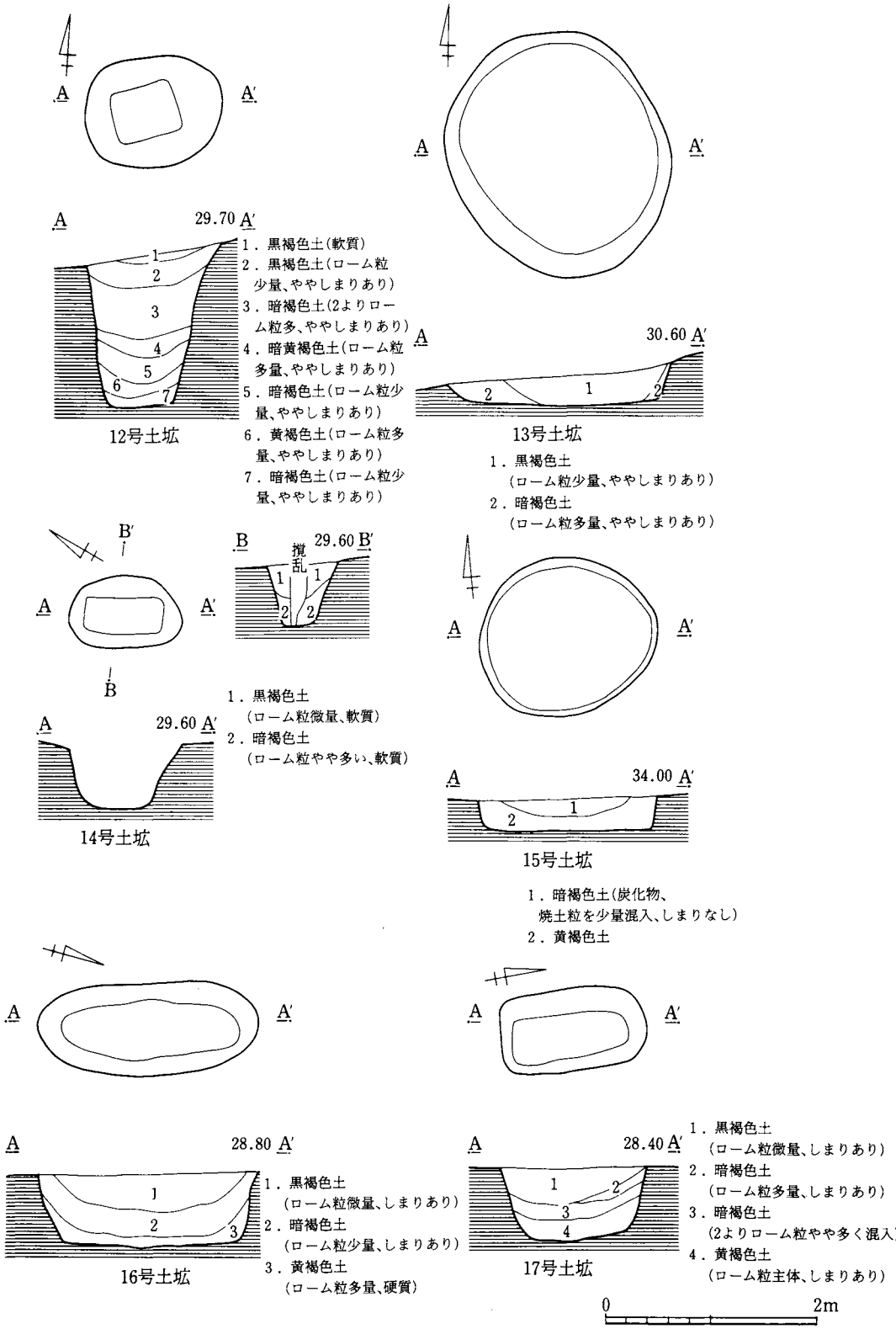
18ル-5区に位置し、不整の楕円形を呈し1.70×1.40m・深さは0.30を計る。底は0.74×0.33mを計る。壁は垂直に立ち上がるが極めて浅く覆土も軟質で締りが認められない。時期的には新しいものと考えられる。

16号土坑（第76図、図版19）

19ヌ-5区に位置し、長楕円形を呈し2.08×0.85m・深さは0.70mを計る。底は1.68×0.46mを計り、深さ浅いものの底面もしっかりしており覆土も締まっており4号と同様縄文早期の陥し穴と考えられる。

17号土坑（第76図、図版19）

18ヲ-13に位置し、不整の長方形を呈し1.40×0.73m・深さは0.70を計る。底は1.12×0.40m計り、覆土の状態等から考えて16号と同様縄文早期の陥し穴と考えられる




第76図　12、13、14、15、16、17号土坑実測図（1/60）

18号土坑（第77・78図　図版19・28）

18ヲ-13区に位置し、不整円形を呈し3.27×2.44m・深さ0.56mを計る。底は2.97×2.25mを計る。坑底に0.85×0.68m・深さ0.75mと0.72×0.70m・深さ0.68mのピットと径0.15m・深さ0.52cmのピットが掘られる。ピット内の最下層は極めて軟質でピット内上半は明黄褐色土と黒褐色土が互層をなし突き固められたように観察された。土坑内の覆土は一時に埋め戻されたように観察され、遺物は土坑上面の中央部に集中して検出された。遺物はいずれも土坑上面中央部から出土したもので、1は2本一組の垂下する沈線によって区画された範囲の縄文が磨り消される深鉢形土器である。2～7は磨消縄文帯を伴う深鉢形土器の破片で、8は壺形土器の口縁で赤色塗彩が施される。9・10は隆帯を持つ深鉢形土器の口縁である。11の磨石および・12の石錐も土坑上部からの出土である。縄文中期加曽利EIII式期の小竪穴と考える。

19号土坑（第77図）

18ワ-2区に位置し、不整の長方形を呈し長軸に沿って掘込みを有する有天井土坑である。2.06×0.90m・深さは0.58を計る。長軸に沿って北側に0.25mほどオーバーハングして1.75×0.62m高さ0.4mの有天井部分が掘り込まれる。遺物が出土していないの明らかでないが奈良・平安時代の墓坑であろう。

20号土坑（第77図　図版20）

18ワ-8区に位置し、不定形を呈し3.30×2.62m・深さ0.33mを計る。底は3.08×2.085mを計る。本土坑は中央部に下層確認のためのグリッドが設定され断面で確認した後に調査を実施したため中央部は失われている。時期不明。

21号土坑（第77図　図版20）

17ヲ-25区に位置し、楕円形を呈し1.98×1.48m・深さ0.15mを計る。極めて浅い土坑で本来はII層から掘り込まれたものと思われる。底面は平坦であるが軟弱である。覆土も黒褐色締りのないものであった。時期不明。

22号土坑（第79図　図版20）

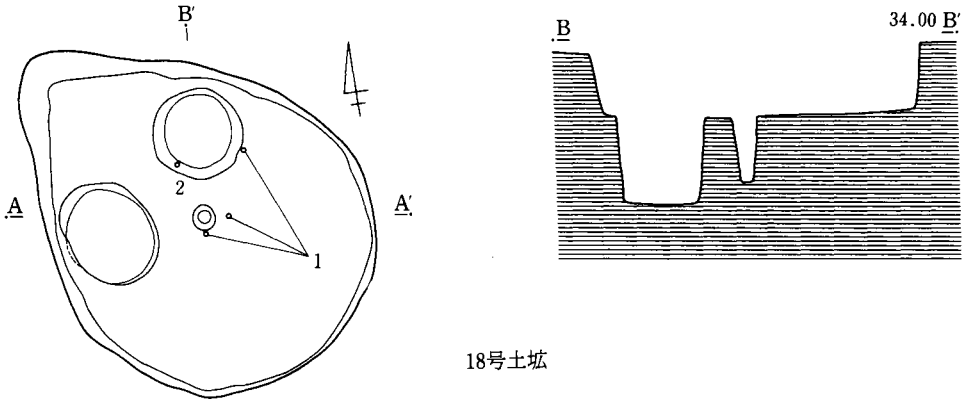
18ヲ-5区に位置し、楕円形を呈し1.55×1.00m・深さ0.21mを計る。極めて浅い土坑で坑底南端に径0.23m深さ0.35mのピットを持つ。底面は平坦であるが軟弱である。覆土も黒褐色締りのないものであった。時期不明。

23号土坑（第79図　図版20）

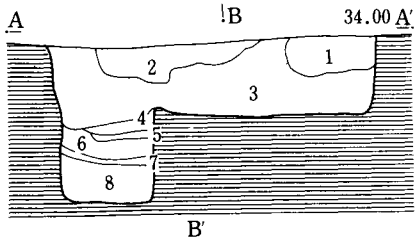
18ヲ-9区に位置し、不整円形を呈し1.23×0.96m・深さ0.45mを計る。覆土は締りなく底面凹凸があり軟弱である。時期不明。

24号土坑（第79・80図　図版20）

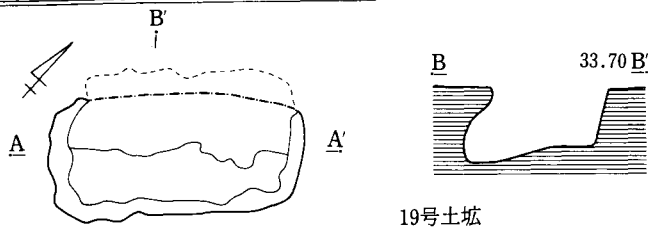
18ヲ-7区に位置し、不整円形を呈し2.10×1.90m・深さ0.47mを計る。ロームブロックの混入状態などからして埋め戻されたものと思われる。底面凹凸がありが堅緻である。遺物は4層



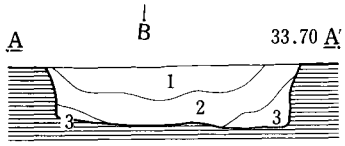

18号土坑



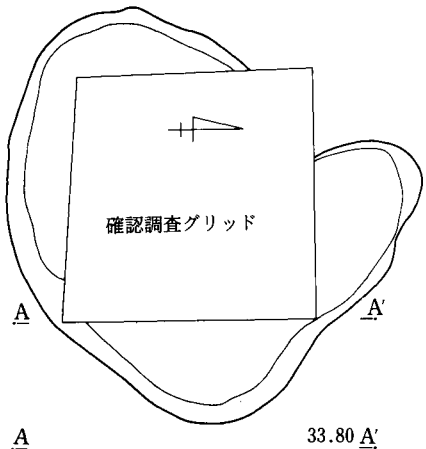

1．暗褐色土(ロフトロームがブロック状に均一に混入)
2．暗褐色土(焼土ブロック、焼土粒、炭化物粒が均一に混入)
3．暗褐色土(ローム粒、ハードロームブロック混入)
4．明黄褐色土(ハードロームブロック主体、硬質)
5．黒褐色土(ハードロームブロック微量)
6．明黄褐色土(ハードロームブロック主体、硬質)
7．黒褐色土(ハードロームブロック微量)
8．明黄褐色土(ハードロームブロック主体、極めて軟質)

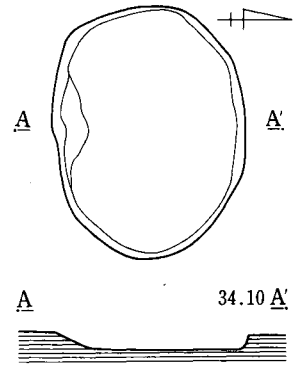



19号土坑

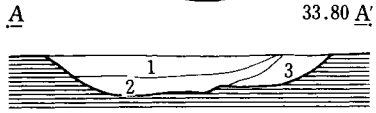



1．黒褐色土(ローム粒均一に混入)
2．暗褐色土(ローム粒、小ハードロームブロック均一に混入)
3．褐 色 土(黒色仲土少量混入)



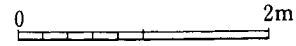




21号土坑

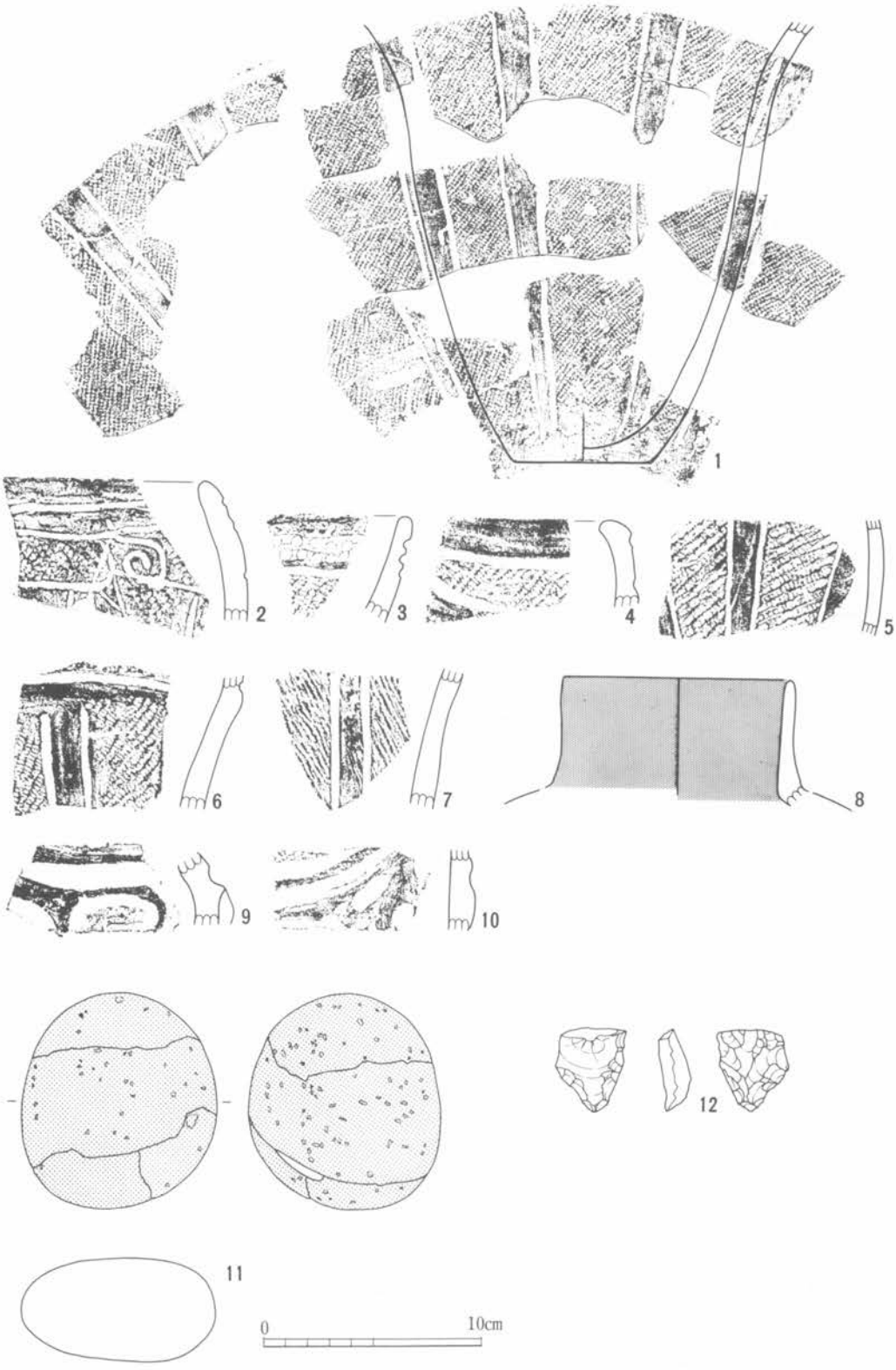



20号土坑

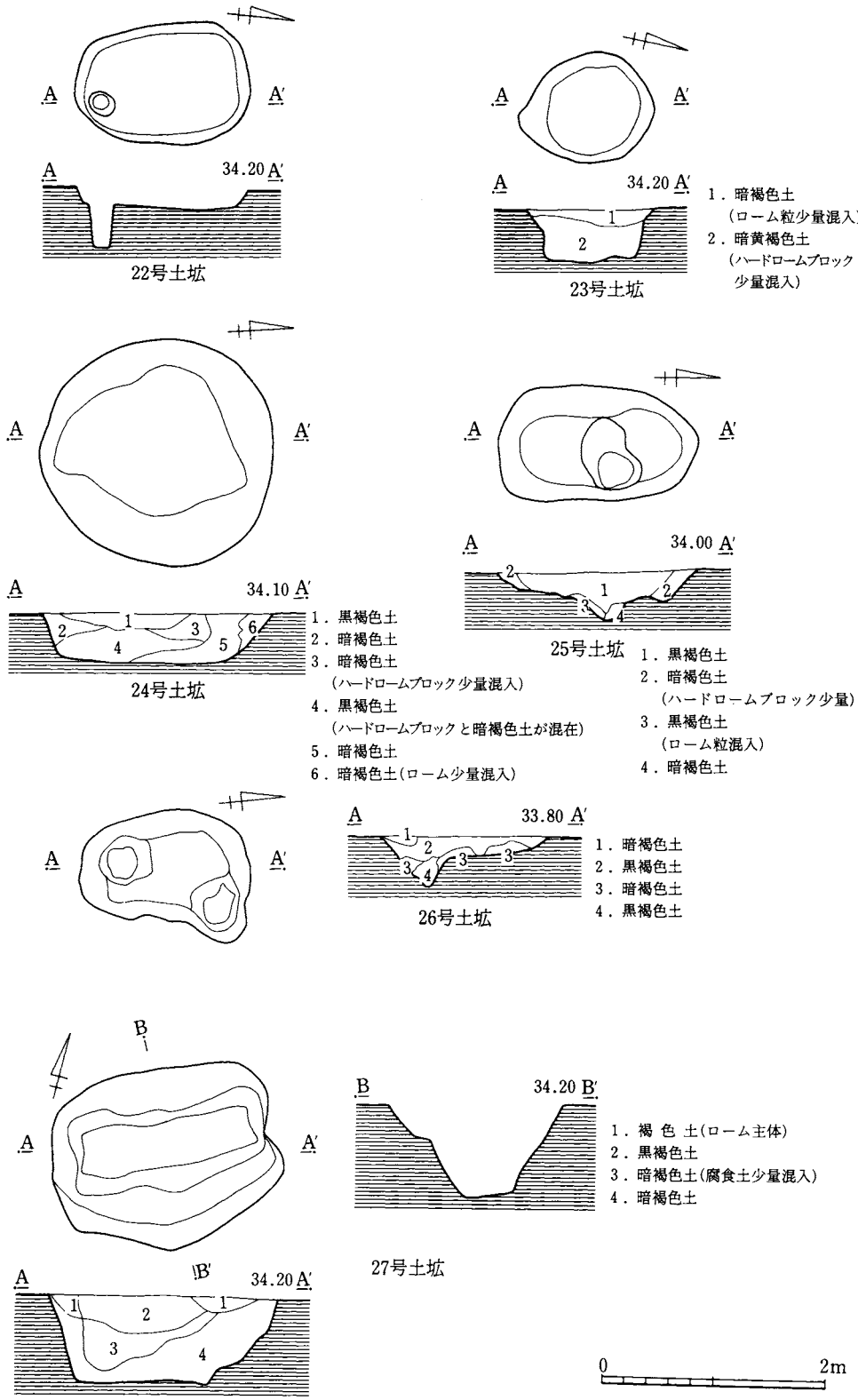
1．暗褐色土
2．暗褐色土
3．暗黄褐色土




第77図　18、19、20、21号土坑実測図（1/60）

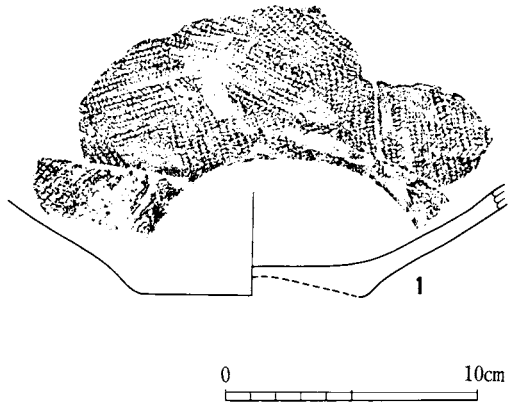



第78図　18号土坑出土遺物拓影図及び実測図(1～11⅓、12⅔)




第79図　22、23、24、25、26、27号土坑実測図（1/60）

から出土した1の単節縄文が施され大きく開く浅鉢形土器の破片のみである。覆土の状態からして土器の時期である縄文前期諸磯a式期の土坑と考えられる。



第80図　24号土坑出土土器拓影図（1/3）

25号土坑（第79図　図版20）

18ヲ-13区に位置し、楕円形を呈し1.80×0.98m・深さ0.28mを計る。極めて浅い土坑で坑底中央に0.58×0.32m・深さ0.15mのピットを持つ。底面は凹凸が激しく軟弱である。覆土も黒褐色締りのないものであった。時期不明。

26号土坑（第79図　図版20）

18ヲ-17区に位置し、不整形を呈し1.53×0.90m・深さ0.45mを計る。浅い土坑で坑底両端にピットを持つ。底面は凹凸が激しく軟弱である。覆土も黒褐色の締りのないものであった。時期不明。

27号土坑（第79図　図版20）

18ヲ-10区に位置し、不整形を呈し2.05×1.40m・深さ0.82mを計る。底は1.60×0.39mを計り4号と同様縄文早期の陥し穴と考えられる。

28号土坑（第81図　図版21）

18ヲ-4区に位置し、円形を呈し2.83×1.96m・深さ0.40mを計る。坑底北に偏して1.28×1.08m・深さ0.68mのピットが掘られる。縄文のみの土器細片が出土し18号土坑と同様縄文中期加曽利E式期の小竪穴と考える。

29号土坑（第81図　図版21）

18ヲ-10区に位置し、円形を呈し3.95×3.02m・深さ0.91mを計る。坑底に5ケの径0.3m前後のピットが検出されたが中央のものが深さ0.55mある他は0.1mにも満たないものである。縄文のみの土器細片が出土し18号土坑と同様縄文中期加曽利E式期の小竪穴と考える。

30号土坑（第82図）

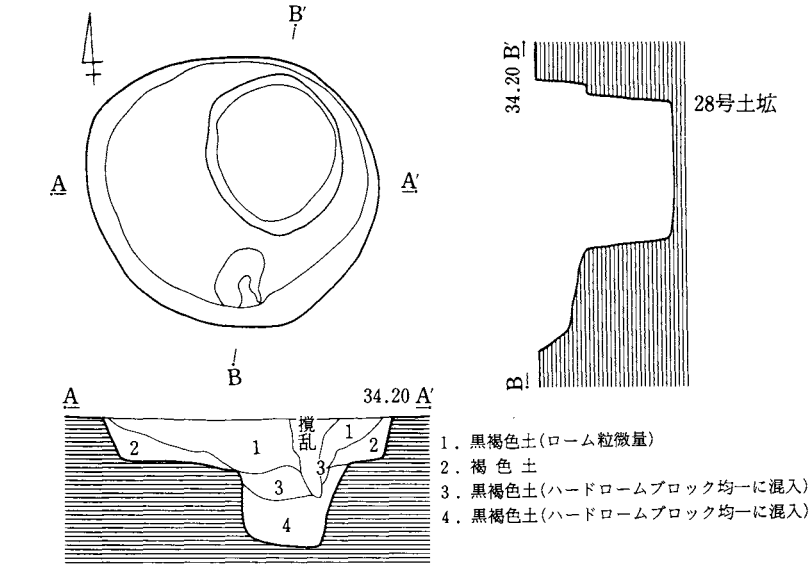
17ワ-22区に位置し、不整楕円形を呈し1.45×0.85m・深さ0.47mを計る。上面に焼土が確認され底面凹凸があり軟弱である。時期不明。

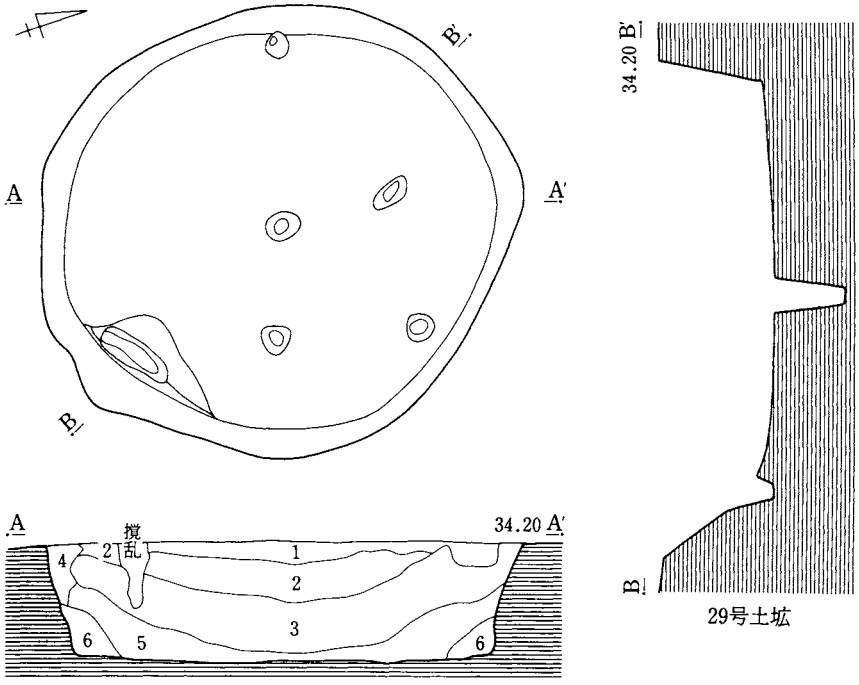
31号土坑（第82図　図版21）

18ヲ-7区に位置し、不整楕円形を呈し0.64×0.30m・深さ0.15mを計る。上面に焼土が確認されごく浅く規模の小さな土坑である。時期不明。

32号土坑（第82図　図版21）

18ヲ-7区に位置し、不整円形を呈し0.94×0.78m・深さ0.38mを計る。上面に焼土が確認さ




第81図　28、29号土坑実測図 (1/60)

た。時期不明。

33号土坑（第82図　図版21）

19ヲ-17区に位置し、長楕円形を呈し1.85×1.13m・深さ1.25mを計る。底は1.50×0.50mを計り4号と同様縄文早期の陥し穴と考えられる。

34号土坑（第82図　図版21）

18ワ-22区に位置し、長楕円形を呈し2.20×1.25m・深さ0.85mを計る。底は1.56×0.44mを計り4号と同様縄文早期の陥し穴と考えられる。

35号土坑（第82・83図）

18ヲ-19区に位置し、不整形を呈し2.77×1.61m・深さ0.43mを計る。坑底は凹凸が激しく整った底面にならない。土坑内覆土上部に頭部径12.9cm、現存長合計50cm、推定長1mの及ぼうと思われる石棒の破片が散在する形で出土した。石棒は火勢を受けており全体にかなり危弱になっている。大形石棒であり縄文中期の所産であろう。

36号土坑（第82図　図版21）

21レ-16区に位置し、長楕円形を呈し1.93×0.77m・深さ0.93mを計る。底は1.72×0.40mを計り4号と同様縄文早期の陥し穴と考えられる。

37号土坑（第84図　図版21）

20ヨ-22区に位置し、長方形を呈し1.74×0.73m・深さ0.45mを計る。底は1.57×0.73mを計り壁が垂直に落ちる浅い土坑で時期不明。

38号土坑（第84図）

22タ-13区に位置し、不整形を呈し2.60×0.75m・深さ0.53mを計る。摺鉢状の底になり覆土にも締まりなし。時期不明。

39号土坑（第84図）

22タ-12区に位置し、不整長方形を呈し2.20×0.91m・深さ1.04mを計る。底は2.05×0.46mを計り4号と同様縄文早期の陥し穴と考えられる。

40号土坑（第84図）

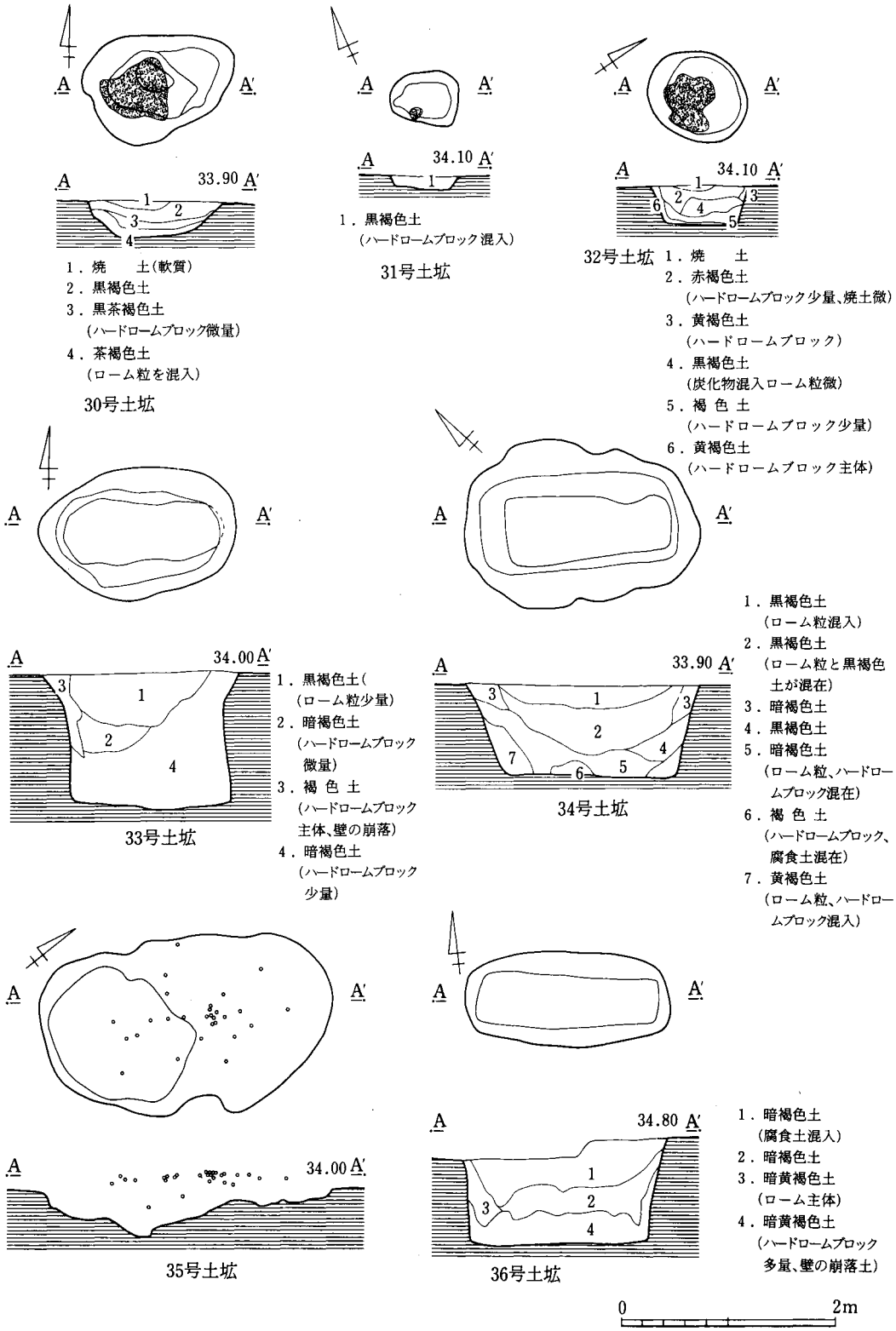
21ヨ-22区に位置し、長楕円形を呈し3.22×0.68m・深さ0.78mを計る。底は2.797×0.19mと著しく長さの長い幅の狭い土坑で、4号と同様縄文早期の陥し穴と考えられる。

41号土坑（第84図）

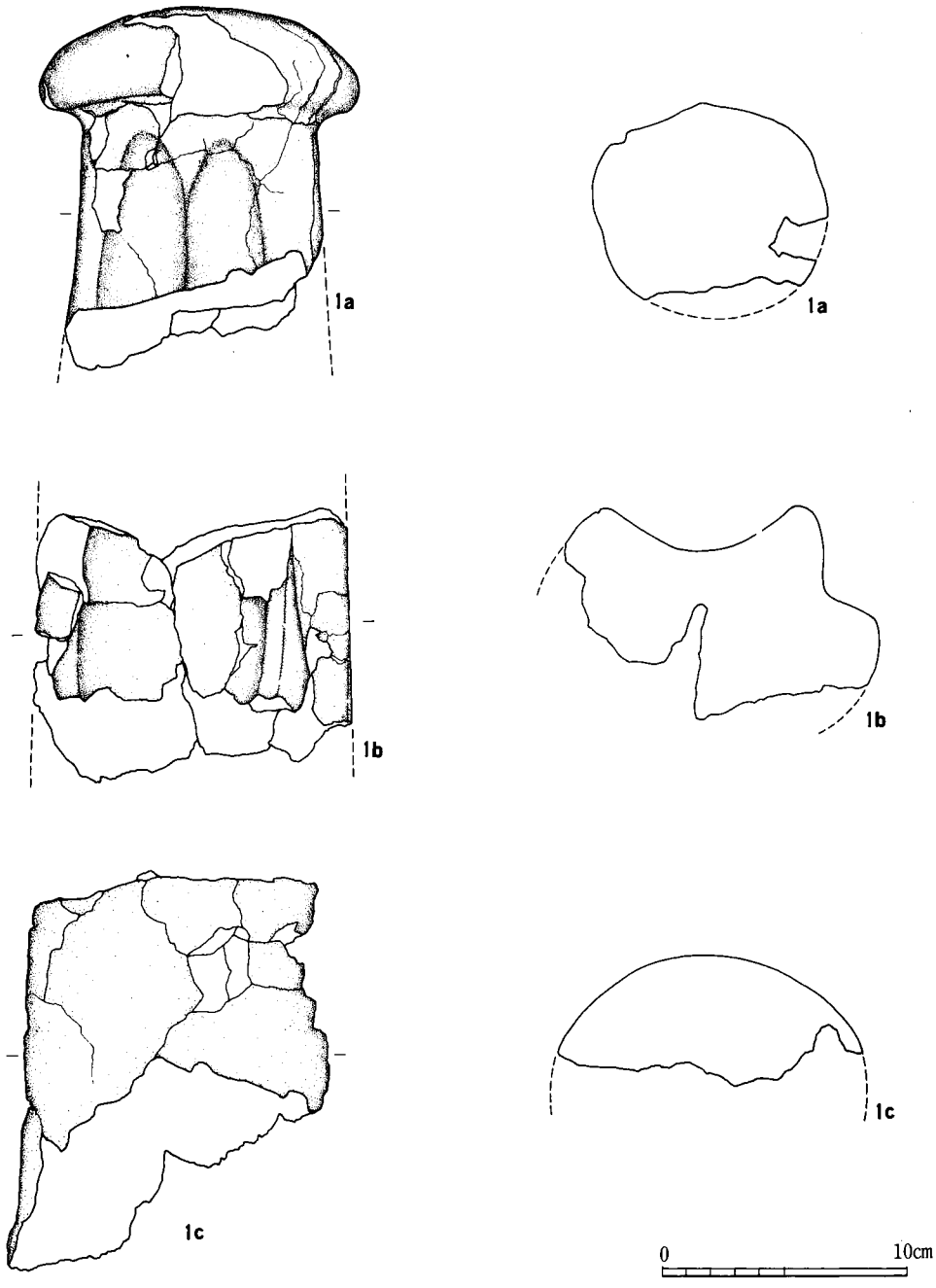
22ヲ-25区に位置し、長楕円形を呈し2.50×1.00m・深さ0.86mを計る。底は1.95×0.35mを計り長軸上の坑底に2ケのピットが認められる。4号と同様縄文早期の陥し穴と考えられる。

42号土坑（第84図）

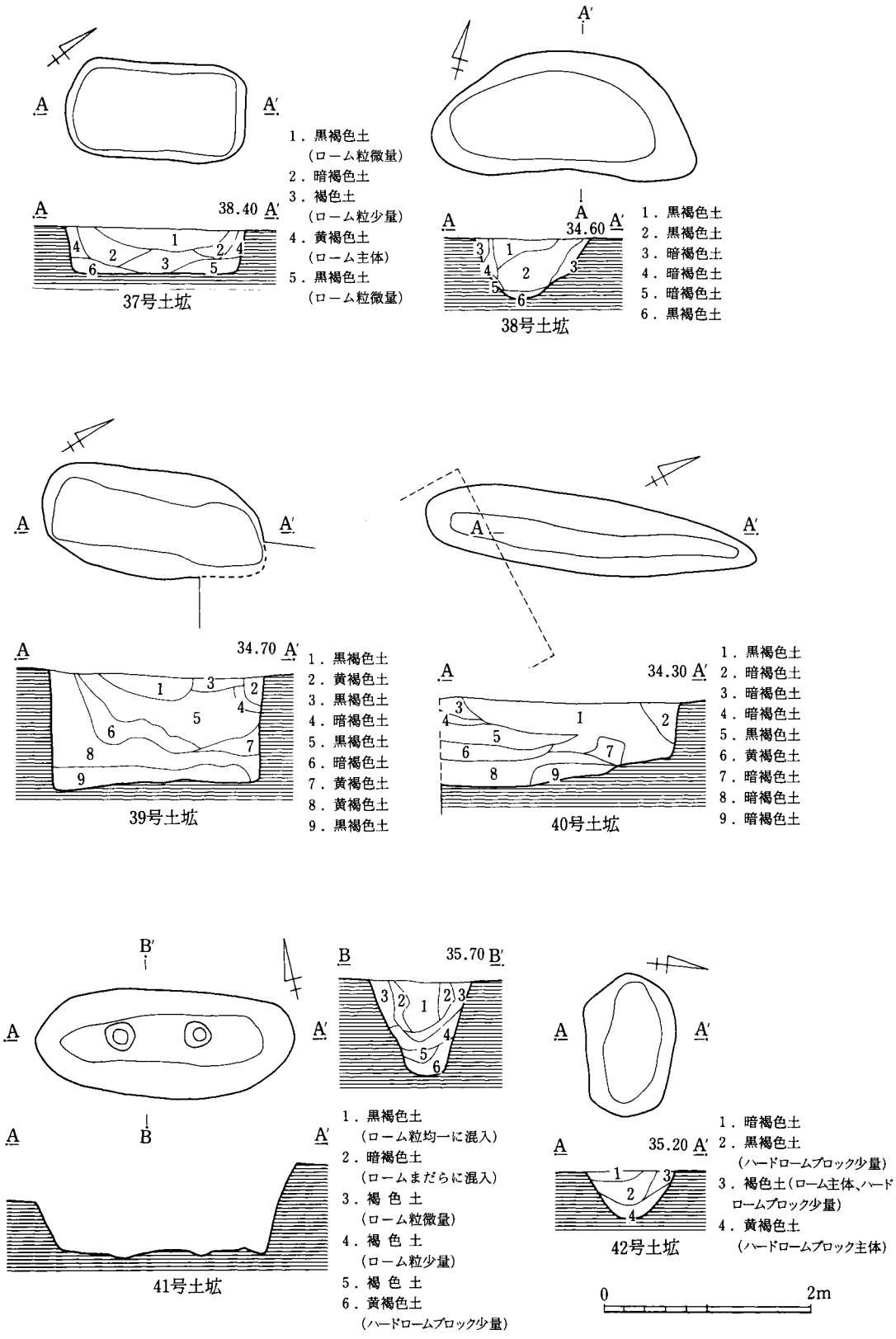
22ヲ-13区に位置し、不整長方形を呈し2.50×1.00m・深さ0.86mを計る。底は1.95×0.35mを計り長軸上の坑底に2ケのピットが認められる。4号と同様縄文早期の陥し穴と考えられる。




第82図　30、31、32、33、34、35、36号土坑実測図（1/60）




第83図　35号土坑出土石器実測図（1/3）




第84図　37、38、39、40、41、42号土坑実測図（1/60）

43号土坑（第85図　図版22）

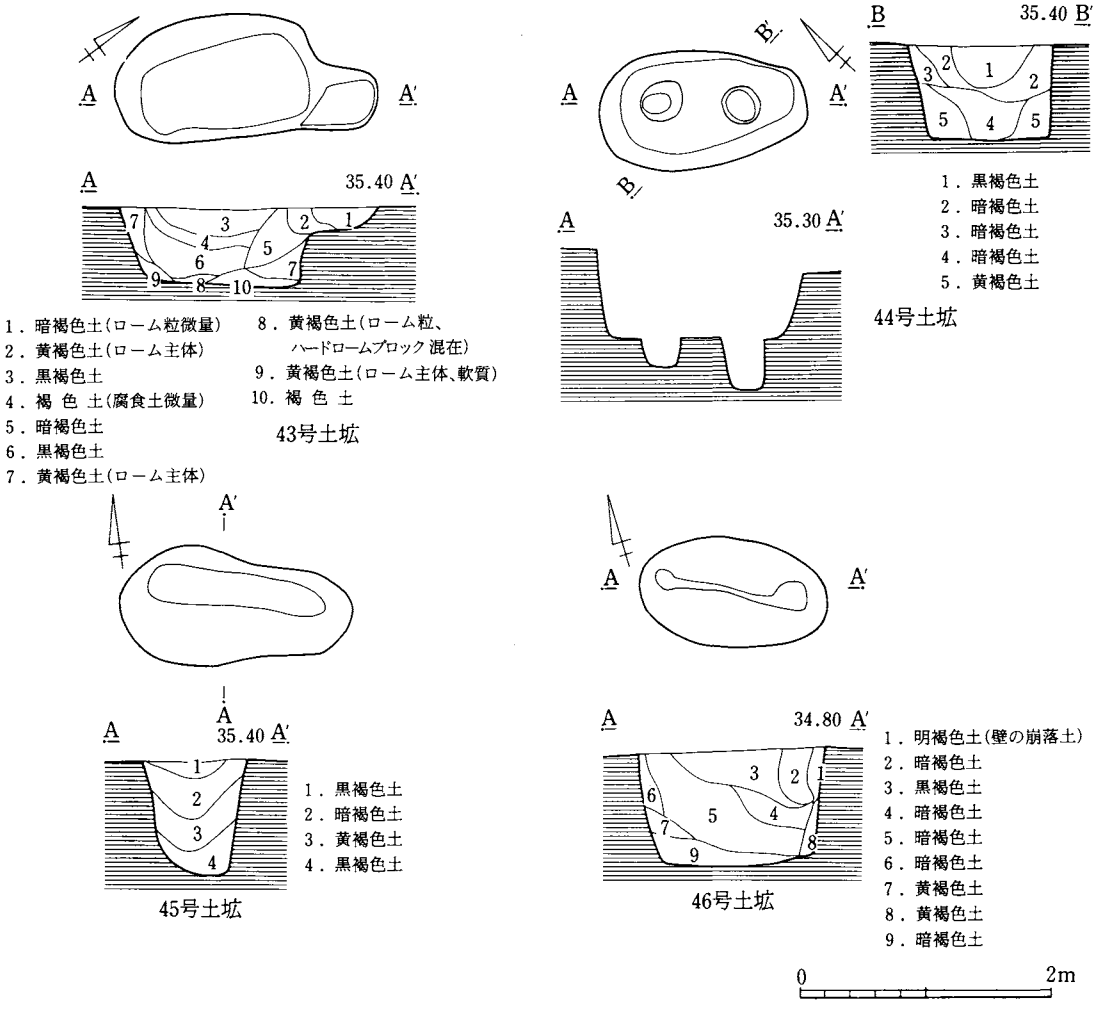
22ワ-7区に位置し、不整長方形を呈し1.62×0.96m・深さ0.61mを計る。北側を小ピットによて切られる。覆土は埋め戻されたものと観察された。時期不明。

44号土坑（第85図　図版22）

22ヲ-10に位置し、不整楕円形を呈し1.65×0.68m・深さ0.59mを計る。底は1.40×0.50mになり、長軸上に径0.3m深さ0.22・0.39のピットが掘られる。4号と同様縄文早期の陥し穴と考えられる。

45号土坑（第85図　図版22）

22ヲ-10に位置し、不整楕円形を呈し1.85×0.67m・深さ0.92mを計る。底は1.41×0.24mになり、4号と同様縄文早期の陥し穴と考えられる。




第85図　43、44、45、46号土坑実測図（1/60）

46号土坑（第85図　図版22）

22タ-17に位置し、不整楕円形を呈し1.50×0.76m・深さ1.00mを計る。底は1.22×0.05mになり底面はほとんどないようなV字形断面を示す土坑である。4号と同様縄文早期の陥し穴と考えられる。

47号土坑（第86図）

24ヨ-5に位置し、溝状の土坑で1.69×0.21m・深さ0.18mを計る。ごく幅の狭いもので覆土底面に少量の焼土を含む。時期不明。

48号土坑（第86図）

24ヨ-10に位置し、溝状の土坑で1.92×0.20m・深さ0.11mを計る。ごく幅の狭いもので覆土底面に少量の焼土を含む。時期不明。

49号土坑（第86図）

24ヨ-10に位置し、溝状の土坑で2.34×0.26m・深さ0.15mを計る。ごく幅の狭いもので覆土底面に少量の焼土を含む。時期不明。

50号土坑（第86図　図版22）

23タ-24に位置し、不整長方形を呈し1.79×0.68m・深さ0.82mを計る。底は1.15×0.36mになり、時期は不明。

51号土坑（第86図　図版22）

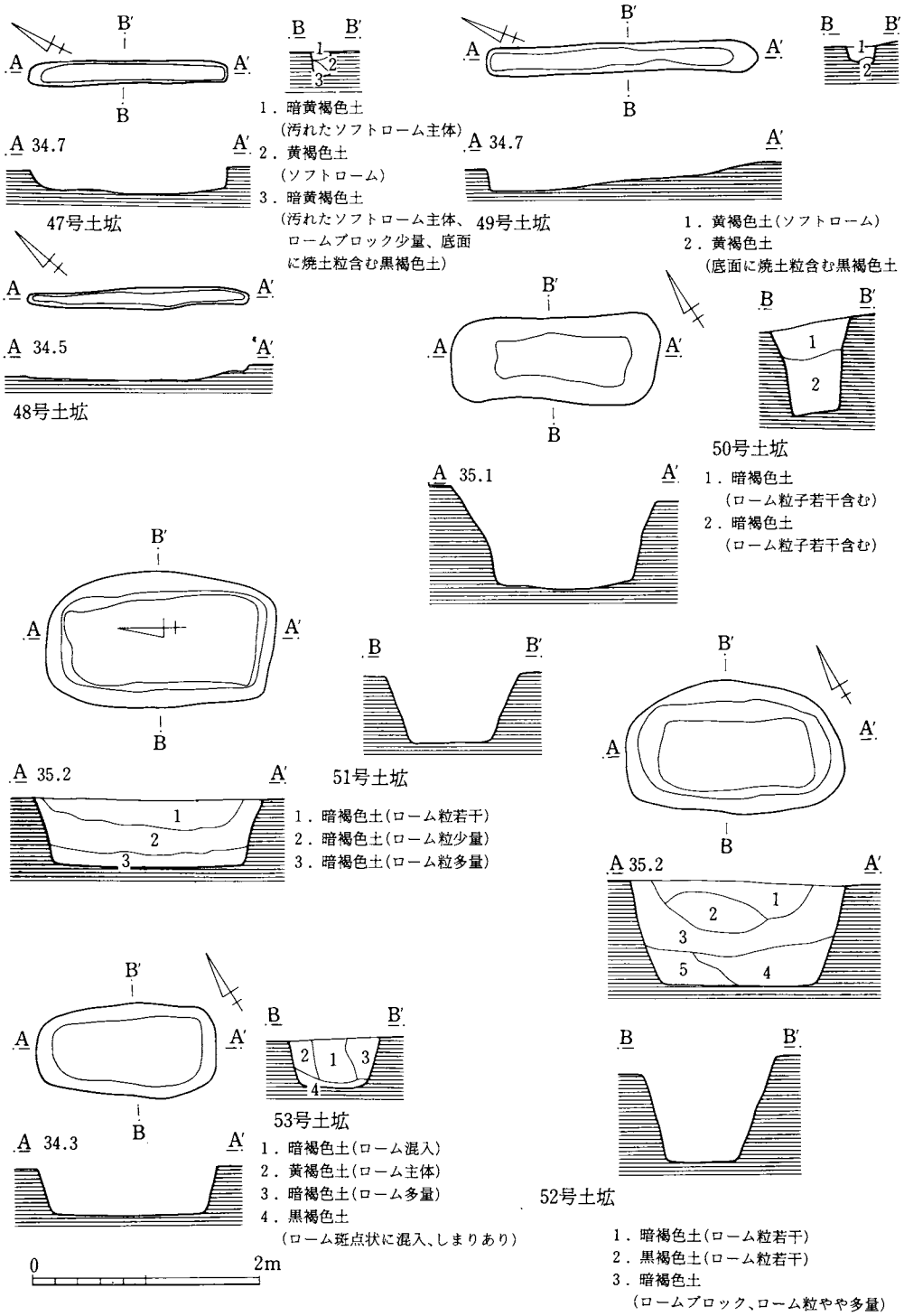
24ソ-6に位置し、長方形を呈し1.97×1.15m・深さ0.59mを計る。底は1.67×0.69mになり、箱型の整った形態を示す。時期は不明。

52号土坑（第86図　図版22）

24ソ-11に位置し、長楕円形を呈し1.87×1.13m・深さ0.90mを計る。底は1.28×0.60mになり、箱型の整った形態を示す。時期は不明。

53号土坑（第86図　図版22）

24ソ-7に位置し、長方形を呈し1.55×0.79m・深さ0.39mを計る。底は1.33×0.58mになり、箱型の整った形態を示す。時期は不明。




第86図　47、48、49、50、51、52、53号土坑実測図（1/60）

## C 土　器

向原遺跡の調査においては、明確な遺構が伴わず包含層として把握されグリッドを単位とし縄文時代の土器が多く検出された。その内容も早期の撚糸文系統の土器から後期の中葉の土器までに及ぶ。向原遺跡の調査は全体として約12万m²に及ぶ台地面を対象としているが、縄文時代を対象とした本調査が実施されたのは約その半分で、また本調査が実施された部分でも東側の古墳分布地域は、縄文時代の遺物については本来の分布を示しているとは言えない。ここで報告する資料は調査対象地の台地面のうち、本調査対象となった部分、結果的には山林荒撫地の台地縁辺部分出土の資料である。基本的には下記のIV群に分類し各群の破片数分布によりその土器群の示すところの意味の一端を探ることに勤めた。

第Ⅰ群　　縄文時代早期の土器
第Ⅱ群　　縄文時代前期の土器
第Ⅲ群　　縄文時代中期の土器
第Ⅳ群　　縄文時代後期の土器

### 第Ⅰ群土器　縄文時代早期の土器

縄文時代早期の撚糸文系統の土器から条痕文系統の土器までを一括する。

#### 第1類　井草Ⅱ式（第87・88図1～14　図版29）

口唇がわずかに肥厚外反し、口唇部文様帯に縦位ないし斜行する縄文を施し、胴部に縦位の縄文が施される。頸部に僅かな無文帯を持つものとまったく持たないものがある。

出土量は多くないが、台地南西部の21ル・22ル区あたりに比較的集中し、他の地区ではまったく散在的である。

#### 第2類　夏島式（第88図15～23　図版29）

口唇が僅かに外反ないし直立し、縦位の縄文ないし撚糸文が施される。

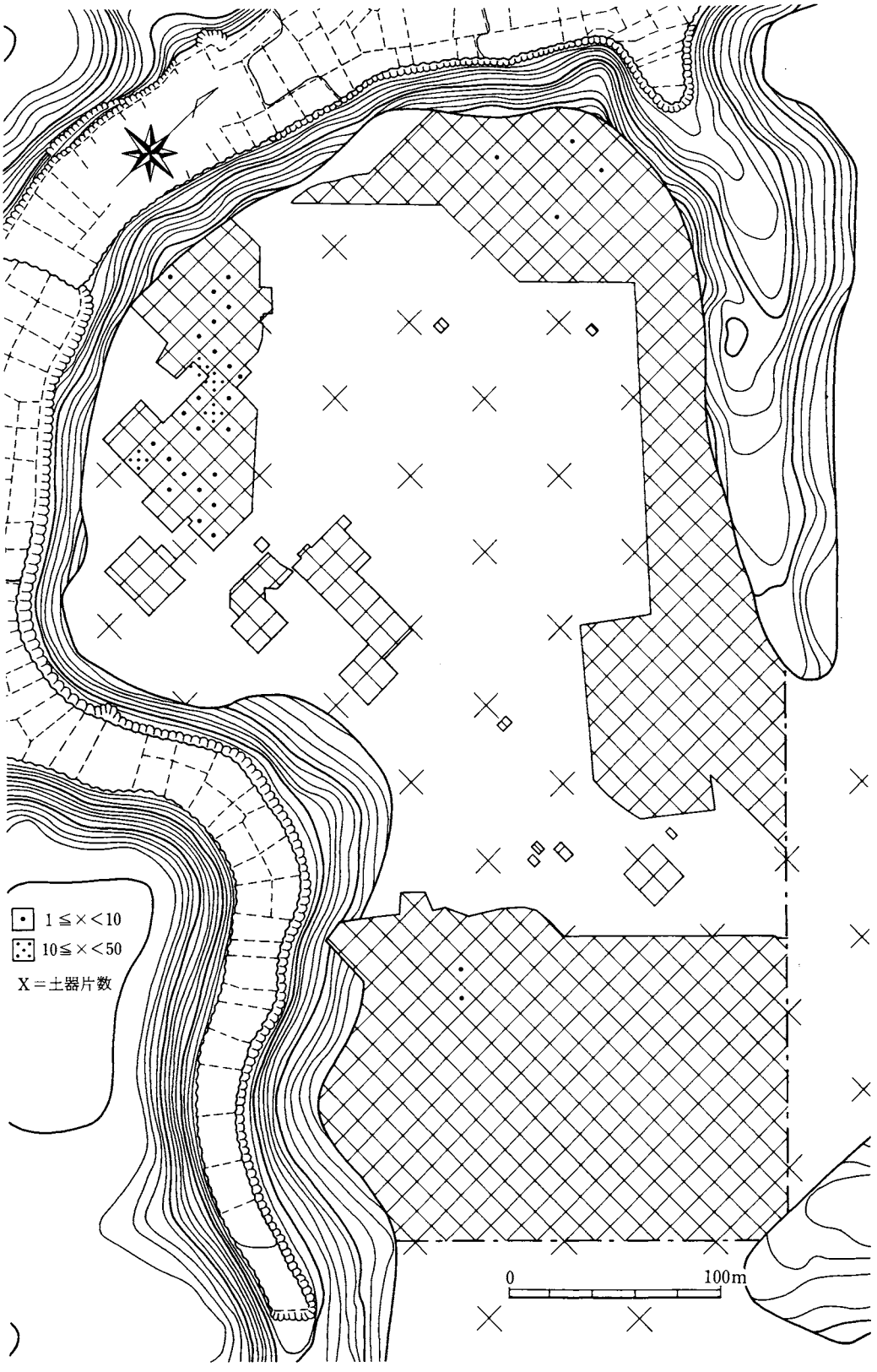
#### 第3類　田戸下層式土器（第89図　図版29）

出土量は少なく、全体の文様構成を知ることができる資料はない。太い沈線のもの28～33・45～47、細沈線と爪形文のもの35～38、細沈線と円形刺突のもの34がある。

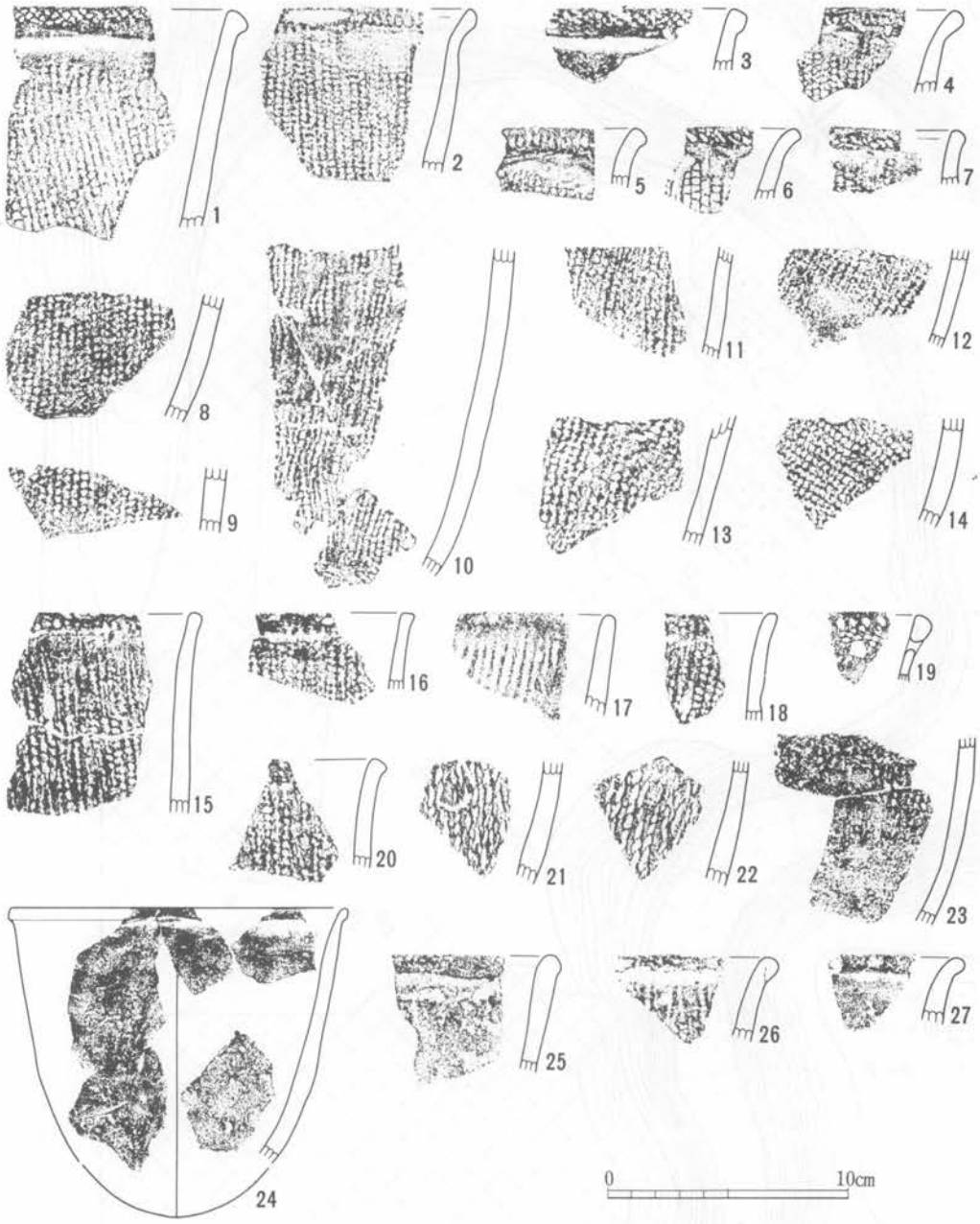
#### 第4類　条痕文系土器（第90～94図　図版30・31）

条痕文系土器を一括した。条痕が施され胎土に繊維を含むもので、全体の文様構成、器形を知ることのできるの資料が料が少なく、表裏とも条痕の土器も多い。出土量は比較的多くほとんどが遺跡北西部の18ル区を中心とする地区で出土した。

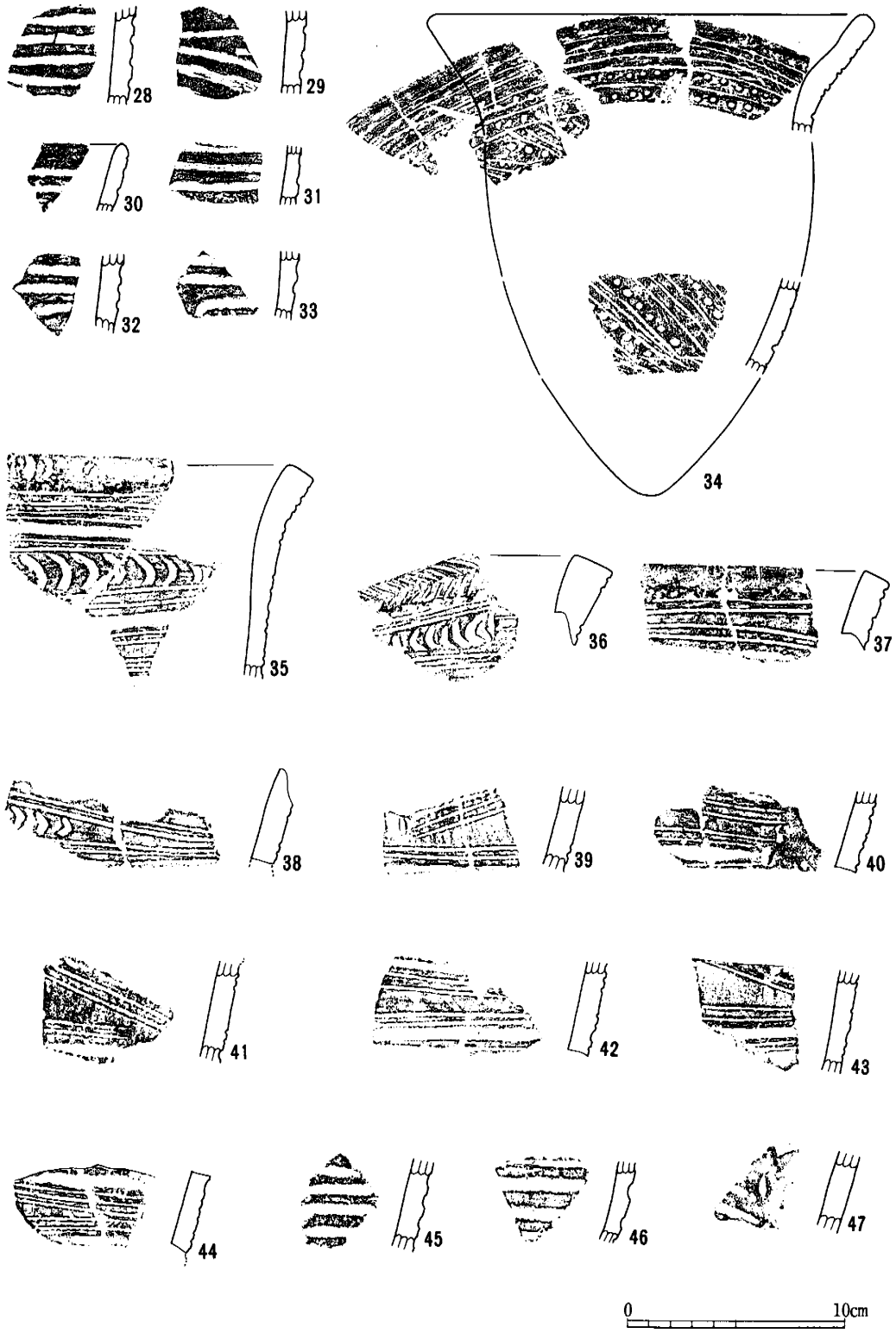
48～79は貼付けによらない細隆起線ないし細い丸棒状の工具による沈線文による区画が施され、区画内は区画沈線と同様の工具による斜条線が充塡されるという文様構成をとると思われ



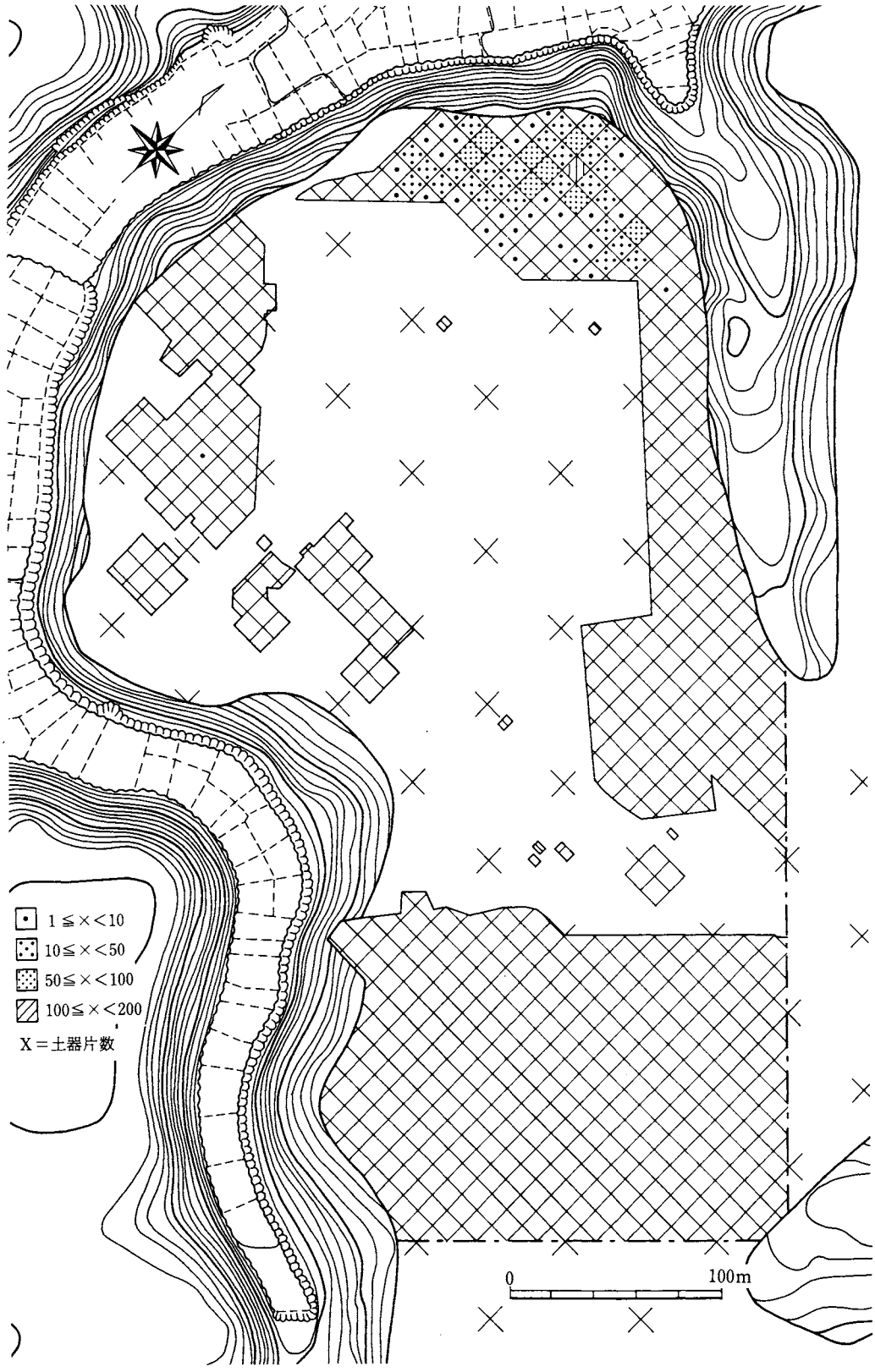

第87図　第Ⅰ群土器分布図（井草）



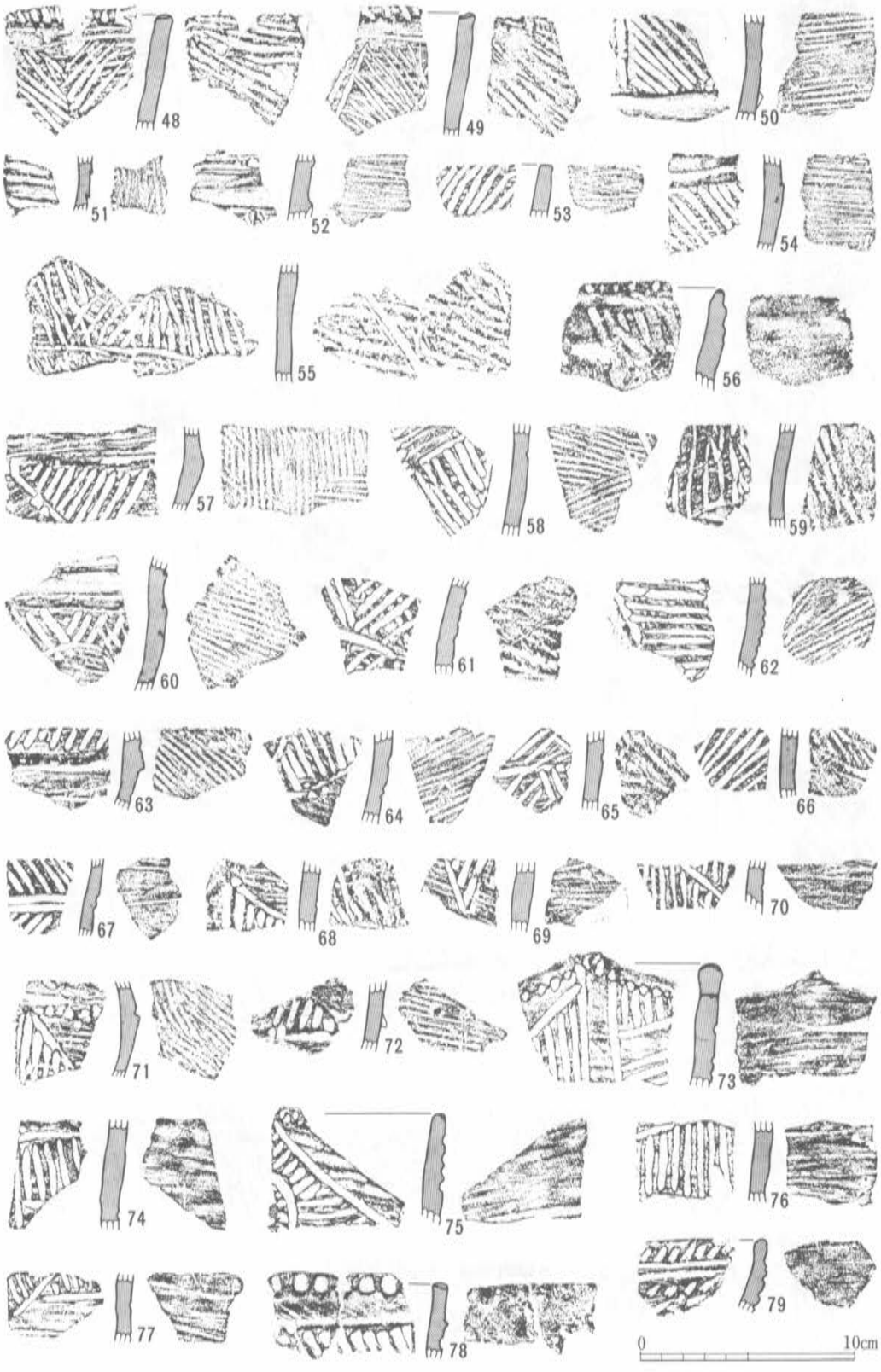

第88図　第Ⅰ群土器拓影図1（1/3）



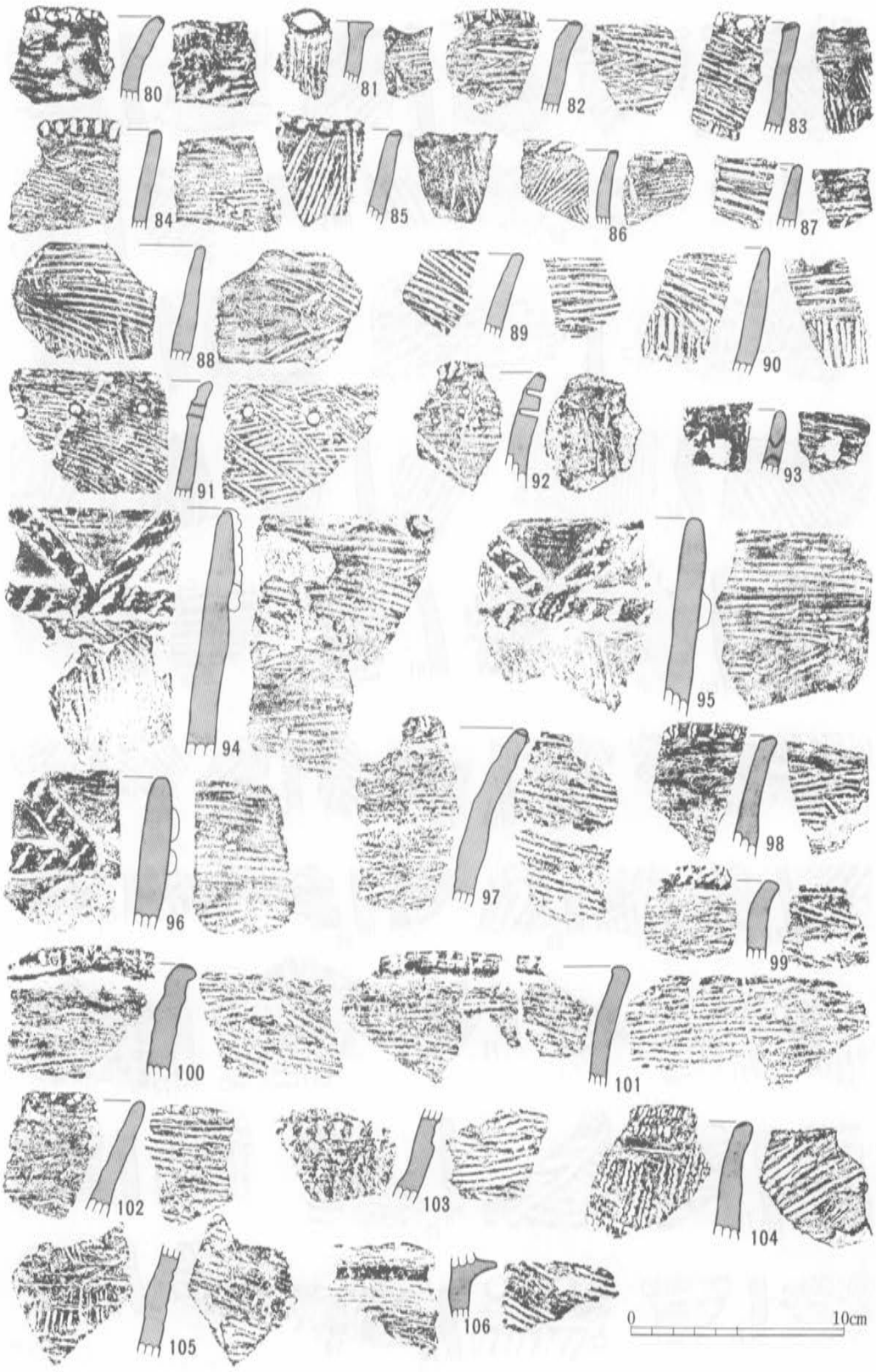

第89図　第Ⅰ群土器拓影図２（1/3）



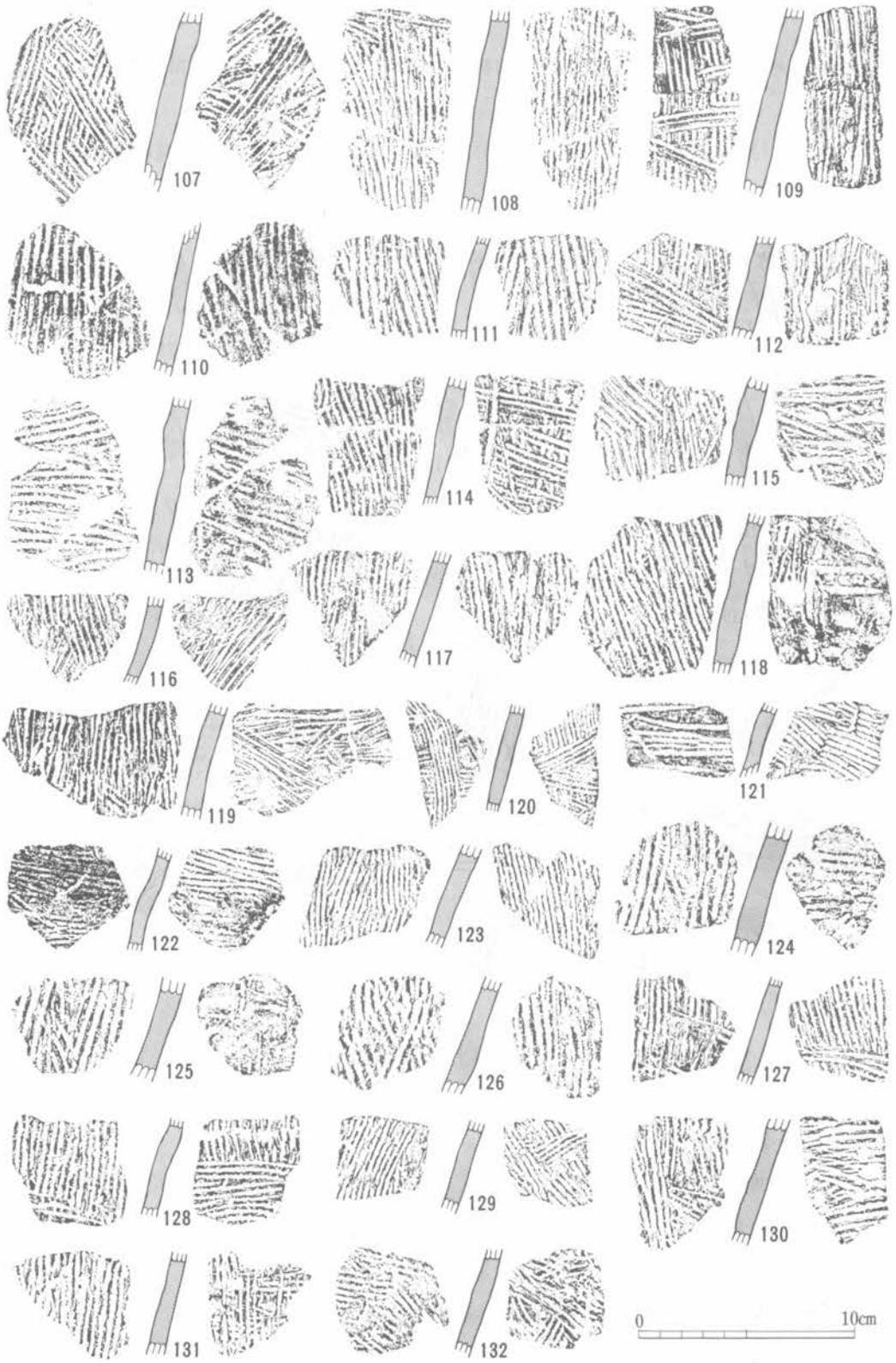

第90図　第Ⅰ群土器分布図（野島・鵜ヶ島台・茅山）




第91図　第Ⅰ群土器拓影図３（1/3）




第92図　第Ⅰ群土器拓影図４（1/3）

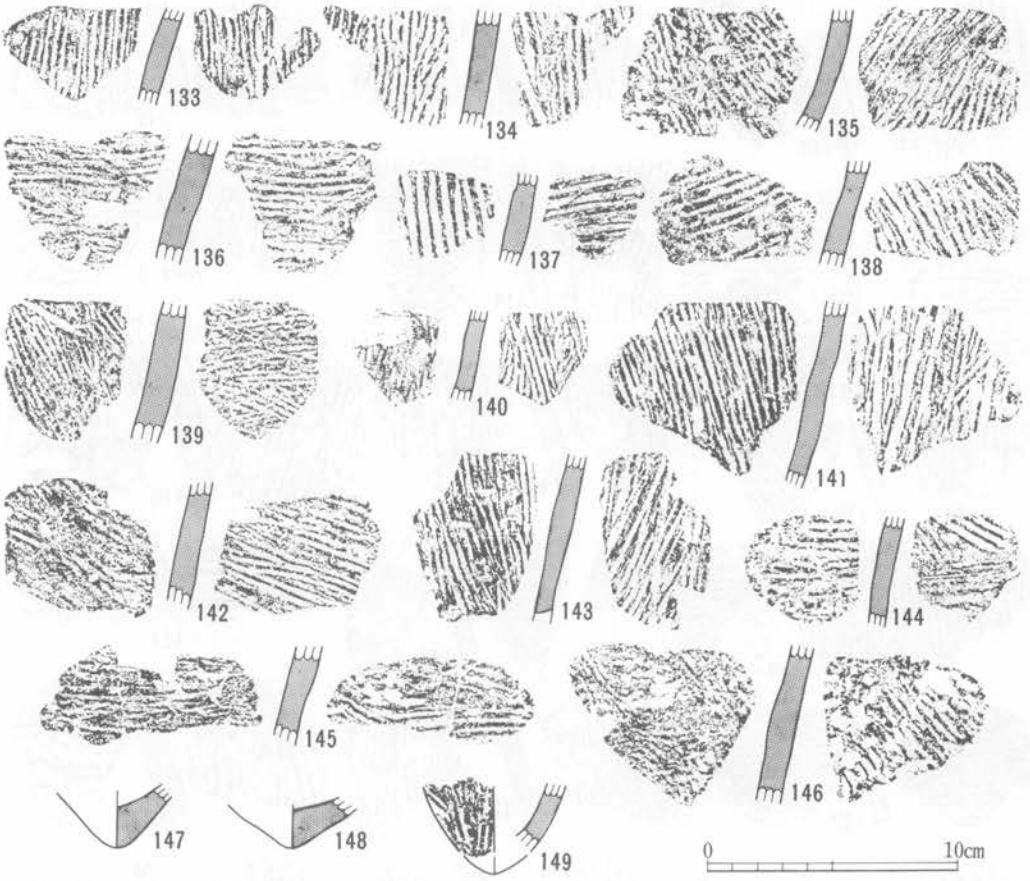



第93図　第Ⅰ群土器拓影図５（1/3）

るもの。

80～93は表裏とも条痕の口縁部破片で口唇部に刺突をもつもの、口縁部に円穴の巡るものもある。

94～96は貼付けの浮線文によって三角形の区画帯が口縁を巡り浮線上には貝殻腹縁の押捺が施される。




第94図　第Ⅰ群土器拓影図６（1/3）

## 第Ⅱ群土器　縄文時代前期の土器

縄文時代前期の土器を一括する。

### 第１類　花積下層式（第96図１～４　図版32）

１～４は表面縄文で裏面に条痕を残す土器で胎土に繊維を含む。

### 第２類　関山式（第96図５～22図　図版32）

５～９は組紐が施文される。10は口縁に四条の沈線がめぐり付加条斜縄文が施される。11～16は口縁部にコンパス文がめぐるもの。18～22は波状コンパス文が施される。

第３類　黒浜式（第96図23～100図　図版32～34）

23～43は半載竹管による有節平行沈線文あるいは爪形文が施される。

31・44・45・47は円形竹管による刺突文を口縁下にめぐらすか垂下するもの。

48～61は縄文を地文として半裁竹管ないしは多載竹管で文様を描くもので48は全体の文様構成を知ることのできる例である。

64～103は半裁竹管や多載竹管あるいは櫛状工具で器面を不規則に斜行交差させるもので81・82・91～94のように鋸歯状文様を描くものもある。

151～188は縄文のみのもので付加条縄文などその縄文の種類は多彩。

第１類から第３類の胎土に繊維を含む土器群は遺跡北西部に集中し南西部および南東部にも僅かにみられる。特に集中しているのは17オ区の台地斜面への変換点である。

第４類　浮島式（第101～112図　図版34～39）

189～311は、横走する直線的、あるいは弧線の半載竹管による平行沈線が器面に施されるものである。189は大きく開く深鉢形土器で、横走の半載竹管による有節平行沈線によって区画された多段の横位文様構成をとるもので平行沈線間は、斜条文、山形波状文、波状文と多彩な文様が充塡され無文帯もある。190も同様の深鉢形土器で、有節平行沈線による横位区画と波状文が施文される。192～215は有節平行沈線を区画線として斜条線、鋸歯文、弧線、斜刺突などで飾るものである。216～246は平行沈線を区画線として弧線、斜条線、弧線、波状文で施文される。250～257は平行沈線に円形竹管がみられる。258～279は貝殻腹縁の押捺を地文として平行沈線、有節平行沈線、円形竹管、半載竹管による波状文などが施される。287～292は横位の山形波状文と平行沈線で多段構成をもつもの。293～307は半円弧文や肋骨文で多段構成を持つもの。

312～341は細い沈線や条線で全面を飾るもの。

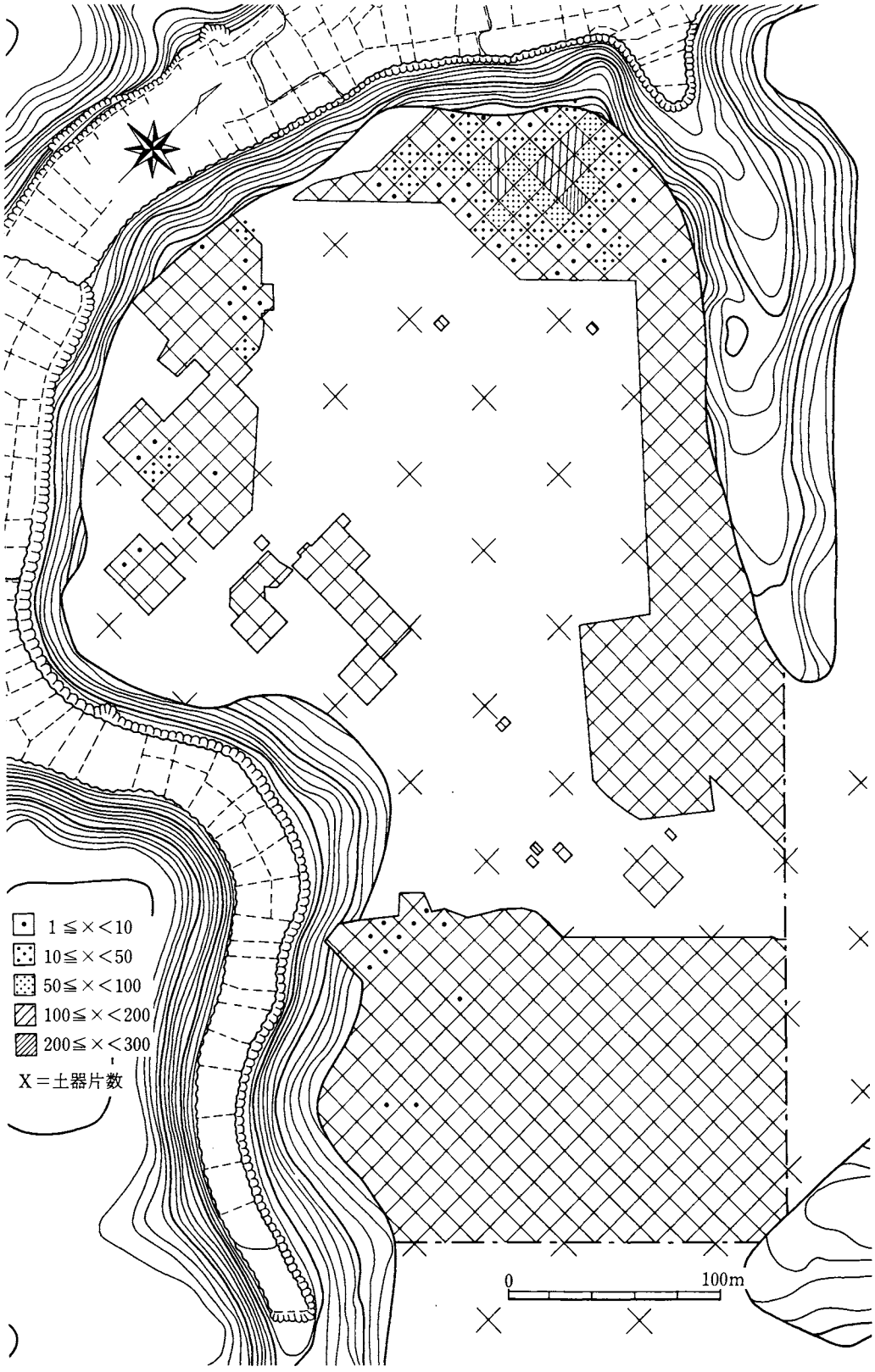
342～369は撚糸文の施される土器片である。

370～449は貝殻腹縁による波状のあるいは連続した貝殻文の施されたものである。370～388はアナダラ属の貝殻腹縁の両端を交互に支点にすることにより波状文を形どり389～405はハマグリなど腹縁の直線的な貝による。

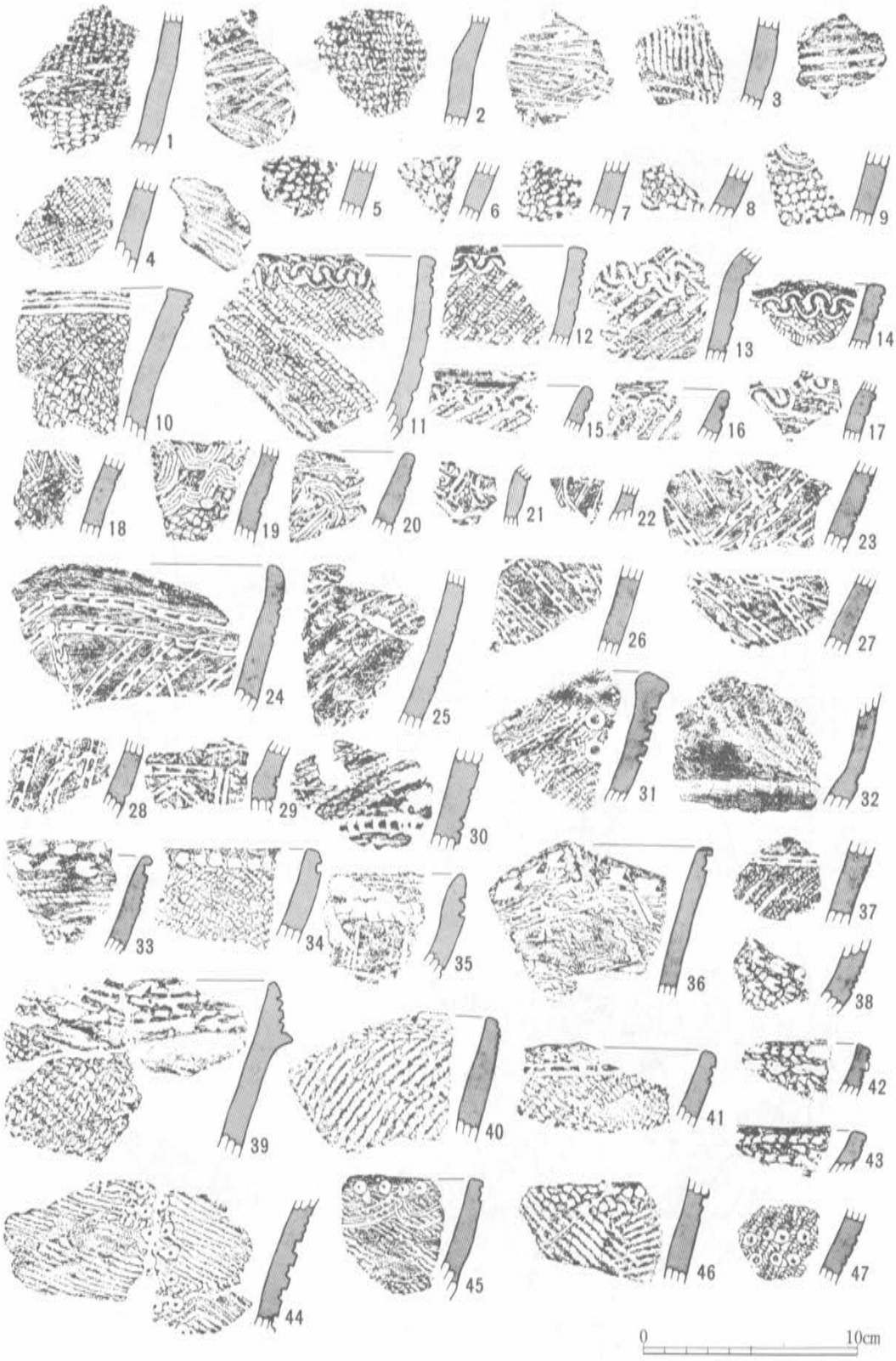
406～445は三角文の施されるもので口縁には斜沈線、斜条線がめぐる。451～472は半載竹管による変形爪形文の施されるものである。

473～486は棒状工具による横走する押捺文ないしは刺突文の加えられるもの。

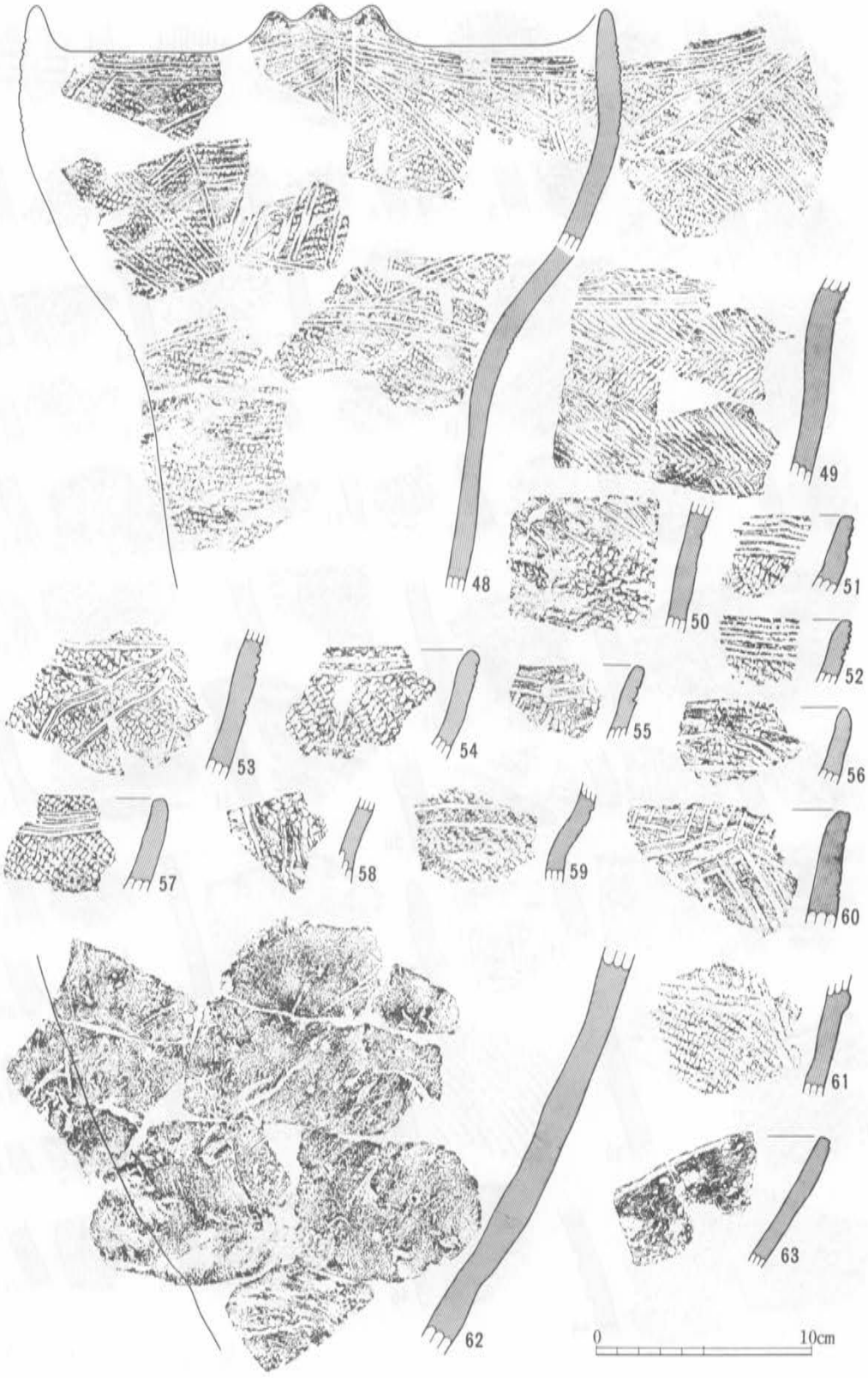
第４類土器も第１～３類土器同様遺跡北西部に集中し南西部および南東部にも僅かに分布する。特に18オ-１区を中心とした地区への集中が著しく３号住居跡、４号住居跡の周辺に当たる。



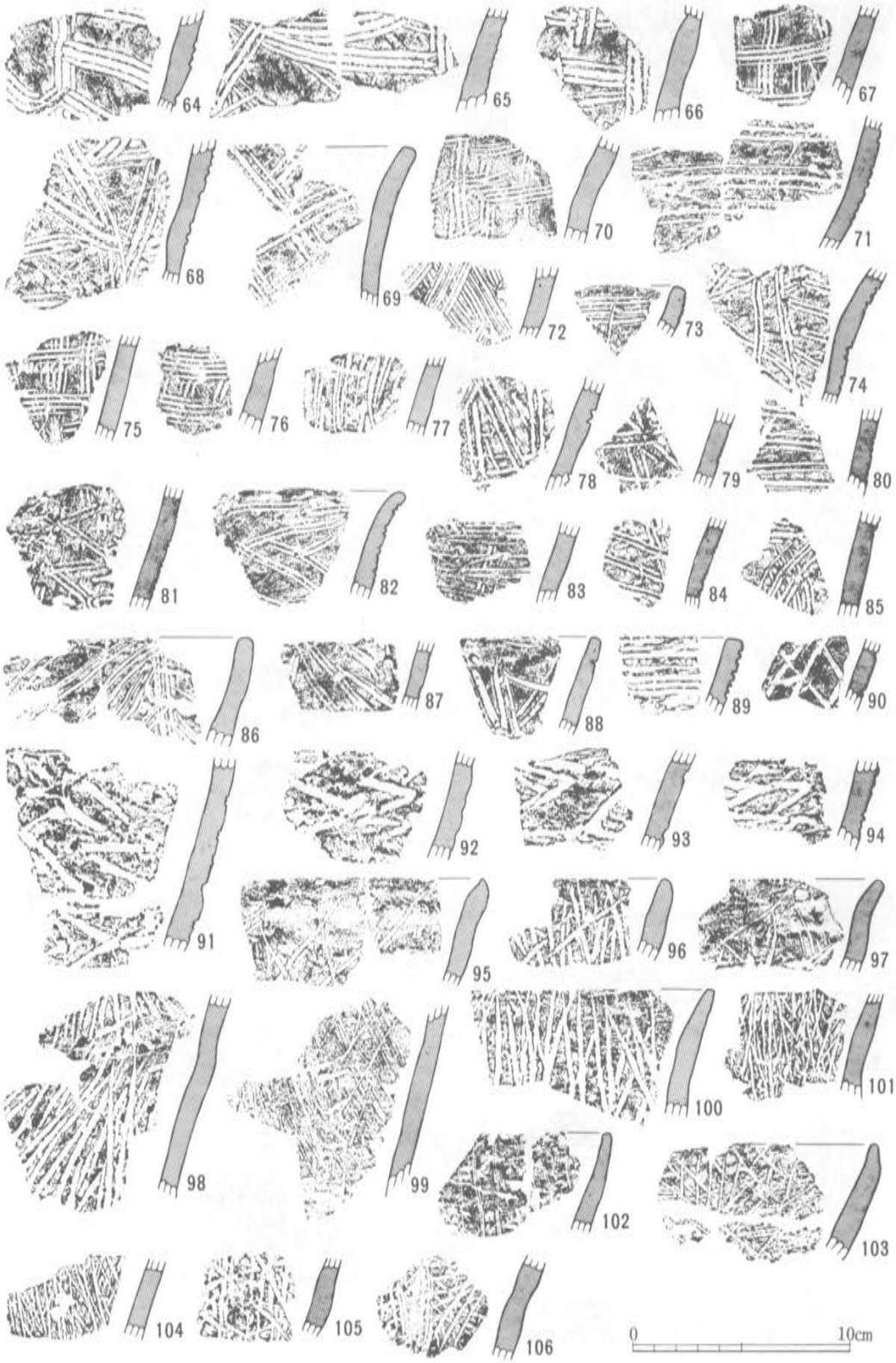

第95図　第II群土器分布図（花積下層・関山・黒浜）



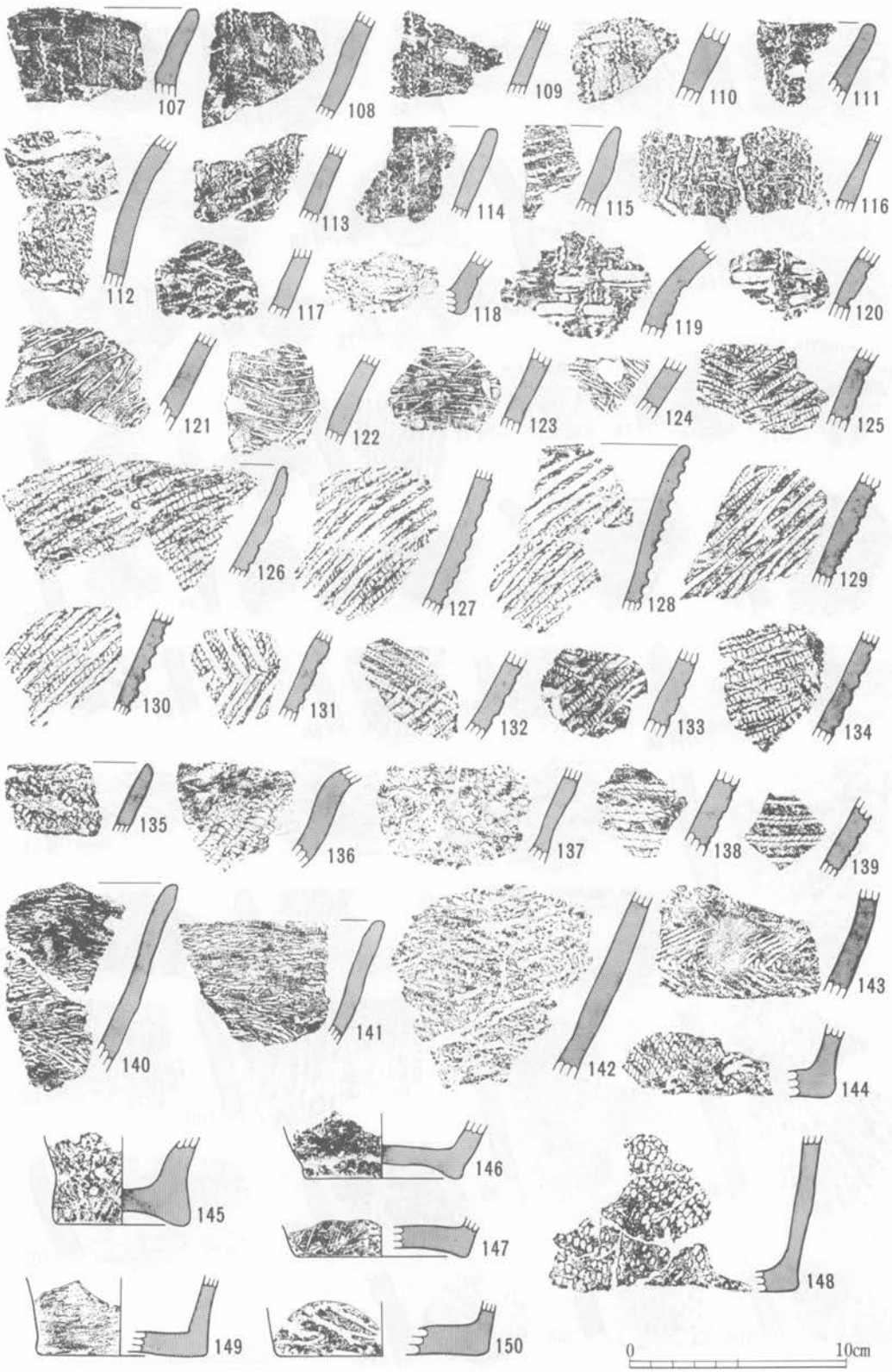

第96図　第Ⅱ群土器拓影図１（1/3）



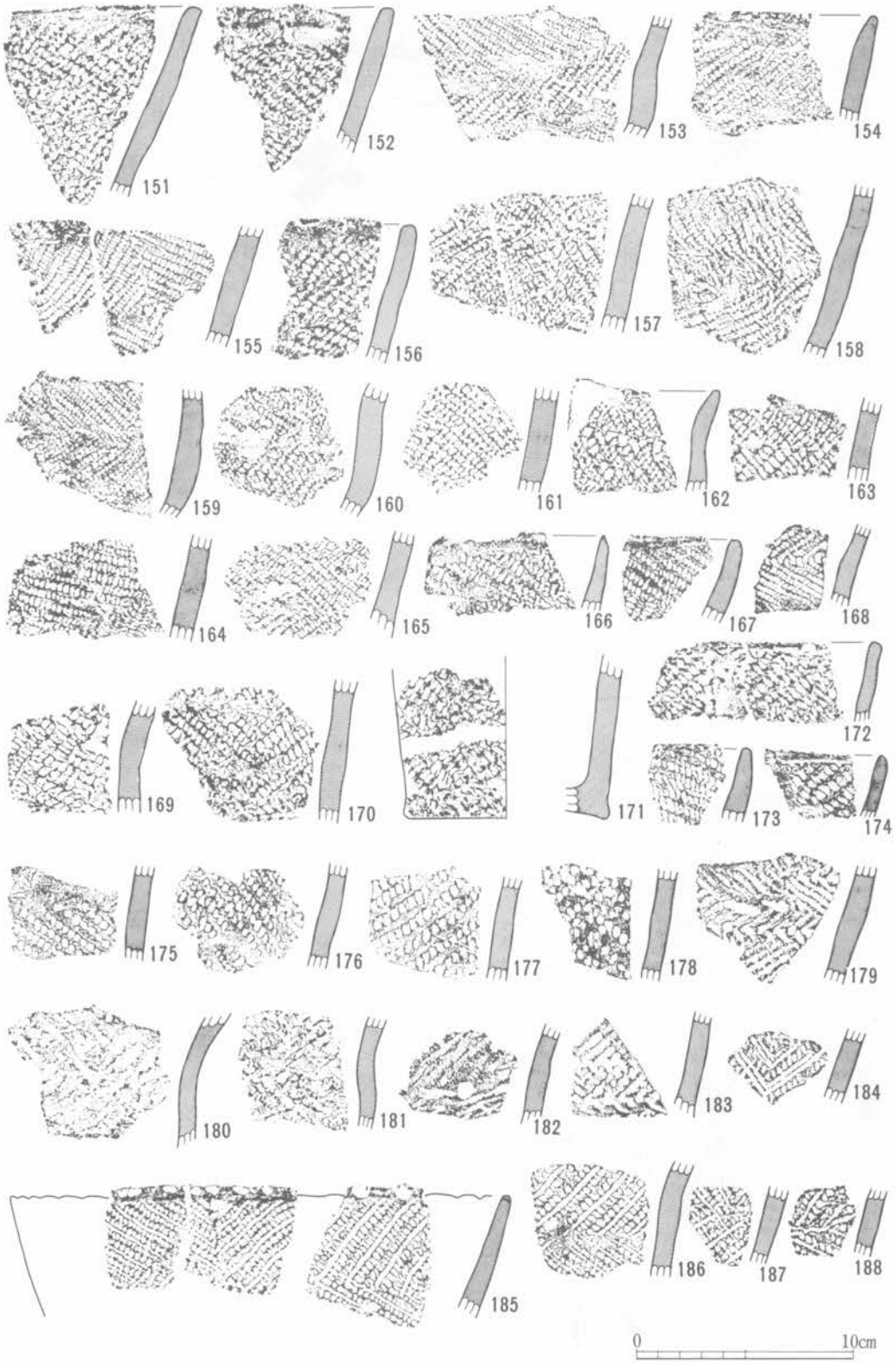

第97図　第II群土器拓影図２（1/3）



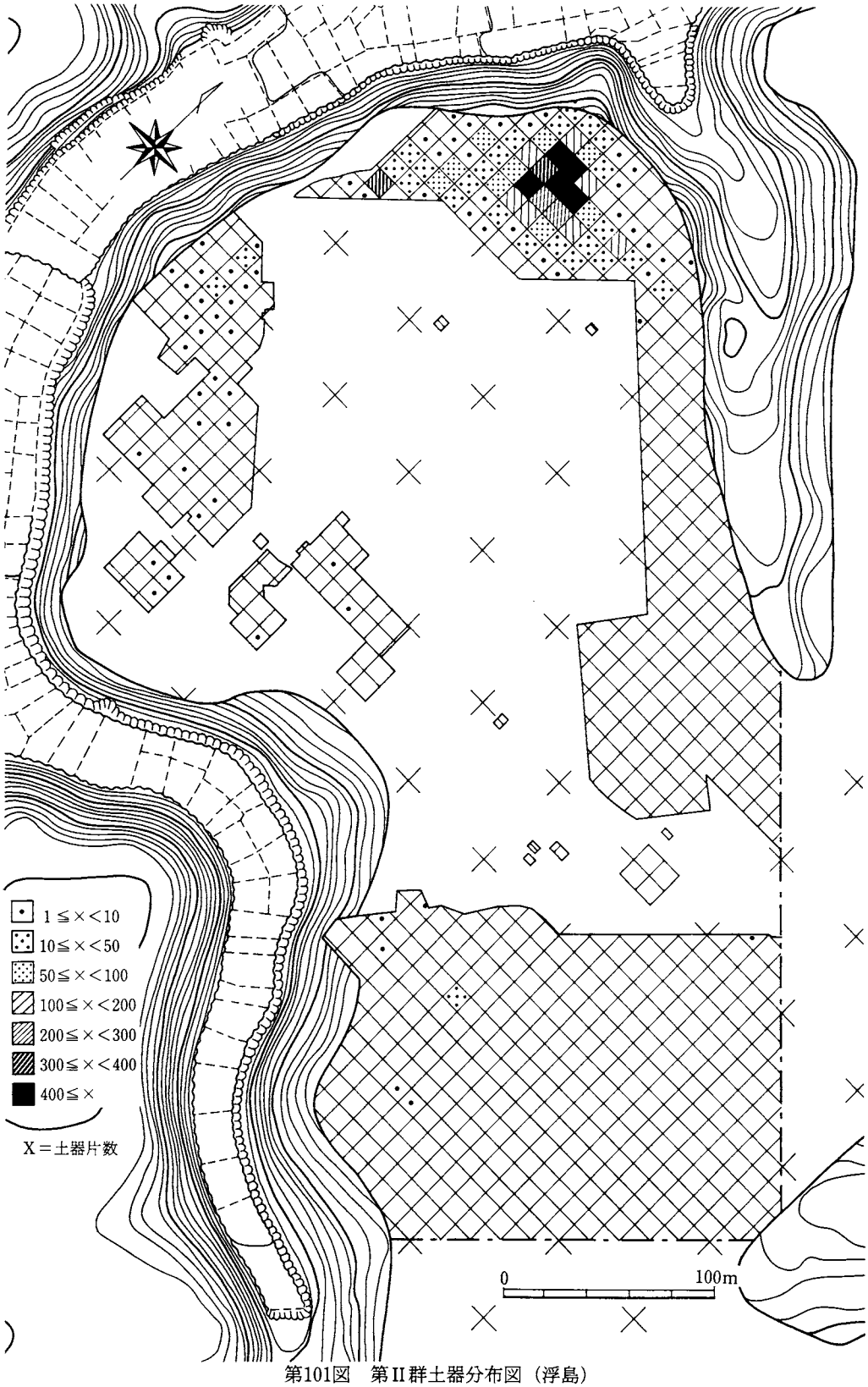

第98図　第Ⅱ群土器拓影図３（1/3）



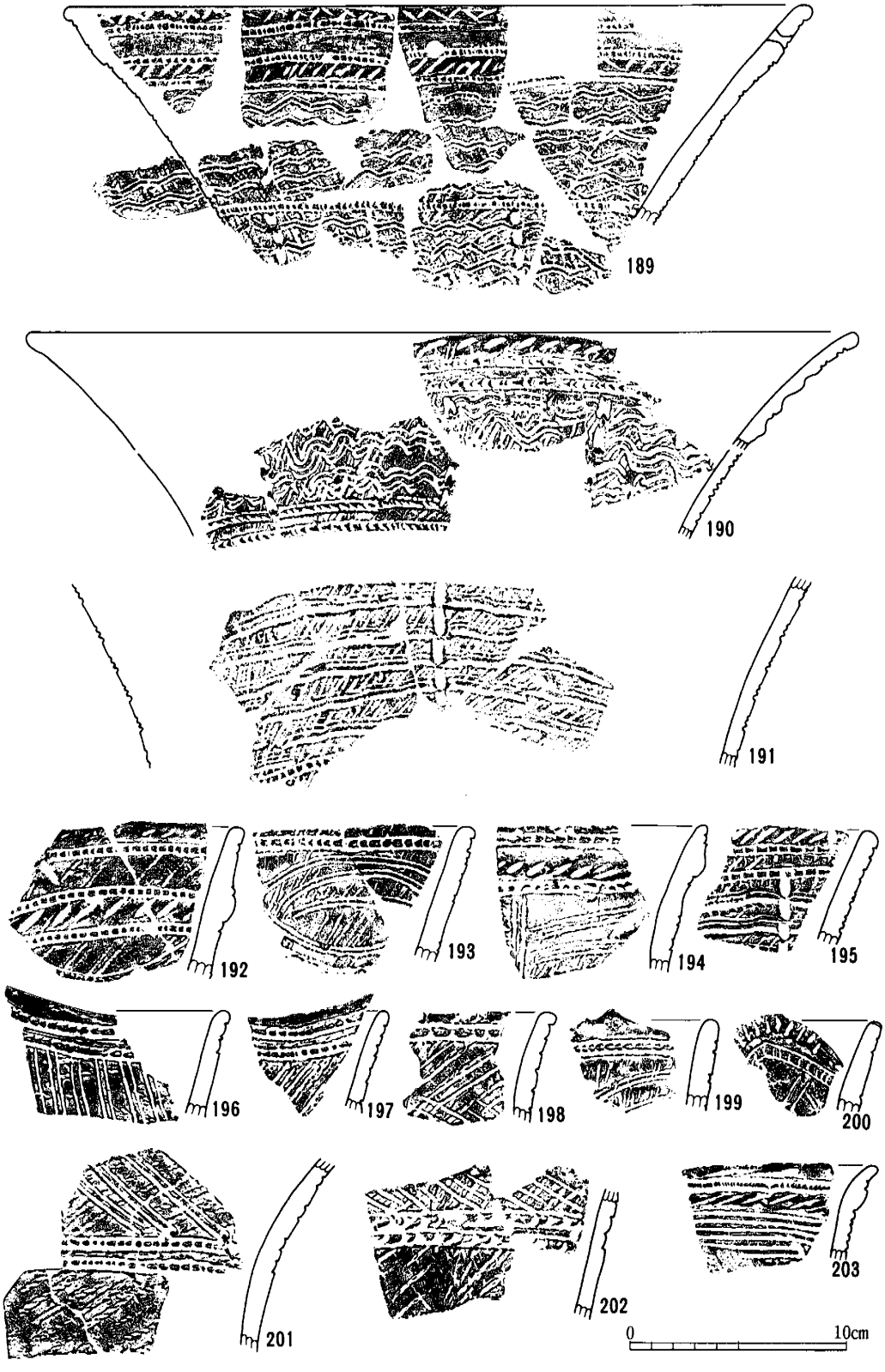

第99図　第Ⅱ群土器拓影図４（1/3）



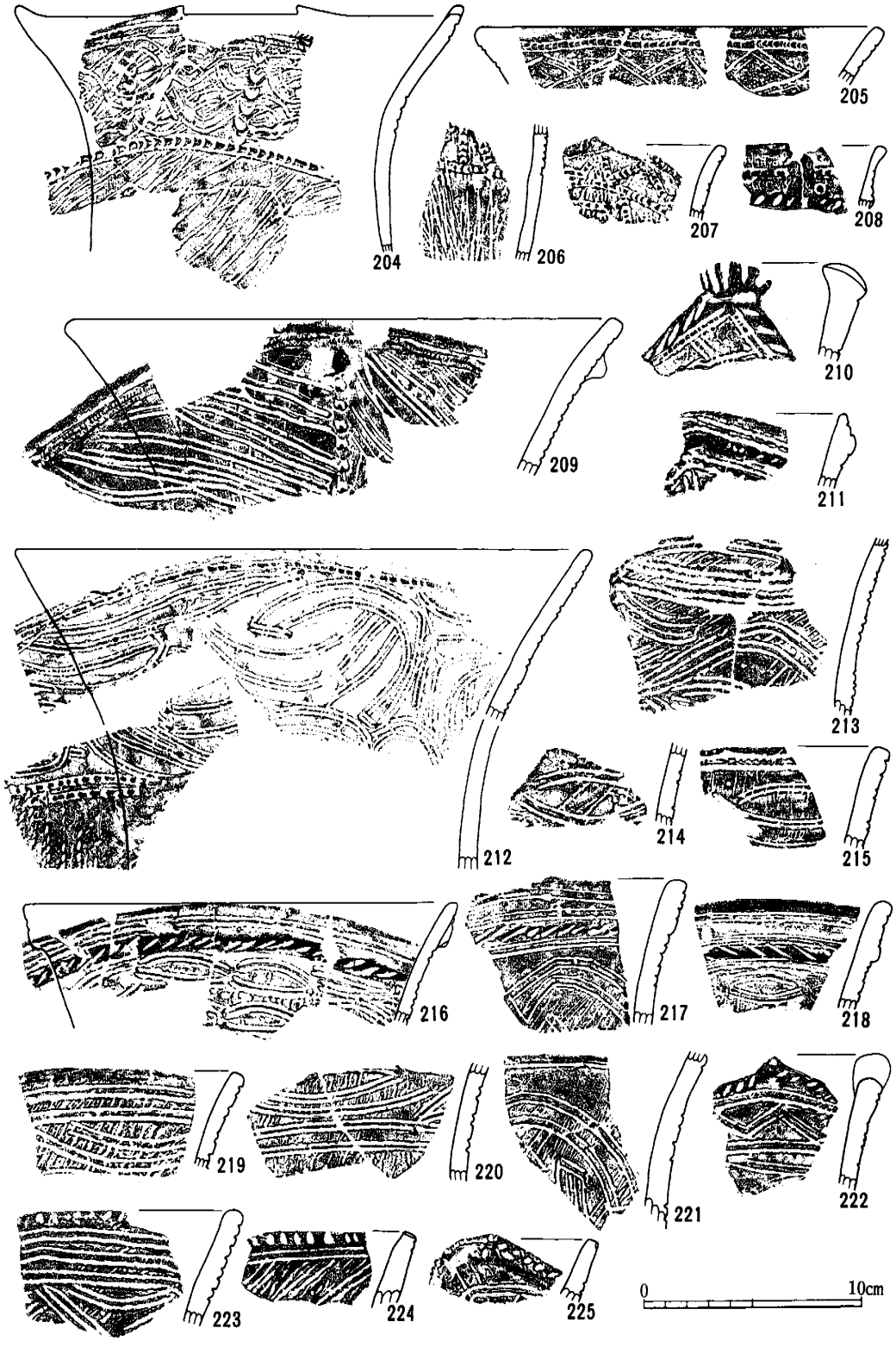

第100図　第Ⅱ群土器拓影図５（1/3）




第101図　第II群土器分布図（浮島）

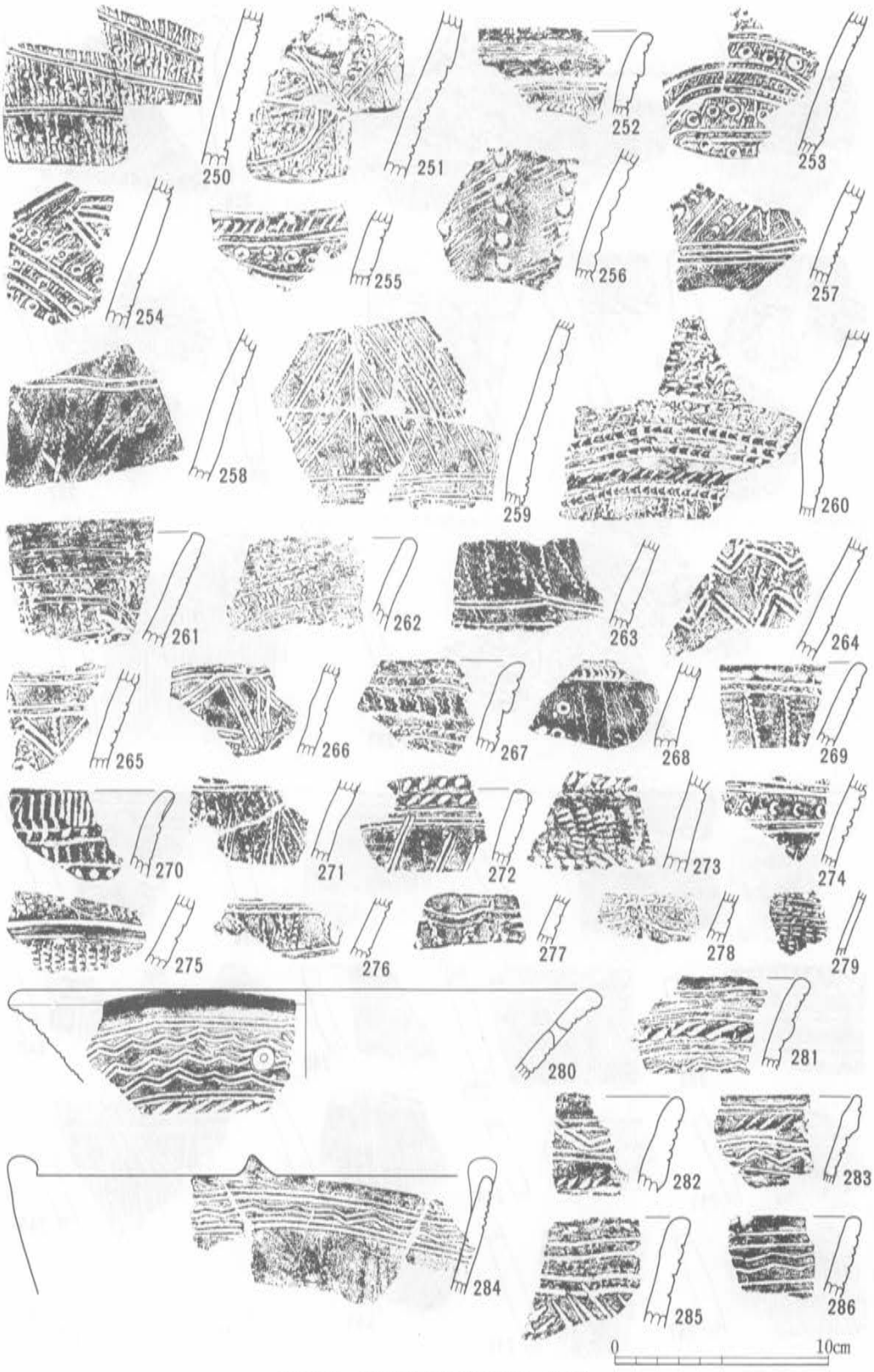



第102図　第II群土器拓影図6 (1/3)

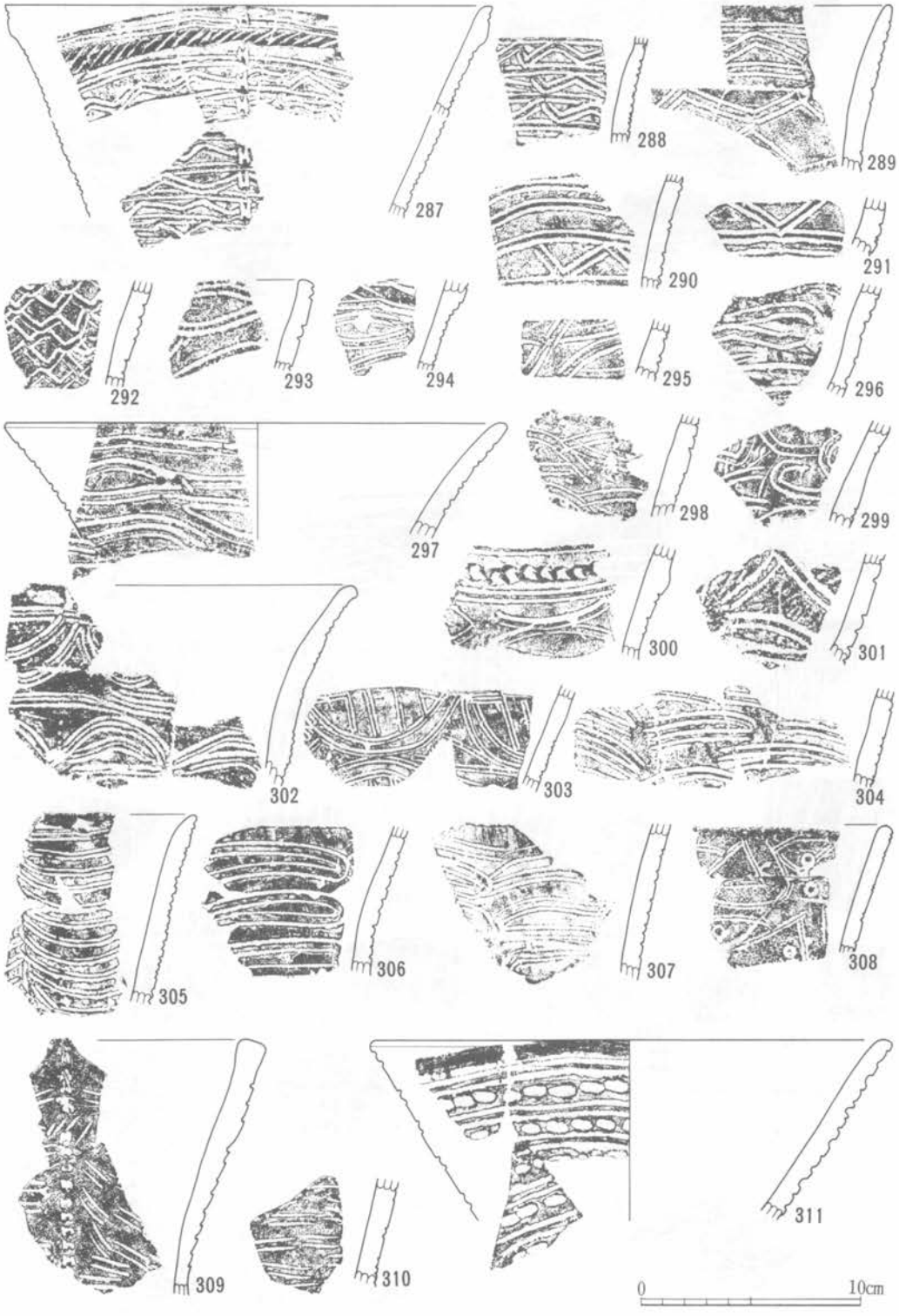



第103図　第II群土器拓影図７（1/3）

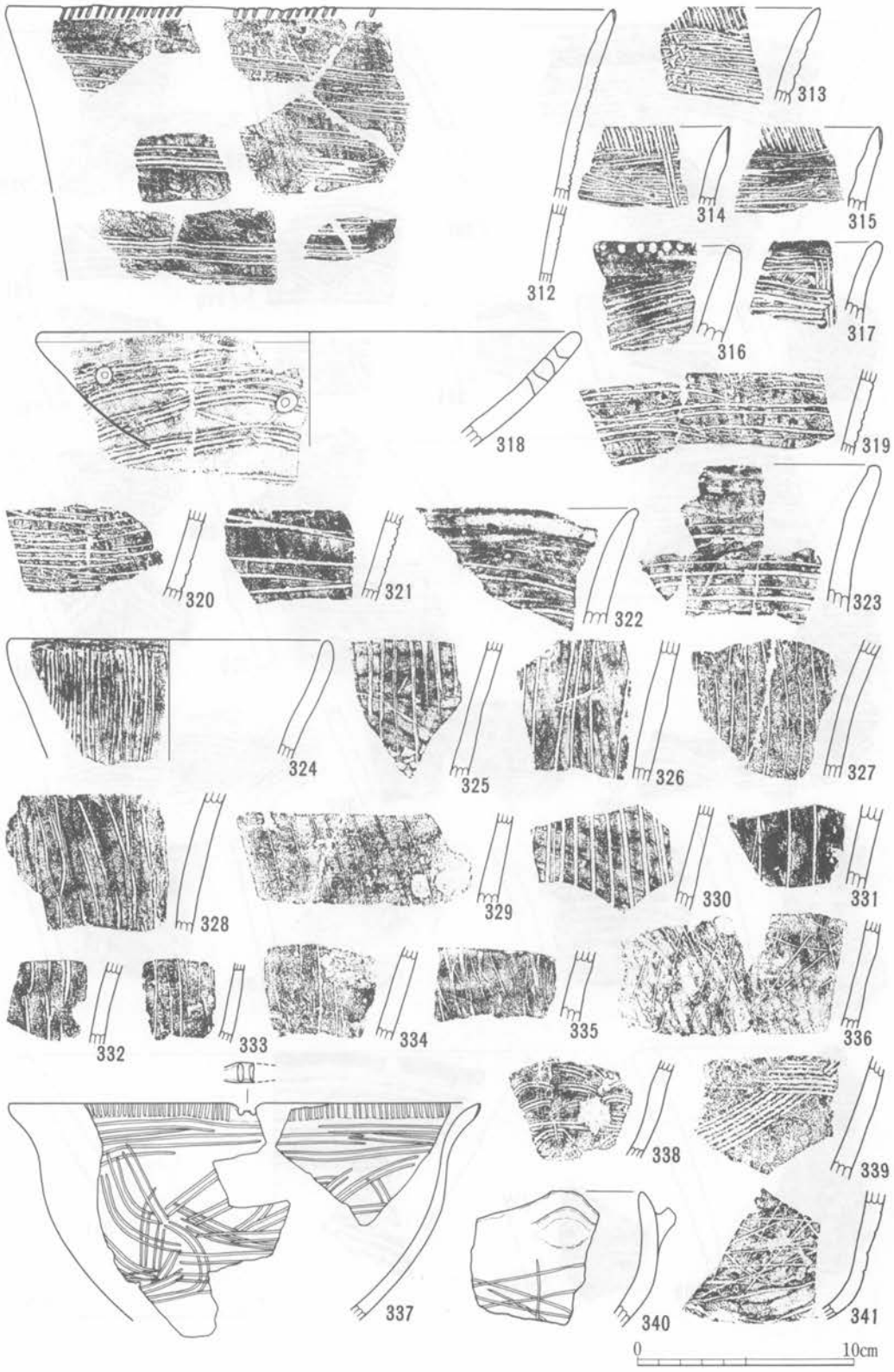
第104図　第II群土器拓影図８（1/3）



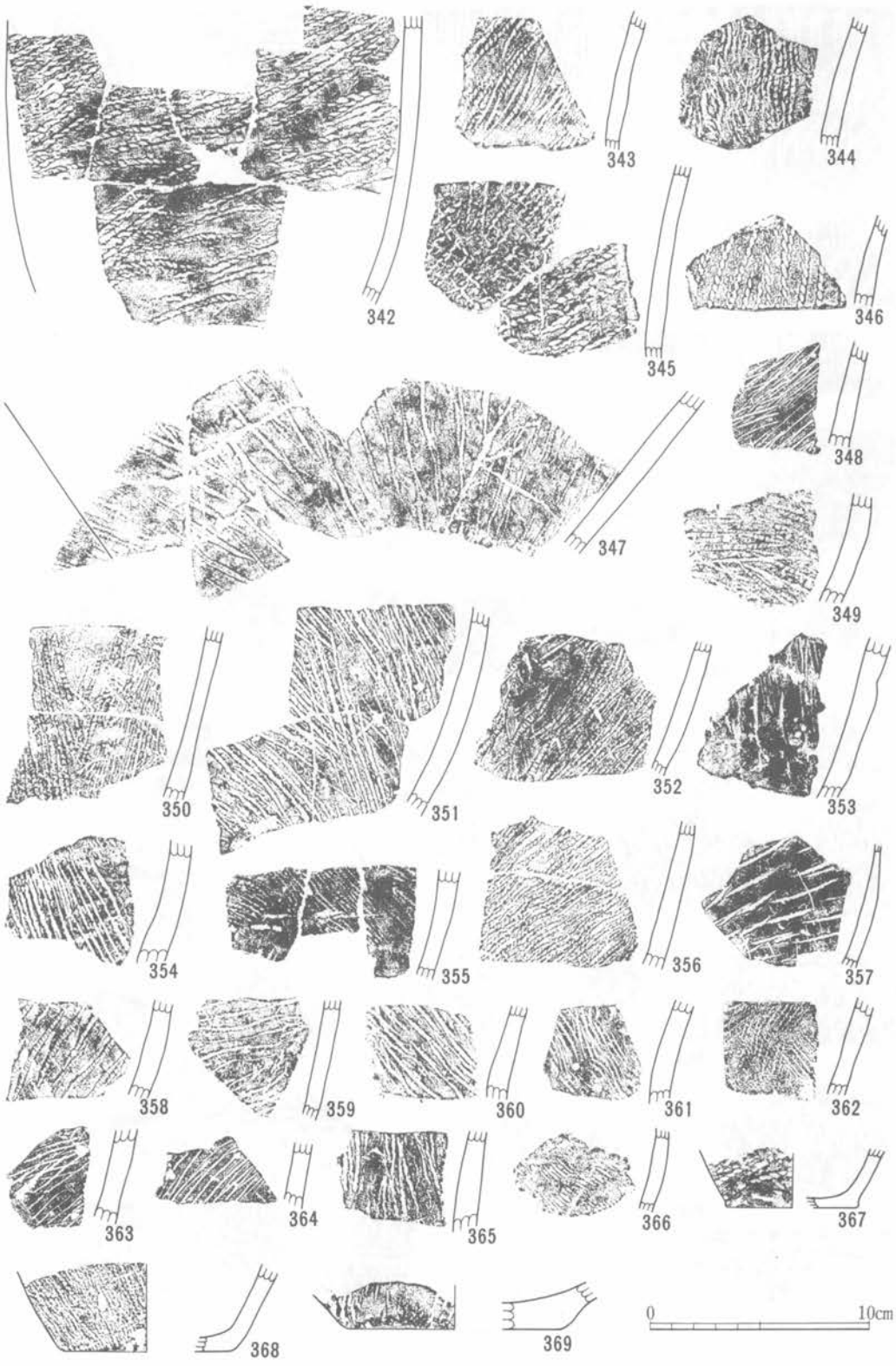

第105図　第II群土器拓影図9 (1/3)



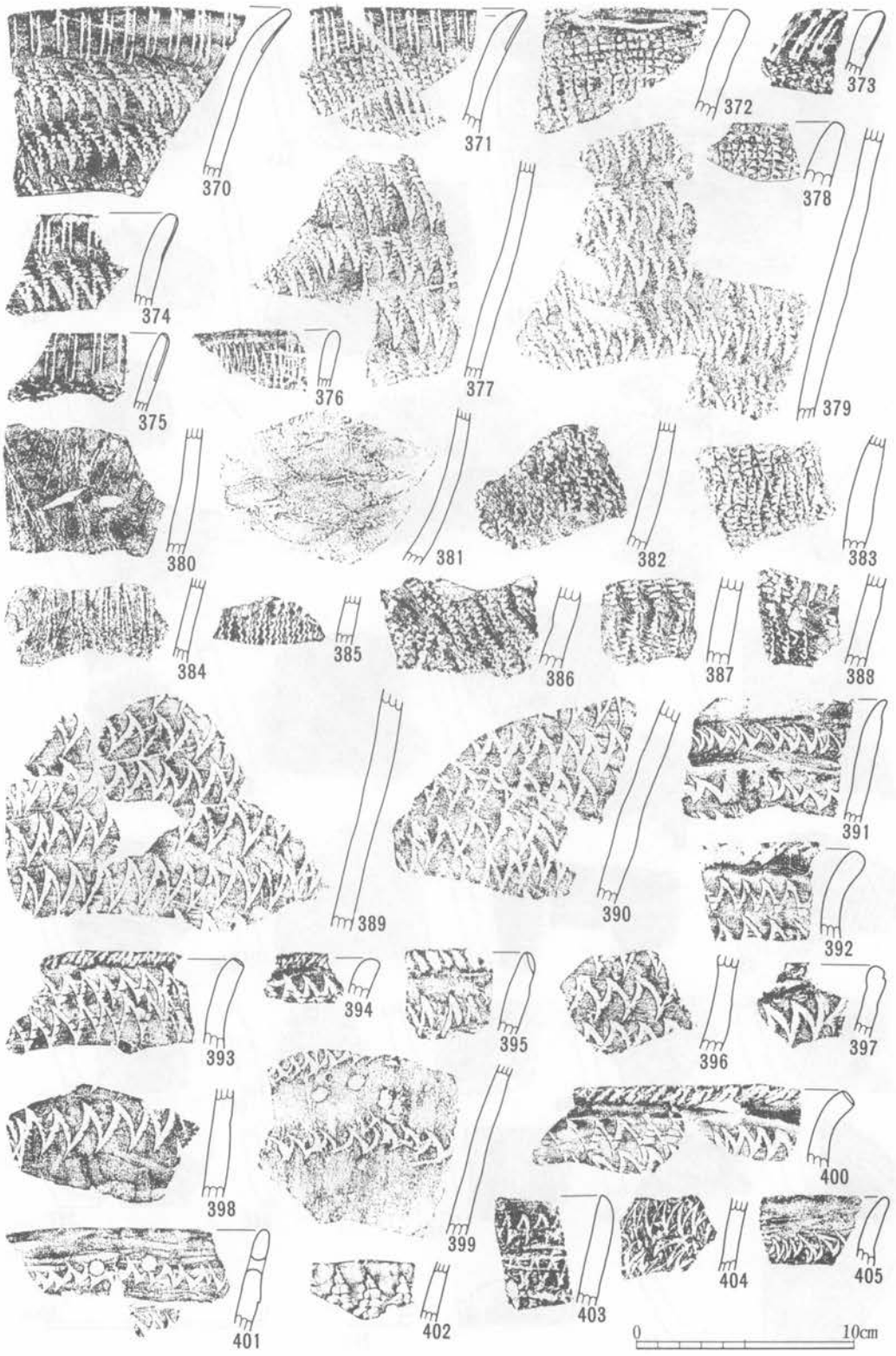

第106図　第II群土器拓影図10（1/3）



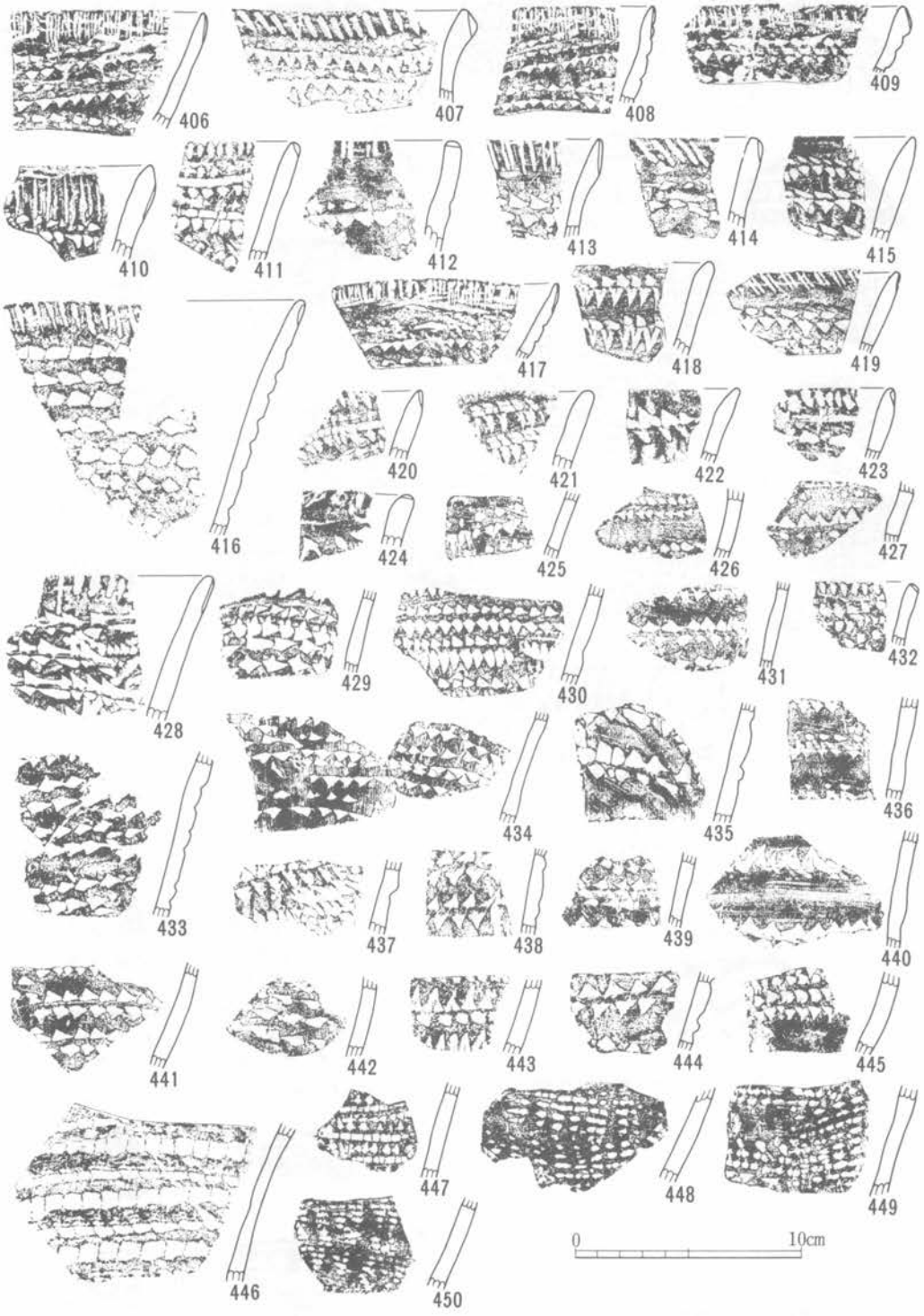

第107図　第Ⅱ群土器拓影図11（1/3）



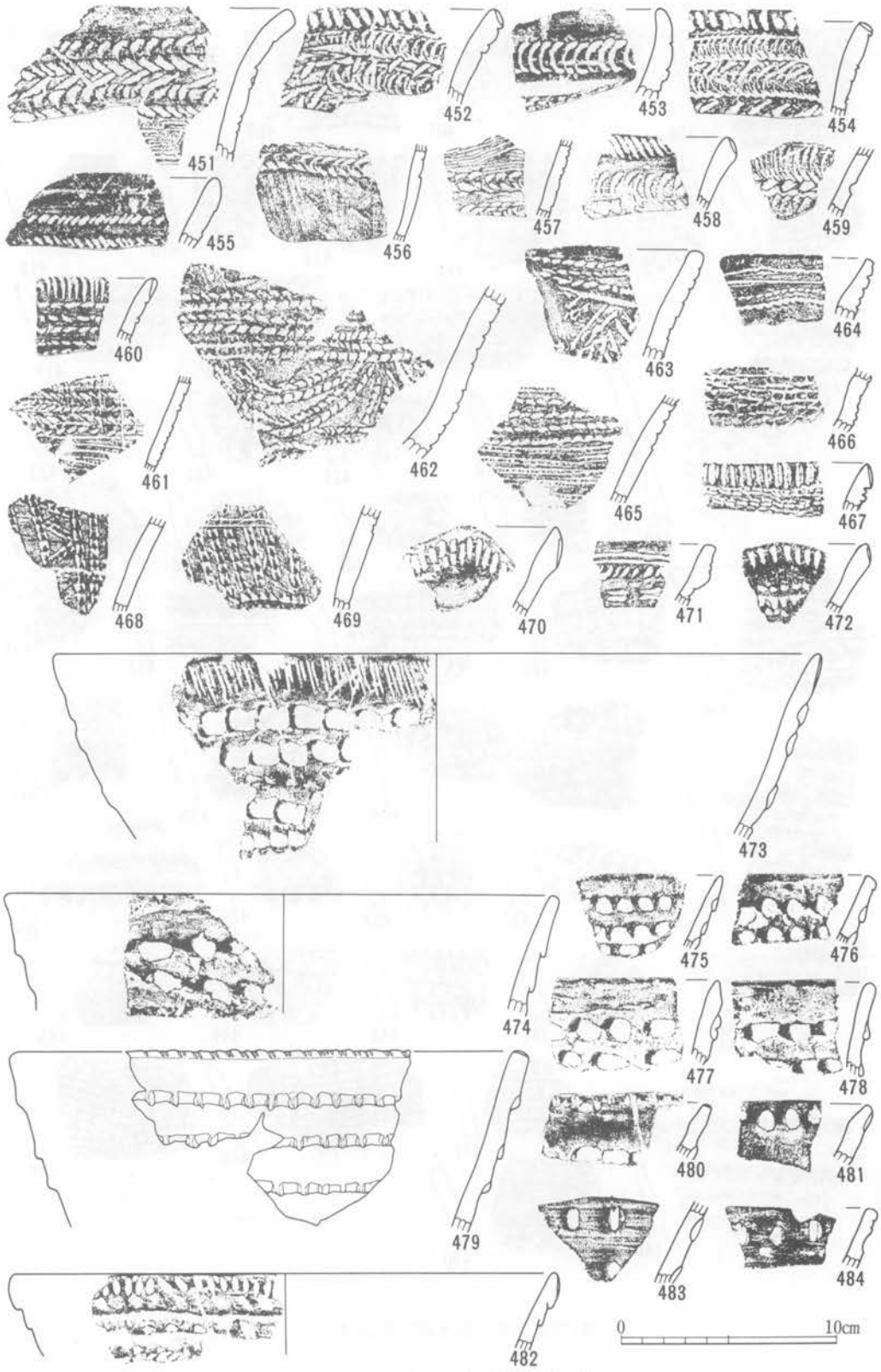

第108図　第II群土器拓影図12（1/3）



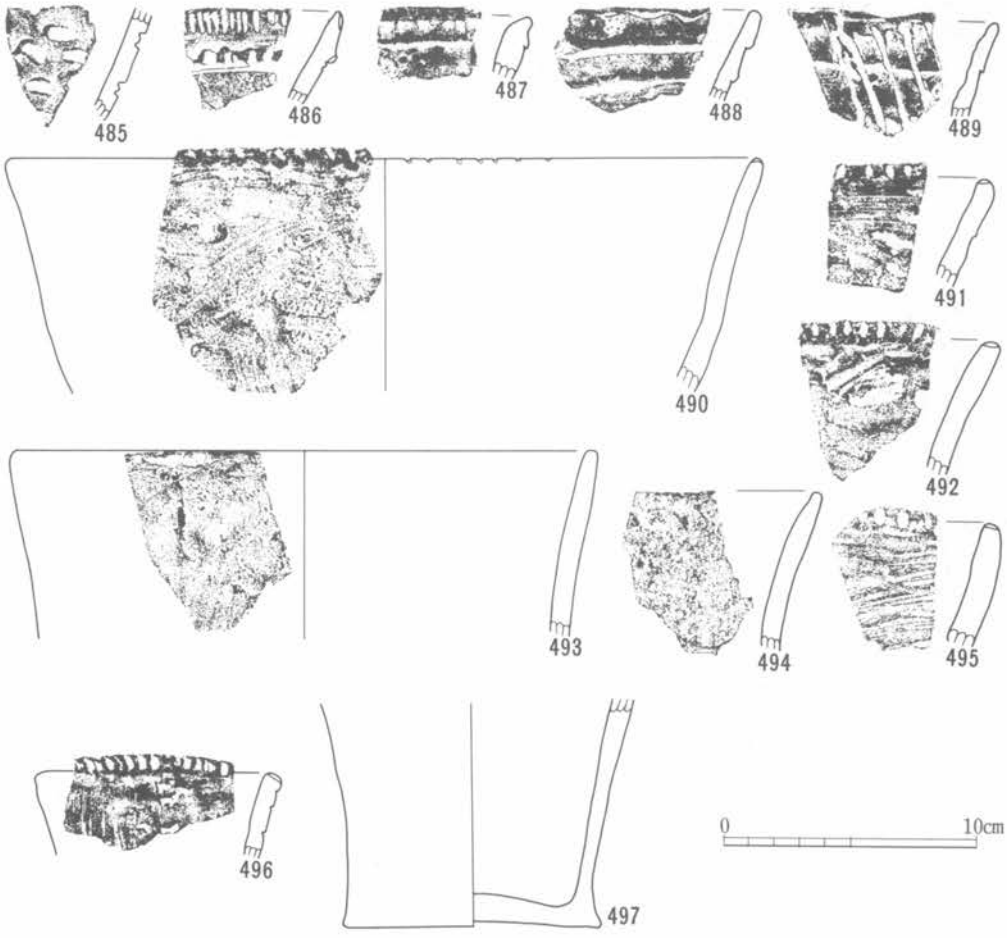

第109図　第Ⅱ群土器拓影図13（1/3）




第110図　第II群土器拓影図14（1/3）




第111図　第Ⅱ群土器拓影図15（1/3）

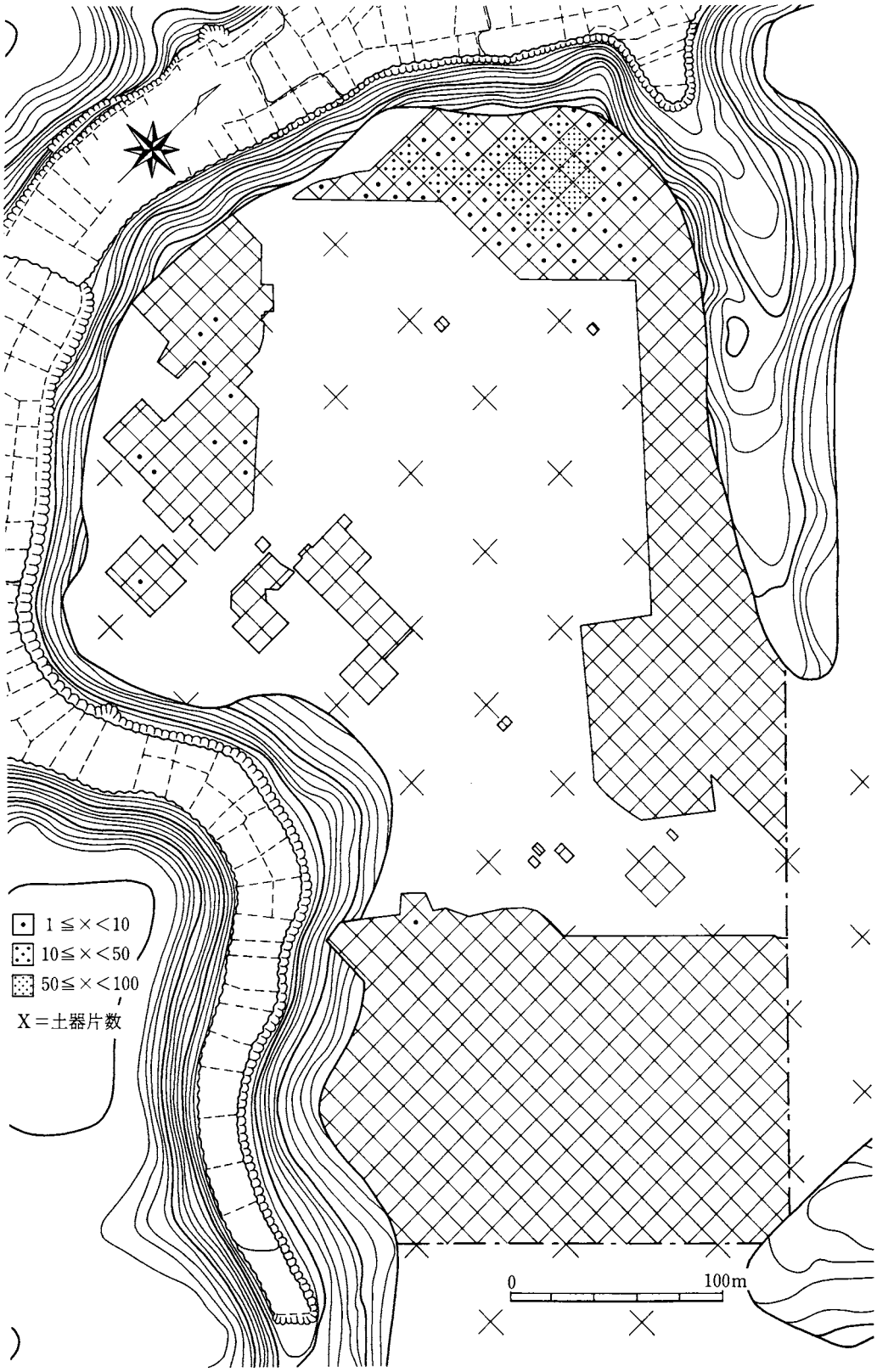



第112図　第Ⅱ群土器拓影図16（1/3）

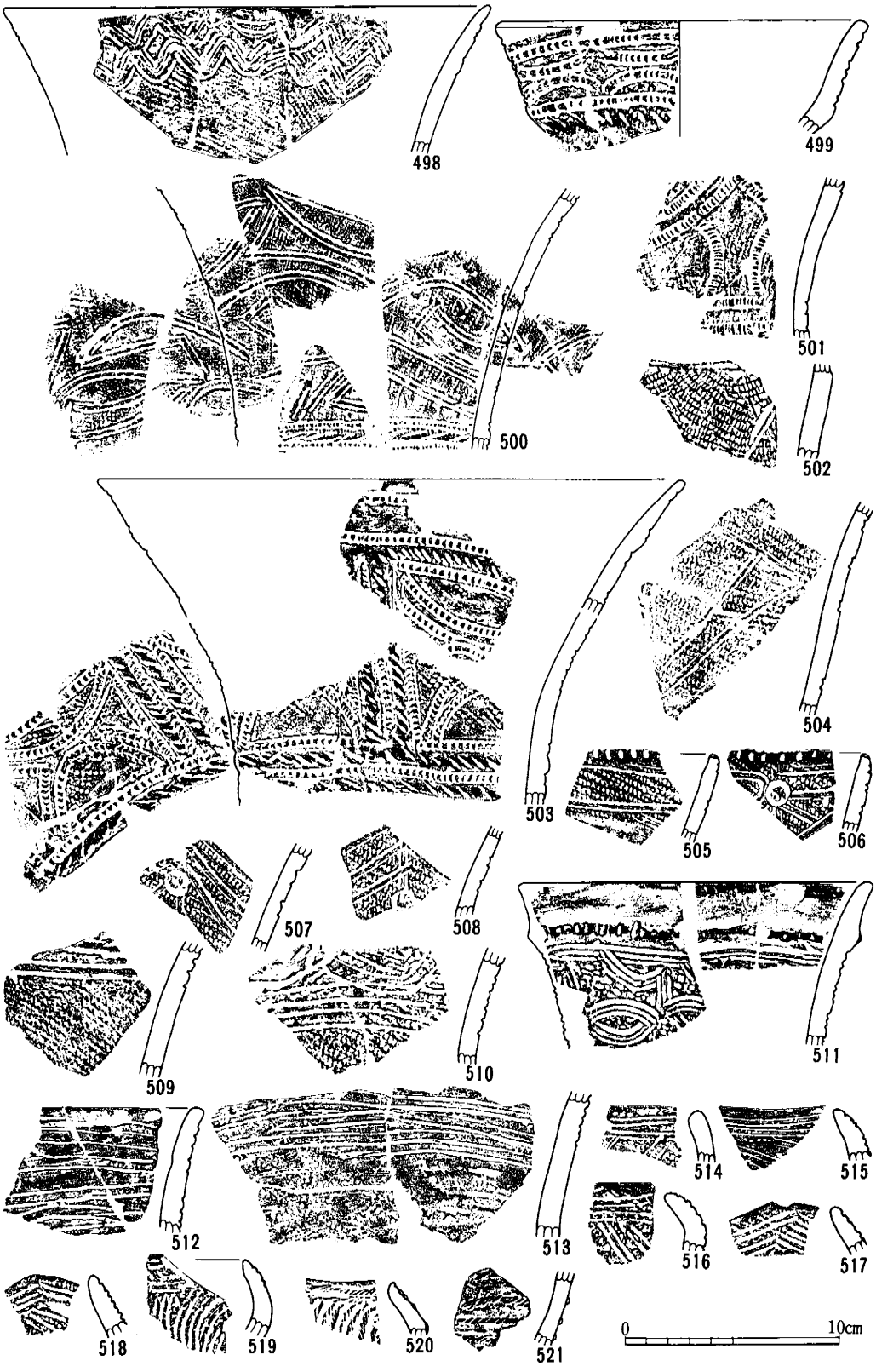
## 第５類　諸磯式（第113～119図　図版40・41）

第５類土器は、第４類土器と比べ量的には少ないものの分布範囲はほとんど第４類の範囲に重なり、第４類と第５類の関係をよく示している。

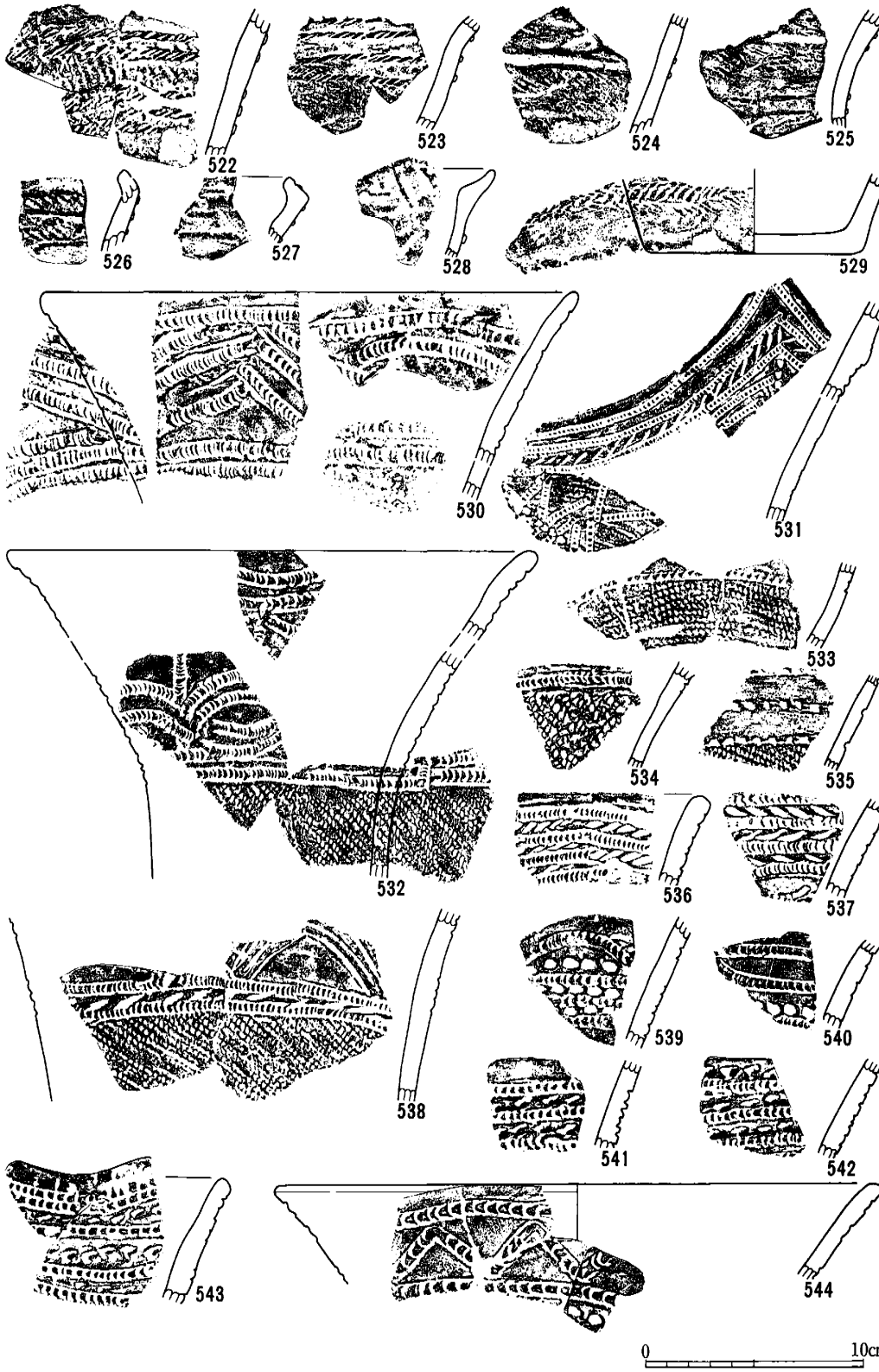
498～556は、地文ないしは胴部下半に縄文が施文され、半載竹管による平行沈線あるいは有節平行沈線によって器面が飾られるものである。498は半裁竹管による平行沈線とやや太い沈線（半裁竹管の裏側）によって波状文が描かれ口縁部を２段にめぐる。499は２条の有節平行沈線の間を上下一組の弧線を描く有節平行沈線が巡る。500は大きく開く深鉢形土器の有節平行沈線




第113図　第II群土器分布図（諸磯）

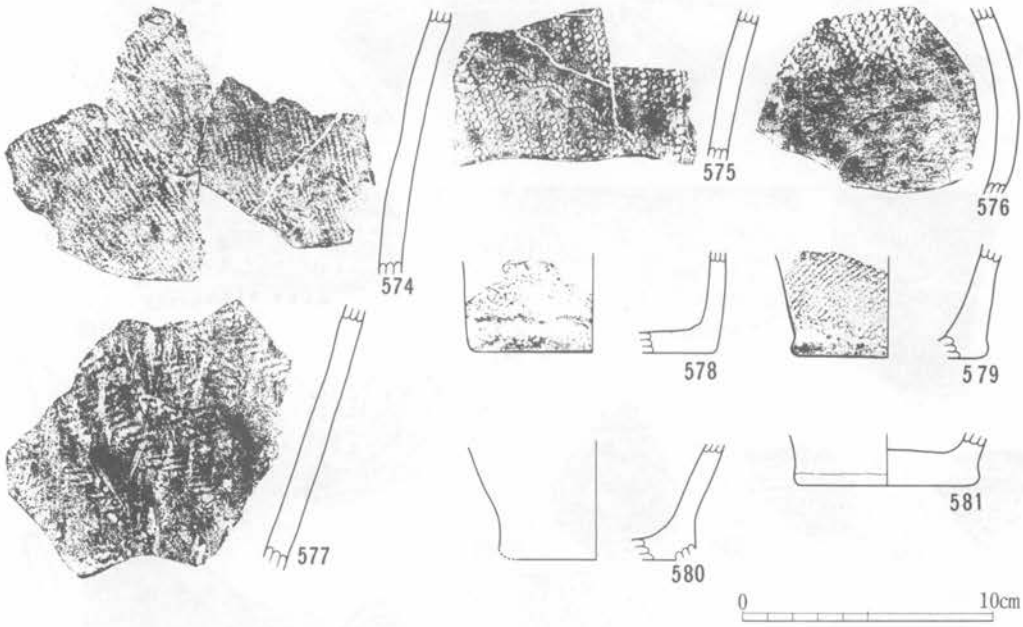



第114図　第II群土器拓影図17（1/3）




第115図　第II群土器拓影図18（1/3）

第116図　第II群土器拓影図19（1/3）




第117図　第II群土器拓影図20（1/3）

によって区画された上半を平行沈線による木の葉文が埋める。503は有節平行沈線で上下の区画線縦の区画線内部の上下一組の弧線いずれもを描く。諸磯a式。

520～528は浮線文により口縁部に施文されるものである。

530～556は有節平行沈線を主体とし爪形刺突、斜刺突を持ち、山形波状あるいは曲線的な文様を描くものである。諸磯b式。

557～579縄文のみないしは口唇に刺突を持つものである。

## 第III群土器　縄文時代中期の土器

縄文時代中期の土器を一括する。

### 第1類　中期初頭の土器（第119～121図　図版41）

中期初頭の五領ケ台式土器を主体とする土器を一括した。

7は縄文を押捺したもので表裏両面に施文される。

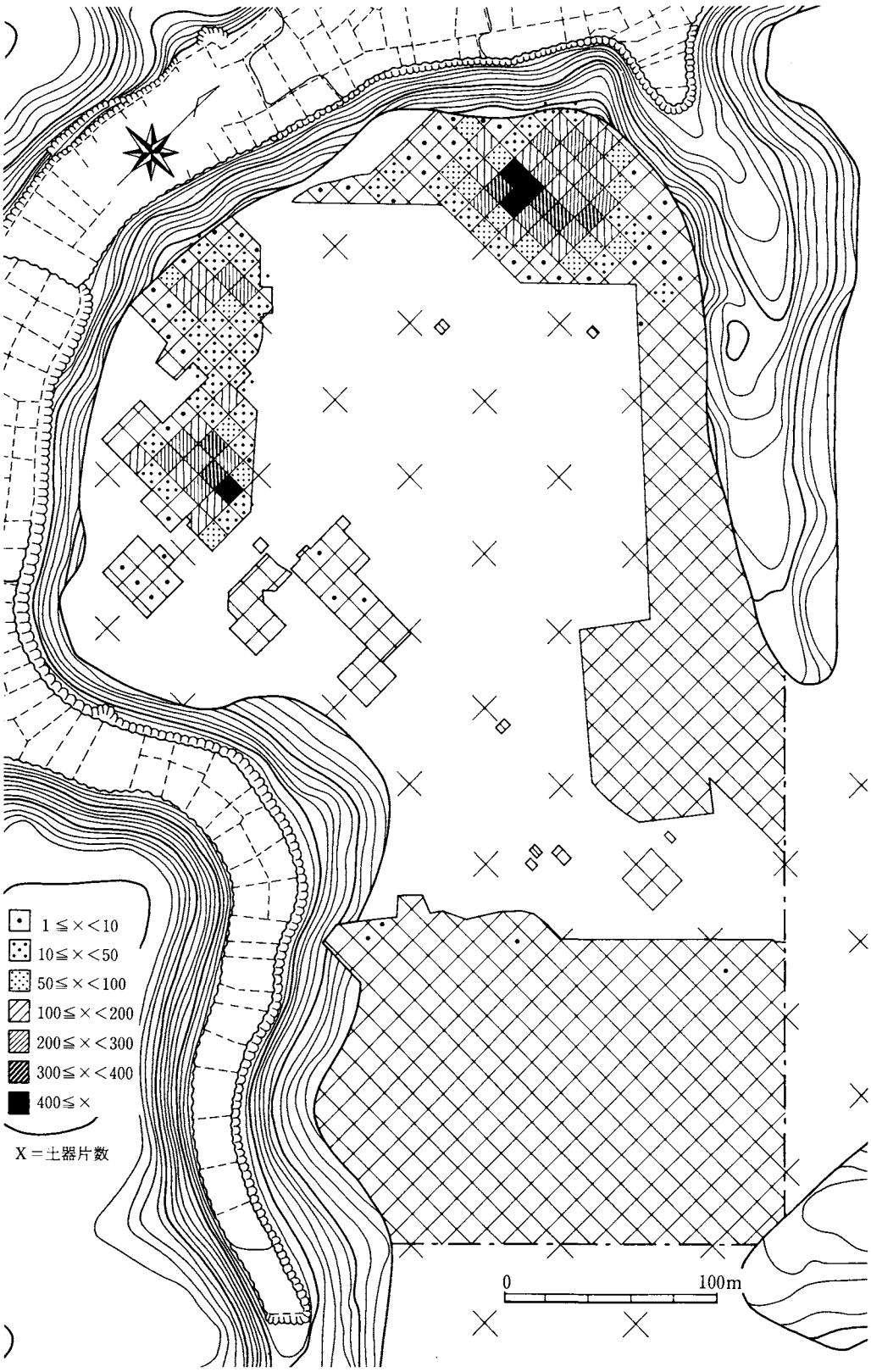
9～20は結節回転文を施文されるもので横位のものと縦位のものがある。

21・22は沈線区画内部を密な格子条沈線で充塡する。

23・24は隆起文を半裁竹管により刻む。

25は交互入り組み刺突文が施される。

26～35は沈線ないし角押文に三角形彫去が伴う。




第118図　第Ⅲ群土器分布図（阿玉台）

38～49は沈線ないし爪形の条線が多条に文様を構成するものである。

50～71は縄文を地文として沈線で窓状区画及び下垂する文様を描くものである。

第２類　阿玉台式土器（第122～131図　図版42～46）

86は無文の深鉢形土器、ほぼ直立する胴部上半から４単位の波状をなす口縁が外反し波状頂部に削りによる加飾をもつ。87は交互刺突による入り組み文が口縁を巡り、鈕状突起が付く。88～101は基本的に無文の土器で口縁に粘土紐をつまんだ状態で貼付けた鈕状突起を有するものである。88は鈕状突起部が小波状をなし口縁内側にも削りだしの加飾が施される。101は細い竹管による一条の結節沈線も施される。

102～141は一条の結節沈線によって主たる文様が描かれるものである。結節沈線のみによるもの、隆帯の区画を伴うもの、鈕状突起を伴うものがある。127～131は鈕状突起をともない、隆起線による窓状区画に沿って結節沈線が描かれるものである。132～147は隆起線による区画にそって結節沈線が施されるものである。

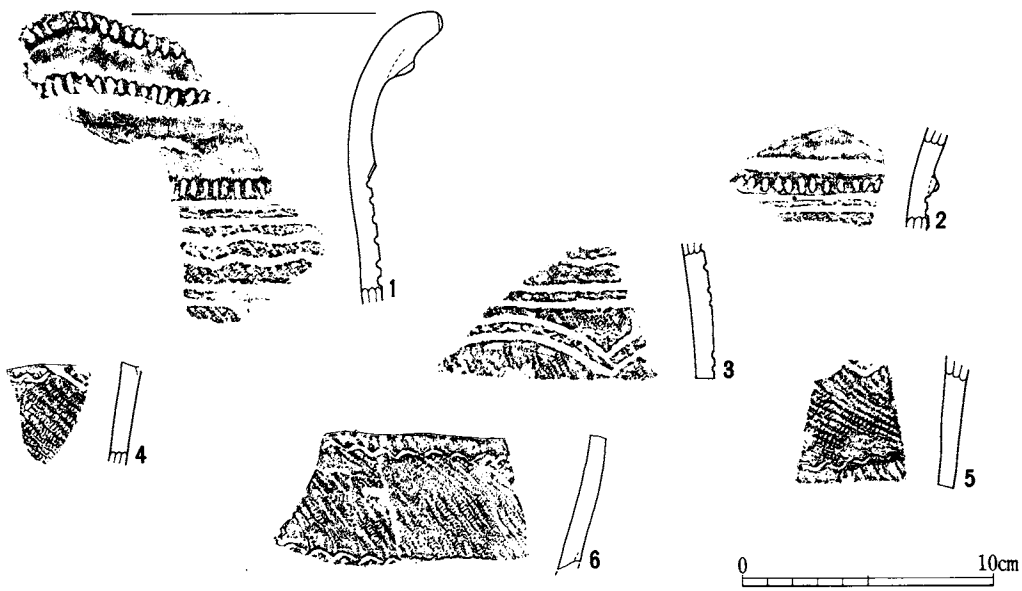
142～147は内面にも沈線ないし刺突が施される。

148～192は複数条の結節沈線が施されるもので、148～151は隆起線に沿った曲線的文様構成を、154～158は波状文を、159～167は三角構成の文様を、169～174は結節沈線による斜線文で充填する。182～192は隆起線文と結節沈線文による楕円窓枠条区画を基本として沈線による文様が加わるものである。

236～256は隆起線文が文様の主体を構成するものである。

257～272は結節沈線間あるいは結節沈線で区画した内部を円形竹管で埋めるものである。

273～277は隆起線を押圧によって潰し文様区画を行うもの。




第119図　第Ⅲ群土器拓影図１（1/3）

278～297は無文土器で口縁に１条の浅い沈線が巡るものもある。

第２類土器は、量的には最も多いもので遺跡北西部に集中し南西部および南東部にも僅かにみられる。特に集中しているのは18ル区の台地斜面への変換点と、22ル区である。

第３類　加曽利Ｅ式土器（第132～136図　図版46～48）

302～308は、地文が縄文で口縁下に２条の刺突を伴う沈線が巡り胴部に３条の沈線による山形波状文の巡るものである。

309～327は、地文が撚糸文で口縁下に２条の刺突を伴う沈線が巡り、胴部は３条の沈線によって横位区画がされ３状の沈線による連弧文状の文様が描かれる。

328～344は、隆起文と沈線により楕円区画渦文が描かれ縄文が充塡される。

345～369は、縄文を地文として２本一組ないし３本一組の垂下する沈線間が磨り消される。

370～383は、撚糸文を地文として２本一組ないし３本一組の垂下する沈線間が磨り消される。384～394は、無文土器である。

396･397は、僅かに器形全体を窺うことのできる資料で、396は平縁のキャリパー形を呈する深鉢形土器で、口縁部文様帯は隆起線と沈線によって渦文と楕円区画、波状文によって飾られる。胴部は３本一組の沈線が垂下し、その中間を蛇行沈線が垂下する。地文は複節縄文。397は平縁のキャリパー状を呈する深鉢形土器で、口縁部文様帯は隆起線による楕円区画帯文様で、胴部は２本一組の垂下する沈線間の縄文が磨り消される。398・399も同様な胴部破片である。

400は無文の台形土器で、窓形孔が開けられている。

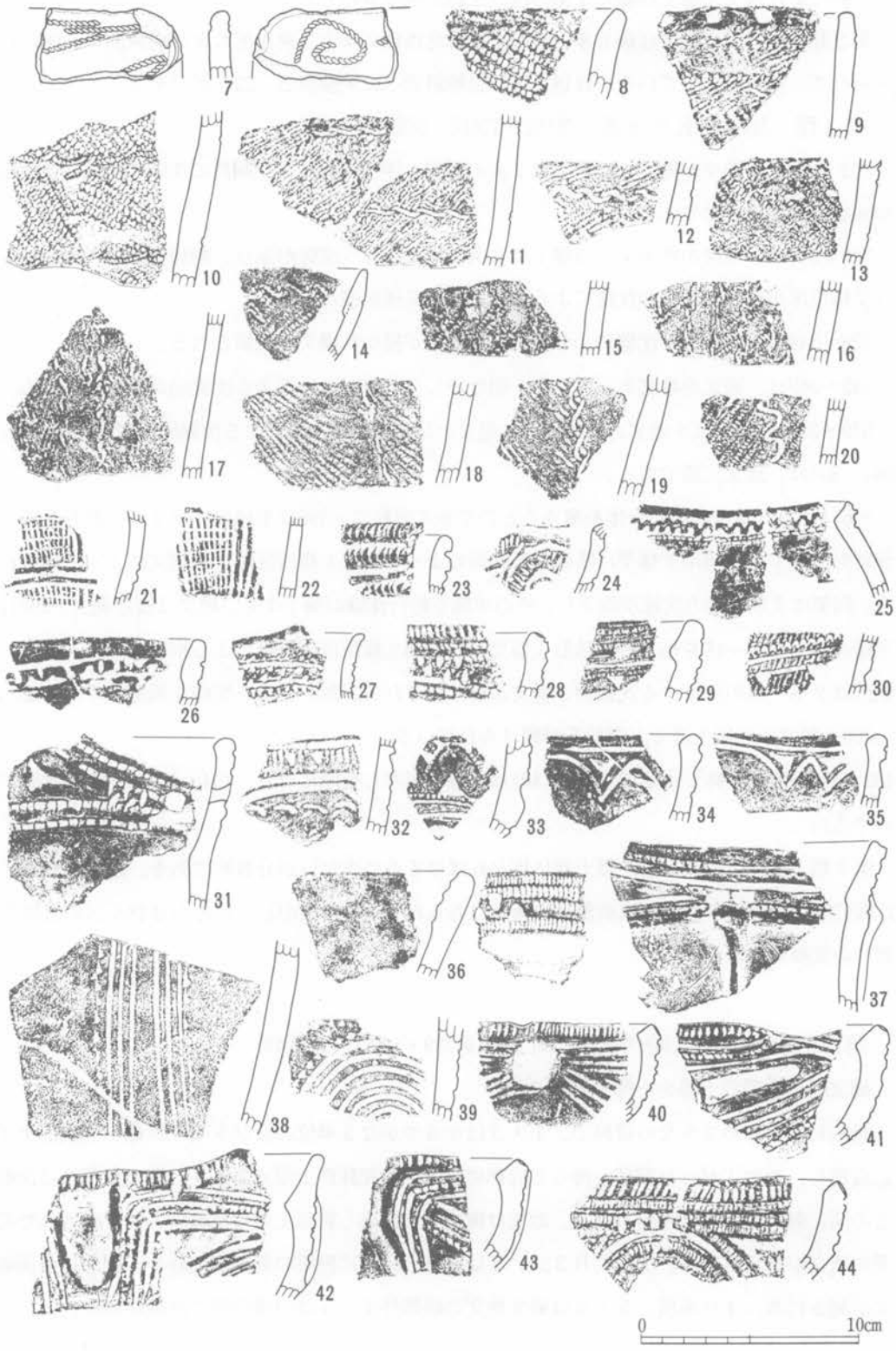
402～406は無文の鉢形土器で、402～404は口縁が肥厚し有段になり、404～406は１条の沈線がめぐる。

第３類土器は量的には第２類土器に比べればはるかに少ないが分散的である。遺跡北西部に比較的集中し南西部および南東部にも僅かにみられる。特に集中しているのは18ル区の台地斜面への変換点である。

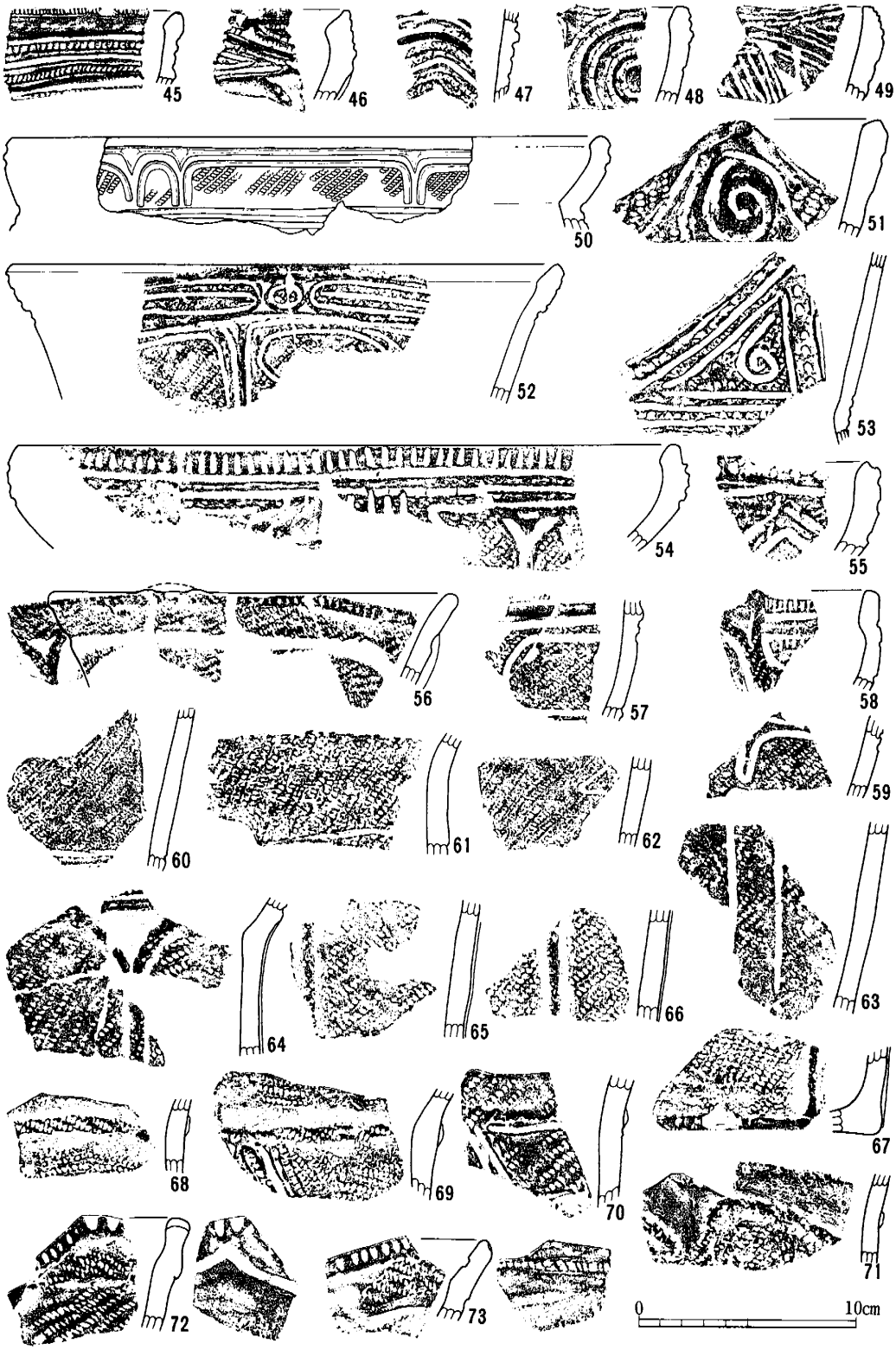
第Ⅳ群土器　縄文時代後期の土器（第139・140図　図版49）

縄文時代後期の土器を一括する。

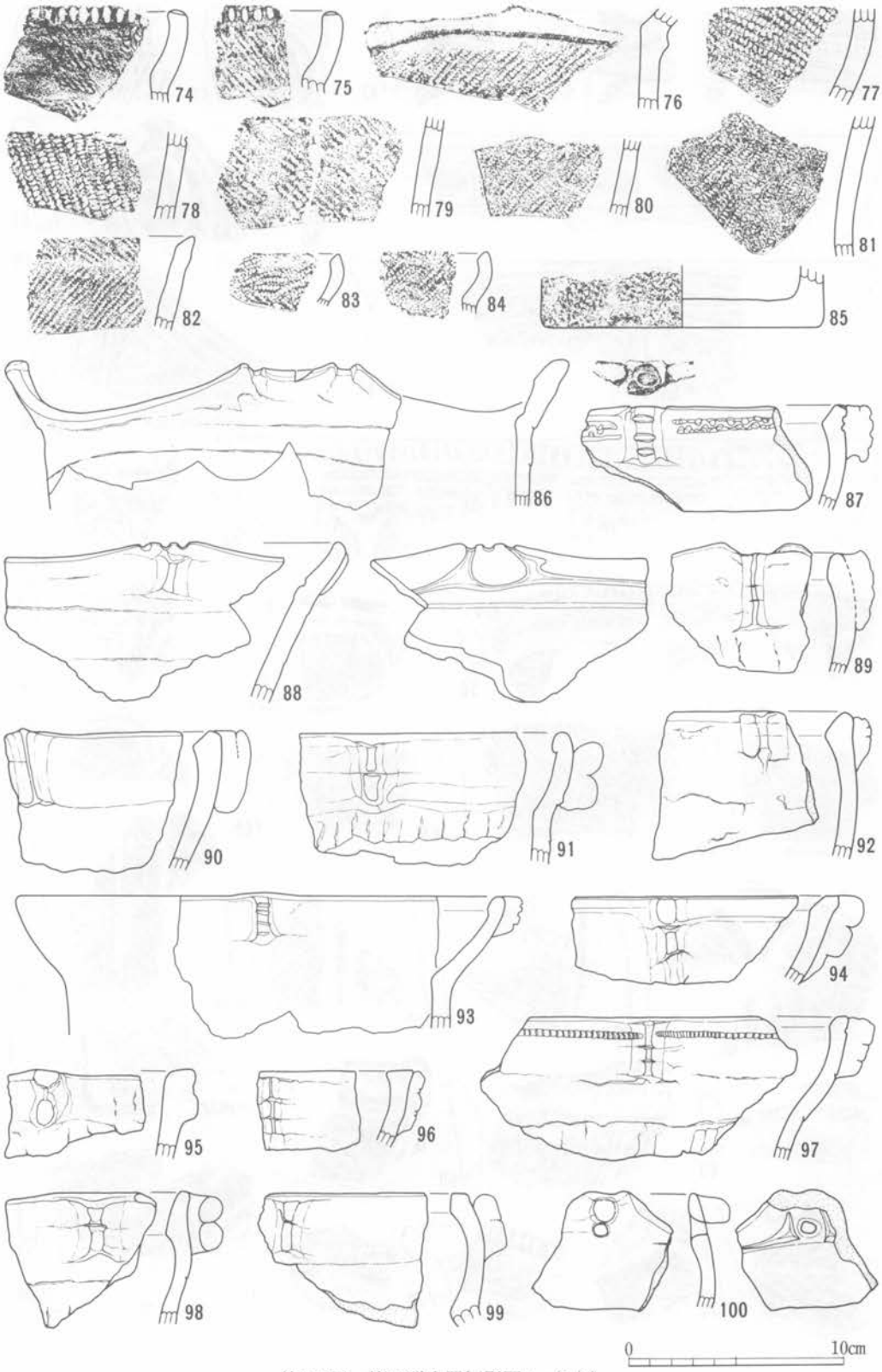
量的にはきわめて少ない資料で、１・３はゆるやかな５単位の波状をなす口縁から胴部上半に収縮し、やや広がった胴部を持って底部に収縮する深鉢形土器である。口唇と頸部には沈線との間に刺突による刻みがめぐる。地文は縄文で口縁部と胴部上半は沈線によって画された範囲に縄文が充塡される。加曽利Ｂ３式。２は口唇の紐帯に押圧の刻みが加わり、胴部は全面縄文が施される。４は条痕、５・６は縄文地文の紐帯押圧、５は口縁内側に沈線が巡る。



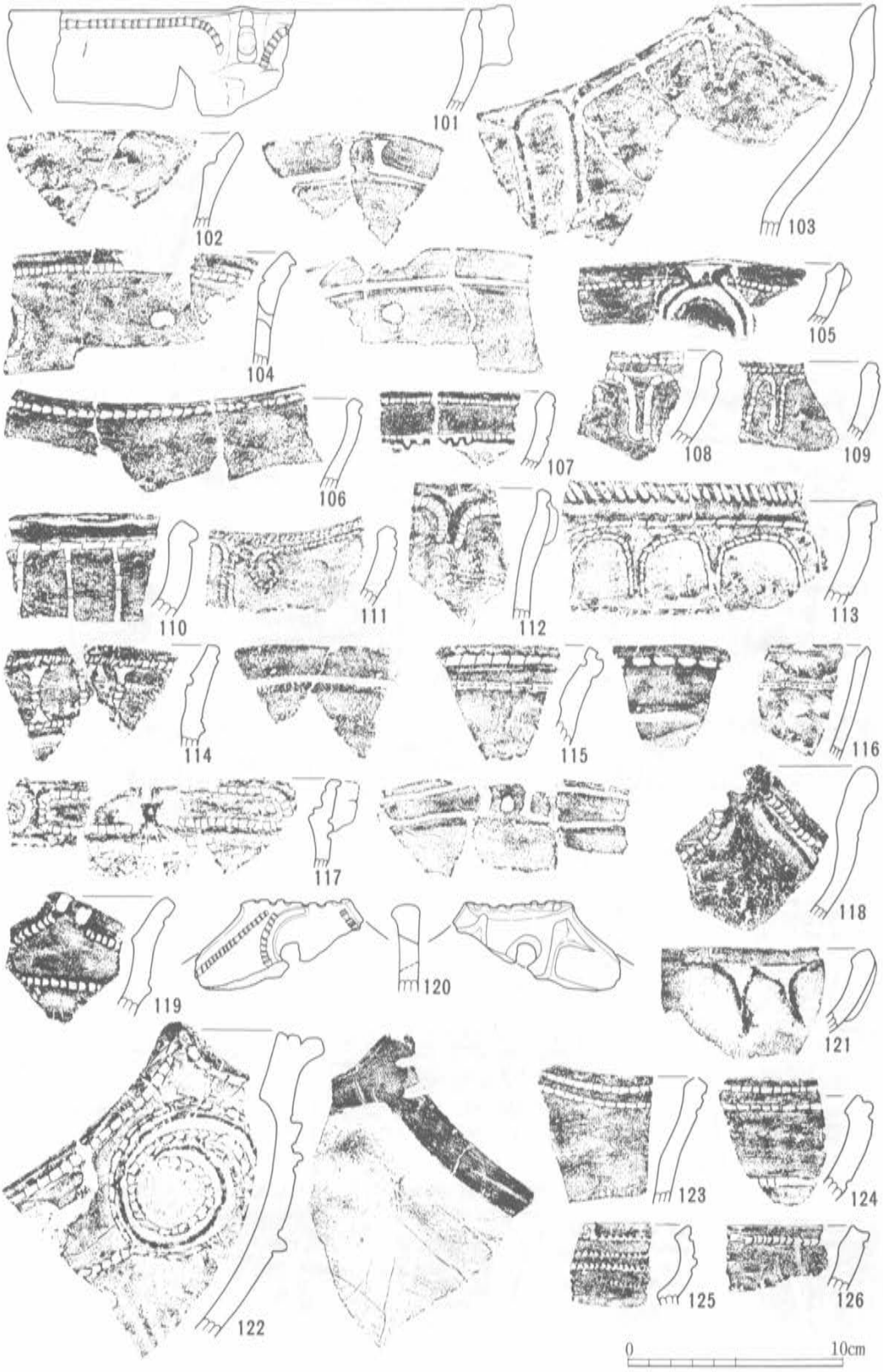

第120図　第Ⅲ群土器拓影図２（1/3）



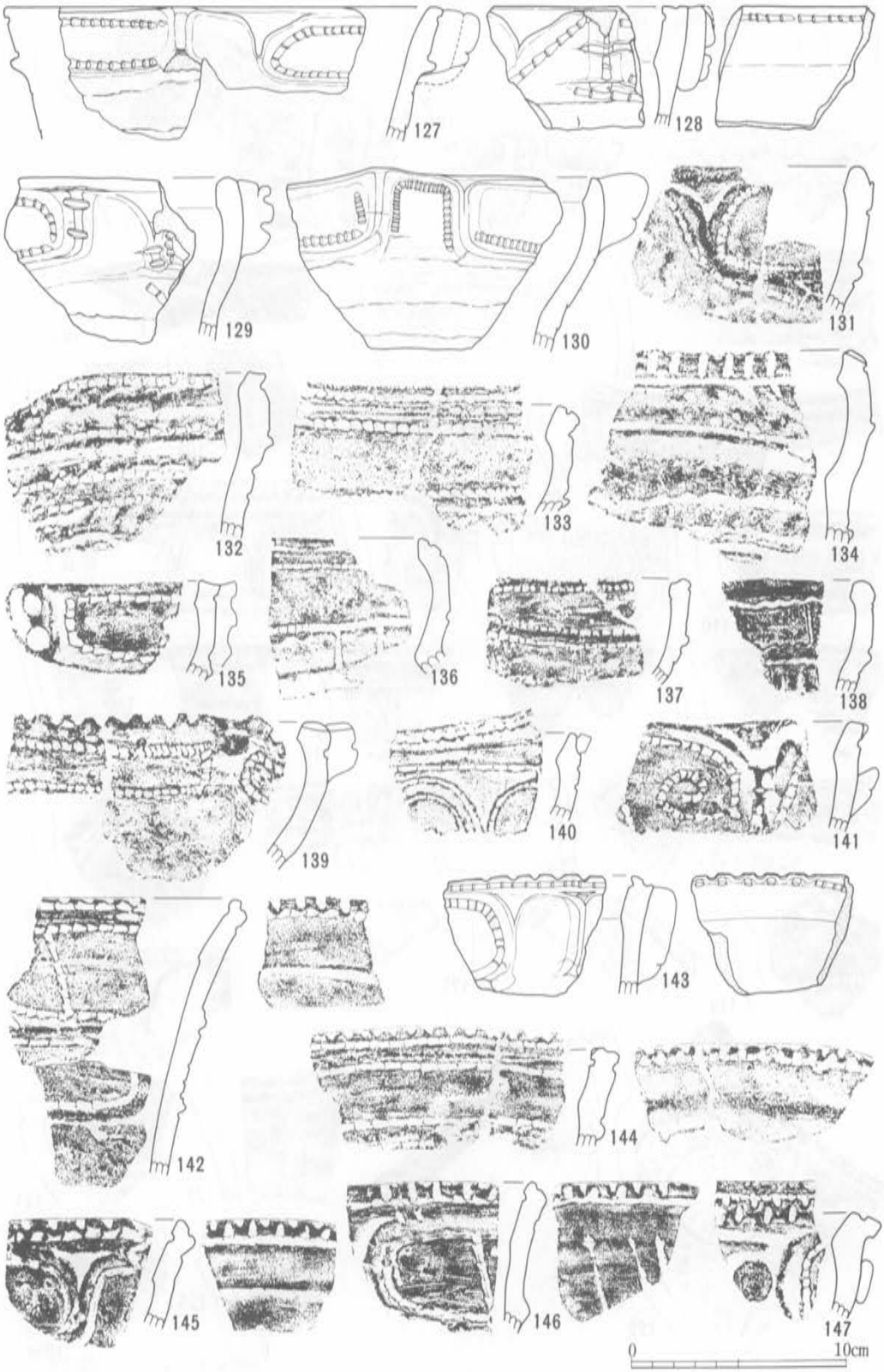

第121図　第Ⅲ群土器拓影図３（1/3）



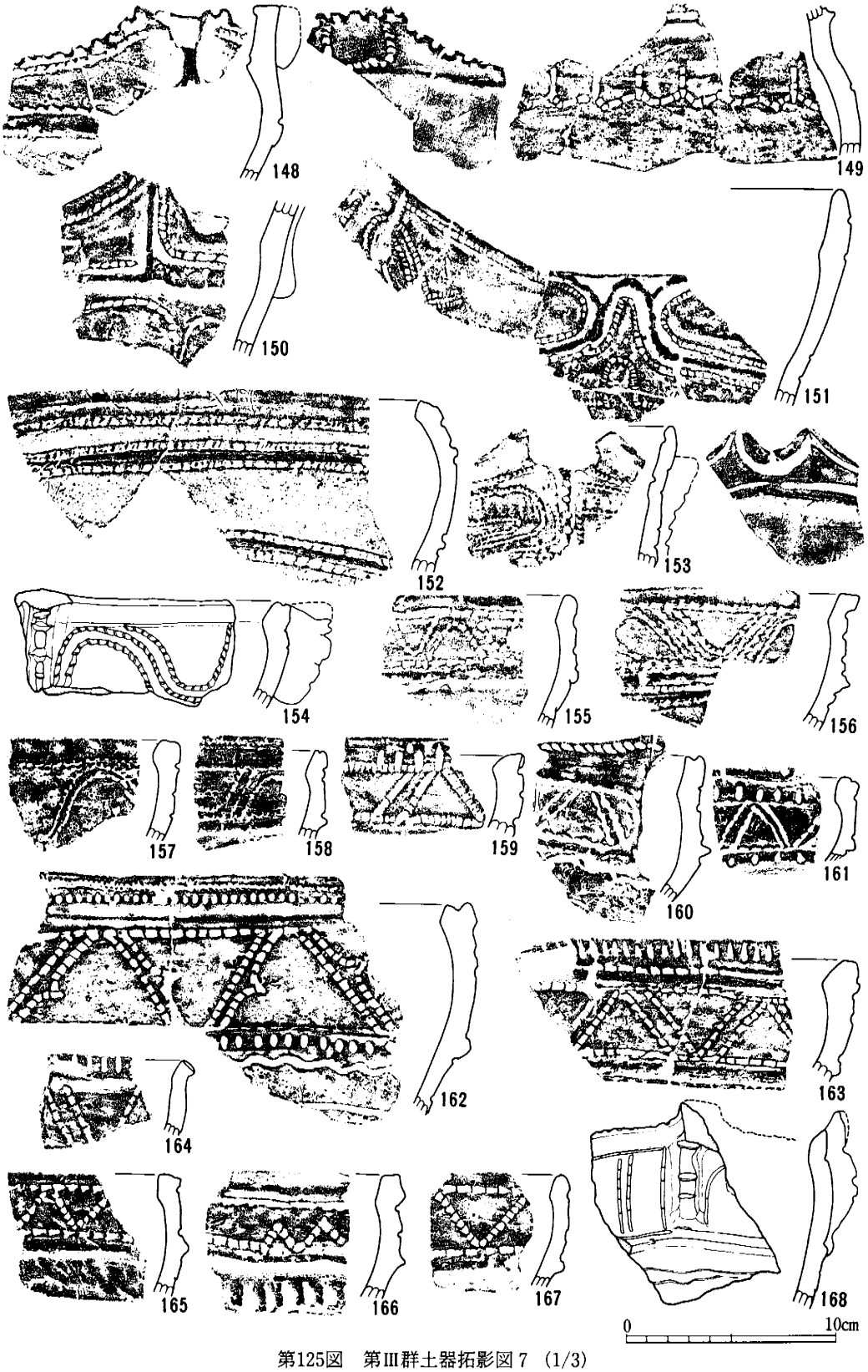

第122図　第Ⅲ群土器拓影図４（1/3）



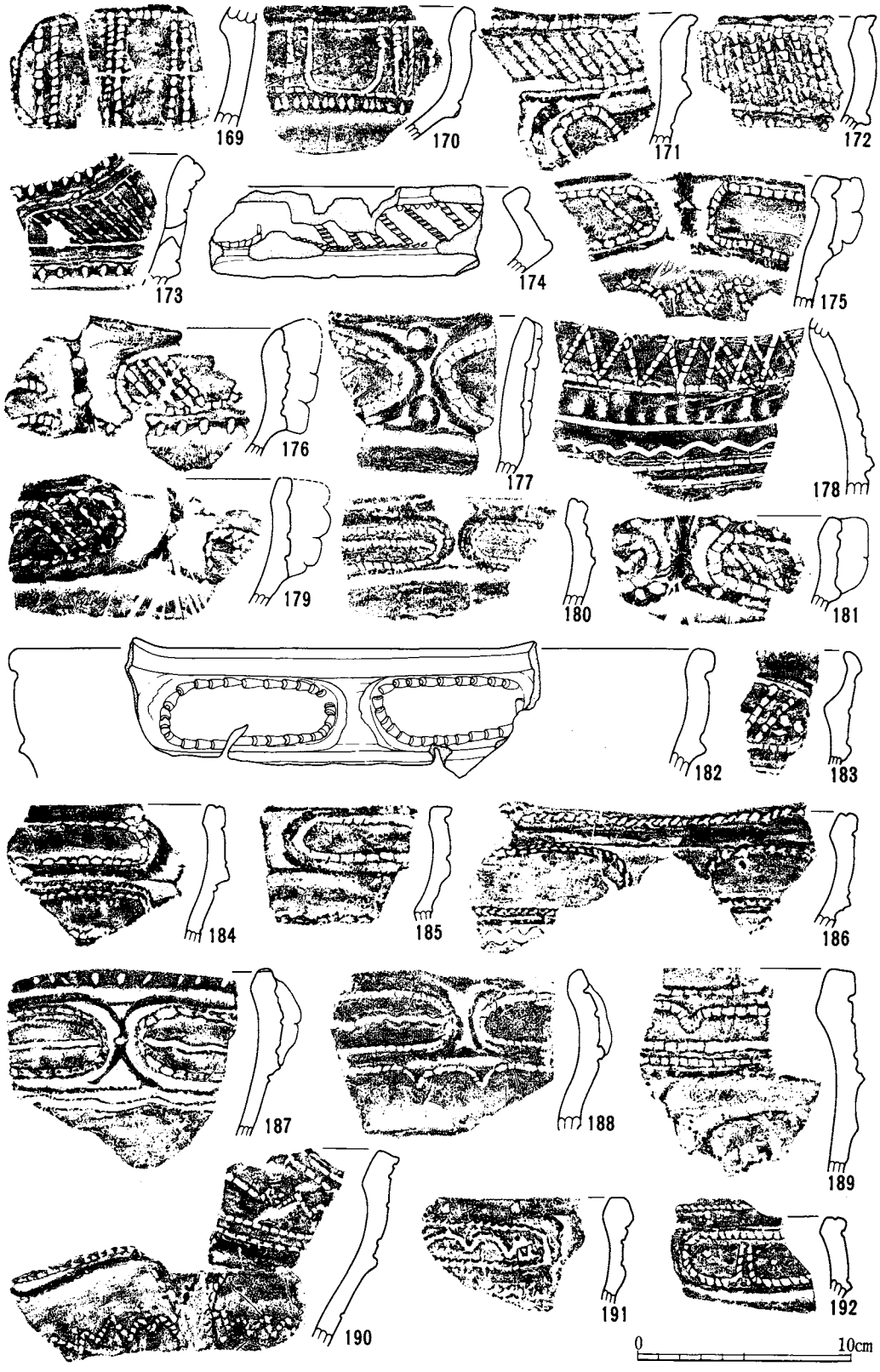

第123図　第Ⅲ群土器拓影図５（1/3）



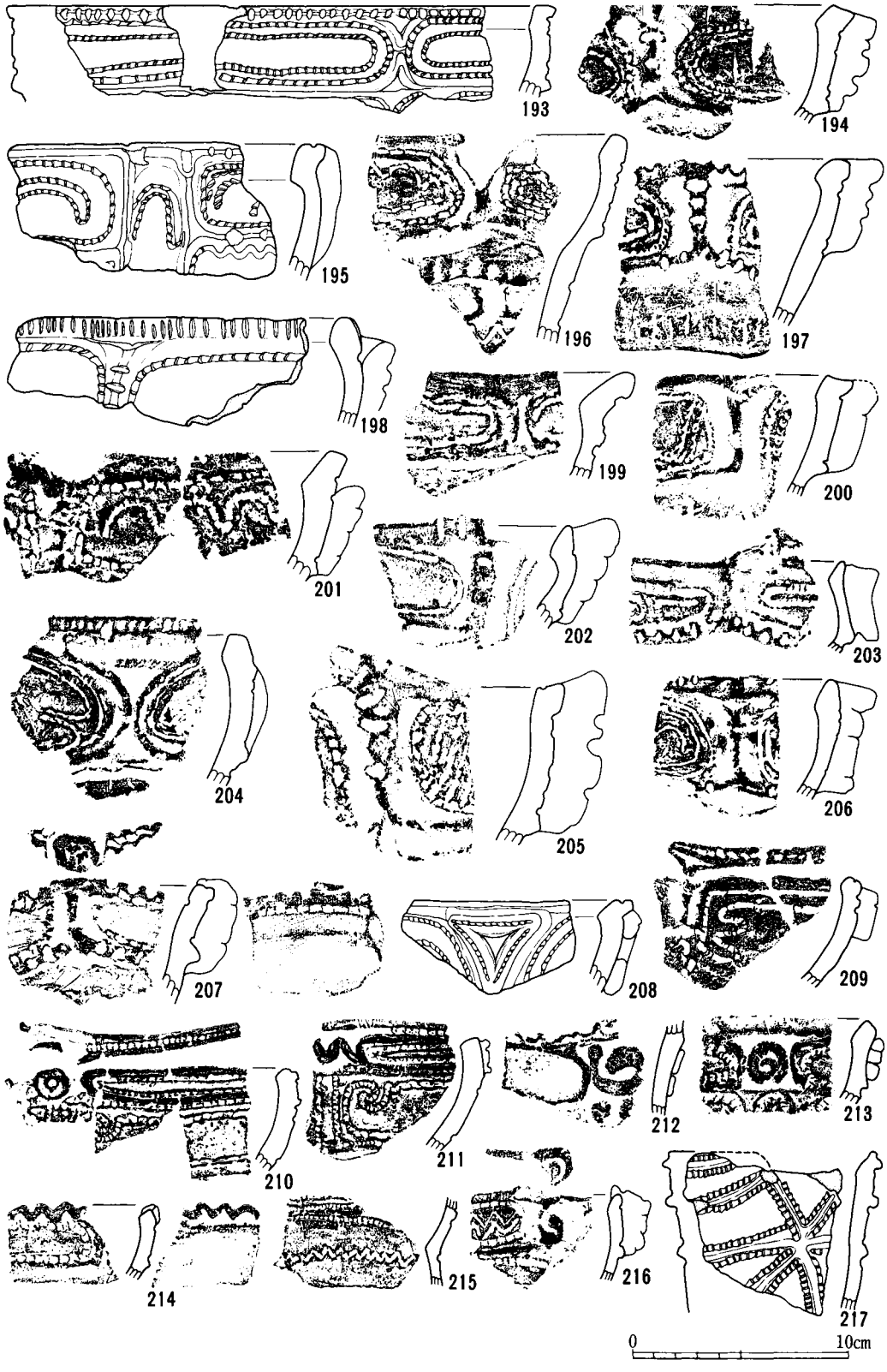

第124図　第Ⅲ群土器拓影図６（1/3）



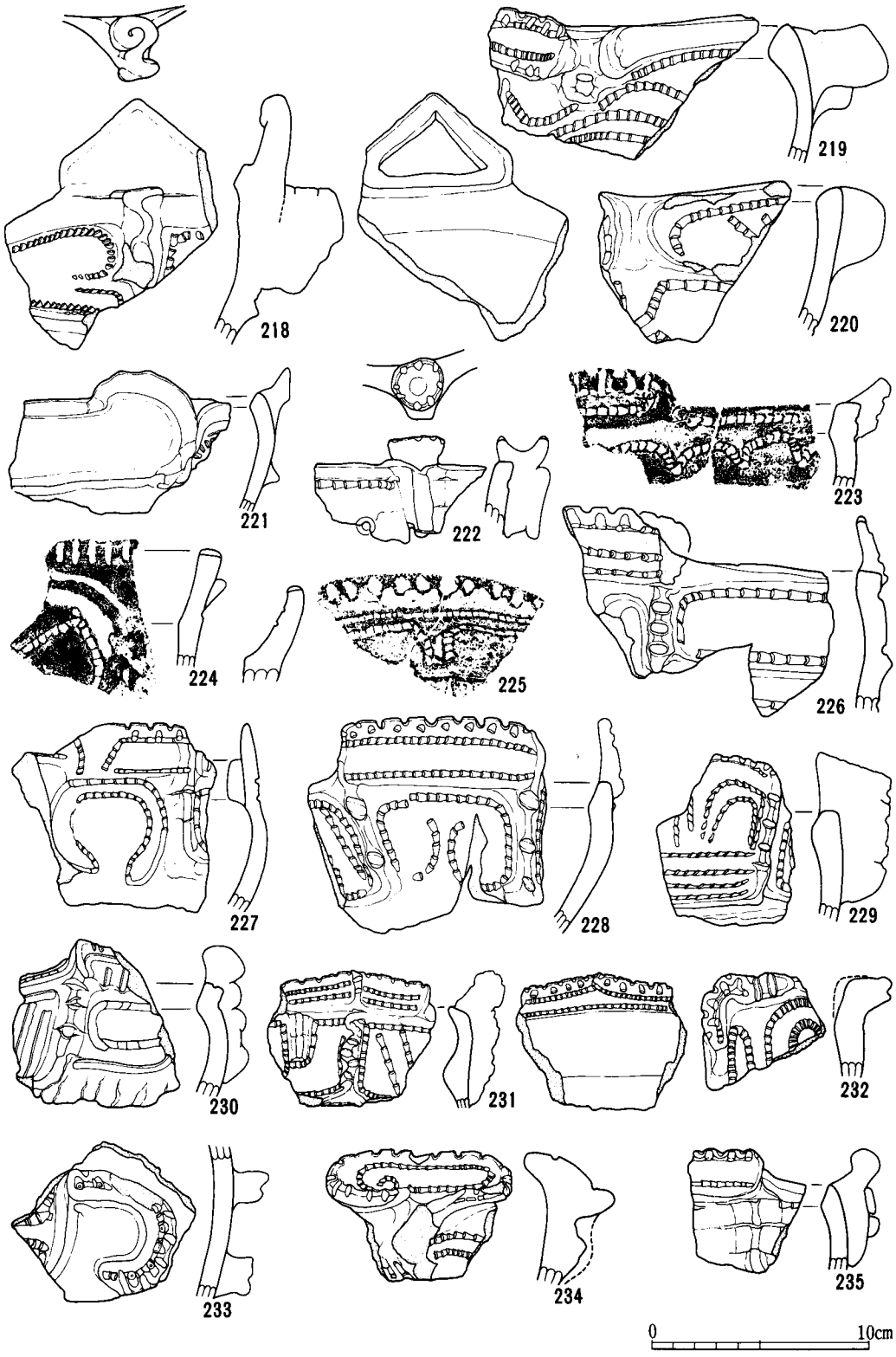

第125図　第Ⅲ群土器拓影図７（1/3）




第126図　第Ⅲ群土器拓影図８（1/3）

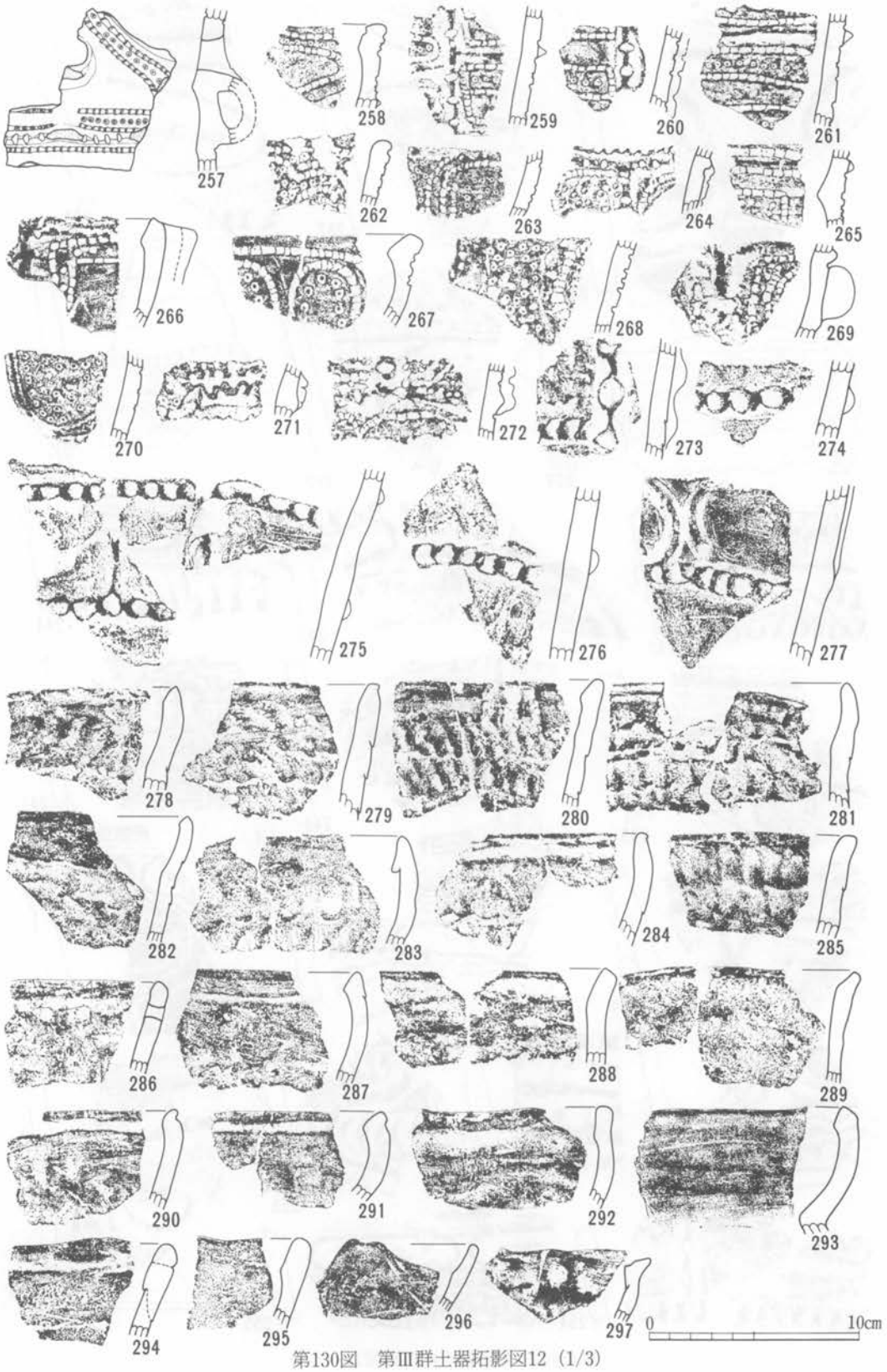



第127図　第Ⅲ群土器拓影図９（1/3）

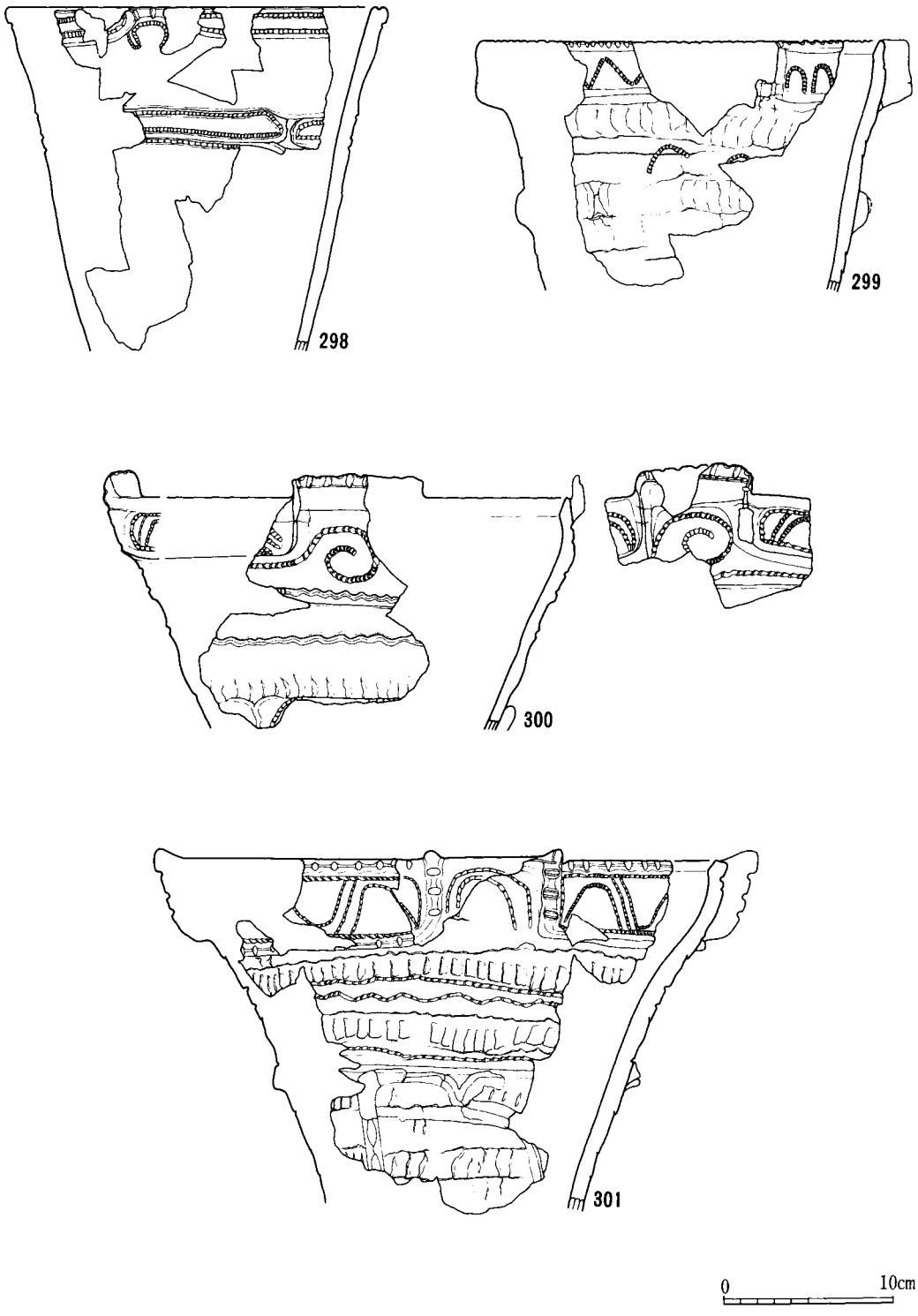



第128図　第Ⅲ群土器拓影図10（1/3）

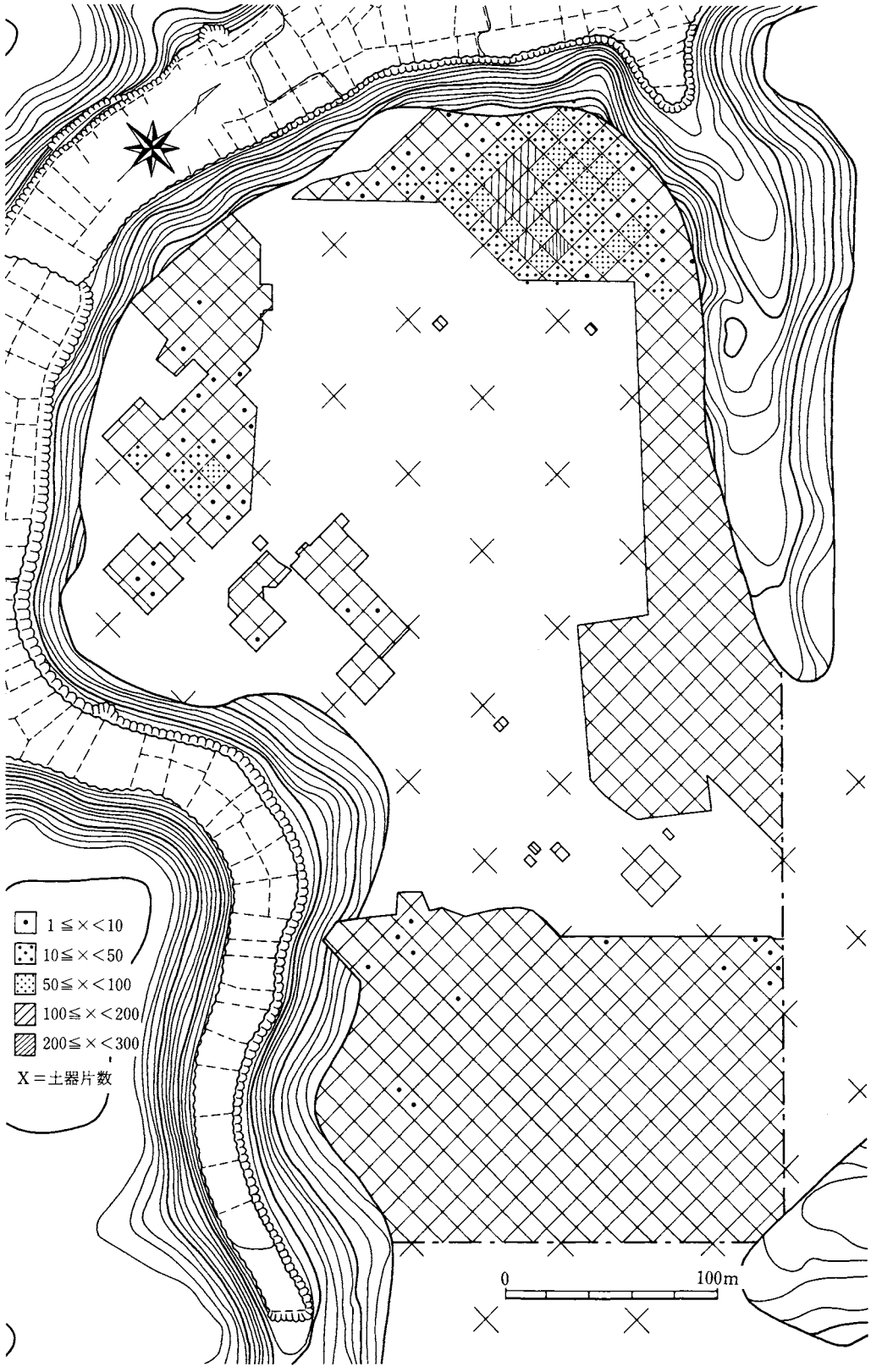
第129図　第Ⅲ群土器拓影図11（1/3）



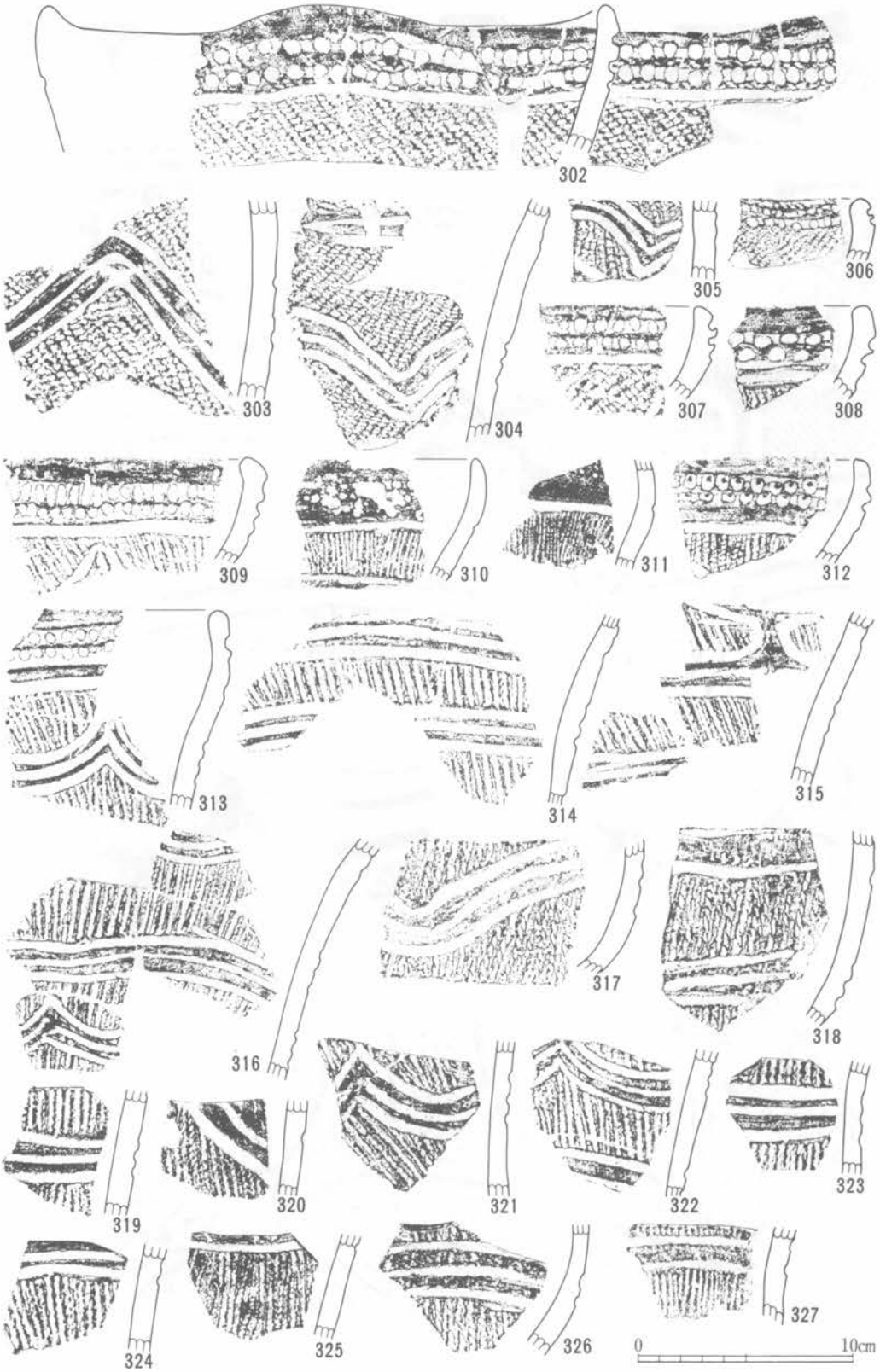

第130図　第Ⅲ群土器拓影図12（1/3）



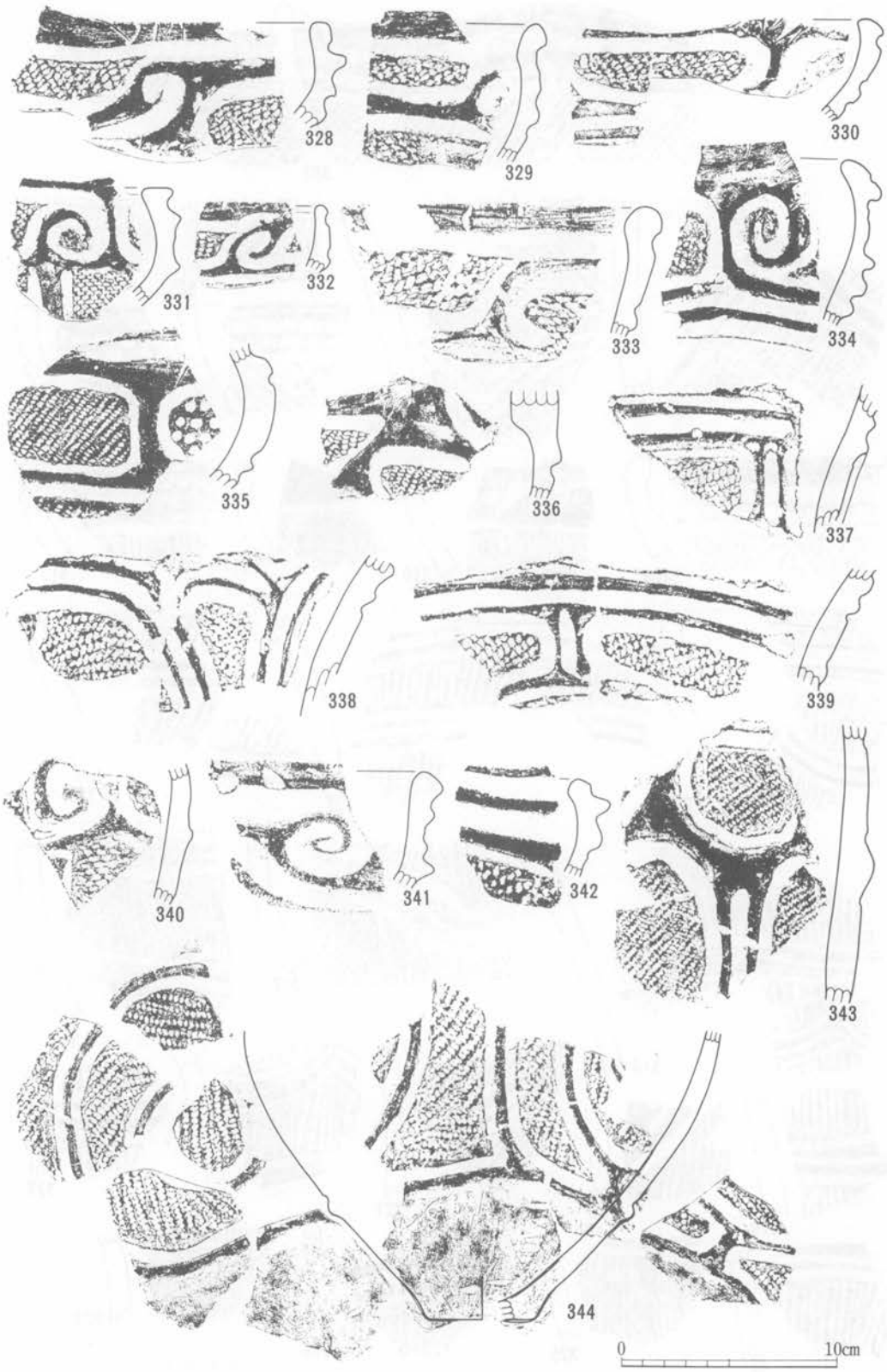

第131図　第Ⅲ群土器実測図（1/4）



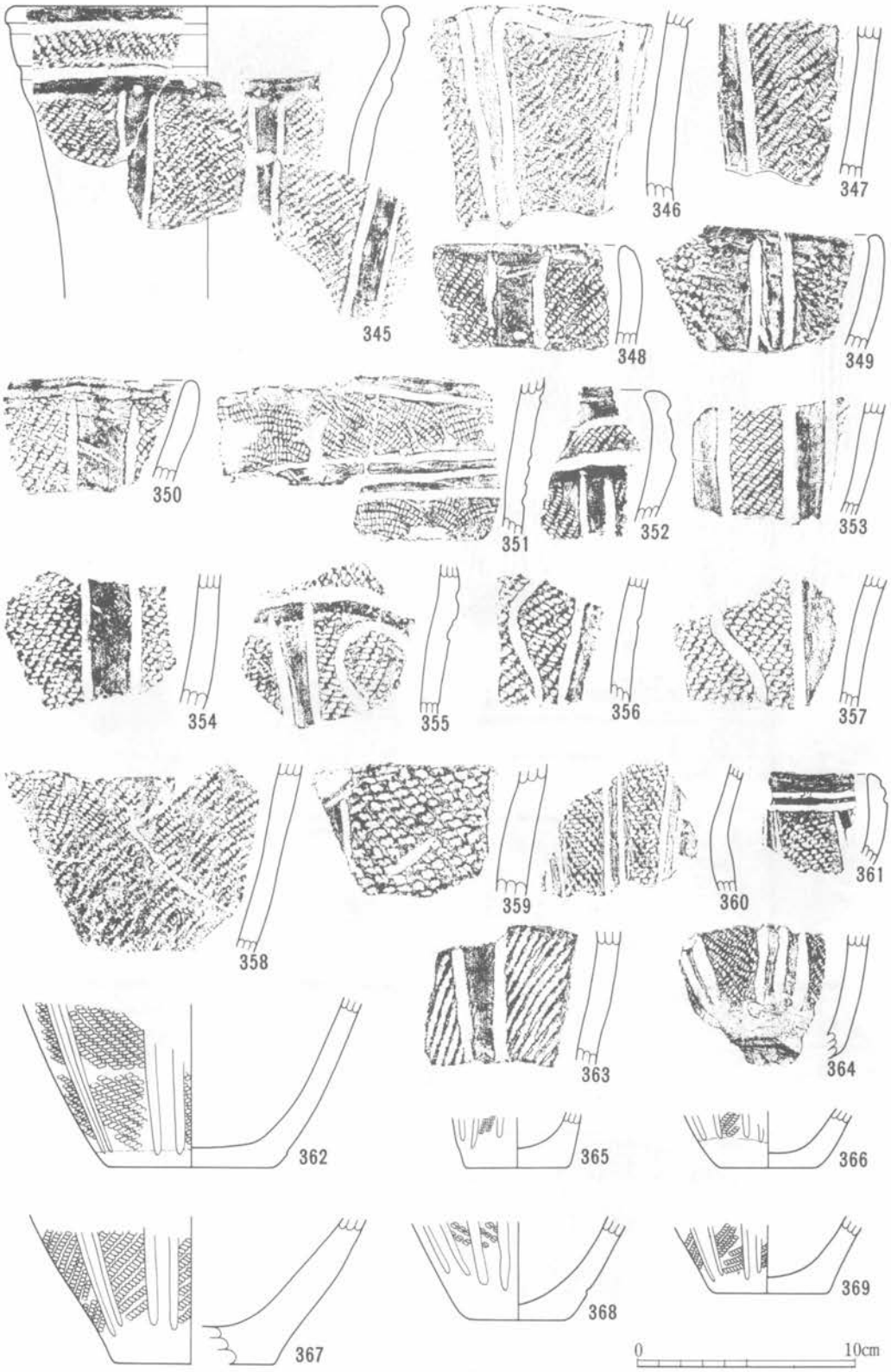

第132図　第Ⅲ群土器分布図（加曽利Ｅ）



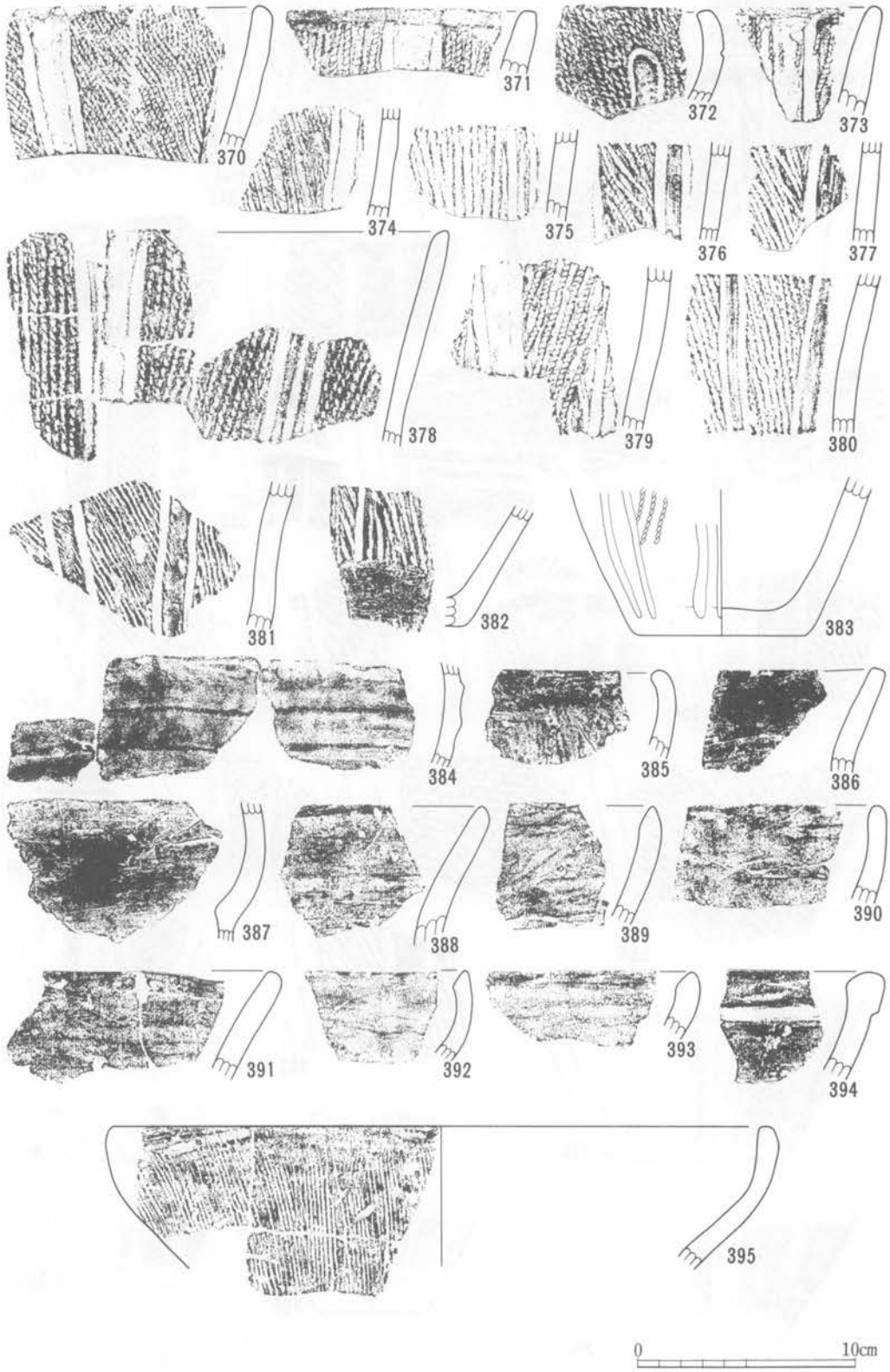

第133図　第Ⅲ群土器拓影図14（1/3）



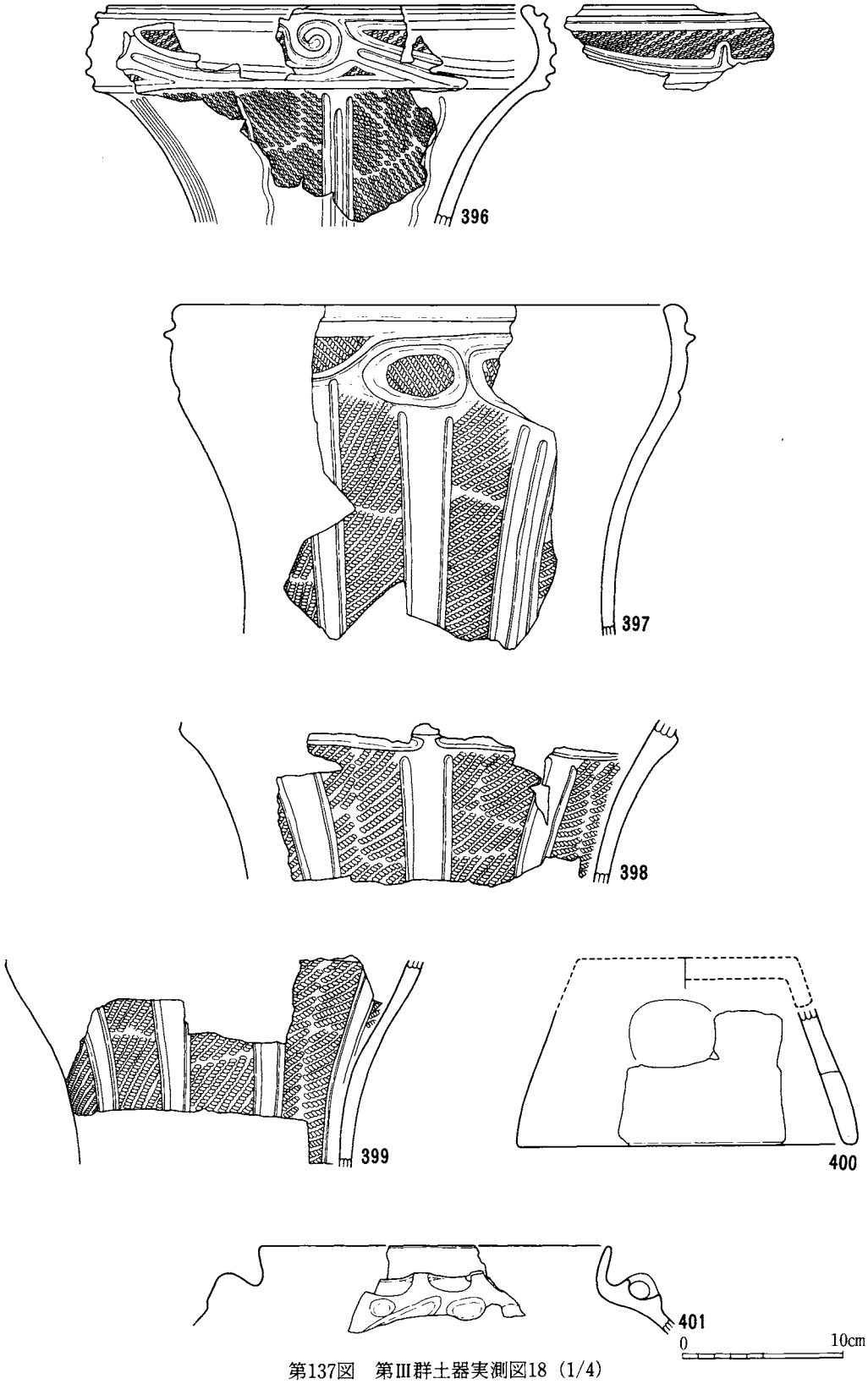

第134図　第Ⅲ群土器拓影図15（1/3）



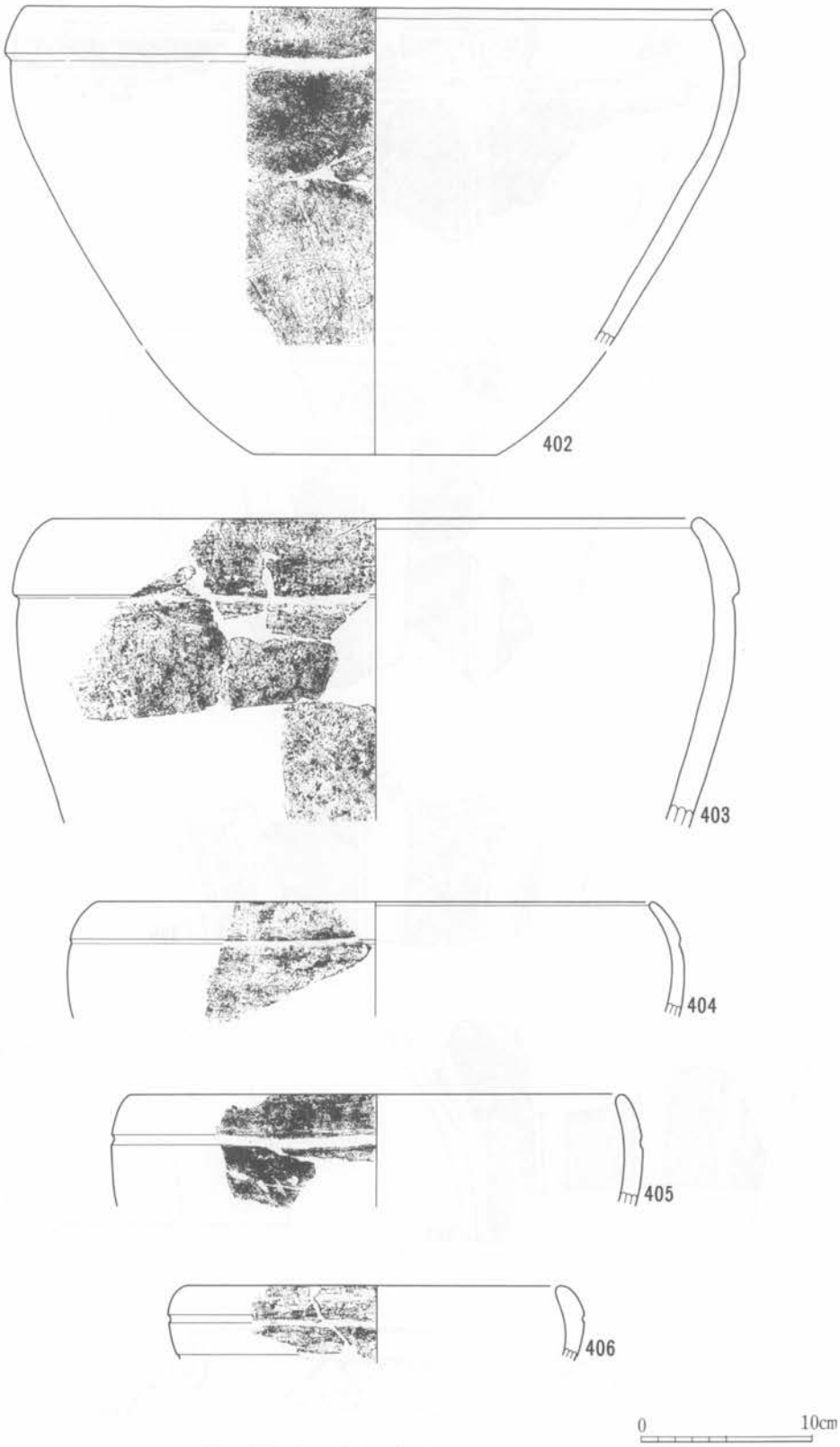

第135図　第Ⅲ群土器拓影図16（1/3）



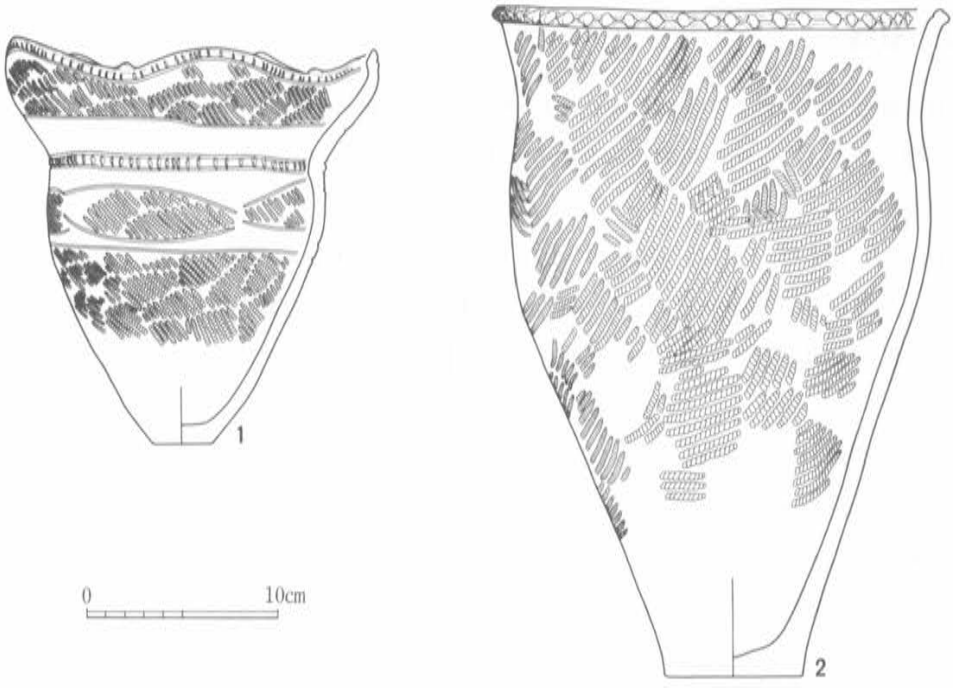

第136図　第Ⅲ群土器拓影図17（1/3）



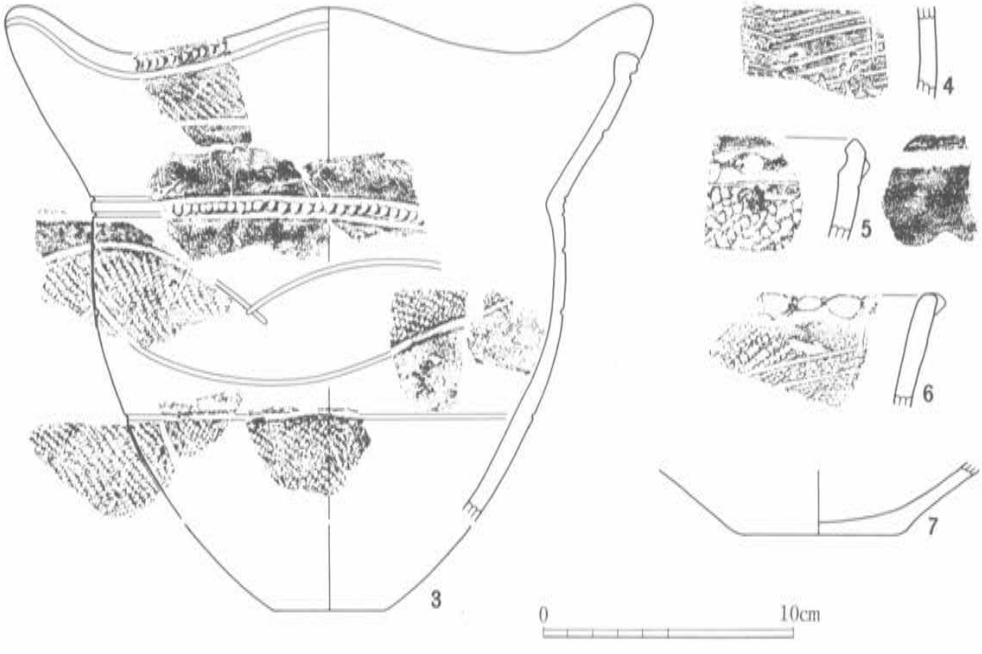

第137図　第Ⅲ群土器実測図18（1/4）




第138図　第Ⅲ群土器実測図20（1/4）




第139図　第Ⅳ群土器実測図１（1/4）




第140図　第Ⅳ群土器拓影図２（1・2¼、3～7⅓）

## D　石器

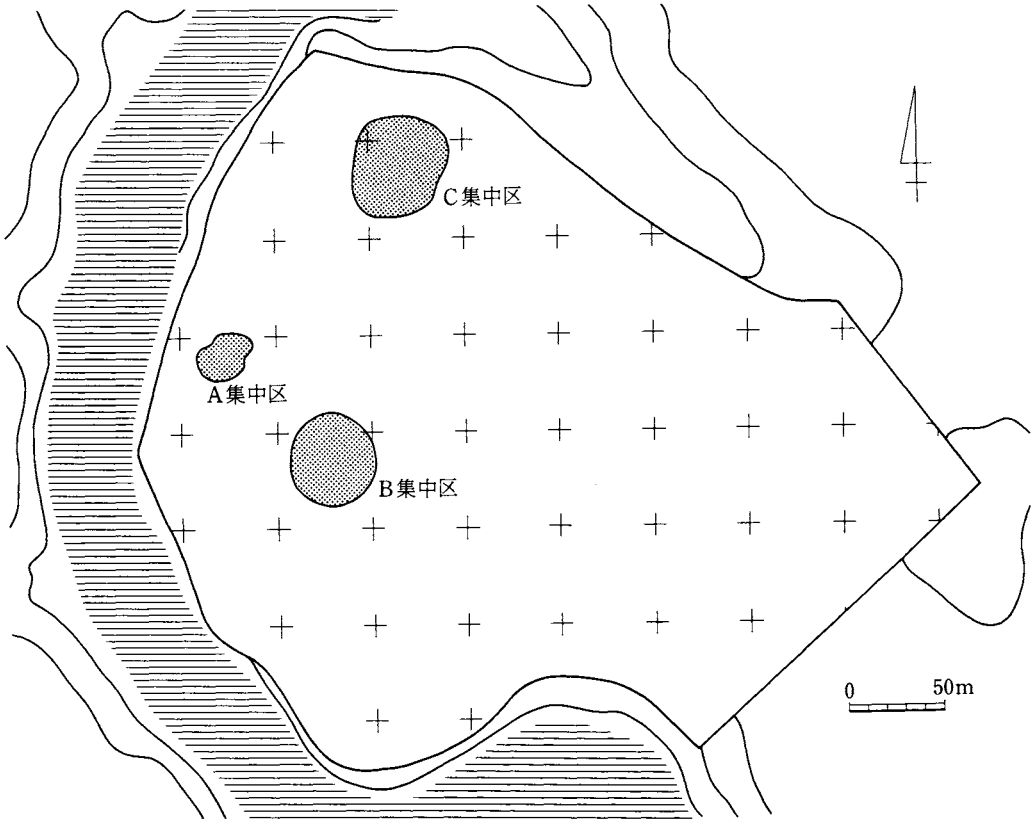
向原遺跡においては、住居跡などに伴わず多くの石器類が得られた。ただ、向原遺跡における石器類の多くは３ヶ所の黒曜石片を中心とする石器類の集中が確認され，これの調査によるものが多い。

黒曜石Ａ集中区（第141～144･147･150･152図　図版６・49）

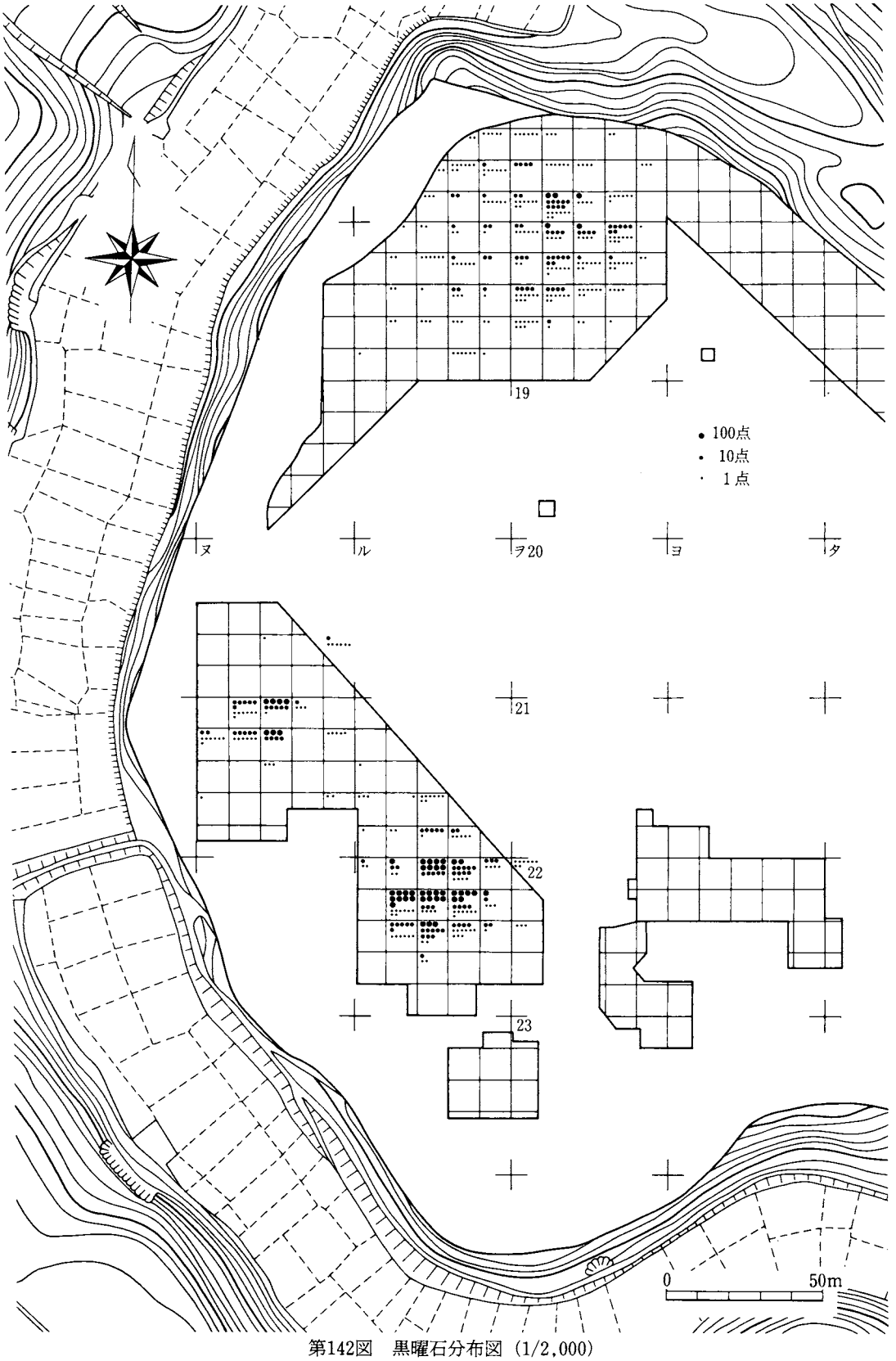
ヌ21-02・03・04・07・08区にわたって東西20m・南北20m程の範囲に、石鏃１点・石鏃未製品２点・敲石２点・石斧２点・磨石２点とともに1183点の剥片類が検出された。石材は黒曜石が1188点を占める。

黒曜石Ｂ集中区（第141～143･145･147･148･150･152156図　図版６・49）

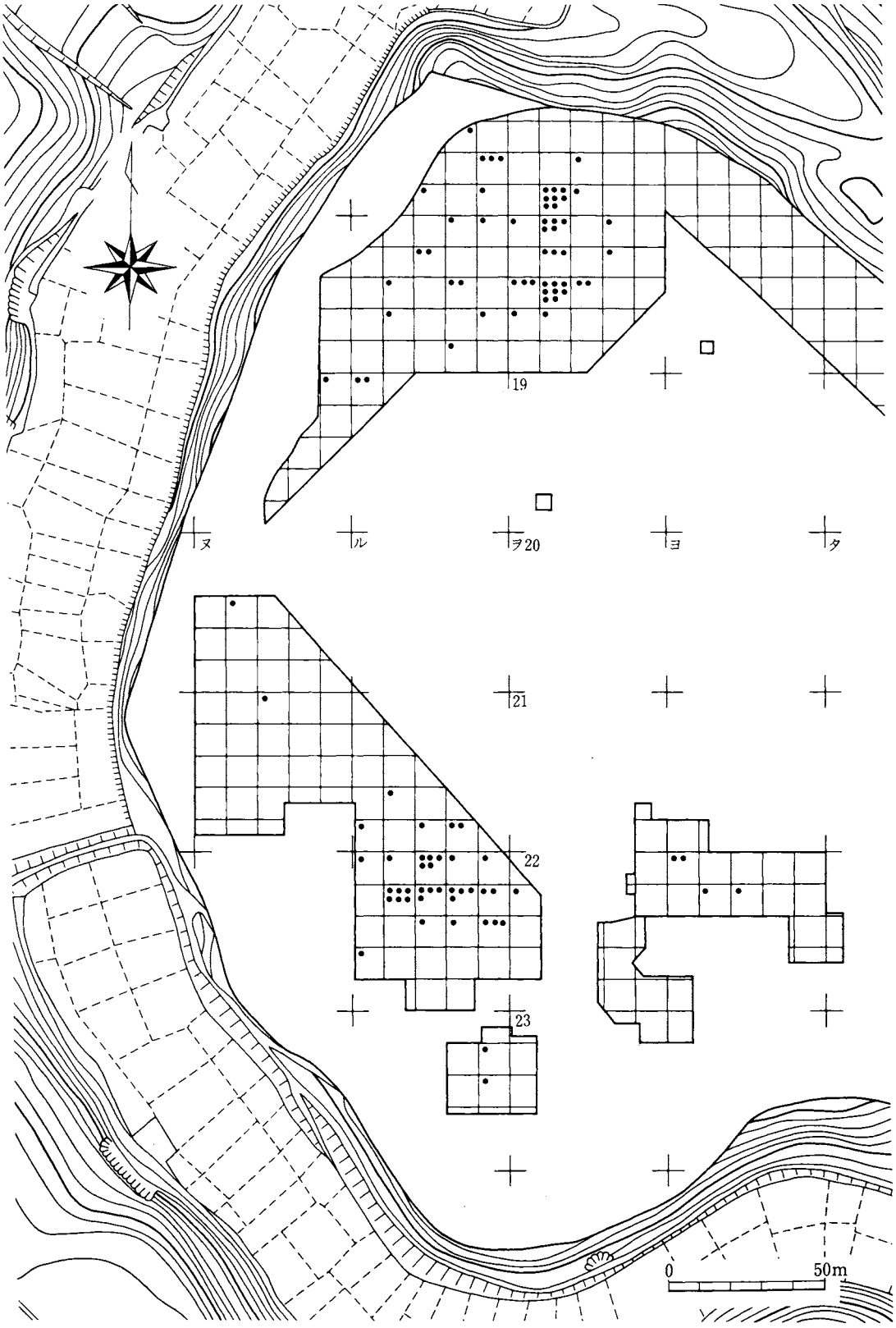
ヌ22-03・04・07・08・0913区を中心に東西40m・南北40m程の範囲に、石鏃31点・石鏃未製品14点・ピエス・エスキューユ28点・石核３点・石錐４点・敲石２点・石斧２点・磨石１点とともに4627点の剥片類が検出された。石材は黒曜石が4504点を占める。



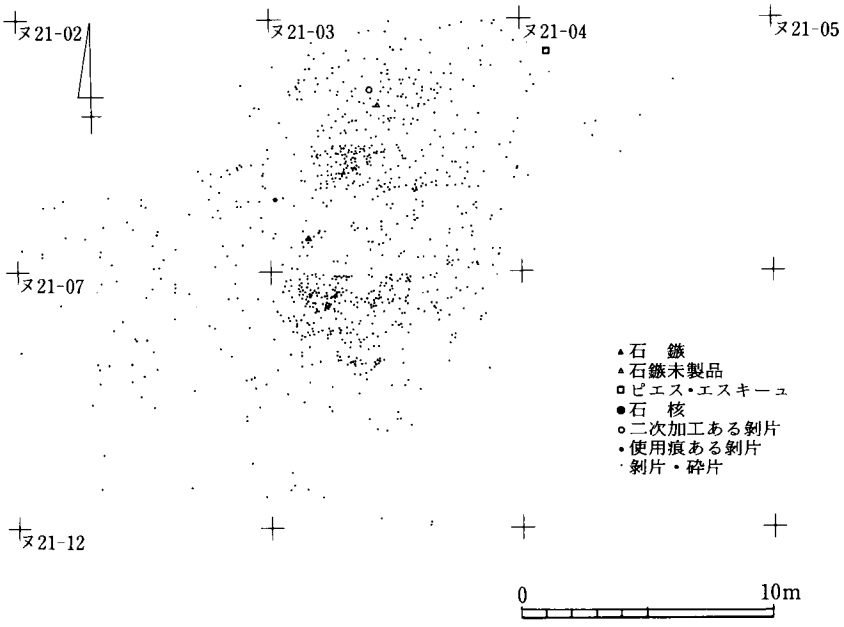

第141図　黒曜石集中区概略図（1/4,000）




第142図　黒曜石分布図（1/2,000）



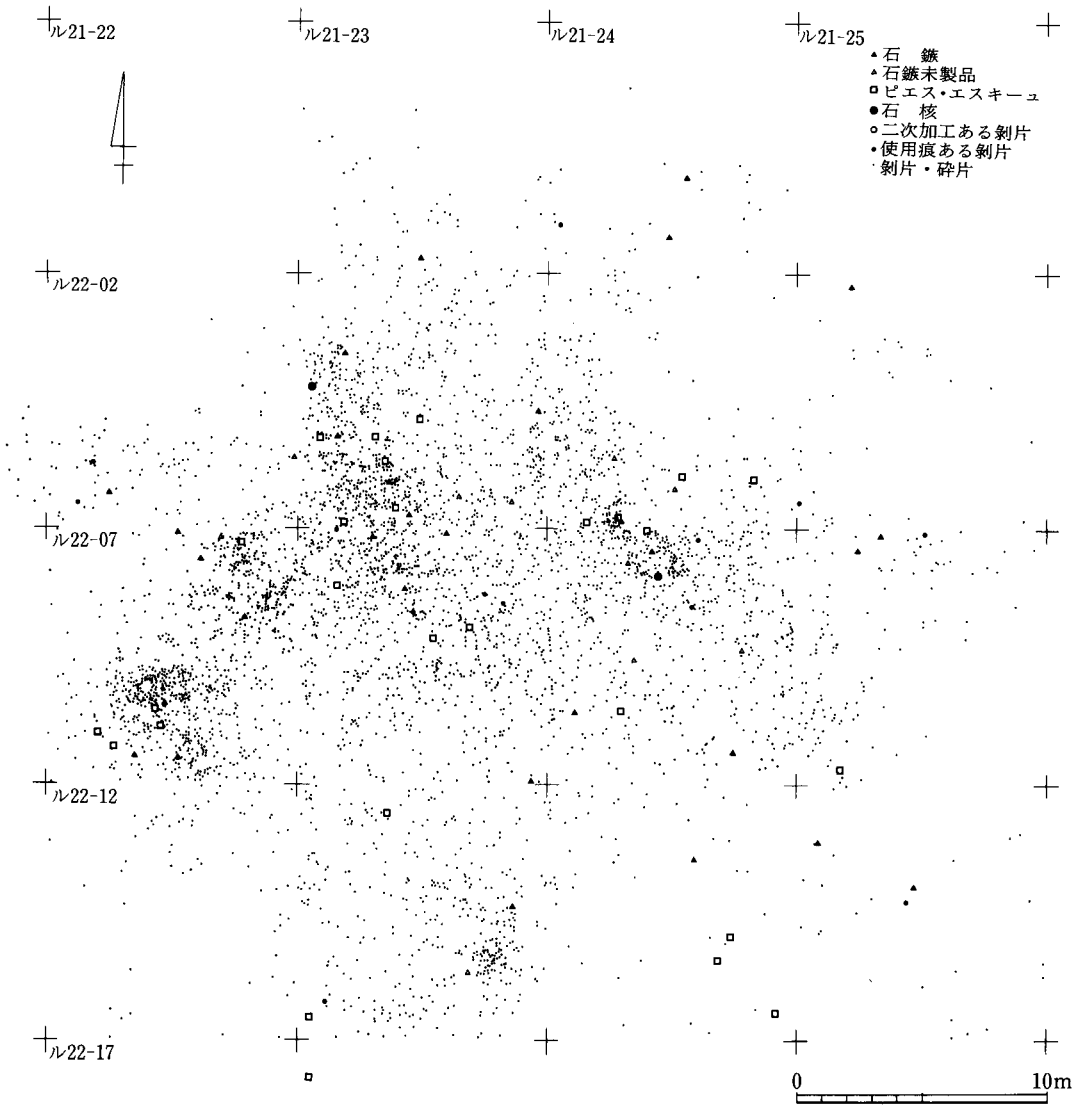

第143図　石鏃分布図（1/2,000）



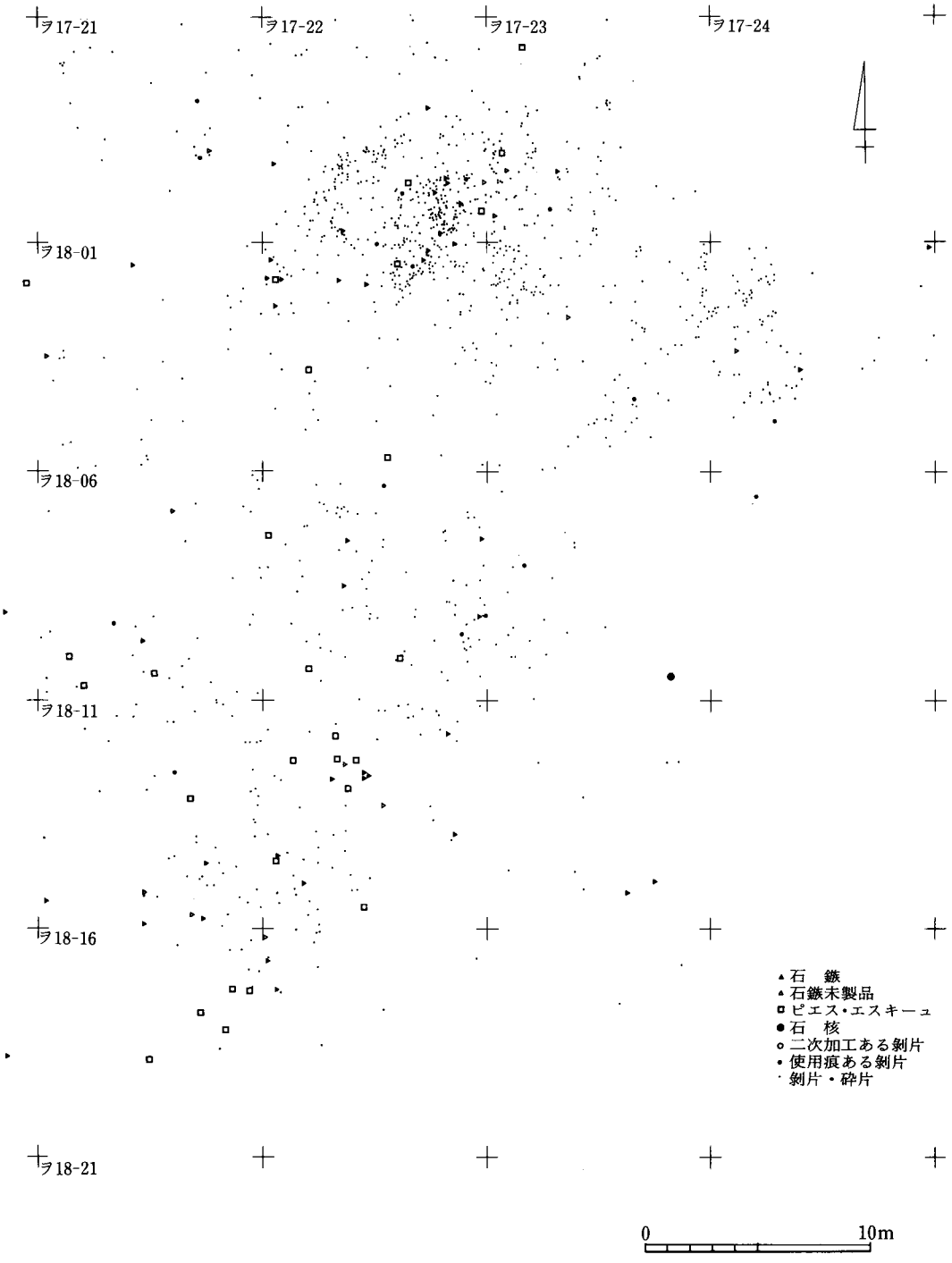

第144図　黒曜石集中区Ａ遺物分布図（1/300）

## 黒曜石Ｃ集中区（第141～143・146・149・150・151・153・154・156図版６・49）

ヲ17-22・23ヲ18-02・03・06・07・11・12・16区を中心に東西50m・南北50m程の範囲に、石鏃34点・石鏃未製品13点・ピエス・エスキューユ33点・石核２点・石錐４点・敲石１点・石斧４点・磨石８点とともに1457点の剥片類が検出された。石材は黒曜石が1440点を占める。




第145図　黒曜石集中区Ｂ遺物分布図（1/300）




第146図　黒曜石集中区C遺物分布図（1/300）

## 第15表　黒曜石Ａ集中区出土石器組成表

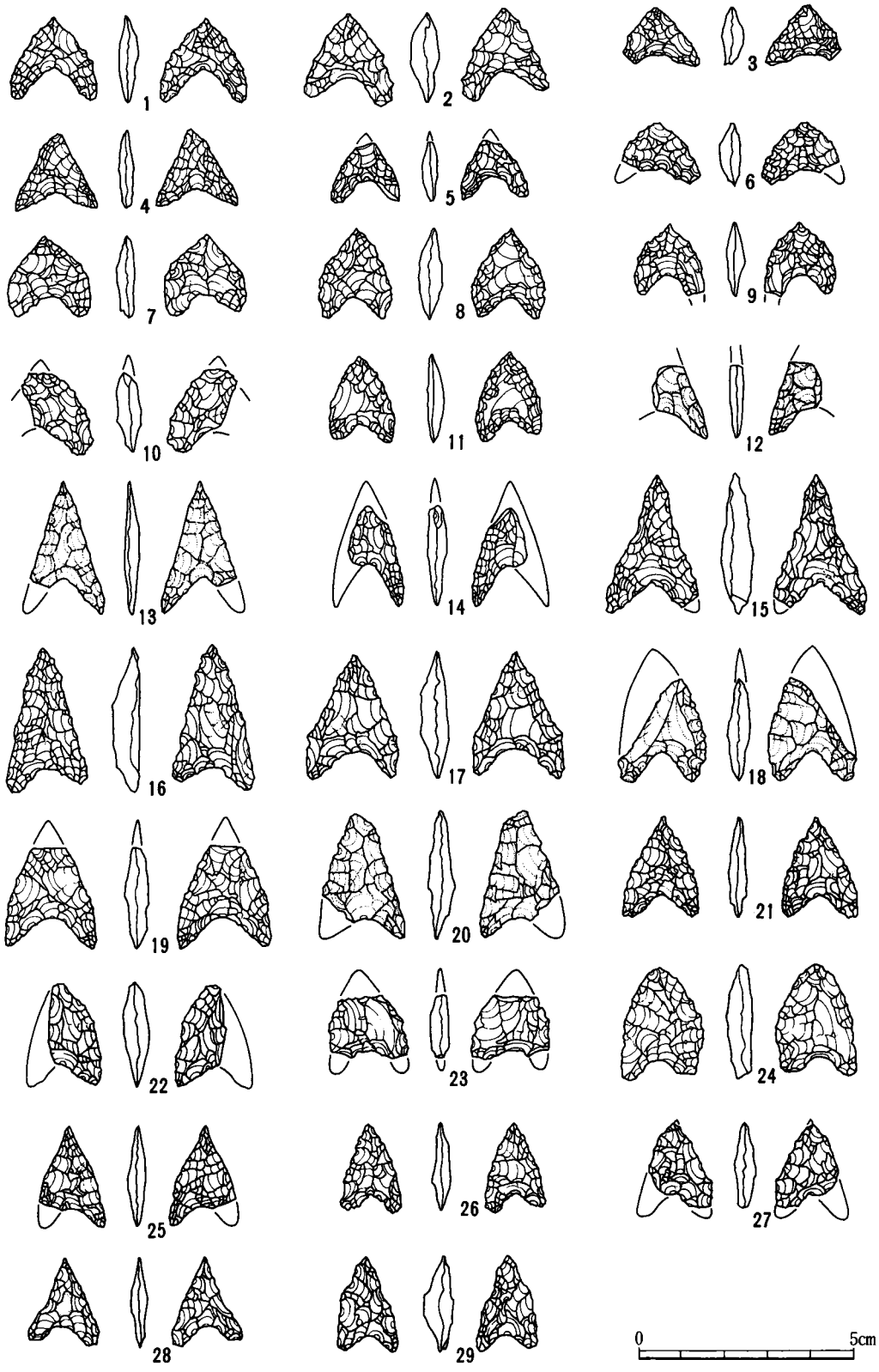
| | 石　鏃 | 石　鏃未製品 | ピエス・エスキュー | 石　核 | 石　錐 | 高　石 | 石　斧 | 二次加工剝片 | 使用痕剝　片 | 砕　片 0.5cm | 0.5～1.0cm | 剝　片 1.0以上 | 素　材剝　片 | 磨　石 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 黒曜石 | 1 | 2 | 3 | | | | | 1 | 2 | 390 | 692 | 94 | 3 | | 1,188 |
| チャート | | | | | | 1 | | | | | 1 | | | | 2 |
| 花崗岩 | | | | | | | 1 | | | | | | | | 1 |
| 砂　岩 | | | | | | | 1 | | | | | | | 1 | 2 |
| 安山岩 | | | | | | 1 | | | | | | | | 1 | 2 |
| その他 | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| 計 | 1 | 2 | 3 | 0 | 0 | 2 | 2 | 1 | 2 | 390 | 693 | 94 | 3 | 2 | 1,195 |

## 第16表　黒曜石Ｂ集中区出土石器組成表

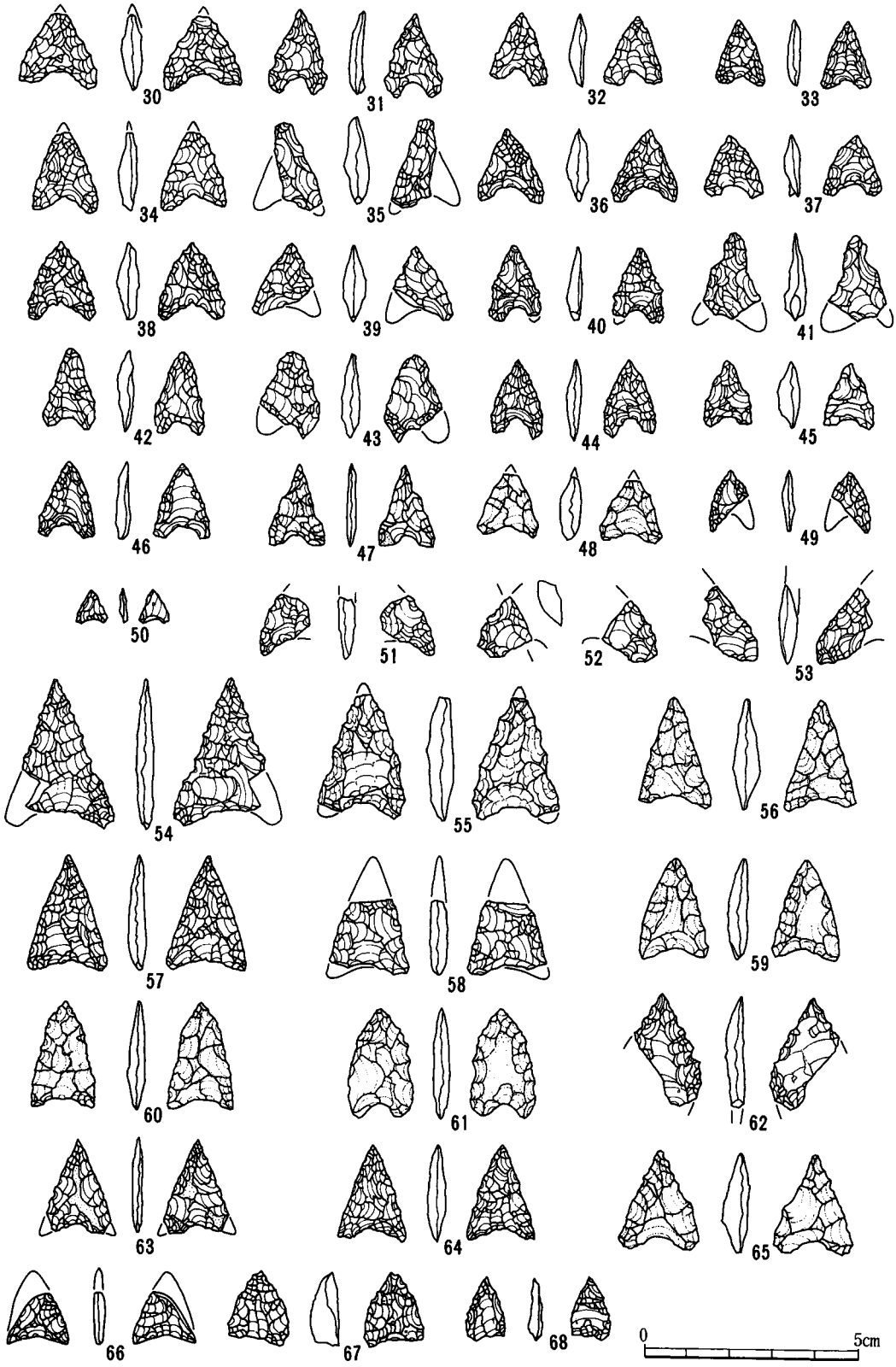
| | 石　鏃 | 石　鏃未製品 | ピエス・エスキュー | 石　核 | 石　錐 | 高　石 | 石　斧 | 二次加工剝片 | 使用痕剝　片 | 砕　片 0.5cm | 0.5～1.0cm | 剝　片 1.0以上 | 素　材剝　片 | 磨　石 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 黒曜石 | 21 | 7 | 9 | 2 | 3 | | | 9 | 10 | 1206 | 2639 | 589 | 9 | | 4,504 |
| チャート | 7 | 4 | 9 | | 1 | | | 1 | 1 | 133 | | 8 | | | 164 |
| 安山岩 | | | 5 | | | | | | | 2 | | | | 1 | 8 |
| 頁　岩 | 3 | 1 | 3 | | | 1 | | | | 4 | | | | | 12 |
| 珪質頁岩 | | | 2 | 1 | | | | | 1 | 3 | | 3 | | | 10 |
| メノウ | | | | | | | | | | 7 | 1 | | | | 8 |
| 砂　岩 | | 1 | | | | 1 | 1 | | | 1 | | | | | 4 |
| 緑泥片岩 | | | | | | | 1 | | | | | | | | 1 |
| 計 | 31 | 13 | 28 | 3 | 4 | 2 | 2 | 10 | 12 | 1,356 | 2,640 | 600 | 9 | 1 | 4,711 |

## 第17表　黒曜石Ｃ集中区出土石器組成表

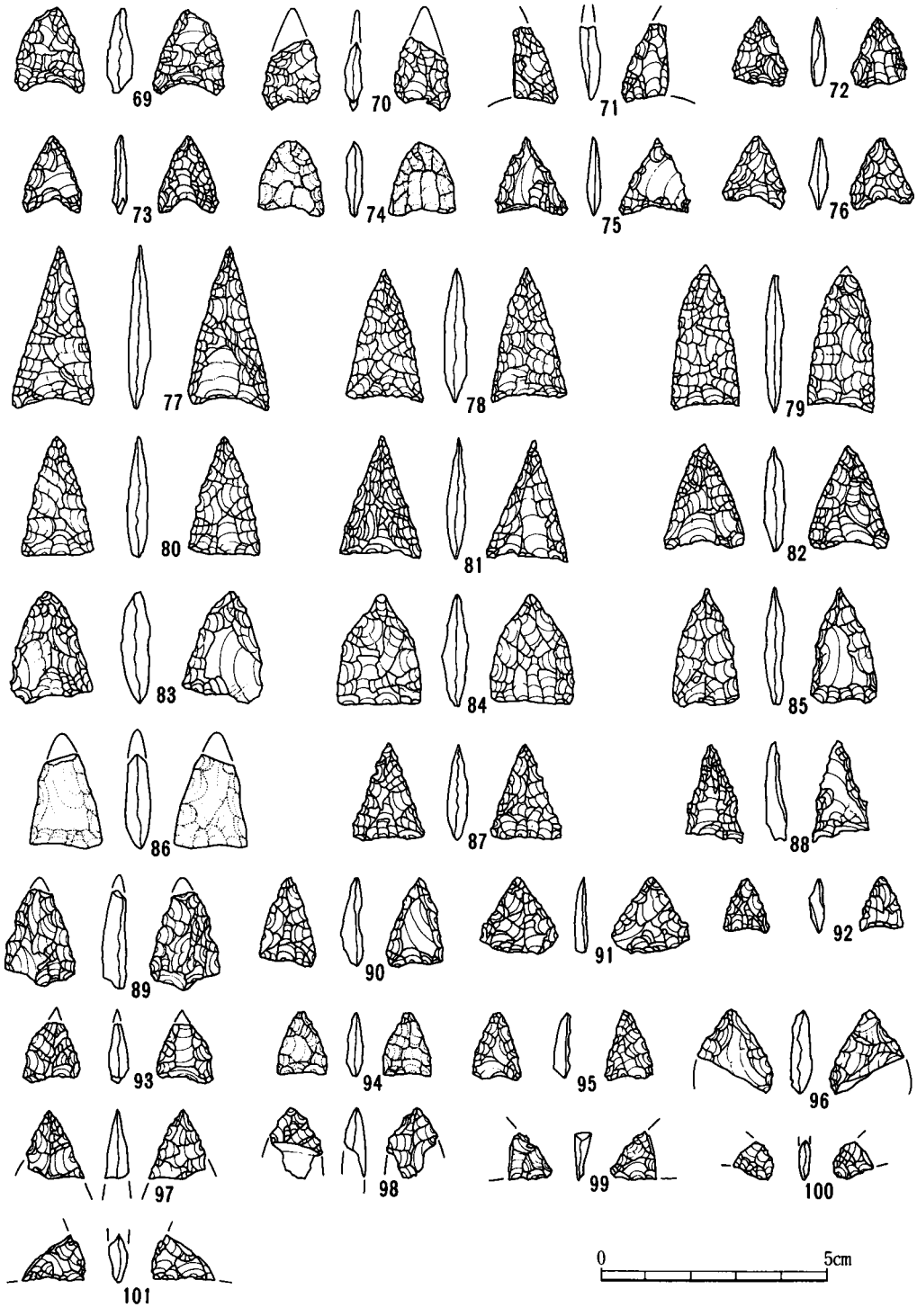
| | 石　鏃 | 石　鏃未製品 | ピエス・エスキュー | 石　核 | 石　錐 | 高　石 | 石　斧 | 二次加工剝片 | 使用痕剝　片 | 砕　片 0.5cm | 0.5～1.0cm | 剝　片 1.0以上 | 素　材剝　片 | 磨　石 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 黒曜石 | 22 | 6 | 8 | 2 | 1 | | | 8 | 14 | 140 | 733 | 495 | 11 | | 1,440 |
| チャート | 3 | 4 | 18 | | | | | | 1 | 6 | | 16 | | | 48 |
| 安山岩 | 4 | 1 | 3 | | 1 | | 2 | 1 | | | | 14 | | 5 | 31 |
| 頁　岩 | 2 | 1 | 1 | | | | | | | | | 3 | | 1 | 8 |
| 珪質頁岩 | | | 3 | | | | 1 | | | | | 2 | | | 6 |
| メノウ | 2 | 1 | | | 2 | | | | | 5 | | 16 | | | 26 |
| 砂　岩 | 1 | | | | | 1 | 1 | | | | | 1 | | 2 | 6 |
| 計 | 34 | 13 | 33 | 2 | 4 | 1 | 4 | 9 | 15 | 151 | 733 | 547 | 11 | 8 | 1,565 |



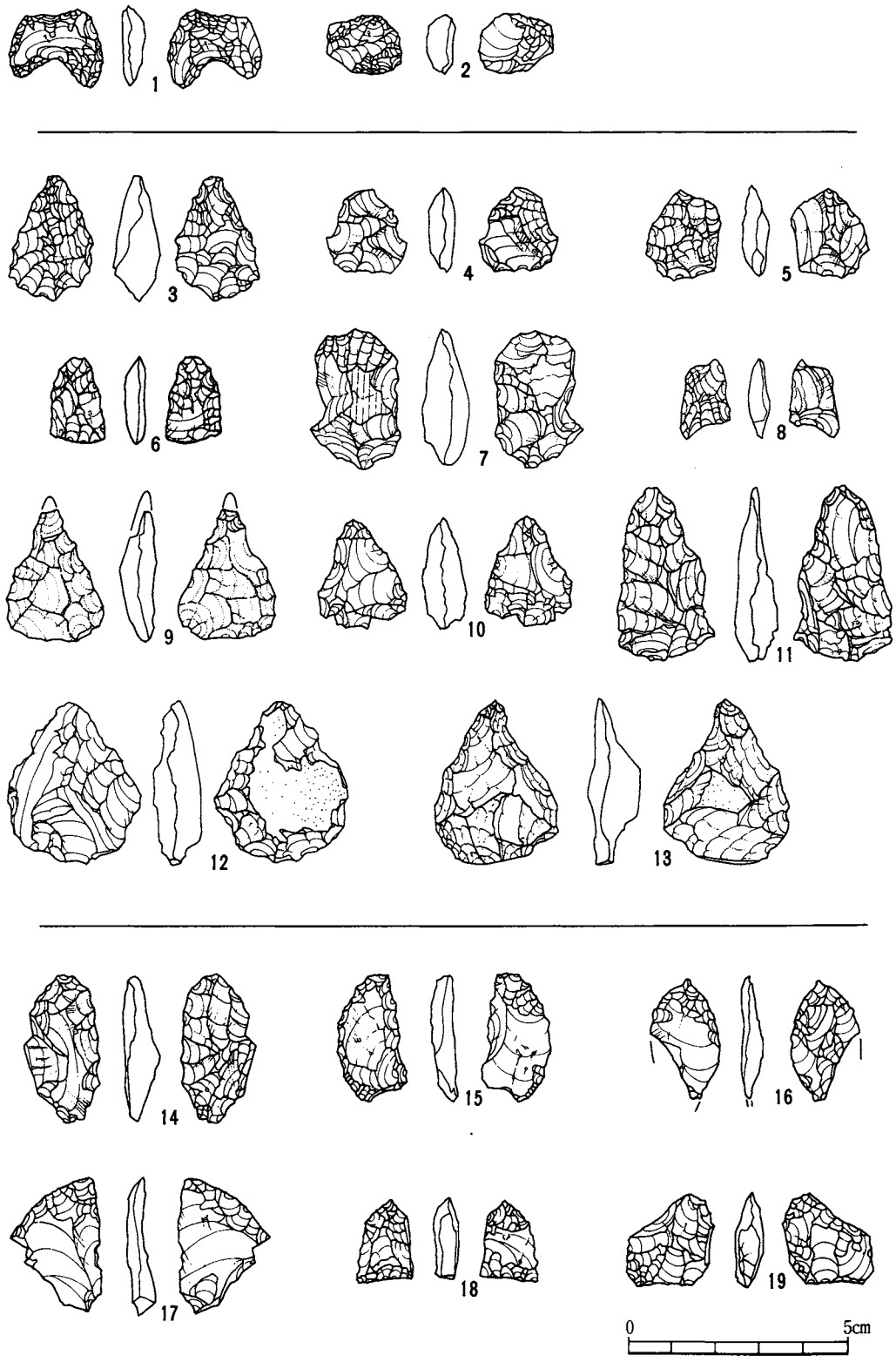

第147図　石鏃実測図１（2/3）



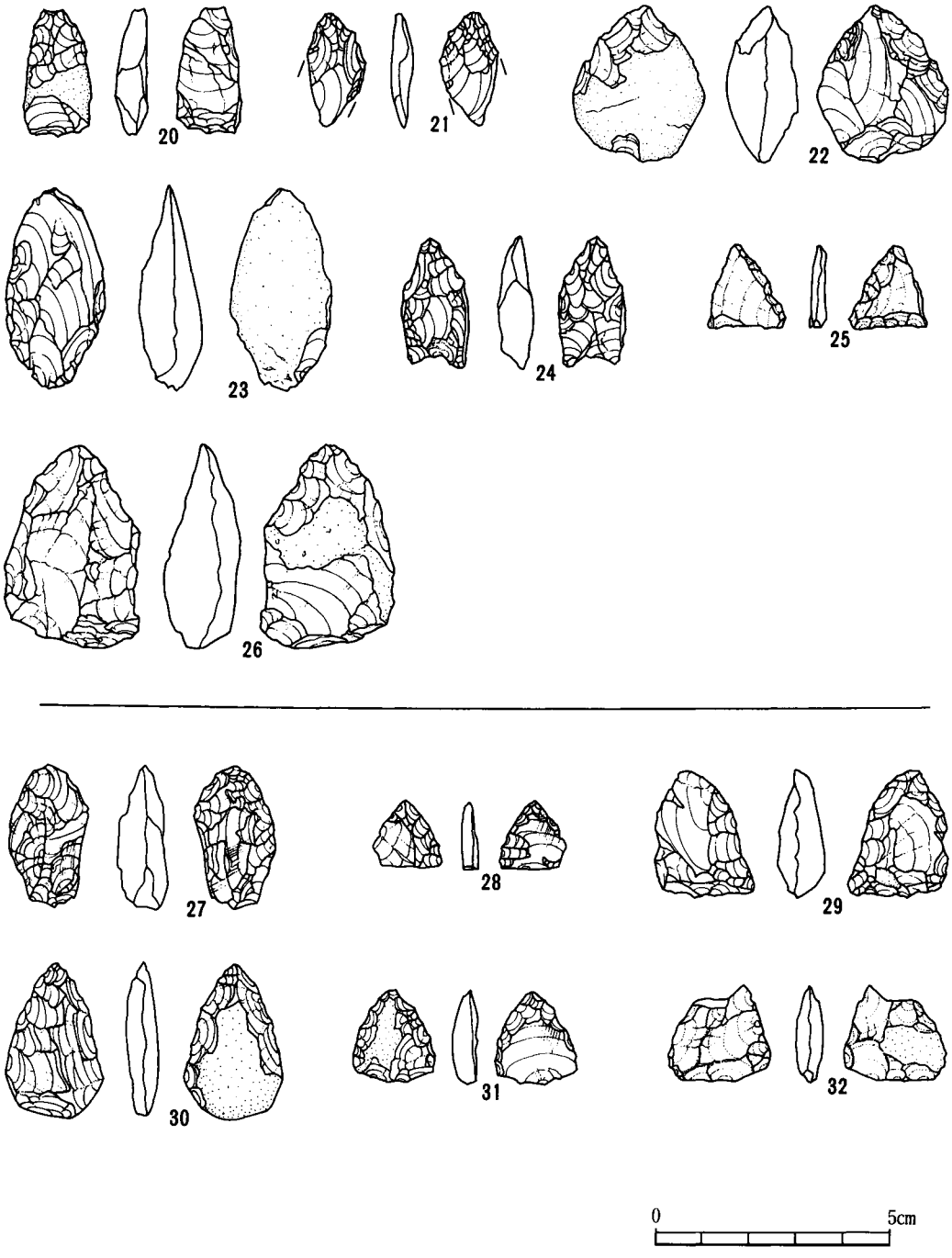

第148図　石鏃実測図２（2/3）



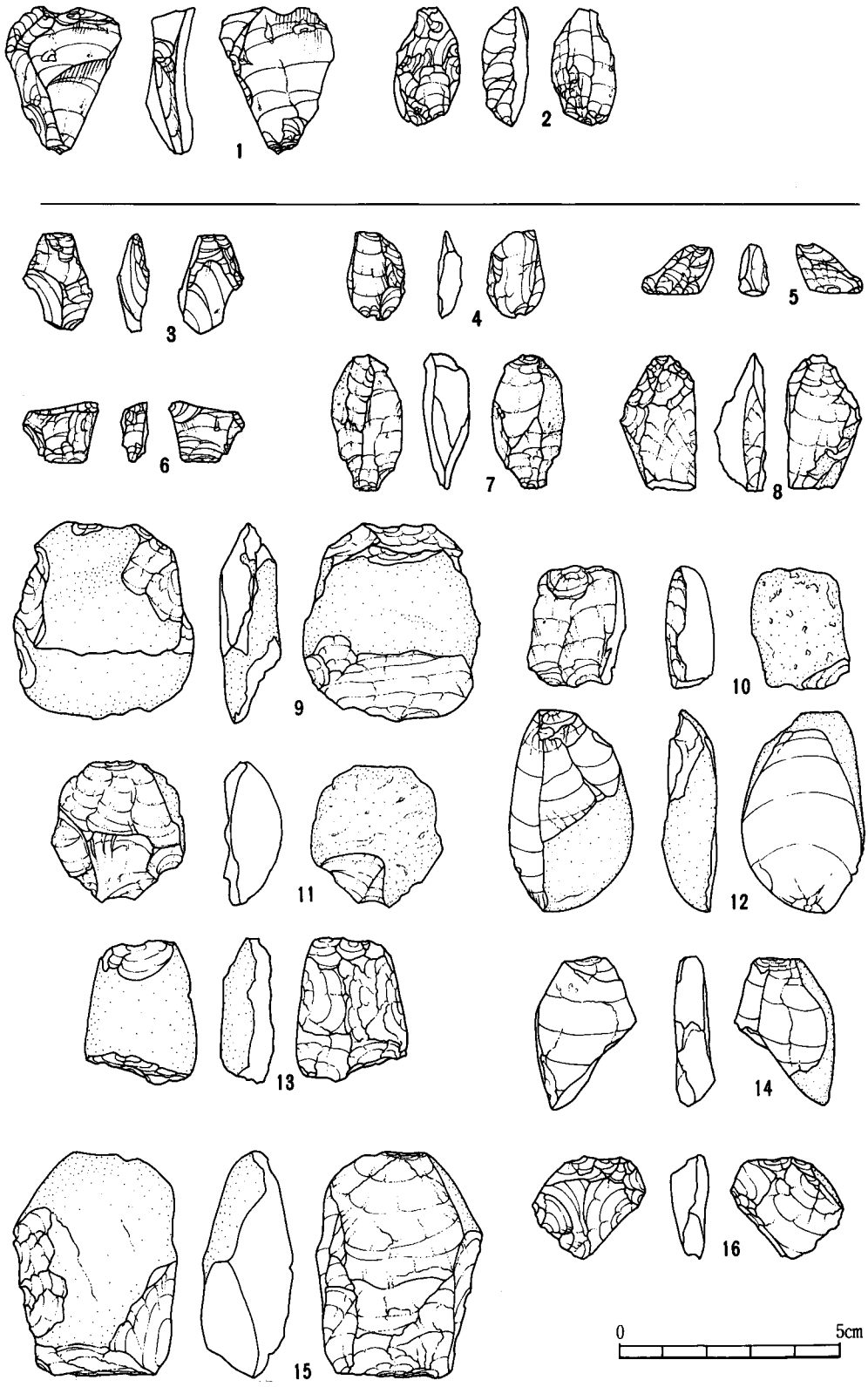

第149図　石鏃実測図３（2/3）



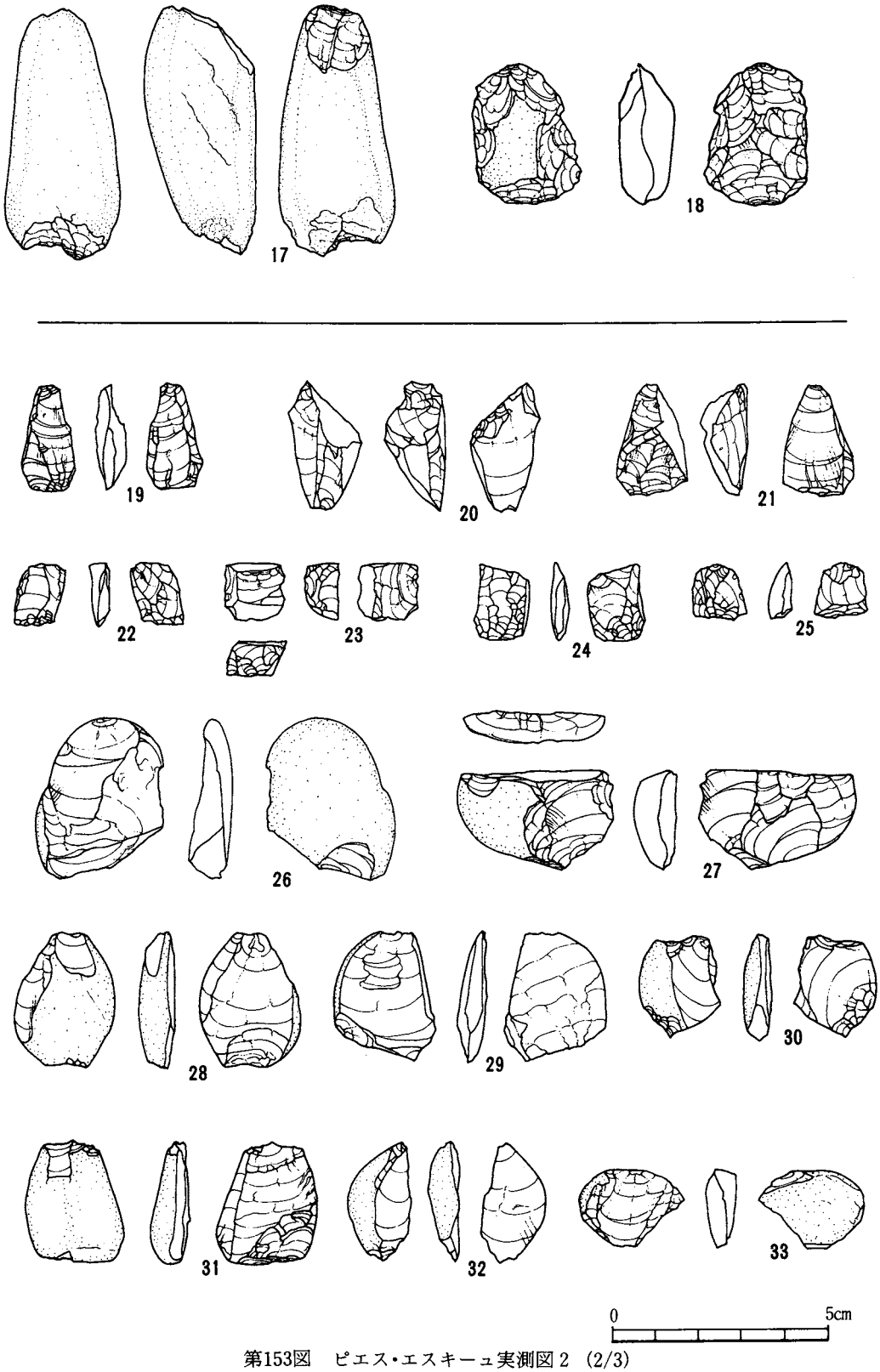

第150図　石鏃未製品実測図１（2/3）
（1･2集中区Ａ、3～13集中区Ｂ、14～19集中区Ｃ）



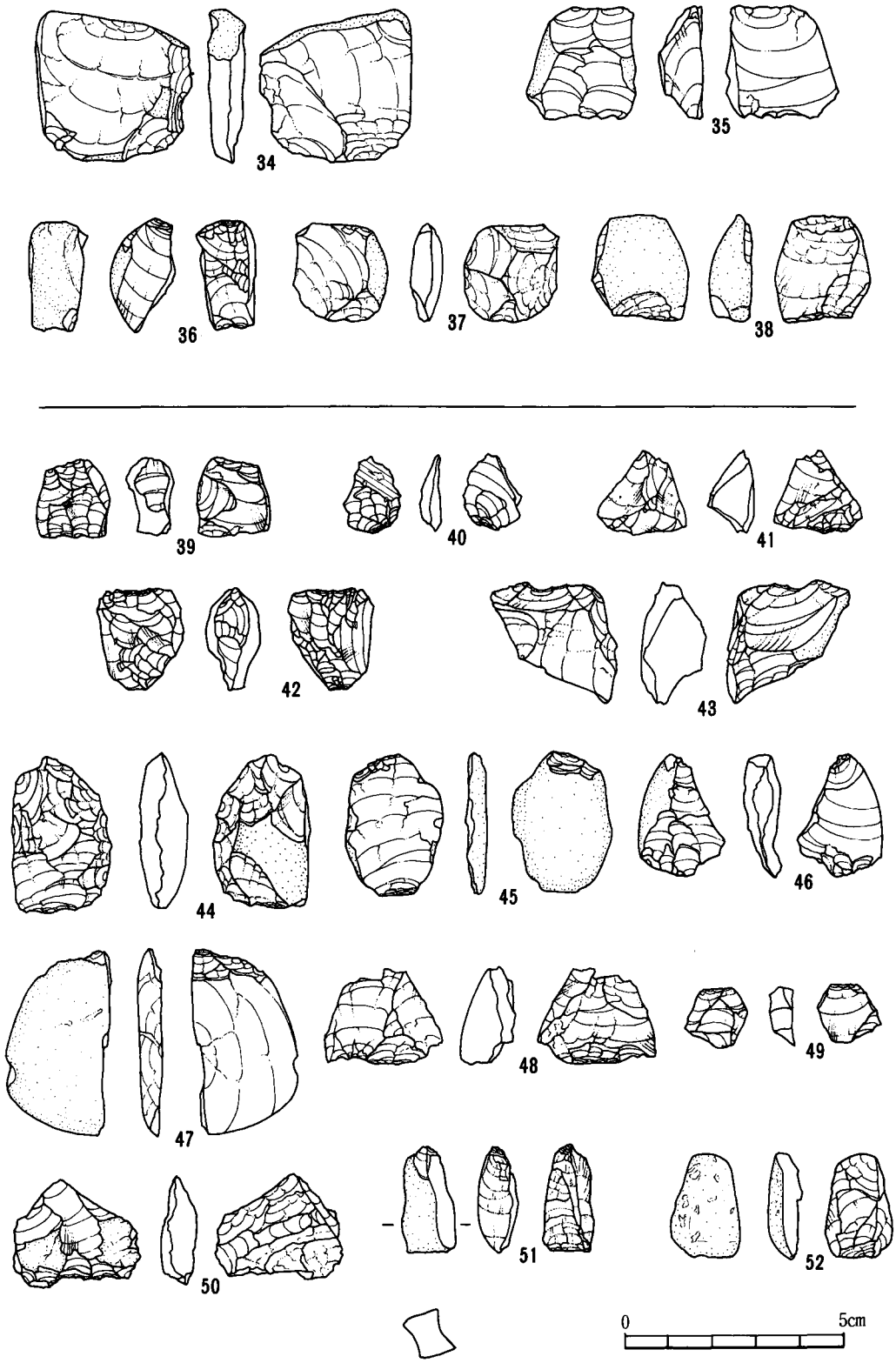

第151図　石鏃未製品実測図２（2/3）
（20～26集中区Ｃ、27～32集中区外）



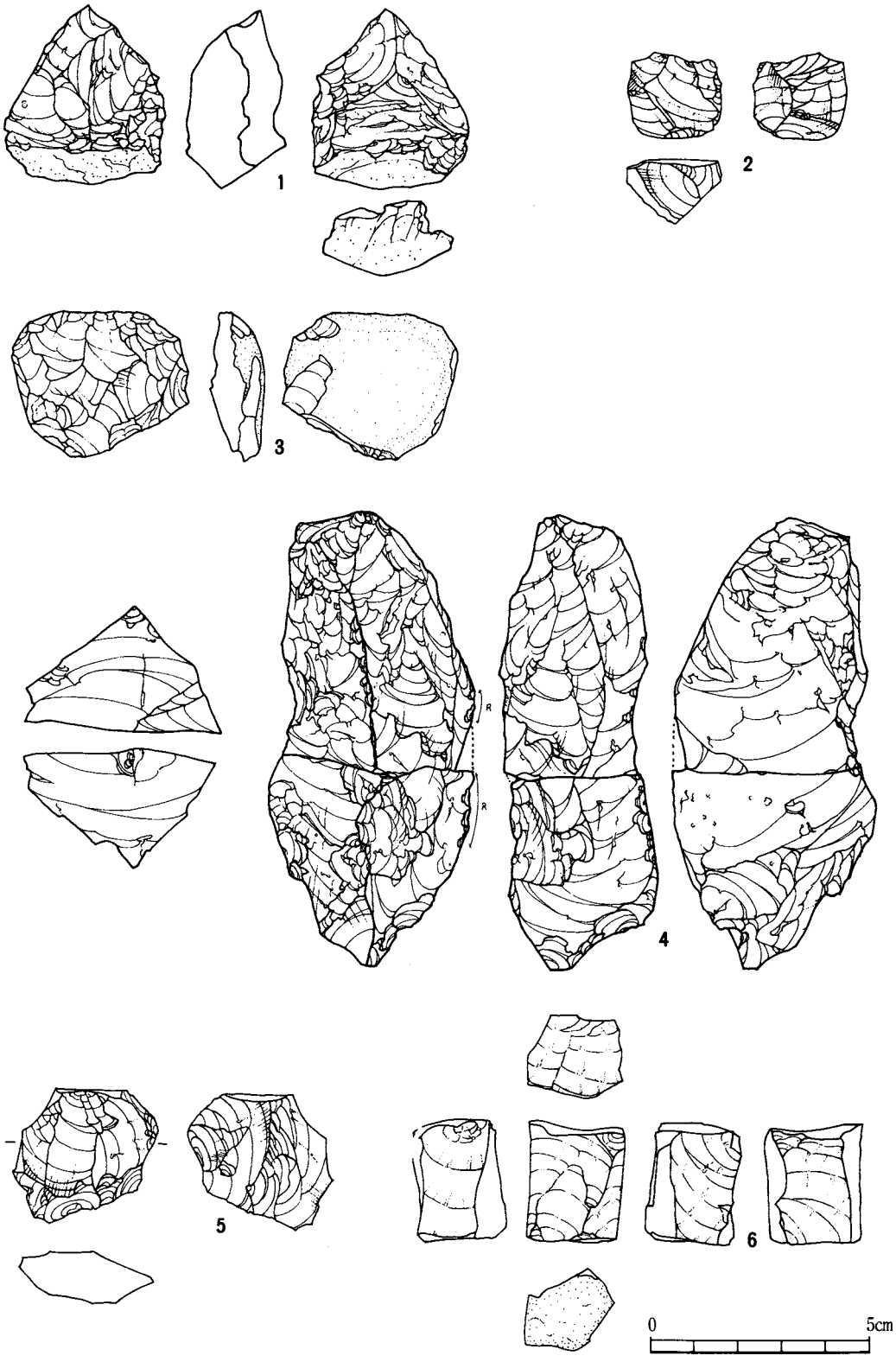

第152図　ピエス・エスキーュ実測図１（2/3）
（1・2集中区Ａ、3～16集中区Ｂ）



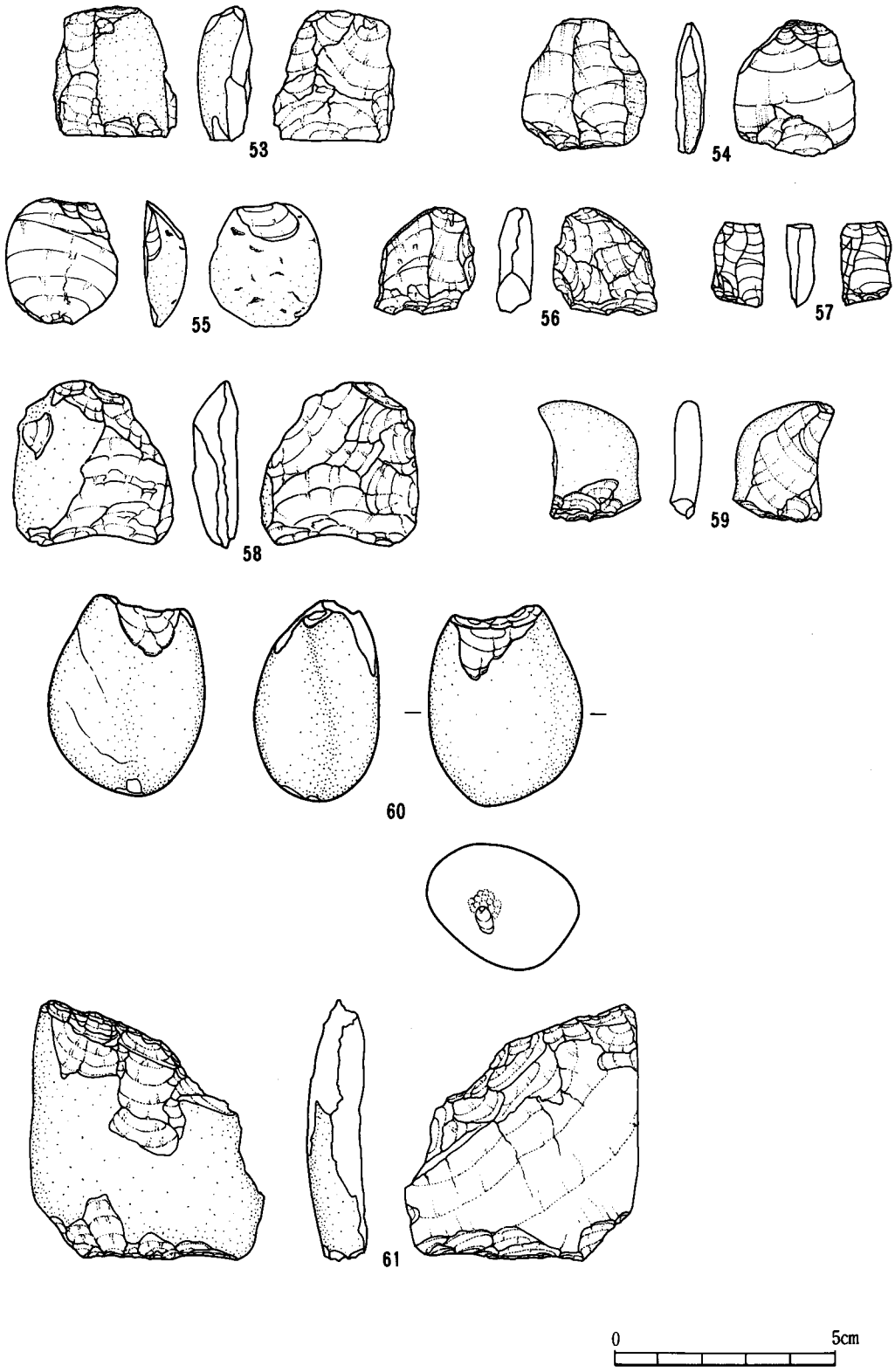

第153図　ピエス・エスキーュ実測図２（2/3）
（17・18集中区Ｂ、19～33集中区Ｃ）



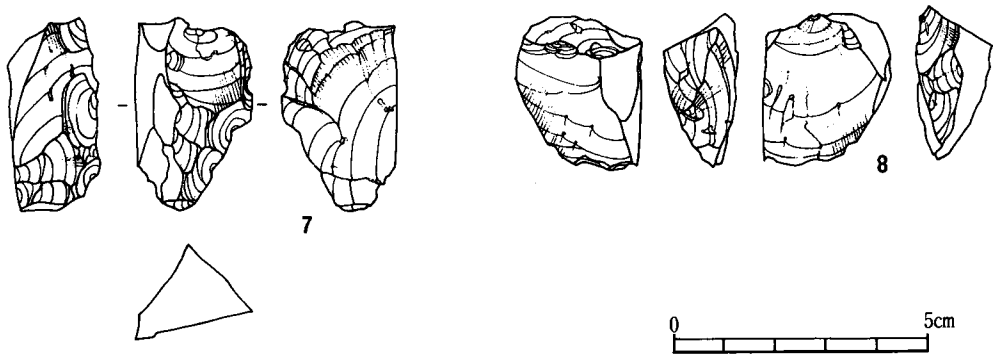

第154図　ピエス・エスキーュ実測図３（2/3）
（34～38集中区Ｃ、39～52集中区外）



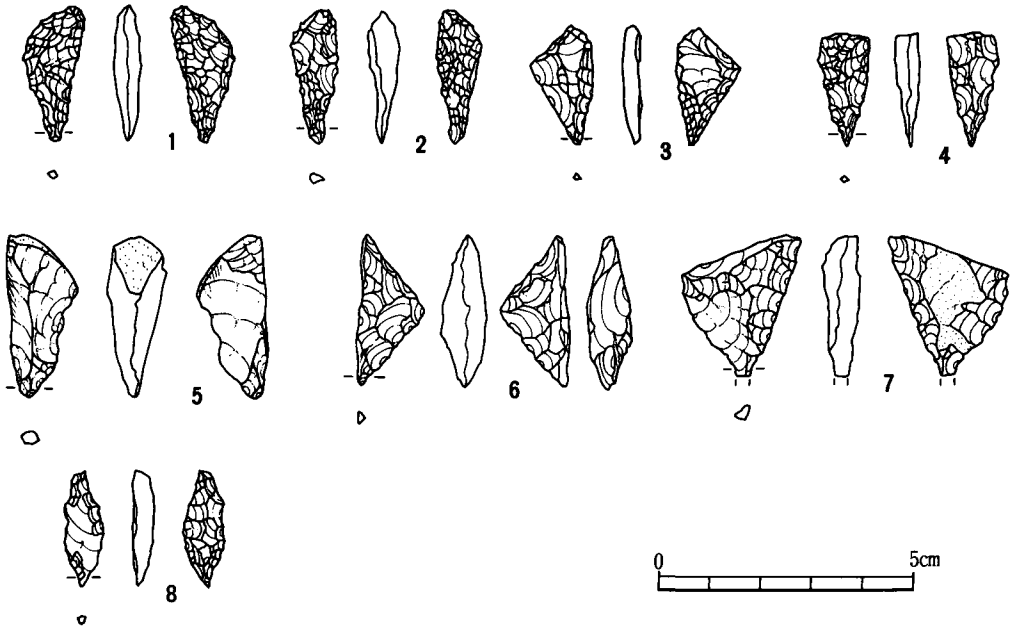

第156図　石核実測図１（2/3）
（1～3集中区Ｂ、4･5集中区Ｃ、６集中区外）



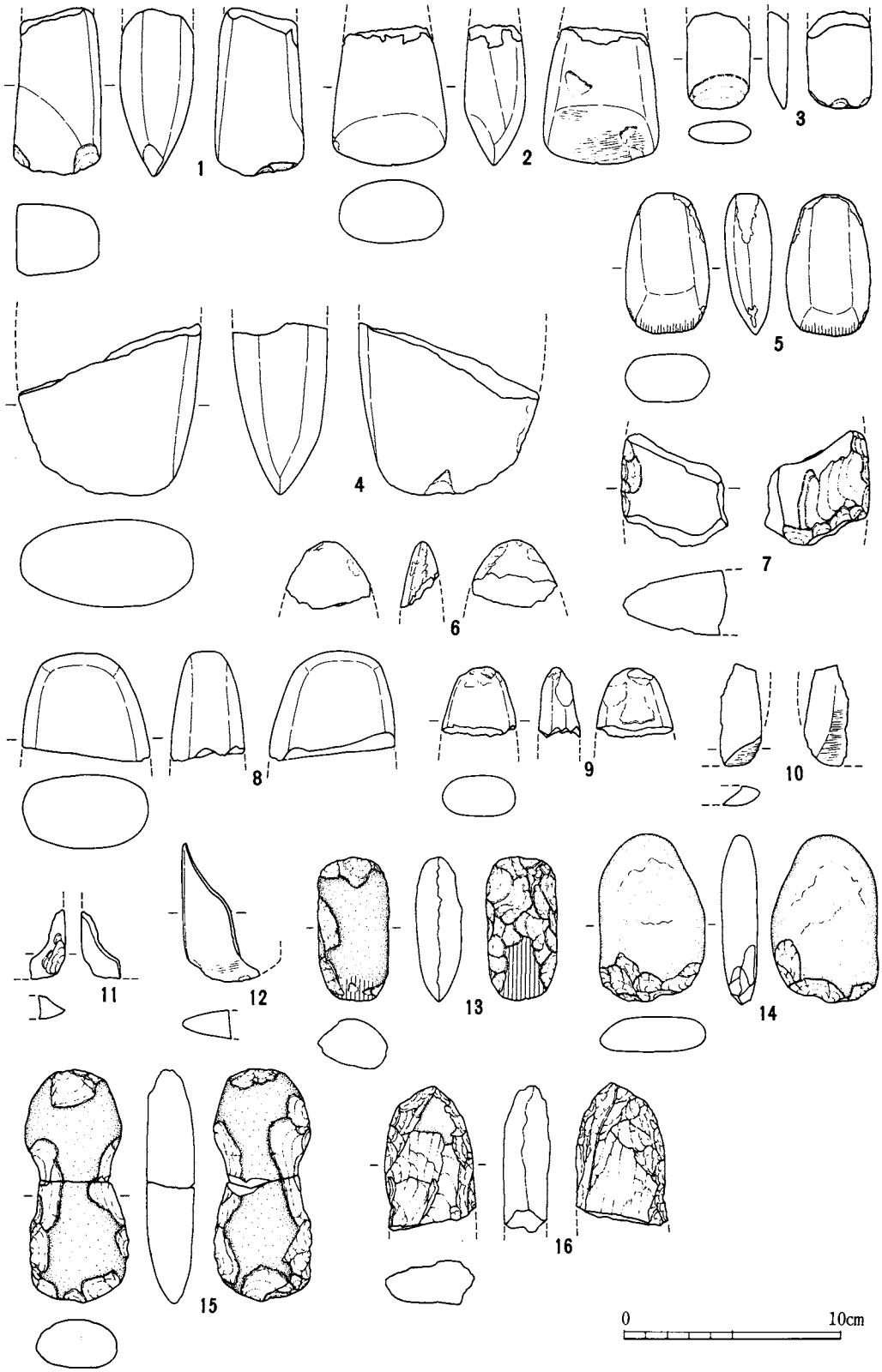

第155図　ピエス・エスキーュ実測図４（2/3）
（53～61集中区外）



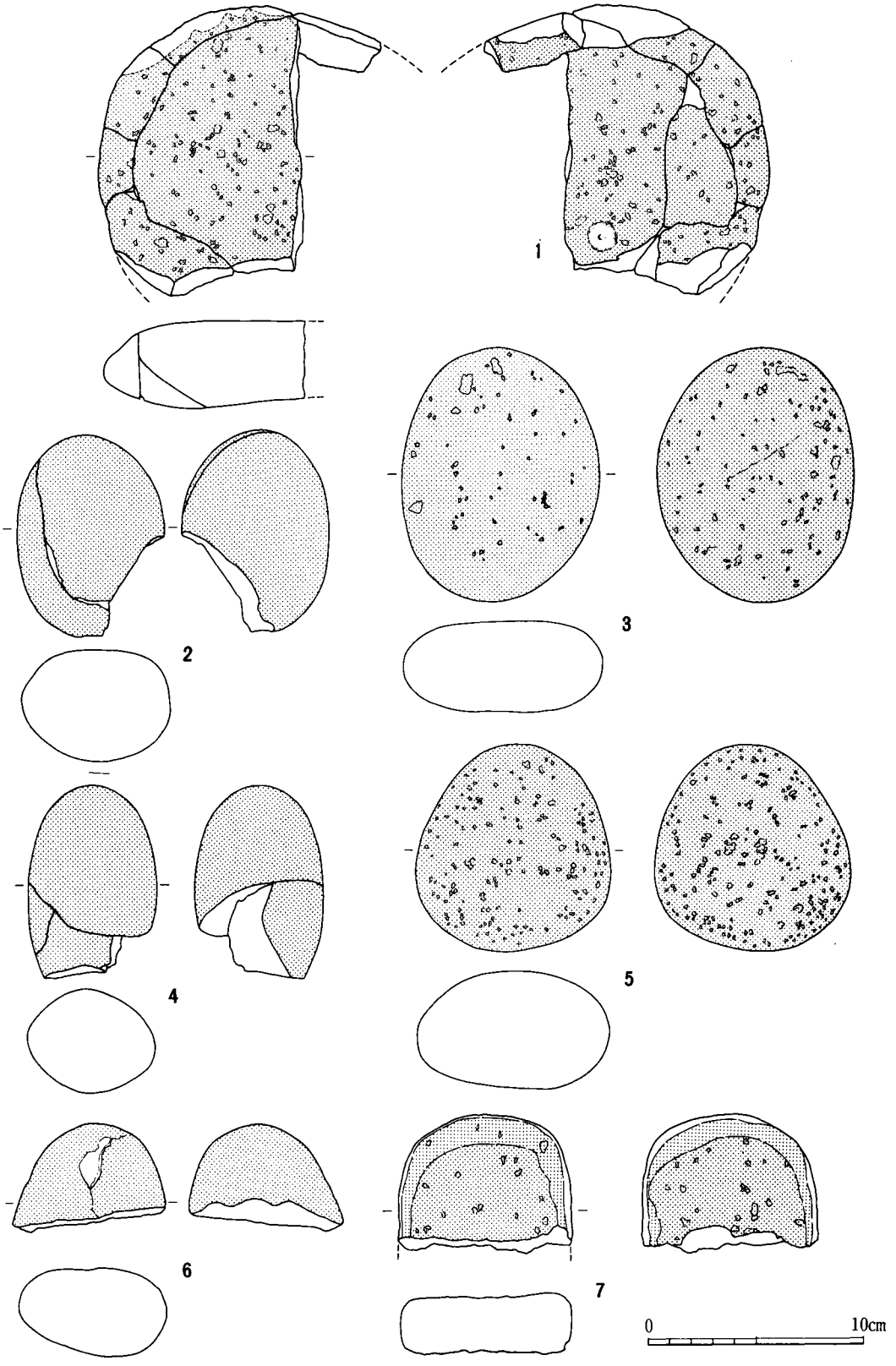

第157図　石核実測図２（2/3）
（７・８集中区外）



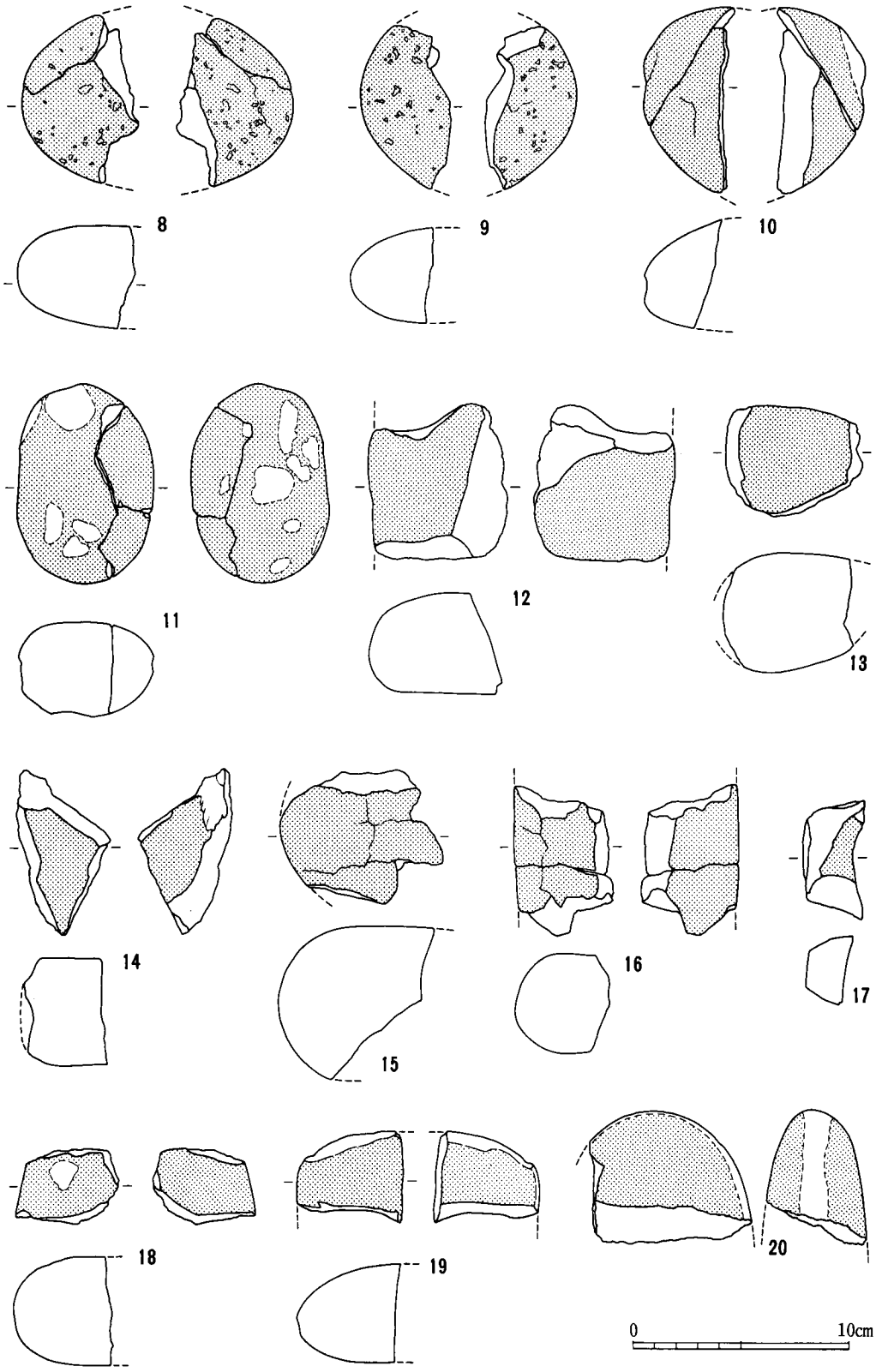

第158図　石錐実測図（2/3）



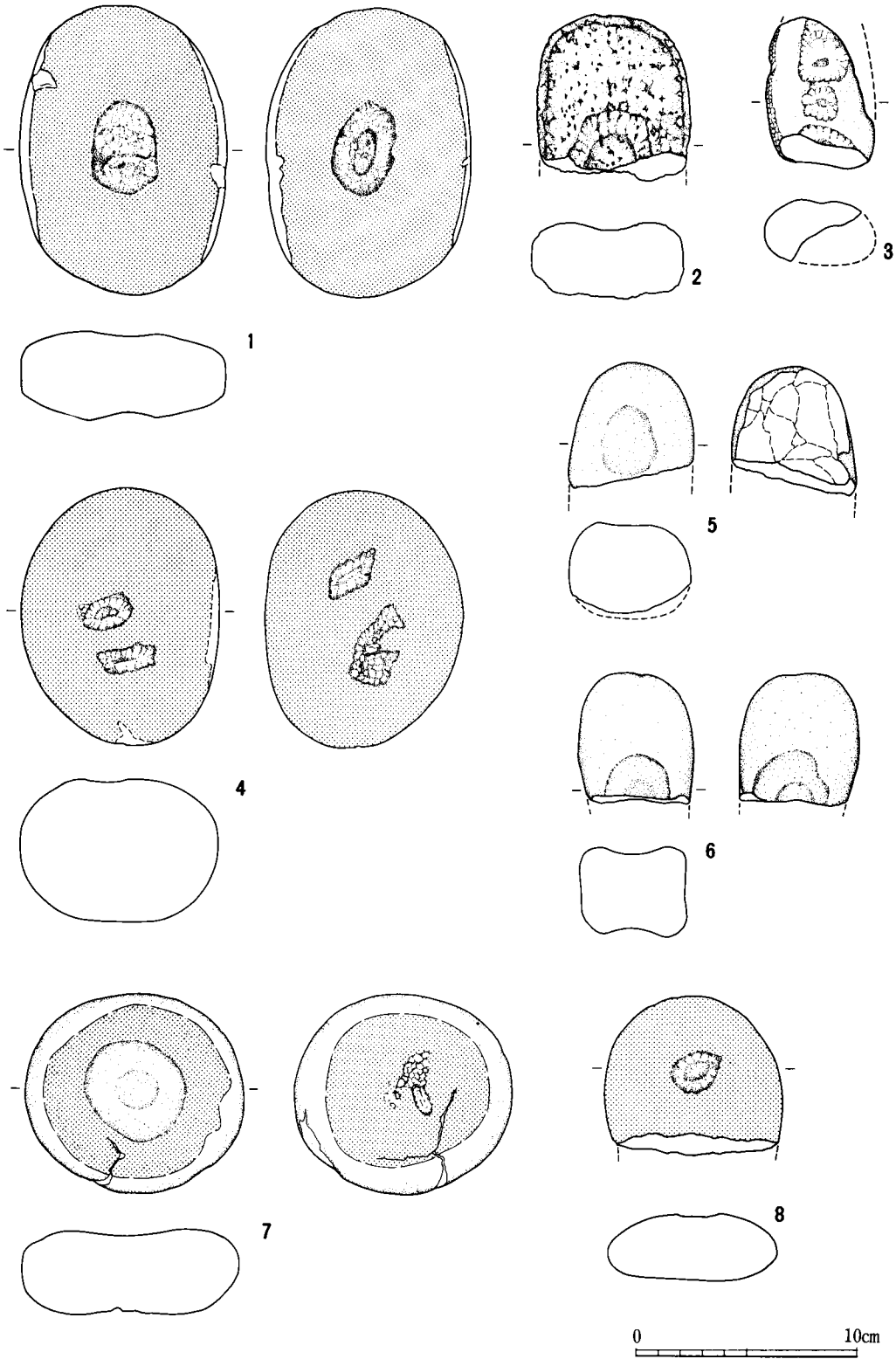

第159図　磨製石斧・打製石斧実測図（1/3）



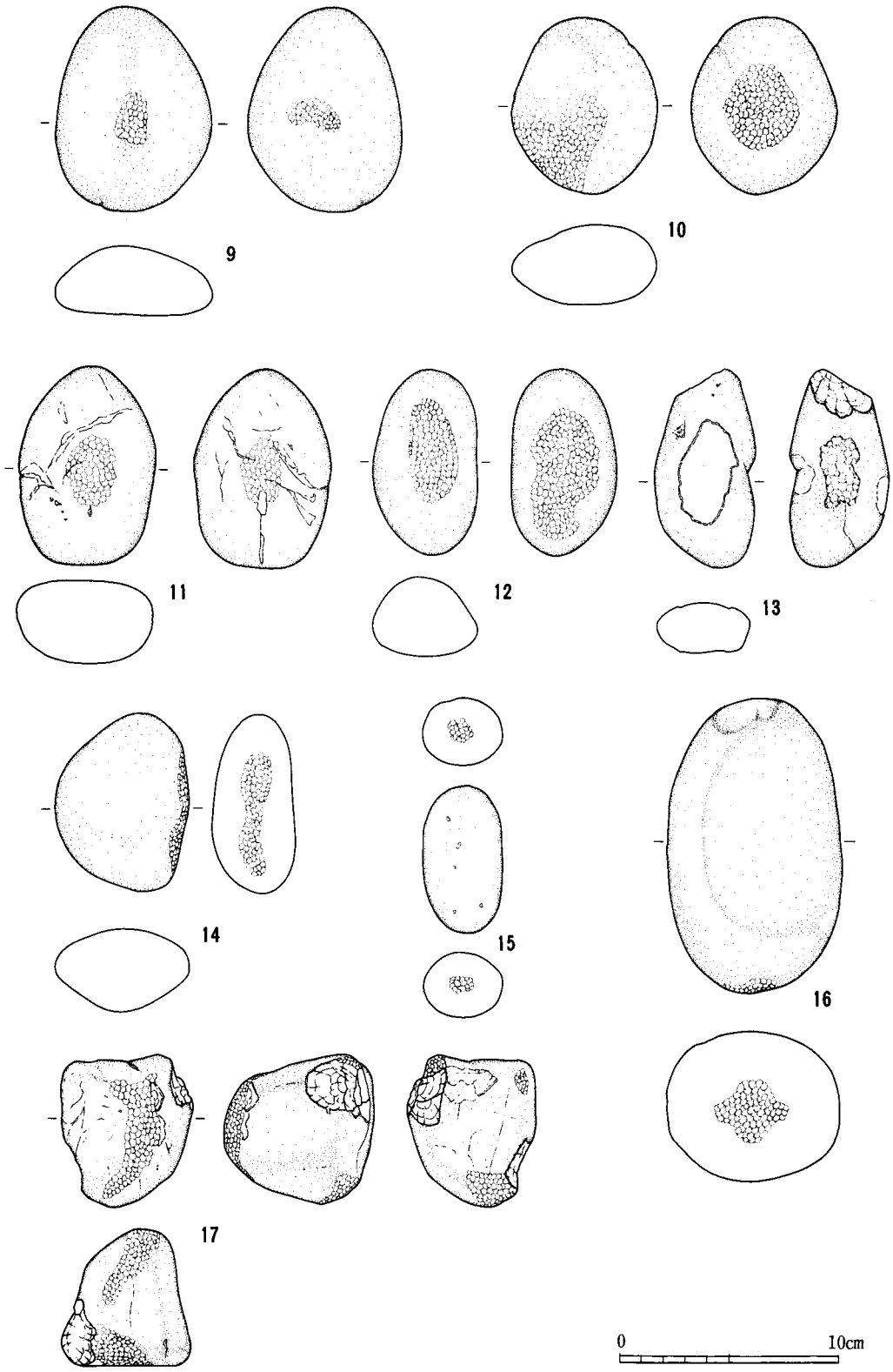

第160図　磨石実測図１（1/3）



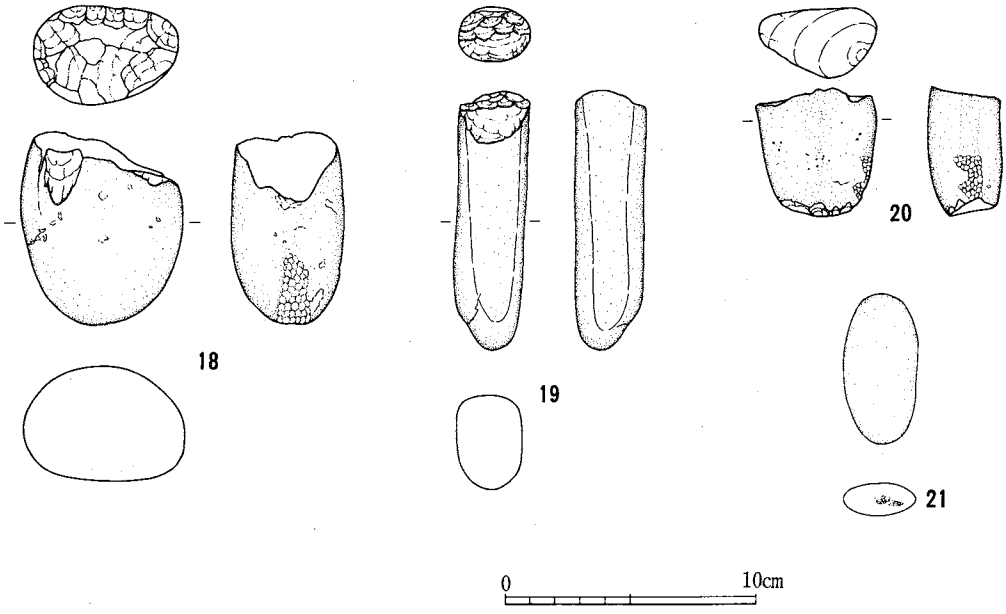

第161図　磨石実測図２（1/3）



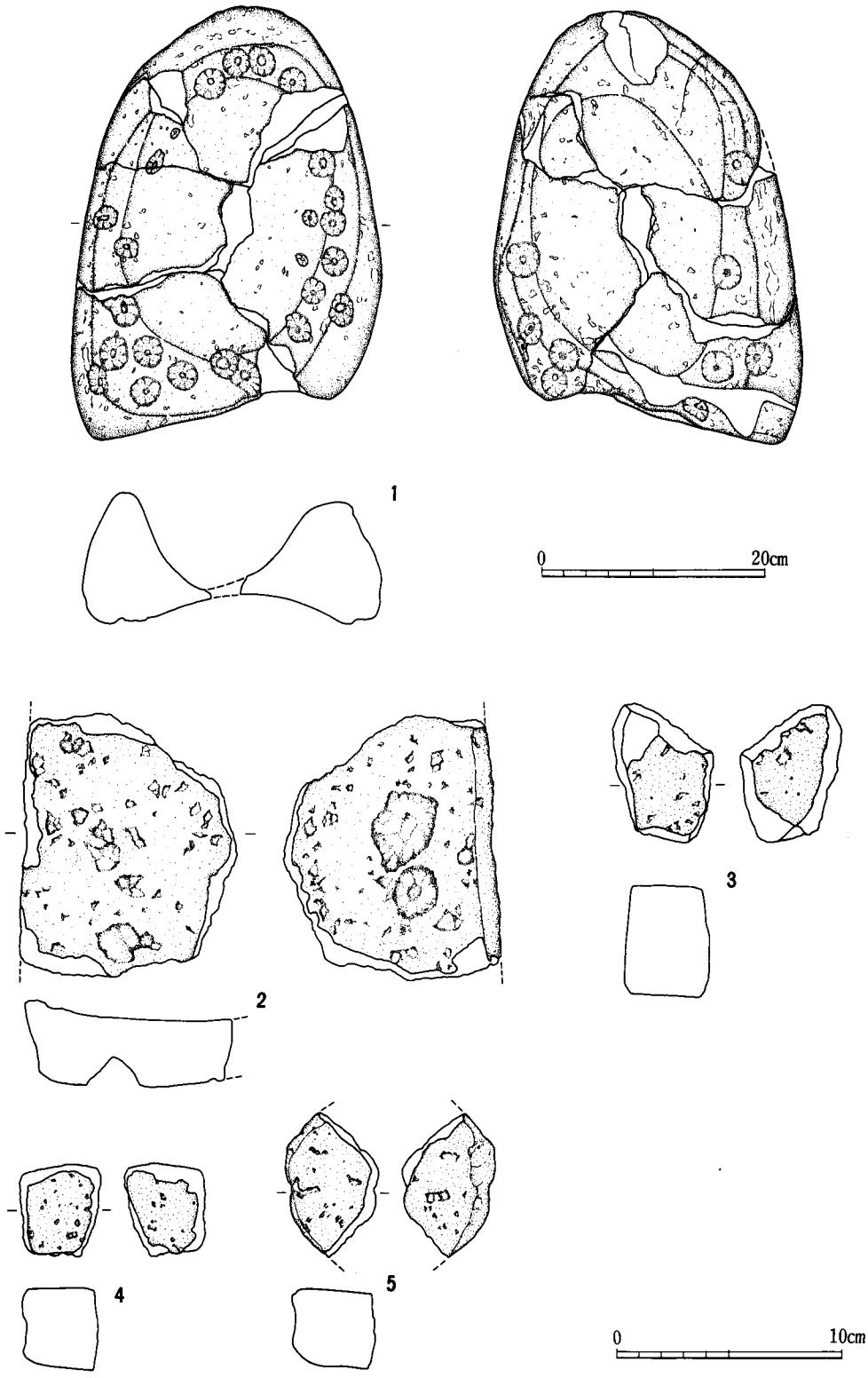

第162図　凹石実測図（1/3）



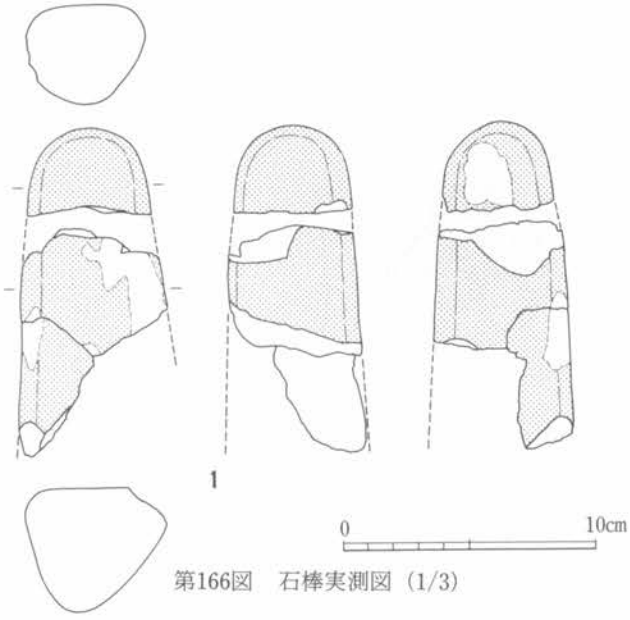

第163図　敲石実測図１（1/3）



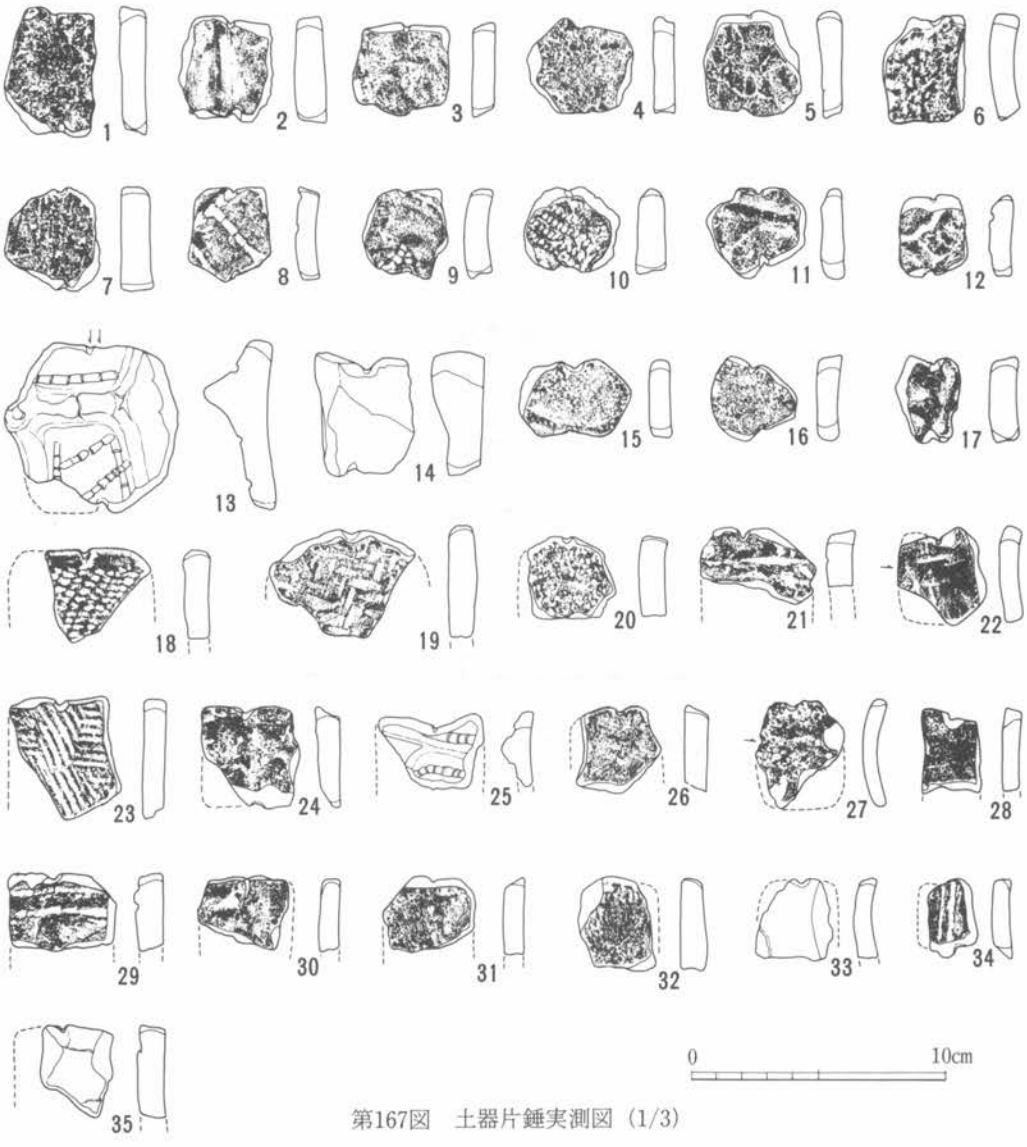

第164図　敲石実測図２（1/3）



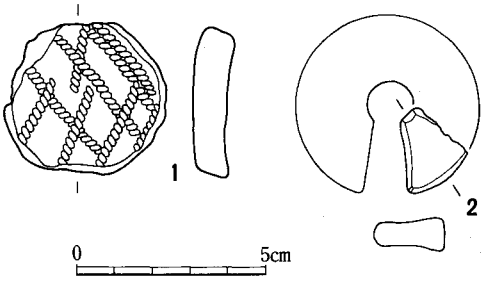

第165図　石皿実測図（1/6・1/3）



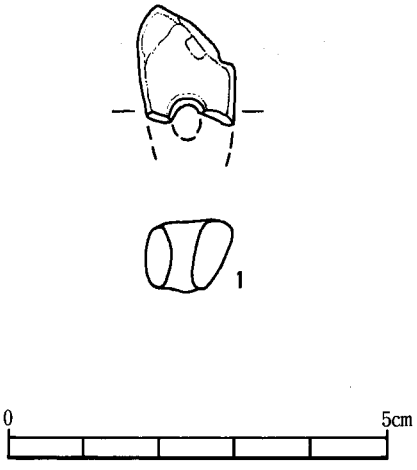

第166図　石棒実測図（1/3）




第167図　土器片錘実測図（1/3）




第168図　土器片円盤及び土製玦状耳飾実測図（1/2）




第169図　琥珀製垂飾品実測図（1/1）

## 第3節　古墳・歴史時代

向原遺跡の、古墳時代以降の内容は、住居跡4軒・古墳14基・方形周溝状遺構7基・塚1基である。ただし、縄文時代の土壙の項で奈良・平安時代の墓壙も合わせて扱ったものがありこれら3基が古墳時代以降の遺構と言うことになる。住居跡4軒は、120,000m²№も及ぶ範囲に4軒というきわめて少ないもので、そのうち2軒はさらに一般的な居住住居とは考えられない。

古墳は14基で扱っているが、規模等からして本来古墳ではなく円形周溝状遺構として扱うべきものも多く含んでいる。むしろ円形周溝状遺構の方が多いものと思われる。明らかに古墳のものも含めて埋葬部が検出されたものが1基もなく、周溝内の遺物で判断するなら規模のみでこれを分別することができないので一括して古墳として扱った。

### A　住居跡

向原遺跡における古墳時代住居跡は、4軒と調査対象面積に対してきわめて少ないものである。またその分布も調査範囲の南西の端と北西部および南東部ときわめて散在的である。

8号住居跡（第170～172図　図版7・53）

**検出状況**　23ル区に検出され、標高35.5mの台地縁辺の平坦面から斜面に移行する部分に位置し遺跡西側をめぐる谷を眼下に見おろす立地をとる。周辺には住居跡の検出もなくきわめて孤立的な住居跡と言える。

**形状・規模**　主軸方位はN－34°－W、平面形は方形を呈し、4.7×4.7m。壁高は35～50cmを計る。

**床面**　ハードローム面まで達しており堅緻であるがゆるやかな凹凸がある。壁の立ち上がりは緩やかで、壁溝は認められない。

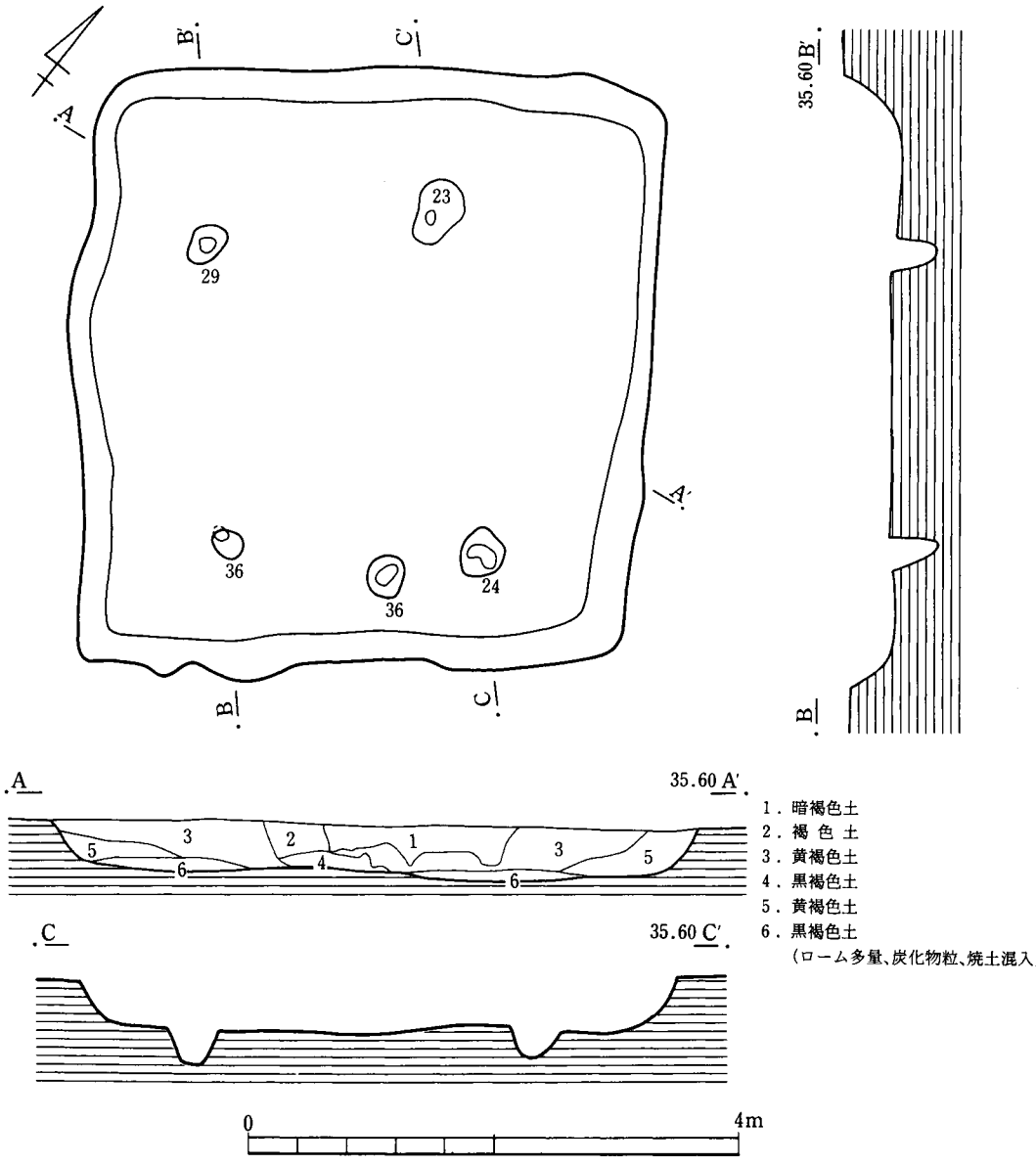
**カマド**　認められなかった。

**穴**　主柱穴は、4本検出され、北西－30×22cm・深さ29cm、北東－52×32cm・深さ23cm、南東-35×39cm・深さ24cm，南西25×20cm・深さ36cmを計る。北東の柱穴は隅対角線上からはずれ、やや不規則な位置にあるが主柱穴と判断される。主柱穴の他に南壁の中央と主柱穴を結ぶ線との間に32×28cm・深さ36cmのピットが検出された。

**遺物**　遺物は土師器杯4点、椀2点、甕1点、須恵器長頸壺1点であるが、いずれも床面から20～50cmも浮いた状態で検出され、範囲的にも北西の1/4程度の部分に集中する。遺物のいずれもが住居跡がほとんど埋没した段階で投棄されたものと思われ、本住居跡はカマドあるいは炉認められないこともあわせると本来の住居として構築されたものではない可能性が高い。

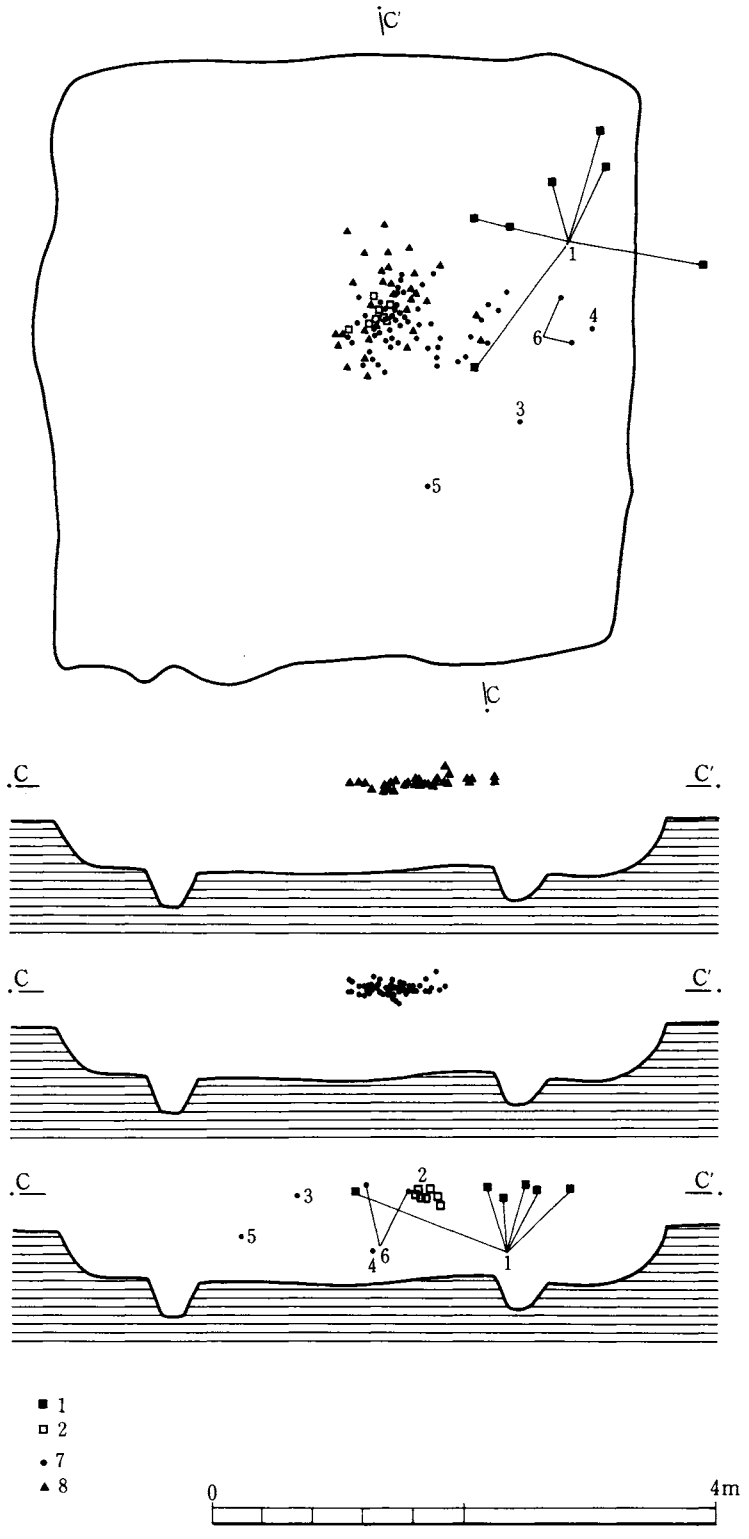
9号住居跡（第173・174図　図版7・53）

**検出状況**　18ヌ区に検出され、標高32mの台地縁辺の斜面に移行する部分に位置し、8号住居

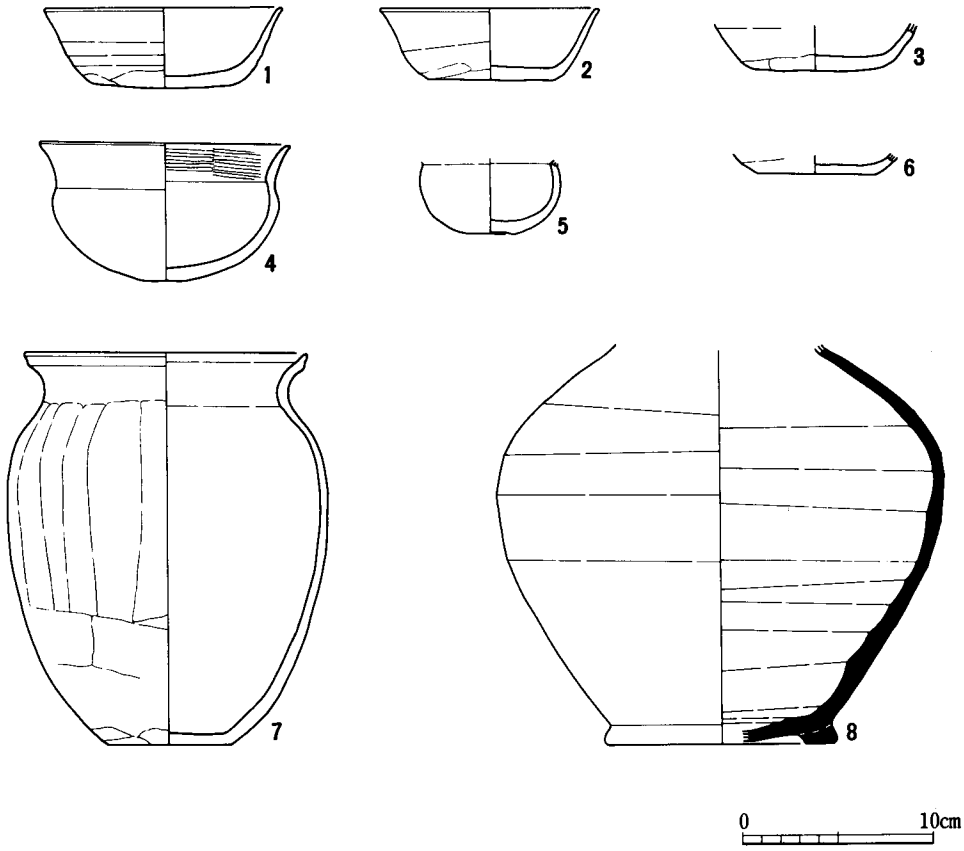



1．暗褐色土
2．褐 色 土
3．黄褐色土
4．黒褐色土
5．黄褐色土
6．黒褐色土
（ローム多量、炭化物粒、焼土混入）

第170図　8号住居跡実測図（1/60）




第171図　8号住居跡遺物出土状況図（1/60）




第172図　8号住居跡出土土器実測図（1/4）

跡とも250m程の距離がありきわめて孤立的な住居跡と言える。

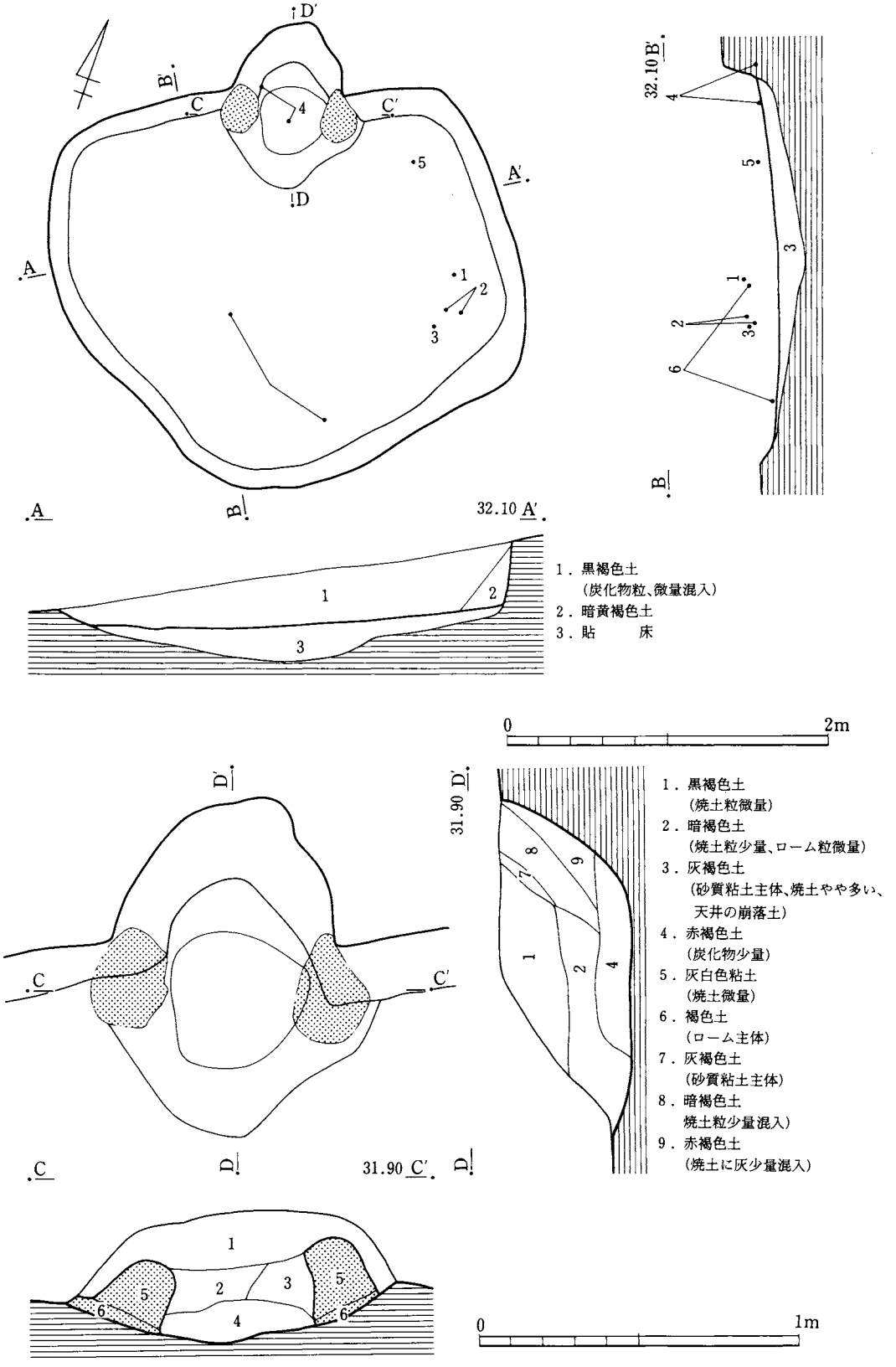
**形状・規模**　主軸方位はN－16°－W、平面形はかなり形の崩れた方形を呈し、2.5×2.9m。壁高は5～35cmを計る。規模も小さく掘り方自体もかなり曖昧なものになっている。

**床面**　斜面にかかって構築されており、掘り方は浅い摺鉢状に掘り込まれ貼床によって平坦面が形成されている。壁の立ち上がりは緩やかで北側東側の台地側は35cm程度の壁高を持つが、南側西側の斜面側は5cm程度の壁高しか認められない。

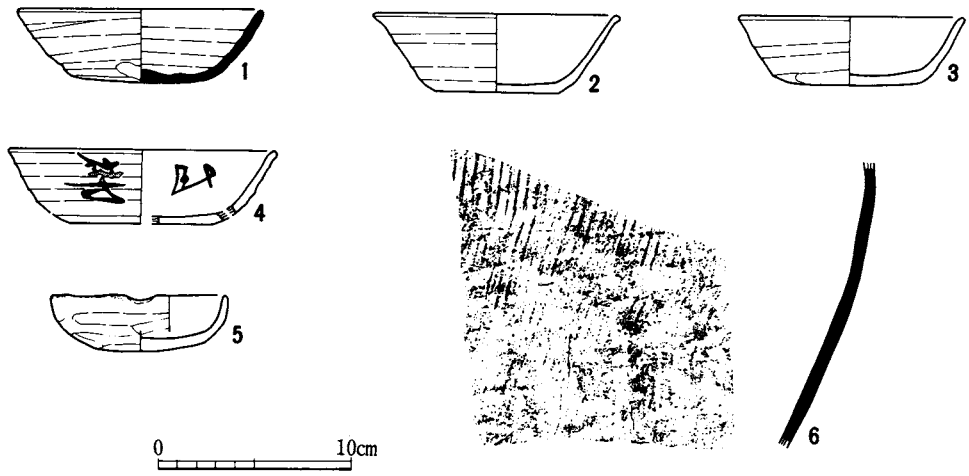
**カマド**　北壁中央に位置し、北壁を幅65cm奥行き50cmの半月形に掘り込んで煙道がつくられ、天井部は崩落しており、両袖は灰白色粘土で構築される。外形規模は105×85cmで、住居跡の規模が小さいため住居跡内でのカマドの占める割合は大きい。

**穴**　認められない。

**遺物**　遺物は土師器杯4点、須恵器杯1点、須恵器大形甕破片1点である。4の杯はカマド内から、他は覆土中からの出土である。




第173図　9号住居跡実測図（1/40、カマド1/20）




第174図　9号住居跡出土土器実測図（1/4）

本住居跡は、その存在自体が極めて孤立的であり、規模も著しく小さく形態も整わないなど通常の住居跡とは考えにくい。

10号住居跡（第175～179図　図版7・8・54）

**検出状況**　23ヨ区に検出され、標高35m強の台地縁辺の斜面に移行するぎりぎりの部分に位置し、8号住居跡とは約200mの距離をおき、北8mに位置する11号住居跡と2軒のみで存在する住居跡である。

**形状・規模**　主軸方位はN－54°－W、平面形は方形で僅かに胴張りの形態を呈し、規模は6.2×6.0mを計る。壁高は52～78cmを計る。

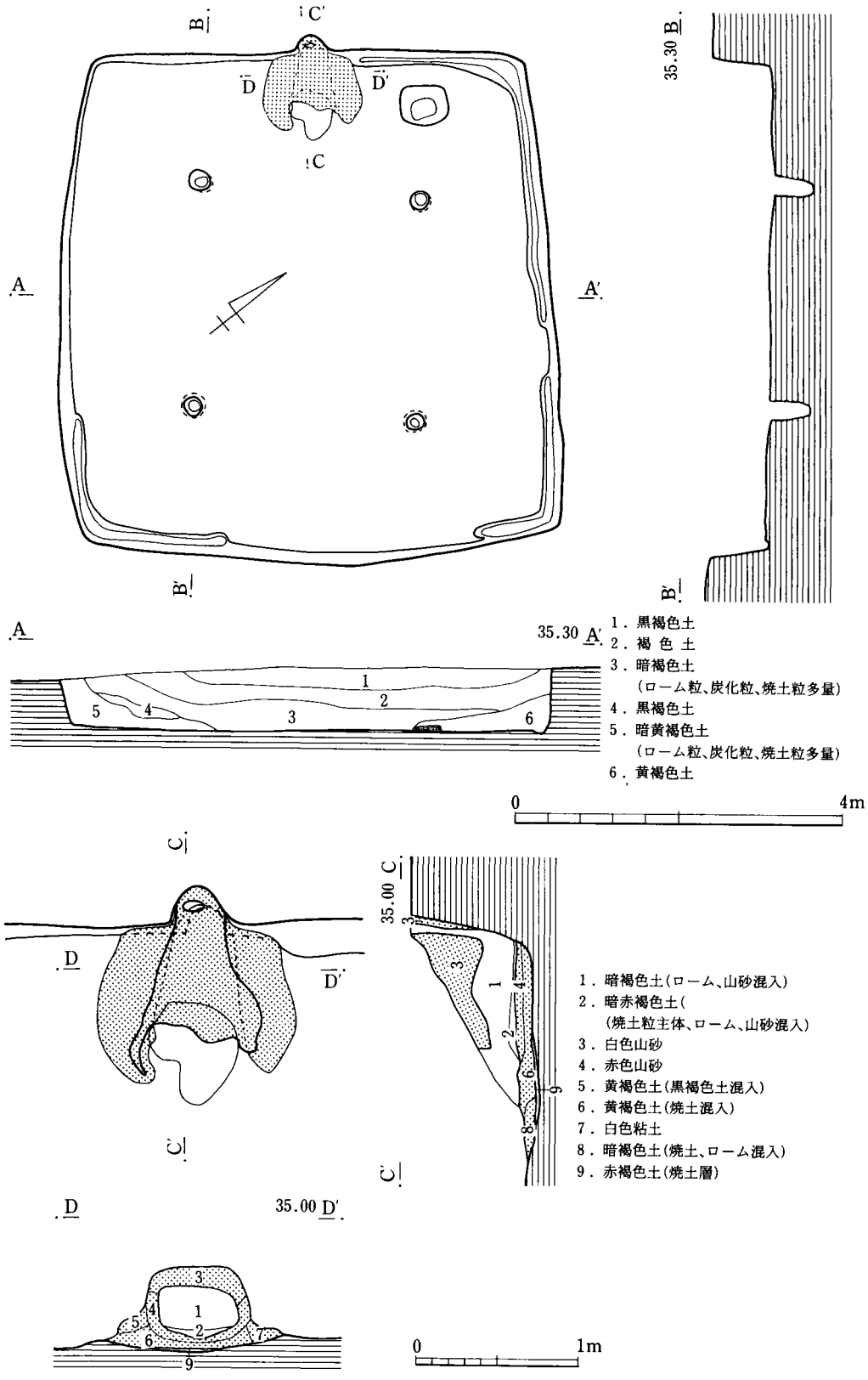
**床面**　平坦でよく踏みしめてあり火災住居のため一部赤変硬化している。壁溝は南隅、東隅、北隅に認められ幅20cm深さ5cm程度のもので、西隅は認められず、各隅の壁溝はつながらない。壁は垂直に立ち上がりしっかりしている。

**カマド**　北西壁中央に位置し、壁をごく僅か20cm程度半月形に掘り込んで煙道がつくられており、煙道部も含めてカマド全体のほとんどが住居跡の掘り方の中に収まるものである。遺存状態は良好で天井部も遺存し、両袖・天井部は白色粘土・白色山砂・赤色山砂で構築される。外形規模は125×120cmで住居跡の規模が大きいため住居跡内でのカマドの占める割合は小さい。

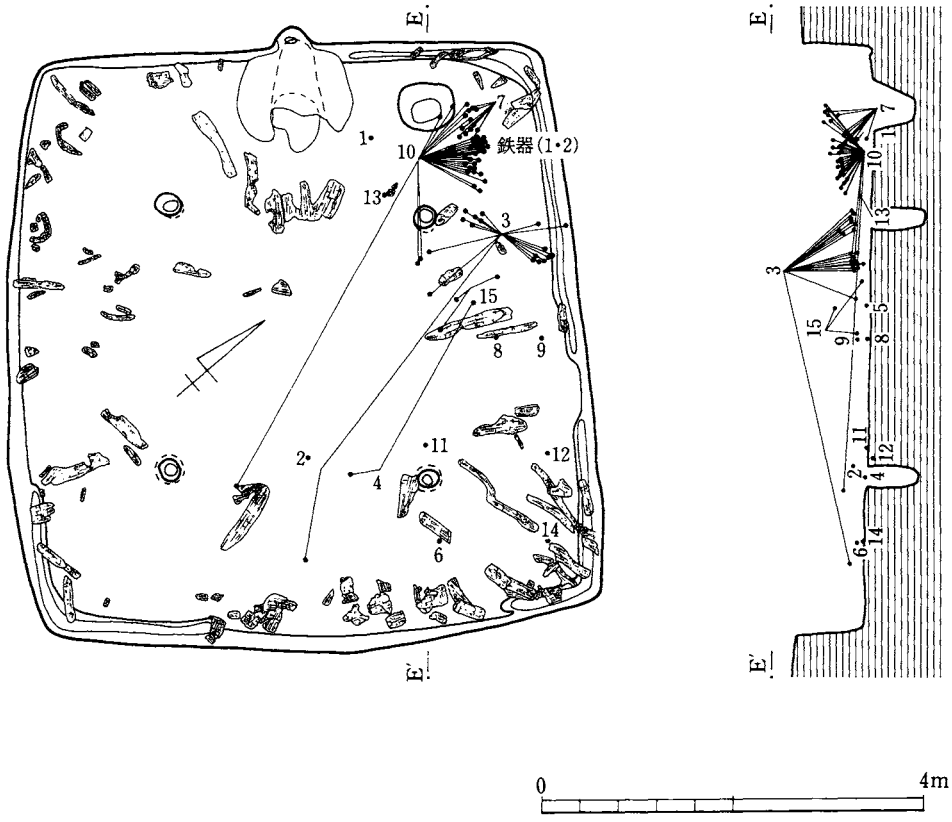
**柱穴**　主柱穴は、4本検出され、西－23×22cm・深さ44cm、北－20×18cm・深さ46cm、東-20×18cm・深さ45cm，南－22×24cm・深さ45cmを計る。住居跡隅の対角線上に位置しきれいに正方形に配置される。柱穴規模も揃いいずれもやや袋状を呈する。

**貯蔵穴**　カマドの東側、北隅との中間に壁からは20cm離れて位置する。60×48cm・深さ42cmを計る。

**遺物**　遺物は土師器杯2点、土師器椀1点、土師器高杯ん2点、土師器甕8点、土師器甑2点、

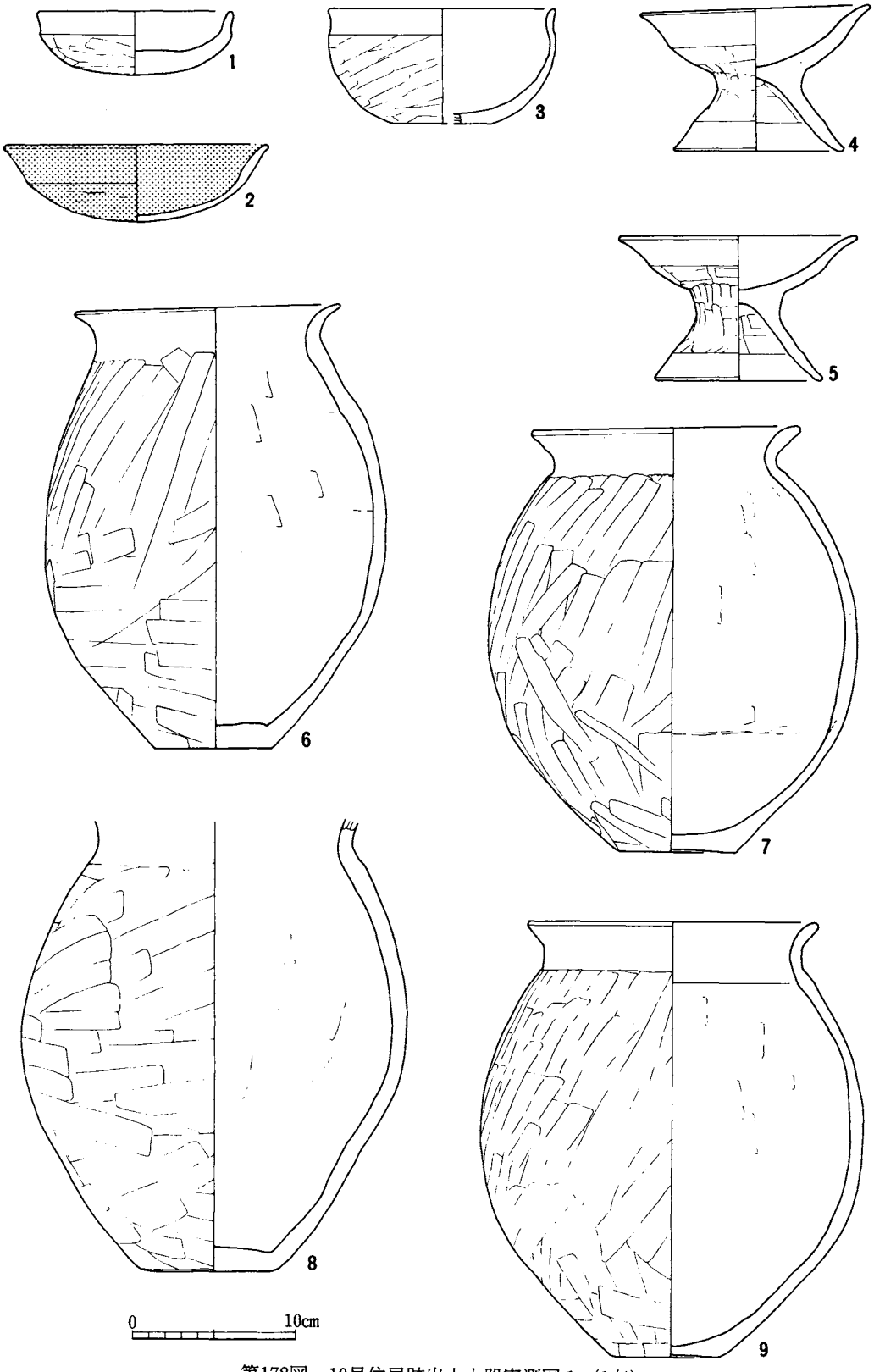



第175図　10号住居跡実測図（1/80、カマド1/40）

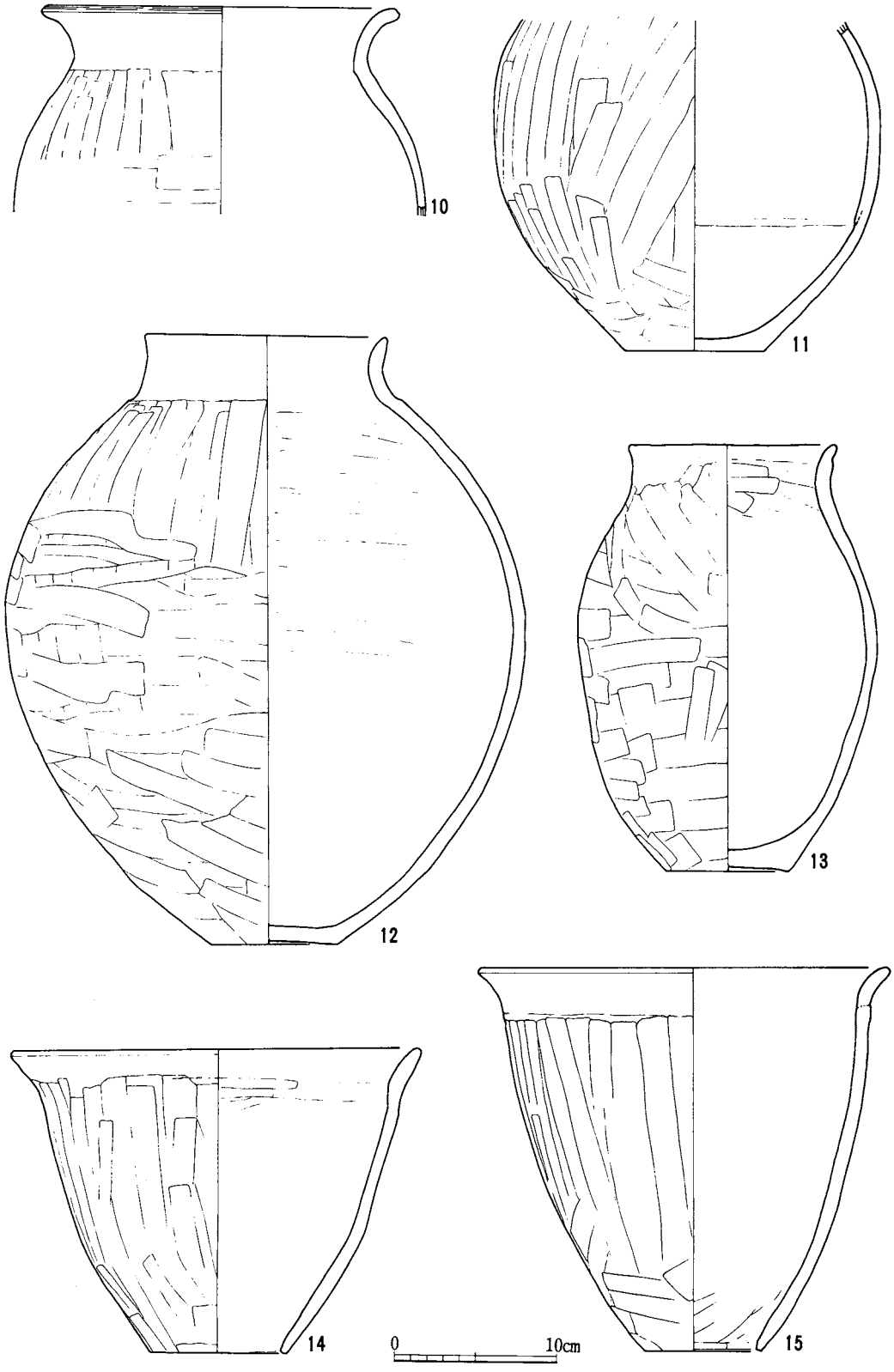



第176図　10号住居跡遺物出土状況図（1/80）

第177図　10号住居跡出土鉄器実測図（1/2）




第178図　10号住居跡出土土器実測図１（1/4）




第179図　10号住居跡出土土器実測図２（1/4）

鉄鏃２点が出土した。本住居跡は火災家屋であり、遺物の遺存状況は極めて良好である。遺物はそのほとんどが床面及び床面から15cm程度の範囲の出土で火災にともないそのまま遺存したものと思われる。

本住居跡は、火災住居跡で炭化材も比較的良好な状態で検出された。部材として明確に加工痕が確認できるものはなかったが、棟に向かう垂木が比較的目だって遺存した。

11号住居跡（第180・181図　図版８・54）

**検出状況**　24ヨ区に検出され、標高35m弱の台地縁辺の斜面10号住居跡の南８mに位置する。10号住居跡と２軒のみで存在する住居跡である。

**形状・規模**　主軸方位はN－24°－W、平面形は方形で、規模は5.1×5.0mを計る。壁高は18～58cmを計る。

**床面**　平坦でよく踏みしめてある。壁溝は南壁の西側半分にのみ認められ幅18cm・深さ８cm。東壁から北主柱穴に幅15cm・深さ10cm溝が認められ間仕切り溝と思われる。壁は垂直に立ち上がりしっかりしている。

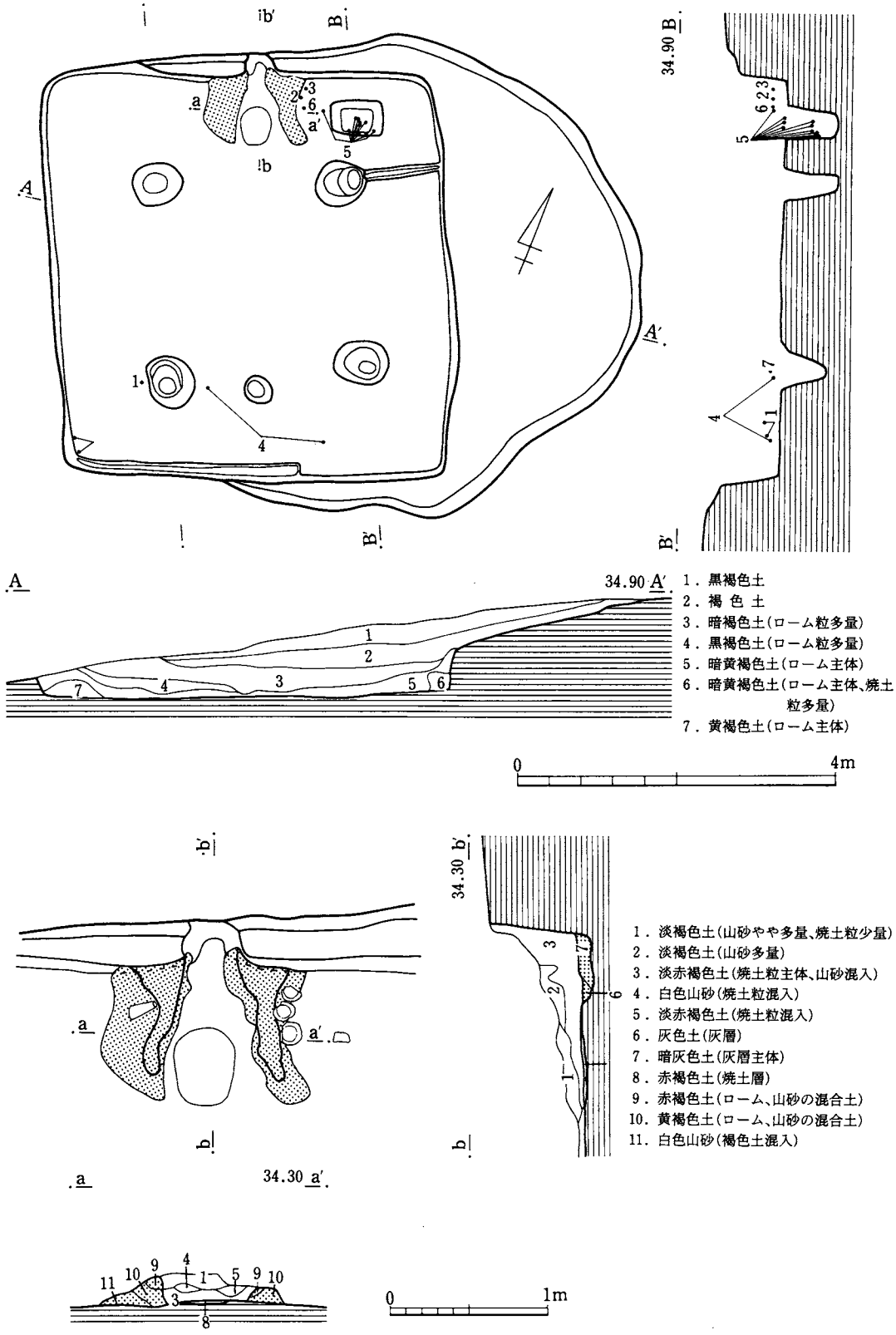
**カマド**　北西壁中央に位置し、壁を30cm程度半月形に掘り込んで煙道がつくられており、煙道部も含めてカマド全体のほとんどが住居跡の掘り方の中に収まるものである。遺存したのは20cm程度の基底部のみで、天井部は崩落し認められなかった。両袖は白色砂・ローム山砂混合土で構築される。外形規模は110×120cmである。

**柱穴**　主柱穴は、４本検出され、西－64×50cm・深さ52cm、北－58×54cm・深さ64cm、東－68×52cm・深さ52cm，南－62×52cm・深さ56cmを計る。ほぼ住居跡隅の対角線上に位置し柱間は主軸方向の方が僅か短い。東主柱穴と南主柱穴の中間に32×30・深さ48cmのピットが位置する。

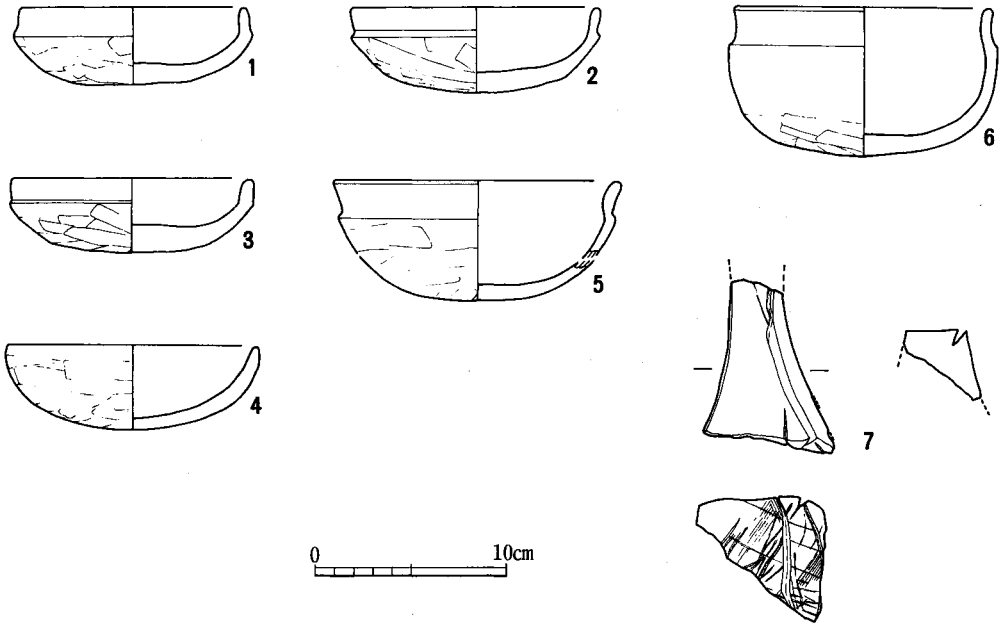
**貯蔵穴**　カマドの東側、北隅との中間に壁からは25cm離れて位置する。62×42cm・深さ65cmを計る。

**遺物**　遺物は土師器杯５点、土師器椀１点、砥石１点が出土した。カマドの東脇に坏点と椀１点が、貯蔵穴内から坏１点が出土し、坏２点と砥石は南壁に近く床面から10cm程度浮いて出土した。

本住居跡は、10号住居跡と２軒のみで谷に臨む台地南縁の斜面にかかる部分に位置するもので周辺には同時代の住居跡は存在せず、住居の性格としてはきわめて限定されたものになろう。




第180図　11号住居跡実測図（1/80、カマド1/40）




第181図　11号住居跡出土遺物実測図（1/4）

## B　古墳

向原遺跡における古墳としてまとめた14基の中には6号墳のように周溝外径4.5m程度のものも含めており、遺物も検出しておらず古墳とするには疑わしいものも含んでいる。

1号墳（第182～184図　図版9）

**位置・検出状況**　向原遺跡の北側に西側の主谷から入り込む浅い小支谷の谷頭に面して位置しヨ20－14119区を占める。墳丘は遺存せず地表面からはその存在が窺えなかった。1号墳の所在した地区はゴボウ栽培に伴うトレンチャーによる耕作がなされていて遺構の遺存状況はきわめて悪い。また北側は谷に沿ってはしる溝によって切られ周溝の一部が切断される。周溝のみの検出で、主体部は確認できなかった。

**周溝**　周溝内径は17～18mを計りほぼ円形を呈するが、周溝幅は一定ではなく幅2.4m～7.2mとかなり開きがあり周溝外径は不定形なものになり、周溝外側の最大径は26.2mになる。周溝の深さは最も明瞭な北側でようやく40cmを計る程度のもので南西から南東にかけての部分などは20cmにもならないもので周溝内側も外側も立ち上がりは緩やかな不明瞭なものである。周溝内覆土はローム粒を含む黒褐色土ないし暗褐色土である。

**遺物**　周溝内より土師器坏1点、土師器壺1点、土師器椀1点、管玉2点、臼玉1点が出土した。

2号墳（第186・187図　図版9）

**位置・検出状況**　1号墳の南東50mタ21地区に位置する。墳丘は遺存せず1号墳同様トレンチャーにより深耕され遺存状況はきわめて悪く、周溝のみの検出で、主体部は確認できなかった。

**周溝**　周溝内径は15～15.5mを計りほぼ円形を呈するが西側にブリッジ部を有し全周はしない。周溝幅は一定ではなく幅2.6m～6.3mとかなり開きがあり周溝外径は不定形なものになる。西側のブリッジ部に対応する東側が最も狭くなりその南北両側が最も広くかつ深い周溝部分となり形態的には馬蹄形となる。周溝外側の最大径は25.5mになる。周溝の深さは最も深い北東部の周溝幅も広くなる部分で0.9mを計る。周溝断面は浅く緩やかなU字形を呈し、周溝内側も外側も立ち上がりは緩やかな不明瞭なものである。周溝内覆土は溝底部にロームブロックを多量に含む明褐色土があり、黒褐色土、暗褐色土が堆積する。

**遺物**　周溝内より土師器坏1点、須恵器壺口縁1点が出土した。

3号墳（第188・189図　図版10）

**位置・検出状況**　2号墳の南東40mレ22地区に位置する。墳丘は遺存せず1号墳同様トレンチャーにより深耕され遺存状況はきわめて悪く、周溝のみの検出で、主体部は確認できなかった。

**周溝**　周溝内径は9.6～9.8mを計りほぼ円形を呈する。周溝は全周し南側側の一部できわめて浅くなる。周溝幅は1.8m～2.8mと開きがあり周溝外径は楕円形に近くなる。周溝外側の最大

径は15.1mになる。周溝の深さは最も深い部分で0.5mを計る。周溝断面は浅く緩やかなU字形を呈すが著しく凹凸の認められる部分もある。周溝内側も外側も立ち上がりは緩やかな不明瞭なものである。周溝内覆土は溝底部にロームブロックを多量に含む黄褐色土があり、黒褐色土、暗褐色土が堆積する。

**遺物**　出土遺物はない。

4号墳（第190～193図　図版10）

**位置・検出状況**　3号墳の東60m、ソ22地区に位置する。向原遺跡の台地を区切るように西側と東側から小支谷の谷頭が迫り陸橋状になった部分に位置する古墳で5号墳とともに墳丘が僅かながら認められた古墳である。調査前の見かけの墳丘は東西23m・南北25m、高さ1m程度のごく低平な墳丘で、周溝の痕跡は確認できなかった。墳丘の丘頂は標高37mを計り、向原遺跡の台地上では最も高い地点であった。14基の古墳の中では最も遺存状況の良好な古墳であったが、主体部は検出されなかった。

**墳丘**　旧表土を残す墳丘盛り土は、11.5～12.5mの径を有し、10～15cmの旧表土の上に層厚5～10cm程度のロームブロックないしはローム粒を多く含む黄褐色土層を順次積んだもので全体の層厚は、墳頂で80cmを計る。墳丘積土は、基本的に周辺部から順次環状に積まれ常に中央を摺鉢状にして構築されたことが土層断面から窺える。残存する旧表土と周溝の上端との間に北側から南側には幅1.5～4m程度の旧表土の存在しないテラス状の部分が認められたが、東側では旧表土の末端と周溝上端の間にはわずかな幅しかなく、テラス状部分は本来的なものではないと思われる。

**周溝**　周溝内径は16.5～17mを計りほぼ円形を呈する。東北及び南西で周溝は途切れブリッジ部を有し全周はせず北側周溝と南側周溝に分断される。周溝幅は一定ではなく幅3.2m～6.5mとかなり開きがあり周溝外径は不定形なものになる。東側のブリッジ部に近い部分が南北いずれの周溝も最も幅広くなり深さも深い。周溝外側の最大径は26.8mになる。周溝の深さは最も深い部分で0.6mを計る。周溝断面は、周溝内側の立ち上がりが比較的急で外側はきわめて緩やかに立ち上がる。周溝内覆土は一部溝底部にローム粒を含む暗黄褐色土が認められる他は黒褐色土・暗褐色土が堆積する。

**遺物**　周溝内より土師器坏1点、鉄鏃片1点、釘1点が出土した。

5号墳（第194～197図　図版11・55）

**位置・検出状況**　3号墳の南西70m、タ23地区に位置する。1号墳～4号墳と異なり南側の小支谷に面して位置する。4号墳とともに墳丘が僅かながら認められた古墳である。ただし調査前の見かけの墳丘は著しくその墳形を損ねており北東から南西に長く35m×18m、高さ1.5m程度の高まりとして確認された。墳丘の丘頂は標高36.8mを計った。墳丘が遺存するすくない古墳の一つであったが、主体部は検出されなかった。

**墳丘**　旧表土を残す墳丘盛り土は、12.5～13.5mの径を有し、10～15cmの旧表土の上に層厚10～20cm程度のロームブロックないしはローム粒を多く含む黄褐色土層を順次積んだもので全体の層厚は、墳頂で60cmを計る。墳丘積土は、全体に20cm程度の暗褐色土を積んだ後、周辺部から順次環状に積まれ常に中央を摺鉢状にして構築されたことが土層断面から窺える。

**周溝**　周溝内径は15.6～16.2mを計りほぼ円形を呈する。周溝全周し、周溝幅は一定ではなく幅1.8m～4.0mとかなり開きがあり周溝外径は不定形なものになる。周溝外側の最大径は22.2mになる。周溝の深さは最も深い部分で0.6mを計る。周溝断面は、周溝内側の立ち上がりが比較的急で外側は緩やかに立ち上がる。周溝内覆土は黒褐色土・暗褐色土が堆積する。

**遺物**　周溝内より土師器坏２点、土師器小形壺１点目、鉄鏃２点、釘１点が出土した。

６号墳（第198図　図版11）

**位置・検出状況**　５号墳の南西50m、タ24地区に位置する。南西の小支谷に向かう斜面の最上部に当たる。６号墳から14号墳の８基の円墳はこの南北80m東西50mほどの台地張り出し部に密集する。３基の方形周溝状遺構も混在する。周溝のみの検出で、主体部は確認できなかった。

**周溝**　周溝内径は3.6～3.8mを計りほぼ円形を呈する。周溝は全周し、周溝幅は0.25m～0.6m深さは８～15cm、周溝外側の最大径は4.5mになる。規模からして古墳かどうかきわめて疑わしい存在である。

**遺物**　出土遺物はない。

７号墳（第199図　図版12）

**位置・検出状況**　６号墳の南東15m、タ24地区に位置する。周溝のみの検出で、主体部は確認できなかった。

**周溝**　周溝内径は9.7～9.8mを計りほぼ円形を呈する。周溝は全周し、周溝幅は1.5m～2,1m深さは0.3～0.5m、周溝外側の最大径は14.3mになる。周溝断面は溝底に平坦面がある。周溝内はローム粒を含む暗褐色土・黒褐色土が堆積する。

**遺物**　出土遺物はない。

８号墳（第200・201図　図版12・55）

**位置・検出状況**　７号墳の東15m、タ24地区に位置する。周溝のみの検出で、主体部は確認できなかった。

**周溝**　周溝内径は6.5～7.0mを計りほぼ円形を呈する。周溝は全周し、周溝幅は0.5m～1.2m深さは0.3～0.5m、周溝外側の最大径は9.0mになる。周溝断面は溝底に平坦面がある逆台形の部分とU字形の部分がある。周溝内はローム粒を含む暗褐色土が堆積する

**遺物**　周溝内から土師器坏１点が出土した。

９号墳（第202・203図　図版12・55）

**位置・検出状況**　８号墳の北東20m、レ24地区に位置する。周溝のみの検出で、主体部は確認

できなかった。

**周溝**　周溝内径は7.4～7.7mを計りほぼ円形を呈する。周溝は全周し、周溝幅は0.4m～1.1m深さは0.2～0.4m、周溝外側の最大径は9.3mになる。周溝断面は溝底に平坦面がある逆台形を呈する。周溝内はローム粒を含む暗褐色土・黒褐色土が堆積する。

**遺物**　周溝内から土師器坏1点が出土した。

10号墳（第204・205図　図版13・55）

**位置・検出状況**　8号墳の南東10m、タ24地区に位置する。周溝のみの検出で、主体部は確認できなかった。

**周溝**　周溝内径は7.5～7.8mを計りほぼ円形を呈する。周溝は全周し、周溝幅は0.7m～0.8m深さは0.2～0.5m、周溝外側の最大径は10.2mになる。周溝断面は溝底に平坦面がある逆台形を呈する。周溝内はローム粒を含む暗褐色土・黒褐色土が堆積する。

**遺物**　周溝内から土師器甕1点が出土した。

11号墳（第206図　図版13）

**位置・検出状況**　10号墳の東15m、レ24地区に位置する。周溝のみの検出で、主体部は確認できなかった。

**周溝**　周溝内径は7.5～9.0mを計りほぼ円形を呈する。周溝は全周し、周溝幅は0.8～1.5m深さは0.2～0.4m、周溝外側の最大径は13.2mになる。周溝断面は溝底に平坦面がある逆台形を呈する。周溝内はローム粒を含む暗褐色土・黒褐色土が堆積する。

**遺物**　出土遺物はない。

12号墳（第207図　図版13）

**位置・検出状況**　7号墳の南30m、タ25地区谷の斜面に面ぎりぎりの位置の立地する。周溝のみの検出で、主体部は確認できなかった。

**周溝**　周溝内径は10.0～10.2mを計りほぼ円形を呈する。周溝は全周し、周溝幅は1.4～2.0m深さは0.2～0.6m、周溝外側の最大径は13.5mになる。周溝断面は溝底に平坦面がある逆台形を呈する。周溝内はローム粒を含む暗褐色土・黒褐色土が堆積する。

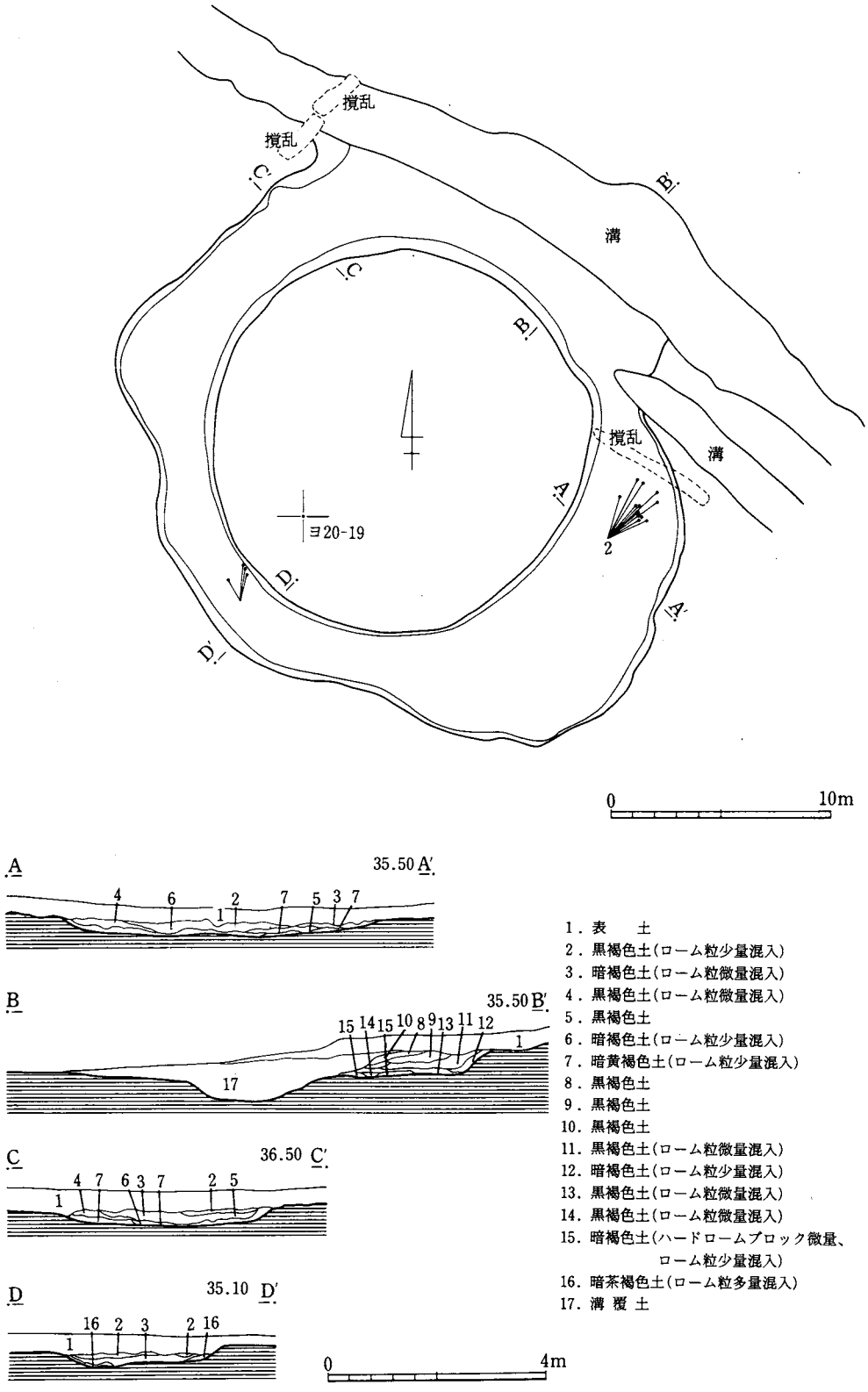
**遺物**　出土遺物はない。

13号墳（第208図　図版14）

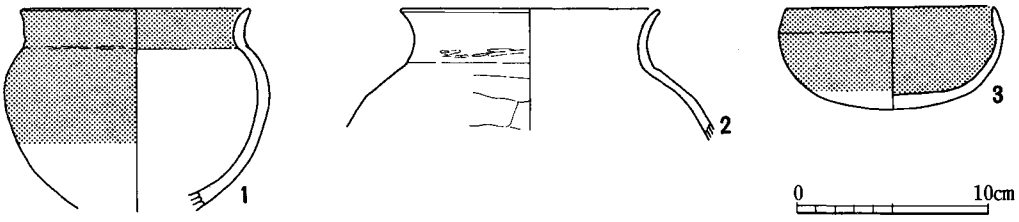
**位置・検出状況**　12号墳の南東20m、タ25地区谷に位置する。周溝のみの検出で、主体部は確認できなかった。

**周溝**　周溝内径は8.3～8.4mを計りほぼ円形を呈する。周溝は全周し、周溝幅は0.9～1.4m深さは0.5～0.7m、周溝外側の最大径は11.15mになる。周溝断面は溝底に平坦面がある逆台形を呈する。周溝内はローム粒を含む暗褐色土が堆積する。

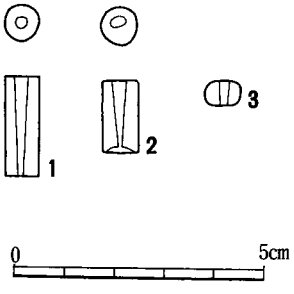
**遺物**　出土遺物はない。



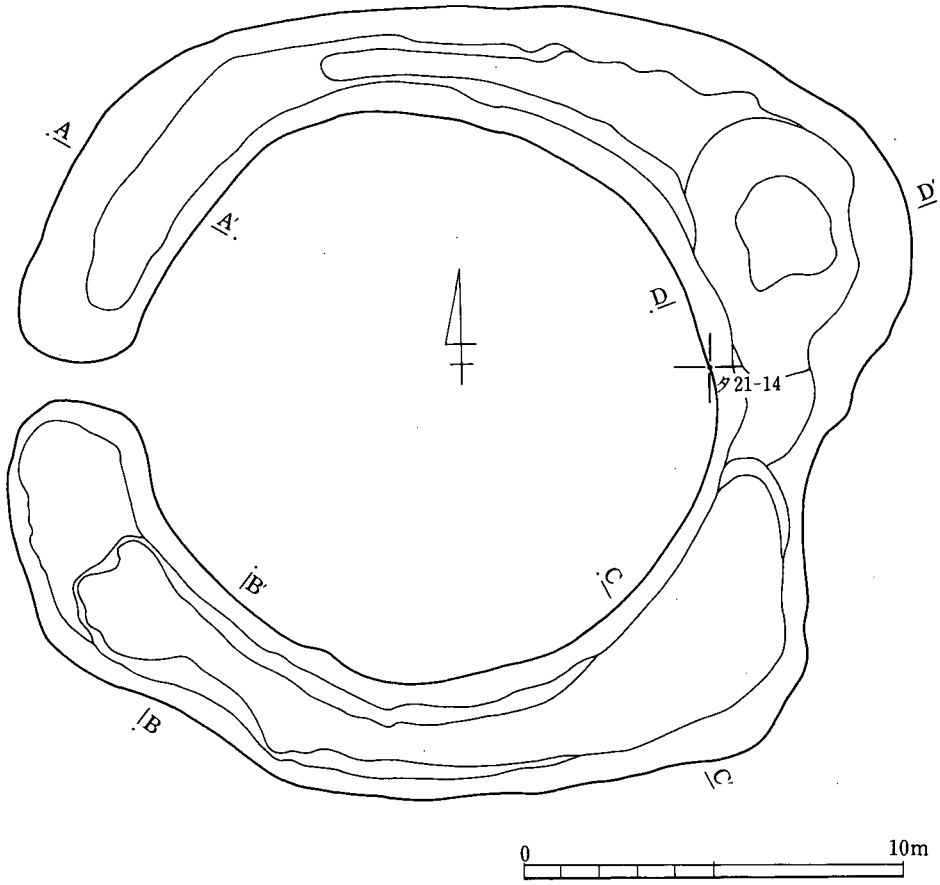

第182図　1号墳実測図（平面図1/300、土層断面図1/120）



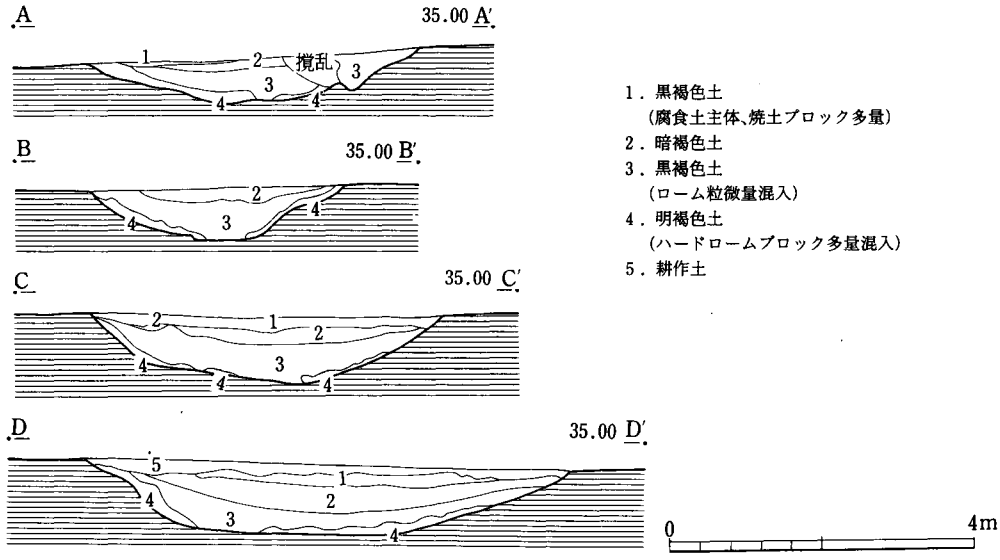

第183図　1号墳出土土器実測図（1/4）



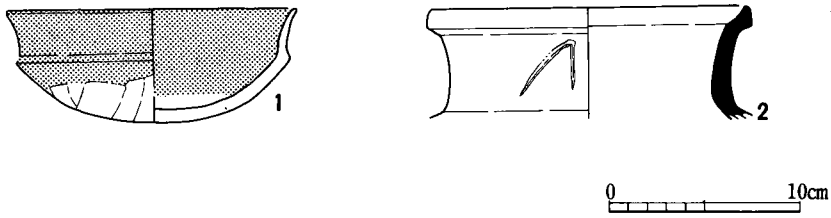

第184図　1号墳出土遺物実測図（2/3）



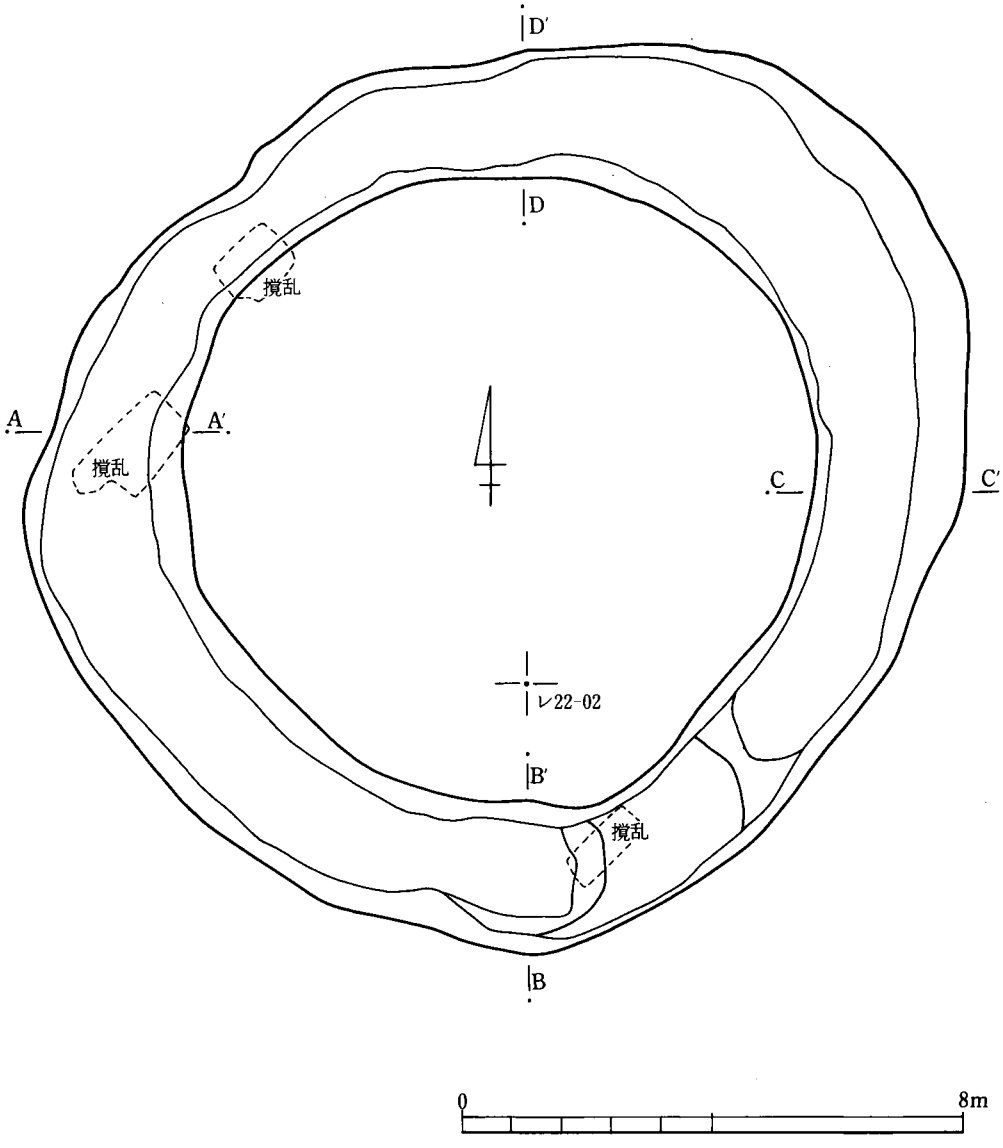

第185図　2号墳実測図（1/200）



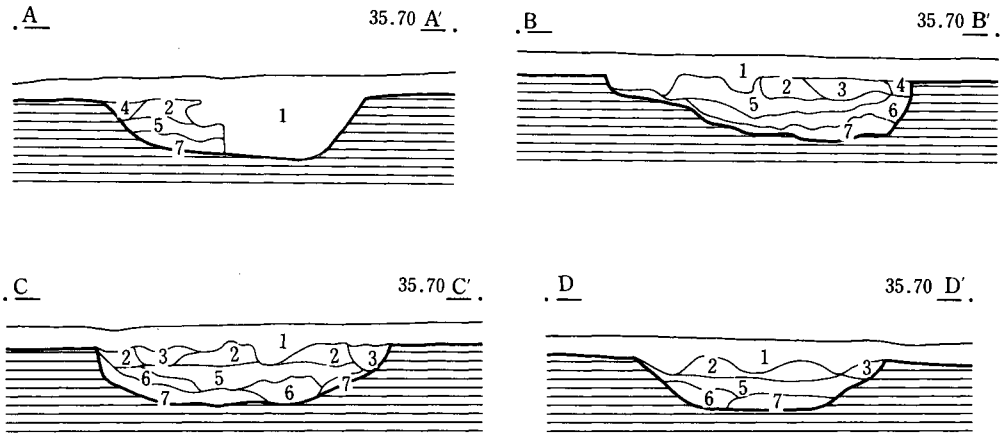

第186図　2号墳土層断面図（1/100）



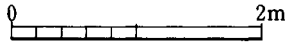

第187図　2号墳出土土器実測図（1/4）



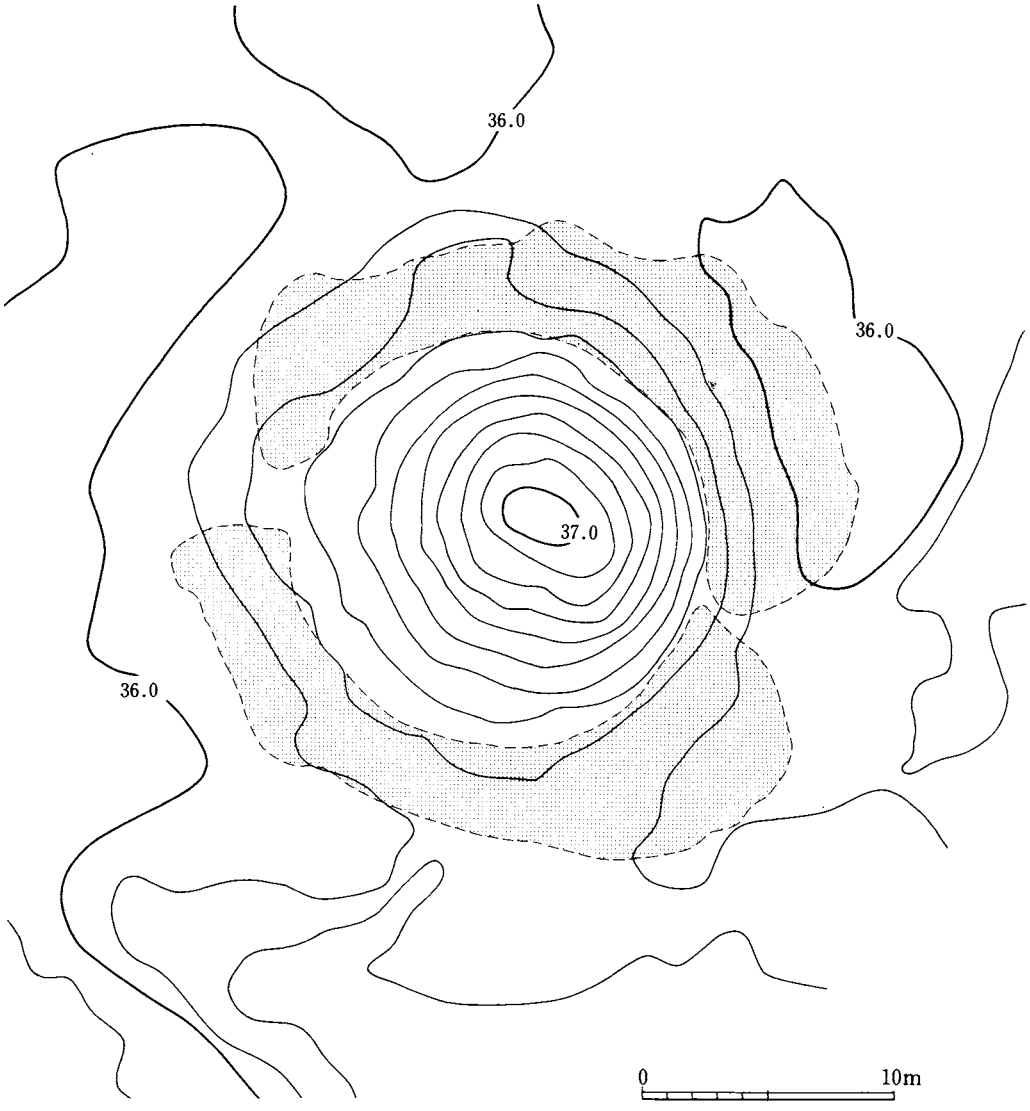

第188図　3号墳実測図（1/120）



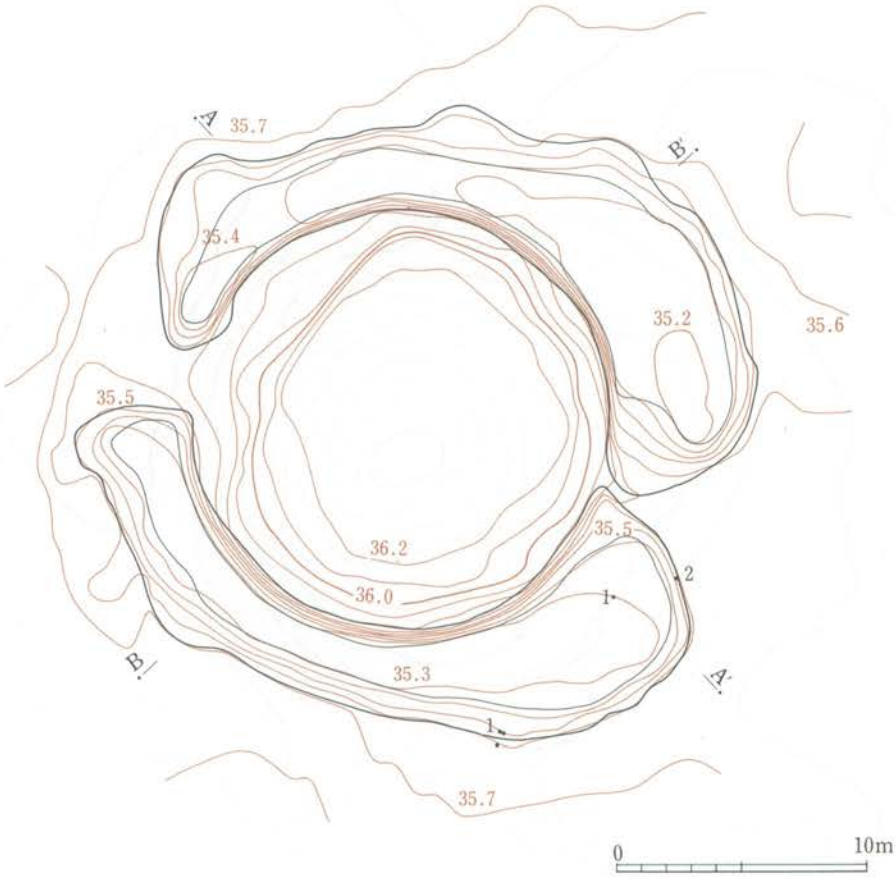

1．表　土(ロームブロック、ローム粒多量)
2．黒褐色土(ローム粒混入)
3．暗褐色土(ローム粒混入、しまりある)
4．黄褐色土(ローム主体)
5．黒褐色土(ローム粒混入2.より若干黒い)
6．暗褐色土(ローム粒目立つ)
7．黄褐色土(ハードロームブロック多く混入)



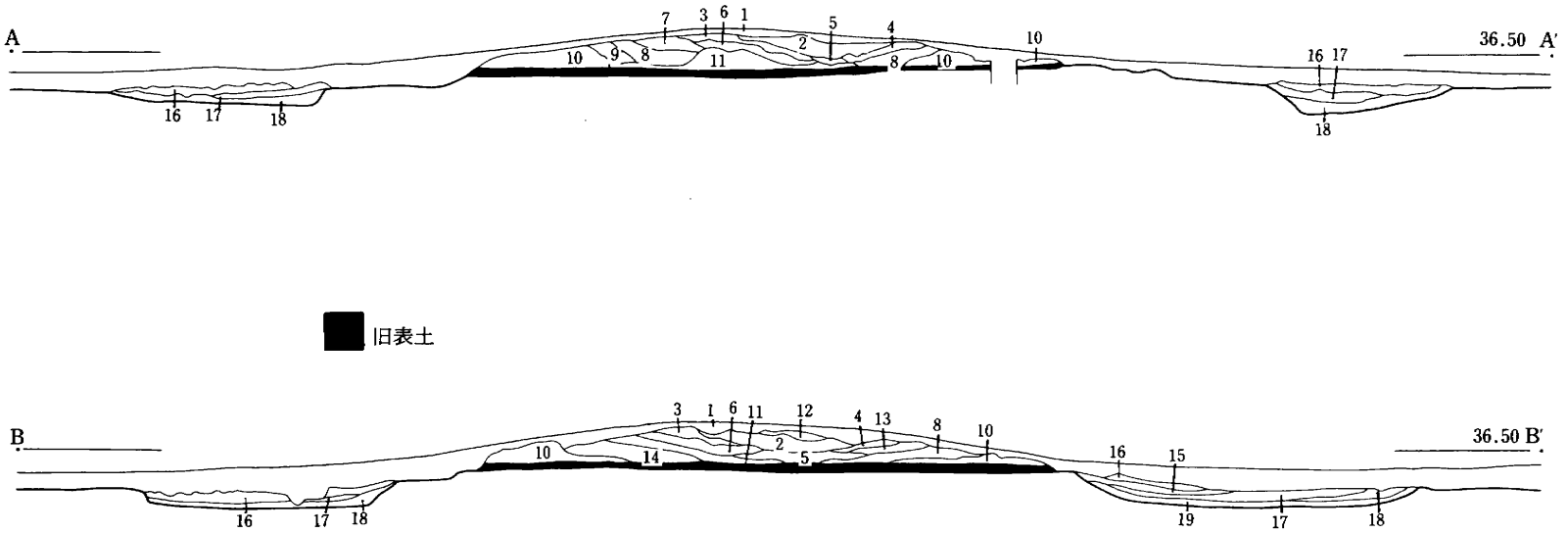

第189図　3号墳土層断面図 (1/60)




第190図　4号墳墳丘実測図（1/300）



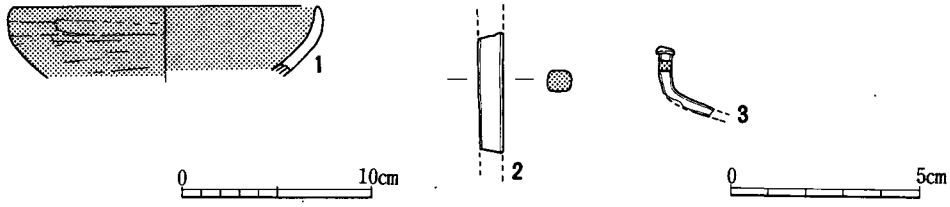

第191図　4号墳実測図（1/300）



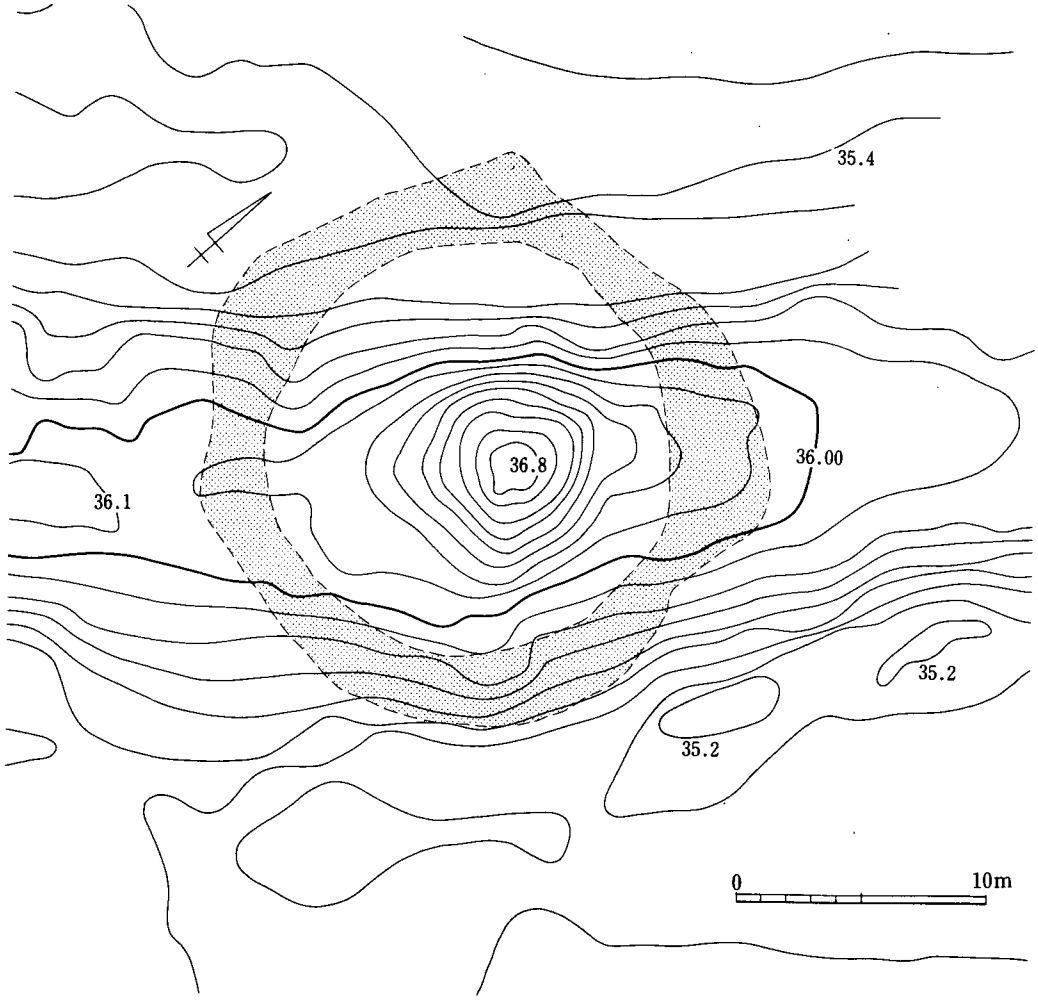

1．表　　土
2．暗褐色土
3．黄褐色土
4．暗黄褐色土(ハードロームブロック少量、ローム粒多量混入)
5．黄褐色土(ローム主体)
6．暗褐色土(ローム粒少量混入)
7．暗黄褐色土(ローム粒多量混入)
8．暗黄褐色土(ローム主体、ハードロームブロック少量混入)
9．黄褐色土(ローム主体、ハードロームブロック微量混入)
10．暗黄褐色土(ローム粒多量、ハードロームブロック少量混入)
11．黄褐色土(ローム主体、ハードロームブロック少量混入)
12．黄褐色土(ローム主体)
13．暗褐色土(ハードロームブロック微量混入)
14．暗褐色土(ローム粒少量混入)
15．黒褐色土
16．黒褐色土
17．暗褐色土
18．黒褐色土
19．暗黄褐色土(ローム粒微量混入)

0　5　10m

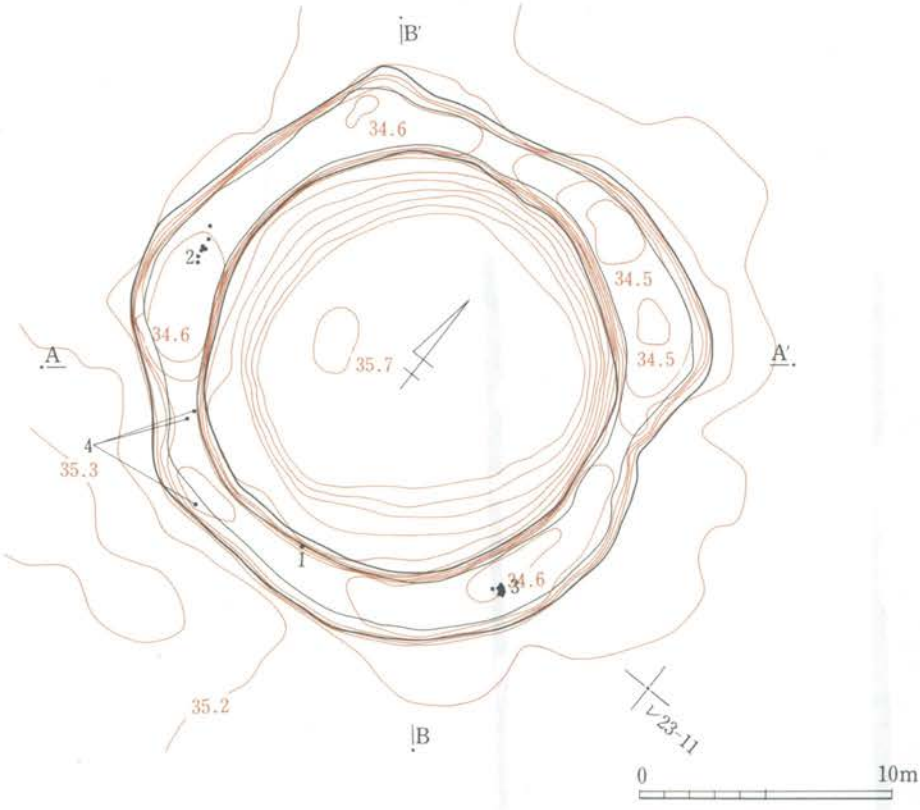
第192図　4号墳土層断面図（1/150）



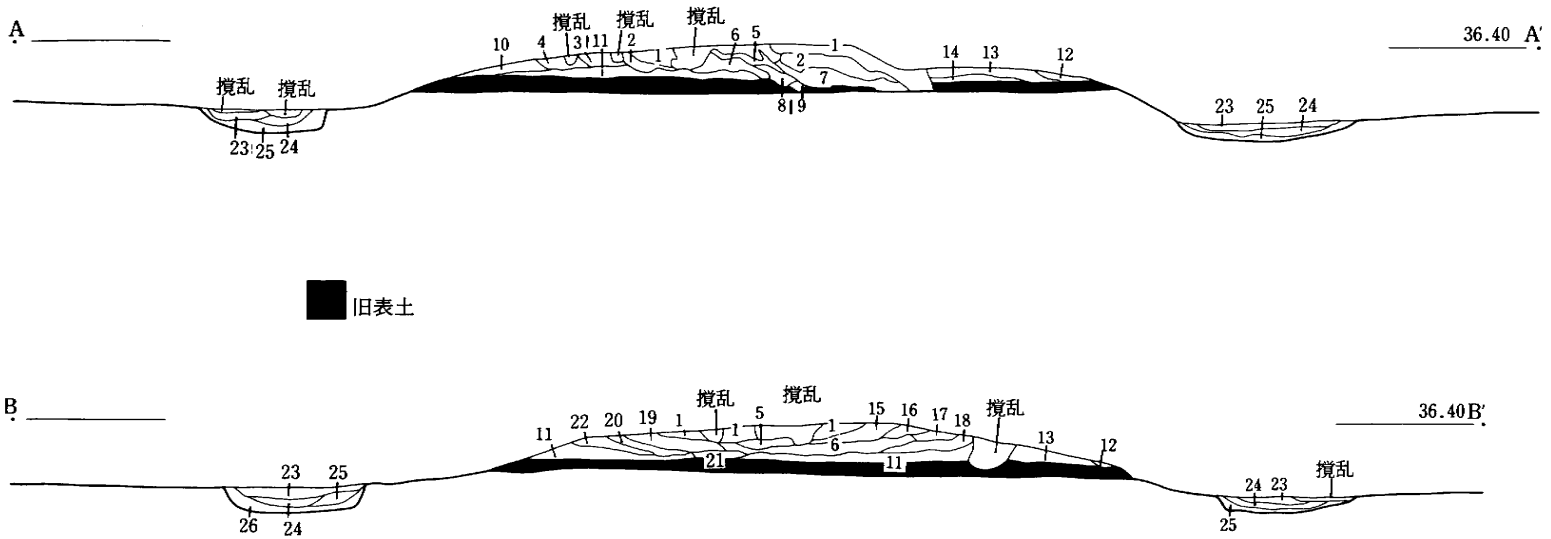

第193図　4号墳出土遺物実測図（土器1/4、鉄器1/2）




第194図　5号墳墳丘実測図（1/300）



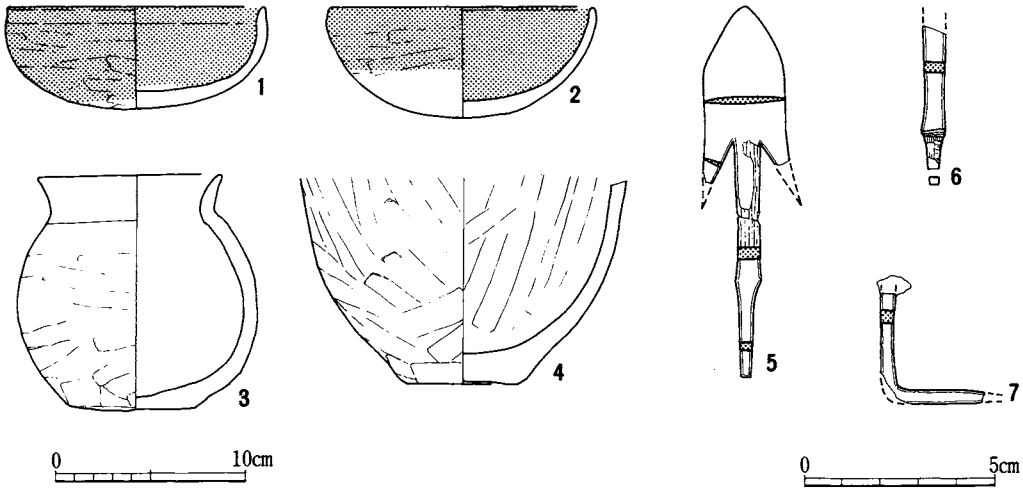

第195図　5号墳実測図（1/300）



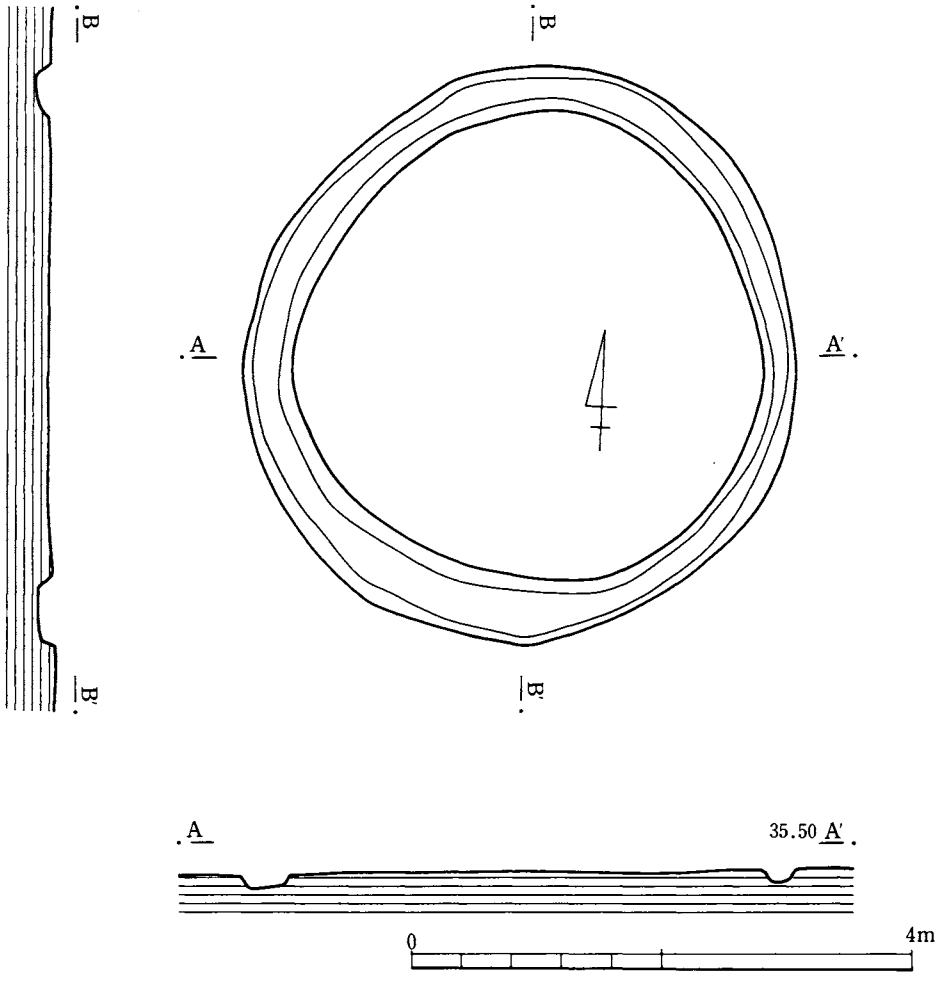

1．黄褐色土(ローム粒多量)
2．黄褐色土(ハードロームブロック混入)
3．暗黄褐色土(ローム粒多量混入)
4．褐 色 土
5．褐 色 土(ハードロームブロック混入)
6．暗黄褐色土
7．暗褐色土
8．黄褐色土(ローム粒多量混入)
9．褐 色 土
10．褐 色 土
11．暗褐色土
12．暗黄褐色土
13．暗褐色土
14．暗褐色土
15．黄褐色土(ローム粒多量混入)
16．黄褐色土(ハードロームブロック混入)
17．明褐色土
18．黄褐色土
19．黄褐色土(ハードロームブロック混入)
20．黄褐色土
21．黄褐色土(ローム粒、ハードロームブロック多量混入)
22．暗黄褐色土(ローム粒、ハードロームブロック多量混入)
23．暗褐色土
24．黒褐色土(ローム粒多量混入)
25．暗黄褐色土
26．暗褐色土

0　5　10m

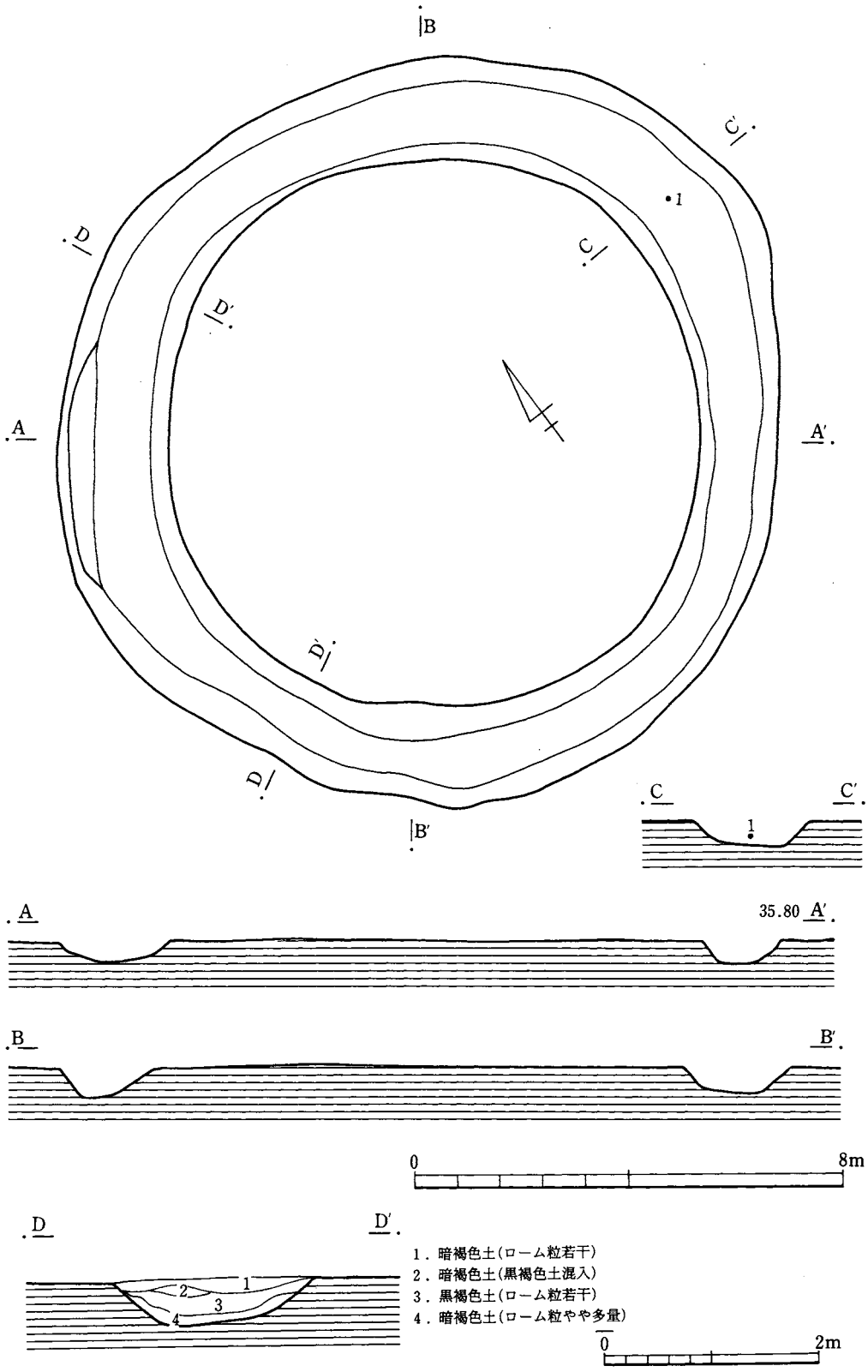
第196図　5号墳土層断面図（1/150）



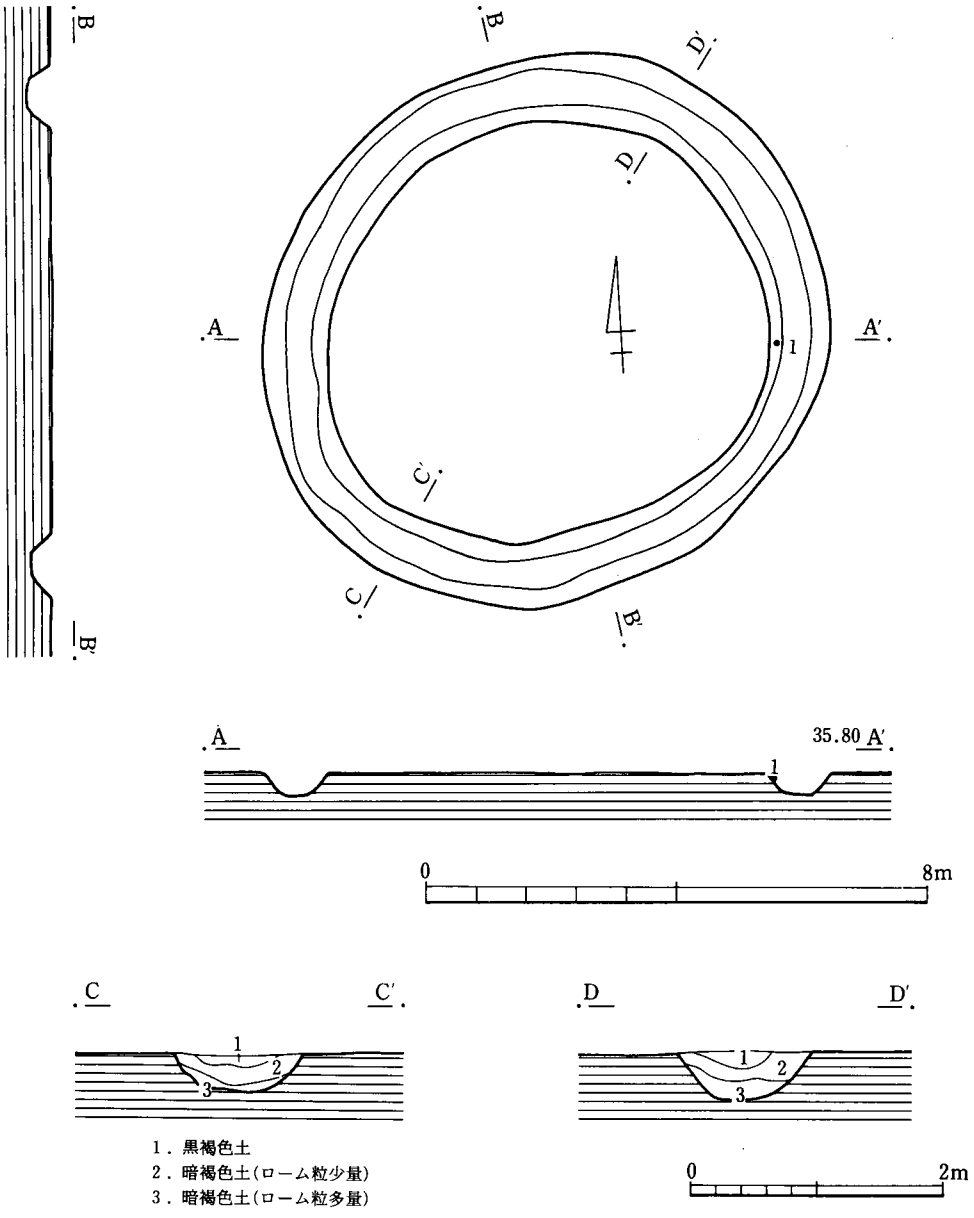

第197図　5号墳出土遺物実測図（土器1/4、鉄器1/2）



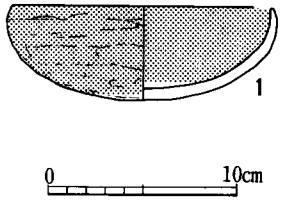

第198図　6号墳実測図（1/60）



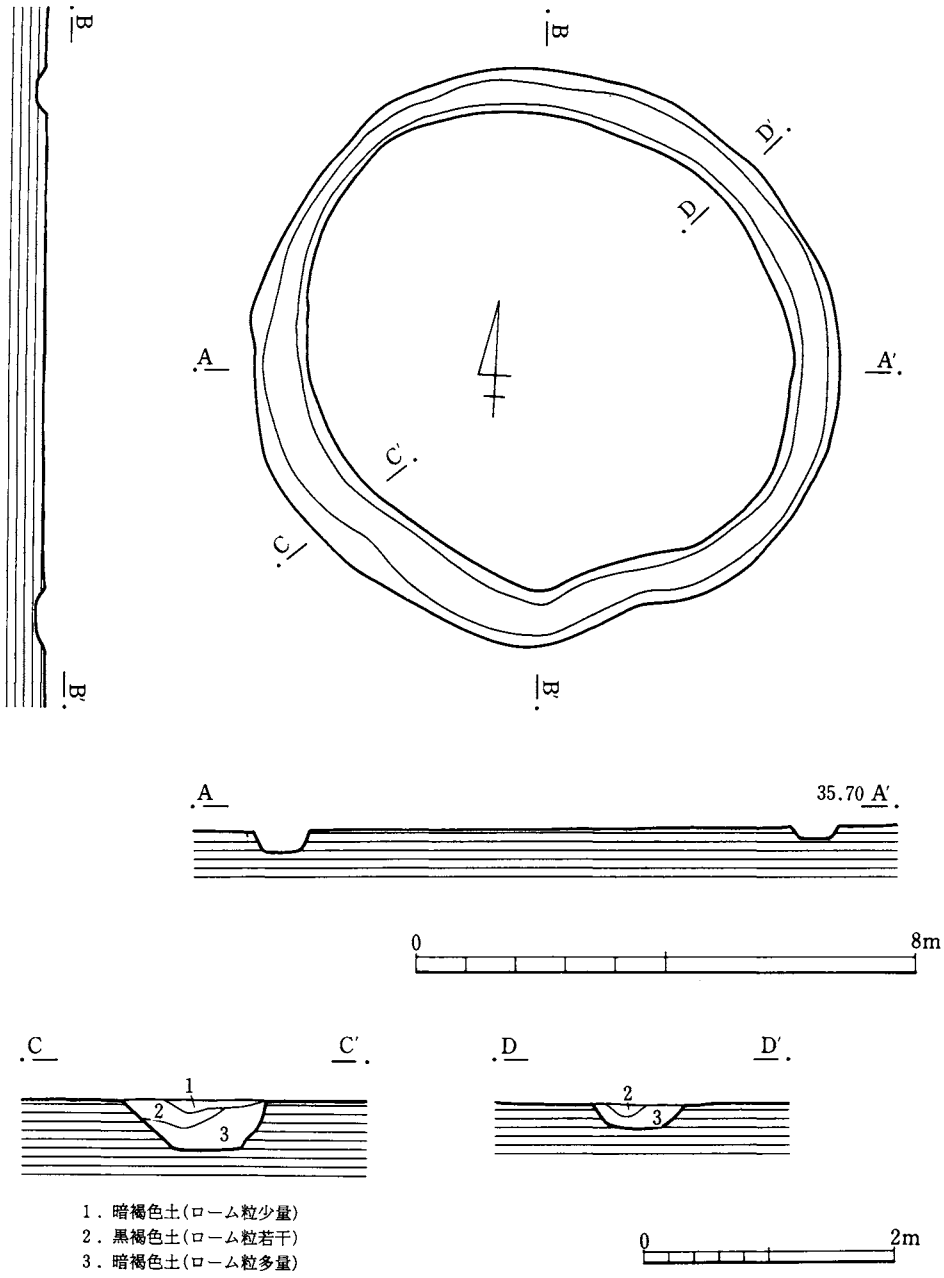

第199図　7号墳実測図（平面図1/120、土層断面図1/60）



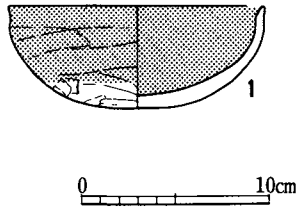

第200図　8号墳実測図（平面図1/120、土層断面図1/60）



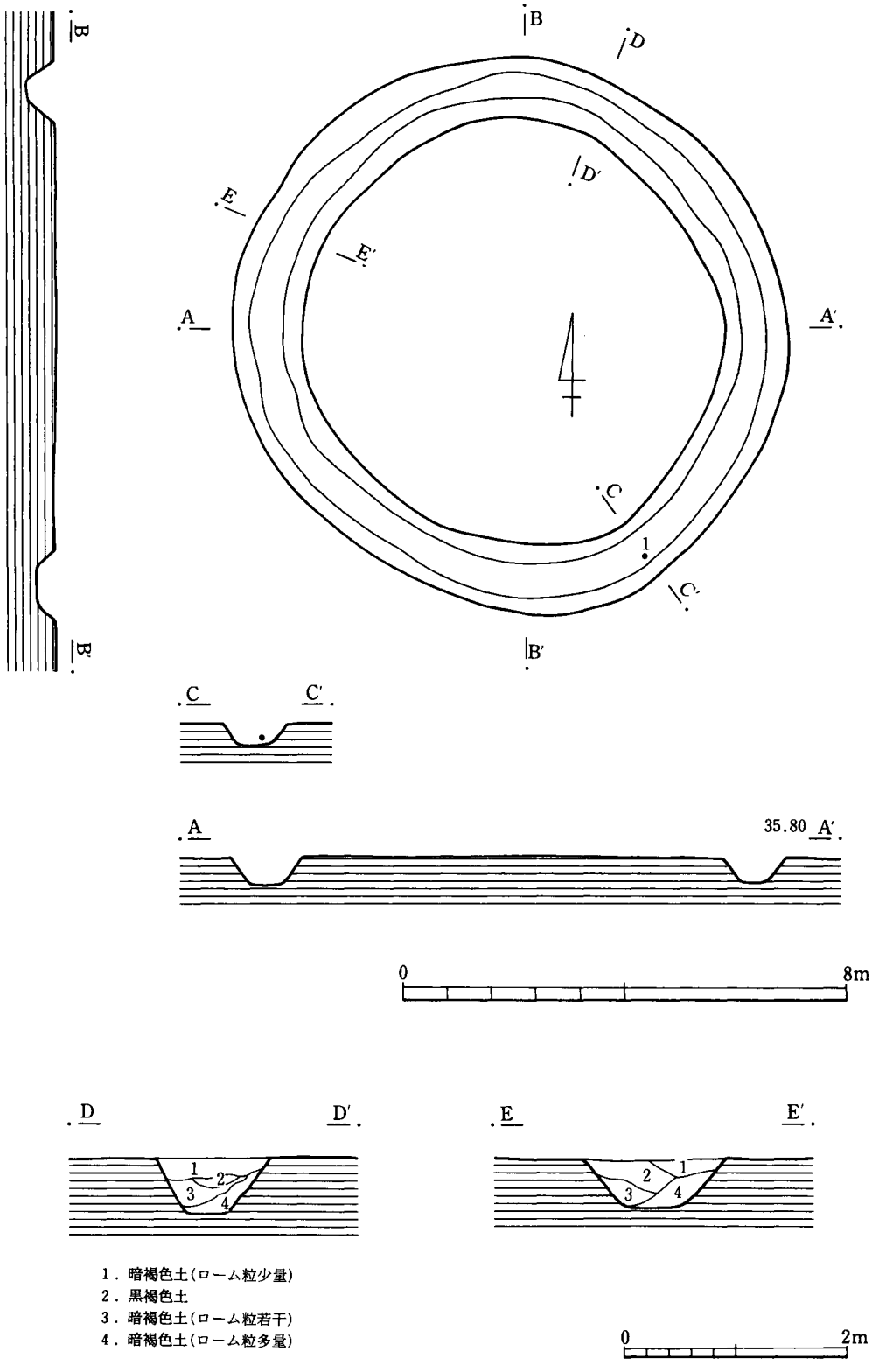

第201図　8号墳出土土器実測図（1/4）



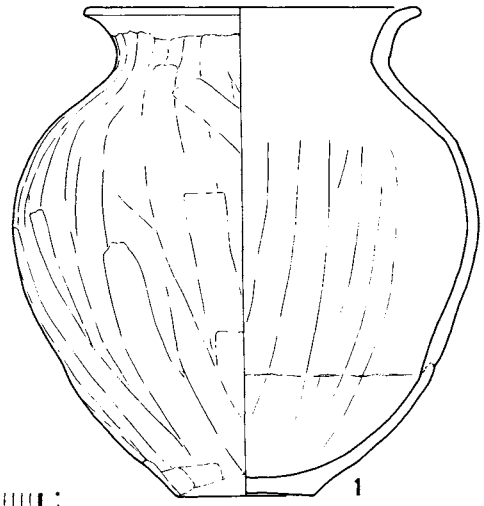

第202図　9号墳実測図（平面図1/120、土層断面図1/60）

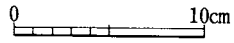



第203図　9号墳出土土器実測図（1/4）

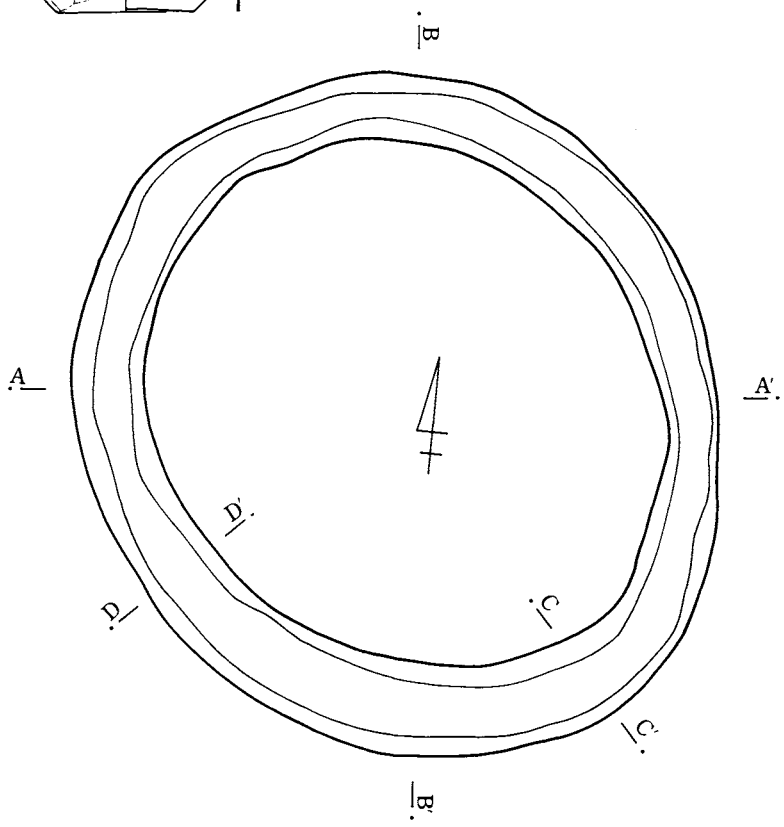


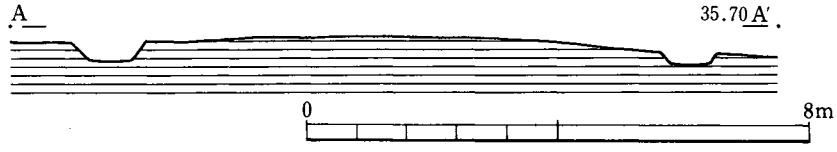

第204図　10号墳実測図（平面図1/120、土層断面図1/60）

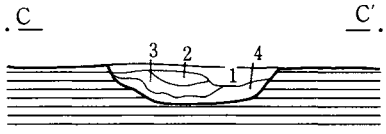


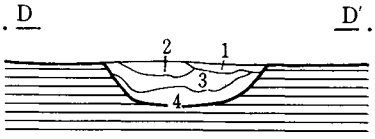




第205図　10号墳出土土器実測図（1/4）

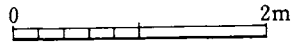


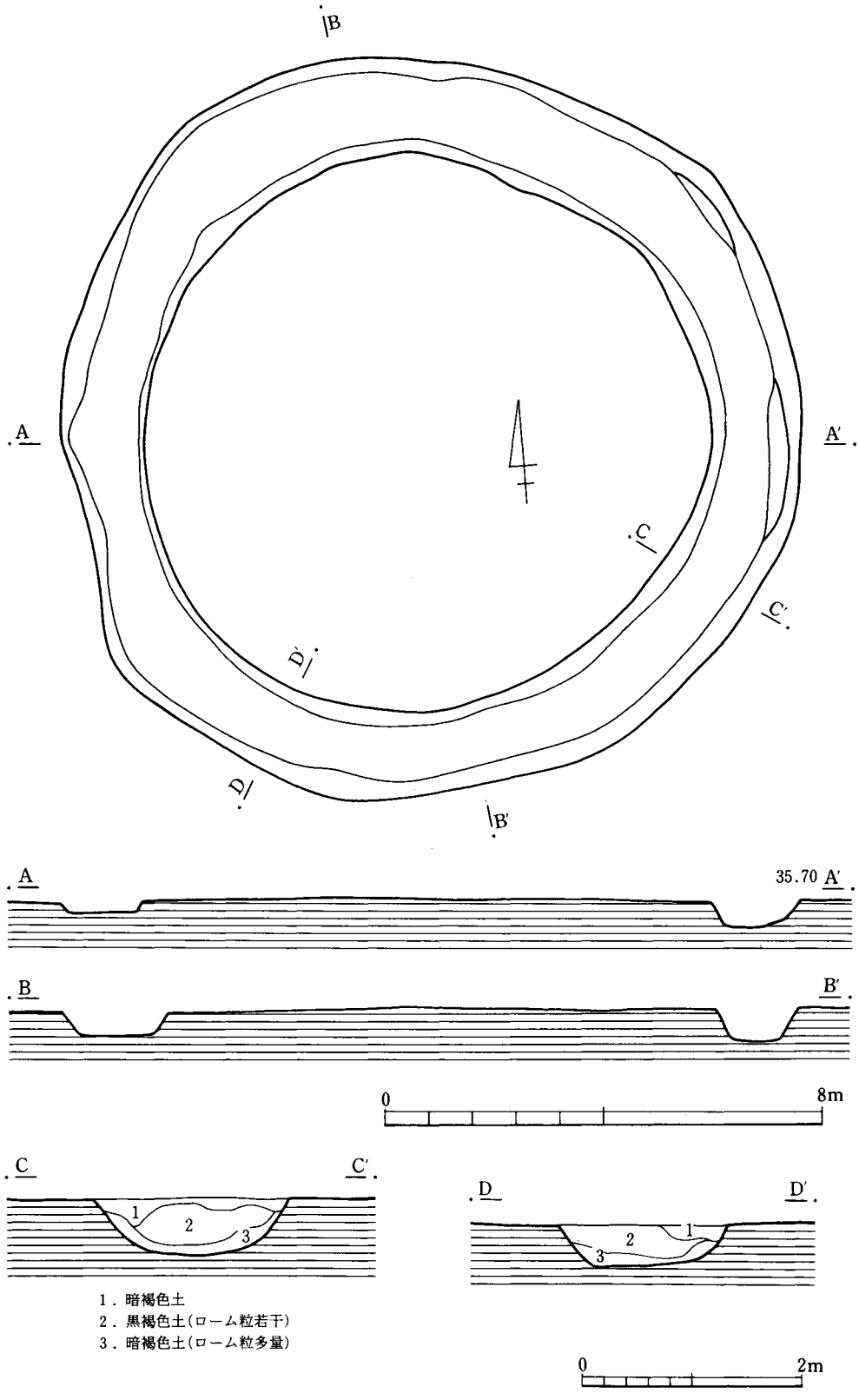



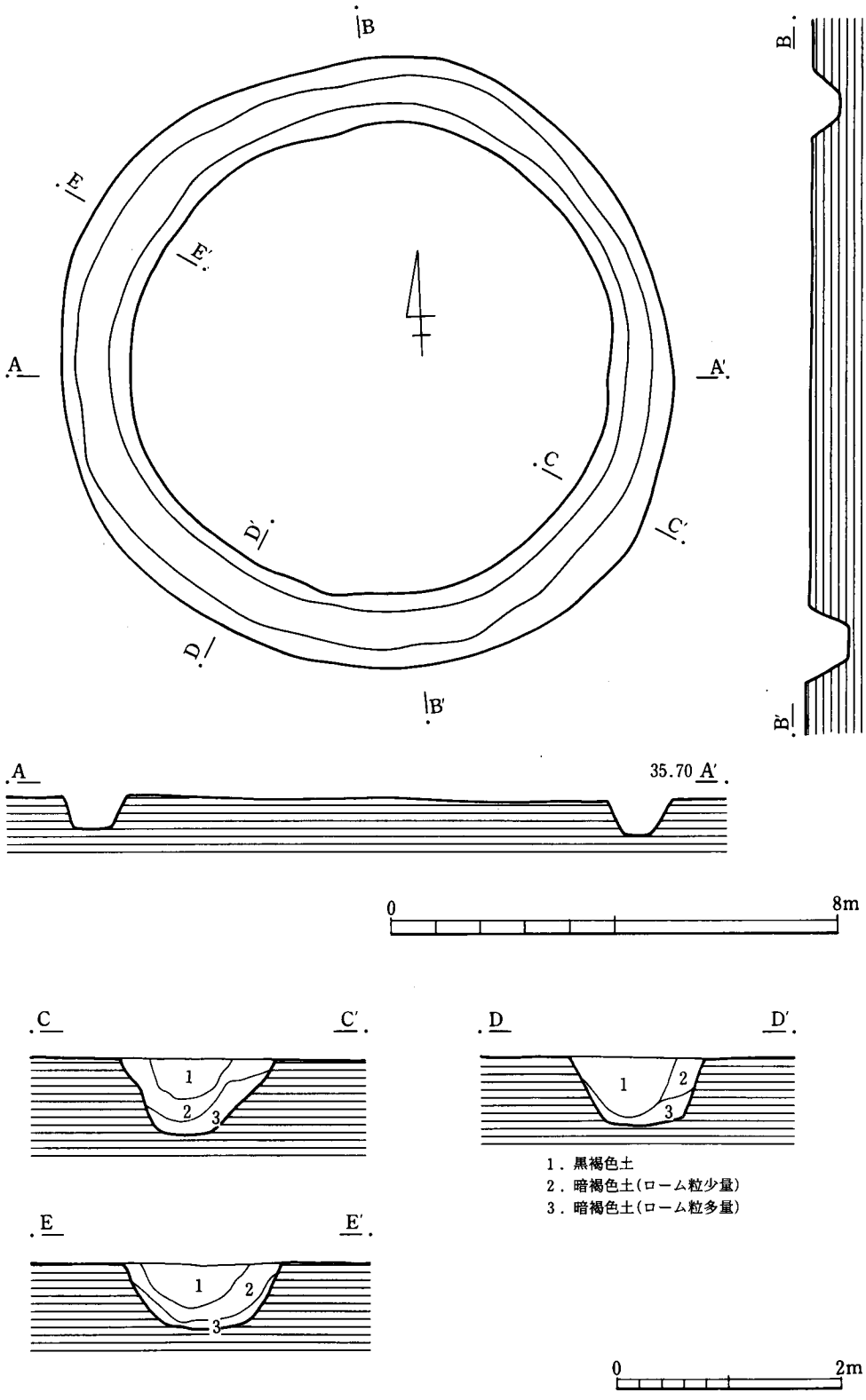

1．暗褐色土(黒褐色土斑点状に含む)　3．暗褐色土(ローム粒少量)　4．暗褐色土(ローム粒多量)
2．黒褐色土



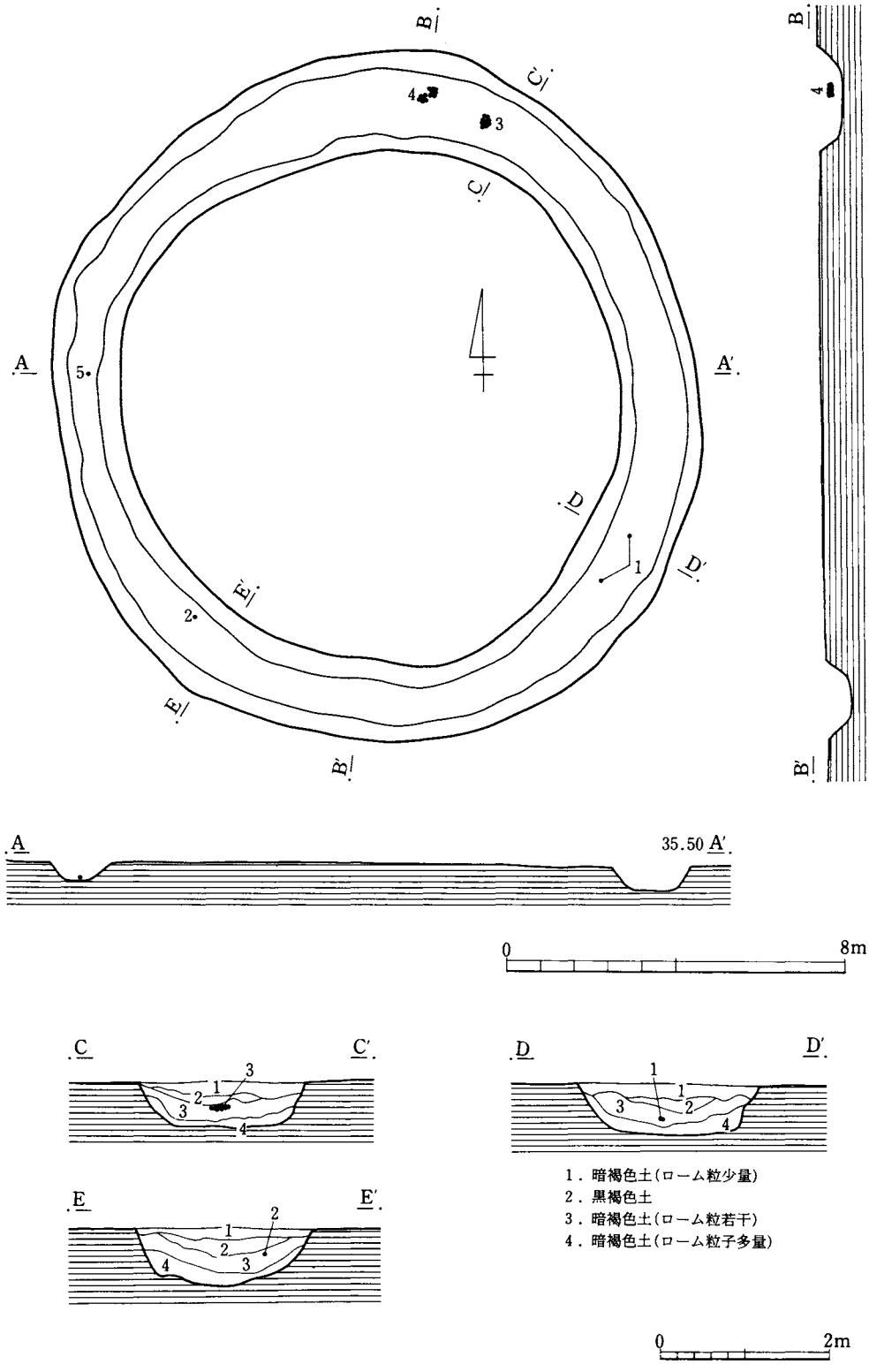

第206図　11号墳実測図（平面図1/120、土層断面図1/60）



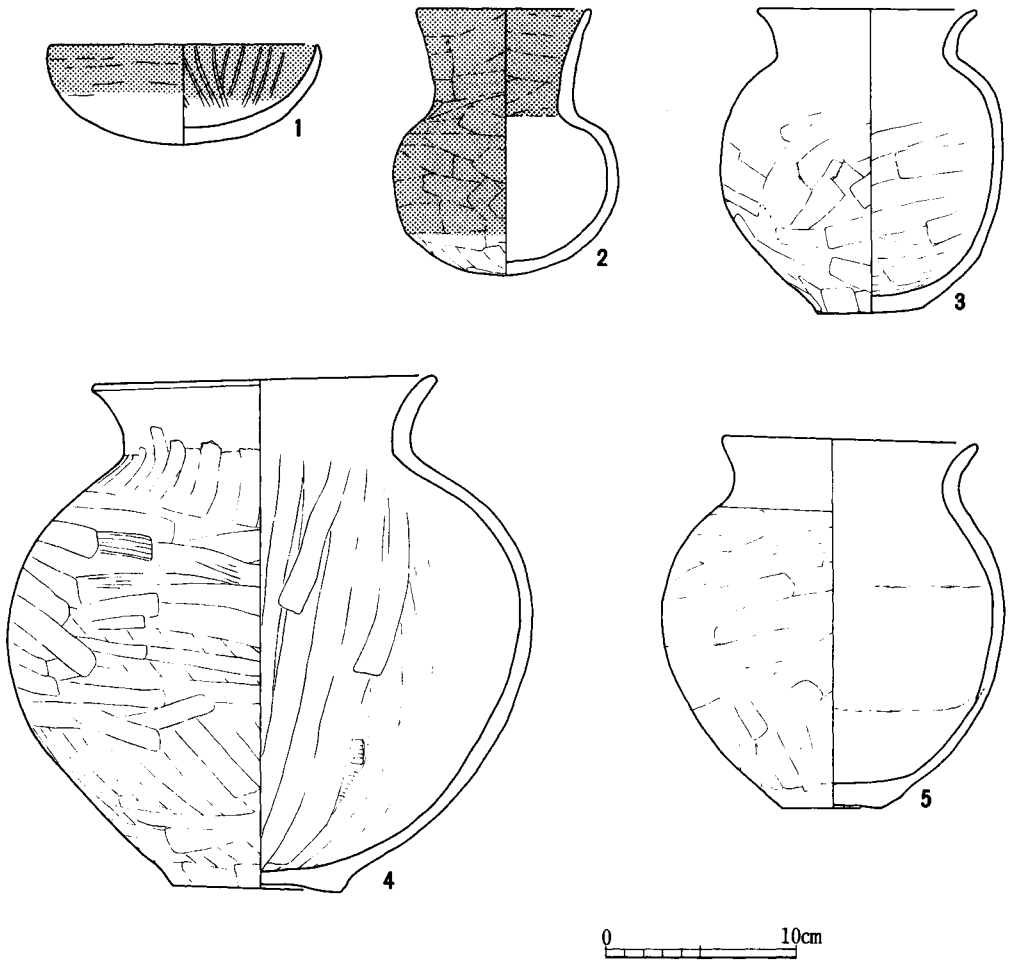

第207図　12号墳実測図（平面図1/120、土層断面図1/60）




第208図　13号墳実測図（平面図1/120、土層断面図1/60）




第209図　14号墳実測図（平面図1/160、土層断面図1/80）




第210図　14号墳出土土器（1/4）

14号墳（第209・210図　図版55・56）

**位置・検出状況**　13号墳の北東15m、レ25地区谷に位置する。周溝のみの検出で、主体部は確認できなかった。

**周溝**　周溝内径は11.8～12.0mを計りほぼ円形を呈する。周溝は全周し、周溝幅は1.5～2.1m深さは0.3～0.5m、周溝外側の最大径は15.8mになる。周溝断面は溝底に平坦面がある逆台形を呈する。周溝内はローム粒を含む暗褐色土が堆積する。

**遺物**　土師器坏1点、土師器坩1点、土師器小型甕1点、土師器甕2点が周溝内の4方から出土した。いずれも溝底からは15cm程度浮いて出土した。

## C　方形周溝状遺構

方形周溝状遺構は7基検出され、1号から3号の台地南側を曲折して入り込む谷に面してほぼ50m間隔で並ぶ3基のグループと、6号墳から14号墳の8基の円墳群と南北80m東西50mほどの台地張り出し部に混在するグループにわかれる。

### 1号方形周溝状遺構（第211図　図版15）

**位置・検出状況**　ル23区に検出され、標高35.5mの台地縁辺の平坦面から斜面に移行する部分に位置し遺跡西側をめぐる谷を眼下に見おろす立地をとる。8号住居跡の東10mに位置する。盛り土は確認できず主体部も検出できなかった。

**周溝**　周溝は北西隅が途切れる状態で確認された。ただ、確認面から周溝の深さがきわめて浅く、あるいは本来は全周していたが北西隅の部分が一段と浅かったために耕作によって失われた可能性も高い。平面形態はほぼ方形で、周溝外側で南北4.9m・東西9mを計る。周溝幅は0.4～0.7mで深さは0.1～0.2mと極めて浅い。周溝内覆土はローム粒を含む暗褐色土である。

**遺物**　遺物はない。

### 2号方形周溝状遺構（第212・213図　図版15・56）

**位置・検出状況**　1号方形周溝状遺構の東50m、ヨ23区に検出され、標高35.5mの台地縁辺の平坦面ぎりぎりの谷斜面に臨む位置に立地をとる。盛り土は確認できず主体部も検出できなかった。

**周溝**　周溝は全周し、平面形態は比較的整った方形で、周溝外側で南北9.4m・東西9.5mを計る。周溝幅は1.0～1.2mで深さは0.3～0.5mを計り、断面形は溝底部に平坦面のある逆台形を呈する。周溝内覆土はローム粒を含む暗褐色土と黒褐色土である。

**遺物**　遺物は須恵器坏4点と坏蓋1点で、周溝内の南東部分から出土した。溝底および20cm程度浮いて出土したもので3の坏は5m程度離れて出土したものも接合した。

### 3号方形周溝状遺構（第214図　図版15）

**位置・検出状況**　2号方形周溝状遺構の東50m、レ22区に検出され、標高35.3mの台地縁辺の平坦面の谷斜面に臨む位置に立地をとる。盛り土は確認できず主体部も検出できなかった。

**周溝**　周溝は全周し、平面形態はほぼ方形で、周溝外側で南北10.2m・東西9.8mを計る。周溝幅は1.1～1.7mで深さは0.4～0.5mを計り、断面形は溝底部に平坦面のある逆台形を呈する。周溝内覆土はローム主体の暗褐色土と黒色土である。

**遺物**　遺物はない。

### 4号方形周溝状遺構（第215図　図版16）

**位置・検出状況**　6号墳の北東25m、タ23区に検出され、盛り土は確認できず主体部も検出できなかった。

**周溝**　周溝は全周し、平面形態はやや北側のせばまった方形で、周溝外側で南北6.8m・東西6.8mを計る。周溝幅は0.7～1.1mで深さは0.3～0.6mを計り、断面形は溝底部に平坦面のある逆台形を呈する。周溝内覆土はローム粒を含む暗褐色土と黒褐色土である。

**遺物**　遺物はない。

5号方形周溝状遺構（第216図　図版16）

**位置・検出状況**　7号墳の南西15m、谷斜面ぎりぎりのタ24区に検出され、盛り土は確認できず主体部も検出できなかった。

**周溝**　周溝は全周し、平面形態はほぼ方形で、周溝外側で南北4.8m・東西5.3mを計る。周溝幅は0.4～0.6mで深さは0.1～0.3mを計り、断面形は溝底部に平坦面のある逆台形を呈する。周溝内覆土はローム粒を含む暗褐色土とローム主体の暗黄褐色土である。

**遺物**　遺物はない。

6号方形周溝状遺構（第217図　図版16）

**位置・検出状況**　10号墳と12号墳の間に位置し、盛り土は確認できず主体部も検出できなかった。

**周溝**　周溝は全周し、平面形態はほぼ方形で、周溝外側で南北6.4m・東西5.9mを計る。周溝幅は0.8～0.9mで深さは0.3～0.4mを計り、断面形は溝底部に平坦面のある逆台形を呈する。周溝内覆土はローム粒を含む暗褐色土である。

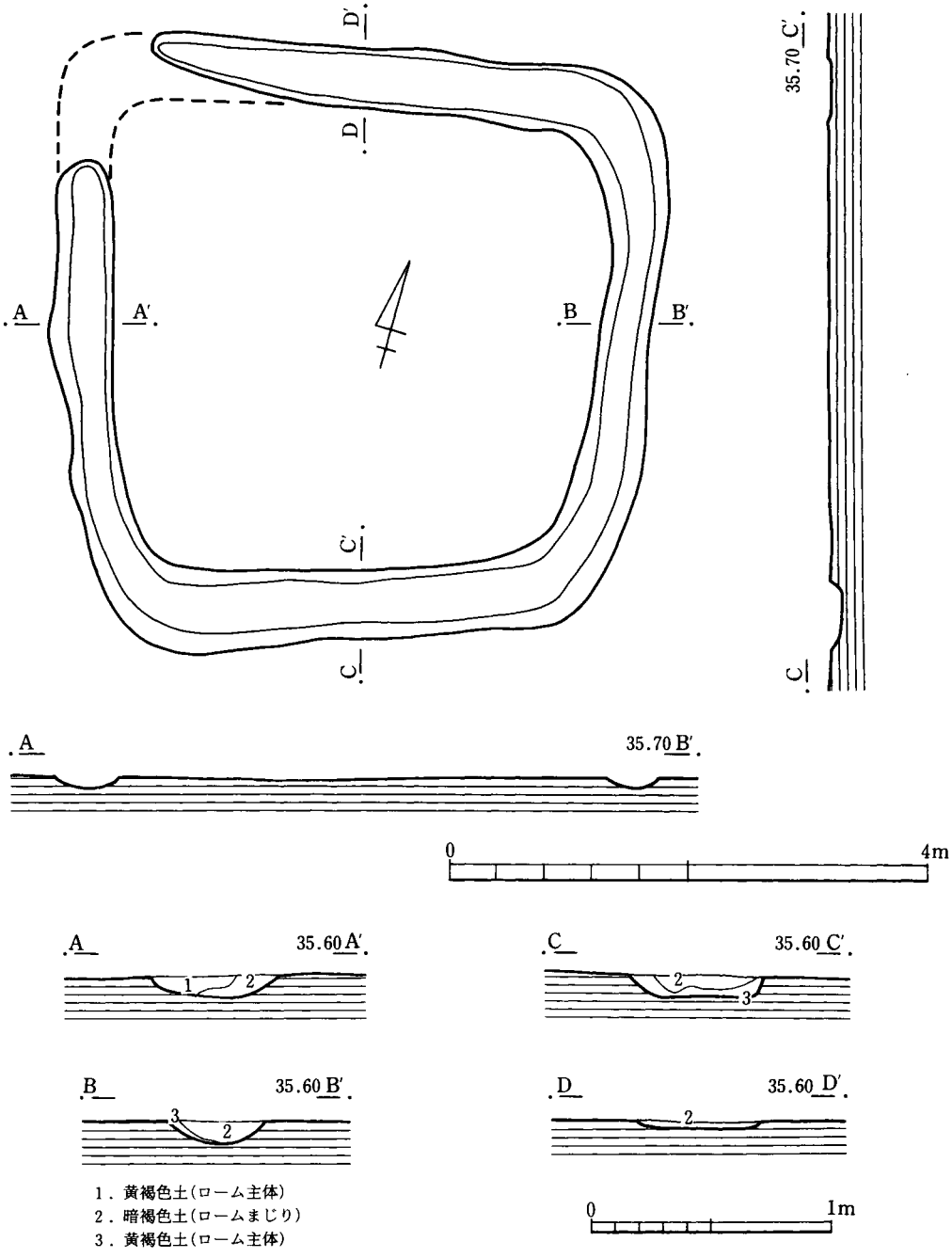
**遺物**　遺物はない。

7号方形周溝状遺構（第218図　図版17）

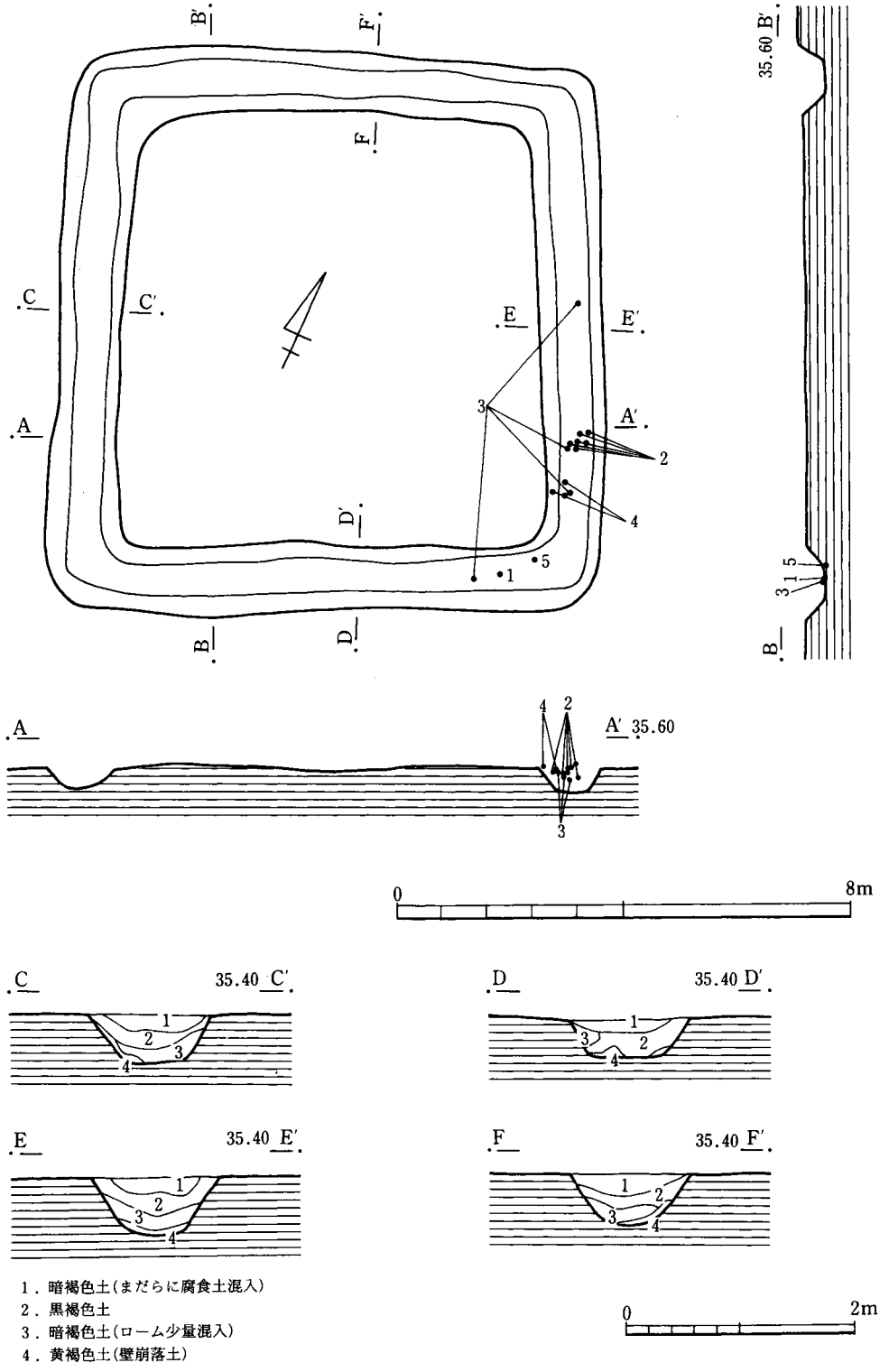
**位置・検出状況**13号墳の南西15m、タ25区既に谷斜面にかかる部分に位置する。盛り土は確認できず主体部も検出できなかった。

**周溝**　周溝は全周し、平面形態はほぼ方形で、周溝外側で南北4.5m・東西4.2mを計る。周溝幅は0.3～0.7mで深さは0.2～0.3mを計り、断面形は溝底部に平坦面のある逆台形を呈する。周溝内覆土はローム粒を含む暗褐色土である。

**遺物**　遺物はない。

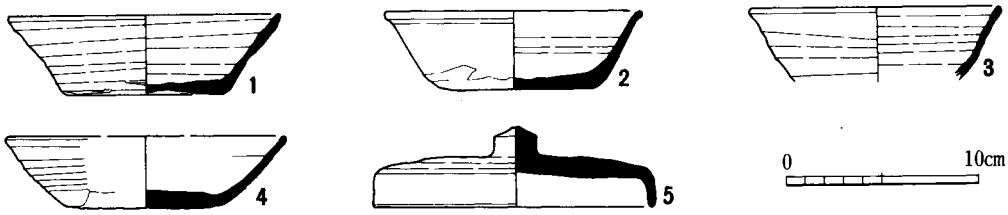



第211図　1号方形周溝状遺構実測図（1/60、土層断面図1/30）

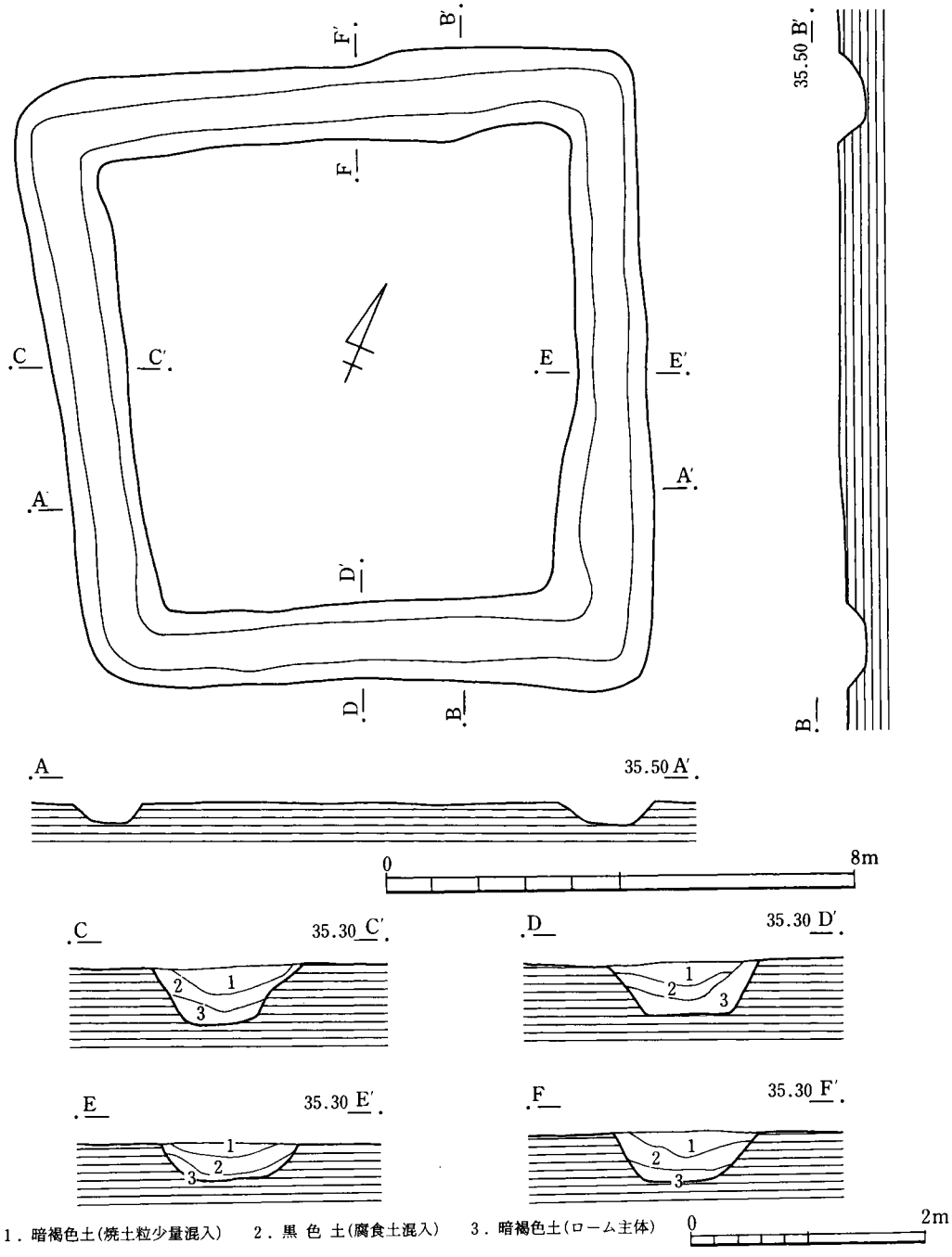



1．暗褐色土(まだらに腐食土混入)
2．黒褐色土
3．暗褐色土(ローム少量混入)
4．黄褐色土(壁崩落土)

第212図　2号方形周溝状遺構実測図（1/120、土層断面図1/60）

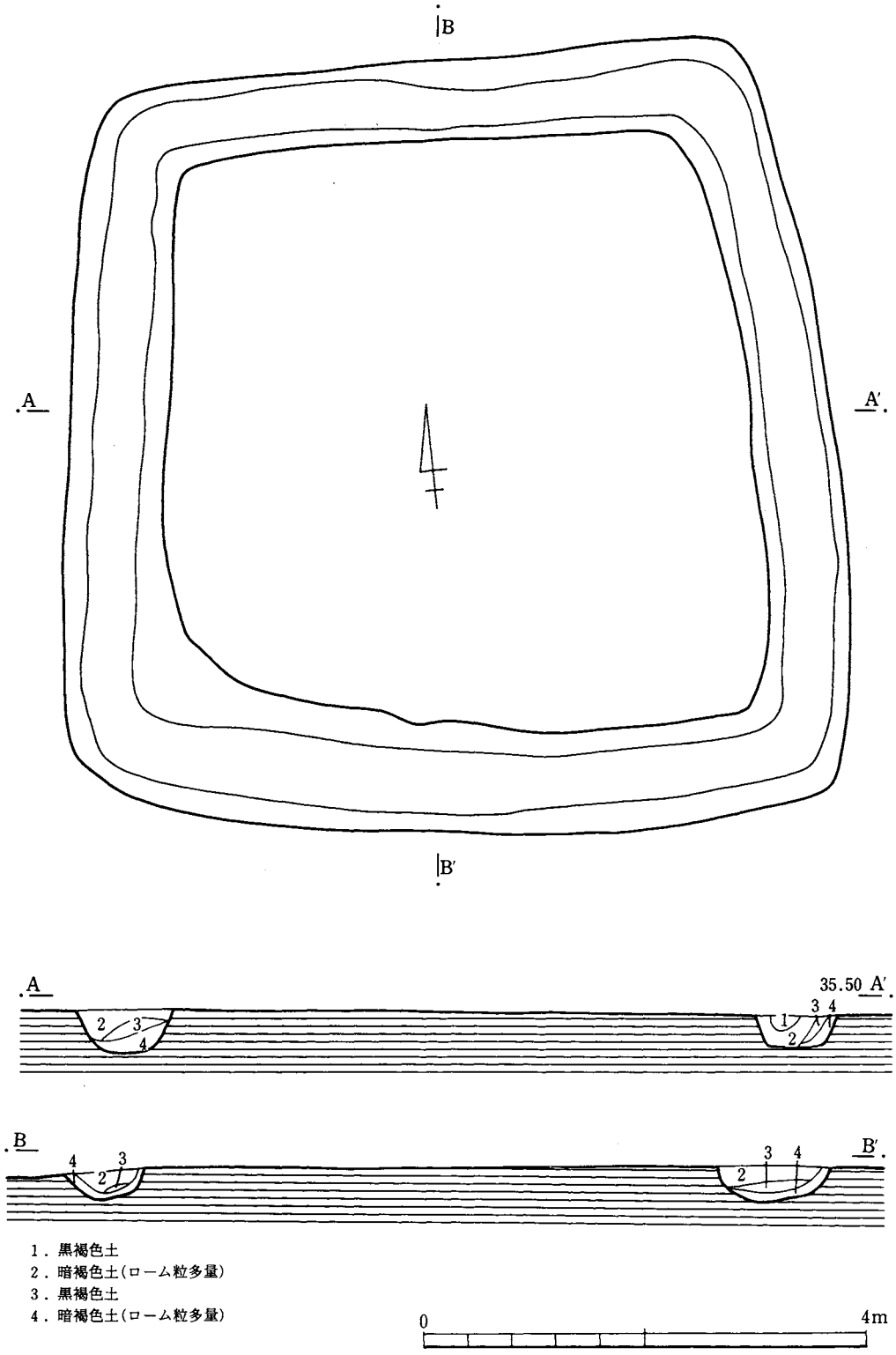



第213図　2号方形周溝状遺構出土土器実測図（1/4）

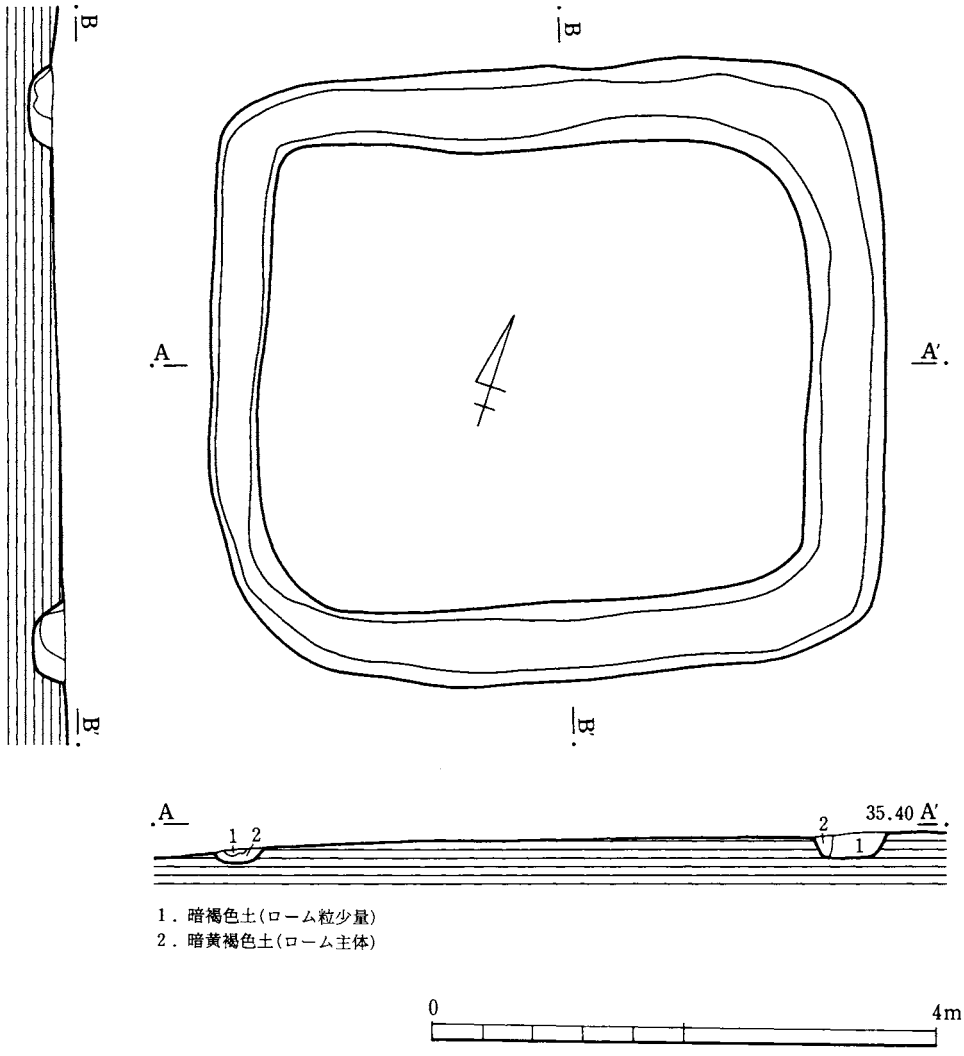



1．暗褐色土(焼土粒少量混入)　2．黒 色 土(腐食土混入)　3．暗褐色土(ローム主体)

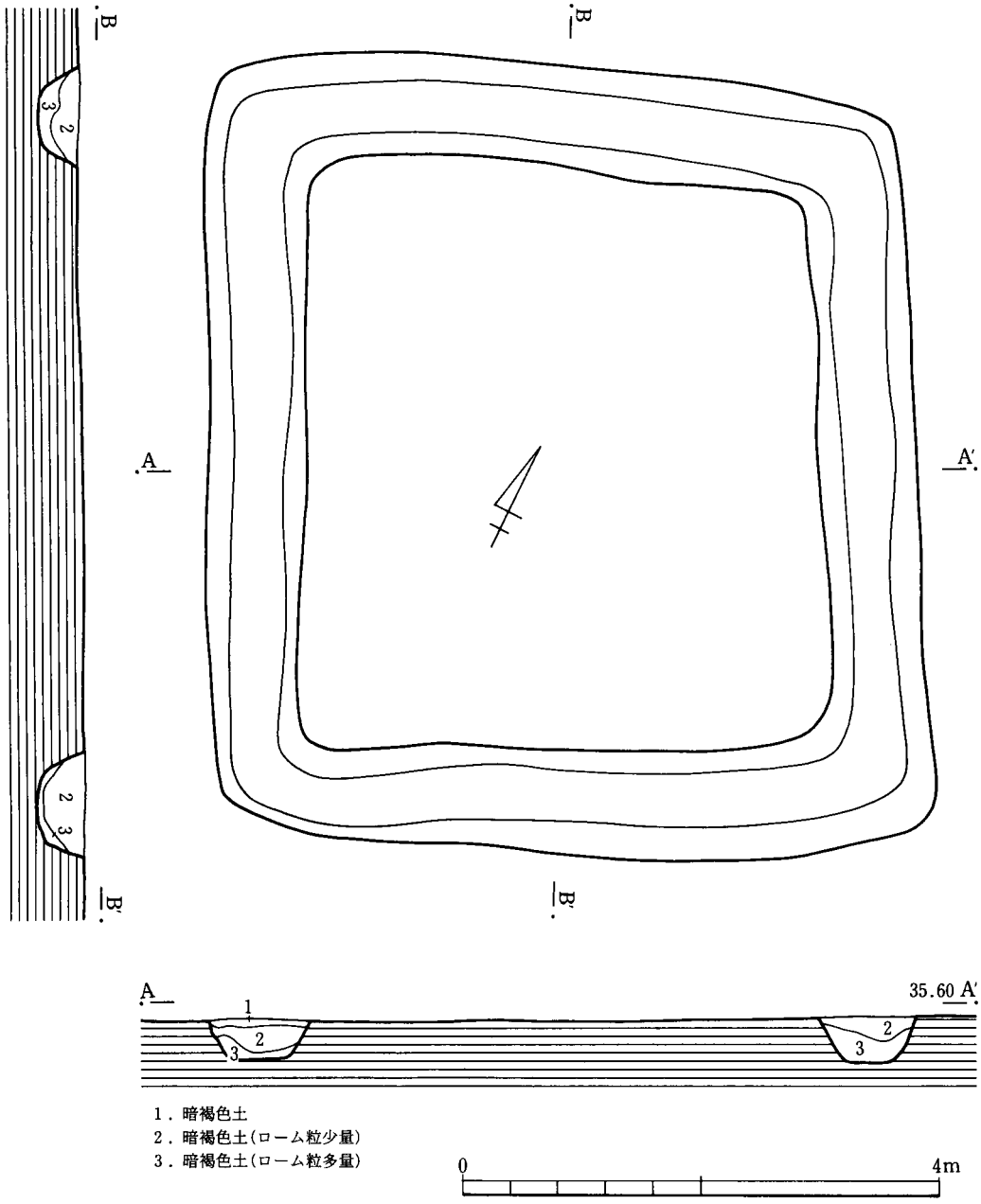
第214図　3号方形周溝状遺構実測図（1/120、土層断面図1/60）



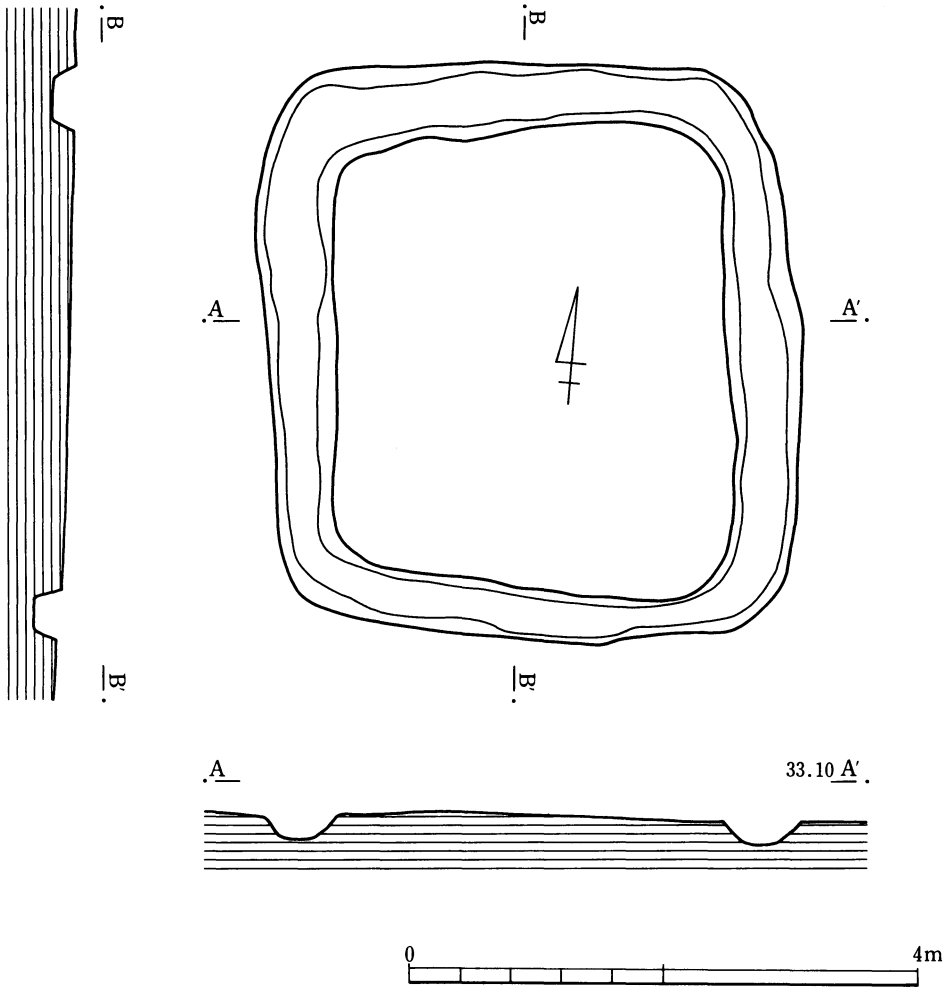

第215図　4号方形周溝状遺構実測図（1/60）




第216図　5号方形周溝状遺構実測図（1/60）




第217図　6号方形周溝状遺構実測図（1/60）




第218図　7号方形周溝状遺構実測図（1/60）

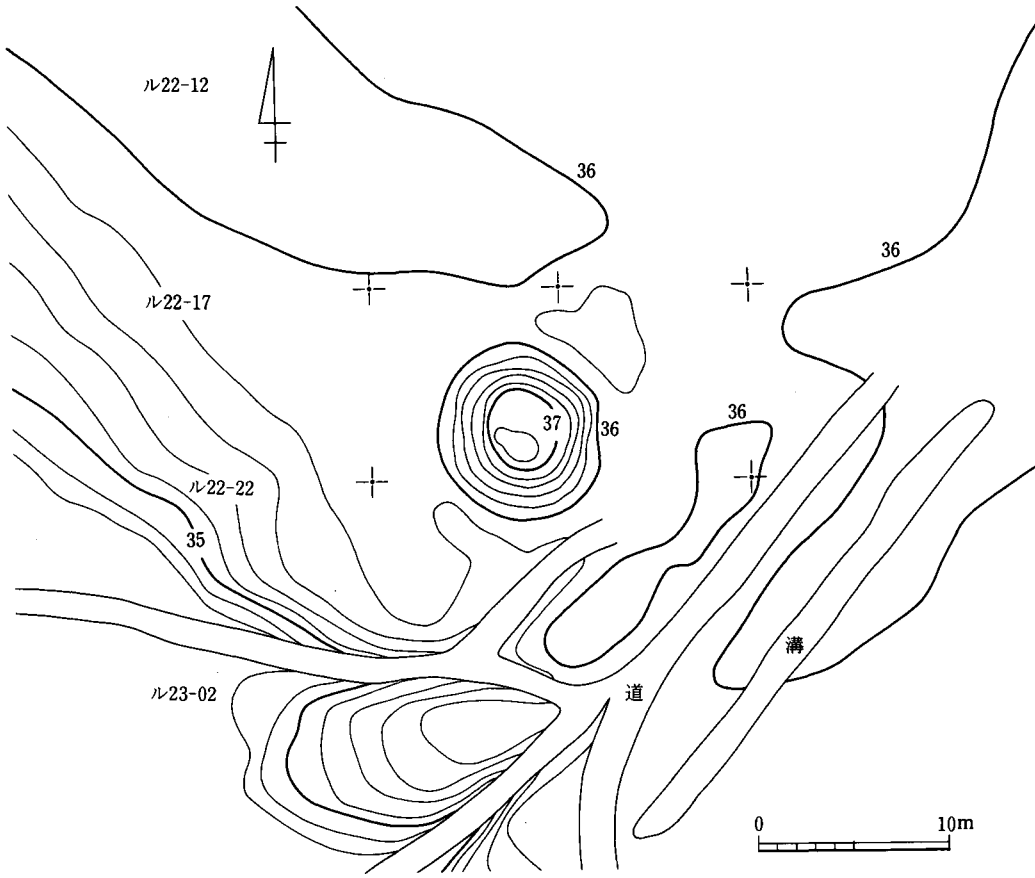
## D　塚

向原遺跡の南側の谷から登ってきた台地縁辺部に径10m高さ１m程度の高まりが確認されて、これを古墳として調査開始したが、積み土状態・規模・周溝が存在しないこと・近世遺物の検出などから塚と判断し、これを１号塚とした。

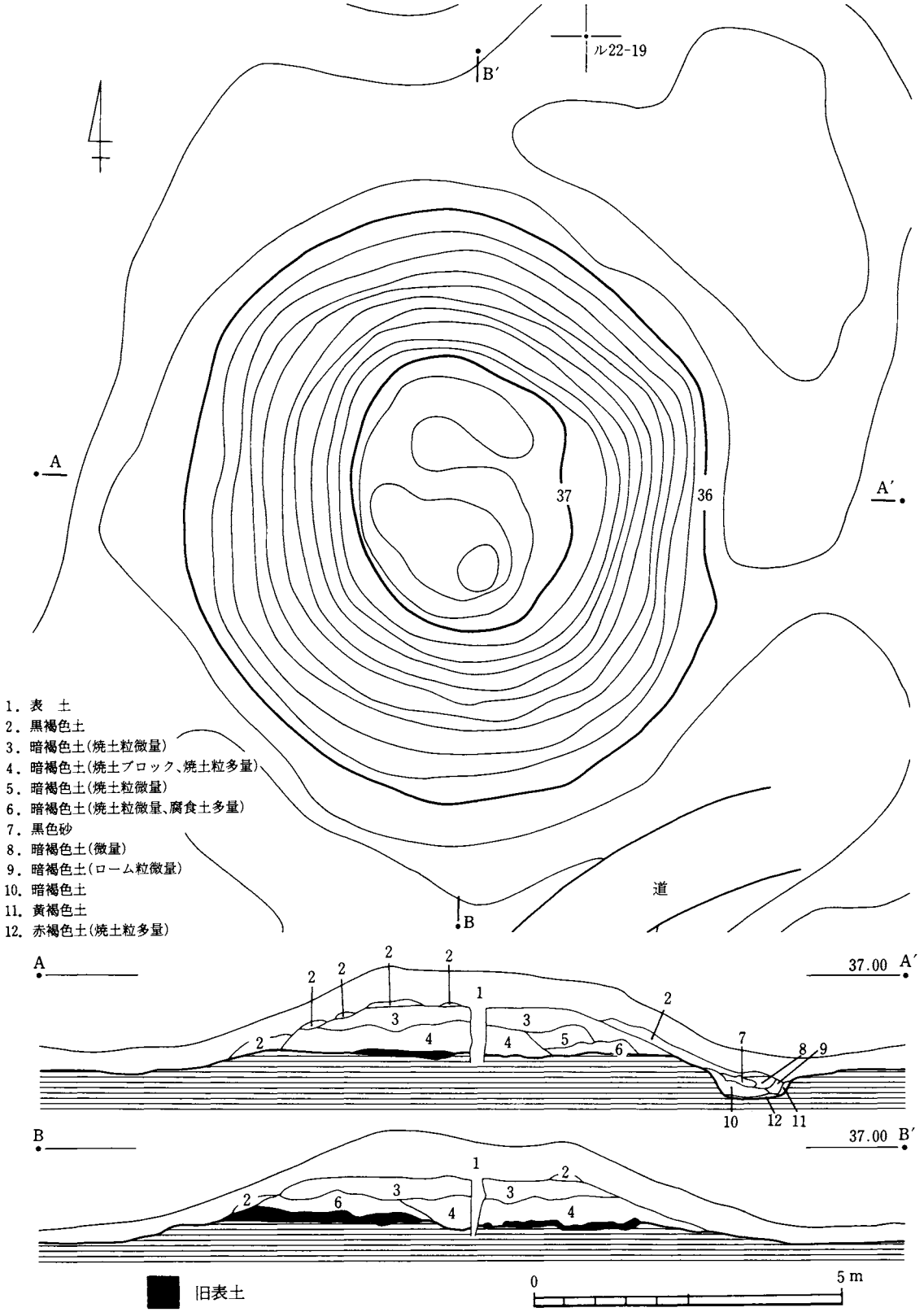
１号塚（第219・220図　図版17）

**位置・検出状況**　向原遺跡の南側の谷から登る道際に位置し、ル22-18・19・23・24区にかかる。調査前の見かけの規模は、径は南北８m・東西11m、高さ1.2mを計る。頂部には直径3.5m程度の平坦面が確認できた。積み土は旧表土の上に1.2mほど焼土等を含む暗褐色土を積んだもので締りがなく、明らかに古墳の盛土とは異なるものであった。

遺物としては、古銭（寛永通宝）が検出され、江戸時代以降の構築と思われる。




第219図　１号塚周辺地形測量図（1/400）




第220図　1号塚実測図 (1/100)

# 第3章　ま　と　め

向原遺跡の調査は全体として約500m×300mの範囲の中の約12万m²に及ぶ台地面を対象としているが、確認調査によって調査が終了している部分もまた多い。先土器時代については、全体に平均4％の確認調査が実施され、遺物の検出をみた地点の拡張追求による本調査が実施され、合計12地点の広大な面積の中ではきわめて分散的な地点の調査がなされ、その結果23のブロックを検出している。縄文時代以降については、10％ないし20％の確認調査実施後、遺構及び遺物の濃厚に確認された範囲が本調査対象とされた。また、古墳群の存在する地域は、当初より本調査の範囲とされた。その結果、全体的に台地中央部の畑地として耕作されていた部分については確認調査で調査は終了し、縄文時代以降を対象とした本調査が実施されたのは約その半分で、また本調査が実施された部分でも東側の古墳分布地域は、縄文時代の遺物については本来の分布を示しているとは言えない。すなわち、向原遺跡の調査成果を検討するときに、調査の成果そのものを本来の遺構遺物の分布やありかたとして捉えるか、あるいは確認調査によって終了した範囲については、耕作等の後世の営為によって失われたものも存在することを想定にいれて検討するかで、その評価は大きく変化すると言えよう。

先土器時代については、4％という確認調査の手法からしてすべてのブロックを調査し得ているということは困難なことであろう。しかしまた先土器時代遺物群のありかたからして、多数のブロックが群在するようなものを、調査し得ていないと言うこともないであろうから、調査されたブロックについては一部を除いてそれ自体は完結して調査されたものとして検討されてよいと思われる。縄文時代以降については、結果的に本調査された範囲が台地中央部を除く周縁部になっていることは、調査の成果そのままに評価して、少なくとも居住等の領域として利用されたのが本調査の対象となった台地周辺部とみるか、中央部については後世の耕作等で本来存在したものがその姿を失したものと考えるかで大きく評価が分かれることとなる。縄文時代については、その中心である前期・中期においては、現在より温暖湿潤であったとして考えるなら、開地性との問題とも絡み、居住等の領域としては台地縁辺部に取り付いた結果と判断するなら積極的な評価の対象となろう。基本的には、確認調査の手法からして複数以上の住居跡の存在を見落としていることは考えられず、少なくとも住居跡サイズ以上のものについては基本的に確認調査おいて捕捉しているものと考える。遺構として捕捉されず、分布領域として捕捉された土器及び石器については必ずしも調査結果そのものが実状を反映しているとは言えないであろう。古墳時代以降についても、住居跡の分布からして、まず調査の成果が実態を反映しているとみて良いであろう。以上の前提にたって、向原遺跡の調査成果を時代別に概括してみたい。

**先土器時代**

先土器時代の調査は12地点において実施されたが、単独的なものを除き主なものは、

第1地点・No.1ブロック　V層下部　296点　尖頭器2点・削器5点・石核1点他
第3地点・No.2ブロック　IV～V層　193点　ナイフ形石器9点・削器2点・石核1点他
第4地点・No.3ブロック　IV～V層　21点　削器1点・石核1点他
No.4ブロック　IV～V層　24点　ナイフ形石器2点・角錐状石器1点・石核1点他
No.5ブロック　IV～V層　83点　ナイフ形石器7点・尖頭器1点他
第6地点・No.6ブロック　VI層　55点　彫刻刀形石器1点・ピエス・エスキューユ8点
No.7ブロック　VI層　26点　使用痕のある剝片剝1点他
No.8ブロック　VI層　21点　使用痕のある剝片剝1点・石核1点他
No.9ブロック　VII層　11点　使用痕のある剝片剝1点他
No.10ブロック　VII層　8点　削器1点他
No.11ブロック　VI層　7点　2次加工のある剝片2点他
No.12ブロック　VI層　15点　2次加工のある剝片1点他
No.13ブロック　VI層　25点　ピエス・エスキーユ2点他
No.14ブロック　VI層　22点　削器1点・敲石1点他
No.15ブロック　VI層　40点　ピエス・エスキューユ1点他
No.16ブロック　VI層　5点　2次加工のある剝片1点他
No.17ブロック　VI層　29点　ナイフ形石器2点・ピエス・エスキューユ2点
No.18ブロック　VI層　4点　2次加工のある剝片1点他
第7地点・No.19ブロック　IV～V層　5点　ナイフ形石器1点他
第8地点・No.20ブロック　III層　8点　石核1点他
第9地点・No.21ブロック　VI層　29点　掻器1点・削器3点・ピエス・エスキューユ1点
第11地点・No.22ブロック　IV～V層　276点　ナイフ形石器1点・角錐状石器1点・敲石1点他
第12地点・No.23ブロック　IV～V層　8点　剝片3点他である。各ブロックの垂直分布はかなり上下差が大きいものが多く、層準の最終的な決定には躊躇される部分がある。第4地点のNo.3～No.5および第6地点のNo.6～No.18のブロックは、おのおのが有機的な関係を持った一連のブロックであろうと思われるので、第1地点・第3地点・第4地点・第6地点・第10地点・第11地点が主な成果と言えるであろう。全体としてはNo.20ブロックのIII層出土のものが最も新しく、No.1～5・19・22ブロックのものがほとんどV層の遺物として把握されよう。石器として主体を占めるのは、第6地点のNo.6～No.18のブロック群のもので、層準としてはVI層の遺物として把握されるが、石器群の内容としてはやや問題がある。

**縄文時代**

縄文時代の遺構としては、住居跡７軒が調査され、１号・３号・４号・６号が前期諸磯期の住居であり、２号・５号・７号が中期加曽利Ｅ期のものである。いずれもが有機的な関係を持つ集落を構成していたとは考えにくく、きわめて散発的な居住と考えられる。他に縄文早期のものと考えられる陥し穴が23基、縄文時代中期加曽利Ｅ期の小竪穴が３基、中期の石棒の出土を見た土壙が１基が遺構である。他に黒曜石の剝片・砕片を主体とした石器・剝片類の集中ヶ所が３ヶ所検出され、石鏃を中心とした石器製作跡と考えられる。時期的には、土器の分布及び石鏃の形態からして中期のものと考えられる。３ヶ所の石器類の集中範囲は、最も広い範囲に広がるＣ集中区で50×50mの範囲をもち、度重なる石器製作と廃材の遺棄による集積の結果であろうが、個々の単位を抽出するには至らなかった。３ヶ所の集中区から検出された石鏃は合計66点、石鏃の未製品は29点にのぼり石器類の少ない千葉県の縄文時代遺跡においては、多いと言えるであろう。そのありかたと併せて注目すべきものであろう。縄文時代の土器は早期撚糸文から後期加曽利Ｂ式土器まで断続的ながら検出されている。住居跡の検出されない時期のこうした土器分布の存在は、今回の向原遺跡の本調査が台地縁辺部に限定されているため明確な資料提供にはならないが、多時期にわたって重なるように土器群が検出されることと、台地縁辺部の開地性と台地利用の関連性は検討されるべき問題であろう。

**古墳時代・歴史時代**

古墳時代以降の遺構としては、４軒の住居跡・14基の古墳（円形周溝状遺構を含む）・７基の方形周溝状遺構・墓壙と思われる３基の土壙・１基の塚が調査された。

10号住居跡と11号住居跡は、台地縁辺のほぼ斜面にかかる部分に約８ｍの距離をおいて検出された古墳時代鬼高期の住居跡である。２軒のみで存在した孤立的なものである。

８号住居跡は、カマドが認められないことなど、通常の居住のための住居跡とは考えにくい。出土遺物は、住居埋没の最終段階で投棄されたものと考えられるので、厳密な時期を示すものとは言えまいが、周辺の遺構分布から考えて住居構築の時期とは大きく隔たらないものと思われる。ほぼ等間隔に並ぶ１号方形周溝状遺構から３号方形周溝状遺構との関連を想定して良いであろう。９号住居跡は、規模も小さくきわめて孤立した住居跡である。

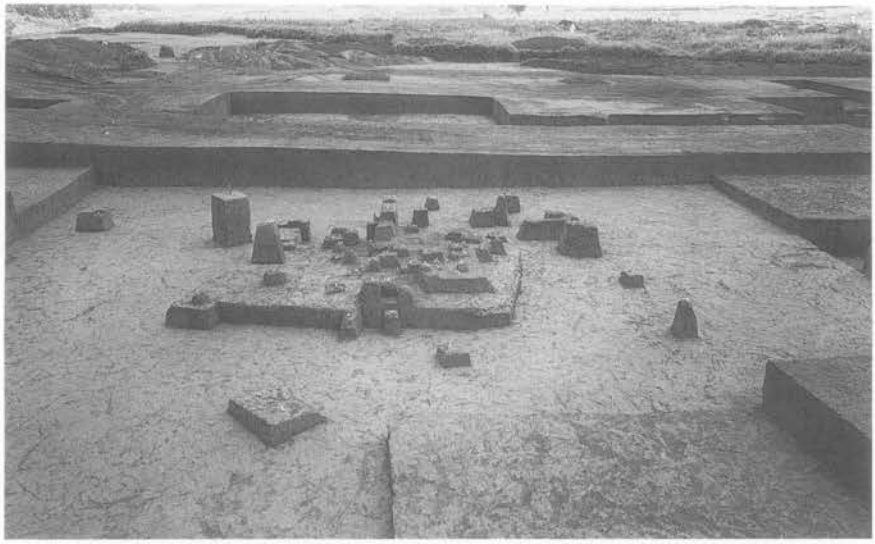
１号墳から14号墳として報告したもののうち、墳丘・周溝規模などから明確に古墳として扱えるものは、１号墳から５号墳までで６号墳から14号墳までは形態・規模では円形周溝状遺構と区別のつかないものである。むしろ、遺物の伴わないものの多くは円形周溝状遺構であろう。ただ、８号墳や９号墳のような遺物が周溝から出土するものもあり、周溝のみの形態・規模からその性格を断定することはできない。いずれにしろ、方形周溝状遺構と混在し、墓域を構成していることがその時期と性格を示すものであろう。

# 写 真 図 版

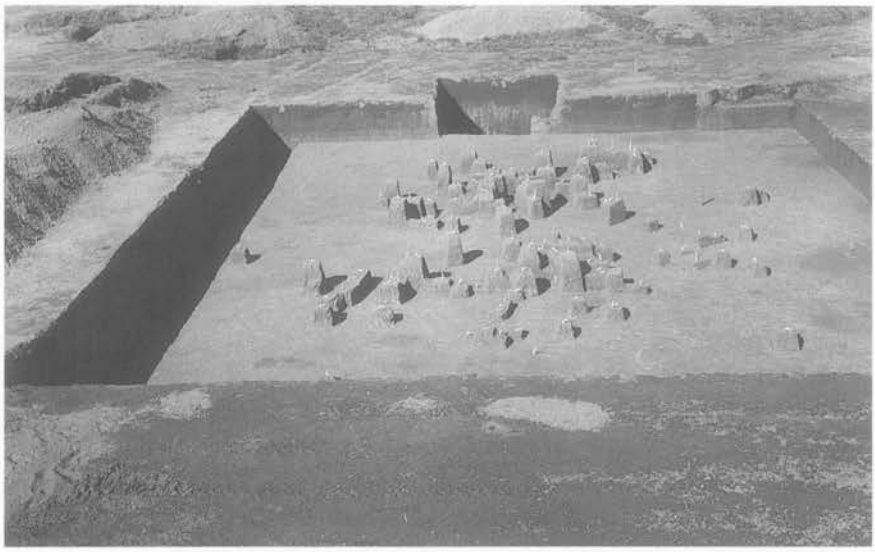
図版 1

遺跡遠景

図版 2



先土器第 1 地点



先土器第 3 地点

先土器第 6 地点

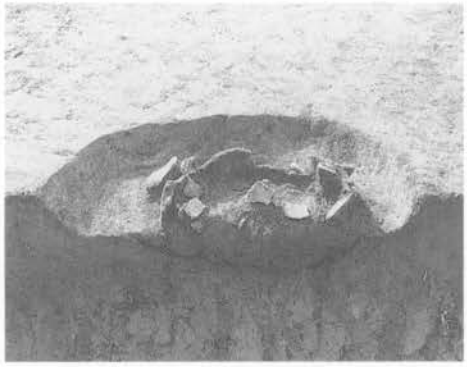
先土器第 9 地点

先土器第11地点

先土器第12地点

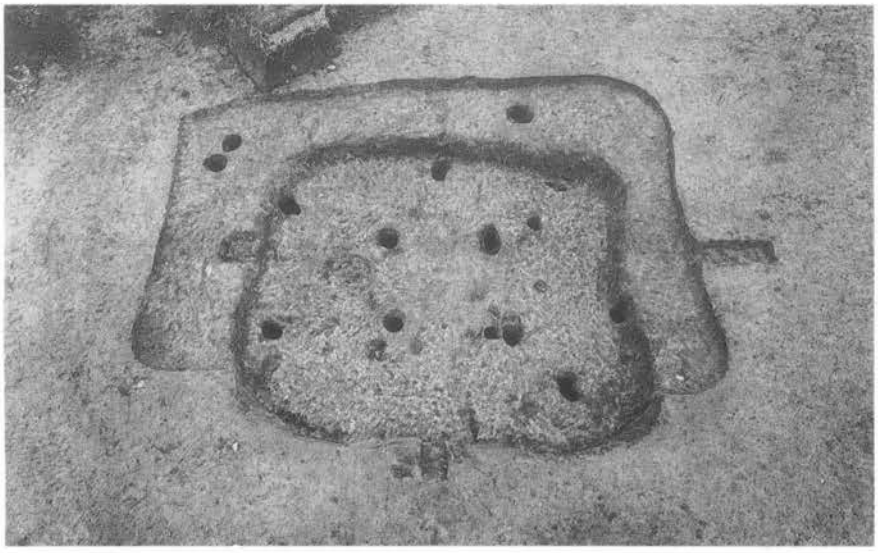
図版 4

1 号住居跡

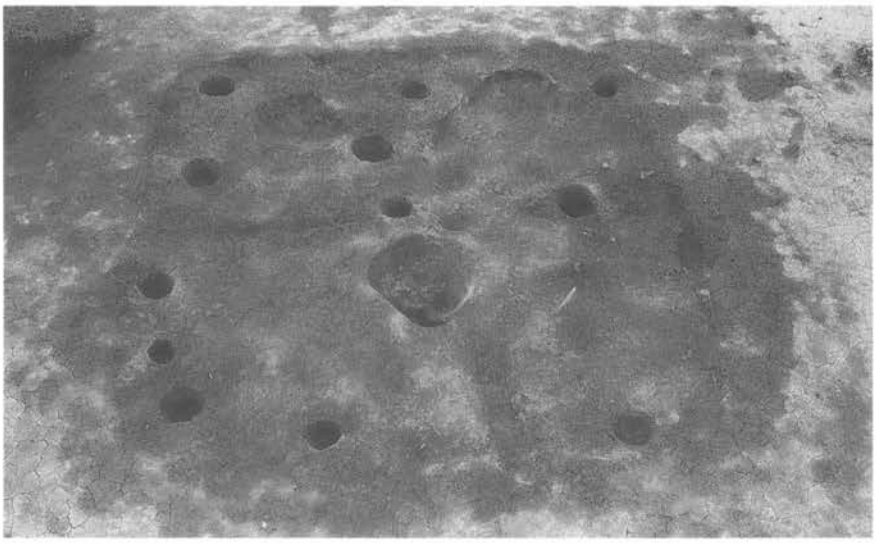


2 号住居跡

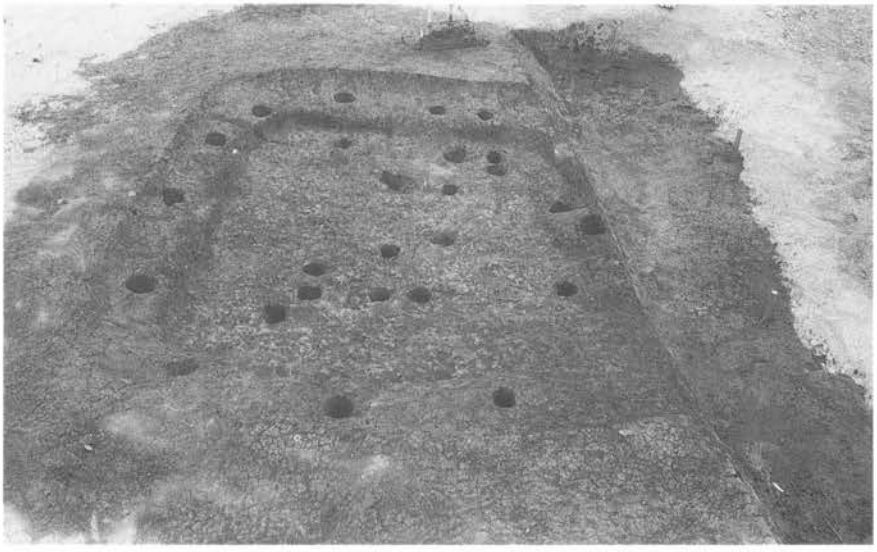
3 号住居跡



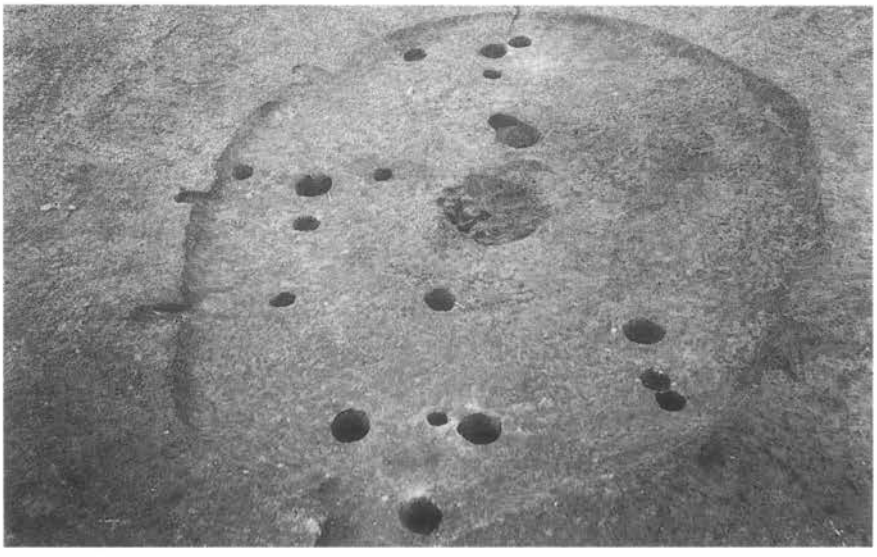
3 ・ 4 号住居跡



5 号住居跡



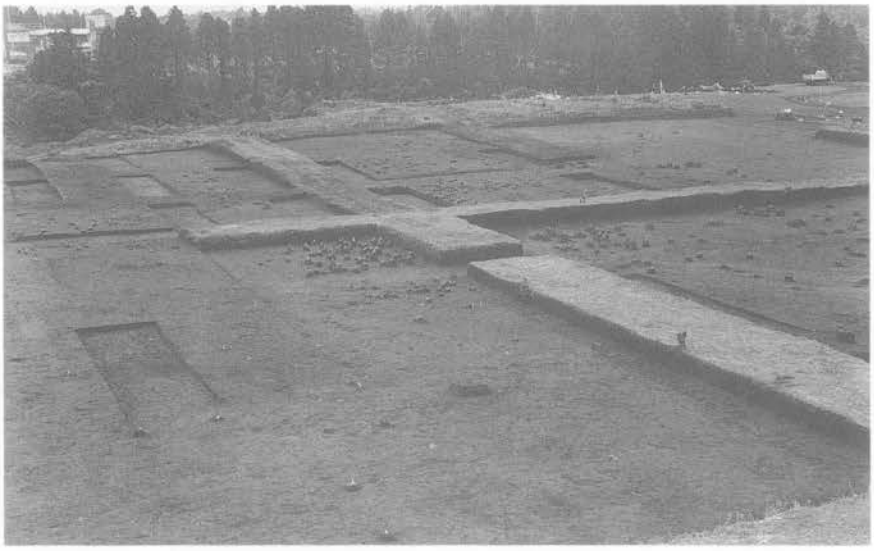
6 号住居跡



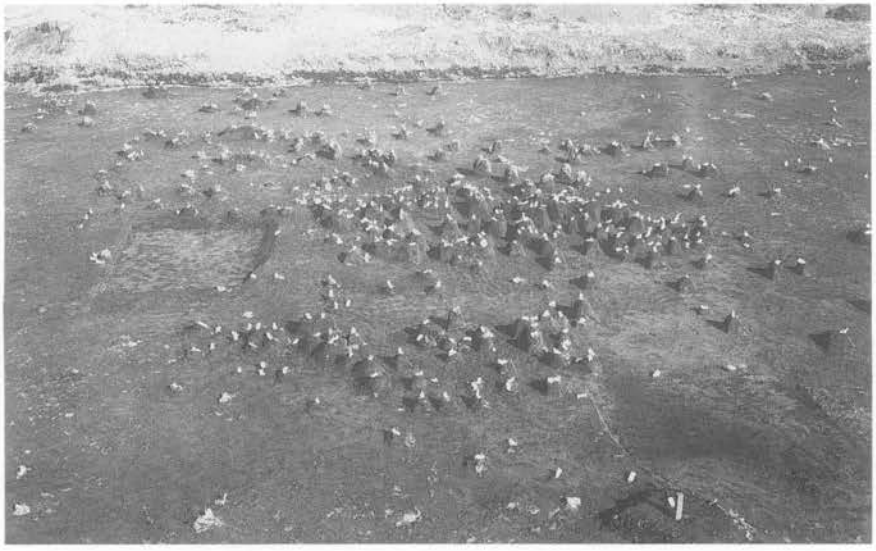
7 号住居跡

図版 6

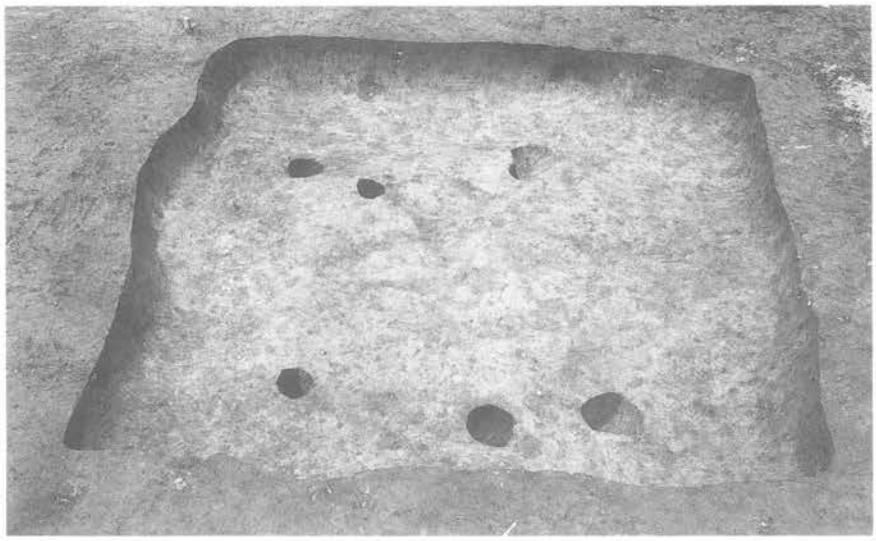
黒曜石集中区A



黒曜石集中区B



黒曜石集中区C



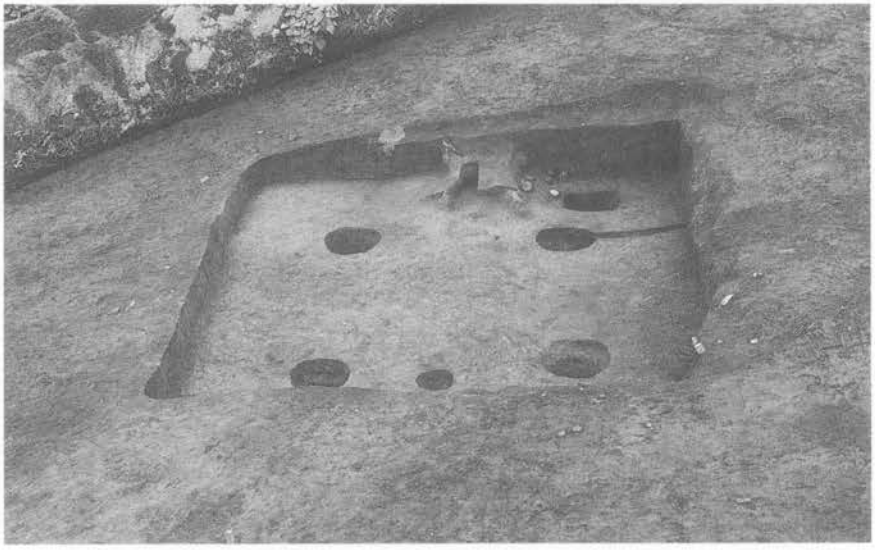
8 号住居跡

9 号住居跡

10号住居跡

図版 8

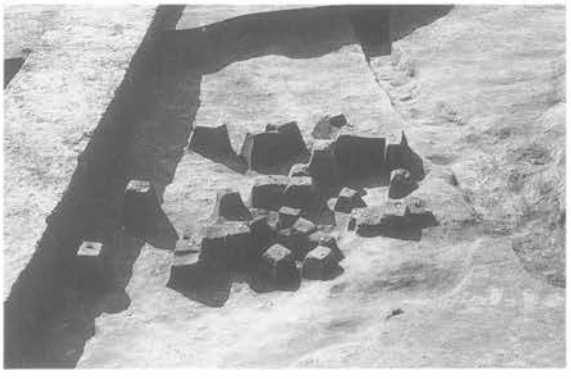
10号住居跡



11号住居跡

11号住居跡

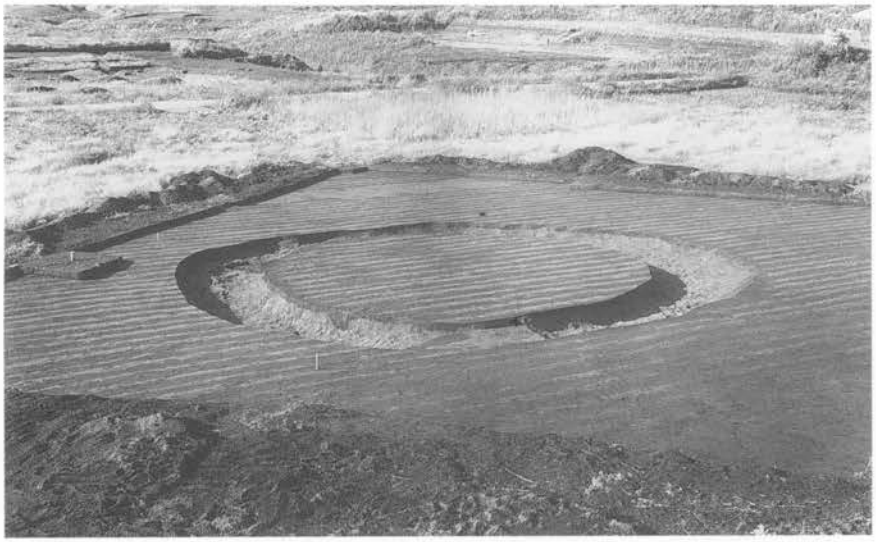
1 号墳



1 号墳

2 号墳

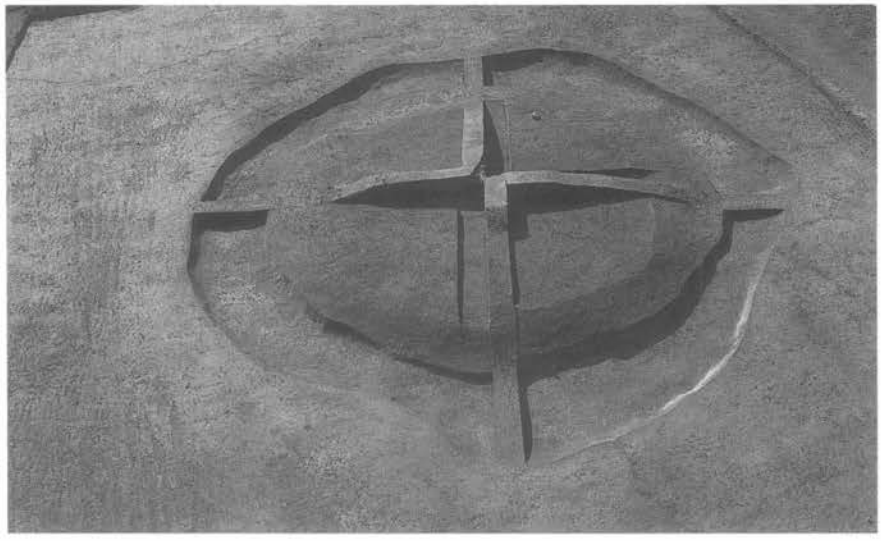
図版10



3号墳

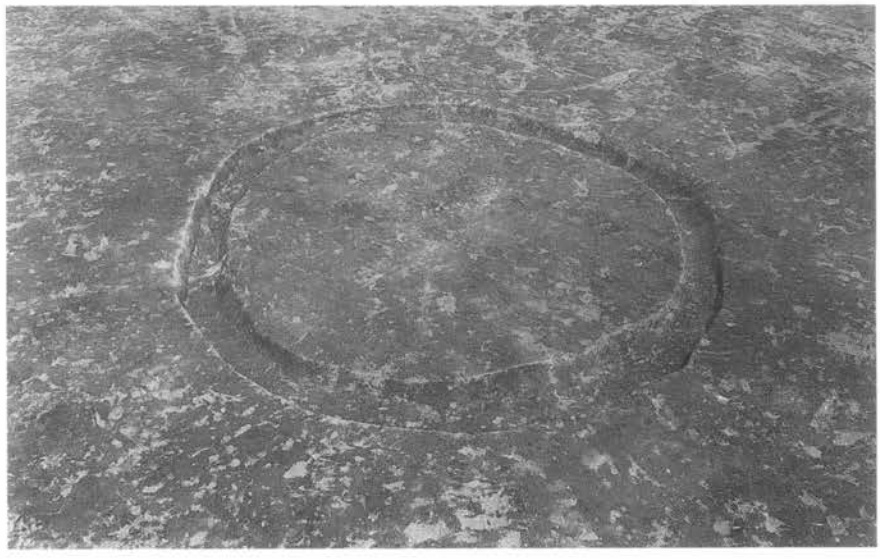
4号墳

4号墳



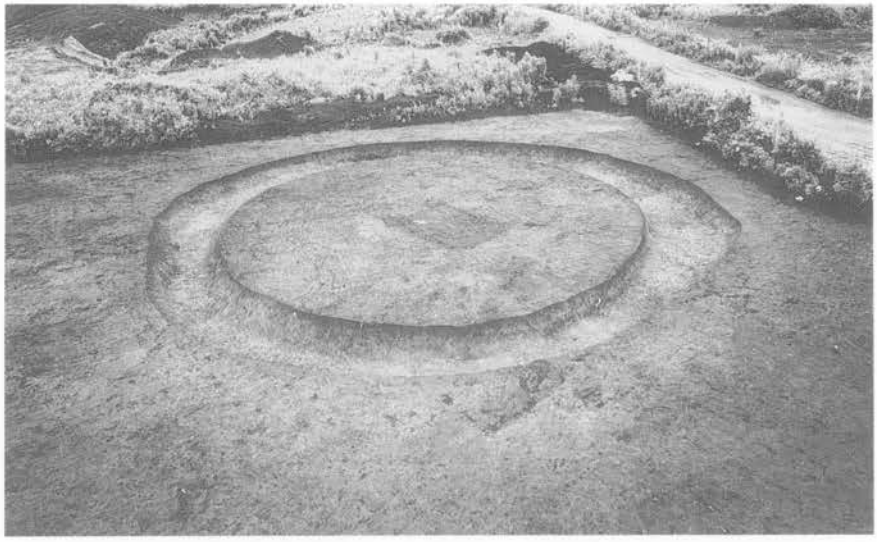
5号墳

5号墳

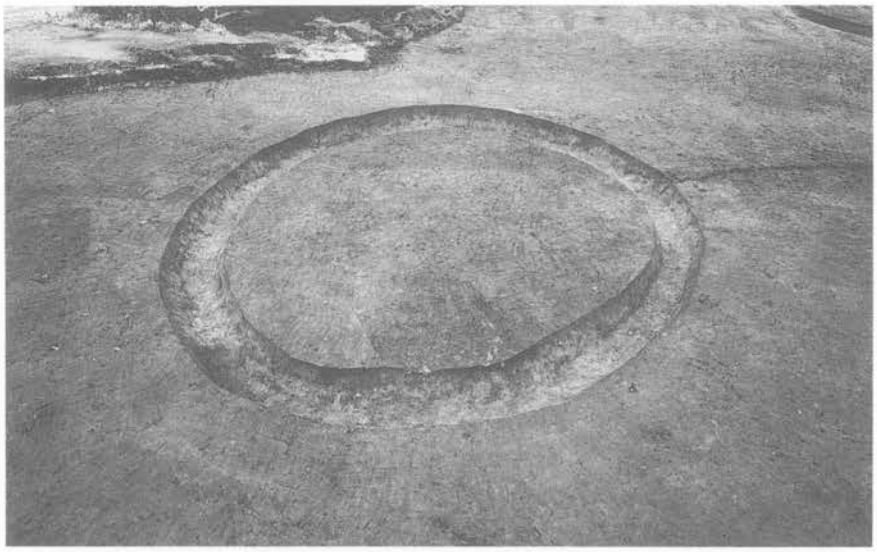


6号墳

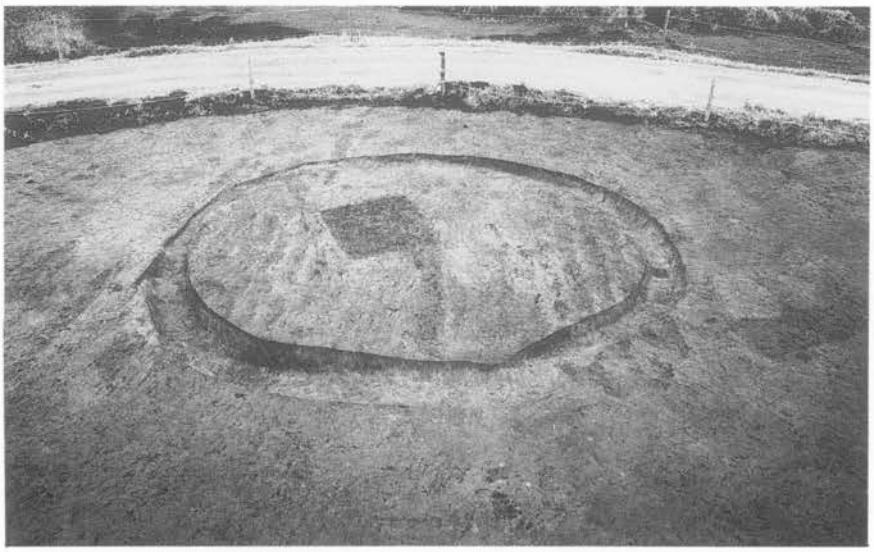
図版12



7号墳

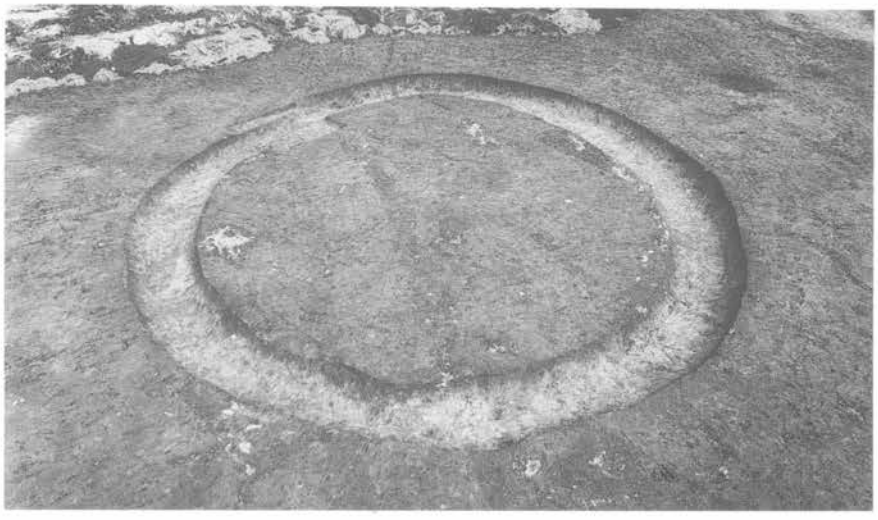


8号墳

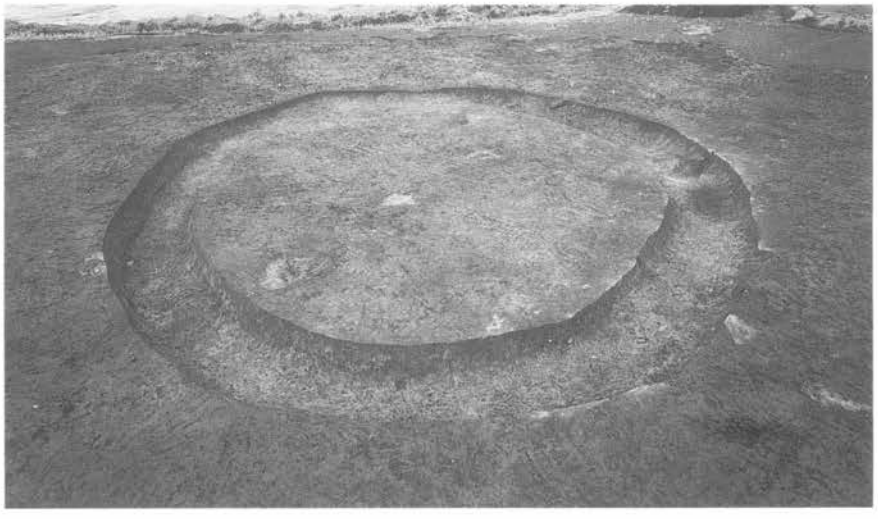


9号墳

10号墳

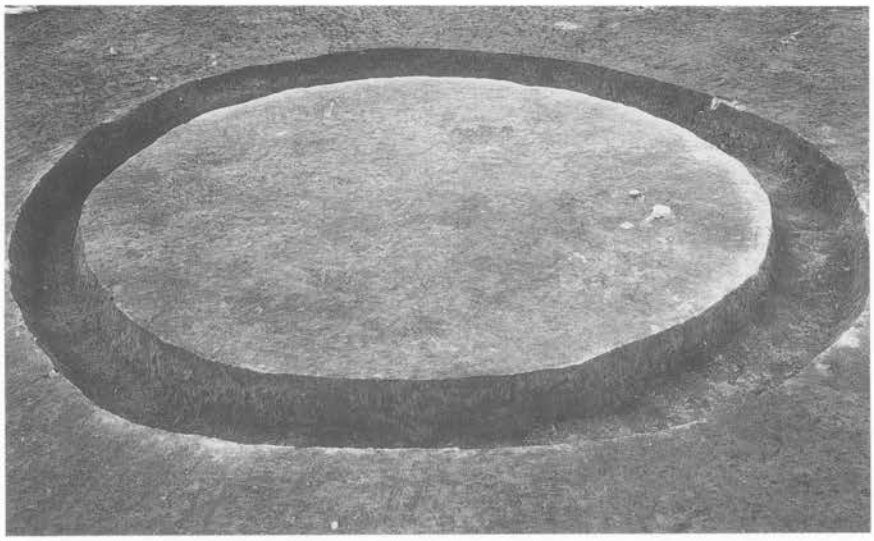


11号墳

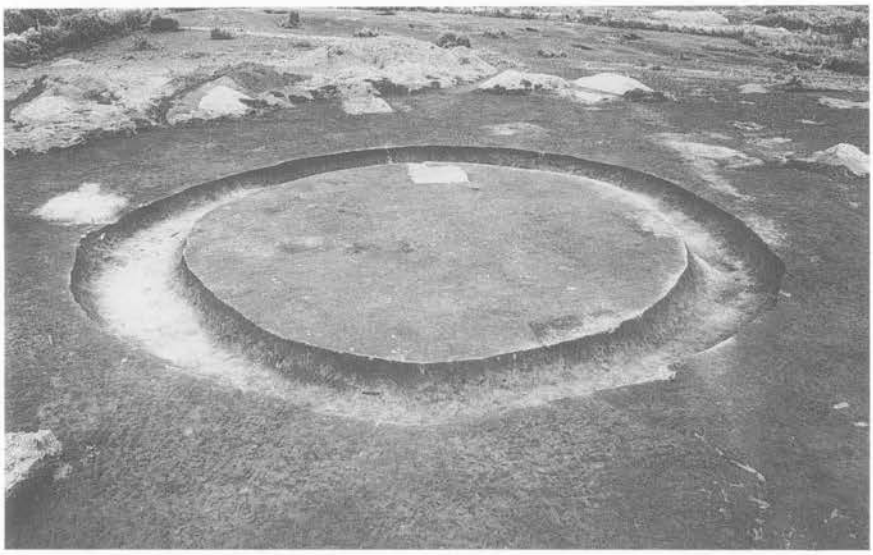


12号墳

図版14



13号墳

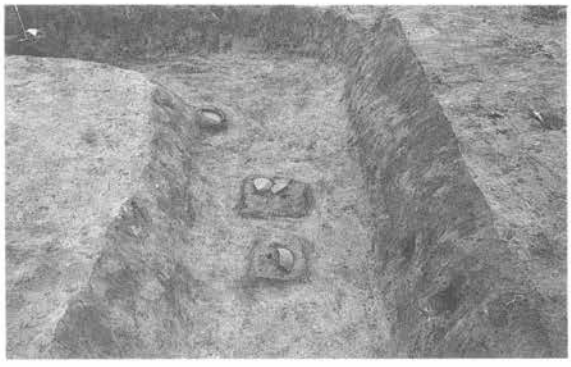


14号墳

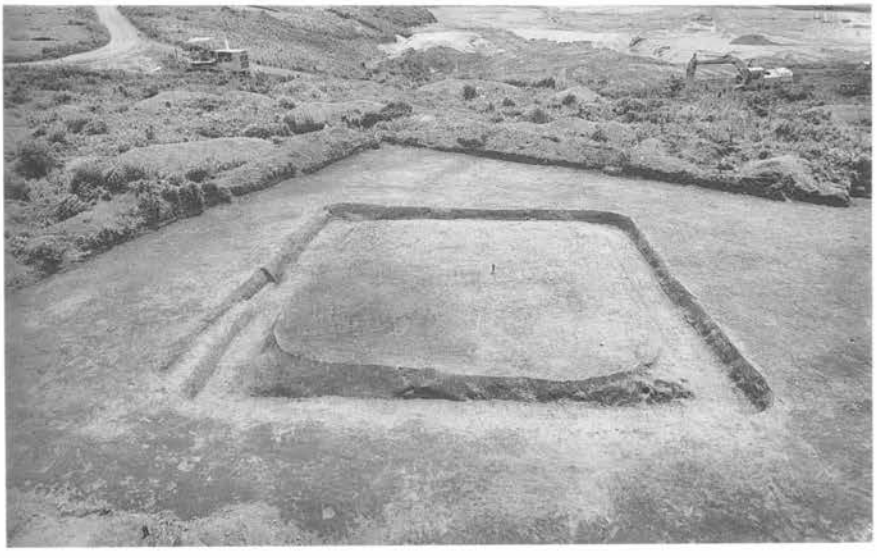
14号墳

14号墳

1号方形周溝状遺構

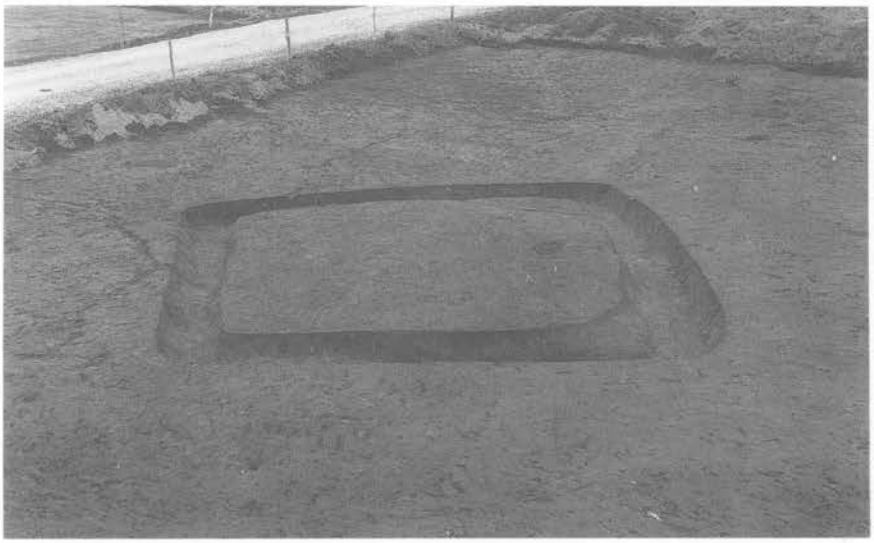


2号方形周溝状遺構

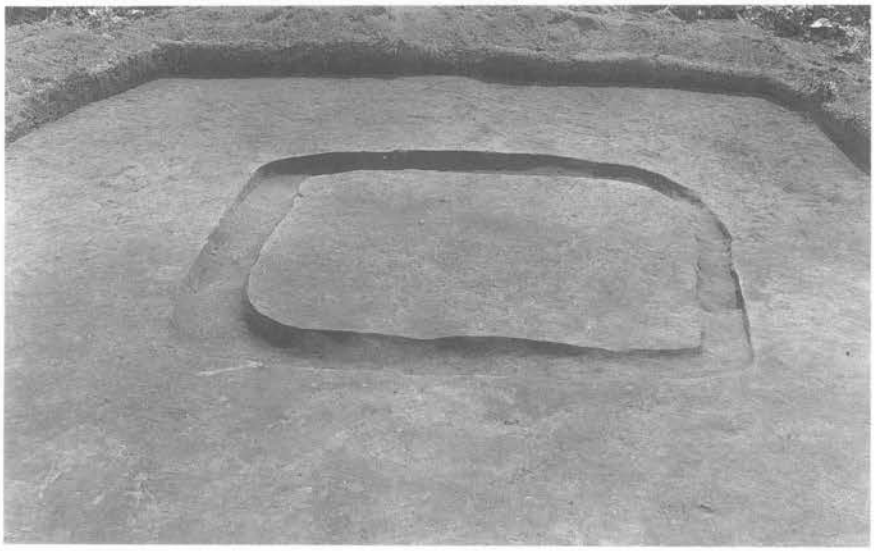


3号方形周溝状遺構

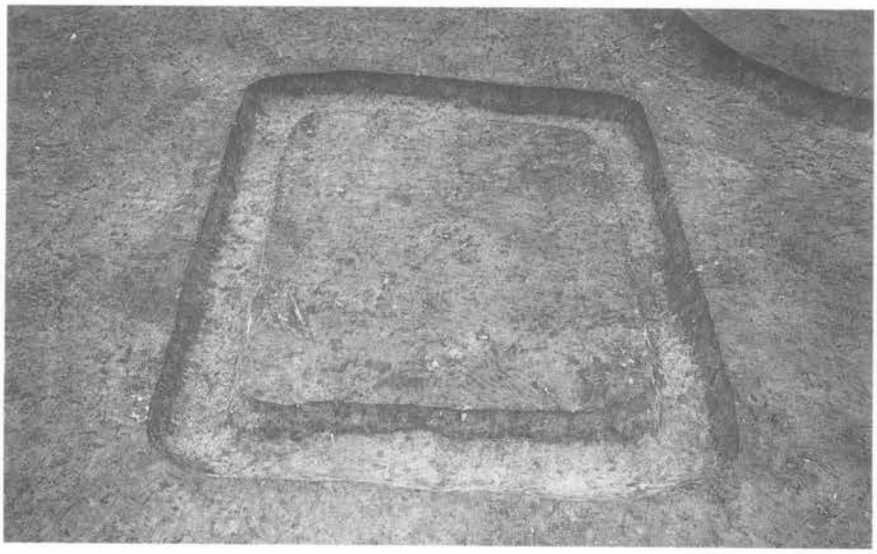
図版16



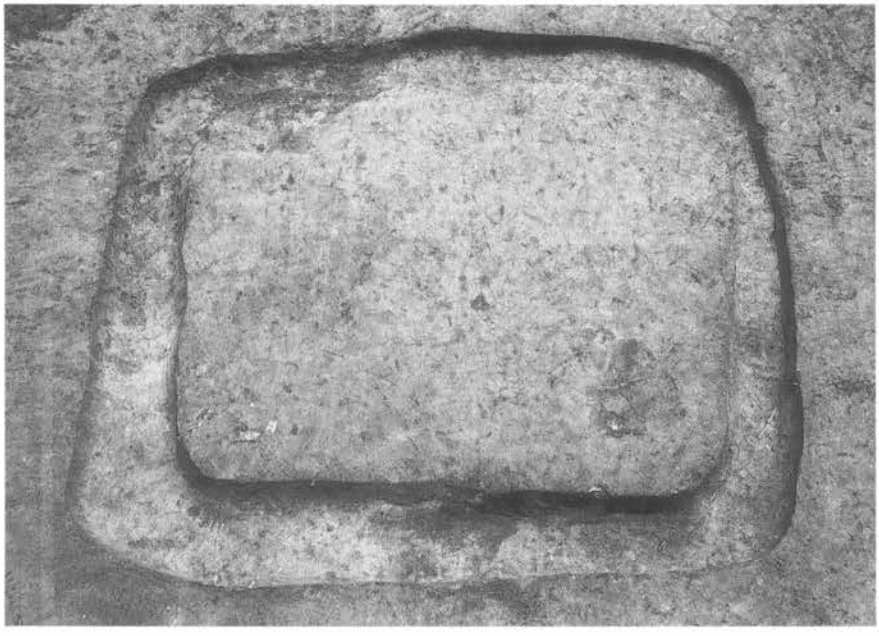
4号方形周溝状遺構



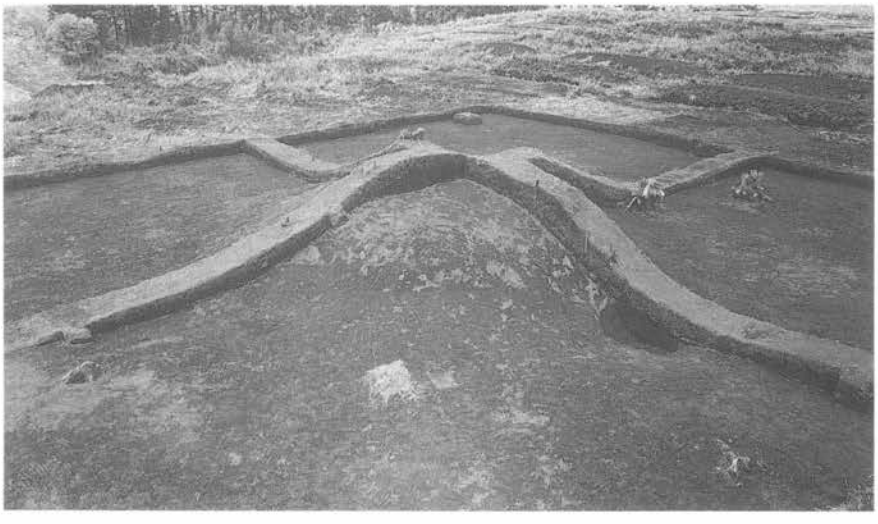
5号方形周溝状遺構



6号方形周溝状遺構



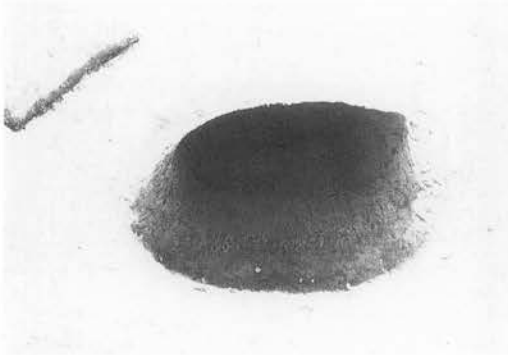
7号方形周溝状遺構



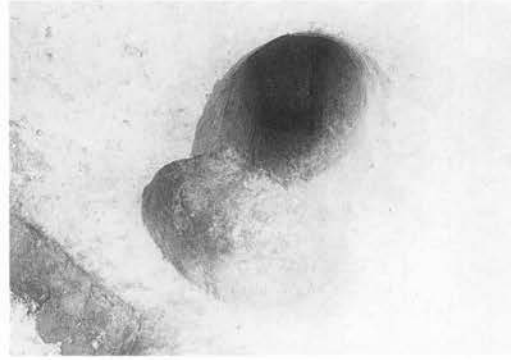
1号塚

1号塚

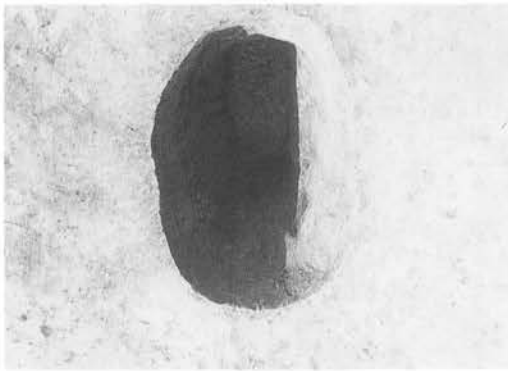
図版18



1号土坑



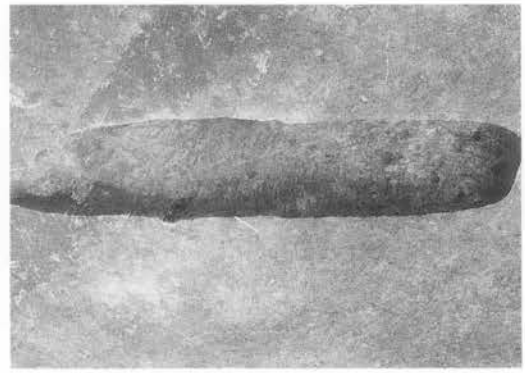
2号土坑



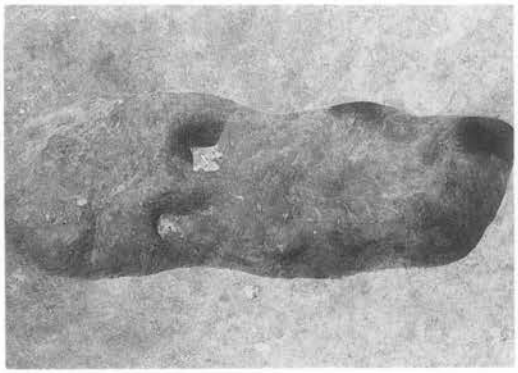
3号土坑

4号土坑

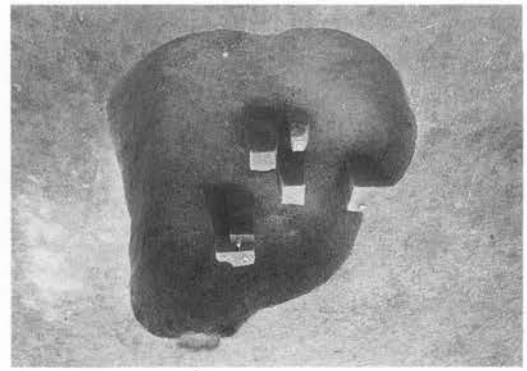
5号土坑



6号土坑

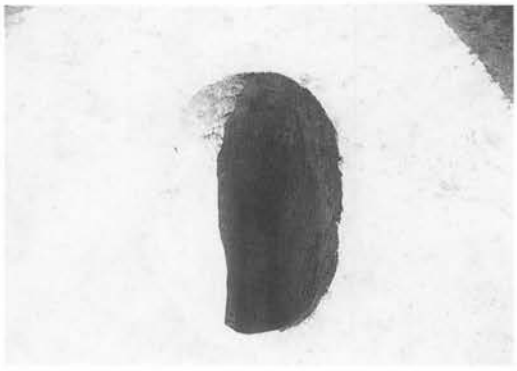


7号土坑



8号土坑

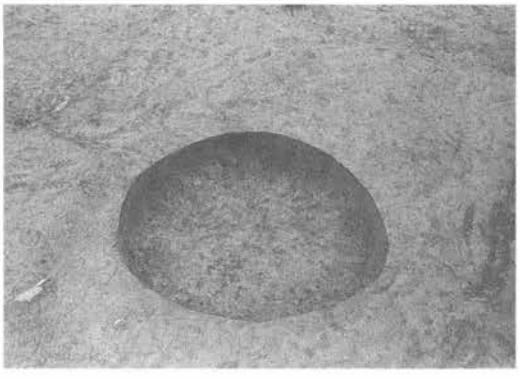
9 号土坑



10号土坑

11号土坑

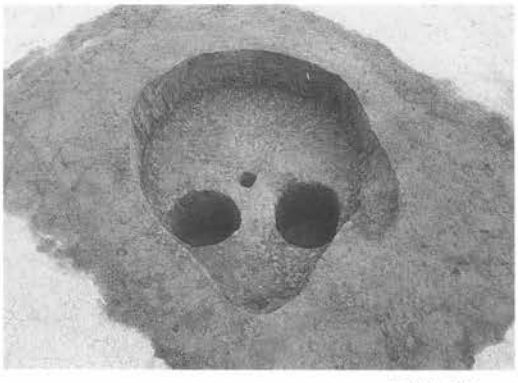
13号土坑



15号土坑

16号土坑

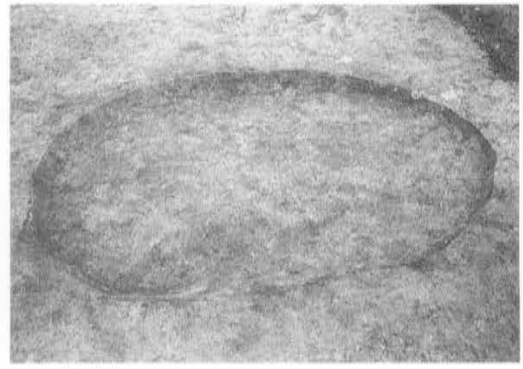
17号土坑



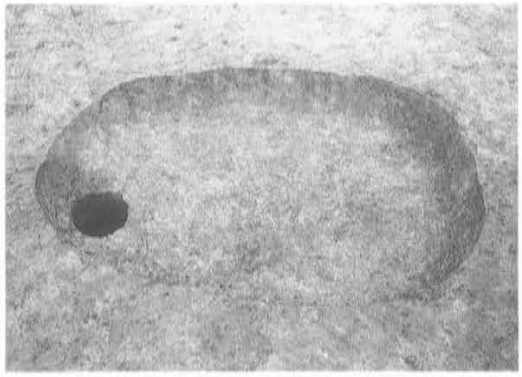
18号土坑

図版20

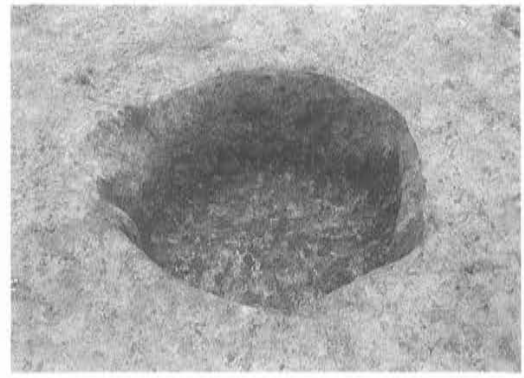
20号土坑



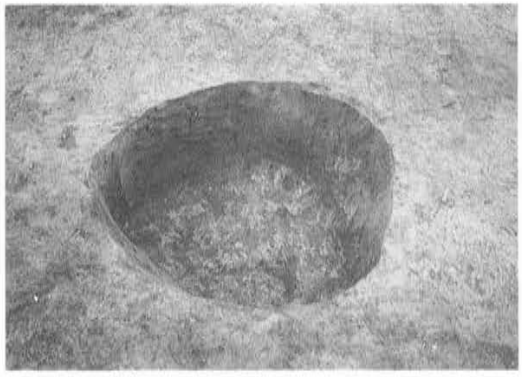
21号土坑



22号土坑



23号土坑

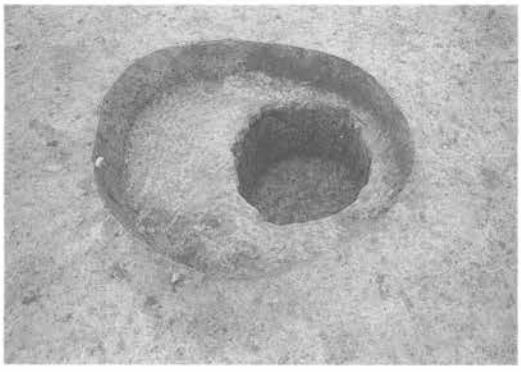


24号土坑

25号土坑

26号土坑

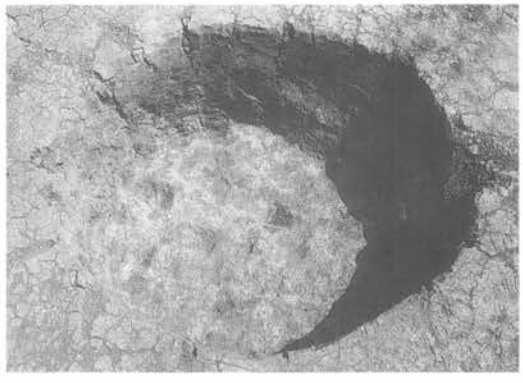
27号土坑



28号土坑

29号土坑

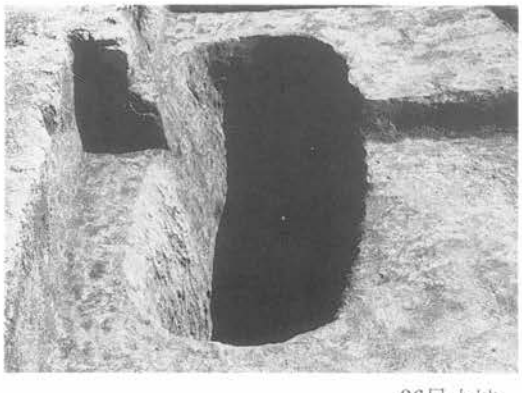
31号土坑



32号土坑

33号土坑

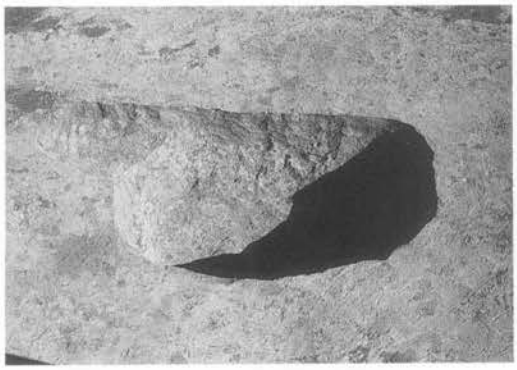
34号土坑



36号土坑

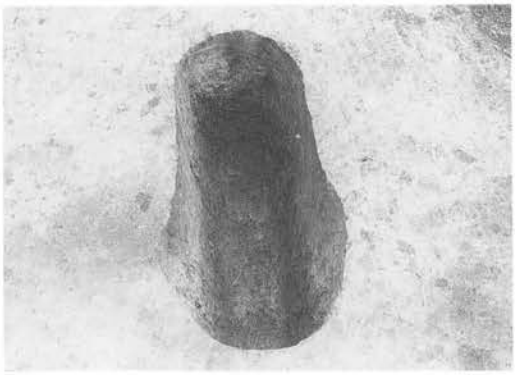
37号土坑

図版22

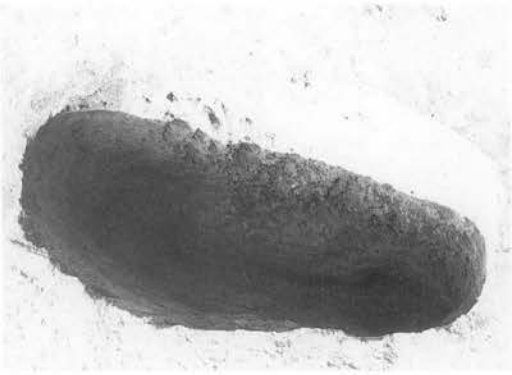


43号土坑

44号土坑



45号土坑



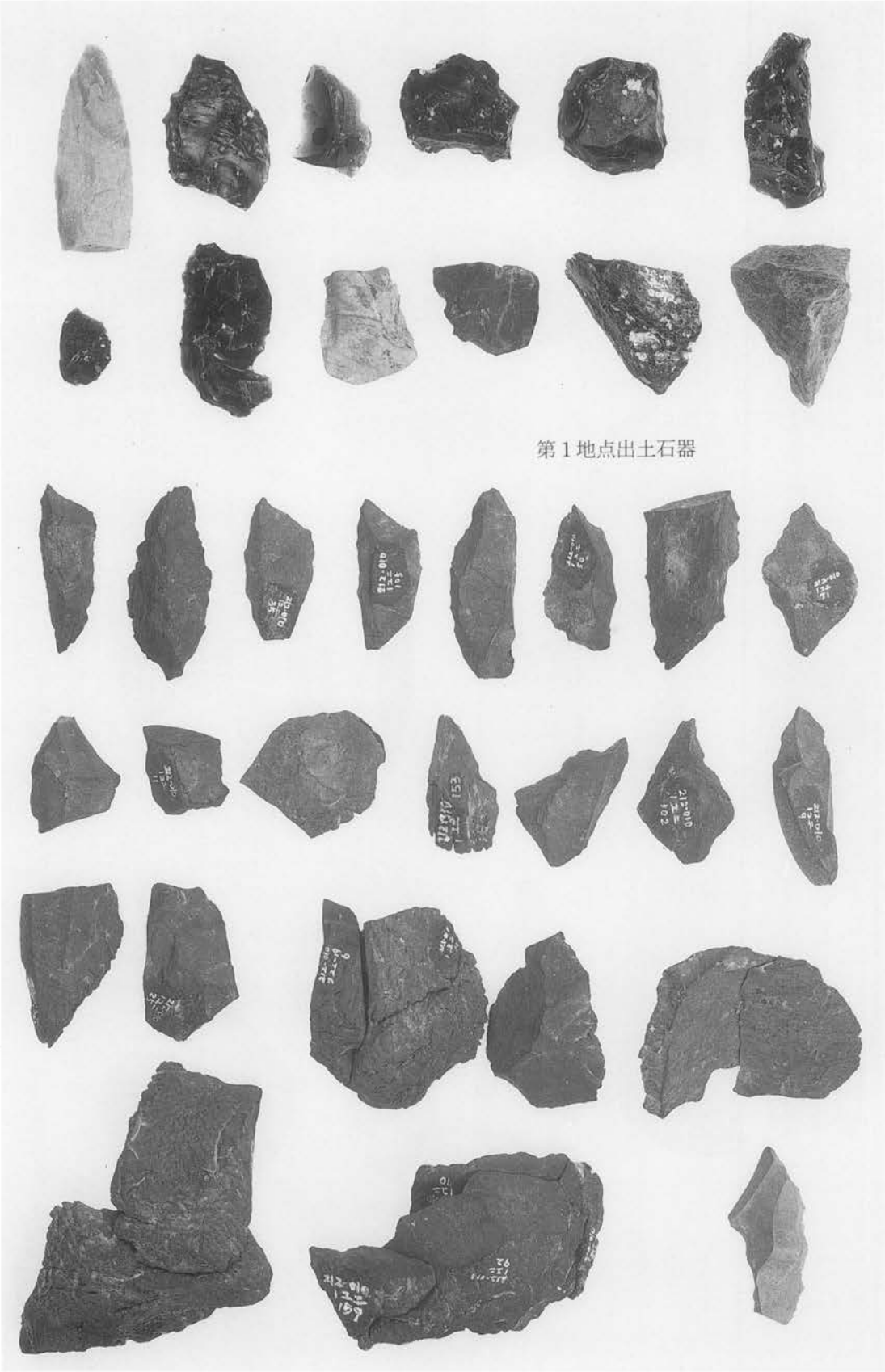
46号土坑

50号土坑

51号土坑

52号土坑

53号土坑



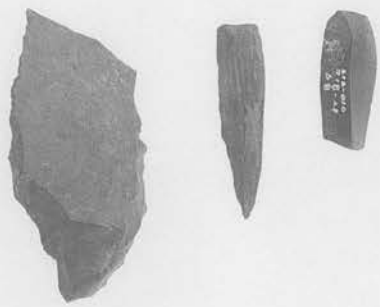
第１地点出土石器

第３地点№２ブロック出土石器

第２地点出土石器

No.5 ブロック出土石器

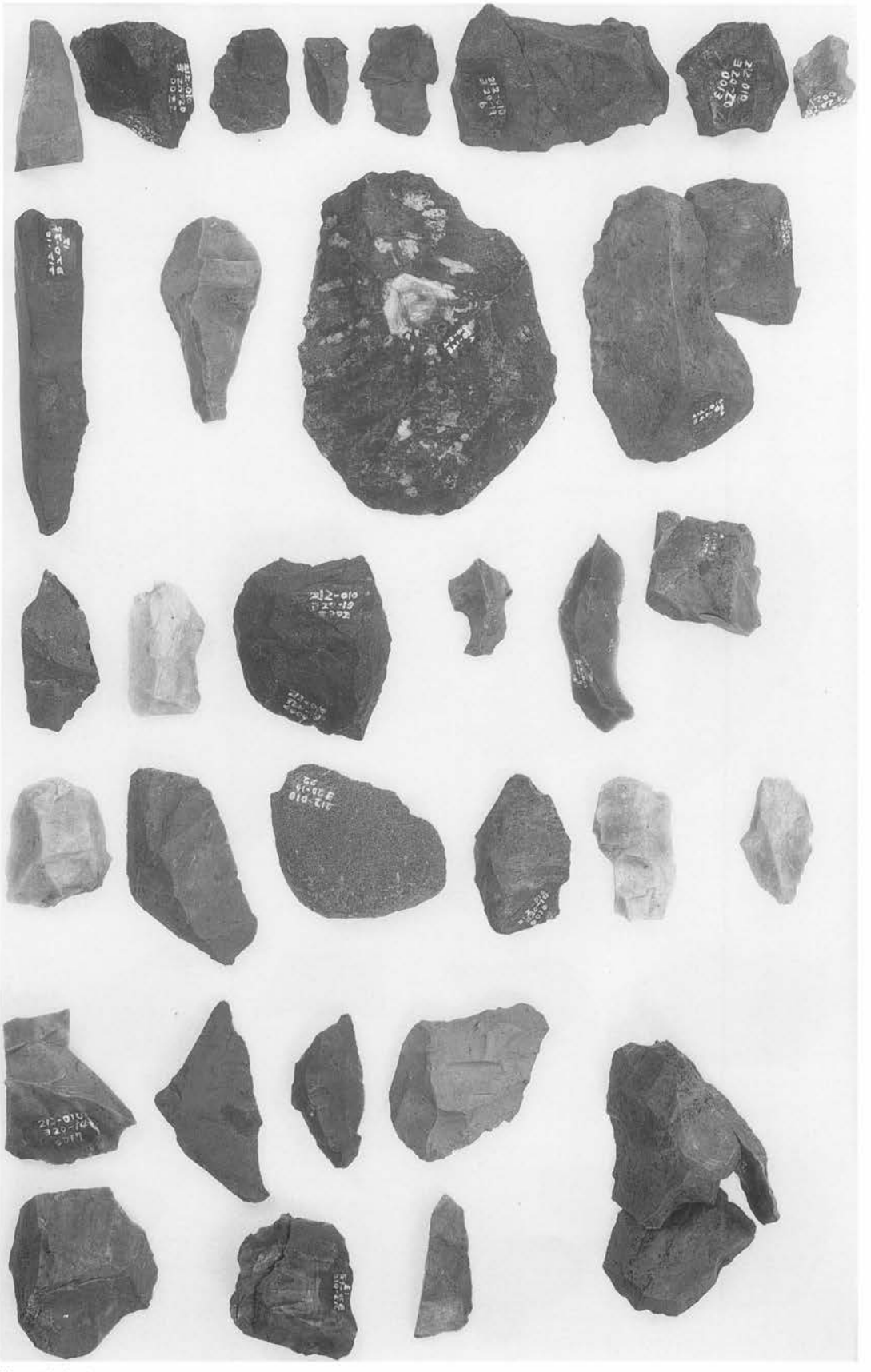
No.3 ブロック出土石器



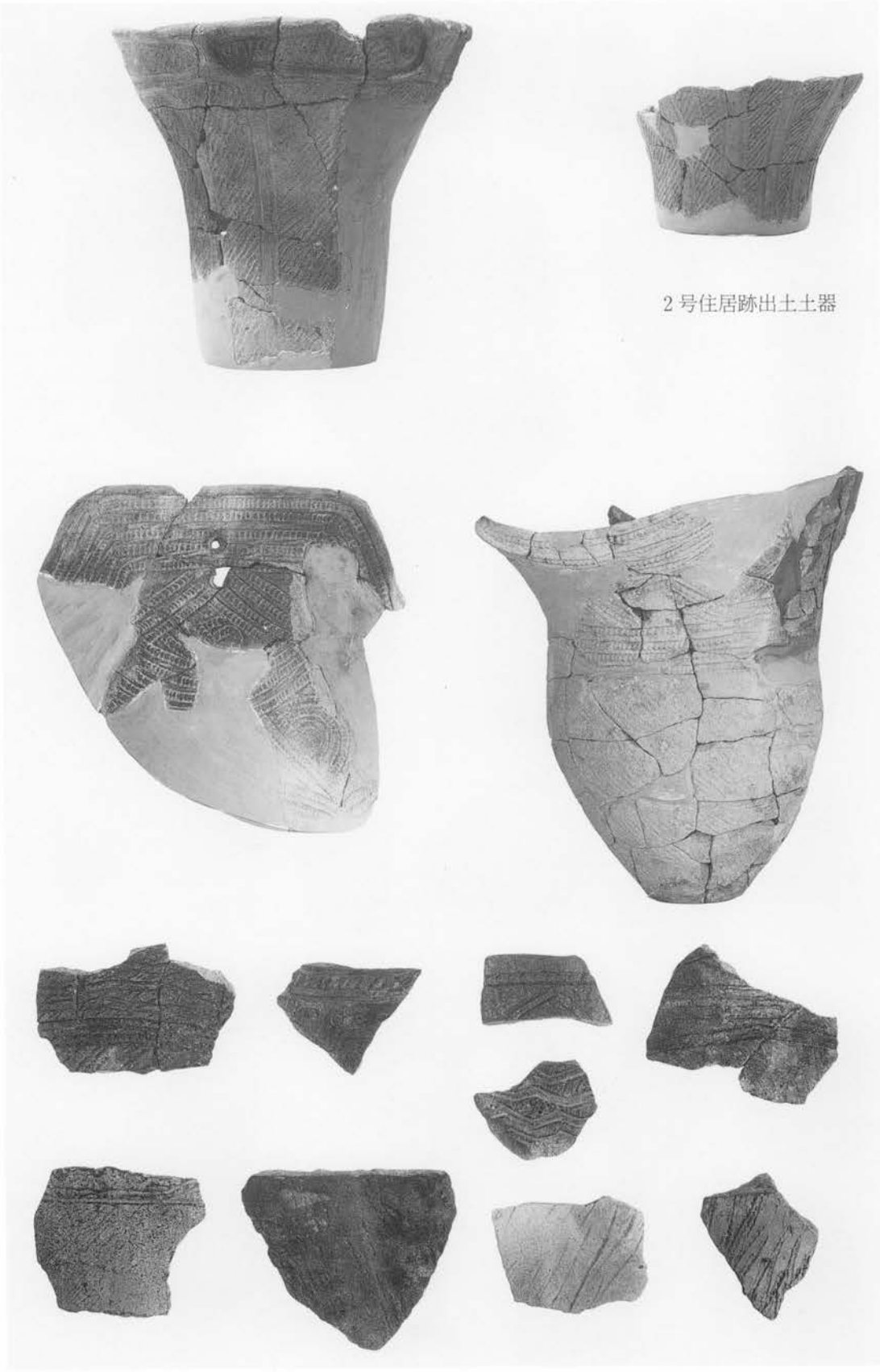
No.19ブロック出土石器

No.20ブロック出土石器

No.21ブロック出土石器

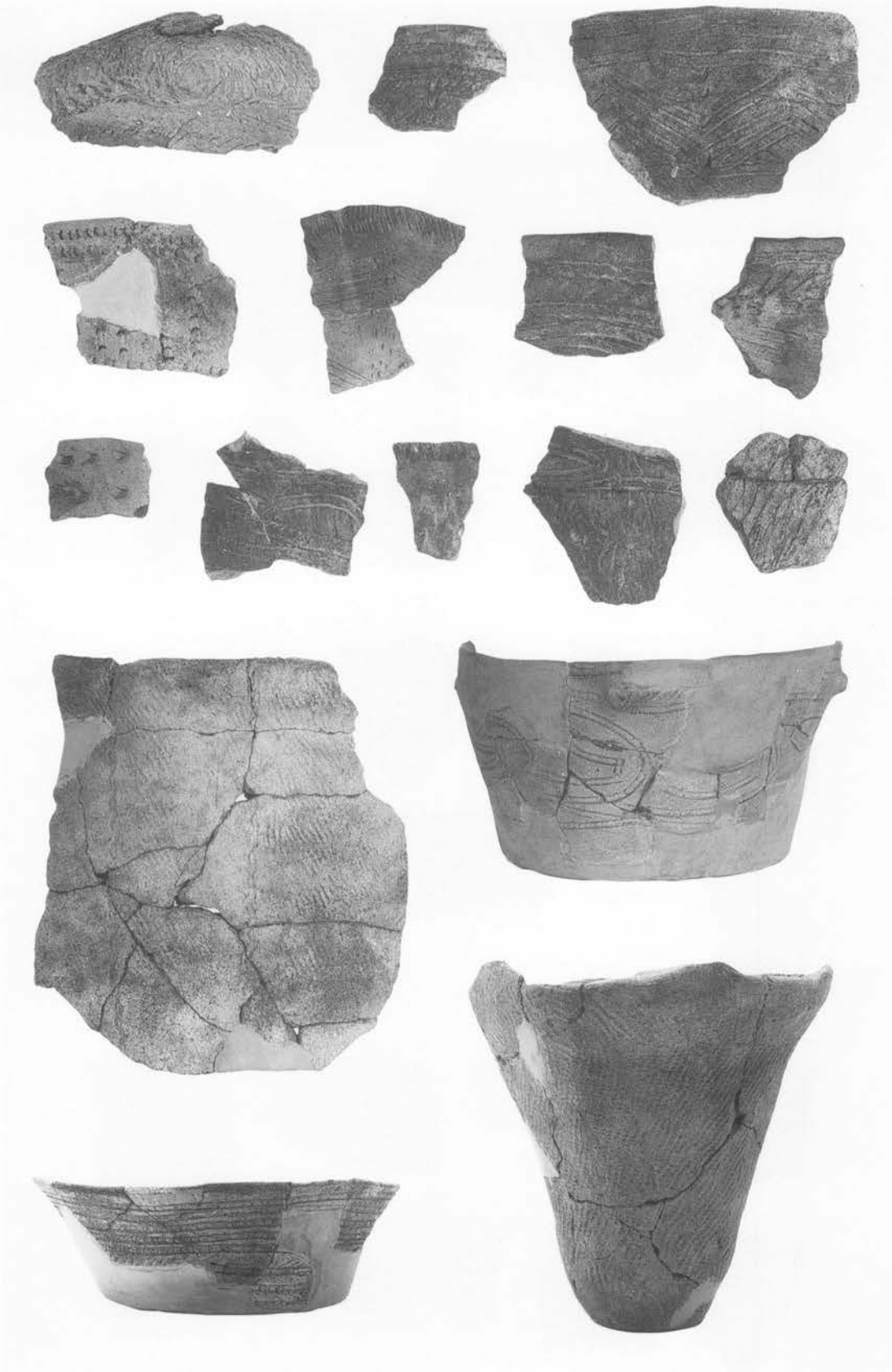


第6地点出土石器



2号住居跡出土土器

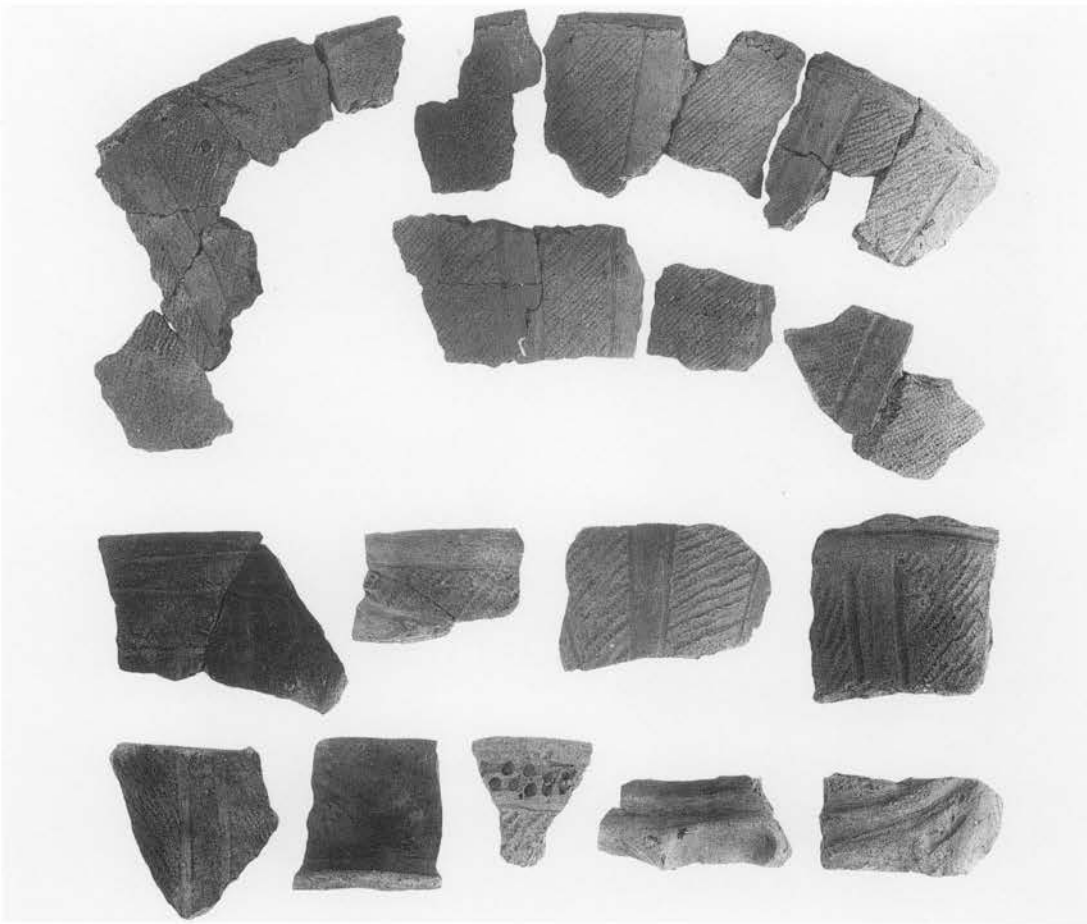
3号住居跡出土土器



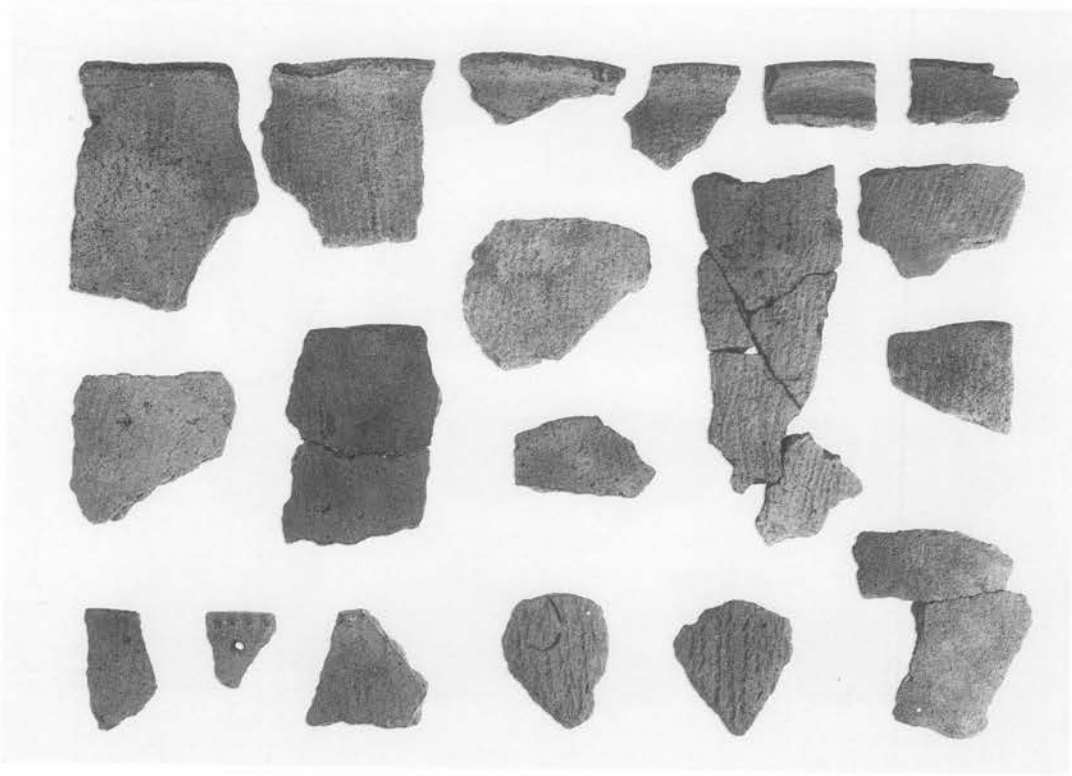
4号住居跡出土土器

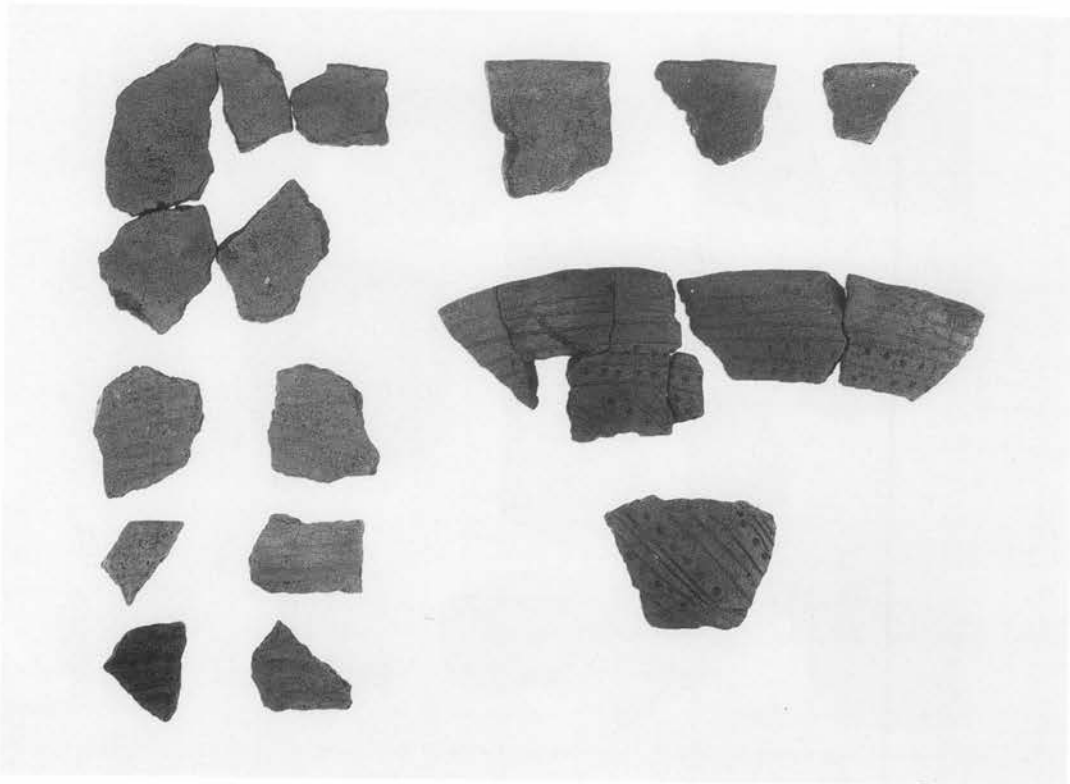
5号住居跡出土土器

6 号住居跡出土土器

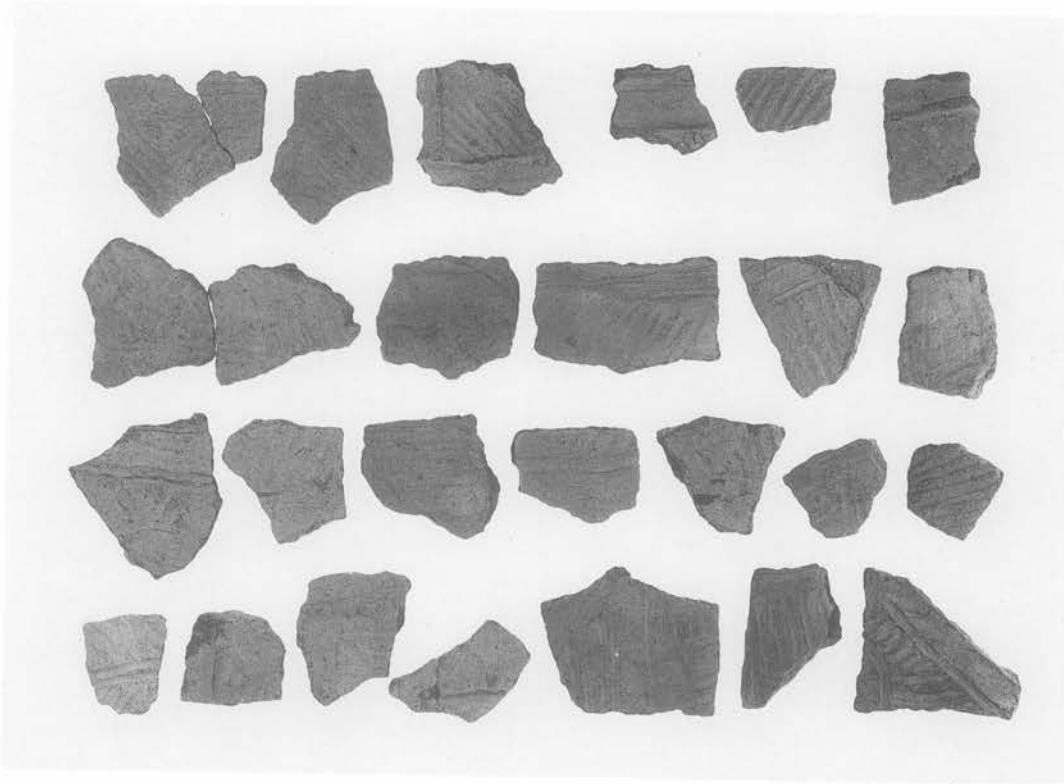


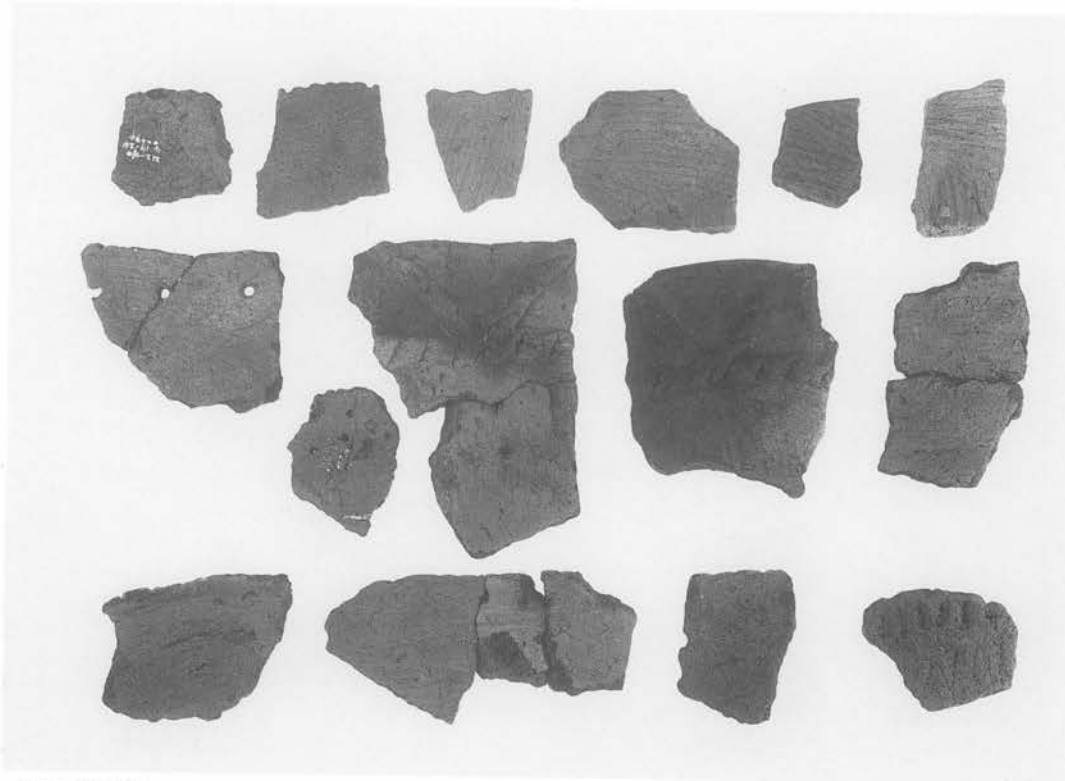
18号土坑出土土器



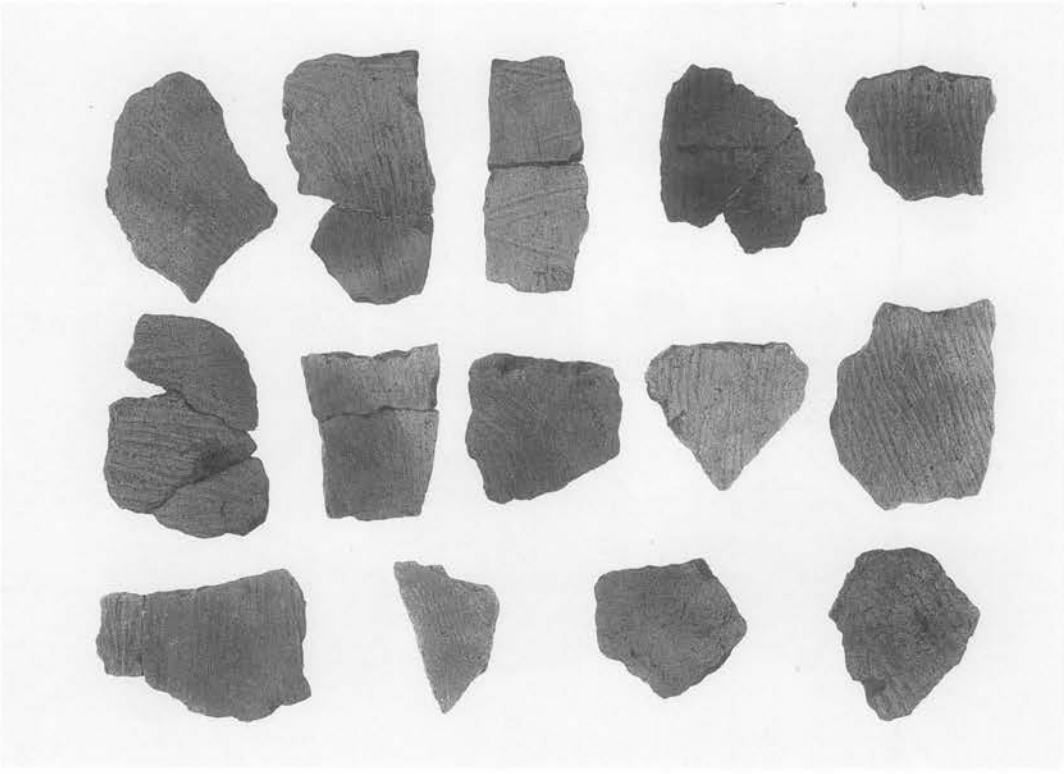


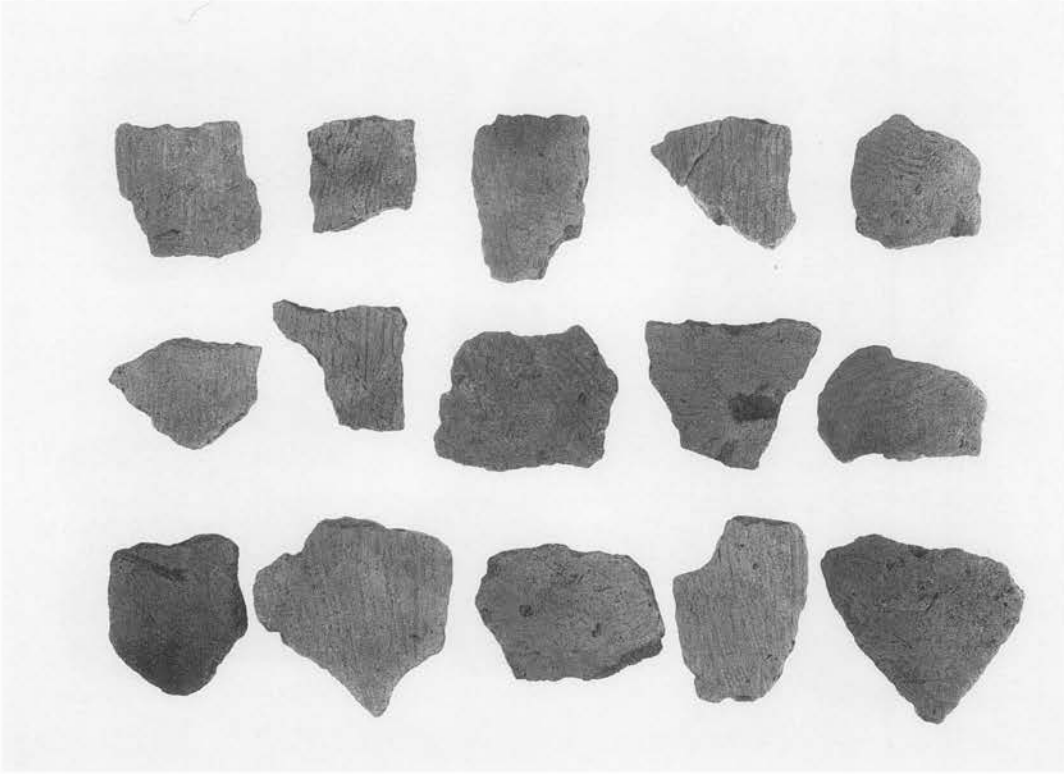
第Ⅰ群土器1



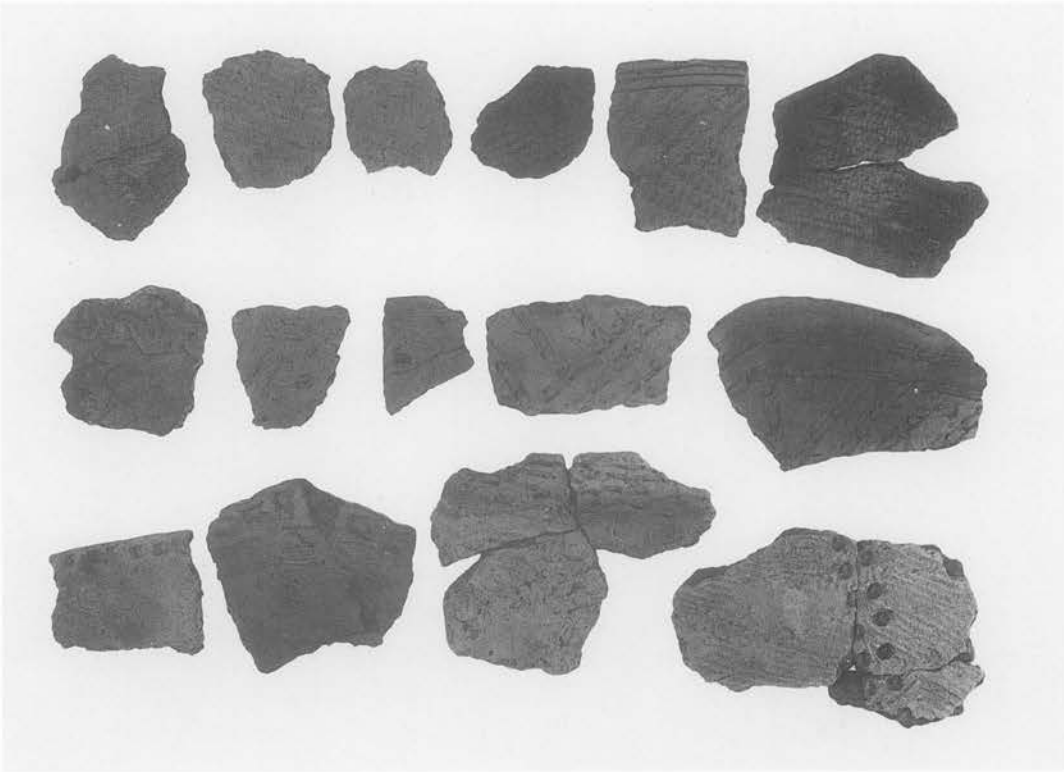


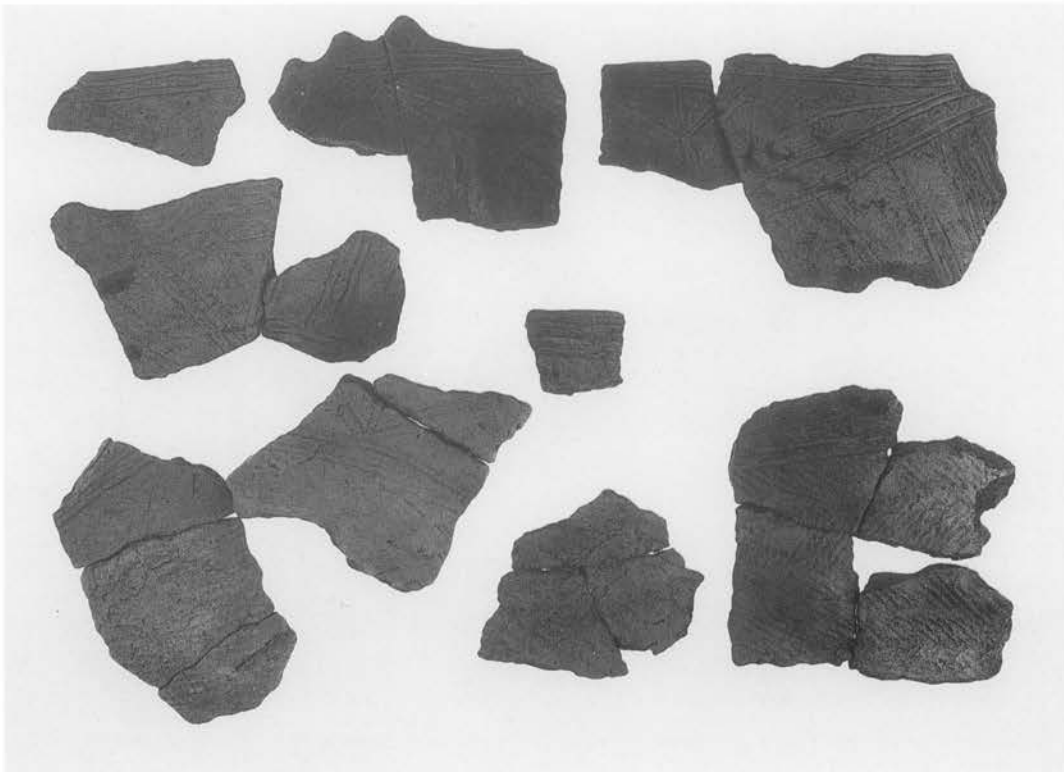
第Ⅰ群土器 2



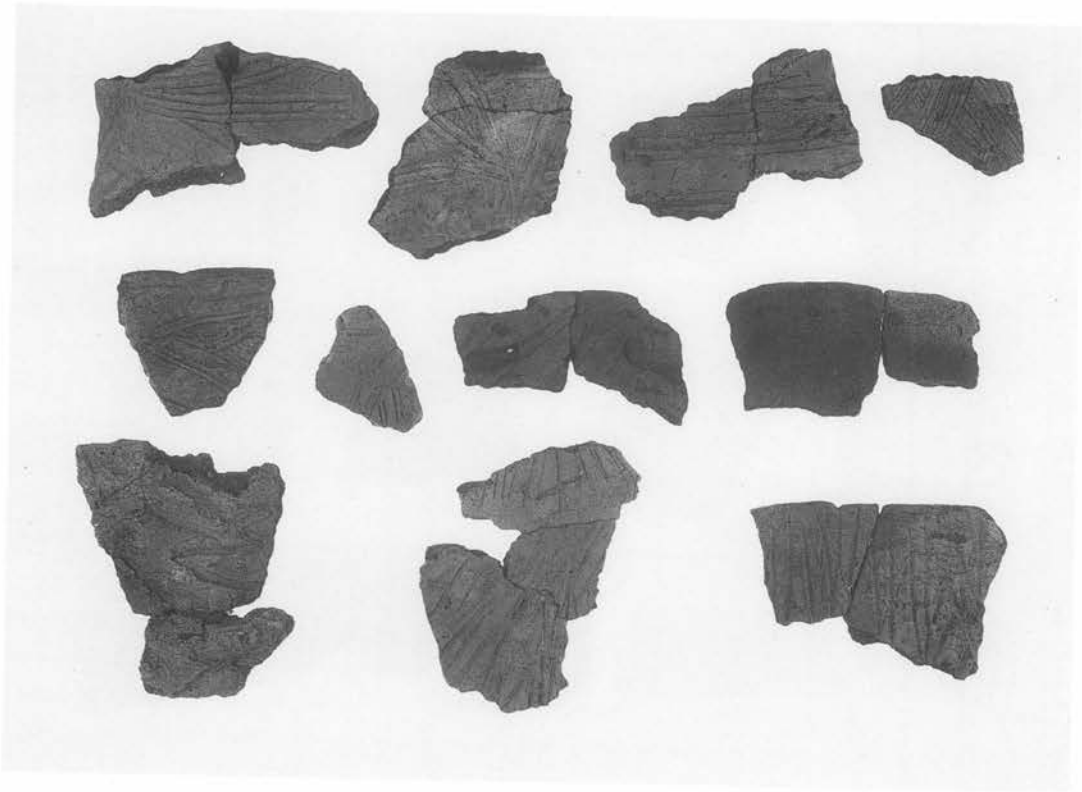


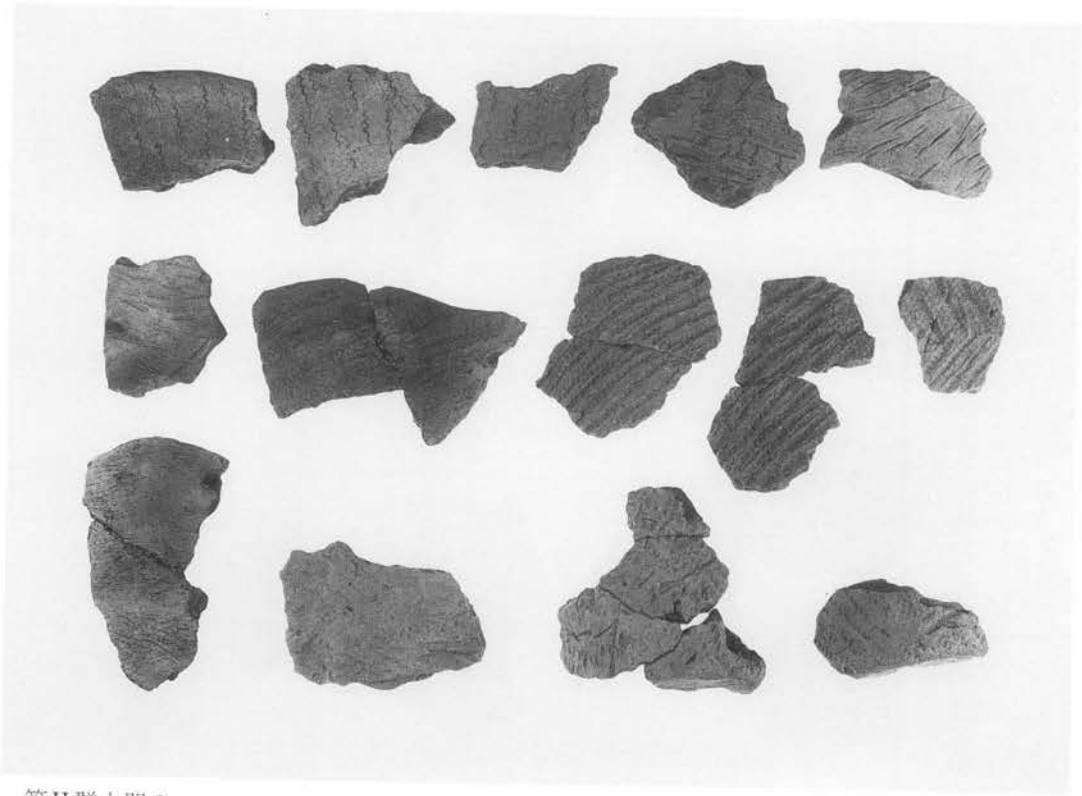
第Ⅰ群土器3



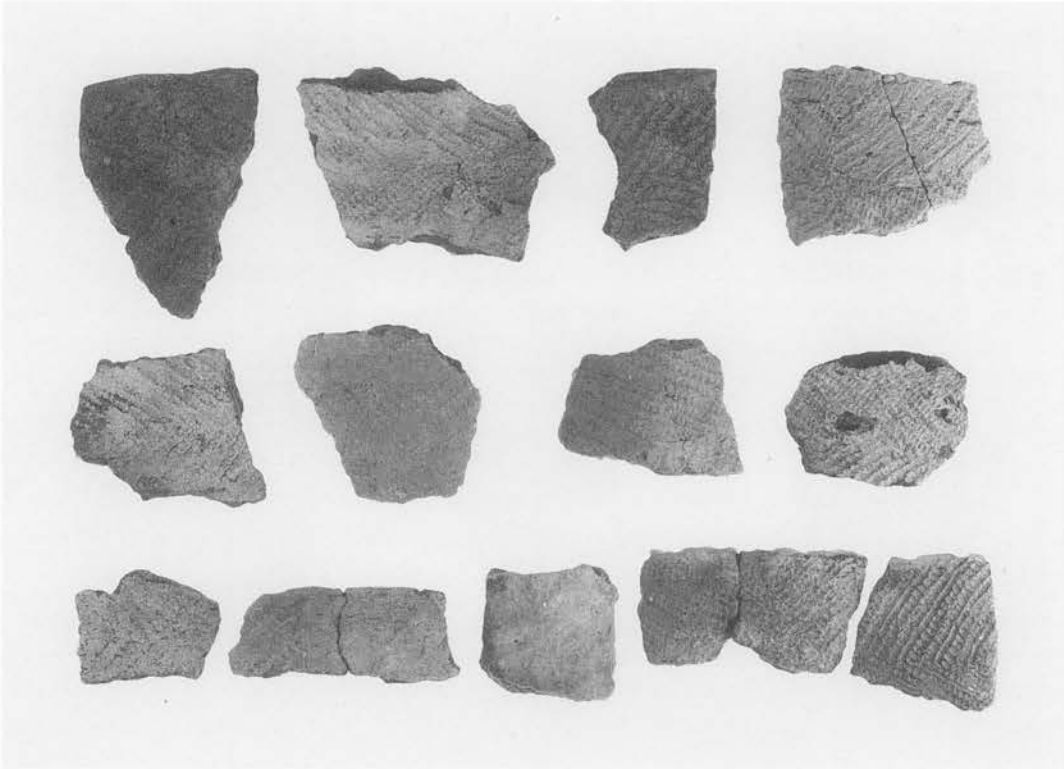


第II群土器 1

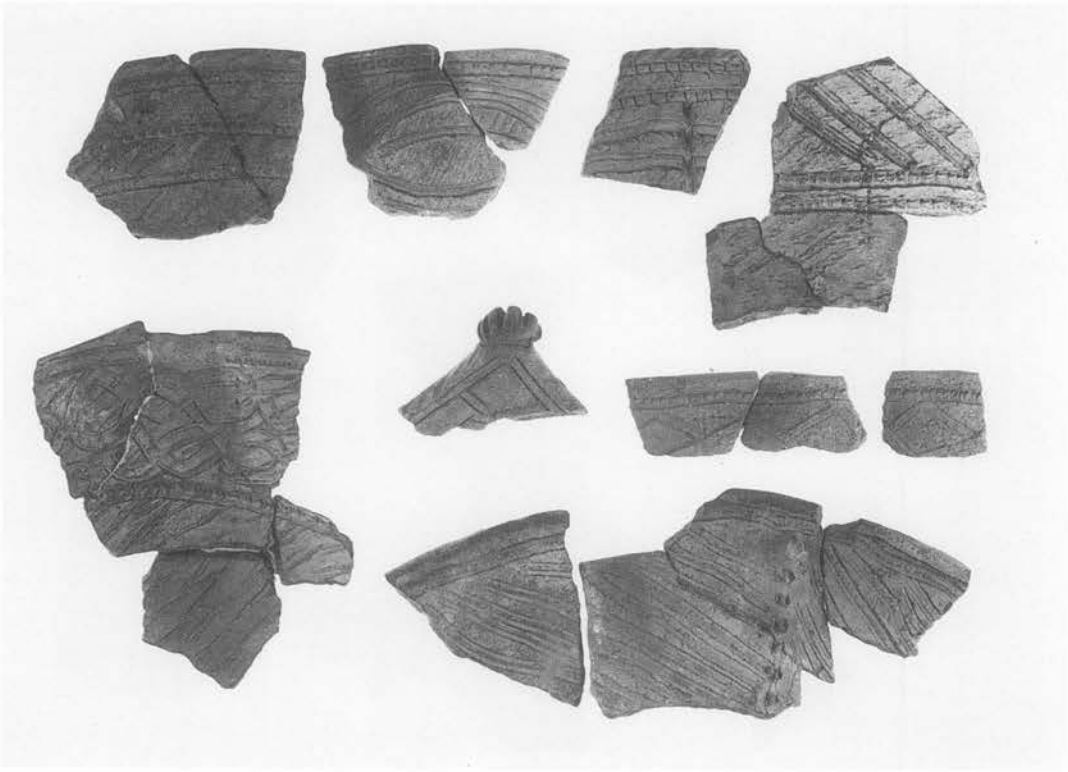


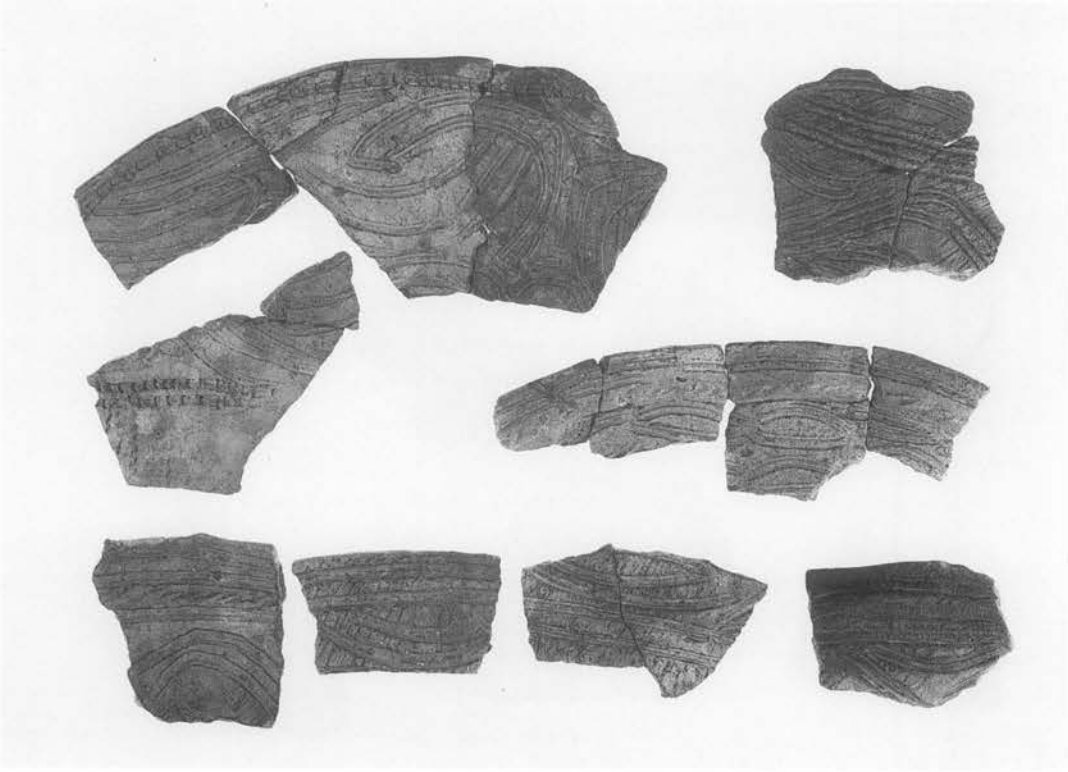


第II群土器 2

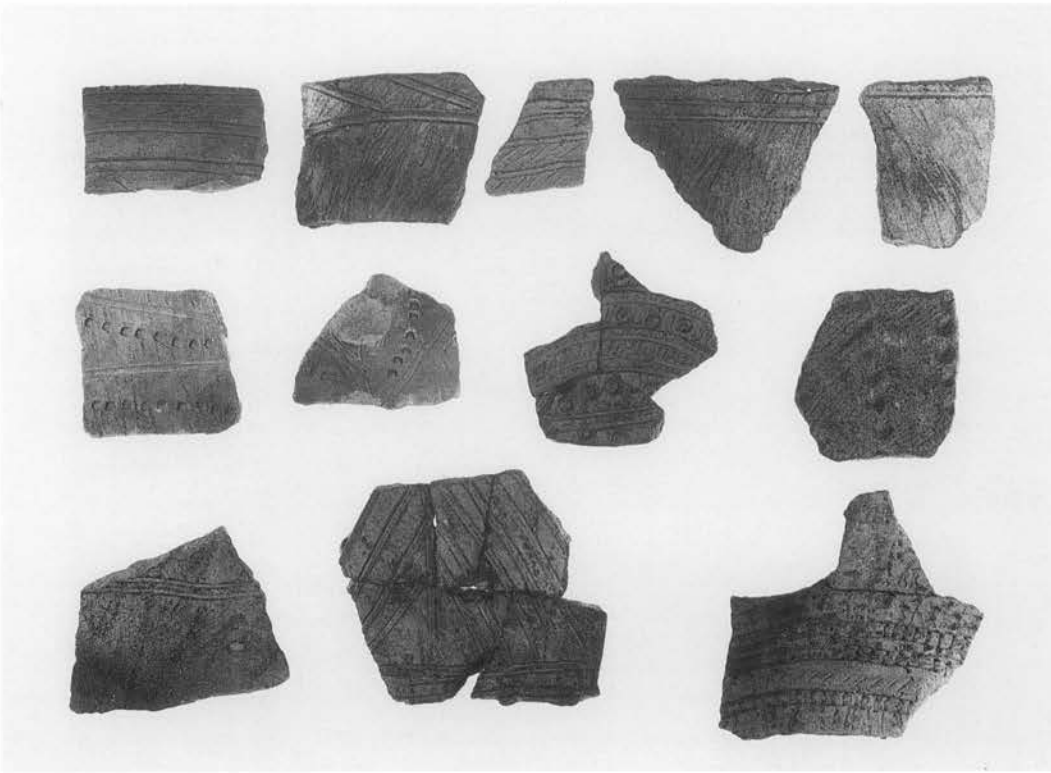


第II群土器 3

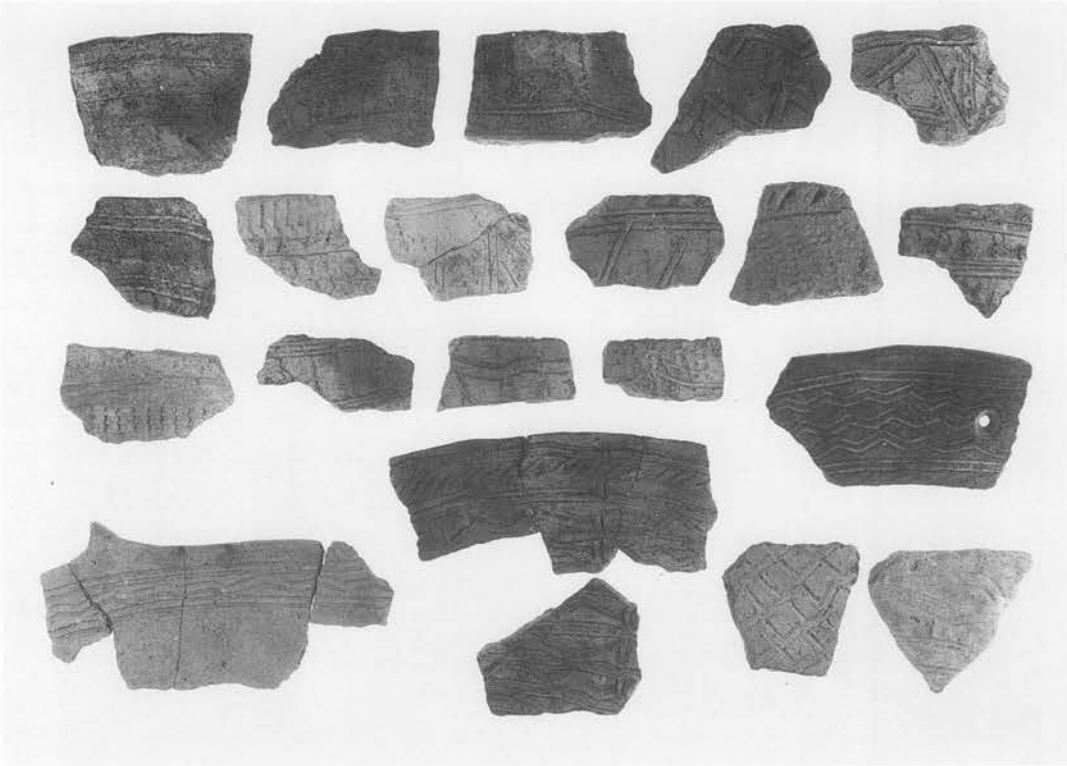


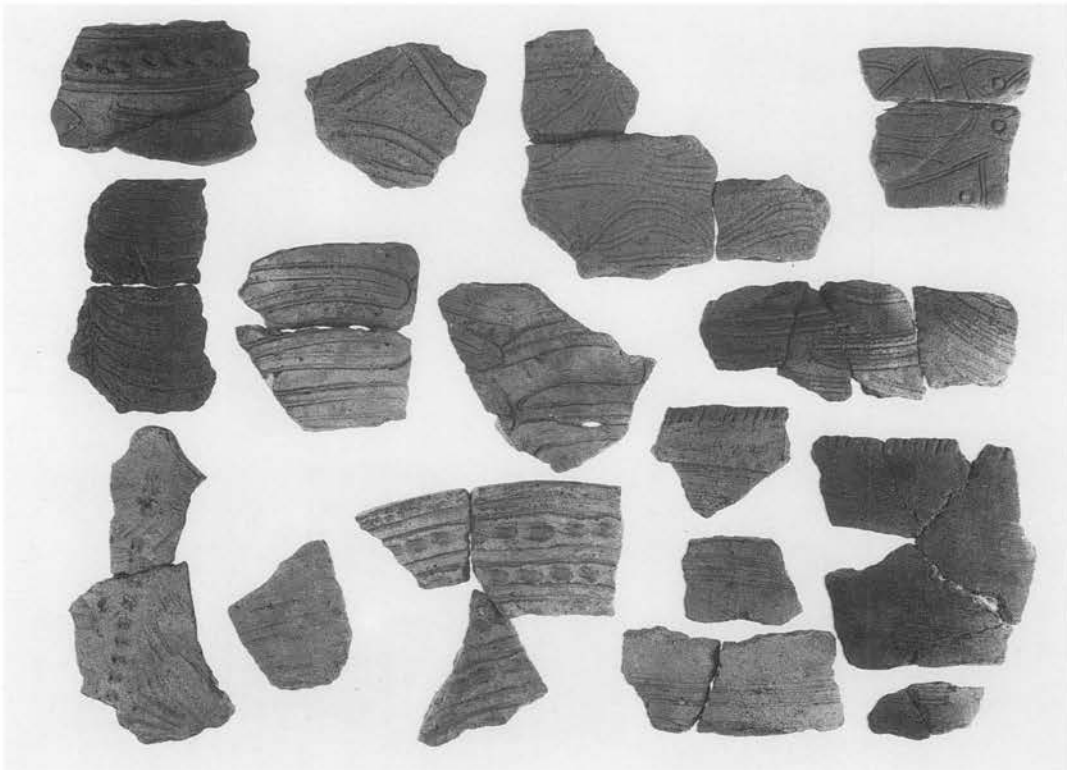


第II群土器 4

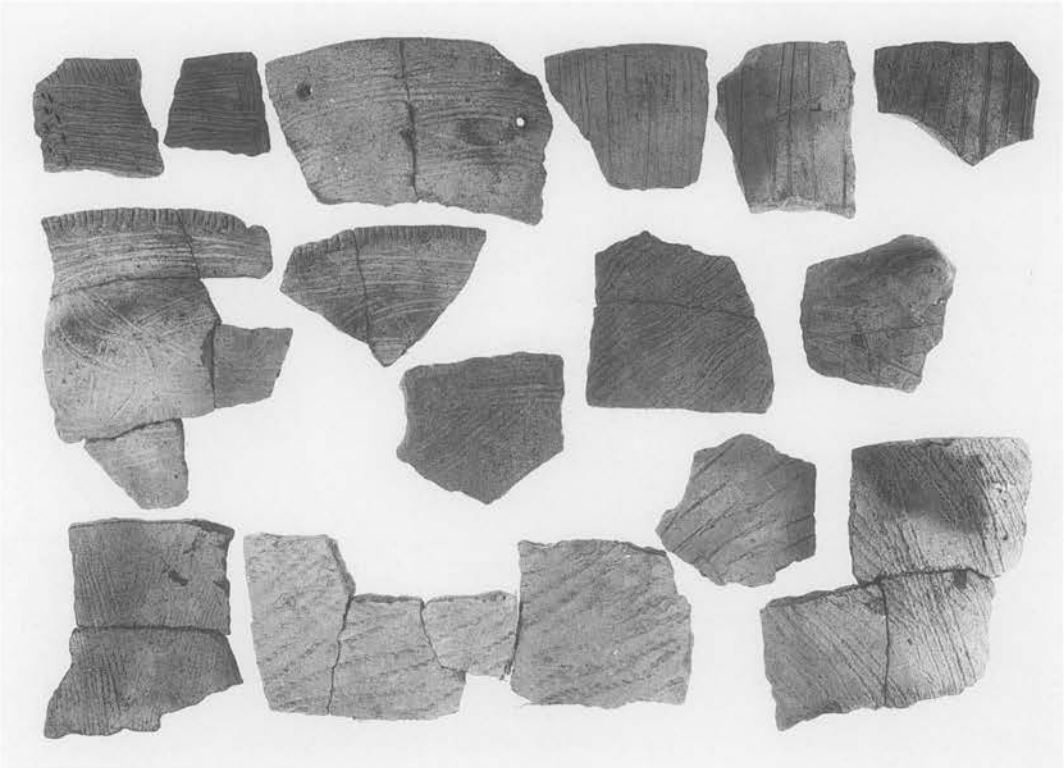


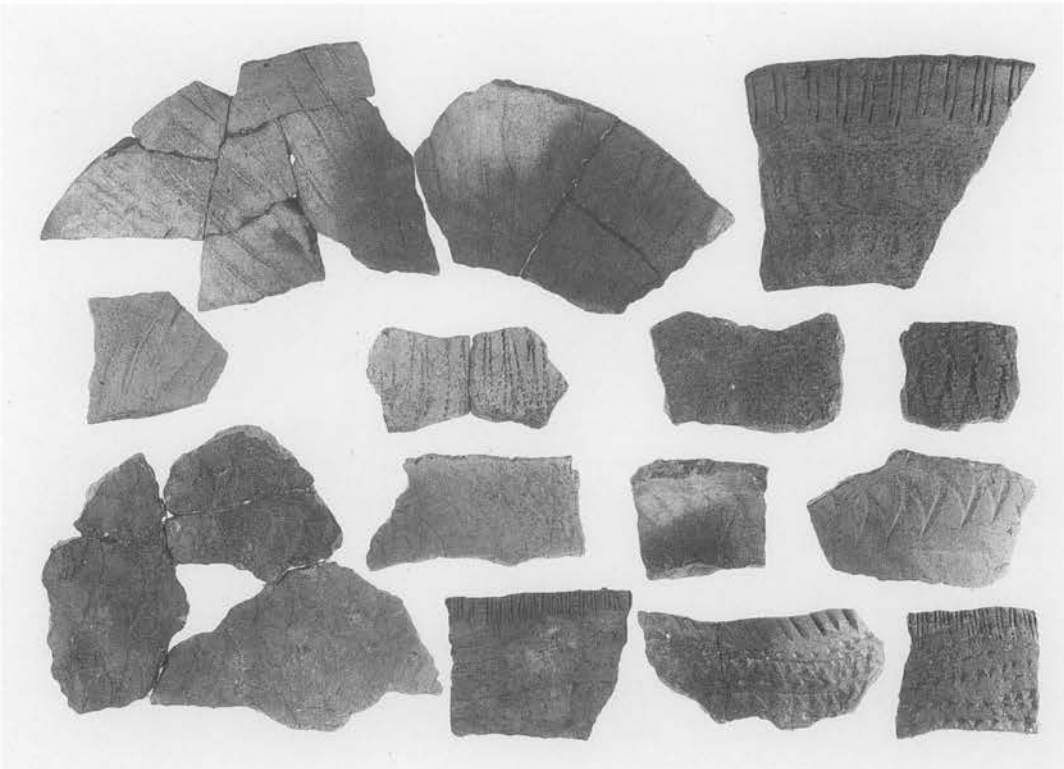
第II群土器 5



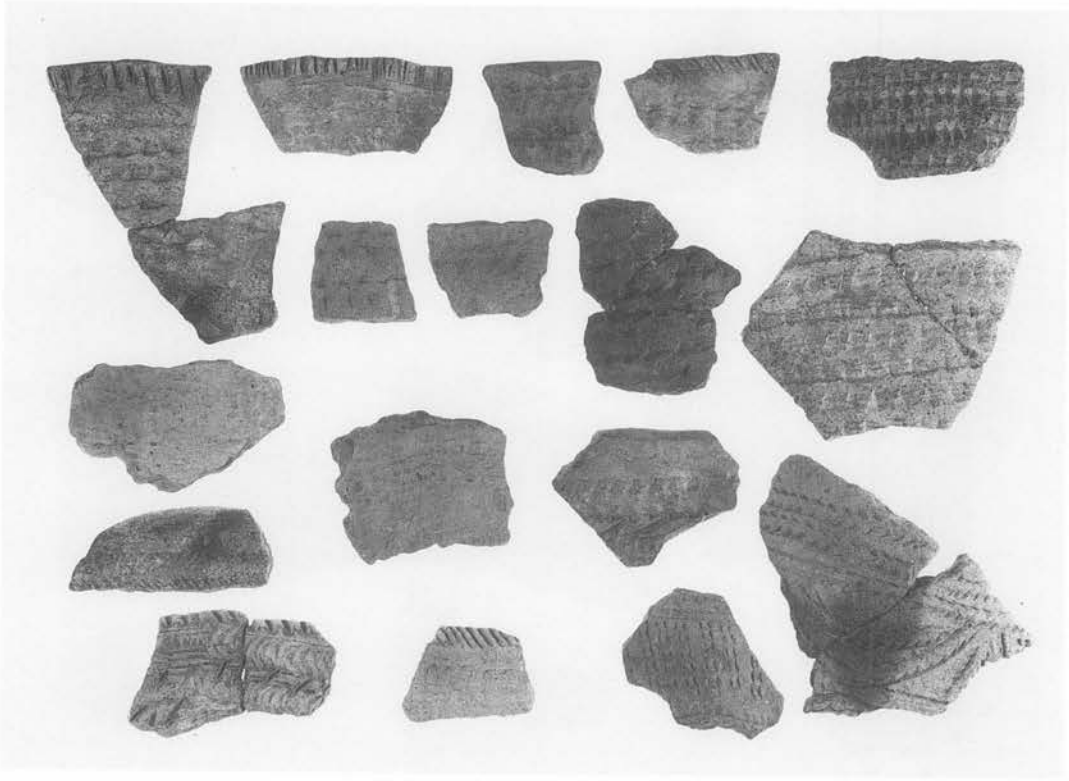


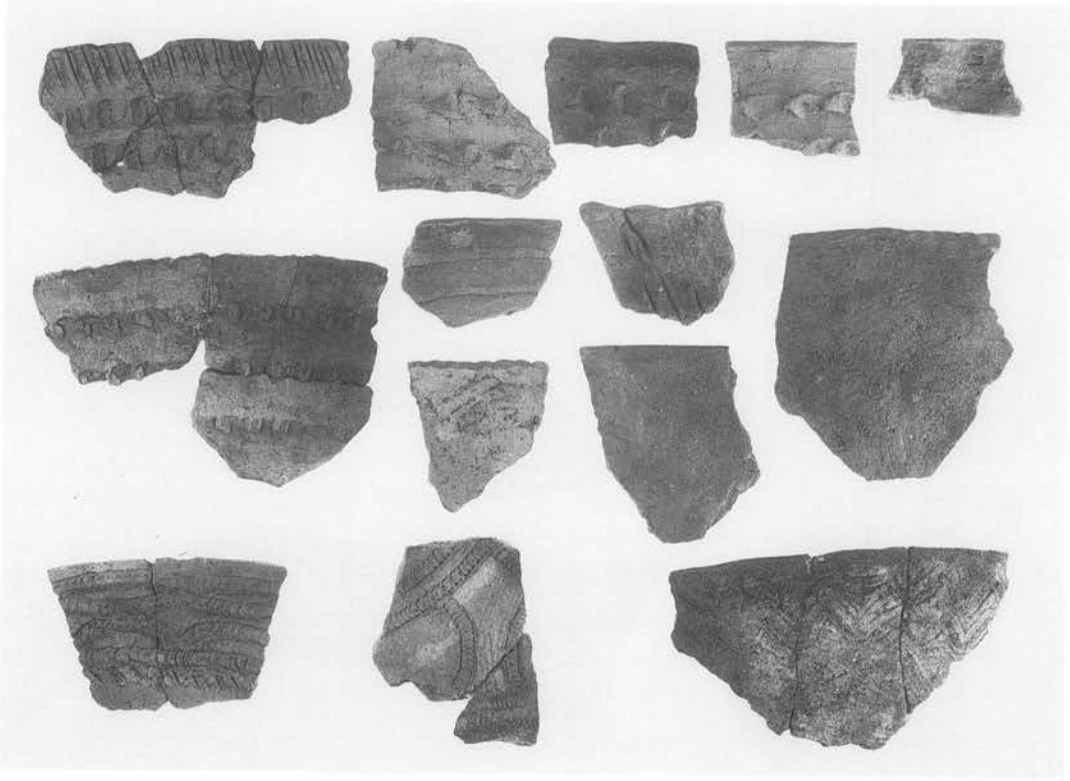
第II群土器 6



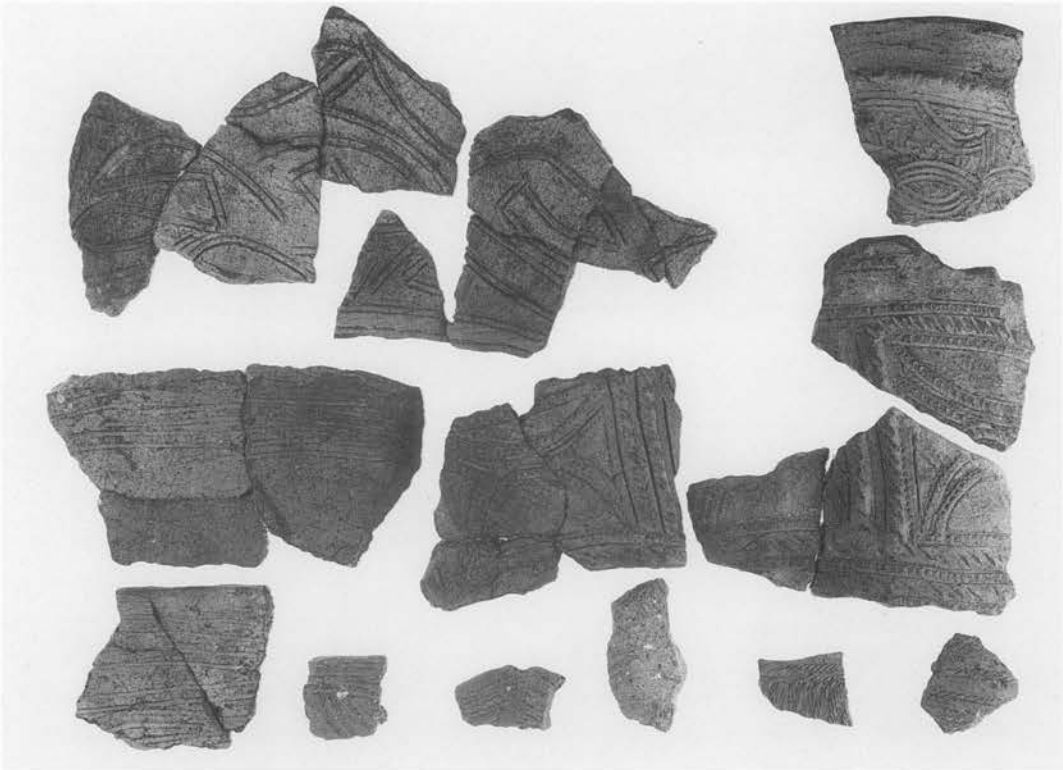


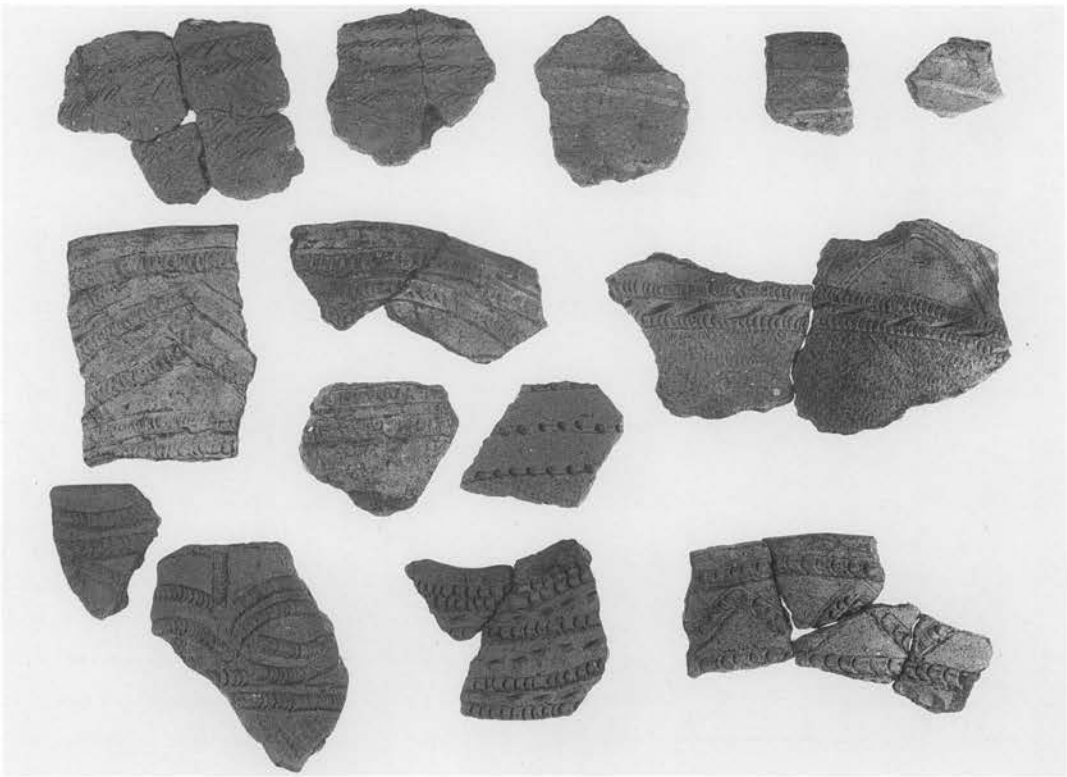
第II群土器 7



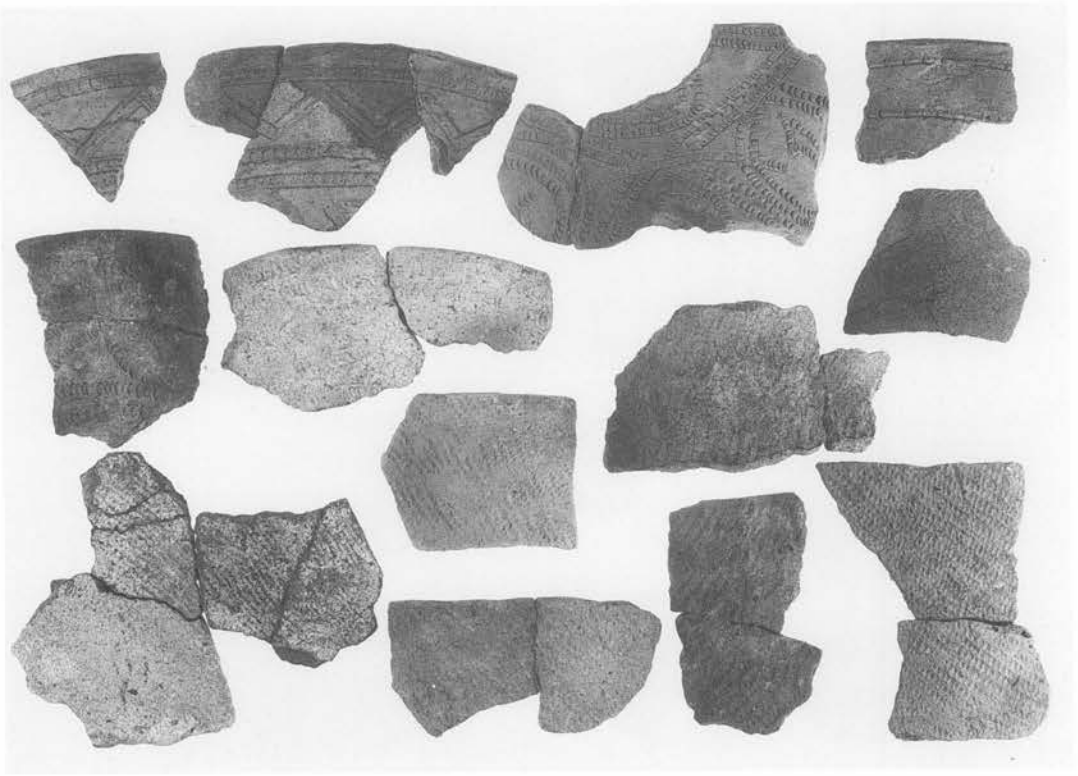


第II群土器 8

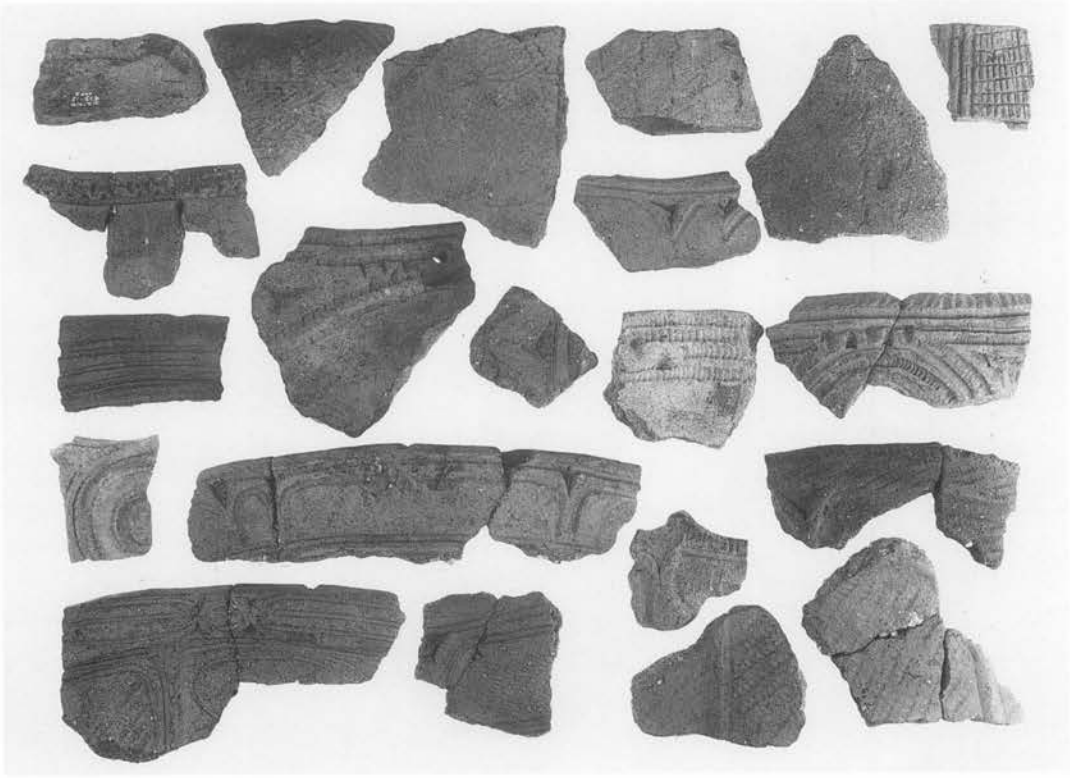




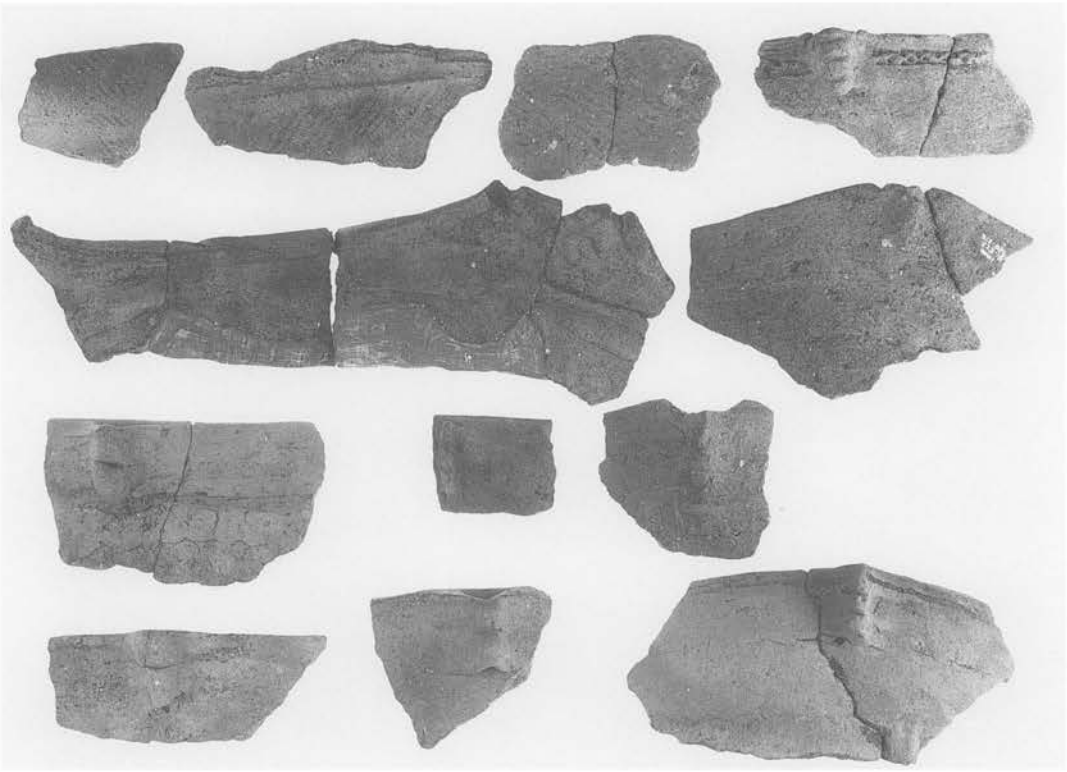
第II群土器 9

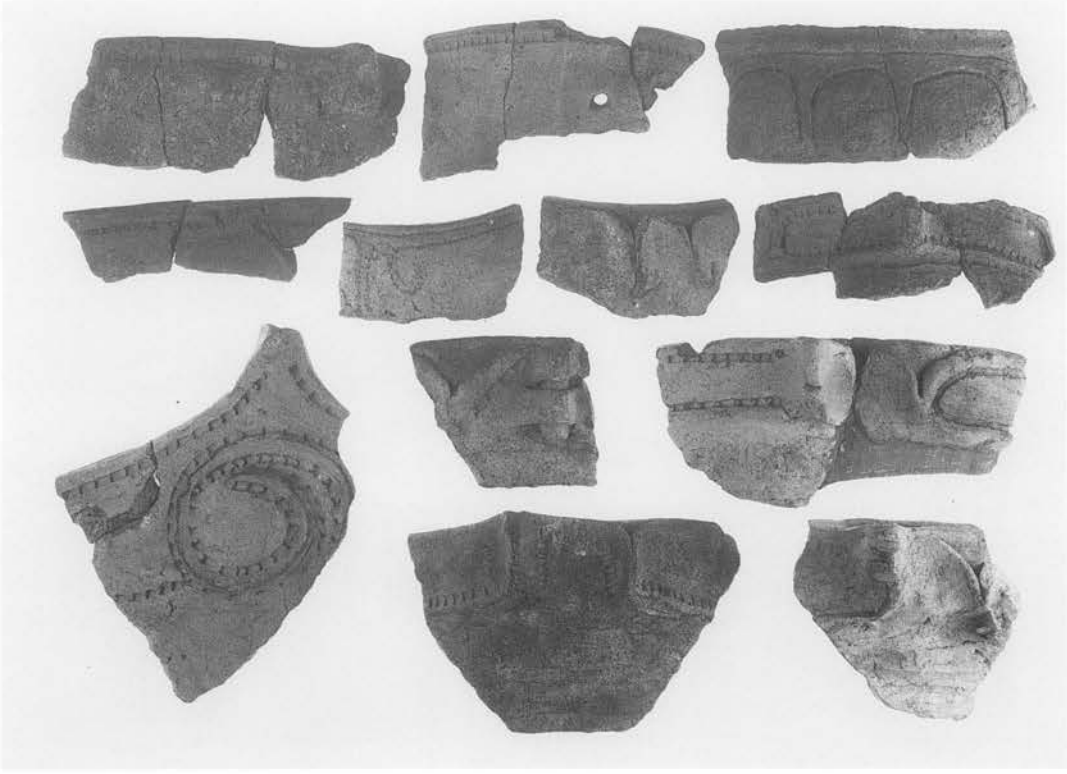


第II群土器 10

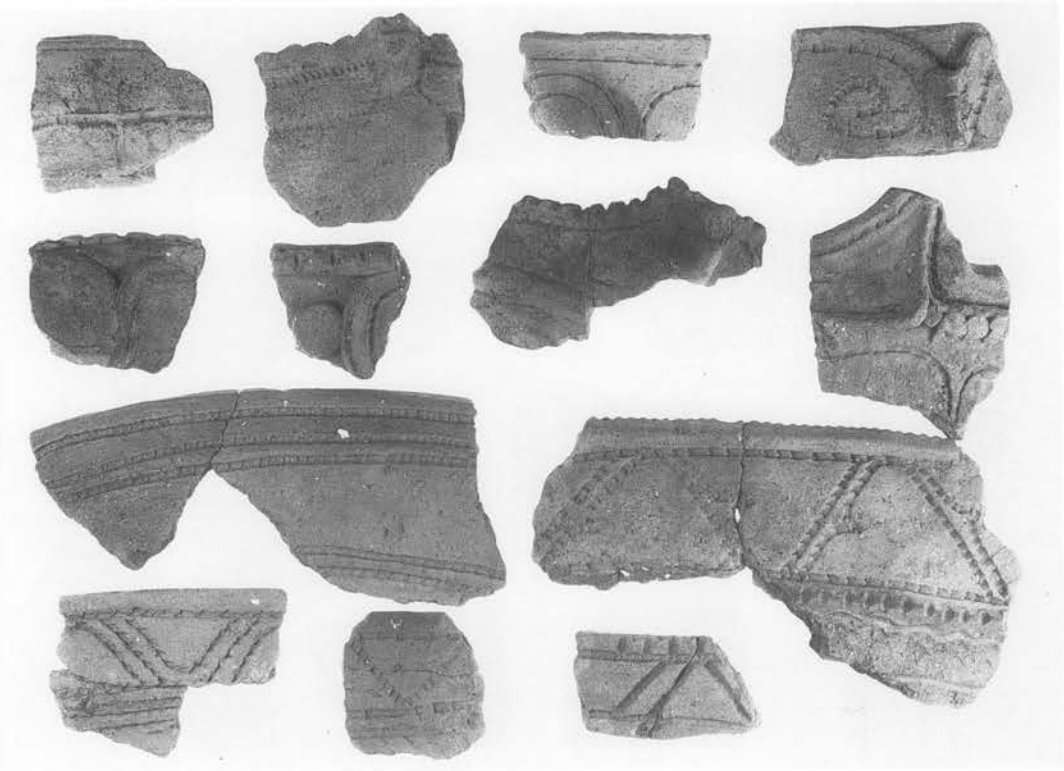


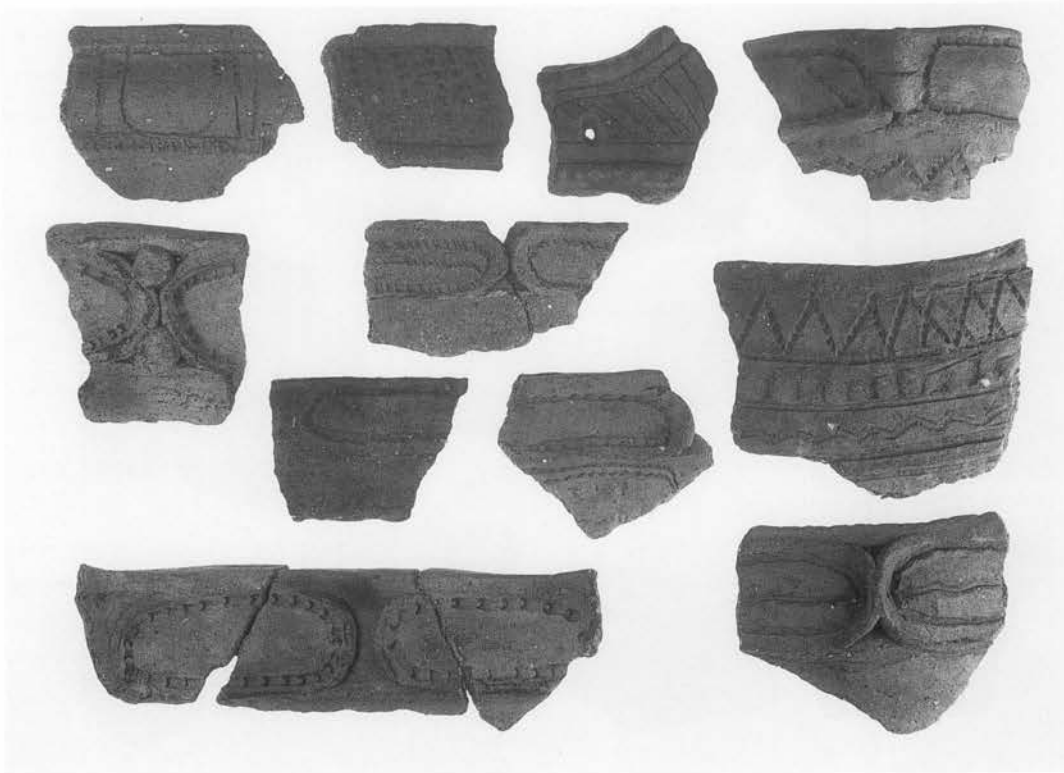
第III群土器 1



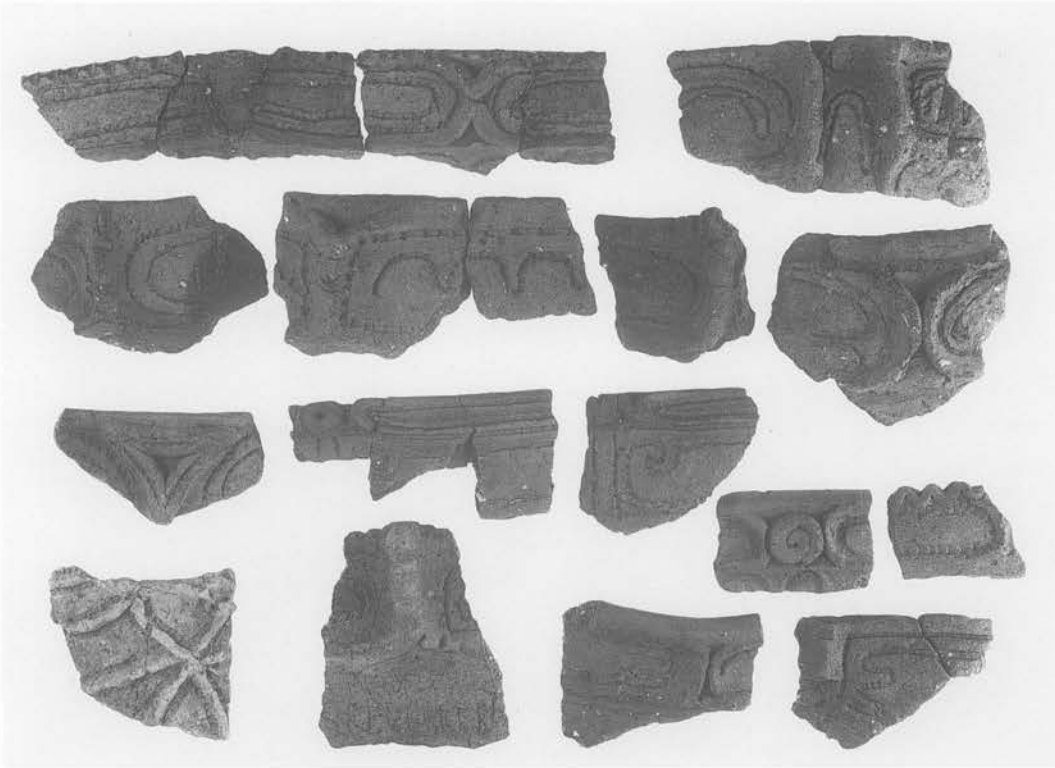


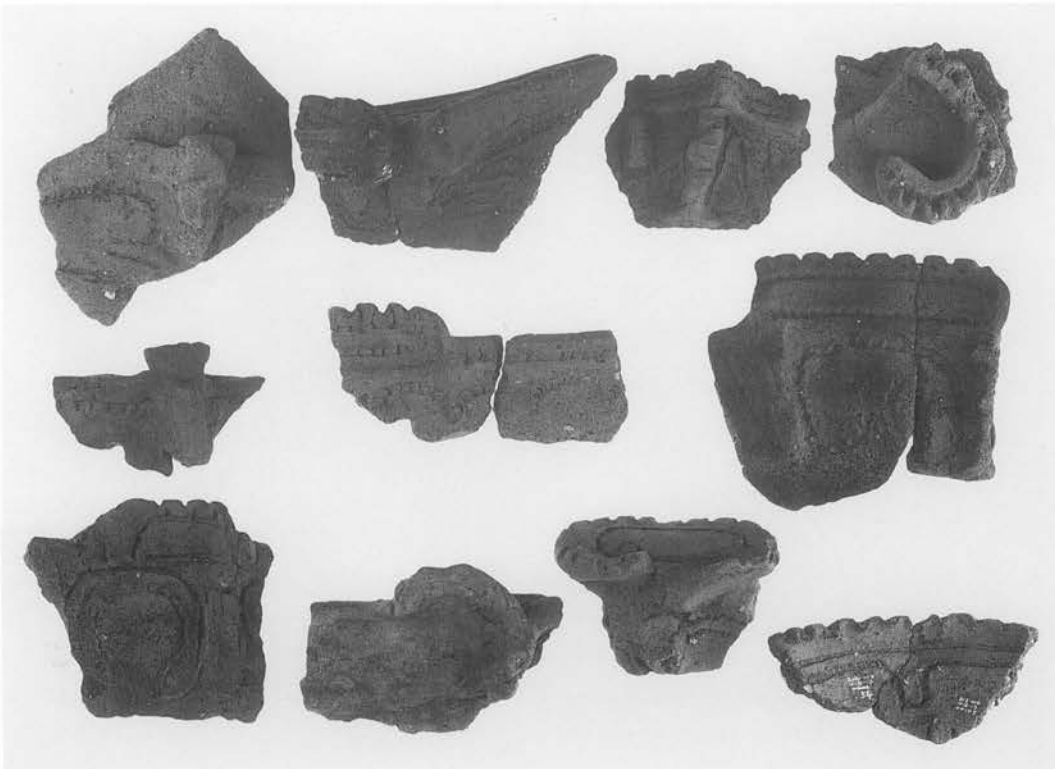
第Ⅲ群土器 2



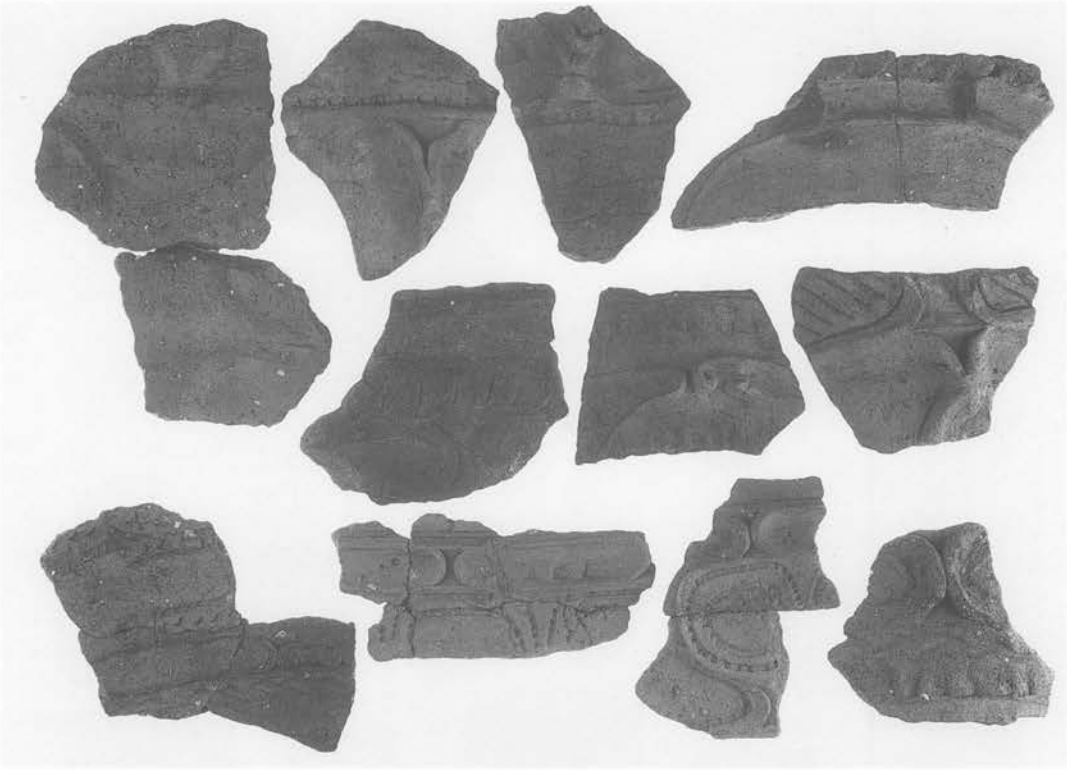


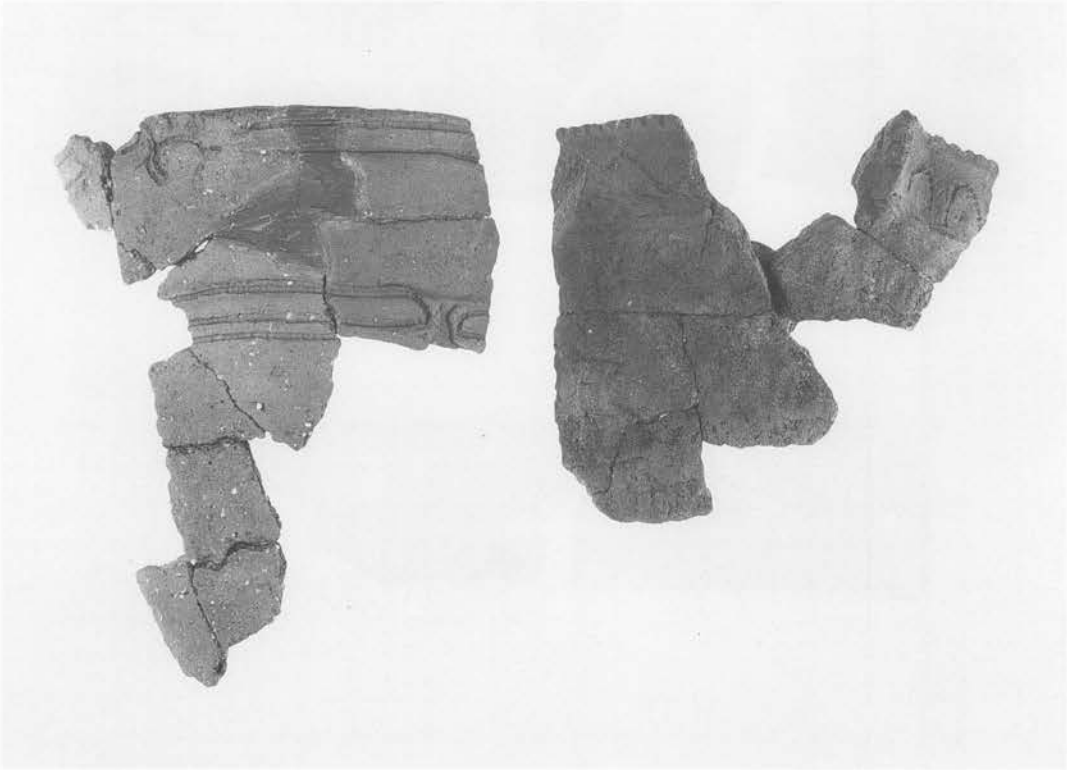
第III群土器 3



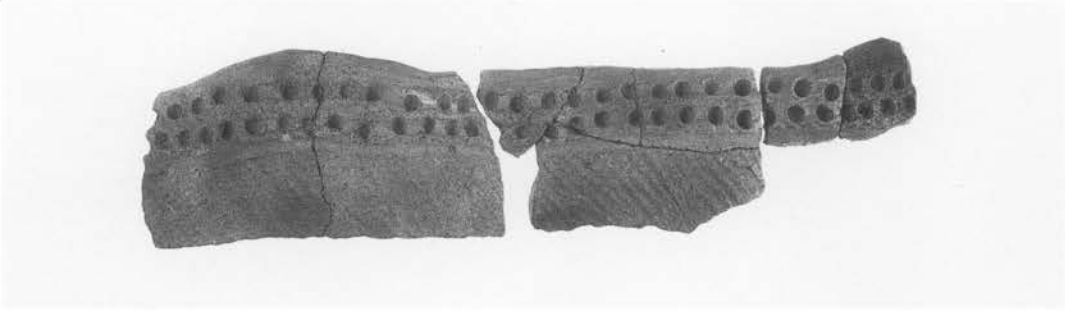


第III群土器 4

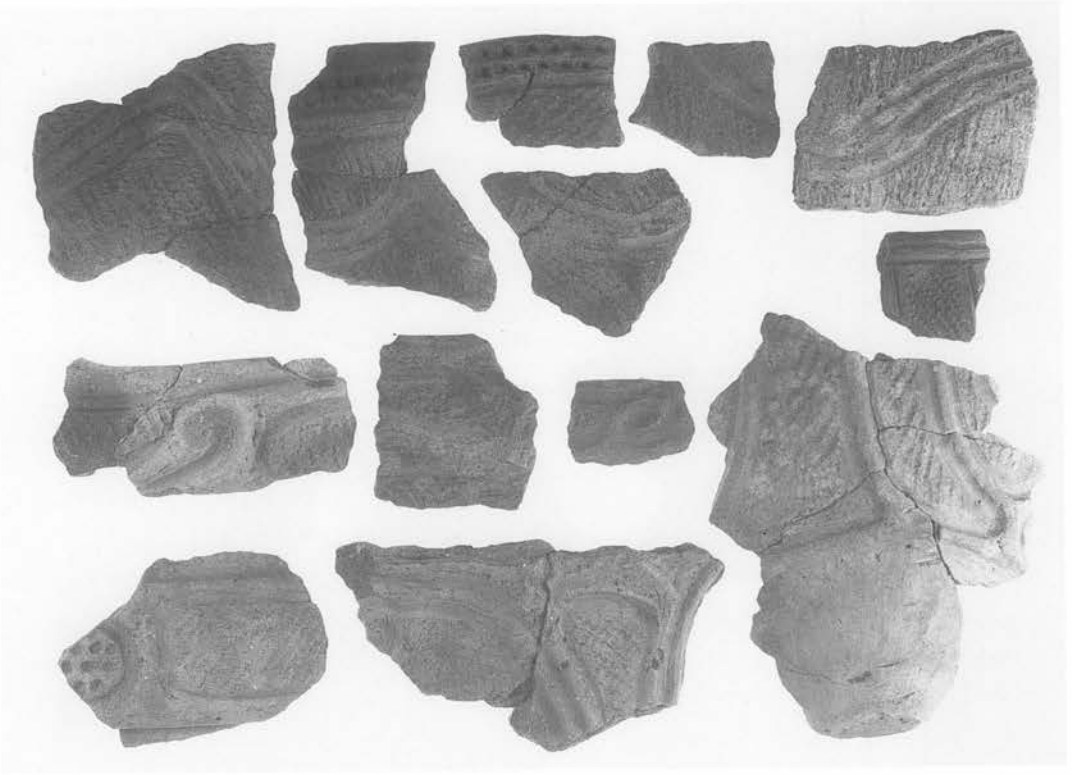


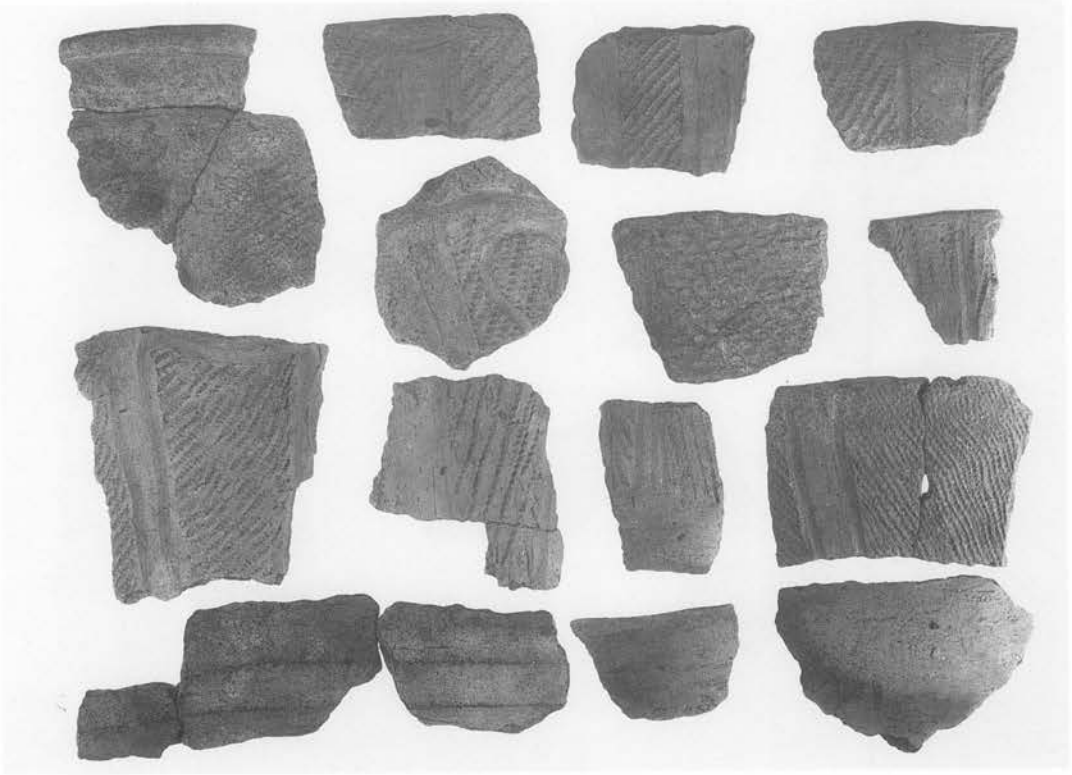


第Ⅲ群土器 5

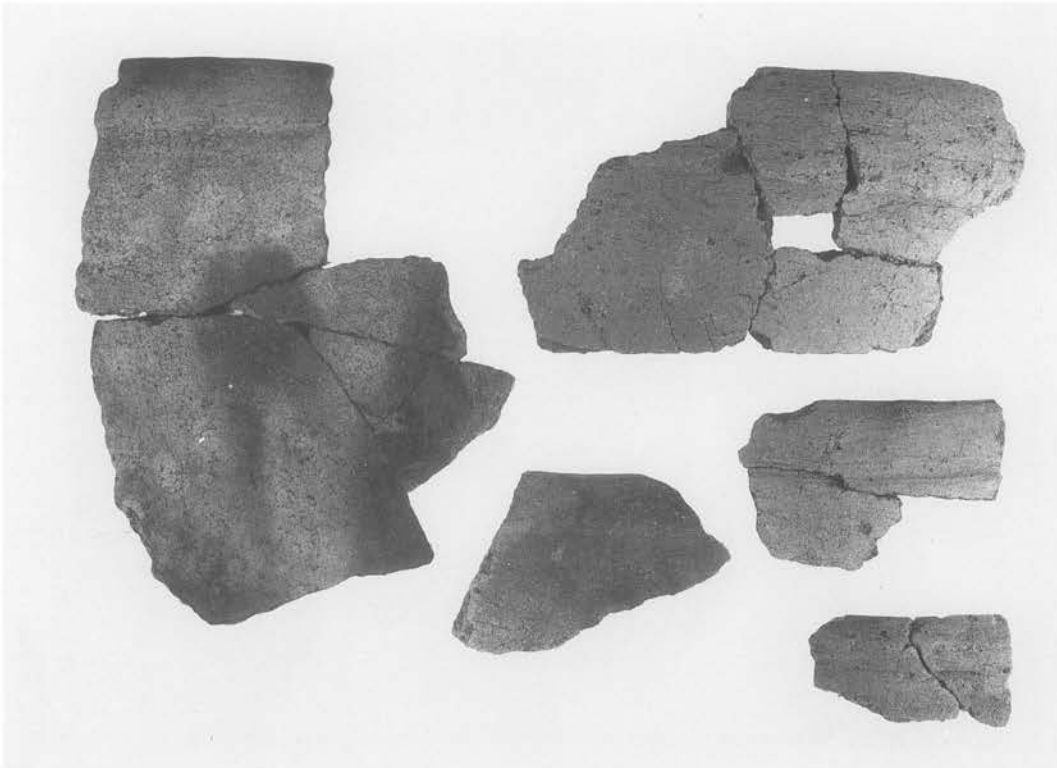


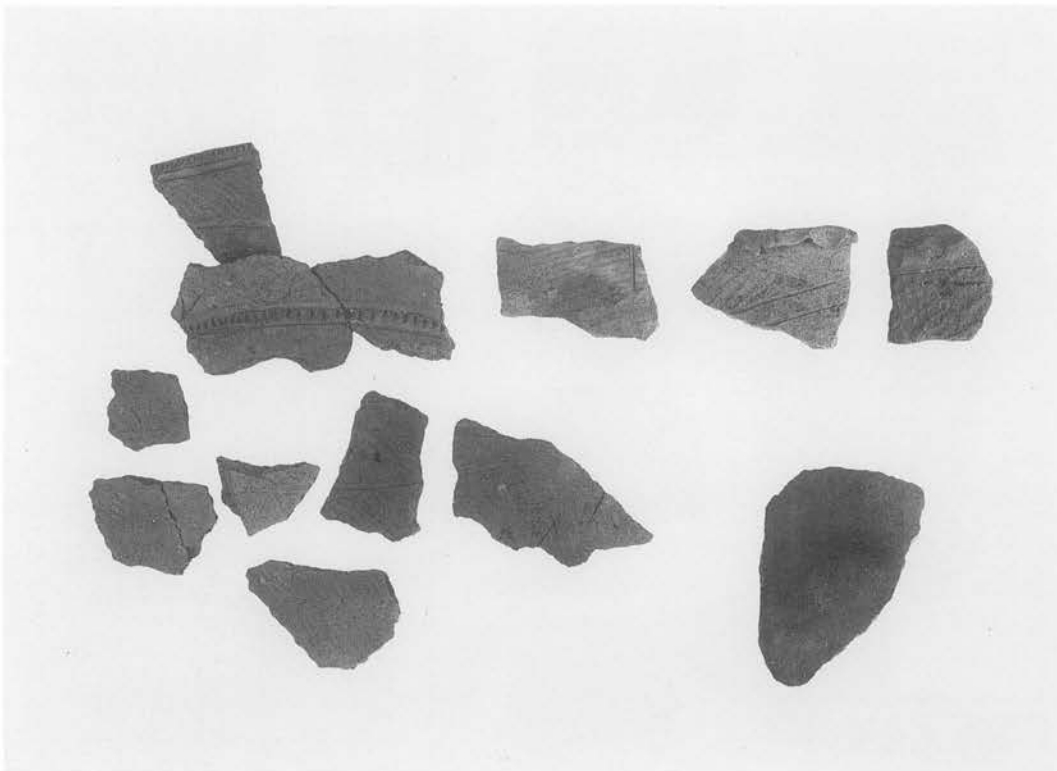
第III群土器 6





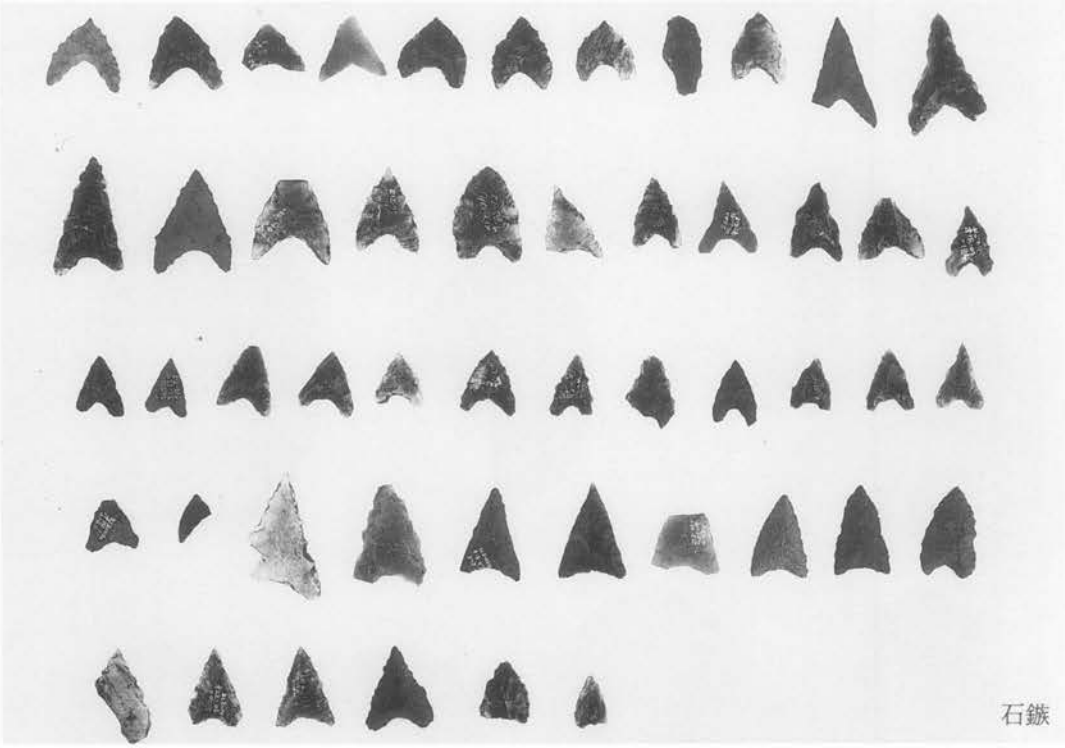
第III群土器 7





第III群土器 8

第IV群土器

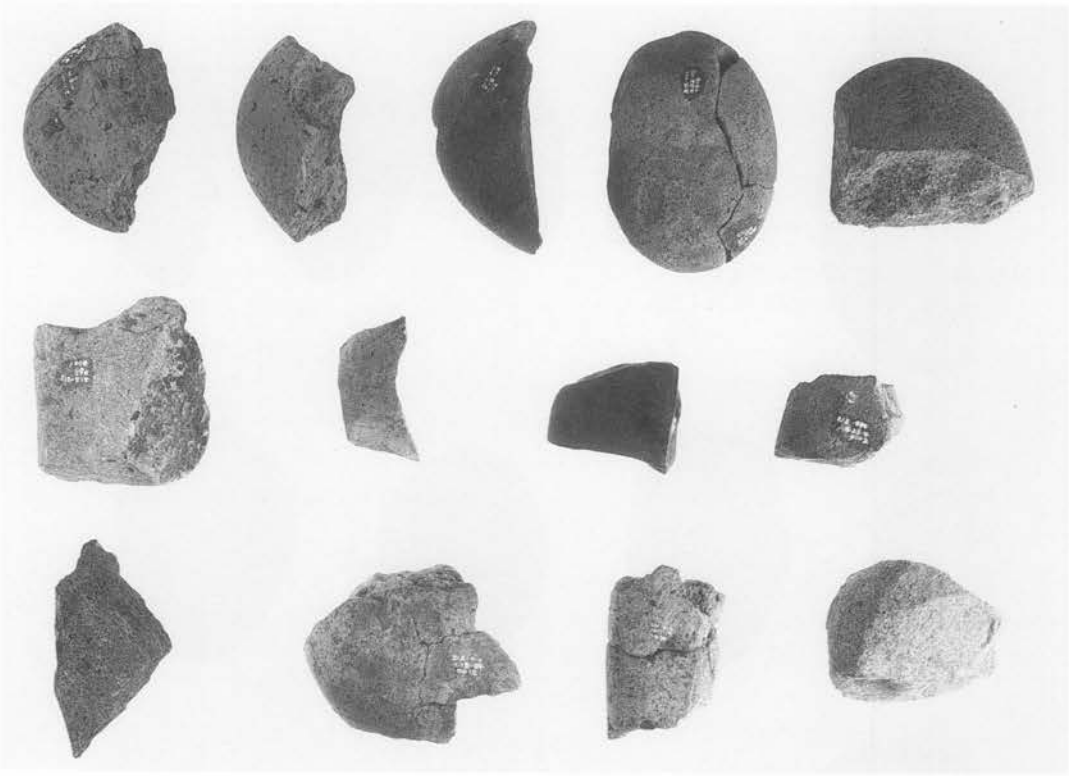


石鏃

石錐

縄文時代石器 1

縄文時代石器 2



縄文時代石器 3

縄文時代石器 4

土器片錘

8 号住(1)

8 号住(4)

8 号住(2)

8 号住(8)

8 号住(7)

9 号住(1)

9 号住(2)

9 号住(3)

9 号住(5)

10号住(1)

10号住(4)

10号住(6)

10号住(13)

10号住(14)

11号住(1)

11号住(6)

5 号墳(3)

8 号墳(1)

9 号墳(1)

10号墳(1)

14号墳(1)

14号墳(2)

14号墳(3)

古墳出土土器

14号墳(4)

14号墳(5)

2号方周(1)

2号方周(2)

2号方周(3)

2号方周(5)

古墳・方形周溝状遺構出土土器

千葉県文化財センター調査報告第157集

# 佐倉市向原遺跡

—佐倉第三工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ—

印　刷　　平成元年３月25日
発　行　　平成元年３月31日
発　行　　千葉県土地開発公社
千葉市市場町7-9　(0472)22-9106
財団法人　千葉県文化財センター
千葉市葛城2-10-1　(0472)25-6478
印　刷　　株式会社　弘　文　社
市川市市川南2-7-2　(0473)24-5977